

寝屋川市
男女共同参画に関する意識調査
報告書

令和 2（2020）年 3 月

寝屋川市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 調査の項目	2
4. 回収状況	2
5. 報告書の見方	3
6. 調査の精度	3
II. 調査結果の概要.....	4
1. 市民意識調査	4
2. 事業所実態調査	12
3. 小学生から大学生への調査	15
III. 市民意識調査結果.....	18
1. 回答者と家族について	18
2. 男女の平等感について	36
3. 家庭生活等について	74
4. 子育て・教育について	121
5. 働くことについて	132
6. 男女間の暴力について	155
7. 高齢期の生活について	195
8. 男女共同参画施策の推進について	208
9. 自由意見	216
IV. 事業所実態調査結果.....	217
1. 事業所の概要	217
2. 両立支援について	241
3. 女性の活躍推進について	262
4. 職場環境について	275

V. 小学生から大学生への調査結果.....	285
1. 回答者と家族について	285
2. 学校生活について	292
3. 家庭生活について	297
4. ジェンダー意識について	310
5. デートDVについて	314
6. 性別について	324
7. 相談先について	327
8. 将来について	328
VI. 資料編（調査票）	330
1. 男女共同参画に関する市民意識調査	330
2. 男女共同参画に関する事業所調査	338
3. 男女共同参画に関する市民意識調査【小学生用】	342
4. 男女共同参画に関する市民意識調査【中学生用】	345
5. 男女共同参画に関する市民意識調査【高校生用】	348
6. 男女共同参画に関する市民意識調査【大学生用】	352

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本市では、平成 23 年に策定した「第 4 期ねやがわ男女共同参画プラン」に基づき、男女共同参画の推進に関する施策に取り組んでいますが、同プランが令和 2 年度をもって終了となります。次期プランの策定にあたっては、男女共同参画に関する変化を踏まえ、男女共同参画に関する動向と現状を把握し、本市における今後の男女共同参画の取組を効果的に推進していくための基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2. 調査の方法

(1) 市民意識調査

- ①調査地域：寝屋川市全域
- ②調査対象：寝屋川市在住の 20 歳以上の市民 3,000 人（男女各 1,500 人）
- ③抽出方法：令和元年 7 月 1 日現在の住民基本台帳から年齢 10 歳階層ごとに（60 歳以上は 1 階層とし、全部で 5 階層とする）男女同数を生作為抽出
- ④調査方法：郵送による調査票の配付・回収（お礼状兼督促状を 1 回送付）
- ⑤調査期間：令和元年 9 月 6 日～令和元年 9 月 30 日

(2) 事業所実態調査

- ①調査地域：寝屋川市全域
- ②調査対象：寝屋川市内に所在する従業員が 10 人以上の事業所 1,000 箇所
- ③抽出方法：総務省「事業所母集団データベース」（平成 29 年次フレーム）から生作為抽出
- ④調査方法：郵送による調査票の配付・回収（事前依頼状を 1 回送付）
- ⑤調査期間：令和元年 9 月 11 日～令和元年 9 月 30 日

(3) 小学生から大学生への調査

- ①調査地域：寝屋川市全域
- ②調査対象：小学生・中学生…… 教育委員会を通して、市立小中学校に協力依頼
小学校 6 校 278 人、中学校 6 校 250 人
高校生・大学生…… 市内高校、大学に直接協力依頼
高校 3 校 276 人、大学 2 校 250 人
- ③調査方法：直接配付・回収
- ④調査期間：令和元年 10 月～令和元年 11 月

3. 調査の項目

(1) 市民意識調査

- ①回答者と家族について
- ②男女の平等感について
- ③家庭生活等について
- ④子育て・教育について
- ⑤働くことについて
- ⑥男女間の暴力について
- ⑦高齢期の生活について
- ⑧男女共同参画施策の推進について

(2) 事業所実態調査

- ①事業所の概要
- ②両立支援について
- ③女性の活躍推進について
- ④職場環境について

(3) 小学生から大学生への調査

- ①回答者と家族について
- ②学校生活について
- ③家庭生活について
- ④ジェンダー意識について
- ⑤デートDVについて（中学生・高校生・大学生）
- ⑥性別について
- ⑦相談先について
- ⑧将来について

4. 回収状況

図表 1-4-1 回収状況

	配布数	回収数	無効回収数	有効回収数	有効回収率
市民意識調査	3,000 件	1,104 件	5 件	1,099 件	36.6%
事業所実態調査	1,000 事業所	359 事業所	2 事業所	357 事業所	35.7%
小学生への調査	278 件	252 件	0 件	252 件	90.6%
中学生への調査	250 件	220 件	0 件	220 件	88.0%
高校生への調査	276 件	250 件	0 件	250 件	90.6%
大学生への調査	250 件	247 件	3 件	244 件	97.6%

5. 報告書の見方

- ・図表の n (number of case) は、設問に対する回答者数を表しています。
- ・回答比率 (%) は回答者数 (n) を 100.0% として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しているため、合計が 100.0% に一致しないことがあります。また、複数回答の設問では、回答比率 (%) の合計が 100.0% を超える場合があります。
- ・クロス集計の結果を示す図表においては、該当者が少ない「その他」や「不明・無回答」を省略しているものがあり、各分類項目の該当回答者数の合計と集計回答者数の合計は一致しないことがあります。
- ・「Ⅲ. 市民意識調査」で比較している前回調査は、平成 21 年度「寝屋川市男女共同参画に関する市民意識調査」を示しています。

6. 調査の精度

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、本調査における市民意識調査は標本調査であり、この結果と市民全体の考えとの間には誤差が生じることがあります。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となります。

これは、標本誤差と呼ばれるものであり、信頼度を 95% とすると、以下の式で計算することができます。

$$\text{標準誤差} = \pm 1.96 \sqrt{(N - n) / (N - 1) \cdot p(1 - p) / n}$$

N = 母集団数 n = 回答者数 p = 回答比率

例えば、信頼度が 95% の場合、全体でみると、母集団 194,133 人（寝屋川市の 20 歳以上の人口）、回答者数 1,099 人、回答比率が 50% であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも 2.9% 以内（47.1～52.9%）である」とみることができます。

図表 1-6-1 標本誤差早見表

	N 母集団数 (人)	n 回答者数 (人)	p 回答比率									
			50%	45% 55%	40% 60%	35% 65%	30% 70%	25% 75%	20% 80%	15% 85%	10% 90%	5% 95%
全体	194,133	1,099	2.9%	2.9%	2.9%	2.8%	2.7%	2.6%	2.4%	2.1%	1.8%	1.3%
女性	101,319	622	3.9%	3.9%	3.8%	3.7%	3.6%	3.4%	3.1%	2.8%	2.4%	1.7%
男性	92,814	471	4.5%	4.5%	4.4%	4.3%	4.1%	3.9%	3.6%	3.2%	2.7%	2.0%

※母集団数は住民基本台帳（令和元年 7 月 1 日現在）

Ⅱ．調査結果の概要

1. 市民意識調査

(1) 回答者と家族について

①性別

回答者の性別については、「女性」が 56.6%、「男性」が 42.9%、「その他」が 0.1%となっています（図表 3-1-1）。

②年齢

回答者の年齢については、「50 歳代」が 22.3%で最も高く、次いで「40 歳代」が 21.0%、「30 歳代」が 16.0%と続いています（図表 3-1-4）。

③結婚

結婚については、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」が 69.2%で最も高く、次いで「未婚」が 20.7%、「結婚後離別（事実婚を含む）」が 6.7%と続いています（図表 3-1-7）。

④家族構成

家族構成については、「親と子」が 50.7%で最も高く、次いで「夫婦のみ」が 25.9%、「一人暮らし」が 11.0%と続いています（図表 3-1-11）。

⑤一番下のお子さんの年齢

一番下のお子さんの年齢については、「社会人」が 33.0%で最も高く、次いで「子どもはいない」が 27.1%、「小学生」が 6.8%と続いています（図表 3-1-15）。

⑥回答者と回答者の配偶者・パートナーの職業

回答者の職業について、女性では 20 歳代から 30 歳代では「正規雇用（正社員・正職員など）」の割合が最も高く、40 歳代から 60 歳代では「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」の割合が最も高く、70 歳以上では「家事専業」の割合が最も高くなっており、男性では 20 歳代から 50 歳代では「正規雇用（正社員・正職員など）」の割合が最も高く、60 歳代では「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」の割合が最も高く、70 歳以上では「無職（家事専業以外の人）」の割合が最も高くなっています（図表 3-1-21）。

また、回答者の配偶者・パートナーの職業について、女性では 20 歳代から 50 歳代では「正規雇用（正社員・正職員など）」の割合が最も高く、60 歳以上では「無職（家事専業以外の人）」の割合が最も高く、男性では 20 歳代では「正規雇用（正社員・正職員など）」の割合が最も高く、30 歳代から 50 歳代では「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」の割合が最も高く、60 歳以上では「家事専業」の割合が最も高くなっています（図表 3-1-25）。

⑦回答者と回答者の配偶者・パートナーの地域活動

回答者の地域活動について、「していない」では、女性が 81.0%、男性が 86.6%で、回答者の配偶者・パートナーの地域活動については、女性が 85.1%、男性が 83.7%となっています（図表 3-1-27、図表 3-1-29）。

（２）男女の平等感について

①性別による役割分担の考え方

性別による役割分担の考え方（「男は仕事、女は家庭」のように男性、女性という性別を理由として役割を分ける考え方）について全体では、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）は 16.7%で、『そうは思わない』（「どちらかと言えばそうは思わない」と「そうは思わない」の合計）は 62.1%となっており、『そう思う』は前回調査（32.4%）より 15.7 ポイント低く、『そうは思わない』は前回調査（42.5%）より 19.6 ポイント高くなっており、性別による役割分担の考え方が解消してきています（図表 3-2-1、図表 3-2-2）。

また、性別・年代別でみると、『そう思う』は、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっており、女性に比べ男性が性別による役割分担の考え方が強くなっています（図表 3-2-3、図表 3-2-4）。

②性別による役割分担の考えについて

性別による役割分担の考えについて「そう思う」では、「妻子を養うのは男の責任である」（52.4%）が最も高く、次いで「子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」（47.0%）、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」（44.3%）と続いており、比較できる項目いずれも「そう思う」の割合が前回調査より減少しており、性別による役割分担の考え方が解消してきています（図表 3-2-5、図表 3-2-6）。

性別・年代別でみると、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」「妻子を養うのは男の責任である」「夫が転勤の場合、妻は仕事をやめてでも一緒について行くべきだ」「家事・育児がおろそかになるなら、妻は働くべきではない」は、全ての年代で男性の割合が女性より高くなっています（図表 3-2-7、図表 3-2-9、図表 3-2-10、図表 3-2-11）。

③男女の地位の考えについて

男女の地位の考えについてについて全体でみると、『男性優遇』（「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の合計）と『女性優遇』（「どちらかといえば女性優遇」と「女性優遇」の合計）では、全ての項目で『男性優遇』の割合が『女性優遇』よりも高くなっており、『男性優遇』では「政治の場」（75.6%）が最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」（68.3%）、「職場」（64.7%）と続いています（図表 3-2-15）。

性別・年代別で加重平均値をみると、「家庭生活」「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度上」は、全ての年代で女性の点数が男性より高くなっています（図表 3-2-17、図表 3-2-20、図表 3-2-21、図表 3-2-22）。

④法律等の認知度

法律等の認知度について全体でみると、『認知度』（「内容を知っている」と「見聞きしたことがある」の合計）では、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」（97.1%）が最も高く、次いで「マタニティ・ハラスメント」（95.2%）、「LGBT（性的少数者）」（84.3%）と続いており、比較できる項目いずれも前回調査より割合が増加しており、「ジェンダー（社会的性別）」（77.2%）が前回調査（40.5%）より 36.7 ポイント増加し、最も増加した項目となっています（図表 3-2-25、図表 3-2-26）。

(3) 家庭生活等について

①家事の頻度

家事の頻度について性別でみると、「よくする」では、全ての項目で女性の割合が男性よりも高く、「食事の支度」「洗濯」がいずれも 59.1 ポイントの差で最も差が大きい項目となっており、次いで差が大きい項目として「トイレの掃除」が 50.6 ポイントとなっています。

前回調査と比較すると、男性は「近所づきあいや地域活動への参加」を除く全ての項目で前回調査より割合が増加しています（図表 3-3-1、図表 3-3-2）。

②家事・育児・介護のために 1 日に使う時間

家事・育児・介護のために 1 日に使う時間について、「ほとんどない」では、平日・休日の家事・育児・介護いずれにおいても男性の割合が女性よりも高く、家事・育児・介護のために 1 日に使う時間については、男性より女性が長くなっています（図表 3-3-23～図表 3-3-32）。

③「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」について

「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の希望について、女性では「「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させたい」が 25.4%で最も高く、男性では「「仕事」と「個人の生活」をとともに優先したい」が 21.4%で最も高くなっており、前回調査と比較すると、女性・男性いずれも「「仕事」と「個人の生活」をとともに優先したい」が前回調査より最も増加した項目となっています。

また、現実（実態）については、女性・男性いずれも「「仕事」を優先している」（女性 22.5%、男性 37.8%）の割合が最も高くなっており、女性では「「仕事」を優先している」が最も増加した項目となっており、男性では「「仕事」と「個人の生活」をとともに優先している」が最も増加した項目となっています（図表 3-3-33、図表 3-3-34、図表 3-3-37、図表 3-3-38）。

④男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うこと

男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うことについては、「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」が 32.2%で最も高く、次いで「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」が 31.4%、「家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす」が 31.0%と続いており、女性は「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」が 35.9%で最も高く、男性は「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」が 32.3%で最も高くなっています。

また、前回調査と比較すると、女性では「在宅勤務やフレックスタイム（時差出勤）など柔軟な勤務体制を取り入れる」が前回調査より最も増加した項目となっており、男性では「残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する」が最も増加した項目となっています（図表 3-3-41）。

⑤結婚に関する考え方について

結婚に関する考え方についてについて、「女性も男性も必ずしも結婚する必要はない」では、「そう思う」が 49.9%で最も高く、「夫婦別姓は認められない」では、「そうは思わない」が 45.1%で最も高く、「結婚する際は必ず婚姻届を出さなければならない」では、「そう思う」が 53.0%で最も高く、「同性同士の結婚が認められてもよい」では、「そう思う」が 47.6%で最も高く、「結婚しても必ずしも子どもをもうけなくてもよい」では、「そう思う」が 50.9%で最も高くなっています（図表 3-3-44～図表 3-3-48）。

（４）子育て・教育について

①子育てについて

子育てをどのように感じているかについては、女性・男性いずれも「楽しいと感じることが多い」（女性 46.3%、男性 66.7%）の割合が最も高く、男性が 20.4 ポイント高くなっており、前回調査と比較すると、「楽しいと感じることが多い」では、女性は前回調査より減少し、男性は前回調査より増加しています（図表 3-4-1、図表 3-4-2）。

②子育てをつらいと感じる時

子育てをつらいと感じる時について、女性では「子育てに自信がなくなったとき」「子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき」がいずれも 32.9%で最も高く、次いで「子育てのために休日もゆっくり休めないとき」が 31.6%と続いており、男性では「子どもがいるために経済的に苦しいとき」が 34.4%で最も高く、次いで「子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき」が 28.1%と続いています（図表 3-4-7）。

③子育てについての相談先

子育てについての相談先については、女性・男性いずれも「家族・親族」（女性 60.5%、男性 53.1%）の割合が最も高く、「友人」では、女性が 53.9%で、男性（15.6%）よりも 38.3 ポイント高く、差が最も大きい項目となっています（図表 3-4-10）。

④男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うもの

男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うものについて全体では、「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力をいかせるよう配慮する」が 55.1%で最も高く、次いで「学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」が 44.8%、「男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う」が 32.0%と続いています（図表 3-4-14）。

（５）働くことについて

①男性の育児休業取得について

男性の育児休業取得については、「父親が育児に参画することは当然なので、男性も育児休業を取得するほうがいい」が 49.3%で最も高く、次いで「職場の雰囲気として、男性は育児休業を取得しづらいと感じる」が 48.0%、「育児休業を取得した場合、世帯の収入が下がるため、生活ができるか心配だ」が 37.9%と続いており、女性・男性いずれも上位 3 位は全体と同順となっています（図表 3-5-1）。

②男性の育児休業の取得状況

男性の育児休業の取得状況については、「取得したことがある（取得予定を含む）」が 3.0%となっています（図表 3-5-3）。

③働いている主な理由

働いている主な理由について、女性では「生計を維持するため」が 44.1%で最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が 31.5%、「金銭的にゆとりのある生活をするため」が 28.8%と続いており、男性では「生計を維持するため」が 66.8%で最も高く、次いで「働くのは当たり前だから」が 37.5%、「金銭的にゆとりのある生活をするため」「将来に備えて貯蓄するため」がいずれも 23.9%と続いており、前回調査と比較すると、女性では「生計を維持するため」が前回調査より最も増加した項目となっています（図表 3-5-4）。

④仕事について悩んでいること・不満に思うこと

仕事について悩んでいること・不満に思うことについて、女性では「賃金が低い」が31.0%で最も高く、次いで「どれも無い」が24.1%、「昇進や賃金など待遇面で不公平である」が21.2%と続いており、男性では「賃金が低い」が33.0%で最も高く、次いで「労働時間が長い」が25.9%、「どれも無い」が22.7%と続いています（図表3-5-7）。

⑤仕事についての相談先

仕事についての相談先については、女性・男性いずれも「家族・親族」（女性59.9%、男性54.4%）の割合が最も高く、女性では次いで「友人」（47.5%）、「職場の同僚」（44.4%）と続いており、男性では次いで「職場の同僚」（39.6%）、「友人」（25.5%）と続いており、「友人」では女性が男性よりも22.3ポイント高く、最も差が大きい項目となっています（図表3-5-11）。

⑥配偶者・パートナーが働いていることについて

女性の配偶者・パートナーが働いていることについては、「賛成し、家事・育児などを分担している」が52.8%で最も高く、次いで「反対はしないが、家事・育児はあまり分担していない」が20.2%、「できれば働いてほしくないが、仕方がないと思っている」が12.4%と続いており、「賛成し、家事・育児などを分担している」では、年代が上がるにつれて割合が低くなっており、全ての年代で前回調査よりも割合が増加しています（図表3-5-13）。

⑦働いていない理由

働いていない理由について、女性20歳代から30歳代では「子どもが小さいから」（女性20歳代53.3%、女性30歳代60.0%）の割合が最も高く、40歳代では「適当な仕事が見つからないから」（女性40歳代34.6%、男性40歳代60.0%）の割合が最も高く、50歳代では「健康に自信がないから」（女性50歳代38.1%、男性50歳代45.5%）の割合が最も高く、女性60歳代以上、男性70歳以上では「高齢だから」（女性60歳代51.7%、女性70歳以上71.6%、男性70歳以上55.9%）の割合が最も高く、男性60歳代では「定年で退職したから」（65.2%）の割合が最も高くなっています（図表3-5-16）。

⑧仕事があれば働きたいと思うか

仕事があれば働きたいと思うかについて、「働くつもりはない」では、女性・男性いずれも60歳代以上の割合が高く、女性20歳代から40歳代では「今すぐは無理だが将来は働きたい」の割合が最も高くなっています（図表3-5-18）。

⑨働く場合の就労形態

働く場合の就労形態については、女性・男性いずれも「非正規（フルタイム以外）で働く」（女性58.3%、男性56.5%）の割合が最も高く、次いで「正社員」（女性19.4%、男性26.1%）となっています（図表3-5-19）。

(6) 男女間の暴力について

①DVだと思う行為

DVだと思う行為について、「DVだと思う」では、「なぐる、ける、突き飛ばす」が89.5%で最も高く、次いで「同意のない性行為を強要する、避妊に協力しない」が79.7%、「壁に物を投げるなど脅かす、大声でどなる、侮辱的なことを言う、何を言っても無視する、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりする」が79.4%と続いており、全ての項目で女性の割合が男性よりも高く、「生活費を渡さない、生活費の用途を細かく指図する」では、女性が男性よりも9.4ポイント高く、差が最も大きい項目となっています（図表3-6-1～図表3-6-6）。

②DVの経験

DVの経験について、『あった』（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）をみると、女性・男性いずれも「壁に物を投げるなど脅かされた、大声でどなられたり侮辱的なことを言われた、何を言っても無視された、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりされた」（女性25.9%、男性12.9%）の割合が最も高くなっています（図表3-6-8～図表3-6-12）。

③DVの被害を受けた際の相談先

DVの被害を受けた際の相談先については、女性・男性いずれも「だれにも話したり、相談していない」（女性37.9%、男性72.2%）の割合が最も高く、男性が女性より34.3ポイント高く、女性は前回調査より11.6ポイント減少し、男性は前回調査より8.5ポイント増加しています（図表3-6-13、図表3-6-14）。

④相談しなかった理由

相談しなかった理由については、女性・男性いずれも「相談するほどのことではないと思った」（女性48.9%、男性40.4%）の割合が最も高く、女性では次いで「相談してもむだだと思った」（30.7%）の割合が高く、男性では次いで「自分にも悪いところがあると思った」（36.5%）の割合が高くなっており、前回調査と比較すると、女性では「相談してもむだだと思った」が前回調査より最も増加した項目となっており、男性では「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が最も増加した項目となっています。（図表3-6-17）。

⑤DVの防止に特に必要だと思うこと

DVの防止に特に必要だと思うことについては、女性・男性いずれも「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」（女性45.2%、男性45.4%）の割合が最も高く、次いで「相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする」（女性43.1%、男性43.7%）の割合が高く、女性は続いて「男性も女性も経済的に自立できる環境を整備する」（31.0%）の割合が高く、男性は続いて「暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う」（34.8%）の割合が高くなっており、前回調査と比較すると、「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」では、女性・男性いずれも前回調査より最も増加した項目となっています（図表3-6-20）。

⑥セクシャル・ハラスメントについて

セクシャル・ハラスメントについて、「あなたがされたこと」を性別でみると、全ての項目で女性の割合が男性よりも高くなっており、女性・男性いずれも「結婚しているかどうかを話題にする」（女性46.0%、男性31.2%）の割合が最も高く、次いで「性的な冗談やひわいなことを話題にする」（女性31.7%、男性21.0%）、「容姿についてあれこれ聞く（話題にする）」（女性28.9%、男性19.7%）の割合が高くなっています（図表3-6-23）。

セクシャル・ハラスメントについて、「あなたがしたこと」では、性別でみると、「結婚しているかどうかを話題にする」を除く全ての項目で男性の割合が女性よりも高くなっており、女性・男性いずれも「結婚しているかどうかを話題にする」（女性 32.5%、男性 25.9%）の割合が最も高く、女性では次いで「容姿についてあれこれ聞く（話題にする）」（15.3%）の割合が高く、男性では次いで「性的な冗談やひわいなことを話題にする」（16.6%）の割合が高くなっています（図表 3-6-24）。

⑦誰からセクシャル・ハラスメントを受けたか

誰からセクシャル・ハラスメントを受けたかについて、女性では「職場の上司」が 52.8%で最も高く、男性では「職場の同僚」が 57.9%で最も高くなっており、前回調査と比較すると、女性では「地域団体の関係者」以外の項目で、男性では「地域団体の関係者」「その他」以外の項目で前回調査よりも割合が増加しています（図表 3-6-36）。

⑧セクシャル・ハラスメントの相談先

セクシャル・ハラスメントの相談先については、女性・男性いずれも「相談していない」の割合が最も高く、男性が 69.9%で、女性（50.7%）よりも 19.2 ポイント高くなっており、前回調査と比較すると、女性・男性いずれも前回調査よりも割合が増加しています（図表 3-6-39）。

（7）高齢期の生活について

①高齢期の生活への不安

高齢期の生活への不安については、女性・男性いずれも「不安を感じている」の割合が最も高く、女性が 76.2%で、男性（67.9%）よりも 8.3 ポイント高くなっており、前回調査と比較すると、女性・男性いずれも前回調査より割合が増加しています（図表 3-7-1、図表 3-7-2）。

②高齢期の生活への不安の具体例

高齢期の生活への不安の具体例について全体では、「経済的にやっていけるか」が 75.3%で最も高く、次いで「健康で過ごせるか」が 55.1%、「寝たきりなど介護が必要になったとき、満足がいくサービスが受けられるか」が 36.1%と続いており、女性・男性いずれも上位 3 位は全体と同順となっています。また、前回調査と比較すると、女性では「安心して住める家があるか」が前回調査より最も増加した項目となっており、男性では「経済的にやっていけるか」が前回調査より最も増加した項目となっています（図表 3-7-5）。

③高齢のために介護・介助が必要な人の有無

高齢のために介護・介助が必要な人の有無について全体では、「いない」が 83.3%で最も高く、次いで「いる」が 10.7%、「自分が介護・介助を受けている」が 1.4%となっており、前回調査と比較すると、「いる」では、女性・男性いずれも前回調査より割合が増加しています（図表 3-7-8、図表 3-7-9）。

④主としてだれが介護・介助をしているか

主としてだれが介護・介助をしているかについては、「介護されている人の娘」が 24.8%で最も高く、次いで「介護施設等」が 20.3%、「介護されている人の妻」が 11.3%と続いており、前回調査と比較すると、「介護施設等」が最も増加した項目となっており、「介護されている人の妻」「介護されている人の息子の妻」が最も減少した項目となっています（図表 3-7-12）。

⑤介護・介助に関して困っていること

介護・介助に関して困っていることについては、女性・男性いずれも「その他」（女性 24.3%、男性 25.4%）の割合が最も高く、次いで「身体が疲れていても介護・介助を代わってくれる人がいない」（女性 23.0%、男性 11.9%）の割合が高くなっており、女性では続いて「介護・介助のために仕事を続けることが難しい」（13.5%）の割合が高く、男性では続いて「外出したいと思ったとき、世話を頼む人がいない」（8.5%）の割合が高く、前回調査と比較すると、女性では「介護・介助のために仕事を続けることが難しい」が前回調査より最も増加した項目となっています（図表 3-7-15）。

⑥主にだれに介護をしてもらいたいのか

主にだれに介護をしてもらいたいのかについて、女性では「介護施設等」が 39.2%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの在宅介護サービス」が 23.6%、「妻・夫」が 14.6%と続いており、男性では「妻・夫」が 42.0%で最も高く、次いで「介護施設等」が 29.7%、「ホームヘルパーなどの在宅介護サービス」が 15.9%と続いており、前回調査と比較すると、女性・男性いずれも「介護施設等」が前回調査より割合が最も増加した項目となっており、「妻・夫」が前回調査より最も減少した項目となっています（図表 3-7-18）。

（８）男女共同参画施策の推進について

①男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能

男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能については、女性・男性いずれも「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」（女性 48.6%、男性 44.6%）の割合が最も高く、女性では次いで「男女共同参画に関する資料や情報の収集、提供をする」（14.8%）の割合が高く、男性では次いで「気楽に話し合えるフリースペースがある」（15.9%）の割合が高くなっており、前回調査と比較すると、女性・男性いずれも「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」の割合が前回調査より最も増加した項目となっています（図表 3-8-1）。

②男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うこと

男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うことについては、女性・男性いずれも「保育所や子育て支援センターなど、安心して働くための施設の整備を進める」（女性 44.2%、男性 36.1%）の割合が最も高く、女性では次いで「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」（35.2%）の割合が高く、男性では次いで「男女平等の視点で法律や制度を改める」（32.9%）の割合が高くなっており、前回調査と比較すると、女性では「男女平等の視点で法律や制度を改める」が前回調査よりも最も増加した項目となっており、男性では「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」が最も増加した項目となっています（図表 3-8-4）。

③女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、女性・男性いずれも「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」（女性 55.0%、男性 38.6%）の割合が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」（女性 46.1%、男性 36.1%）の割合が高くなっており、女性では続いて「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」（39.1%）の割合が高く、男性では続いて「長時間労働の改善が十分ではないこと」（32.1%）の割合が高くなっていきます（図表 3-8-7）。

2. 事業所実態調査

(1) 事業所の概要

①業種

業種については、「医療、福祉」が 22.7%で最も高く、次いで「製造業」が 15.4%、「卸売業、小売業」が 11.2%と続いています（図表 4-1-1）。

②事業所の形態

事業所の形態については、「支社・支店・営業所等」が 39.2%で最も高く、次いで「単独事業所」が 36.7%、「本社・本店」が 19.3%と続いています（図表 4-1-2）。

③従業員数・育児・介護休業取得者の状況

従業員数については、「11～20 人」が 32.5%で最も高く、次いで「6～10 人」が 22.1%、「31～50 人」が 14.0%と続いており、男性・女性別従業員数については、男性が 49.5%、女性が 50.5%となっています（図表 4-1-3、図表 4-1-4）。

正社員数については、「1～10 人」が 52.4%で最も高く、次いで「11～30 人」が 26.9%、「51～100 人」が 7.0%と続いており、男性・女性別正社員数については、男性が 60.4%、女性が 39.6%で、正社員の女性比率については、『50%未満』が 63.3%となっています（図表 4-1-5～図表 4-1-7）。

パート・嘱託等非正社員数については、「1～10 人」が 45.1%で最も高く、次いで「11～30 人」が 21.6%、「0 人」が 19.6%と続いており、男性・女性別パート・嘱託等非正社員数については、男性が 31.4%、女性が 68.6%で、パート・嘱託等非正社員の女性比率については、「60%以上」が 55.2%となっています（図表 4-1-8～図表 4-1-10）。

従業者の正社員、パート・嘱託等非正社員の状況については、「正社員」が 62.2%、「パート・嘱託等非正社員」が 37.8%となっています（図表 4-1-11）。

男性・女性別役員数については、男性が 44.4%、女性が 55.6%で、役員の女性比率については、『50%未満』が 38.4%で、『50%以上』（18.5%）よりも 19.9 ポイント高くなっています（図表 4-1-12、図表 4-1-13）

男性・女性別管理職数については、男性が 77.5%、女性が 22.5%で、管理職の女性比率については、『50%未満』が 53.5%で、『50%以上』（20.7%）よりも 32.8 ポイント高くなっています（図表 4-1-14、図表 4-1-15）

男性・女性別育児休業者数については、男性が 9.2%、女性が 90.8%で、育児休業取得率について、男性では「0～10%未満」が 49.1%で最も高く、女性では「60%以上」が 50.0%で最も高く、平均取得日数について男性は 43.6 日、女性は 372.1 日となっています（図表 4-1-16～図表 4-1-20）。

介護休業の取得者については男性が 12 人、女性が 21 人で、平均取得日数については男性が 29.2 日、女性が 17.9 日となっています（図表 4-1-21、図表 4-1-22）。

④育児・介護休業取得者の復職後の配置状況

育児・介護休業取得者の復職後の配置状況については、「原職または原職相当職へ復帰させることを原則としている」が 56.6%で最も高く次いで「本人の意向を優先する」が 29.7%、「どちらともいえない」が 6.7%と続いています（図表 4-1-23）。

⑤一般事業主行動計画の認知度

次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画の認知度については、「知っている」が 61.6%で、策定義務のある 101 人以上の企業については、101～300 人の事業所が 69.6%、301 人以上の事業所が 50.0%となっています。また、女性活躍推進法における一般事業主行動計画の認知度については、「知っている」が 64.4%となっており、現在、策定・届出義務及び自社の女性活躍に関する情報公表の義務の対象である常時雇用する労働者が 301 人以上の企業については、「知っている」が 301 人以上の事業所で 50.0%となっています（図表 4-1-24、図表 4-1-25）。

⑥一般事業主行動計画の策定状況

次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画の策定状況については、「策定済み」が 36.4%で、101～300 人の事業所が 47.8%、301 人以上の事業所が 66.7%となっており、女性活躍推進法における一般事業主行動計画の策定状況については、「策定済み」が 29.1%で、301 人以上の事業所で 66.7%となっています（図表 4-1-26、図表 4-1-27）

⑦女性従業員の育児休業取得について

女性従業員の育児休業取得に対する考えについては、「本人の意向を優先したい」が 49.9%で最も高く、次いで「長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい」が 27.7%、「できる限り育児休業期間を短くして早めに職場復帰し、短時間勤務等、両立支援制度を利用しながら働いてほしい」が 12.0%と続いています（図表 4-1-28）。

⑧男性の育児参加促進のための取組について

男性の育児参加促進のための取組については、「特に実施していない」が 44.8%で最も高く、次いで「配偶者出産休暇制度を設けている」が 39.8%、「全社員に対して、男性の休業・休暇取得の理解促進に向けた情報提供を行っている」が 28.9%と続いており、「特に実施していない」では、平成 30 年度国調査よりも高くなっています（図表 4-1-29）。

⑨介護問題を抱える従業員の把握状況

介護問題を抱える従業員の把握状況については、「介護問題を抱える各従業員の詳細状況を把握している」が 7.0%、「介護問題を抱える各従業員の状況のある程度把握している」が 28.3%、で、合計した『把握している』は 35.3%となっています（図表 4-1-31）。

（２）両立支援について

①人事の方針で重視していること

人事の方針で重視していることについて、「重視している」では、「長期雇用の維持」が 82.4%で最も高く、次いで「若年者の雇用拡大」が 63.6%、「女性社員の登用及び活用」が 58.5%と続いています（図表 4-2-1）。

②従業員に対する支援や取組

従業員に対する支援や取組について、正社員対しに実施している支援や取組では、「メンタルヘルス対策」が 61.1%で最も高く、次いで「私傷病治療との両立支援」が 58.8%、「自己啓発に対する支援」が 57.4%と続いており、パート・嘱託等非正社員に対し実施している支援や取組では、「メンタルヘルス対策」が 47.7%で最も高く、次いで「私傷病治療との両立支援」が 42.0%、「自己啓発に対する支援」が 39.2%と続いています。

また、国調査と比較すると、正社員に対し実施している支援や取組では、「副業や兼業についての就業規則の見直し」が国調査より 22.9 ポイント高く、最も差が大きい項目で、次いで差が大きい項目として、「メンタルヘルス対策」が国調査より 19.8 ポイント低くなっており、パート・嘱託等非正社員に対し実施している支援や取組では、「メンタルヘルス対策」が国調査より 17.6 ポイント低く、最も差が大きい項目で、次いで差が大きい項目として、「法定を上回る育児との両立支援」が国調査より 11.8 ポイント低くなっています（図表 4-2-10、図表 4-2-11）。

③仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題

仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題については、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が 51.5%で最も高く、次いで「休業することによって収入などの面で不安があるため、従業員が利用を望まない」が 27.7%、「全体的に休暇取得率が低い」が 24.6%と続いています（図表 4-2-20）。

（３）女性の活躍推進について

①女性の管理職登用を促進しようとする場合の課題

女性の管理職登用を促進しようとする場合の課題については、「女性自身が管理職になることを希望しない」が 35.0%で最も高く、次いで「特に課題はない」が 29.7%、「女性従業員が少ない又はいない」が 24.4%と続いています（図表 4-3-1）。

②女性の活躍推進のための取組の実施状況

女性の活躍推進のための実施中の取組については、「従業員から仕事や職場・就業環境についての意見・要望を取り上げるなどの改善」が 73.1%で最も高く、次いで「女性従業員の積極的な採用」が 72.8%、「従業員のメンタルヘルスに関するサポート」が 58.8%と続いています（図表 4-3-3）。

（４）職場環境について

①セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例

セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例については、「いずれもない」が 78.2%で最も高く、「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」では、従業員数が多くなるにつれて割合が高くなっています（図表 4-4-1、図表 4-4-2）。

②セクシュアル・ハラスメントに対する取組

セクシュアル・ハラスメントに対する取組については、「セクシュアル・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が 54.3%で最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が 49.6%、「セクシュアル・ハラスメント防止のための研修を実施している」が 38.9%と続いています（図表 4-4-3）。

③パワー・ハラスメントに対する取組

パワー・ハラスメントに対する取組については、「パワー・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が 50.1%で最も高く、次いで「パワー・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が 48.5%、「パワー・ハラスメント防止のための研修を実施している」が 38.7%と続いています（図表 4-4-5）。

④マタニティ・ハラスメントに対する取組

マタニティ・ハラスメントに対する取組については、「特にない」が46.2%で最も高く、次いで「マタニティ・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が40.3%、「マタニティ・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が38.7%と続いています（図表4-4-7）。

3. 小学生から大学生への調査

（1）回答者と家族について

①学年

学年について、小学生では、5年生が36.1%、6年生が63.5%、中学生では、1年生が22.3%、2年生が22.7%、3年生が54.5%、高校生では、1年生が47.6%、2年生が13.6%、3年生が38.8%、大学生では、1年生が35.7%、2年生が32.4%、3年生が19.3%、4年生が11.1%、大学院生が0.4%となっています（図表5-1-1～図表5-1-4）。

②性別

性別について小学生では、「女子」が45.6%、「男子」が52.0%、「女子・男子にあてはまらない」が1.2%、中学生では、「女子」が40.0%、「男子」が45.9%、高校生では、「女性」が51.6%、「男性」が48.4%、大学生では、「女性」が27.5%、「男性」が71.3%、「女性・男性にあてはまらない」が0.8%となっています。（図表5-1-5）。

③同居家族

同居家族については、全ての年代で「母」（小学生97.6%、中学生95.0%、高校生95.2%、大学生84.4%）の割合が最も高く、次いで「父」（小学生88.5%、中学生85.9%、高校生79.6%、大学生77.9%）が高くなっています（図表5-1-6）。

④主に家事を行っている人

主に家事を行っている人については、全ての年代で「母」の割合（小学生75.8%、中学生77.3%、高校生76.4%、大学生67.2%）が最も高く、小学生、中学生、高校生では次いで「父」（小学生3.6%、中学生6.8%、高校生5.2%）が高く、大学生では次いで「自分」（9.4%）が高くなっています（図表5-1-11）。

（2）学校生活について

①学校生活における性別による役割分担の意識

学校生活における性別による役割分担の意識について、「調理実習でリーダーシップをとる」で大きく性別による役割分担の意識がみられました（図表5-2-1～図表5-2-5）。

(3) 家庭生活について

①家庭生活について

家庭生活において実施している手伝いや、自分の身の回りのことについて、「食事のしたく」「食事の後片付け」「洗濯」「きょうだいの世話」では、全ての年代で女性（女子）の割合が高くなっています（図表 5-3-1～図表 5-3-9）。

②家庭生活における性別による役割分担の意識

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「女性と男性が協力してするのがよい」では、全ての項目で女性（女子）の割合が高くなっています（図表 5-3-10～図表 5-3-13）。

(4) ジェンダー意識について

①「男だから、女だから」と言われた経験

「男だから、女だから」と言われた経験について、『言われる』（「よく言われる」と「ときどき言われる」の合計）では、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、中学生・女子が 52.2%で最も高くなっています（図表 5-4-1）。

②「男だから、女だから」と言われた相手

「男だから、女だから」と言われた相手について、中学生・男子では「父」の割合が最も高く、それ以外の年代では「母」の割合が最も高くなっており、女性（女子）では、「父」は年代が上がるにつれて割合が高くなっています（図表 5-4-2）。

③「男だから、女だから」と言われた内容

「男だから、女だから」と言われた内容については、小学生・女子、中学生・女子、高校生・女性では「言葉づかい」の割合が最も高く、小学生・男子、高校生・男性では「泣いたとき」の割合が最も高く、中学生・男子では「手伝い」の割合が最も高く、大学生・女性では「家に帰る時刻」の割合が最も高く、大学生・男性では「その他」の割合が最も高くなっています（図表 5-4-3）。

④「男だから、女だから」と言われたときの気持ち

「男だから、女だから」と言われたときの気持ちについて、小学生・女子では「そのとおりだと思った」の割合が最も高く、小学生・男子では「なぜ「男だから」「女だから」と言われるのか不思議に思った」の割合が最も高く、大学生・女性では「嫌な気持ちになったが、少しそうかもしれないと思った」の割合が最も高く、中学生・女子では「なぜ「男だから」「女だから」と言われるのか不思議に思った」「何とも思わなかった」の割合が同率で最も高く、それ以外の年代では「何とも思わなかった」の割合が最も高くなっています（図表 5-4-4）。

（５）デートＤＶについて

①デートＤＶについての意識

デートＤＶについての意識について、『問題があると思う』（「問題があると思う」と「どちらかというと問題があると思う」の合計）では、「２人のことを何でも自分の意見や都合で決める」「大声でどなる」「たたいたり、けったりする（たたくふりや、けるふりも含む）」「相手のスマホやケータイから、ＬＩＮＥなどの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）」「物を壊したり、投げたりする」「相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる」「デート代をいつもすべて支払わせる」は、全ての年代で女性（女子）の割合が高くなっています（図表 5-5-1～図表 5-5-10）。

②デートＤＶの認知度

デートＤＶの認知度について、「内容を知っている」は、中学生が 16.8%、高校生が 36.8%、大学生が 46.3%で、年代が上がるにつれて割合が高くなっています（図表 5-5-11）。

（６）性別について

①自身の性別について

自身の性別について、小学生、中学生、高校生では「よかったと思う」の割合が最も高く、大学生では「なんとも思わない」の割合が最も高くなっています（図表 5-5-12）。

②自分の性別や恋愛対象に悩んだ経験

自分の性別や恋愛対象に悩んだ経験があるのは、高校生が 7.2%、大学生が 6.6%となっています（図表 5-5-13）。

③ＬＧＢＴの認知度

ＬＧＢＴの認知度について、「内容を知っている」では、高校生が 58.4%、大学生が 65.2%となっています（図表 5-5-14）。

（７）相談先について

①相談先について

相談先について、年代別・性別でみると、小学生、中学生・男子では「母」の割合が最も高く、それ以外の年代では「友達」の割合が最も高くなっており、「母」では、年代が上がるにつれて割合が低くなっています（図表 5-5-15）。

（８）将来について

①将来つきたい職業

将来つきたい職業について、小学生・女子では「パン屋、服屋、花屋などの店員」の割合が最も高く、小学生・男子、中学生・男子では「スポーツ選手」の割合が最も高く、中学生・女子では「保育園・幼稚園の先生」の割合が最も高く、高校生・女性では「医療・福祉関係」の割合が最も高く、高校生・男性、大学生では「会社員、銀行員」の割合が最も高くなっています（図表 5-5-16、図表 5-5-17）。

Ⅲ. 市民意識調査結果

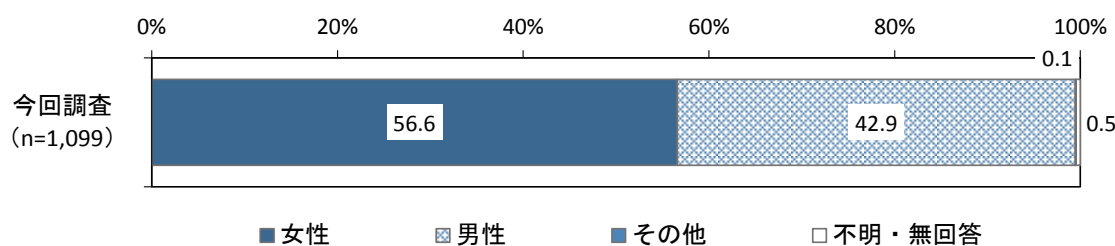
1. 回答者と家族について

(1) 性別

問 1	あなたの性別は。

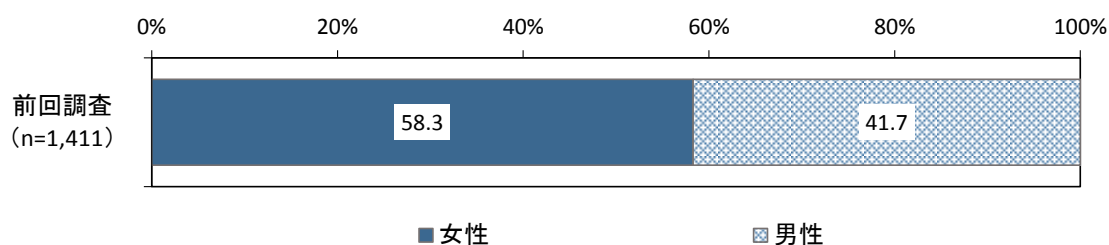
回答者の性別については、「女性」が 56.6%、「男性」が 42.9%、「その他」が 0.1%となっています。

図表 3-1-1 性別



「その他」については、その総数が小さい（1人）ため、クロス集計等においては「女性」「男性」のみを対象とします。

図表 3-1-2 性別 前回調査



図表 3-1-3 性別 母集団・前回調査比較

	母集団		前回調査		今回調査	
	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比
全体	194,133	100.0%	1,411	100.0%	1,099	100.0%
女性	101,319	52.2%	822	58.3%	622	56.6%
男性	92,814	47.8%	589	41.7%	471	42.9%
その他	—	—	—	—	1	0.1%
不明・無回答	—	—	—	—	5	0.5%

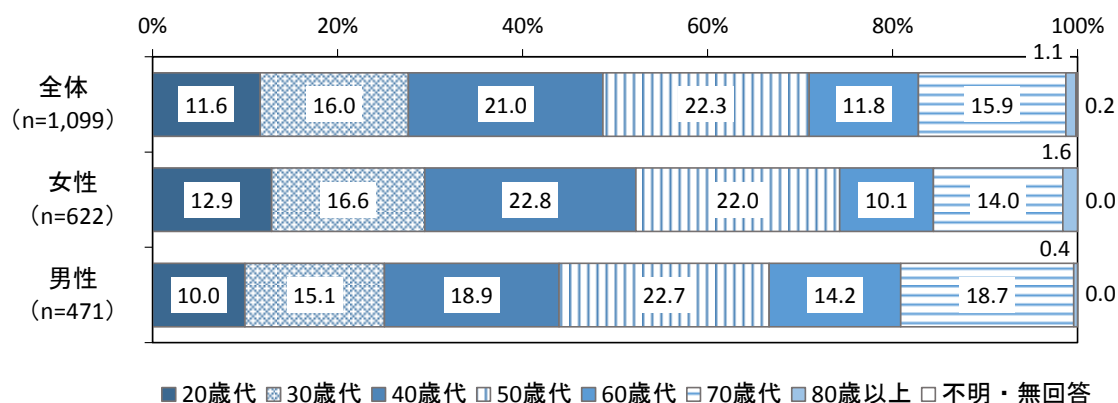
※母集団は住民基本台帳（令和元年7月1日現在）

(2) 年齢

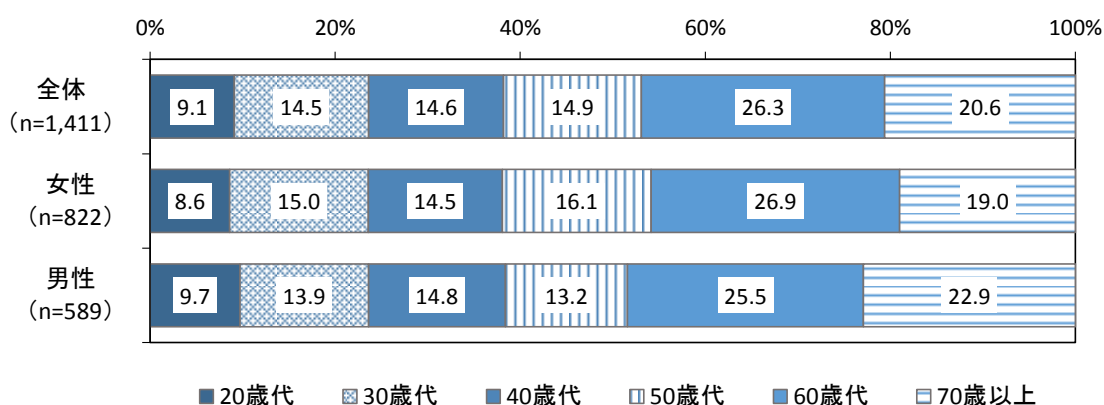
問 2	あなたの年齢は。

回答者の年齢について全体では、「50 歳代」が 22.3%で最も高く、次いで「40 歳代」が 21.0%、「30 歳代」が 16.0%と続いています。

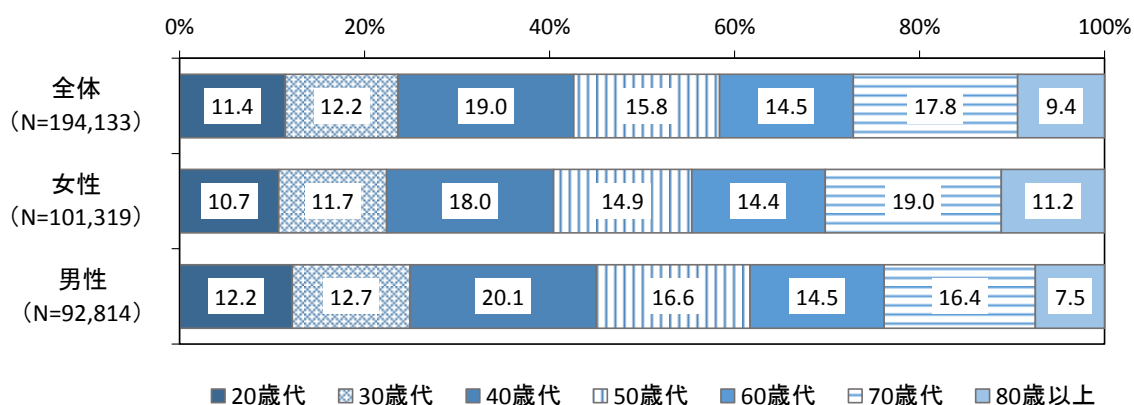
図表 3-1-4 年齢



図表 3-1-5 年齢 前回調査



図表 3-1-6 性別・年代別構成比 母集団



※母集団は住民基本台帳（令和元年7月1日現在）

(3) 結婚

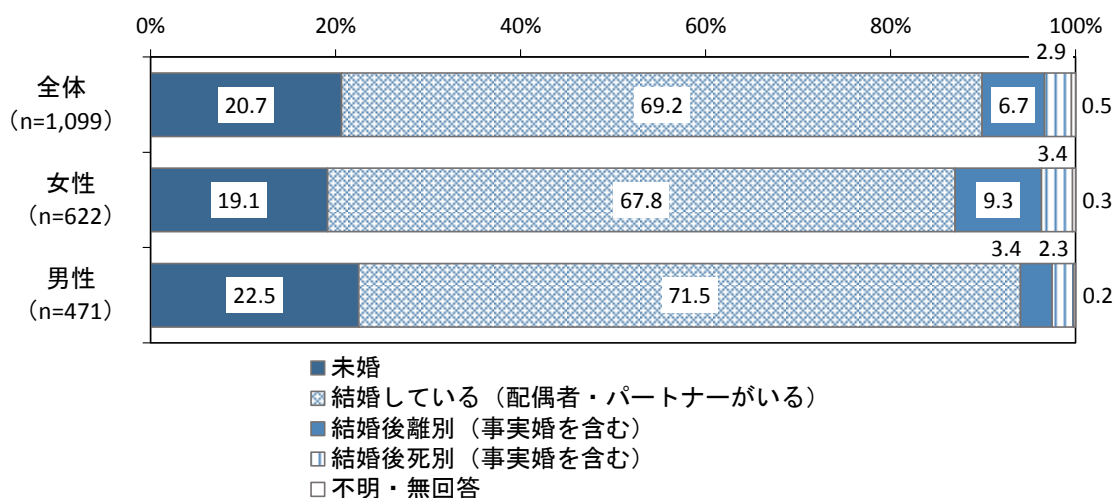
問 3	あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。

結婚について全体では、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」が 69.2%で最も高く、次いで「未婚」が 20.7%、「結婚後離別（事実婚を含む）」が 6.7%と続いています。

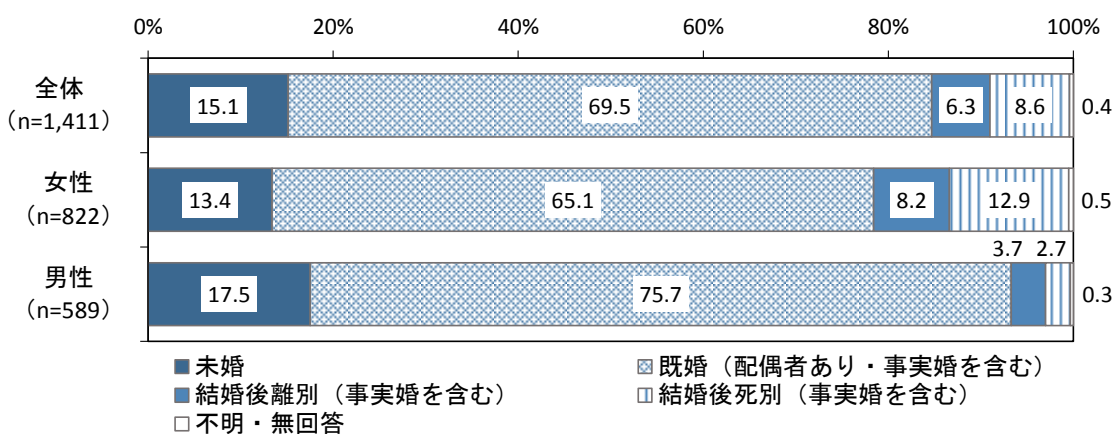
性別でみると、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」では、女性が 67.8%、男性が 71.5%となっています。

前回調査と比較すると、「未婚」では、女性・男性いずれも前回調査より割合が増加しています。

図表 3-1-7 結婚



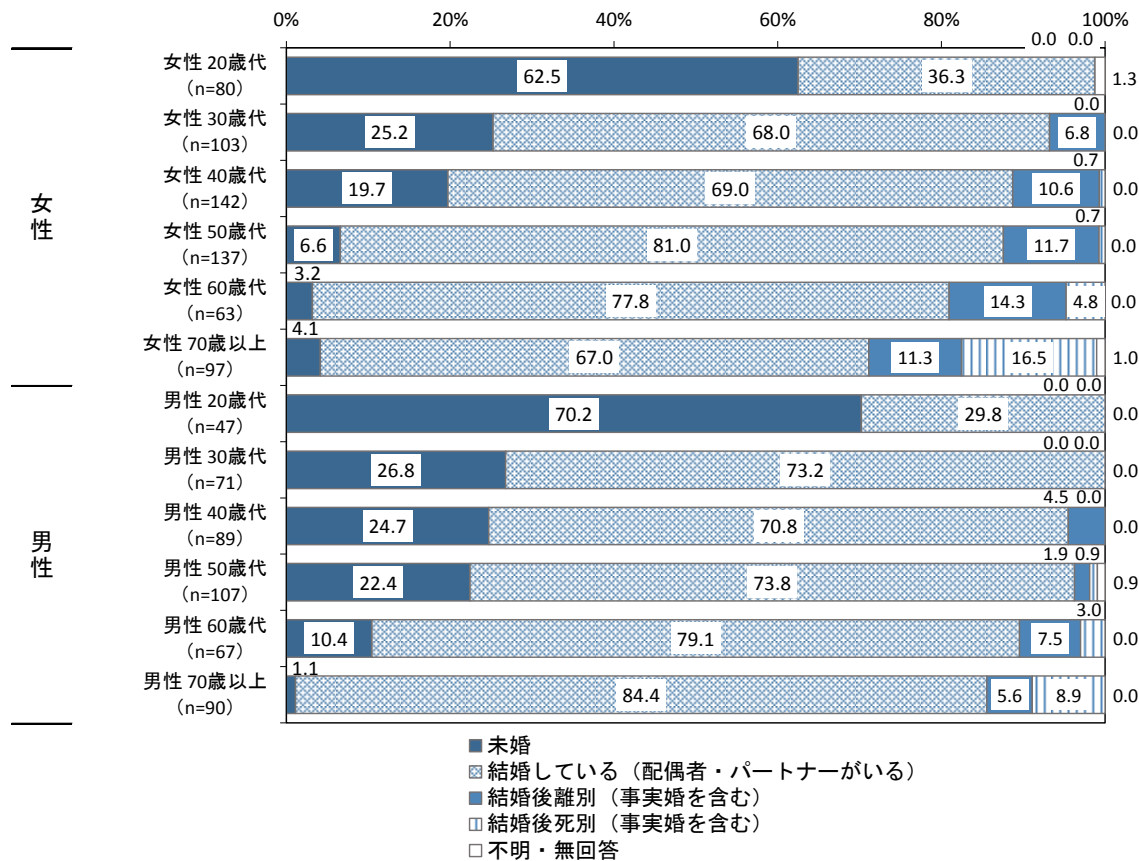
図表 3-1-8 結婚 前回調査



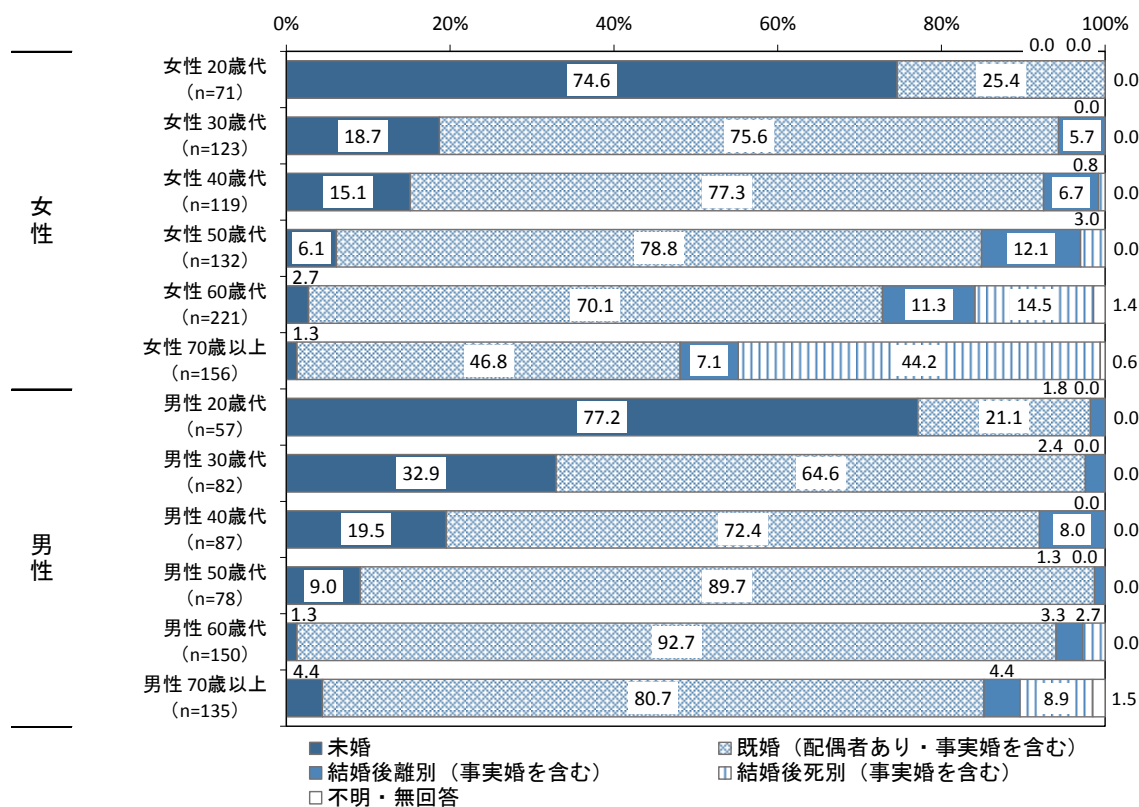
結婚について性別・年代別でみると、20 歳代では「未婚」の割合が最も高く、30 歳代以上では「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、20 歳代、男性 30 歳代、男性 70 歳以上を除く年代で「未婚」の割合が増加しています。

図表 3-1-9 結婚 性別・年代別



図表 3-1-10 結婚 性別・年代別 前回調査



(4) 家族構成

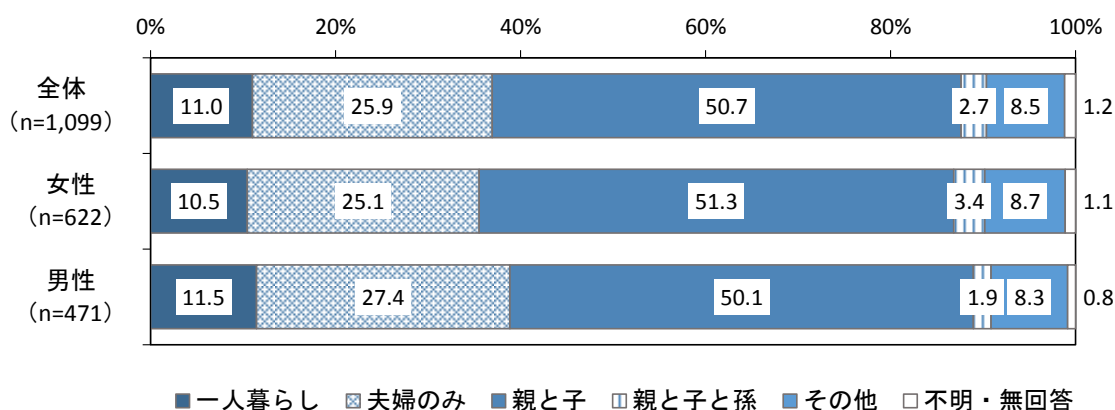
問 4	あなたの家族構成は次のどれですか（同居のみ）。（○は1つだけ）

家族構成について全体では、「親と子」が 50.7%で最も高く、次いで「夫婦のみ」が 25.9%、「一人暮らし」が 11.0%と続いています。

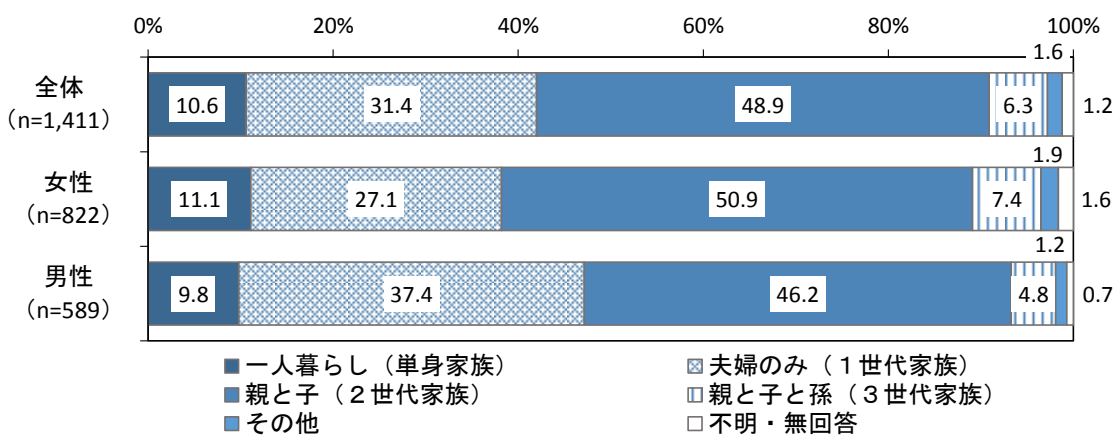
性別でみると、女性・男性いずれも「親と子」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、男性では、「夫婦のみ」が 27.4%で、前回調査（37.4%）よりも 10.0ポイント減少しています。

図表 3-1-11 家族構成



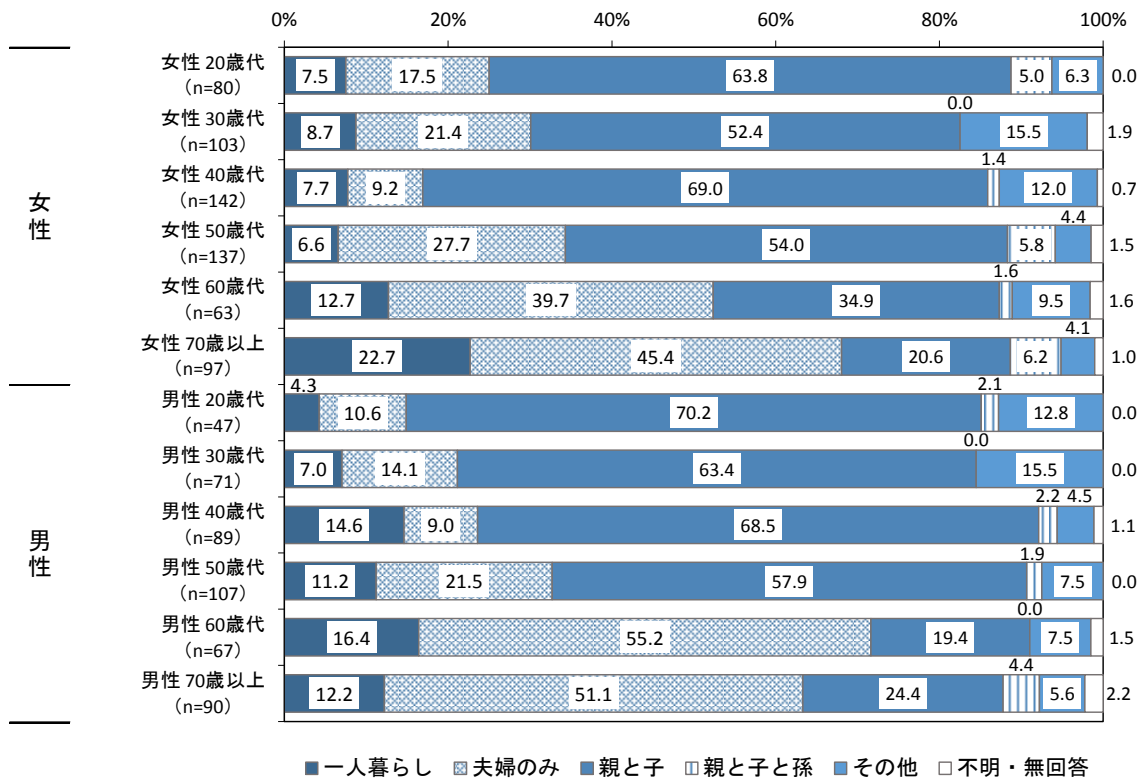
図表 3-1-12 家族構成 前回調査



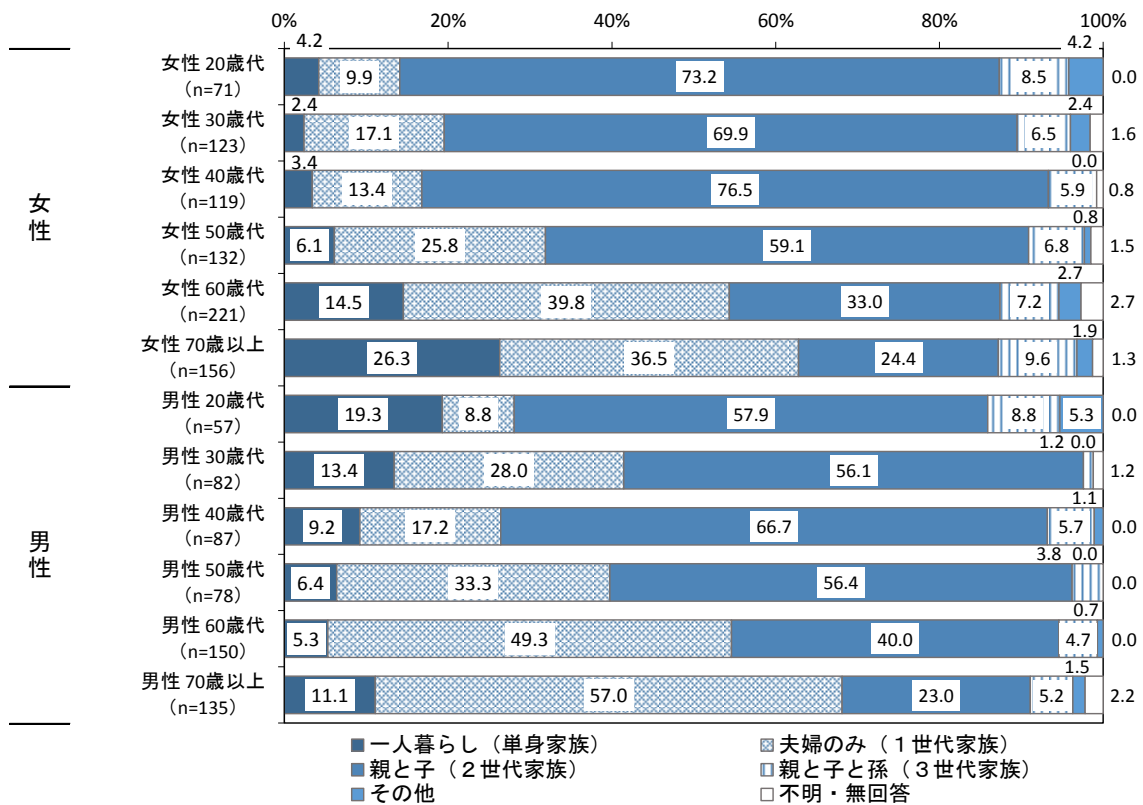
家族構成について性別・年代別でみると、女性・男性いずれも 20 歳代から 50 歳代では「親と子」の割合が最も高く、60 歳以上では「夫婦のみ」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、全ての年代で「親と子と孫」の割合が前回調査よりも減少しています。

図表 3-1-13 家族構成 性別・年代別



図表 3-1-14 家族構成 性別・年代別 前回調査



（５）一番下のお子さんの年齢

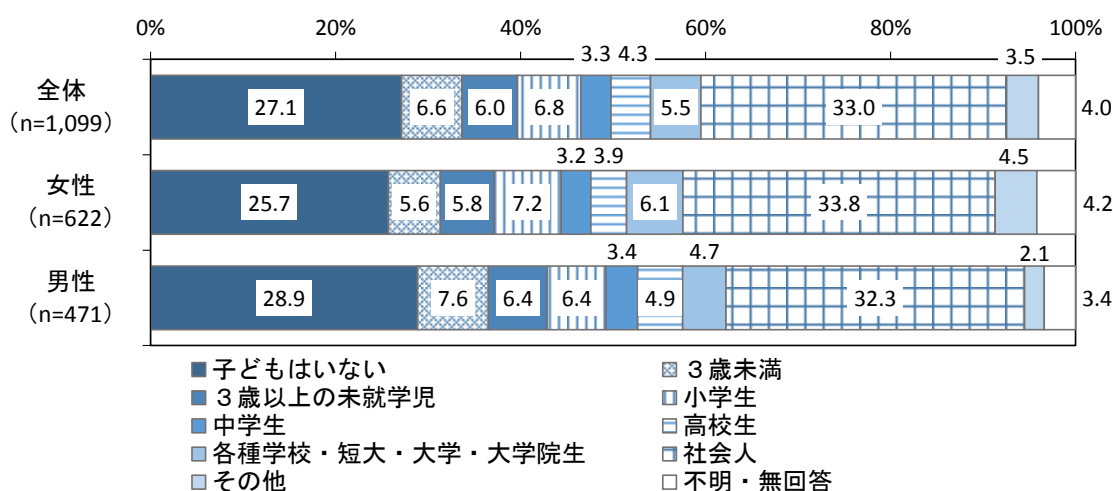
問 5	一番下のお子さんは何歳ですか（別居を含む）。（○は1 つだけ）

一番下のお子さんの年齢について全体では、「社会人」が 33.0%で最も高く、次いで「子どもはいない」が 27.1%、「小学生」が 6.8%と続いています。

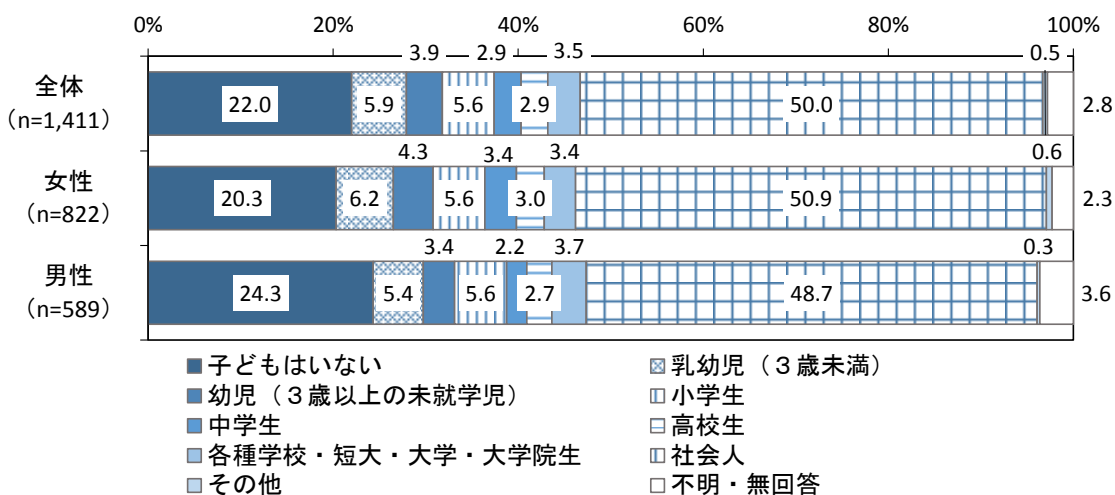
性別でみると、女性・男性いずれも「社会人」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性・男性いずれも「社会人」の割合が前回調査よりも減少し、「子どもはいない」の割合が増加しています。

図表 3-1-15 一番下のお子さんの年齢



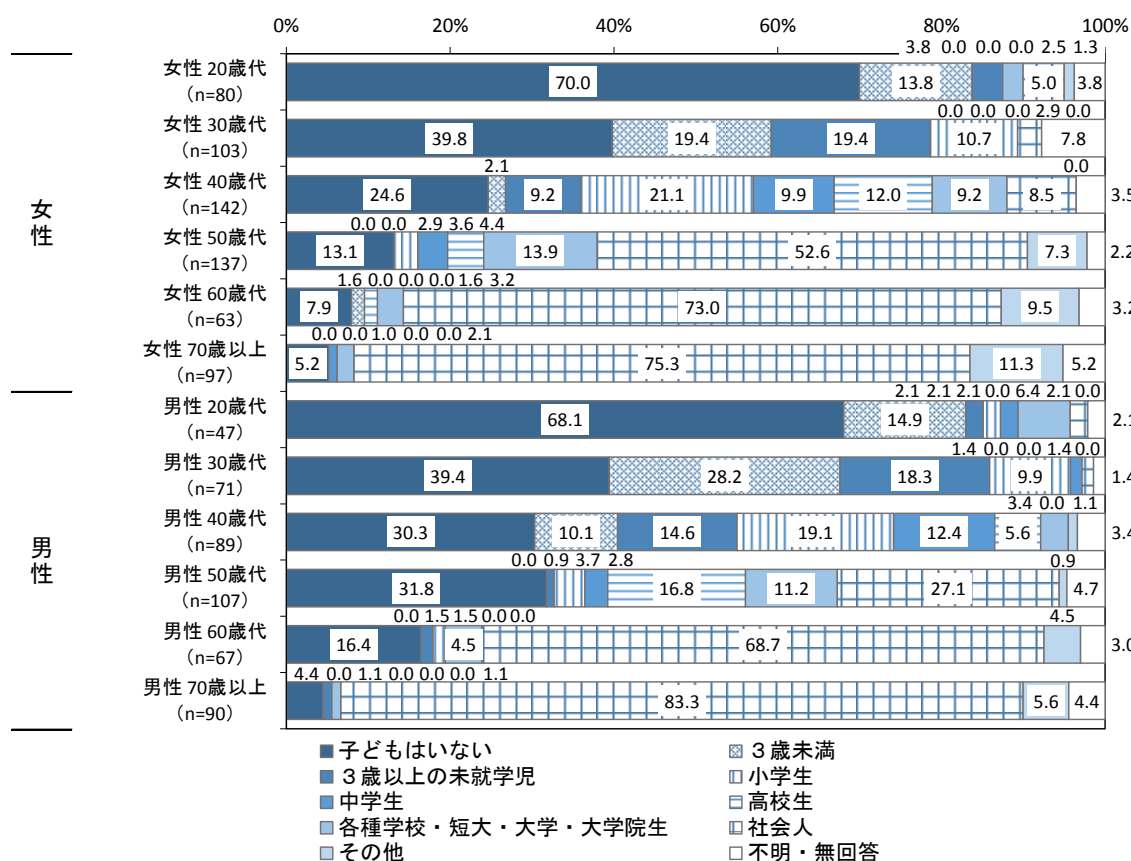
図表 3-1-16 一番下のお子さんの年齢 前回調査



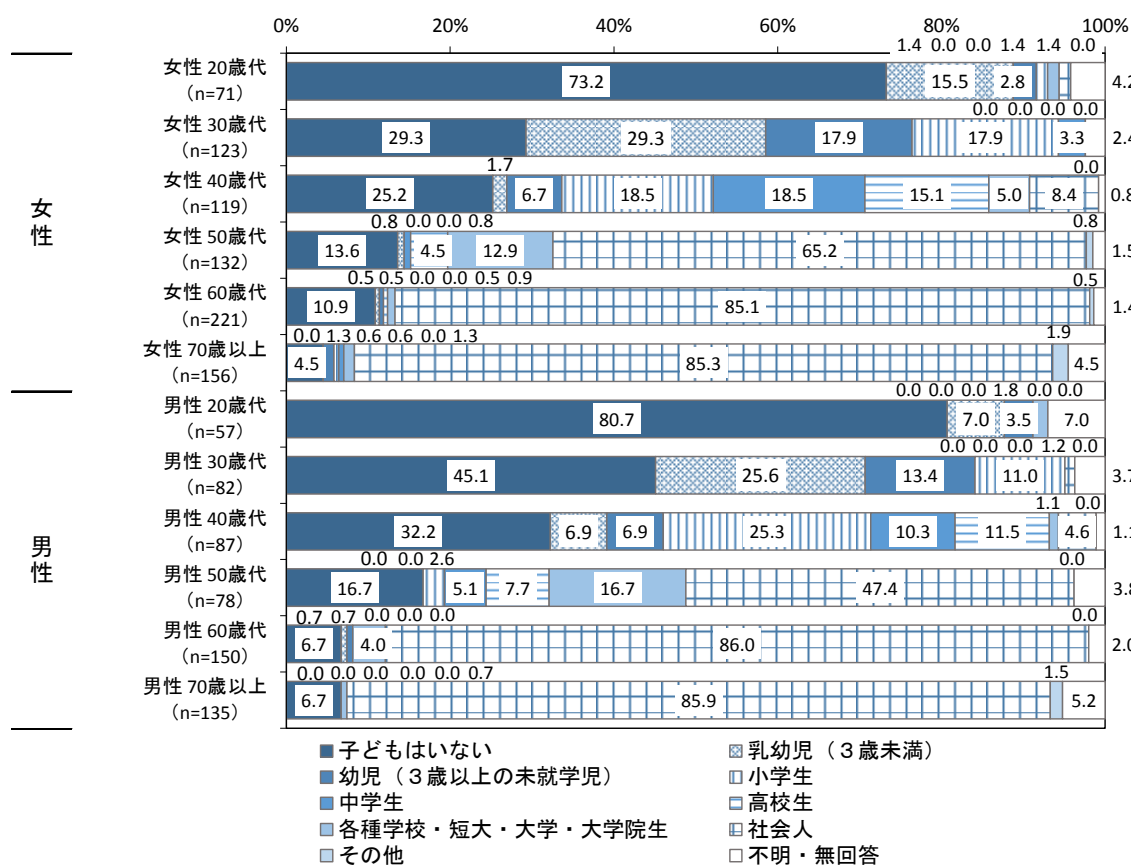
一番下のお子さんの年齢について性別・年代別にみると、「子どもはいない」では、女性・男性いずれも年代が上がるにつれて割合が概ね減少しています。

前回調査と比較すると、女性 30 歳代、女性 70 歳以上、男性 50 歳代、男性 60 歳代を除く全ての年代で、前回調査よりも「子どもはいない」の割合が減少しています。

図表 3-1-17 一番下のお子さんの年齢 性別・年代別



図表 3-1-18 一番下のお子さんの年齢 性別・年代別 前回調査



(6) 回答者と回答者の配偶者・パートナーの職業

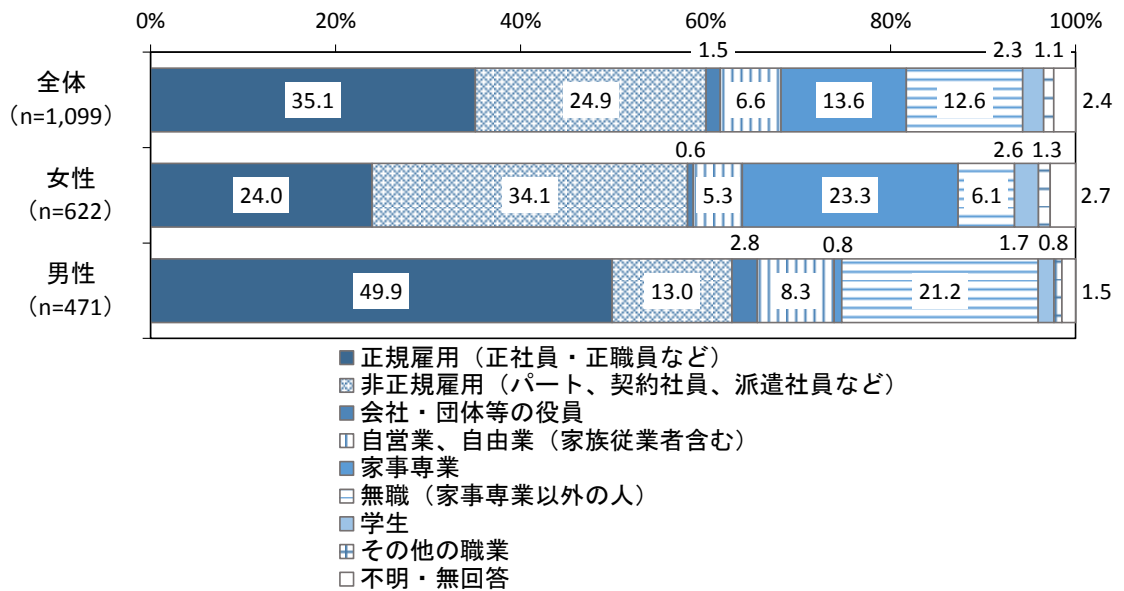
問 6	あなたとあなたの配偶者・パートナーの職業をお答えください。配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。 (それぞれに○は1つだけ)

①回答者の職業

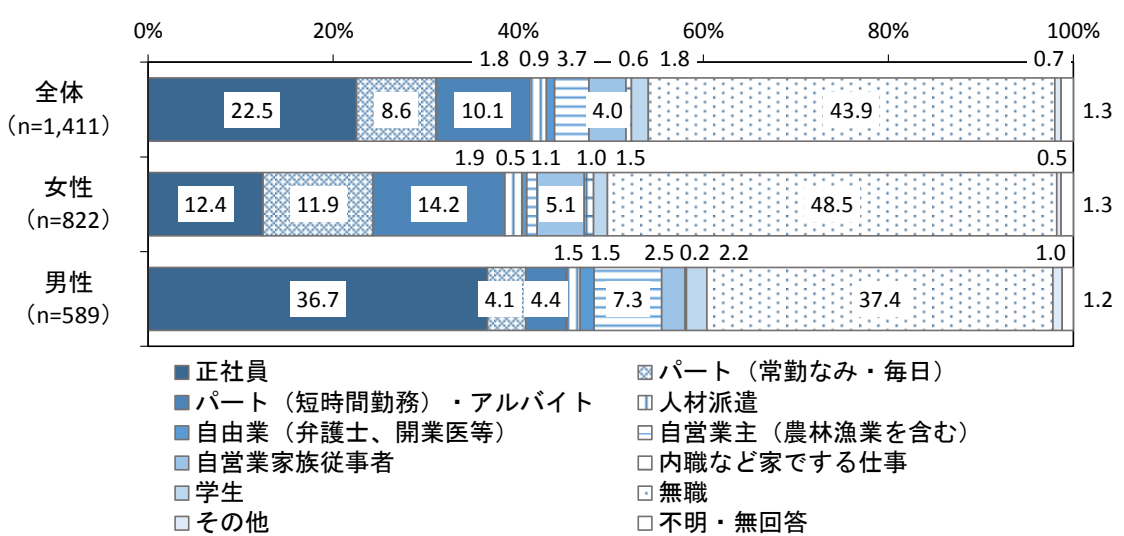
回答者の職業について全体では、「正規雇用（正社員・正職員など）」が 35.1%で最も高く、次いで「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」が 24.9%、「家事専業」が 13.6%と続いています。

性別でみると、女性では「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」が 34.1%で最も高く、男性では「正規雇用（正社員・正職員など）」が 49.9%で最も高くなっています。

図表 3-1-19 回答者の職業

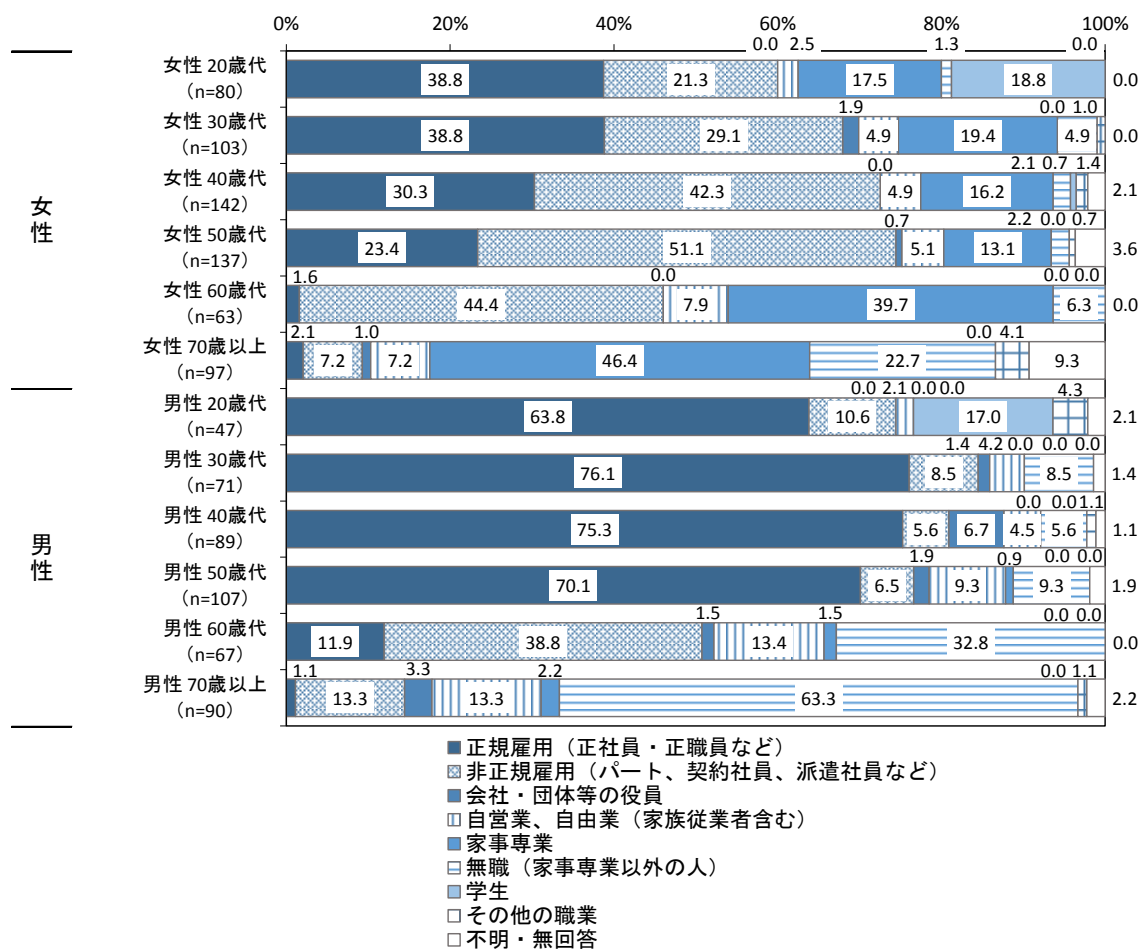


図表 3-1-20 回答者の職業 前回調査

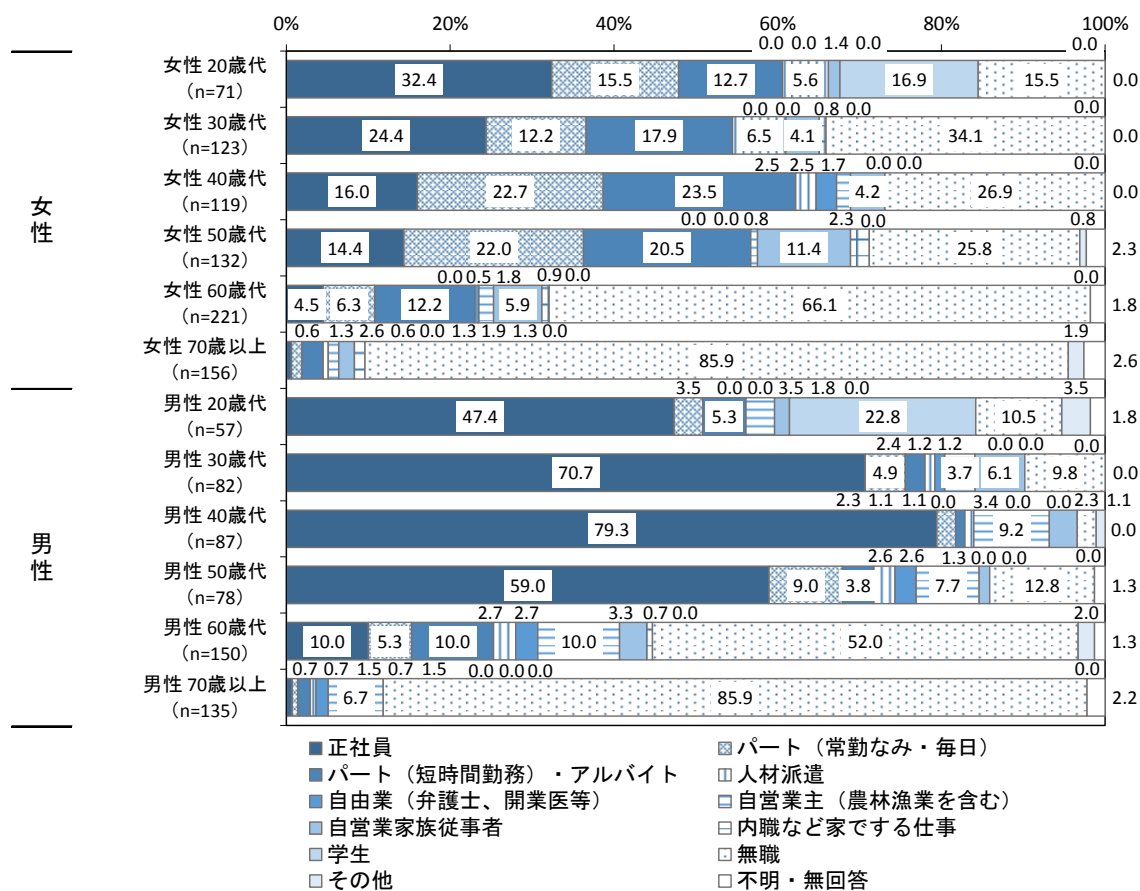


回答者の職業について性別・年代別にみると、女性では、20歳代から30歳代では「正規雇用（正社員・正職員など）」の割合が最も高く、40歳代から60歳代では「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」の割合が最も高く、70歳以上では「家事専業」の割合が最も高くなっています。また、男性では20歳代から50歳代では「正規雇用（正社員・正職員など）」の割合が最も高く、60歳代では「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」の割合が最も高く、70歳以上では「無職（家事専業以外の人）」の割合が最も高くなっています。

図表 3-1-21 回答者の職業 性別・年代別



図表 3-1-22 回答者の職業 性別・年代別 前回調査

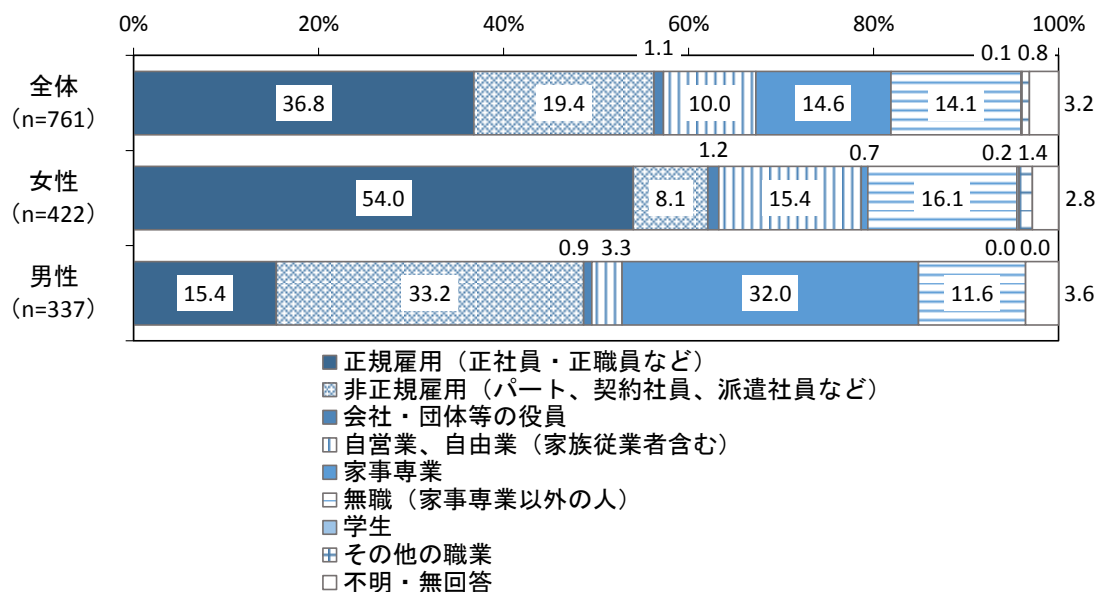


②回答者の配偶者・パートナーの職業

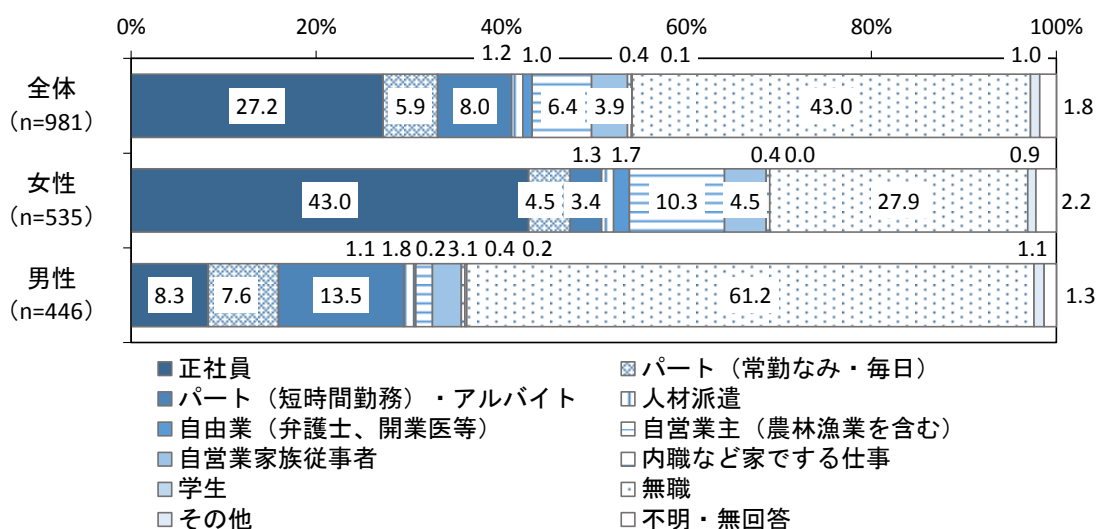
回答者の配偶者・パートナーの職業について全体では、「正規雇用（正社員・正職員など）」が36.8%で最も高く、次いで「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」が19.4%、「家事専業」が14.6%と続いています。

性別でみると、女性では「正規雇用（正社員・正職員など）」が54.0%で最も高く、男性では「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」が33.2%で最も高くなっています。

図表 3-1-23 回答者の配偶者・パートナーの職業

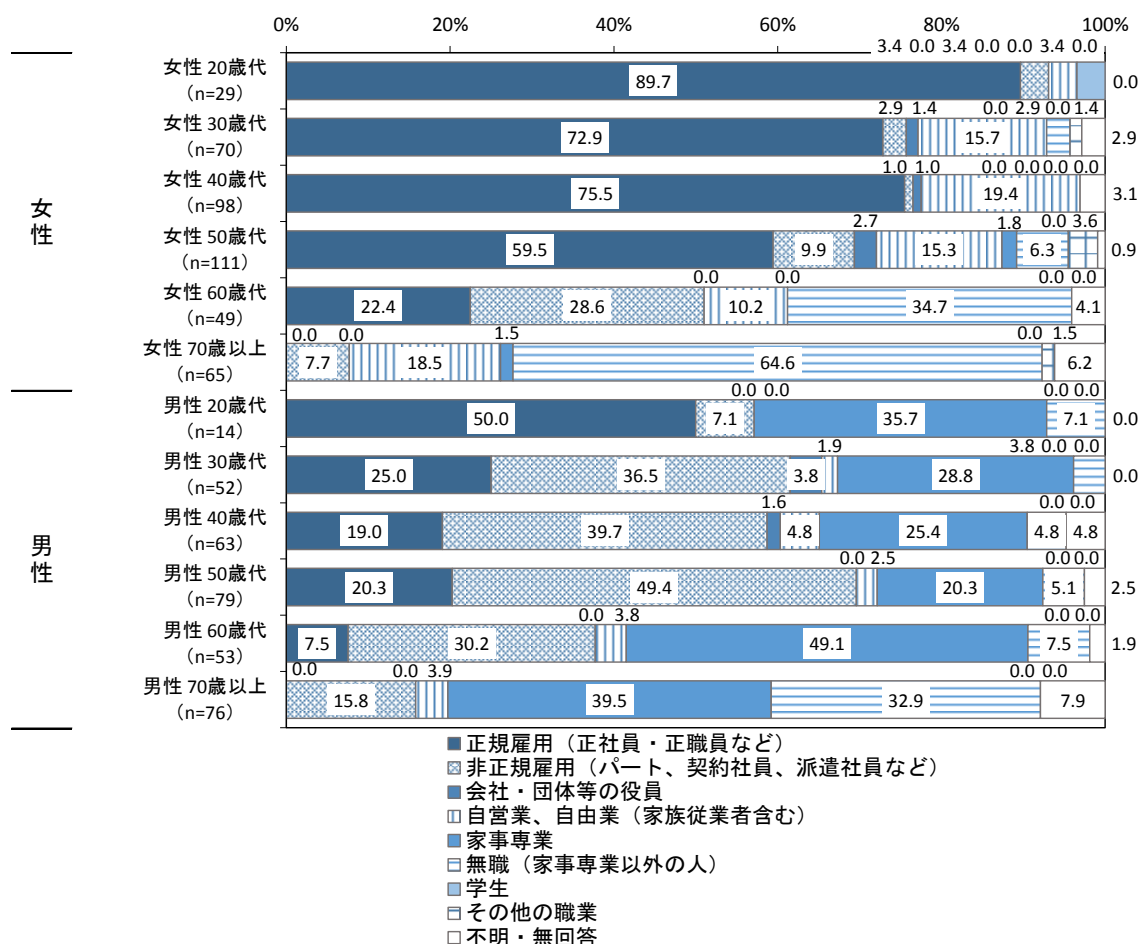


図表 3-1-24 回答者の配偶者・パートナーの職業 前回調査

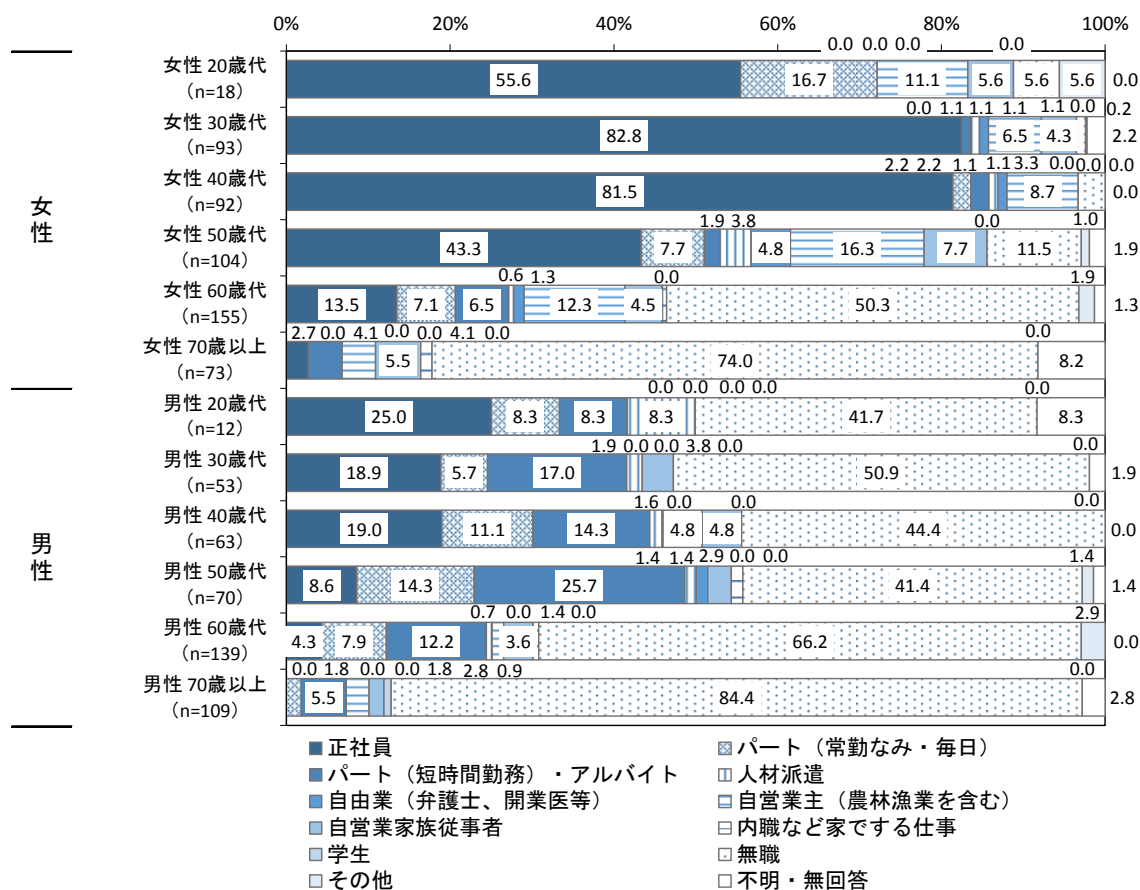


回答者の配偶者・パートナーの職業について性別・年代別にみると、女性では、20歳代から50歳代では「正規雇用（正社員・正職員など）」の割合が最も高く、60歳以上では「無職（家事専業以外の人）」の割合が最も高くなっています。また、男性では、20歳代では「正規雇用（正社員・正職員など）」の割合が最も高く、30歳代から50歳代では「非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）」の割合が最も高く、60歳以上では「家事専業」の割合が最も高くなっています。

図表 3-1-25 回答者の配偶者・パートナーの職業 性別・年代別



図表 3-1-26 回答者の配偶者・パートナーの職業 性別・年代別 前回調査



(7) 回答者と回答者の配偶者・パートナーの地域活動

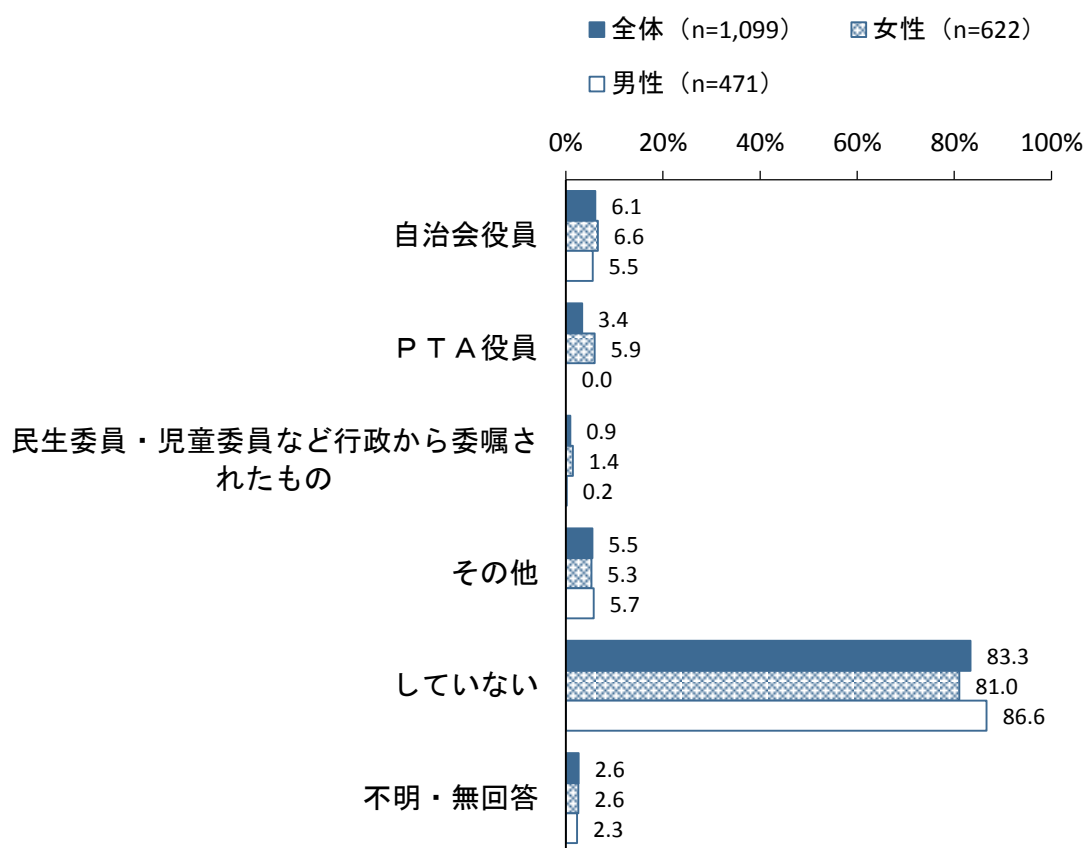
問 7	あなたとあなたの配偶者・パートナーの地域活動（役員・委員等）をお答えください。配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。（それぞれに○はいくつでも）

①回答者の地域活動

回答者の地域活動について全体では、「していない」が 83.3%で最も高く、次いで「自治会役員」が 6.1%、「その他」が 5.5%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「していない」の割合が最も高くなっています。

図表 3-1-27 回答者の地域活動



回答者の地域活動について性別・年代別にみると、すべての年代で「していない」の割合が最も高くなっており、「自治会役員」では女性 50 歳代が 12.4%で最も高く、「PTA役員」では女性 40 歳代が 14.8%で最も高くなっています。

図表 3-1-28 回答者の地域活動 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	自治会役員	PTA役員	民生委員・児童委員など 政から委嘱されたもの	その他	していない	不明・無回答
全体		1,099	6.1	3.4	0.9	5.5	83.3	2.6
性別	女性	622	6.6	5.9	1.4	5.3	81.0	2.6
	男性	471	5.5	0.0	0.2	5.7	86.6	2.3
性別・年代別	女性 20歳代	80	1.3	0.0	0.0	1.3	97.5	0.0
	女性 30歳代	103	1.9	8.7	0.0	1.0	90.3	0.0
	女性 40歳代	142	11.3	14.8	2.1	4.9	68.3	2.8
	女性 50歳代	137	12.4	5.1	1.5	3.6	78.8	3.6
	女性 60歳代	63	4.8	0.0	4.8	7.9	84.1	3.2
	女性 70歳以上	97	2.1	0.0	1.0	14.4	77.3	5.2
	男性 20歳代	47	0.0	0.0	0.0	0.0	97.9	2.1
	男性 30歳代	71	1.4	0.0	0.0	2.8	95.8	0.0
	男性 40歳代	89	3.4	0.0	0.0	6.7	87.6	2.2
	男性 50歳代	107	5.6	0.0	0.0	3.7	86.9	3.7
	男性 60歳代	67	9.0	0.0	0.0	10.4	79.1	1.5
	男性 70歳以上	90	11.1	0.0	1.1	8.9	77.8	3.3

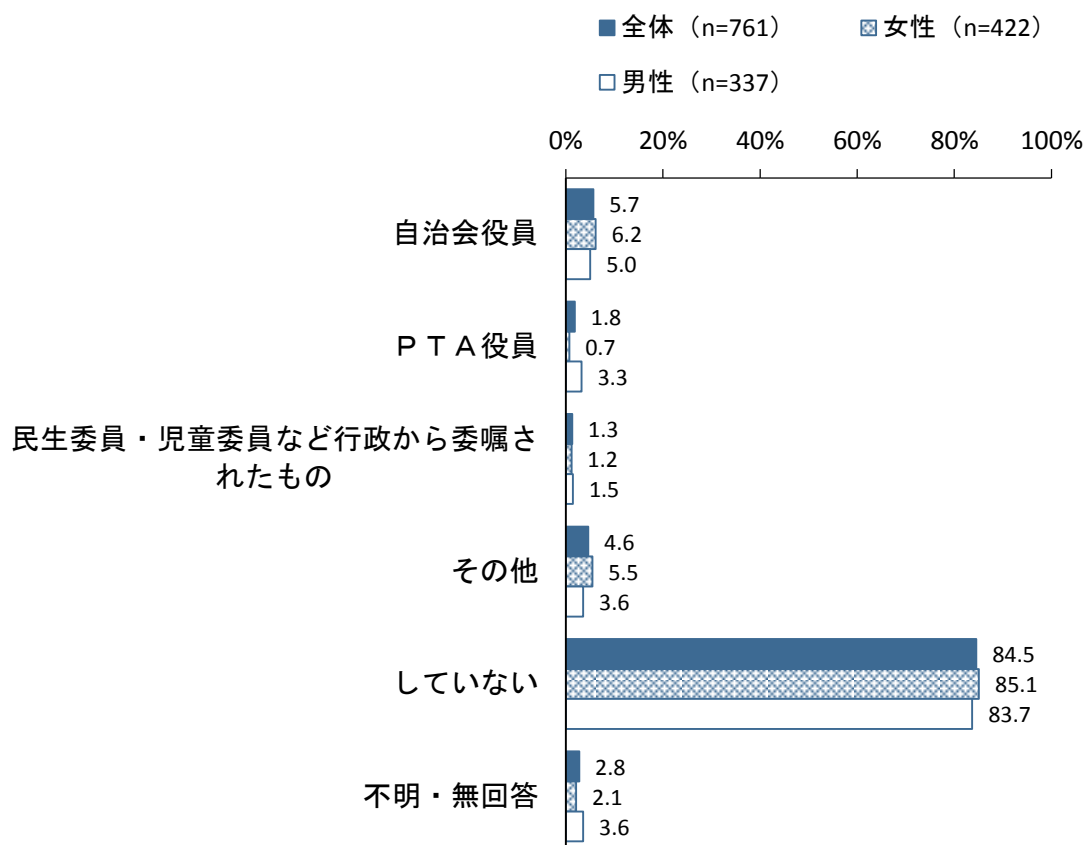
※網掛け■は最も割合が高いもの

②回答者の配偶者・パートナーの地域活動

回答者の配偶者・パートナーの地域活動について全体では、「していない」が84.5%で最も高く、次いで「自治会役員」が5.7%、「その他」が4.6%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「していない」の割合が最も高くなっています。

図表 3-1-29 回答者の配偶者・パートナーの地域活動



回答者の配偶者・パートナーの地域活動について、性別・年代別にみると、すべての年代で「していない」の割合が最も高くなっており、「自治会役員」では女性 50 歳代が 10.8%で最も高く、「PTA役員」では男性 50 歳代が 7.6%で最も高くなっています。

図表 3-1-30 回答者の配偶者・パートナーの地域活動 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	自治会役員	PTA役員	民生委員・児童委員など 政から委嘱されたもの	その他	していない	不明・無回答
全体		761	5.7	1.8	1.3	4.6	84.5	2.8
性別	女性	422	6.2	0.7	1.2	5.5	85.1	2.1
	男性	337	5.0	3.3	1.5	3.6	83.7	3.6
性別・年代別	女性 20歳代	29	3.4	0.0	0.0	3.4	93.1	0.0
	女性 30歳代	70	4.3	0.0	0.0	1.4	94.3	0.0
	女性 40歳代	98	5.1	3.1	2.0	5.1	85.7	1.0
	女性 50歳代	111	10.8	0.0	0.9	5.4	82.0	0.9
	女性 60歳代	49	4.1	0.0	4.1	2.0	89.8	2.0
	女性 70歳以上	65	4.6	0.0	0.0	13.8	72.3	9.2
	男性 20歳代	14	7.1	0.0	0.0	0.0	92.9	0.0
	男性 30歳代	52	0.0	1.9	3.8	1.9	92.3	0.0
	男性 40歳代	63	4.8	4.8	3.2	4.8	77.8	4.8
	男性 50歳代	79	7.6	7.6	0.0	2.5	83.5	1.3
	男性 60歳代	53	5.7	1.9	0.0	3.8	84.9	3.8
	男性 70歳以上	76	5.3	0.0	1.3	5.3	80.3	7.9

※網掛け■は最も割合が高いもの

2. 男女の平等感について

(1) 性別による役割分担の考え方

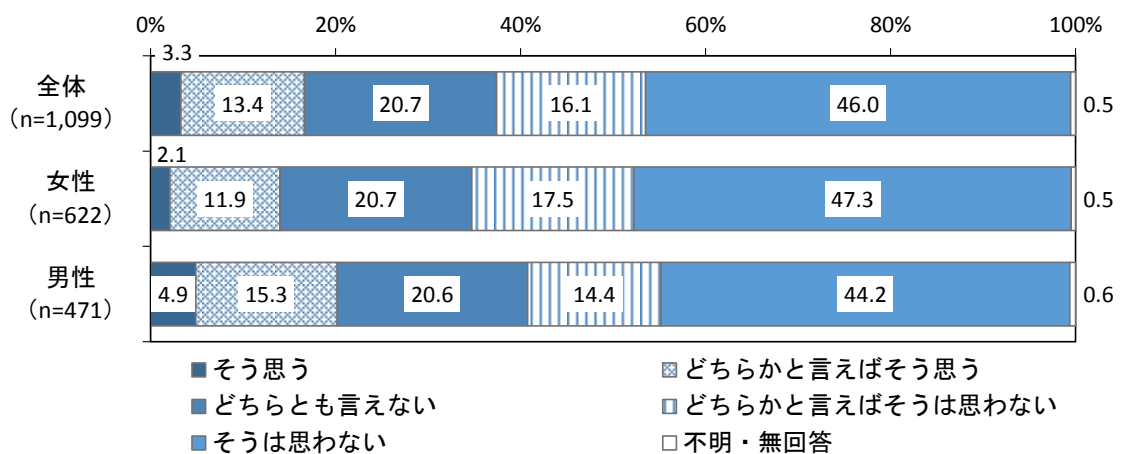
問 8	「男は仕事、女は家庭」というように性別によって役割を分担する考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つだけ)

性別による役割分担の考え方について全体では、「そうは思わない」が 46.0%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 20.7%、「どちらかと言えばそうは思わない」が 16.1%と続いております。『そう思う』（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）は 16.7%で、『そうは思わない』（「どちらかと言えばそうは思わない」と「そうは思わない」の合計）は 62.1%となっています。

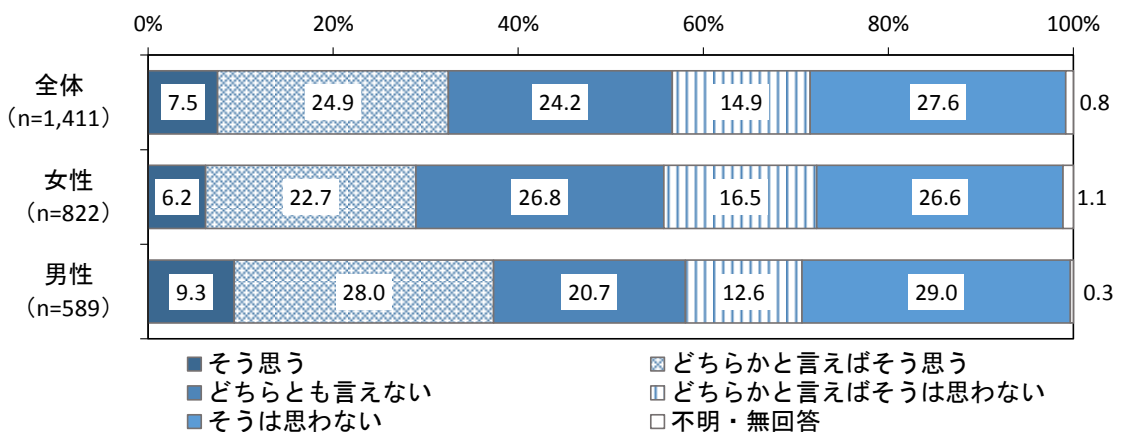
性別でみると、『そうは思わない』では、女性が 64.8%で、男性（58.6%）よりも 6.2 ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、『そうは思わない』では、女性・男性いずれも前回調査より割合が増加しています。

図表 3-2-1 性別による役割分担の考え方



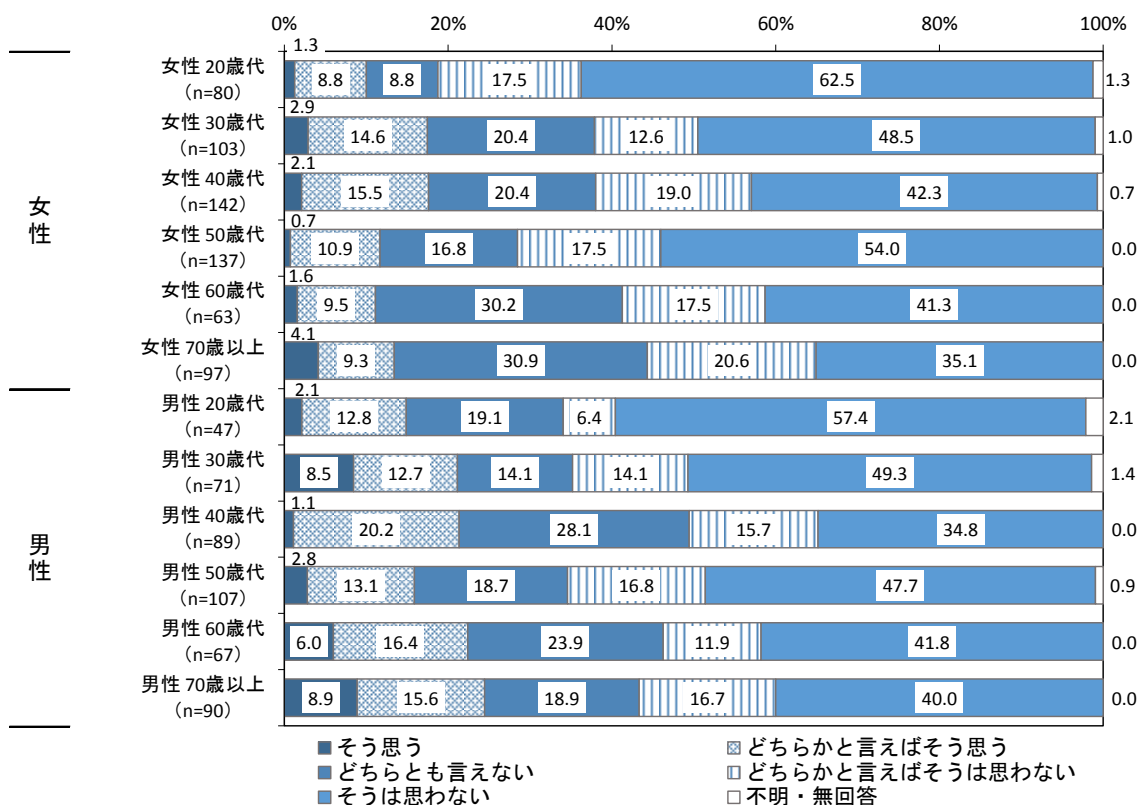
図表 3-2-2 性別による役割分担の考え方 前回調査



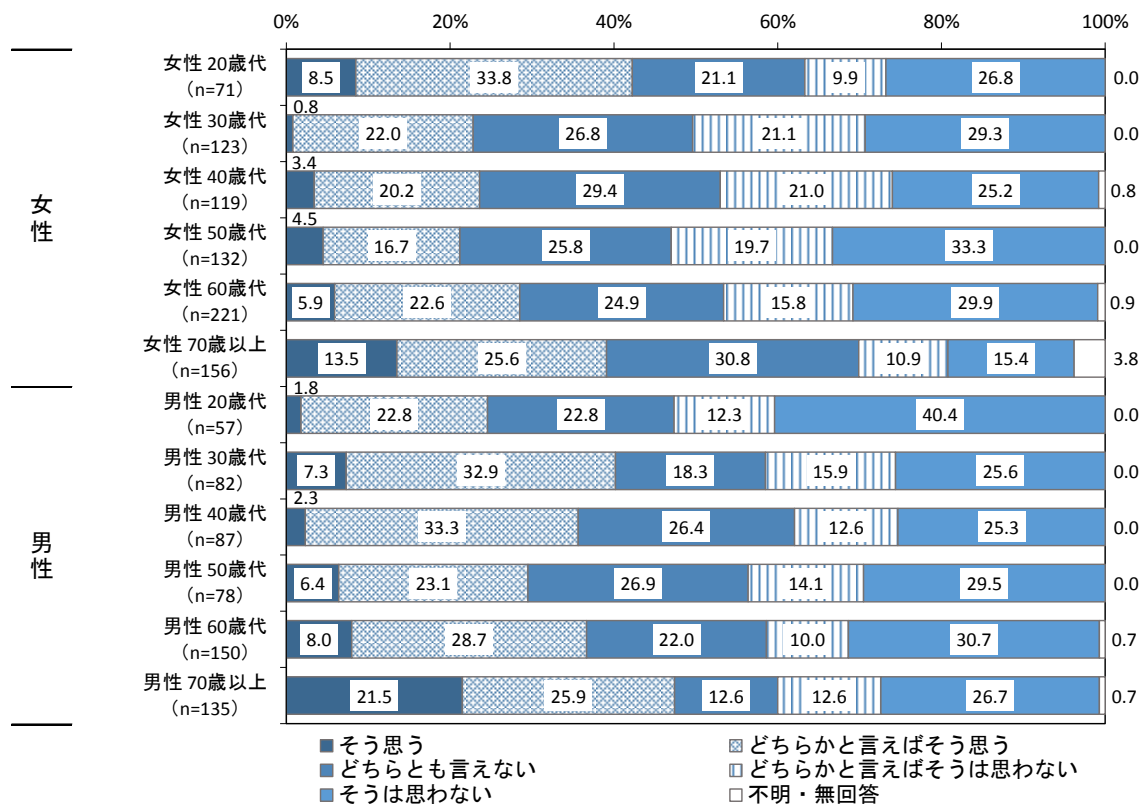
性別による役割分担の考え方について、性別・年代別でみると、『そうは思わない』は、女性では20歳代が80.0%で最も高く、男性では50歳代が64.5%で最も高く、『そう思う』は、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっており、女性では40歳代が17.6%で最も高く、男性では70歳以上が24.5%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、全ての年代で『そう思う』の割合が前回調査よりも減少し、『そうは思わない』の割合が増加しており、『そうは思わない』では、女性20歳代が43.3ポイント増加し最も増加した年代となっています。

図表 3-2-3 性別による役割分担の考え方 性別・年代別



図表 3-2-4 性別による役割分担の考え方 性別・年代別 前回調査



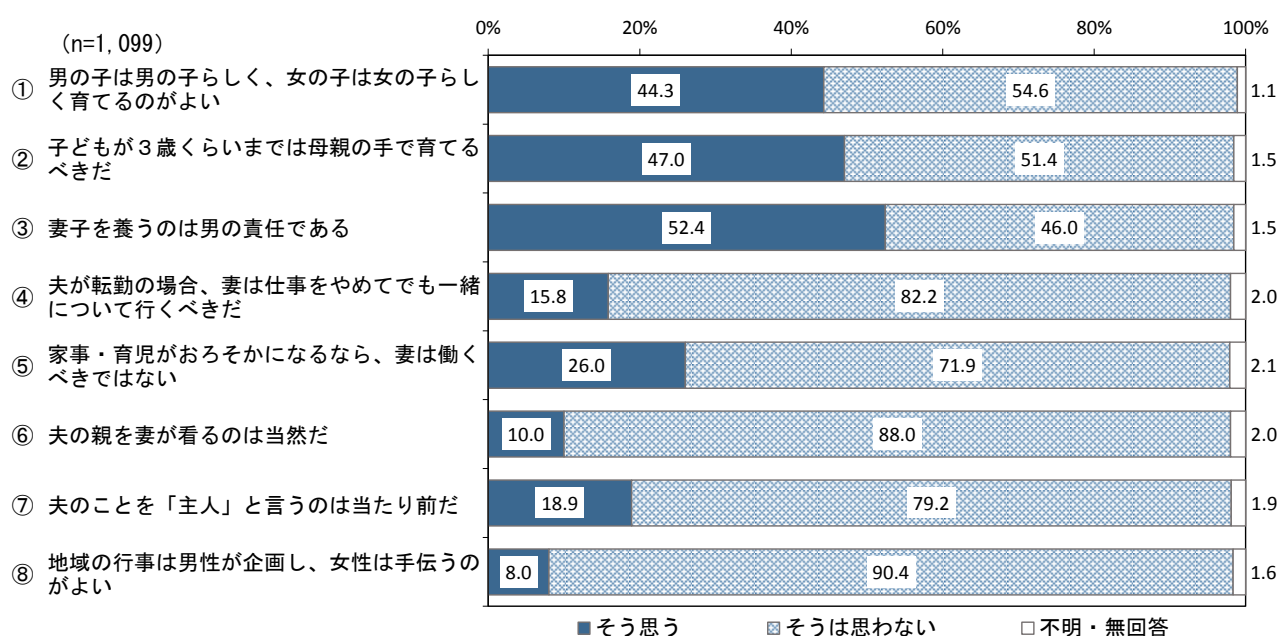
(2) 性別による役割分担の考えについて

問 9	以下の①～⑧の考え方について、あなたはどのように思いますか。 (それぞれに○は1つだけ)

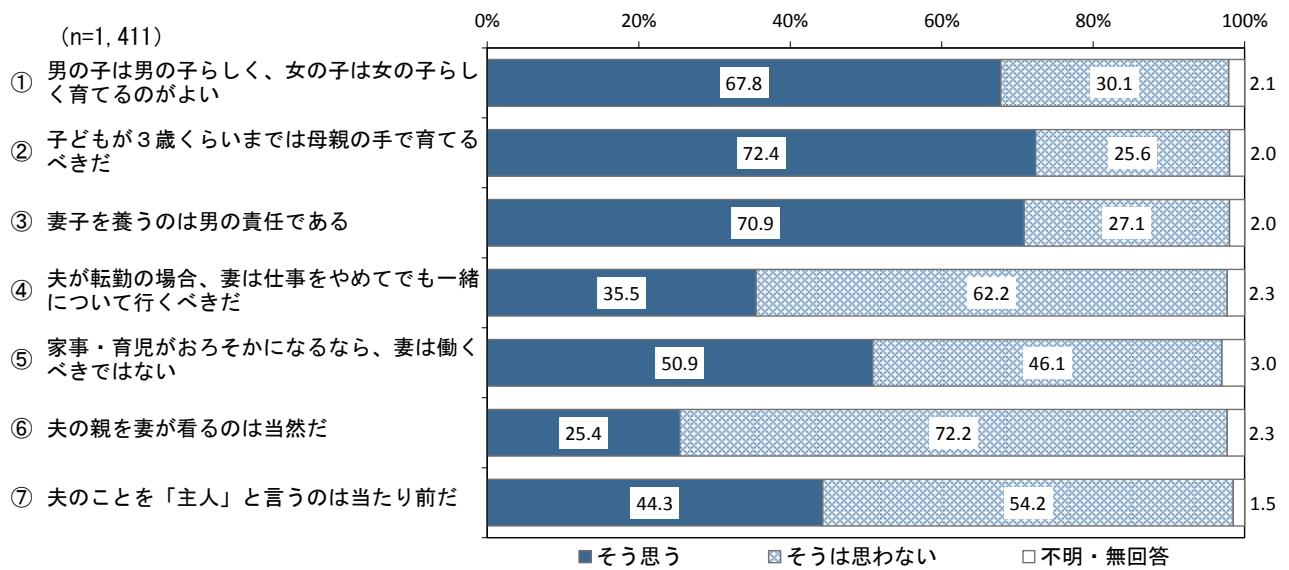
性別による役割分担の考えについて全体みると、「そう思う」では、「③ 妻子を養うのは男の責任である」が 52.4%で最も高く、次いで「② 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」が 47.0%、「① 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」が 44.3%と続いています。

前回調査と比較すると、「⑧ 地域の行事は男性が企画し、女性は手伝うのがよい」以外の比較できる項目いずれも「そう思う」の割合が前回調査より減少しており、「② 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」「⑦ 夫のことを「主人」と言うのは当たり前だ」が 25.4 ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 3-2-5 性別による役割分担の考えについて



図表 3-2-6 性別による役割分担の考えについて 前回調査



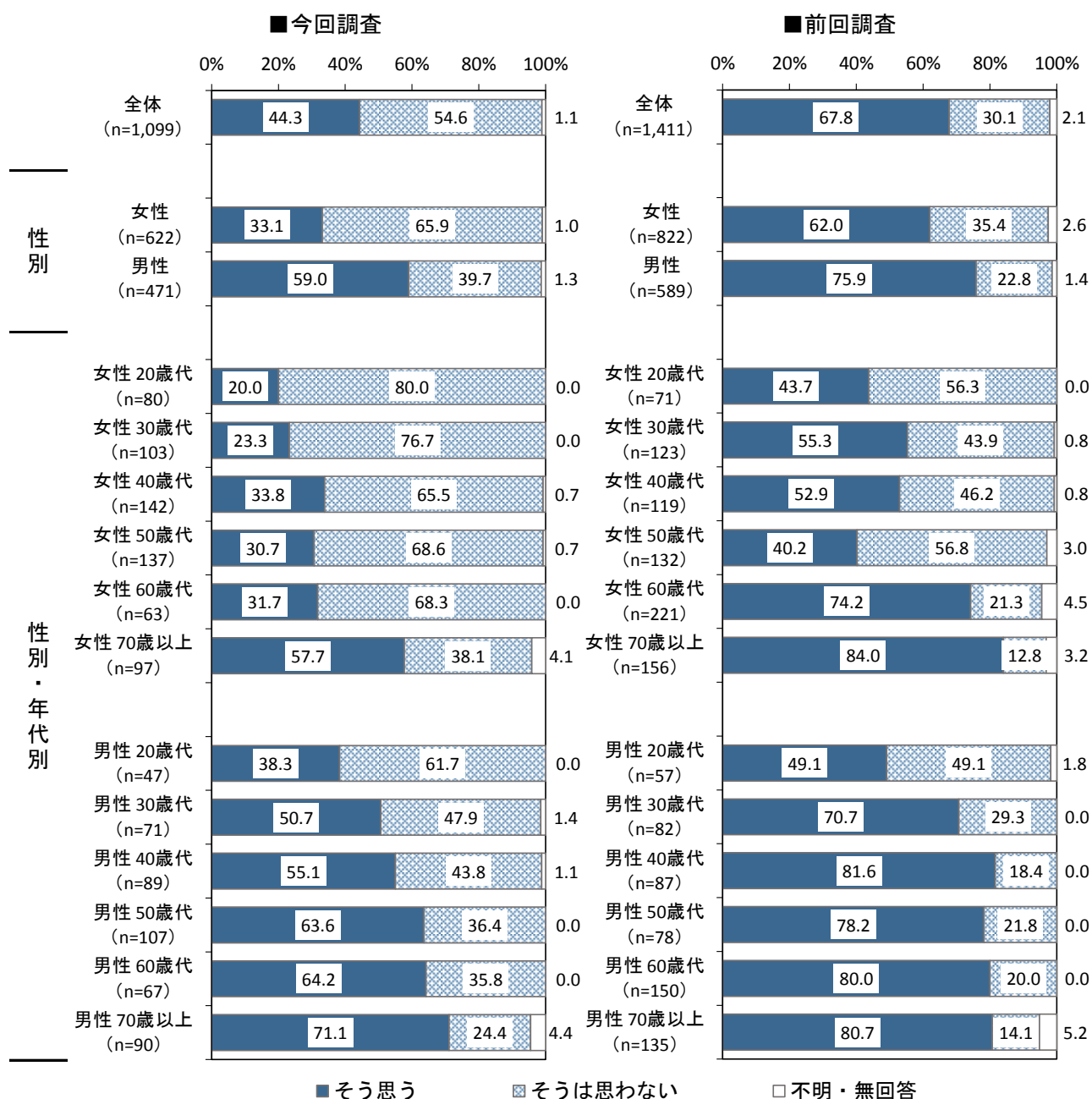
①男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」について性別でみると、「そう思う」では、男性が 59.0%で、女性（33.1%）よりも 25.9 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、全ての年代で男性の割合が女性より高く、男性では年代が上がるにつれて割合が高くなっており、男性 70 歳以上が 71.1%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」では、全ての年代で前回調査より割合が減少しており、女性 60 歳代が 42.5 ポイント減少し、最も減少した年代となっています。

図表 3-2-7 性別による役割分担の考えについて ①男の子は男の子らしく、
女の子は女の子らしく育てるのがよい



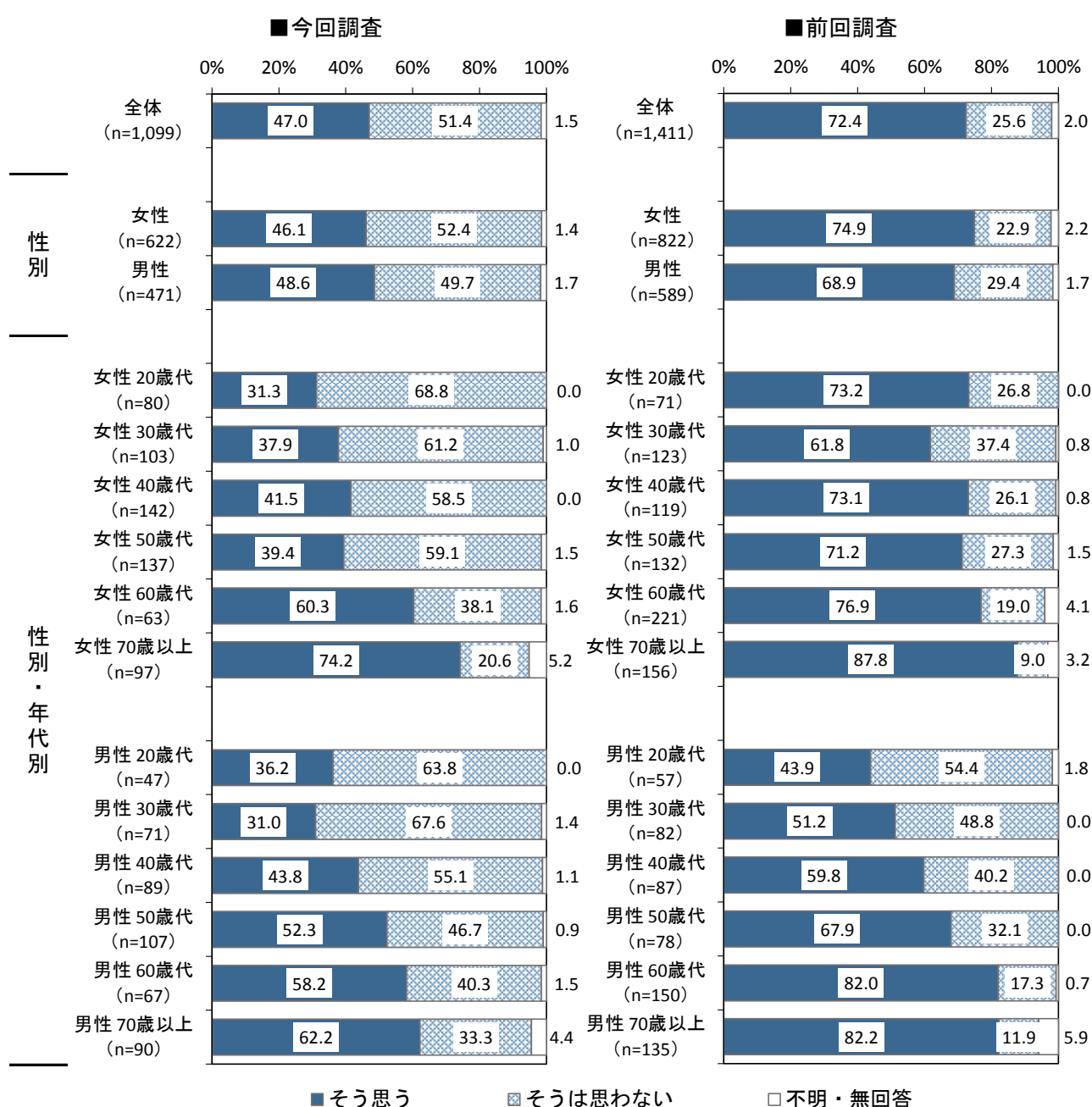
②子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ

「子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」について性別でみると、「そう思う」では、男性が48.6%で、女性（46.1%）よりも2.5ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、女性は年代が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、男性では30歳以上で年代が上がるにつれて割合が高くなっており、女性70歳以上が74.2%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」では、全ての年代で前回調査よりも割合が減少しており、女性20歳代が41.9ポイント減少し、最も減少した年代となっています。

図表 3-2-8 性別による役割分担の考えについて ②子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ



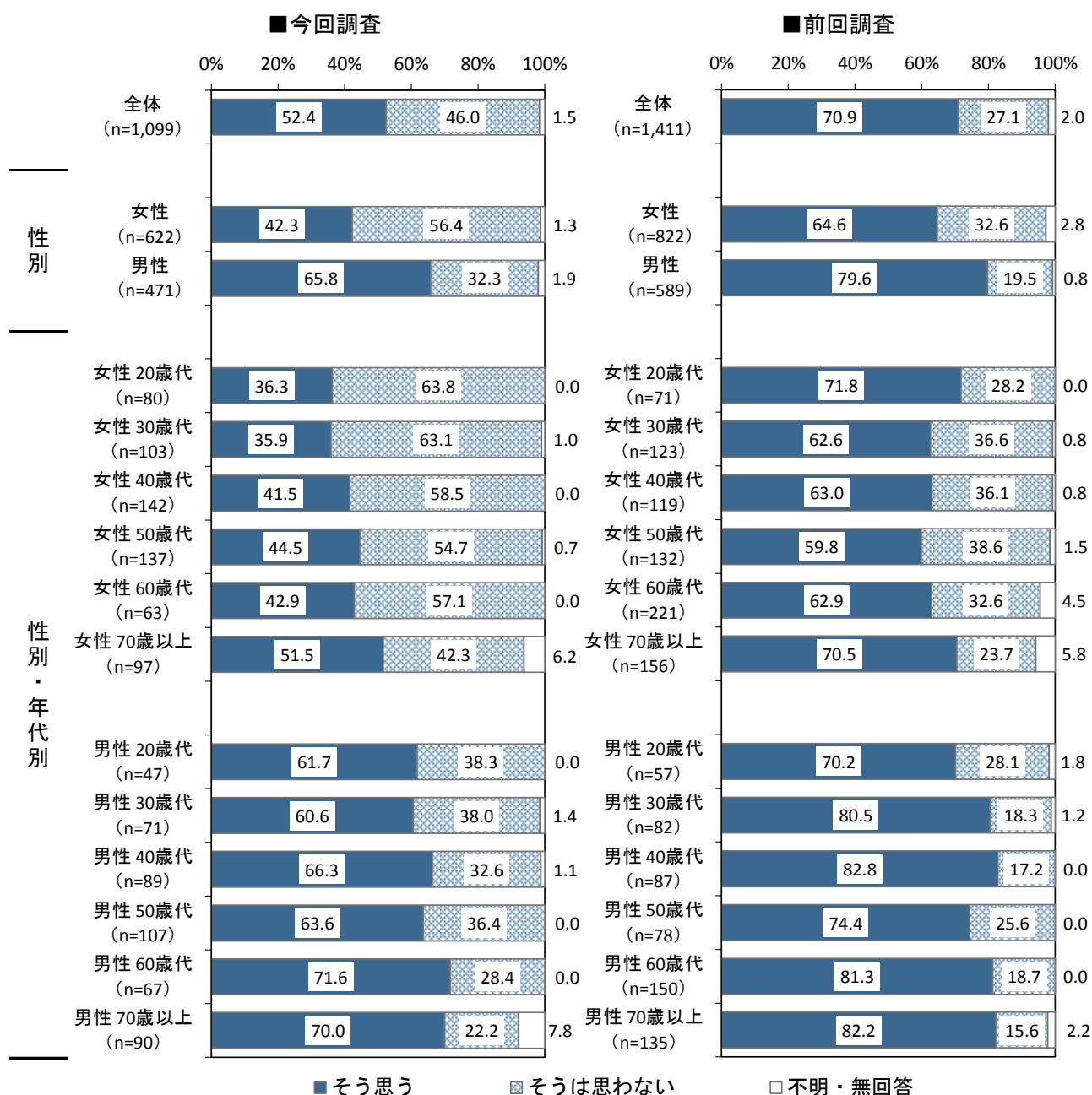
③妻子を養うのは男の責任である

「妻子を養うのは男の責任である」について性別でみると、「そう思う」では、男性が 65.8% で、女性（42.3%）よりも 23.5 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、全ての年代で男性の割合が女性より高く、女性では年代が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、男性は全ての年代で 6 割以上となっており、男性 60 歳代が 71.6% で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」では、全ての年代で前回調査より割合が減少しており、女性 20 歳代が 35.5 ポイント減少し、最も減少した年代となっています。

図表 3-2-9 性別による役割分担の考えについて ③妻子を養うのは男の責任である



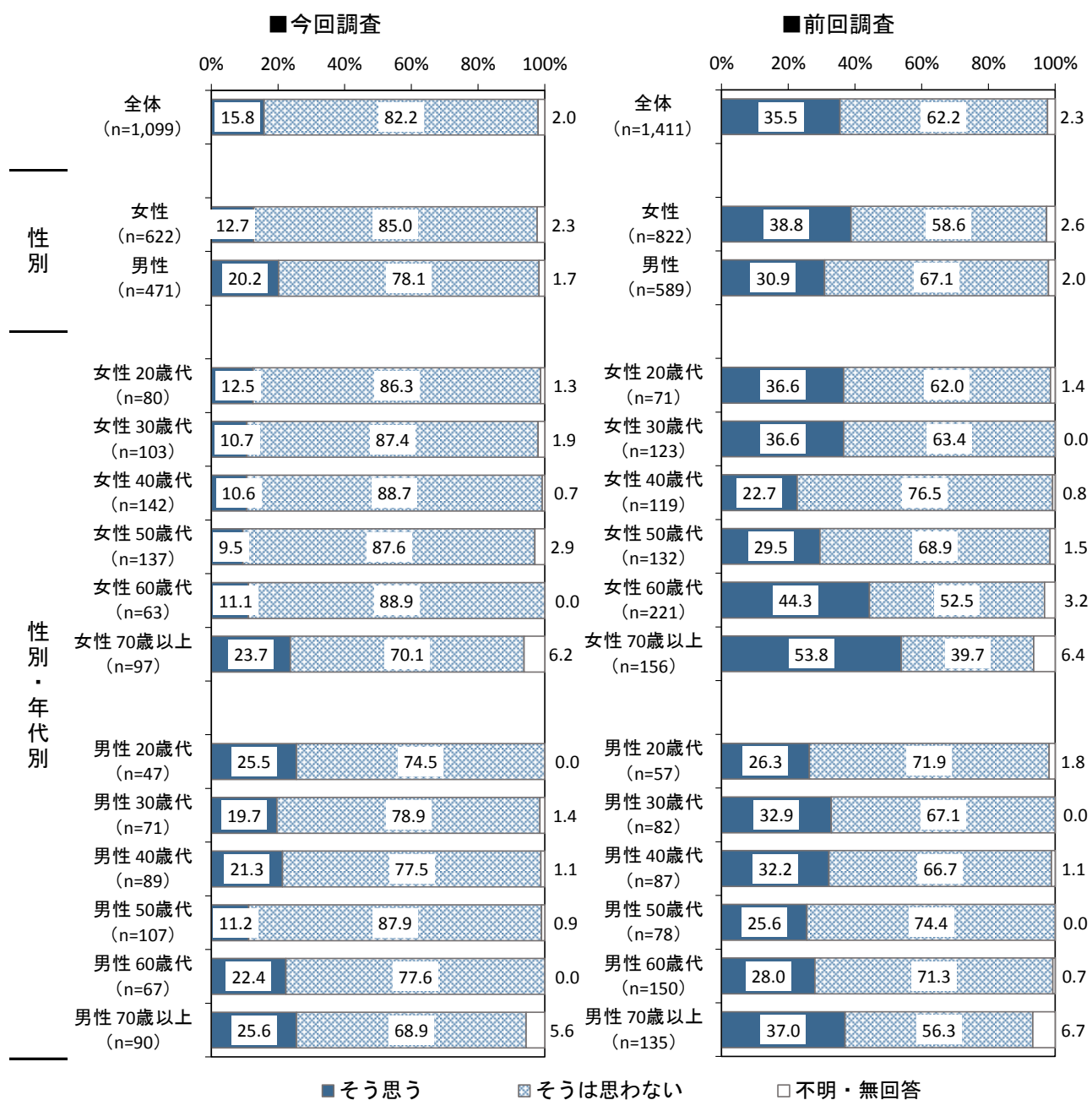
④夫が転勤の場合、妻は仕事をやめてでも一緒について行くべきだ

「夫が転勤の場合、妻は仕事をやめてでも一緒について行くべきだ」について性別でみると、「そう思う」では、男性が 20.2%で、女性（12.7%）よりも 7.5 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、全ての年代で男性の割合が女性より高く、男性 70 歳以上が 25.6%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」では、全ての年代で前回調査より割合が減少しており、女性 60 歳代が 33.2 ポイント減少し、最も減少した年代となっています。

図表 3-2-10 性別による役割分担の考えについて ④夫が転勤の場合、妻は仕事をやめてでも一緒について行くべきだ



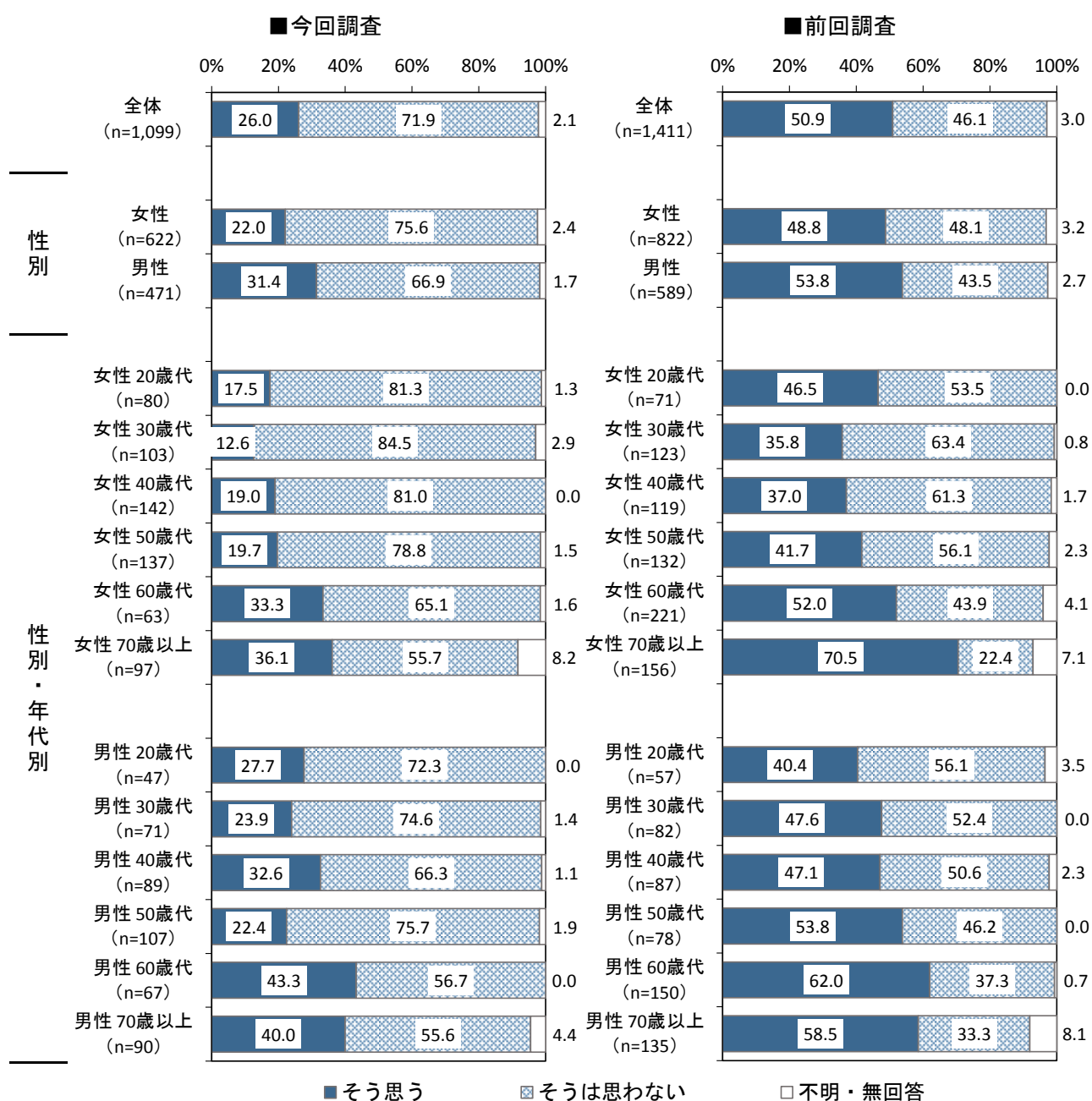
⑤家事・育児がおろそかになるなら、妻は働くべきではない

「家事・育児がおろそかになるなら、妻は働くべきではない」について性別でみると、「そう思う」では、男性が31.4%で、女性（22.0%）よりも9.4ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、全ての年代で男性の割合が女性より高く、男性60歳代が43.3%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」では、全ての年代で前回調査より割合が減少しており、女性70歳以上が34.4ポイント減少し、最も減少した年代となっています。

図表 3-2-11 性別による役割分担の考えについて ⑤家事・育児がおろそかになるなら、妻は働くべきではない



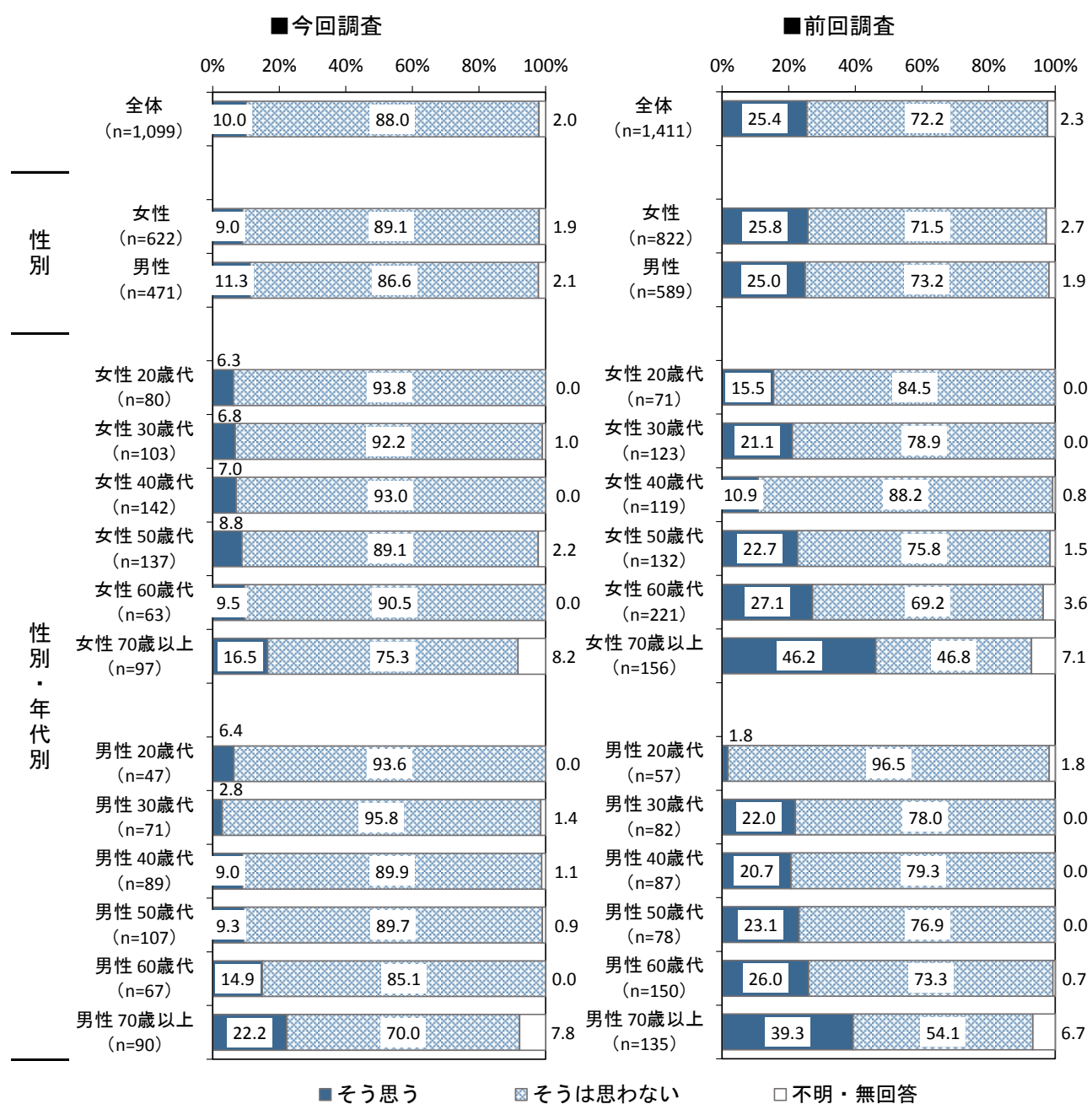
⑥夫の親を妻が看るのは当然だ

「夫の親を妻が看るのは当然だ」について性別でみると、「そう思う」では、男性が 11.3%で、女性（9.0%）よりも 2.3 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、女性は年代が上がるにつれて割合が高くなっており、男性では 30 歳以上で年代が上がるにつれて割合が高くなっており、男性 70 歳以上が 22.2%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、男性 20 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が減少しており、女性 70 歳以上が 29.7 ポイント減少し、最も減少した年代となっています。

図表 3-2-12 性別による役割分担の考えについて ⑥夫の親を妻が看るのは当然だ



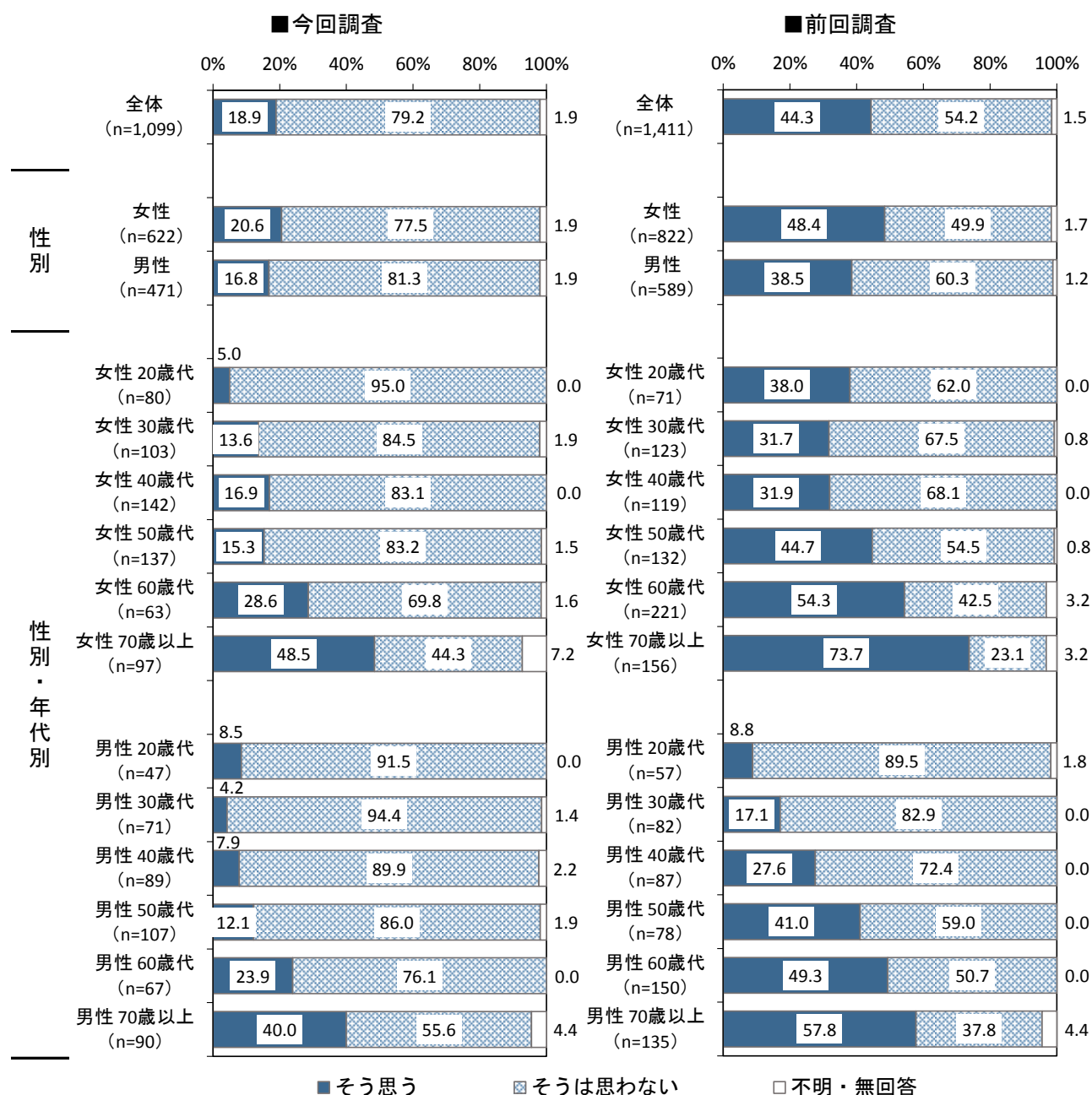
⑦夫のことを「主人」と言うのは当たり前

「夫のことを「主人」と言うのは当たり前」について性別でみると、「そう思う」では、女性が20.6%で、男性（16.8%）よりも3.8ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、女性は年代が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、男性では30歳以上で年代が上がるにつれて割合が高くなっており、女性70歳以上が48.5%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」では、全ての年代で前回調査よりも割合が減少しており、女性20歳代が33.0ポイント減少し、最も減少した年代となっています。

図表 3-2-13 性別による役割分担の考えについて ⑦夫のことを「主人」と言うのは当たり前

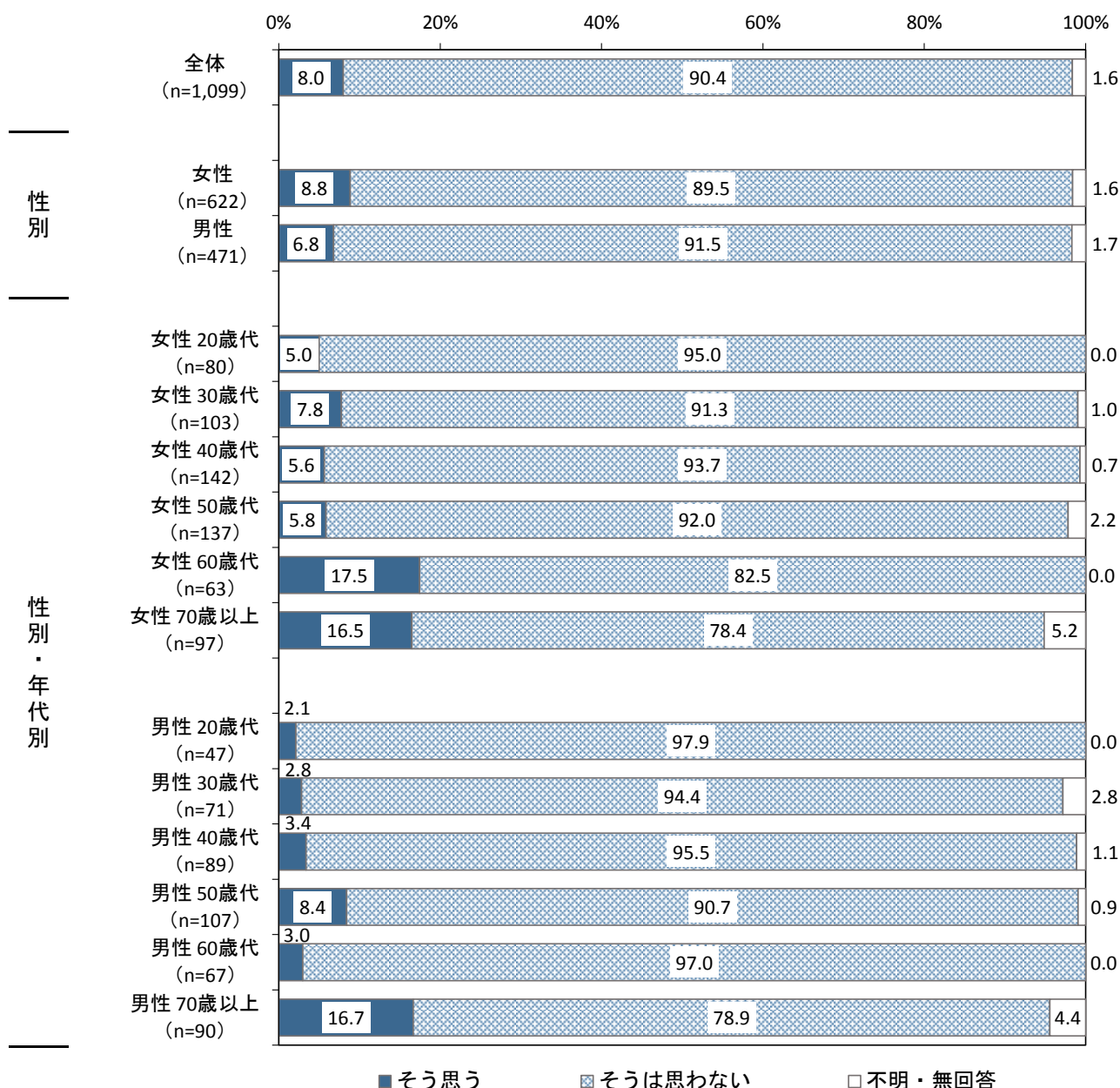


⑧地域の行事は男性が企画し、女性は手伝うのがよい

「地域の行事は男性が企画し、女性は手伝うのがよい」について性別でみると、「そう思う」では、女性が8.8%で、男性（6.8%）よりも2.0ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、女性60歳代が17.5%で最も高く、次いで男性70歳以上が16.7%、女性70歳以上が16.5%と続いています。

図表 3-2-14 性別による役割分担の考えについて ⑧地域の行事は男性が企画し、女性は手伝うのがよい



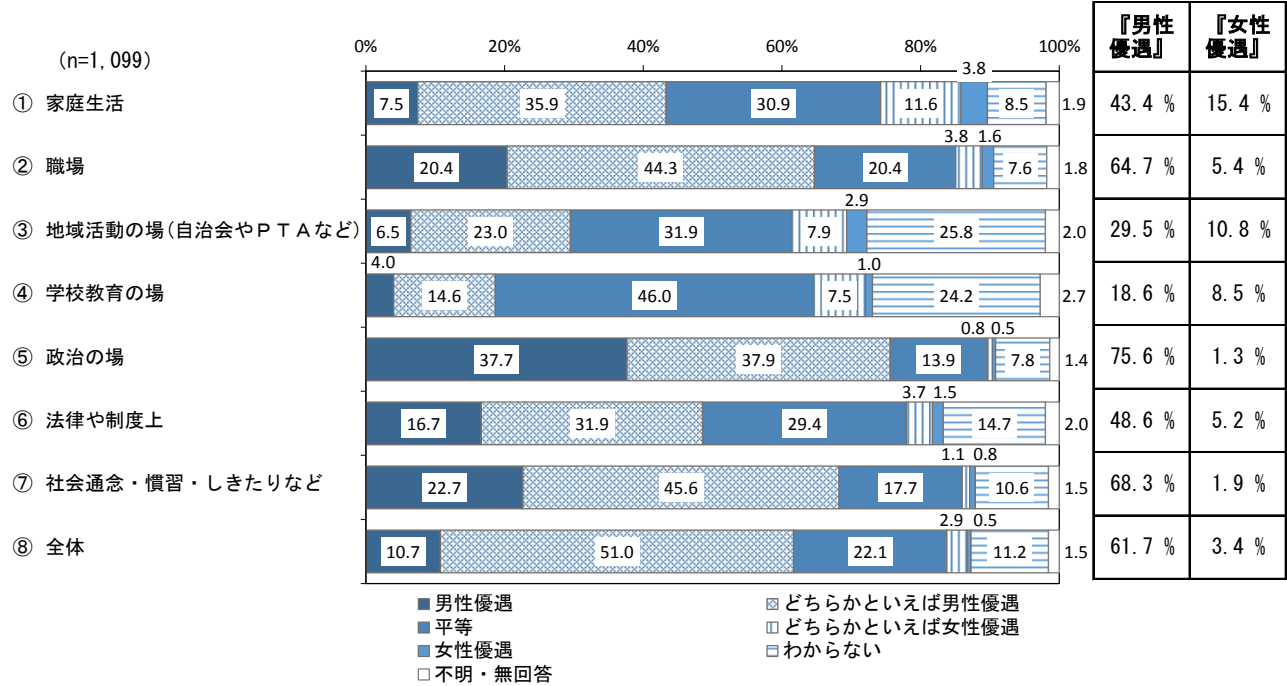
(3) 男女の地位の考えについて

問 10	あなたは、今の社会全般を見て、男女の地位はどのようになっていると思いますか。①～⑧の項目についてお答えください。（それぞれに○は1つだけ）

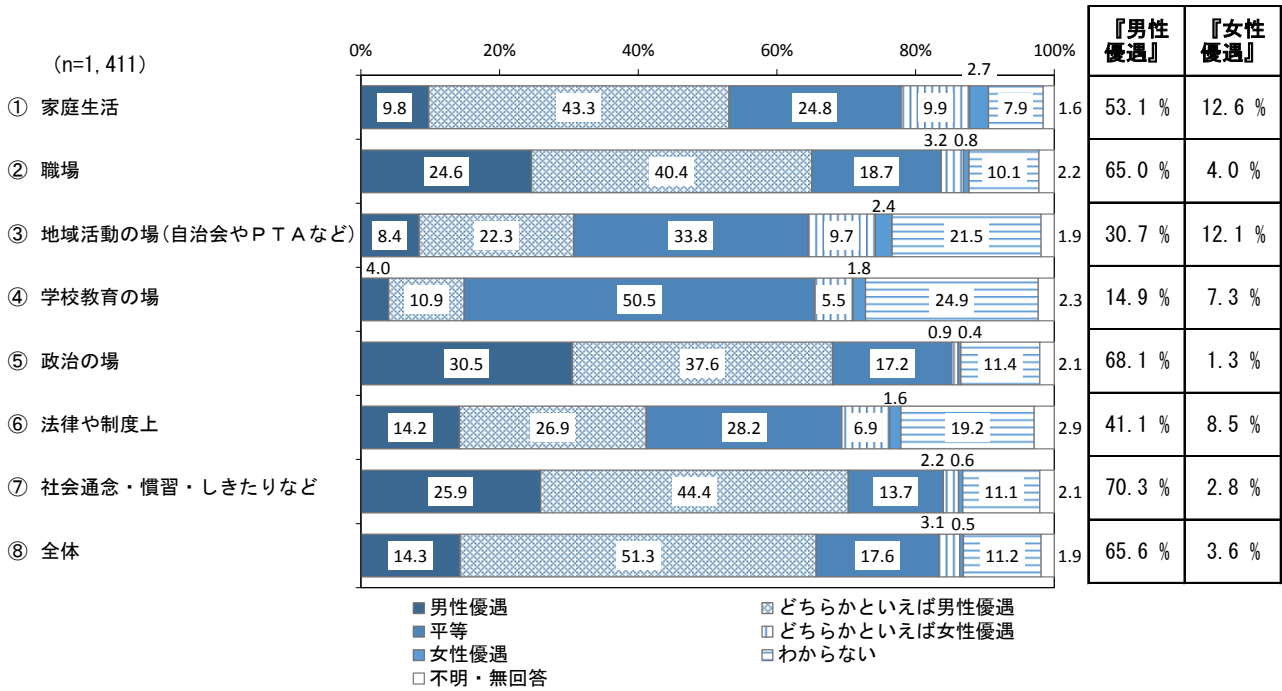
男女の地位の考えについてについて全体でみると、『男性優遇』（「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の合計）と『女性優遇』（「どちらかといえば女性優遇」と「女性優遇」の合計）では、全ての項目で『男性優遇』の割合が『女性優遇』よりも高くなっており、『男性優遇』では「⑤ 政治の場」が75.6%で最も高く、次いで「⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど」が68.3%、「② 職場」が64.7%と続いています。

前回調査と比較すると、『男性優遇』では、「⑤ 政治の場」（75.6%）「⑥ 法律や制度上」（48.6%）がいずれも前回調査より 7.5 ポイント高く最も増加した項目となっており、「① 家庭生活」（43.4%）が前回調査より 9.7 ポイント低く最も減少した項目となっています。

図表 3-2-15 男女の地位の考えについて

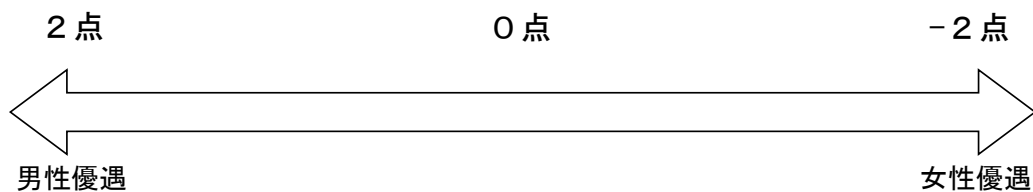


図表 3-2-16 男女の地位の考えについて 前回調査



以下、「男性優遇」を2点、「どちらかといえば男性優遇」を1点、「平等」を0点、「どちらかといえば女性優遇」を-1点、「女性優遇」を-2点と点数化し（「わからない」「不明・無回答」を除く）その加重平均値を『優遇意識』としました。

優遇意識



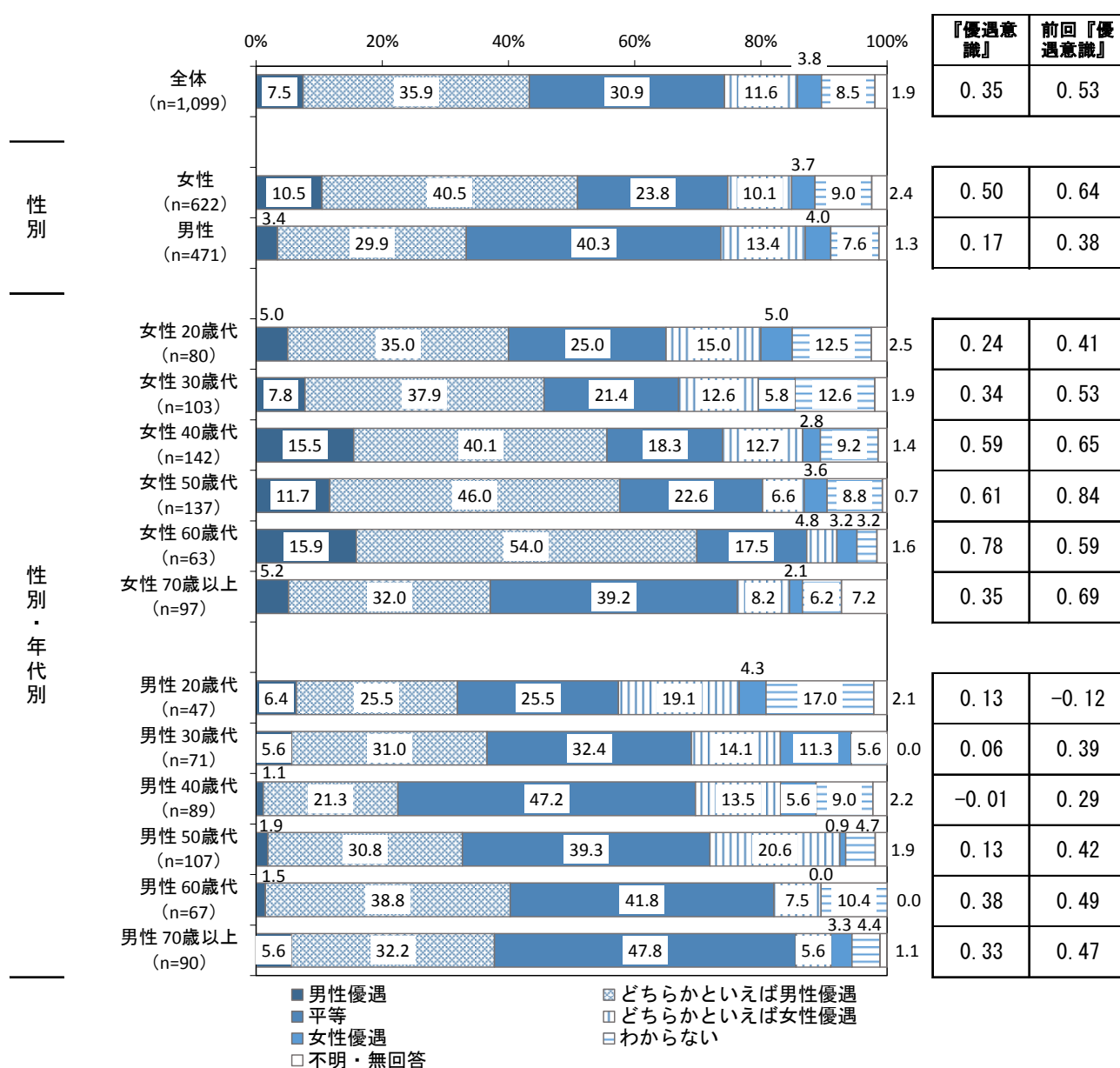
①家庭生活

男女の地位の考えについて、「家庭生活」を性別で見ると、『優遇意識』では、女性が 0.50 点で、男性 (0.17 点) より 0.33 点高く、女性の方が「男性優遇意識」が強くなっています。

性別・年代別でみると、『優遇意識』では、全ての年代で女性の点数が男性の点数より高く、男性 40 歳代を除く全ての年代で 0 点以上となっており、女性 60 歳代が 0.78 点で最も高く、男性 40 歳代が -0.01 点で最も低くなっています。

前回調査と『優遇意識』を比較すると、女性 60 歳代、男性 20 歳代を除く全ての年代で前回調査より点数が低くなっています。

図表 3-2-17 男女の地位の考えについて ①家庭生活
性別・年代別



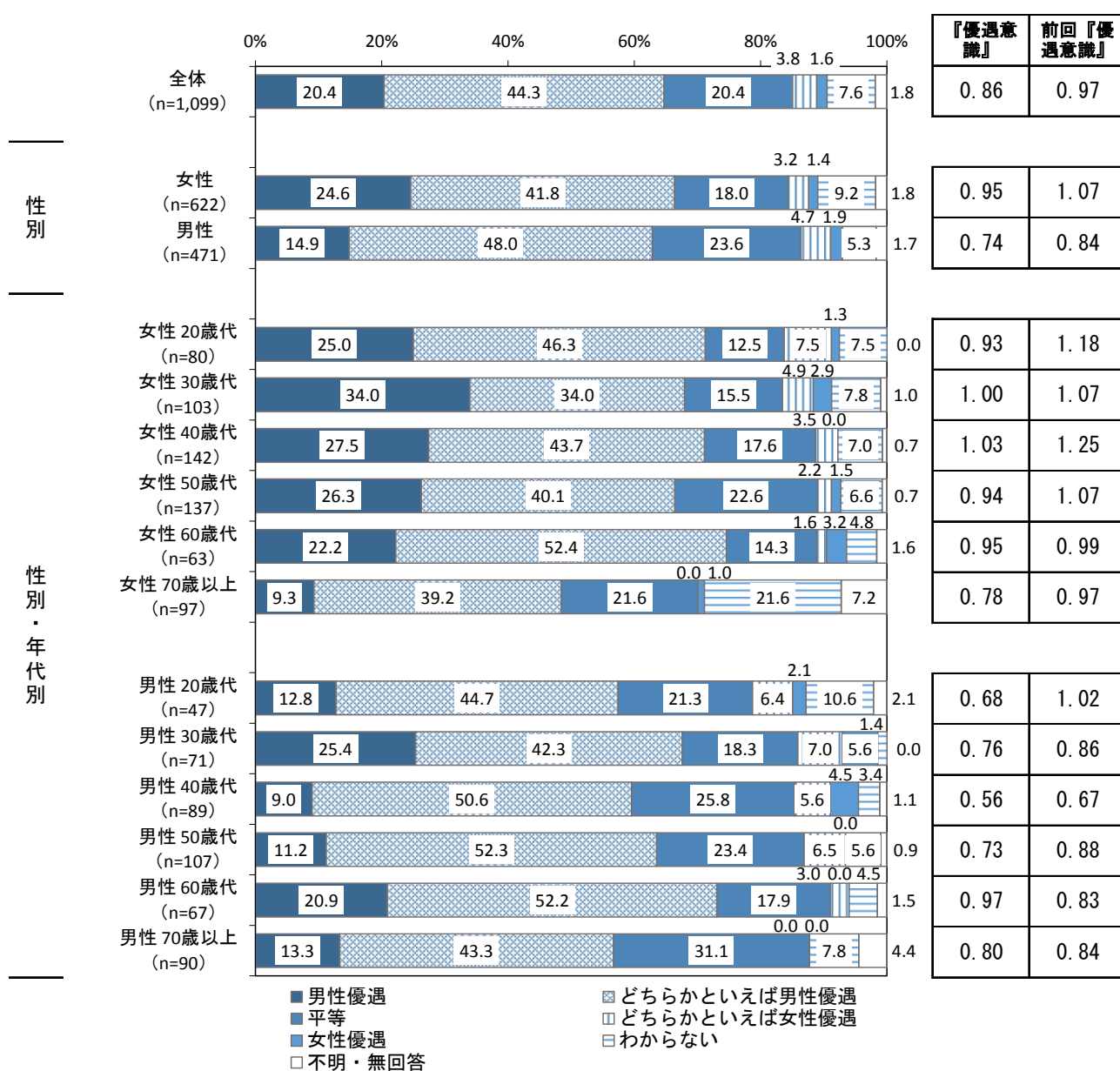
②職場

男女の地位の考えについて、「職場」を性別で見ると、『優遇意識』では、女性が 0.95 点で、男性 (0.74 点) より 0.25 点高く、女性の方が「男性優遇意識」が強くなっています。

性別・年代別でみると、『優遇意識』では、20 歳代から 50 歳代で女性の点数が男性の点数より高く、全ての年代で 0 点以上となっており、女性 40 歳代が 1.03 点で最も高く、男性 40 歳代が 0.56 点で最も低くなっています。

前回調査と『優遇意識』を比較すると、男性 60 歳代を除く全ての年代で前回調査より点数が低く、男性 20 歳代が 0.34 点低下し、最も低下した年代となっています。

図表 3-2-18 男女の地位の考えについて ②職場
性別・年代別



③地域活動の場(自治会やPTAなど)

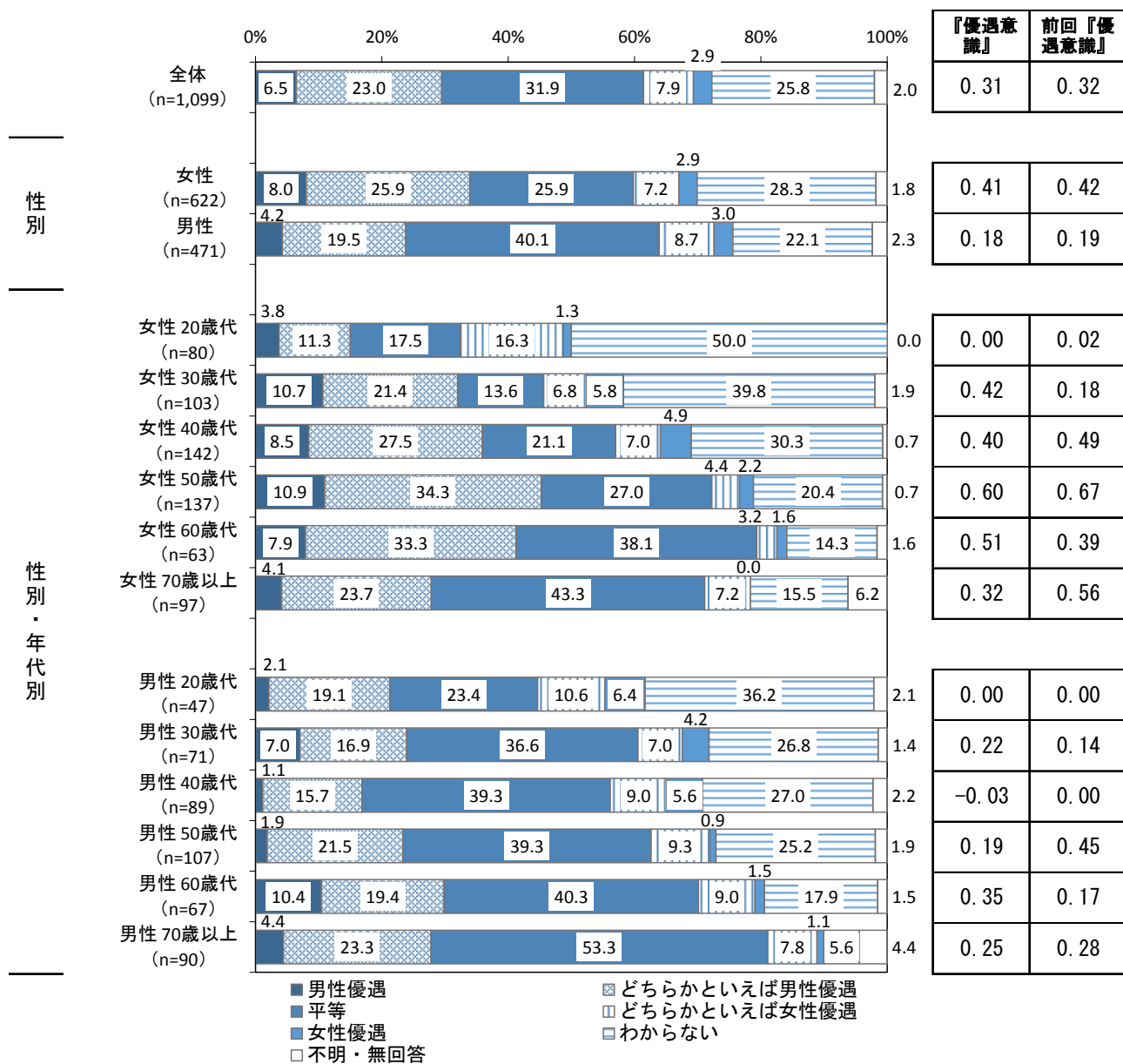
男女の地位の考えについて、「地域活動の場(自治会やPTAなど)」を性別で見ると、『優遇意識』では、女性が0.41点で、男性(0.18点)より0.23点高く、女性の方が「男性優遇意識」が強くなっています。

性別・年代別でみると、『優遇意識』では、20歳代を除く全ての年代で女性の点数が男性の点数より高く、女性50歳代が0.60点で最も高く、男性40歳代が-0.03点で最も低くなっています。

前回調査と『優遇意識』を比較すると、女性30歳代が0.24点上昇し、最も上昇した年代となっており、男性50歳代が0.25点低下し、最も低下した年代となっています。

図表 3-2-19 男女の地位の考えについて ③地域活動の場(自治会やPTAなど)

性別・年代別



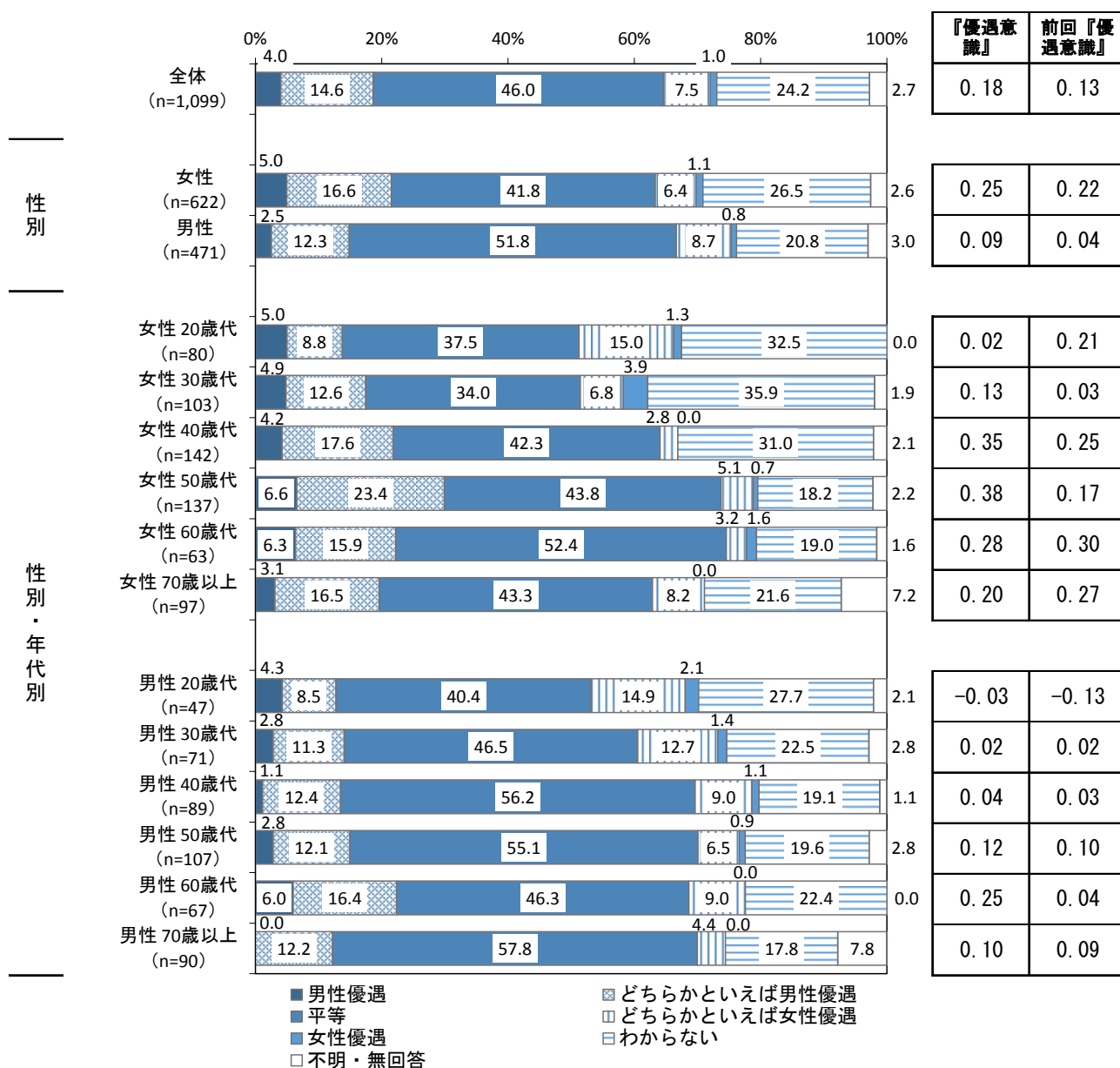
④学校教育の場

男女の地位の考えについて、「学校教育の場」を性別で見ると、『優遇意識』では、女性が 0.25 点で、男性（0.09 点）より 0.16 点高く、女性の方が「男性優遇意識」が強くなっています。

性別・年代別でみると、『優遇意識』では、全ての年代で女性の点数が男性の点数より高く、男性 20 歳代を除く全ての年代で 0 点以上となっており、女性 50 歳代が 0.38 点で最も高く、男性 20 歳代が -0.03 点で最も低くなっています。

前回調査と『優遇意識』を比較すると、女性全体・男性全体いずれも前回調査より点数が上昇しており、男性 60 歳代が 0.21 点上昇し、最も上昇した年代となっており、女性 20 歳代が 0.19 点低下し、最も低下した年代となっています。

図表 3-2-20 男女の地位の考えについて ④学校教育の場
性別・年代別



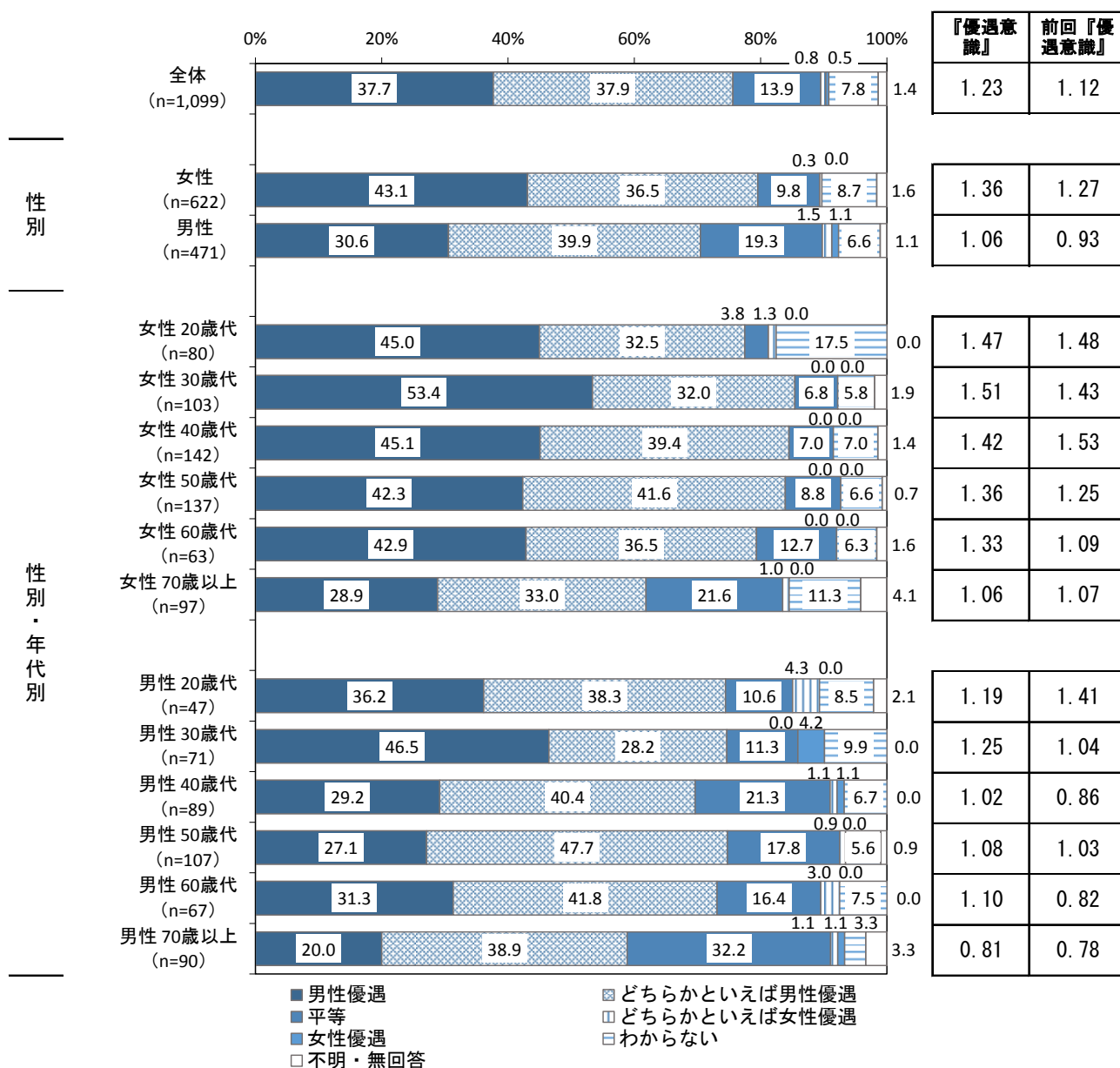
⑤政治の場

男女の地位の考えについて、「政治の場」を性別で見ると、『優遇意識』では、女性が 1.36 点で、男性（1.06 点）より 0.30 点高く、女性の方が「男性優遇意識」が強くなっています。

性別・年代別でみると、『優遇意識』では、全ての年代で女性の点数が男性の点数より高く、男性 70 歳以上を除く全ての年代で 1 点以上となっており、女性 30 歳代が 1.51 点で最も高く、男性 70 歳以上が 0.81 点で最も低くなっています。

前回調査と『優遇意識』を比較すると、女性全体・男性全体いずれも前回調査より点数が上昇しており、男性 60 歳代が 0.28 点上昇し、最も上昇した年代となっており、男性 20 歳代が 0.22 点低下し、最も低下した年代となっています。

図表 3-2-21 男女の地位の考えについて ⑤政治の場
性別・年代別



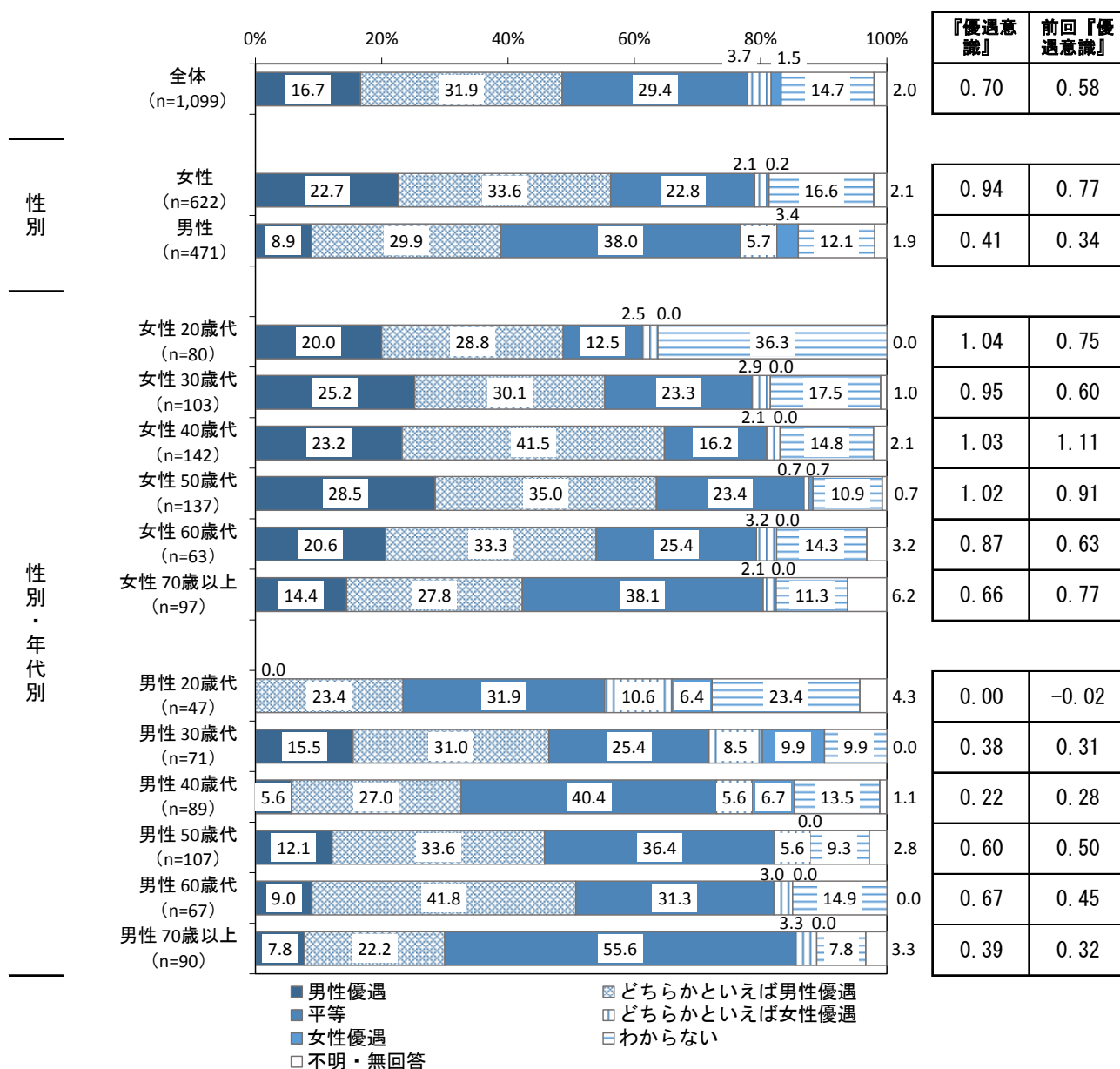
⑥法律や制度上

男女の地位の考えについて、「法律や制度上」を性別で見ると、『優遇意識』では、女性が 0.94 点で、男性 (0.41 点) より 0.53 点高く、女性の方が「男性優遇意識」が強くなっています。

性別・年代別でみると、『優遇意識』では、全ての年代で女性の点数が男性の点数より高く、女性 20 歳代が 1.04 点で最も高く、男性 20 歳代が 0.00 点で最も低くなっています。

前回調査と『優遇意識』を比較すると、女性 40 歳代、女性 70 歳以上、男性 40 歳代を除く全ての年代で前回調査より点数が高く、女性 30 歳代が 0.36 点上昇し、最も上昇した年代となっています。

図表 3-2-22 男女の地位の考えについて ⑥法律や制度上
性別・年代別



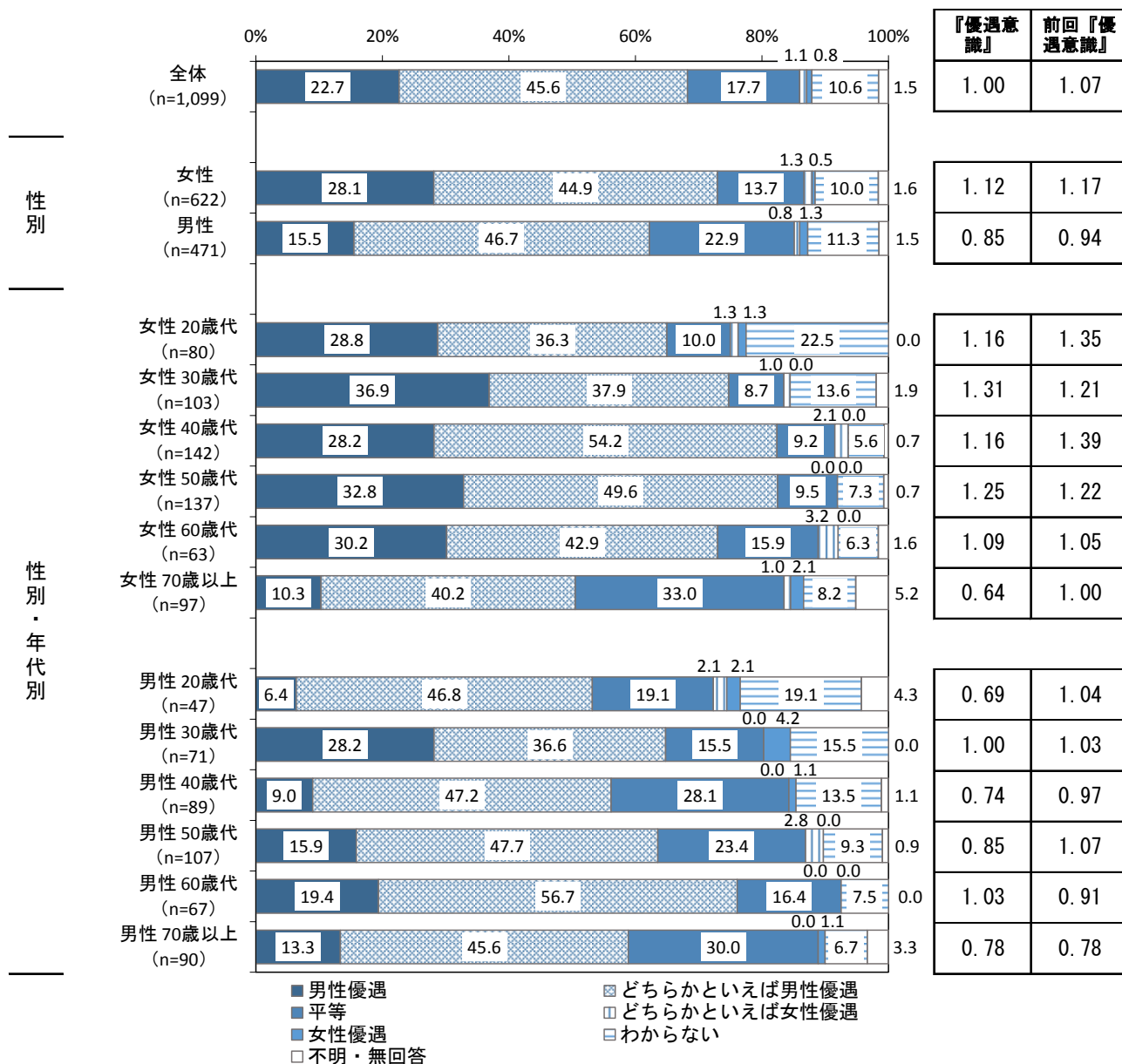
⑦社会通念・慣習・しきたりなど

男女の地位の考えについて、「社会通念・慣習・しきたりなど」を性別で見ると、『優遇意識』では、女性が 1.12 点で、男性（0.85 点）より 0.27 点高く、女性の方が「男性優遇意識」が強くなっています。

性別・年代別でみると、『優遇意識』では、70 歳以上を除く全ての年代で女性の点数が男性の点数より高く、女性 30 歳代が 1.31 点で最も高く、女性 70 歳以上が 0.64 点で最も低くなっています。

前回調査と『優遇意識』を比較すると、女性全体・男性全体いずれも前回調査より点数が低下しており、男性 60 歳代が 0.12 点上昇し、最も上昇した年代となっており、女性 70 歳以上が 0.36 点低下し、最も低下した年代となっています。

図表 3-2-23 男女の地位の考えについて ⑦社会通念・慣習・しきたりなど
性別・年代別



⑧全体

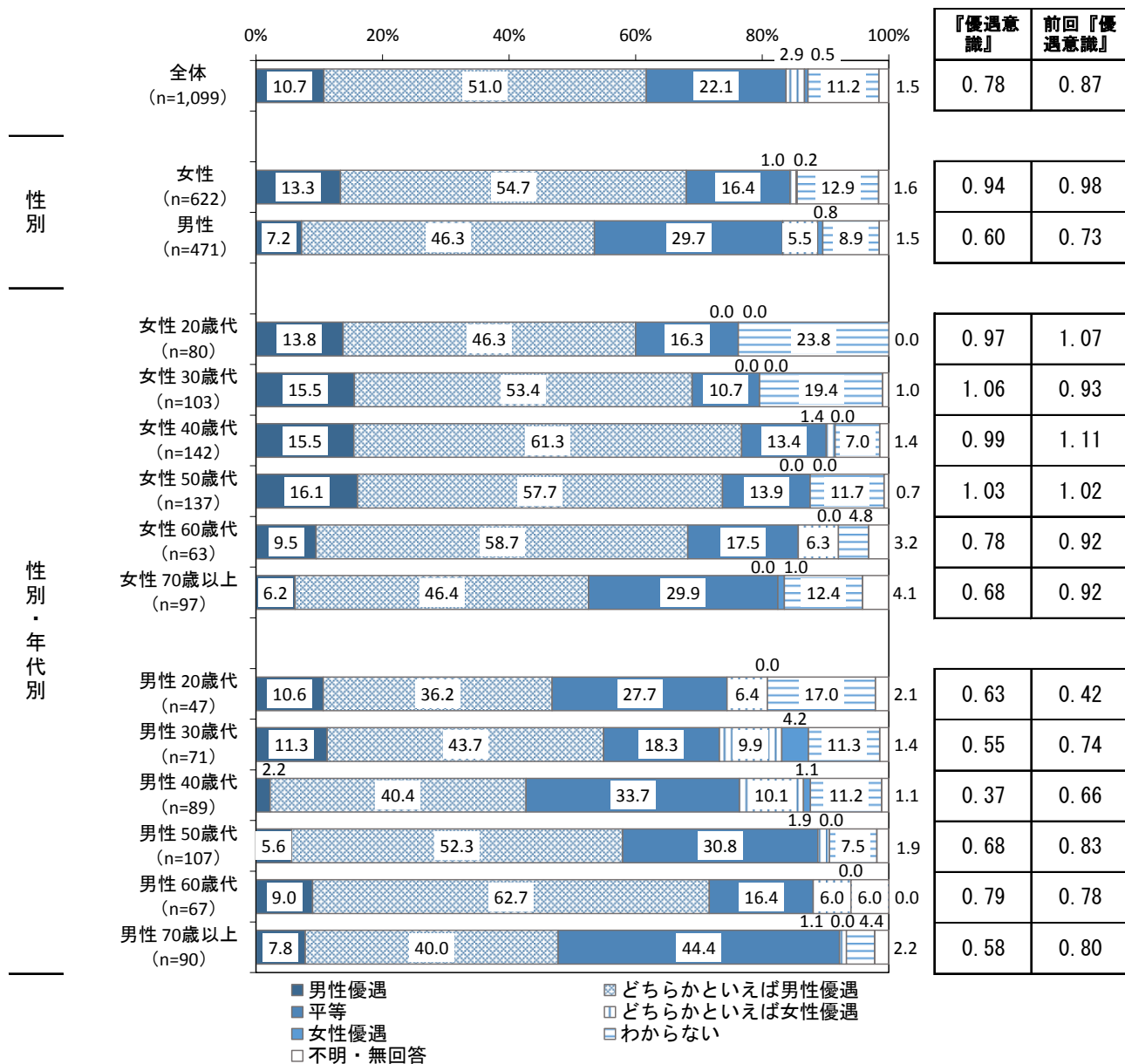
男女の地位の考えについて、「全体」を性別で見ると、『優遇意識』では、女性が 0.94 点で、男性（0.60 点）より 0.34 点高く、女性の方が「男性優遇意識」が強くなっています。

性別・年代別でみると、『優遇意識』では、60 歳代を除く全ての年代で女性の点数が男性の点数より高く、女性 30 歳代が 1.06 点で最も高く、男性 40 歳代が 0.37 点で最も低くなっています。

前回調査と『優遇意識』を比較すると、女性全体・男性全体いずれも前回調査より点数が低下しており、男性 20 歳代が 0.21 点上昇し、最も上昇した年代となっており、男性 40 歳代が 0.29 点低下し、最も低下した年代となっています。

図表 3-2-24 男女の地位の考えについて ⑧全体

性別・年代別



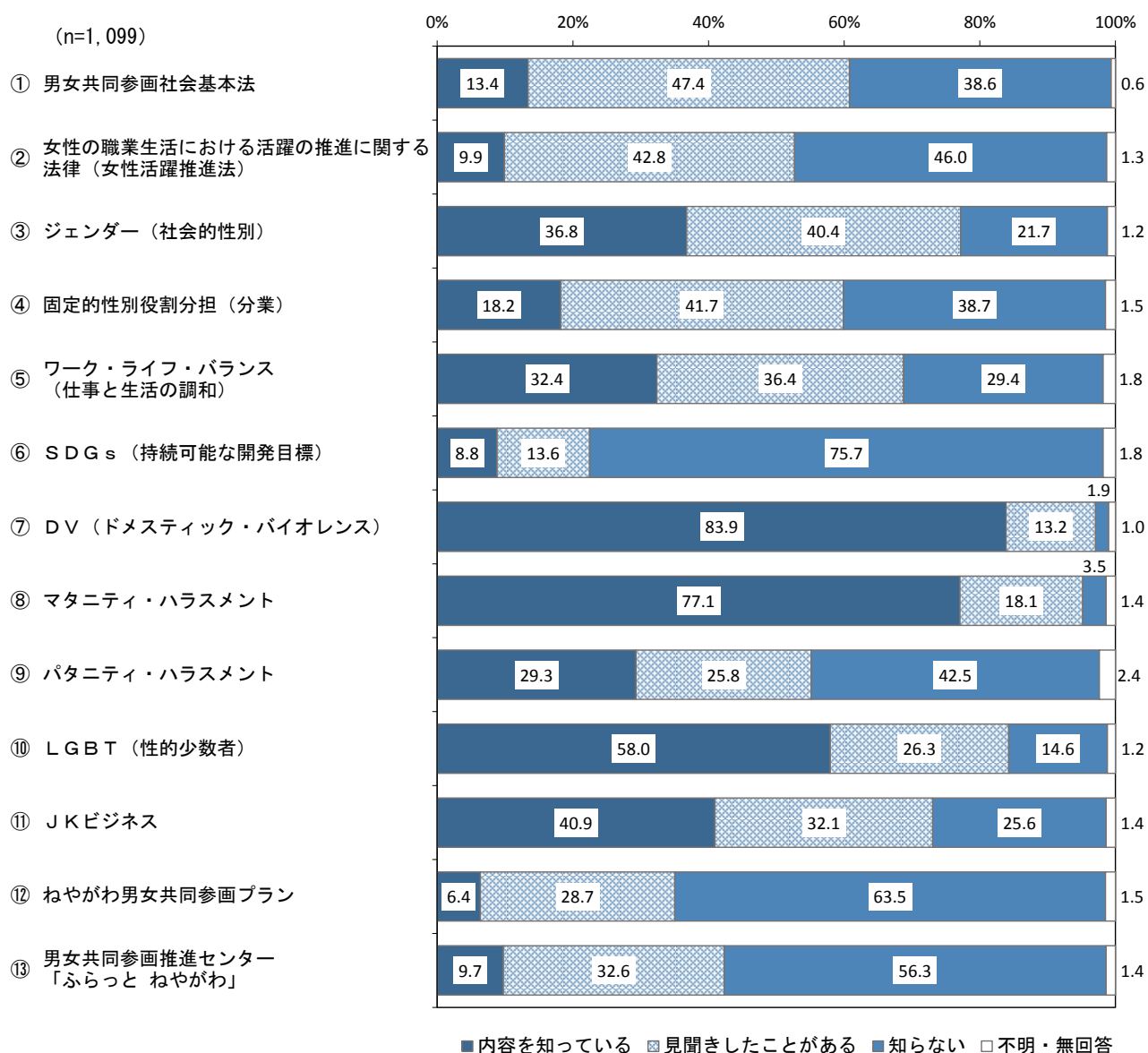
(4) 法律等の認知度

問 11	あなたは次のような言葉をどの程度知っていますか。①～⑫の項目についてお答えください。(それぞれに○は1つだけ)

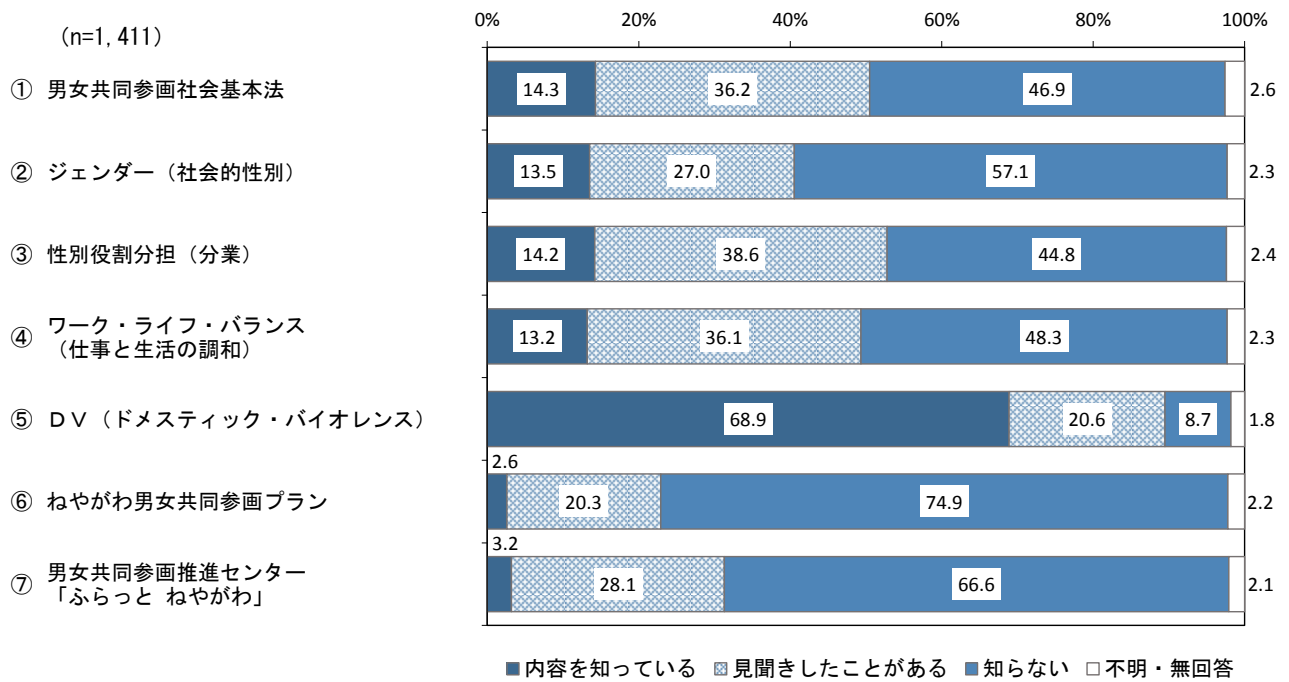
法律等の認知度について全体でみると、『認知度』(「内容を知っている」と「見聞きしたことがある」の合計)では、「⑦ DV (ドメスティック・バイオレンス)」が 97.1%で最も高く、次いで「⑧ マタニティ・ハラスメント」が 95.2%、「⑩ L G B T (性的少数者)」が 84.3%と続いています。

前回調査と比較すると、『認知度』では、比較できる項目いずれも前回調査より割合が増加しており、「③ ジェンダー (社会的性別)」(77.2%)が前回調査 (40.5%) より 36.7 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-2-25 法律等の認知度



図表 3-2-26 法律等の認知度 前回調査



①男女共同参画社会基本法

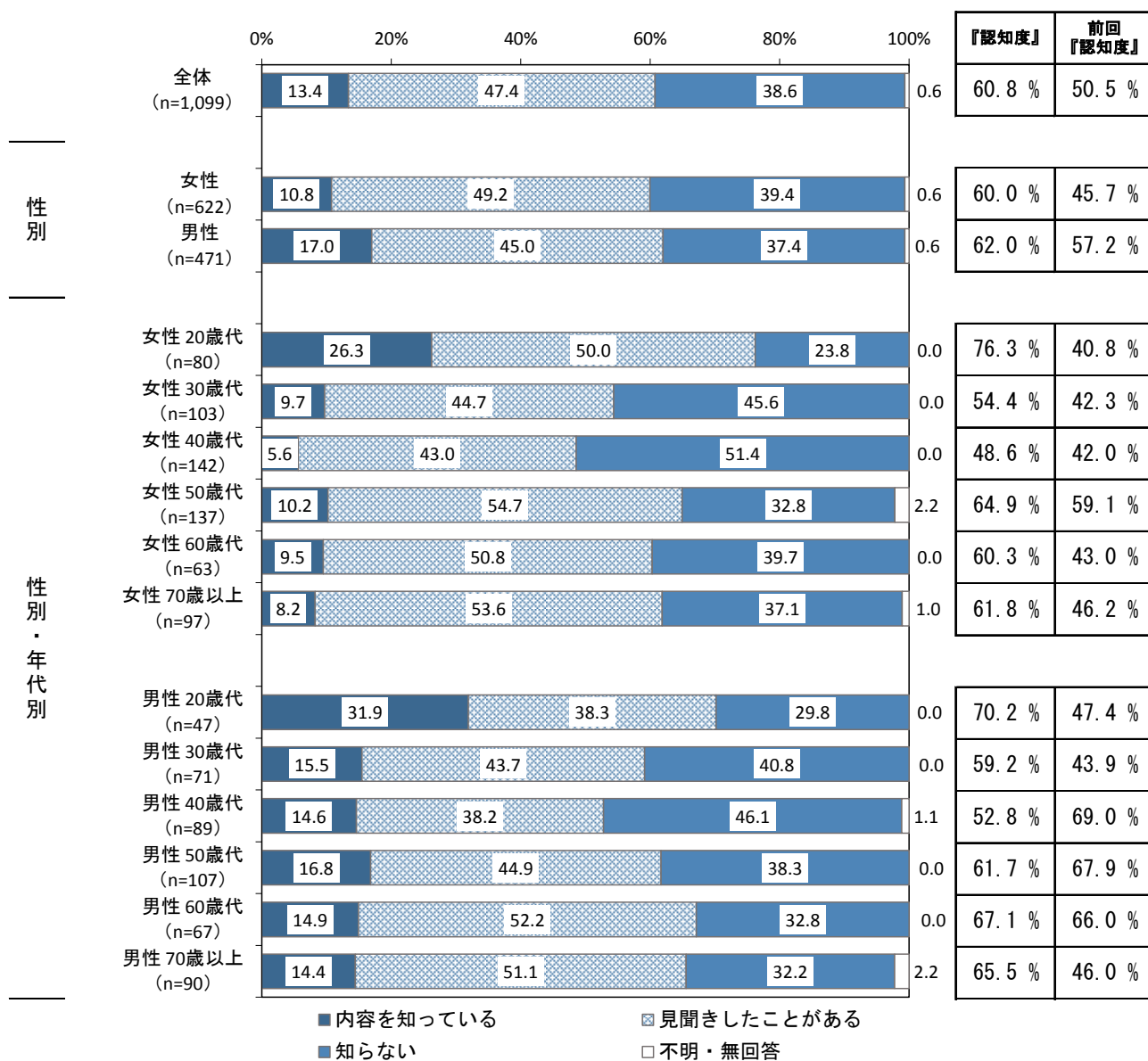
「男女共同参画社会基本法」の認知度について、性別で見ると、「内容を知っている」では、男性が17.0%で、女性（10.8%）よりも6.2ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『認知度』では、女性・男性いずれも20歳代の割合が最も高く、「内容を知っている」においても、女性・男性いずれも20歳代の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、『認知度』では、男性40歳代から50歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しており、女性20歳代が前回調査より35.5ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-2-27 法律等の認知度 ①男女共同参画社会基本法

性別・年代別

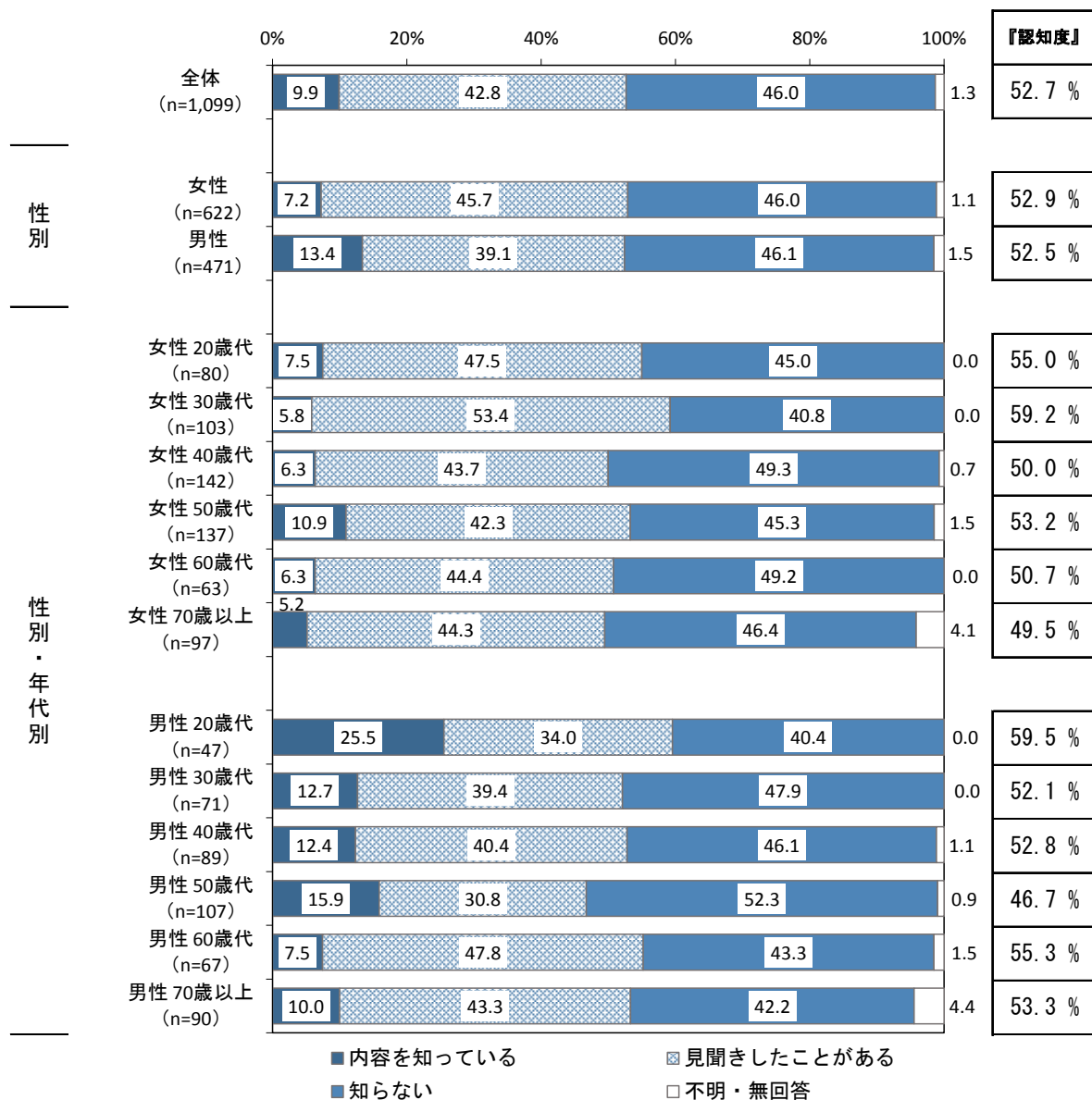


②女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」の認知度について、性別で見ると、「内容を知っている」では、男性が13.4%で、女性（7.2%）よりも6.2ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『認知度』では、男性20歳代が59.5%で最も高く、「内容を知っている」においても男性20歳代が25.5%で最も高くなっています。

図表 3-2-28 法律等の認知度 ②女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法） 性別・年代別



③ジェンダー（社会的性別）

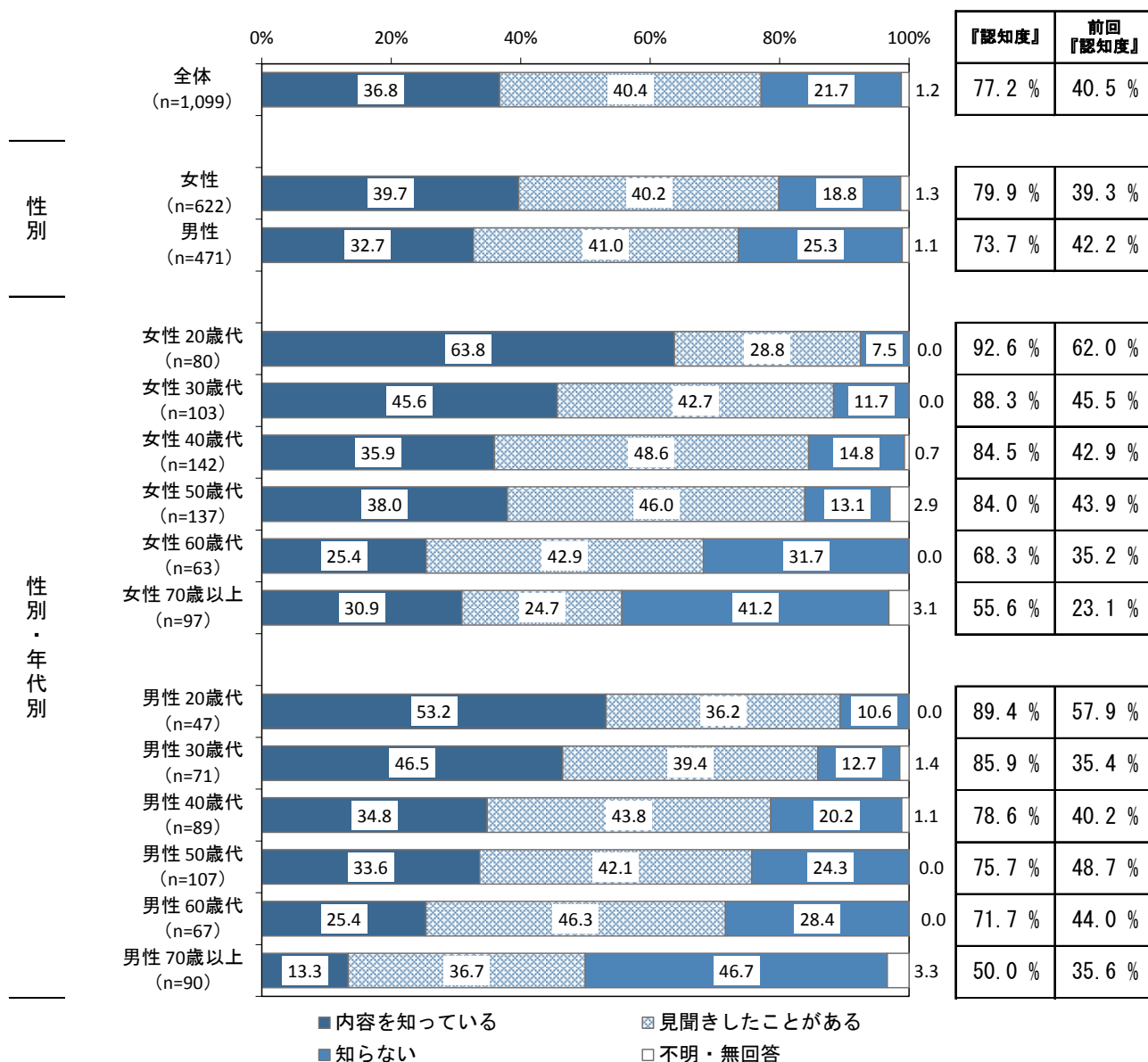
「ジェンダー（社会的性別）」の認知度について、性別で見ると、『認知度』では、女性が 79.9% で、男性（73.7%）よりも 6.2 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『認知度』では、女性・男性いずれも年代が上がるにつれて割合が減少しており、女性 20 歳代が 92.6% で最も高く、男性 70 歳以上が 50.0% で最も低くなっています。

前回調査と比較すると、全ての年代で割合が増加しており、男性 30 歳代が前回調査より 50.5 ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-2-29 法律等の認知度 ③ジェンダー（社会的性別）

性別・年代別



④固定的性別役割分担（分業）

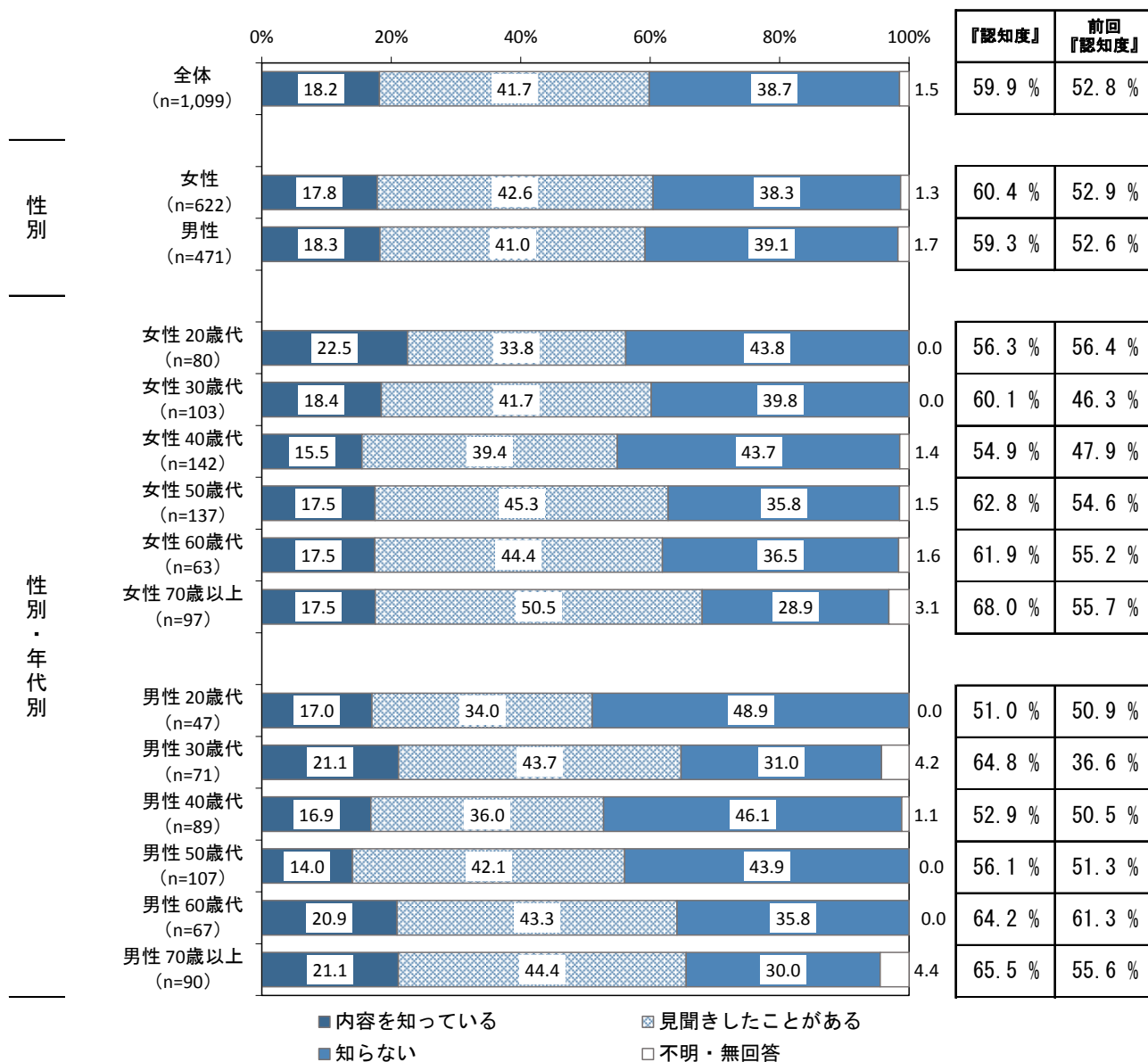
「固定的性別役割分担（分業）」の認知度について、性別で見ると、大きな差はみられません。

性別・年代別でみると、『認知度』では、女性・男性いずれも 70 歳以上の割合が最も高く、女性 70 歳以上が 68.0% で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、『認知度』では、女性 20 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しており、男性 30 歳代が 28.2 ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-2-30 法律等の認知度 ④固定的性別役割分担（分業）

性別・年代別



⑤ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

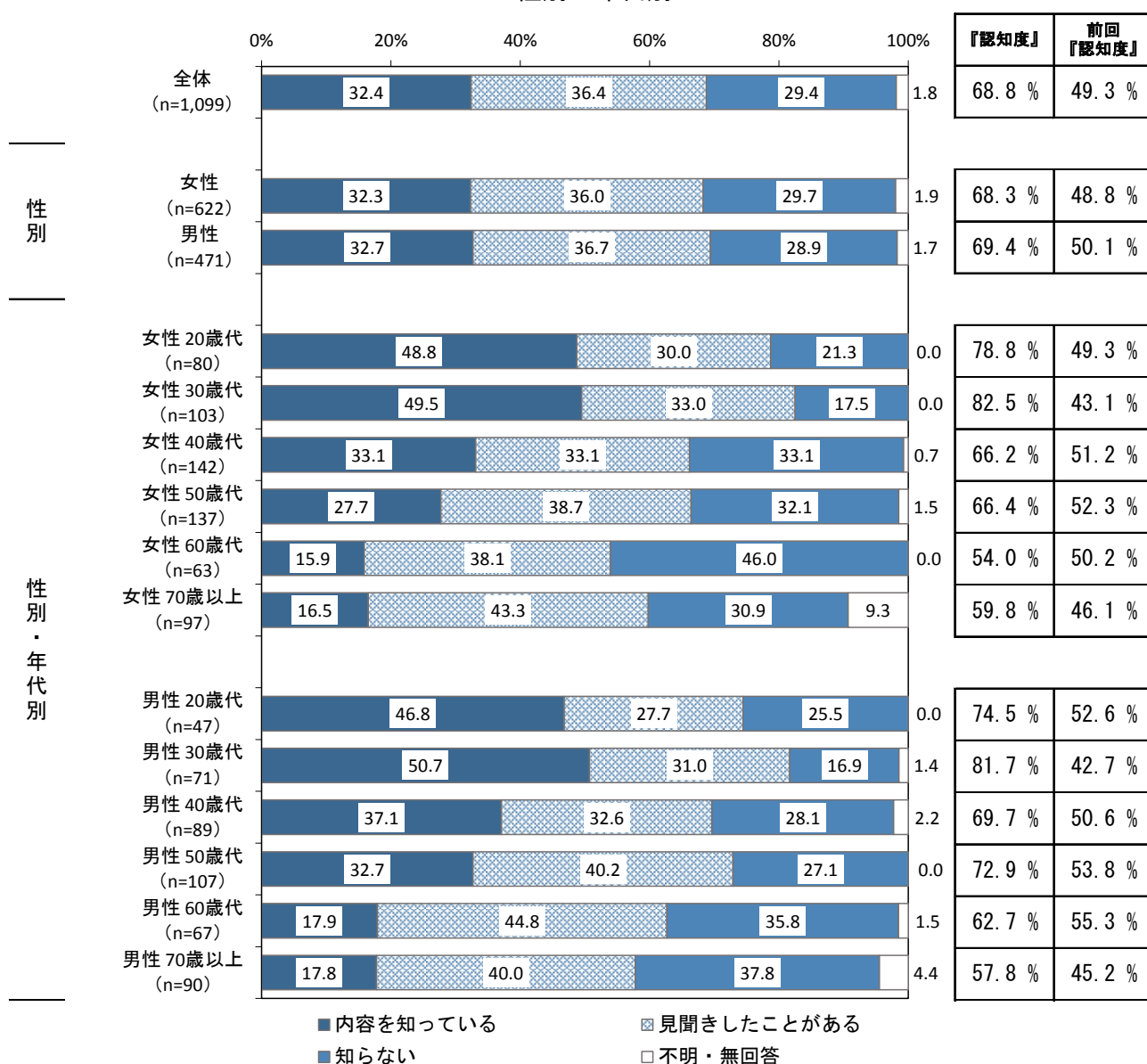
「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度について、性別で見ると、大きな差はみられません。

性別・年代別でみると、『認知度』では、女性・男性いずれも 30 歳代の割合が最も高く、女性 30 歳代が 82.5%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、『認知度』では、全ての年代で前回調査より割合が増加しており、女性 30 歳代が 39.4 ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-2-31 法律等の認知度 ⑤ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

性別・年代別



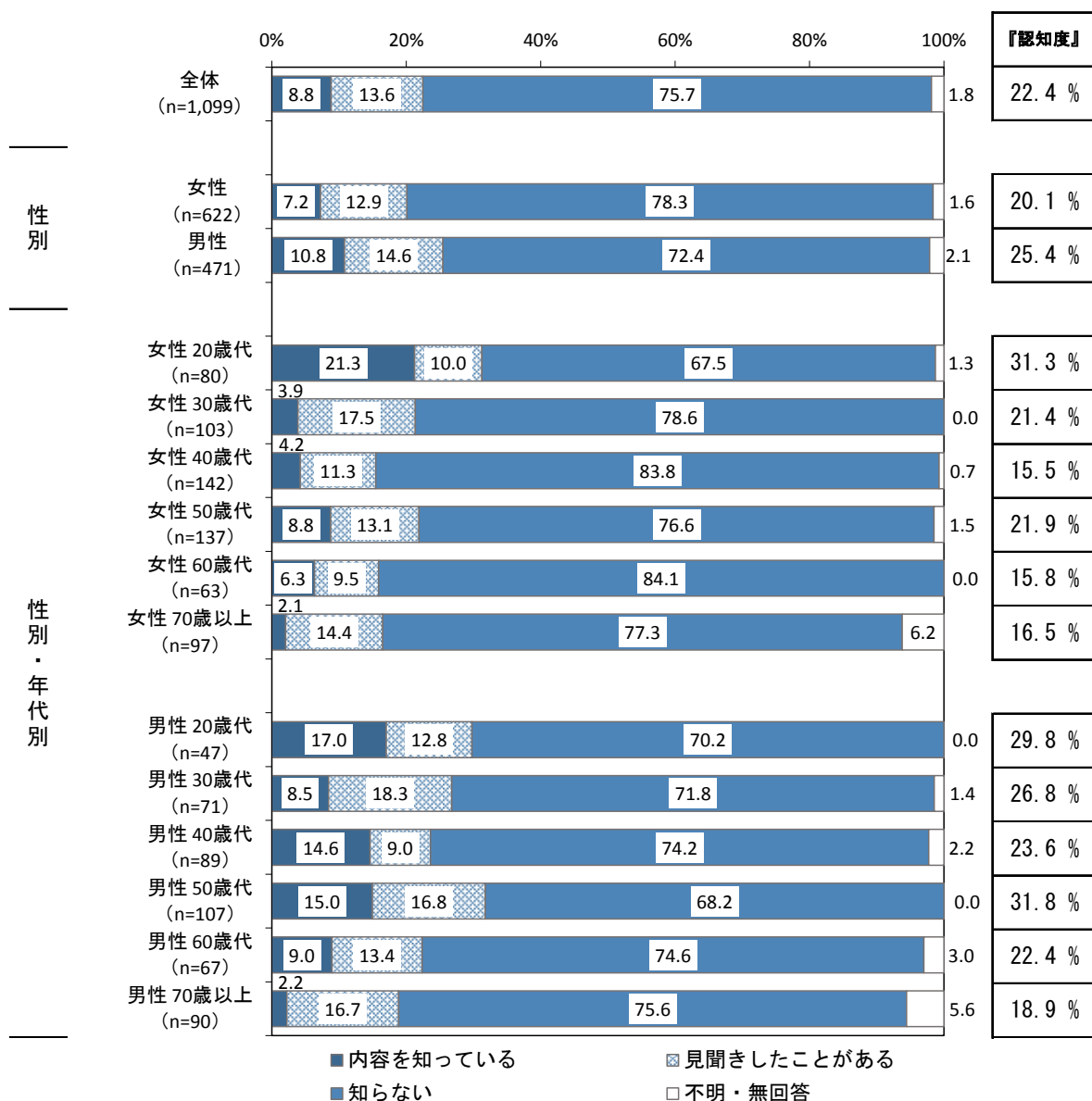
⑥SDGs（持続可能な開発目標）

「SDGs（持続可能な開発目標）」の認知度について、性別で見ると、『認知度』では、男性が25.4%で、女性（20.1%）よりも5.3ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「内容を知っている」では、女性・男性いずれも20歳代の割合が最も高く、『認知度』では、男性50歳代が31.8%で最も高くなっています。

図表 3-2-32 法律等の認知度 ⑥SDGs（持続可能な開発目標）

性別・年代別



⑦DV（ドメスティック・バイオレンス）

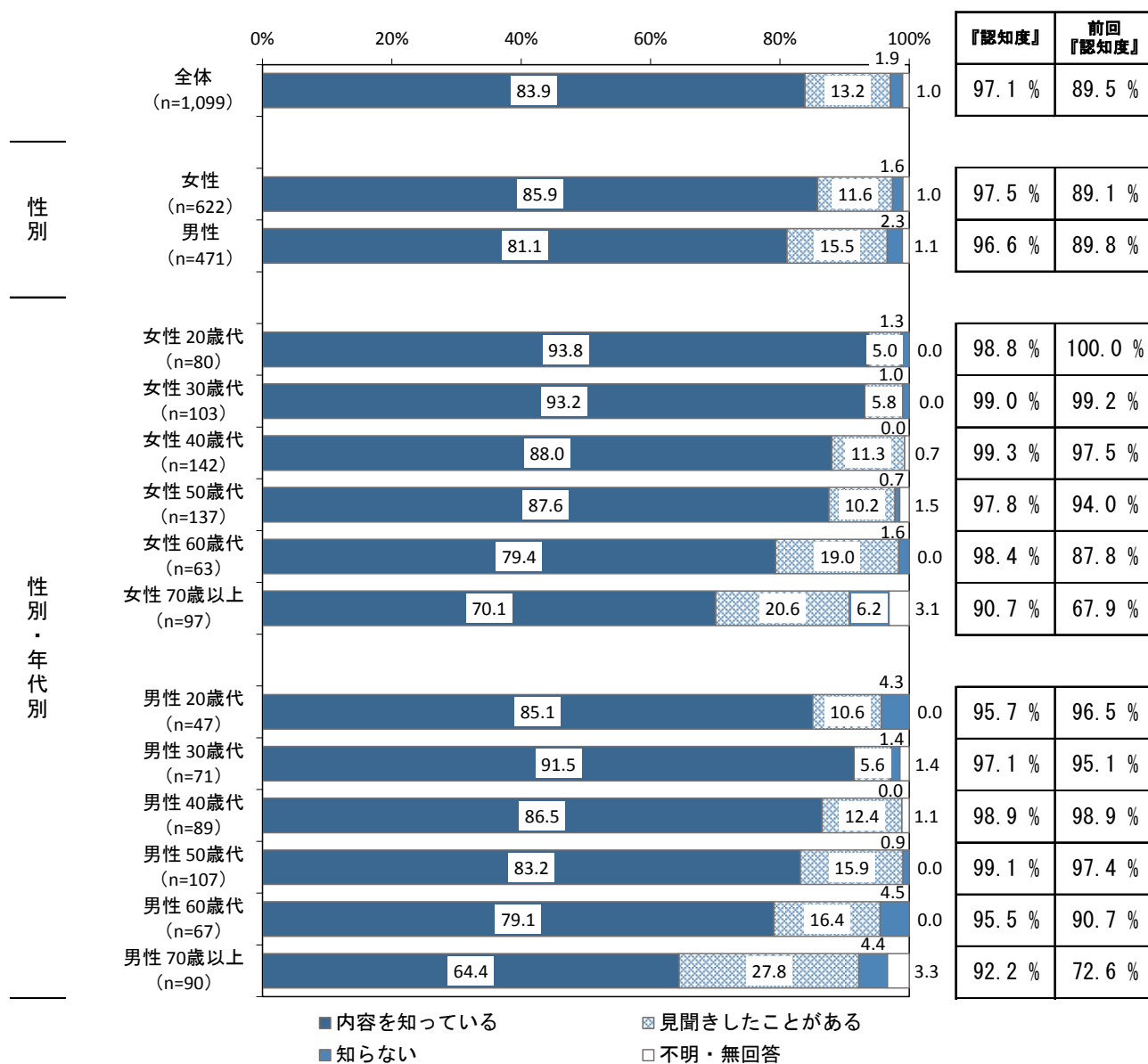
「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の認知度について、性別で見ると、「内容を知っている」では、女性が85.9%で、男性（81.1%）よりも4.8ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「内容を知っている」では、女性では年代が上がるにつれて、男性では30歳代以上で年代が上がるにつれて割合が減少しており、女性20歳代が93.8%で最も高く、男性70歳以上が64.4%で最も低くなっています。

前回調査と比較すると、『認知度』では、50歳代以上で前回調査より割合が増加しており、女性70歳以上が22.8ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-2-33 法律等の認知度 ⑦DV（ドメスティック・バイオレンス）

性別・年代別



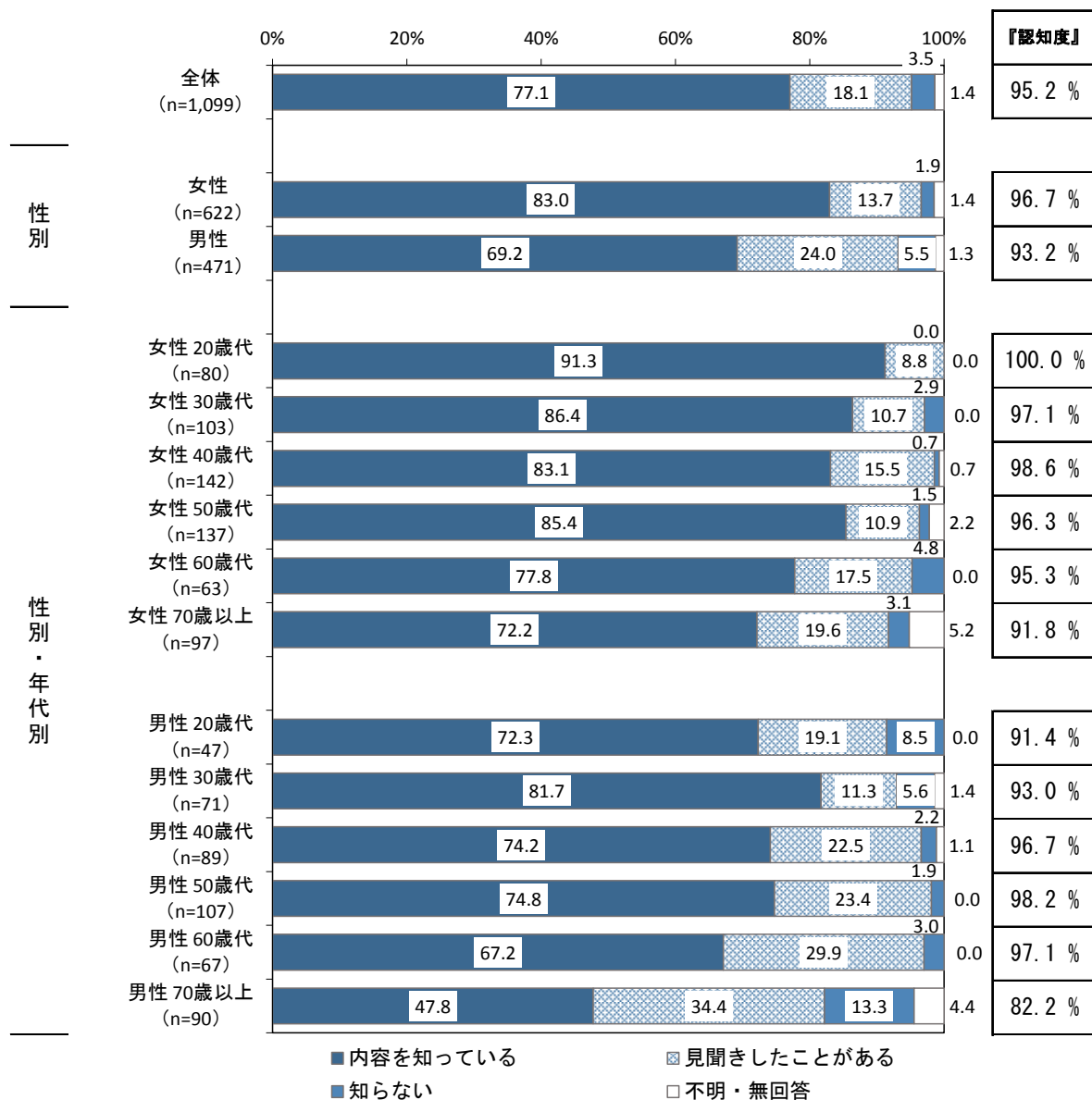
⑧マタニティ・ハラスメント

「マタニティ・ハラスメント」の認知度について、性別で見ると、「内容を知っている」では、女性が83.0%で、男性（69.2%）よりも13.8ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「内容を知っている」では、50歳代以上で年代が上がるにつれて割合が減少しており、女性20歳代が91.3%で最も高く、男性70歳以上が47.8%で最も低くなっています。

図表 3-2-34 法律等の認知度 ⑧マタニティ・ハラスメント

性別・年代別



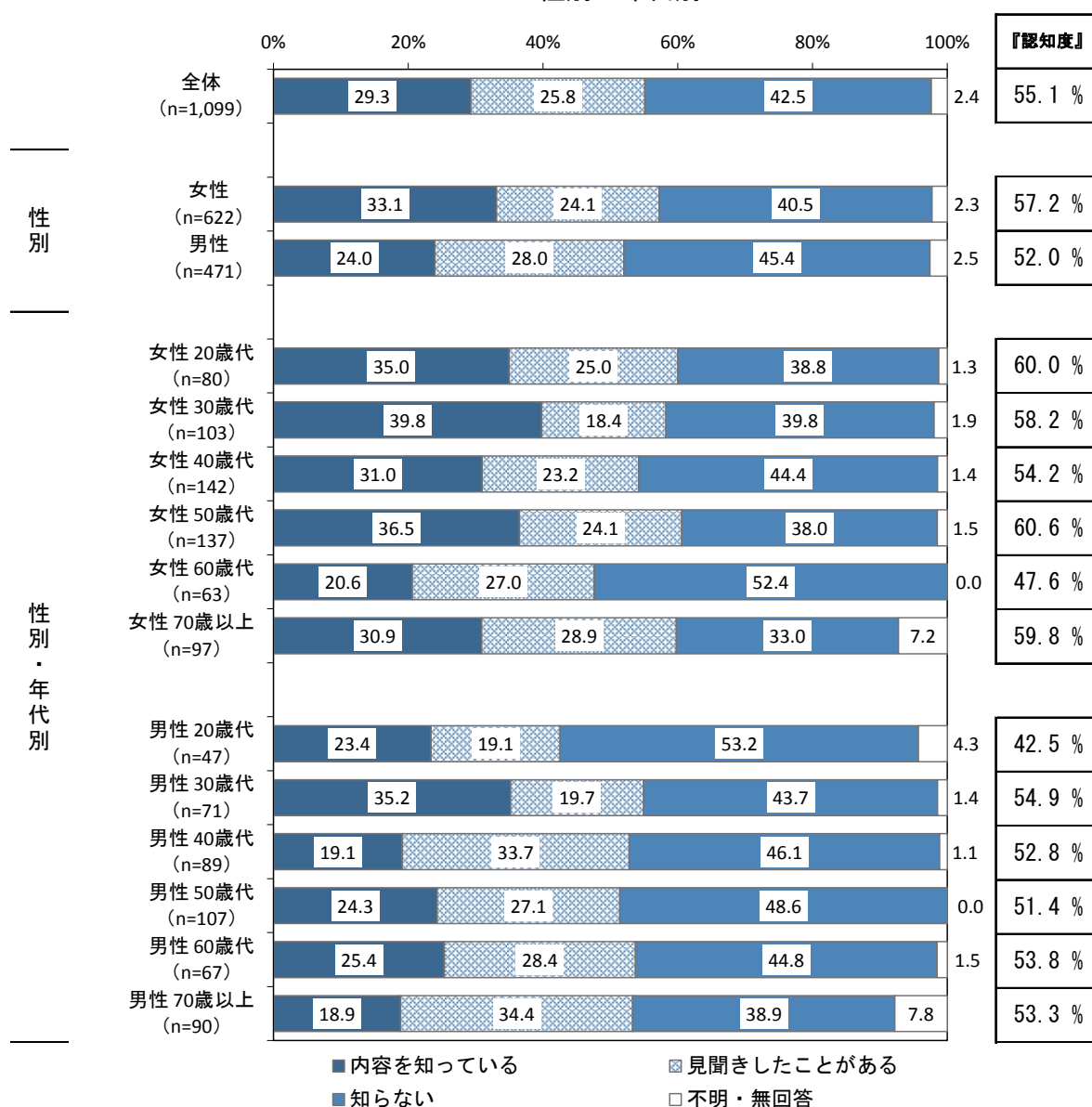
⑨パタニティ・ハラスメント

「パタニティ・ハラスメント」の認知度について、性別で見ると、「内容を知っている」では、女性が 33.1%で、男性（24.0%）よりも 9.1 ポイント低く、『認知度』では、女性が 57.2%で、男性（52.0%）よりも 5.2 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「内容を知っている」では、女性・男性いずれも 30 歳代の割合が最も高く、『認知度』では、女性 20 歳代が 60.0%で最も高く、男性 20 歳代が 42.5%で最も低くなっています。

図表 3-2-35 法律等の認知度 ⑨パタニティ・ハラスメント

性別・年代別



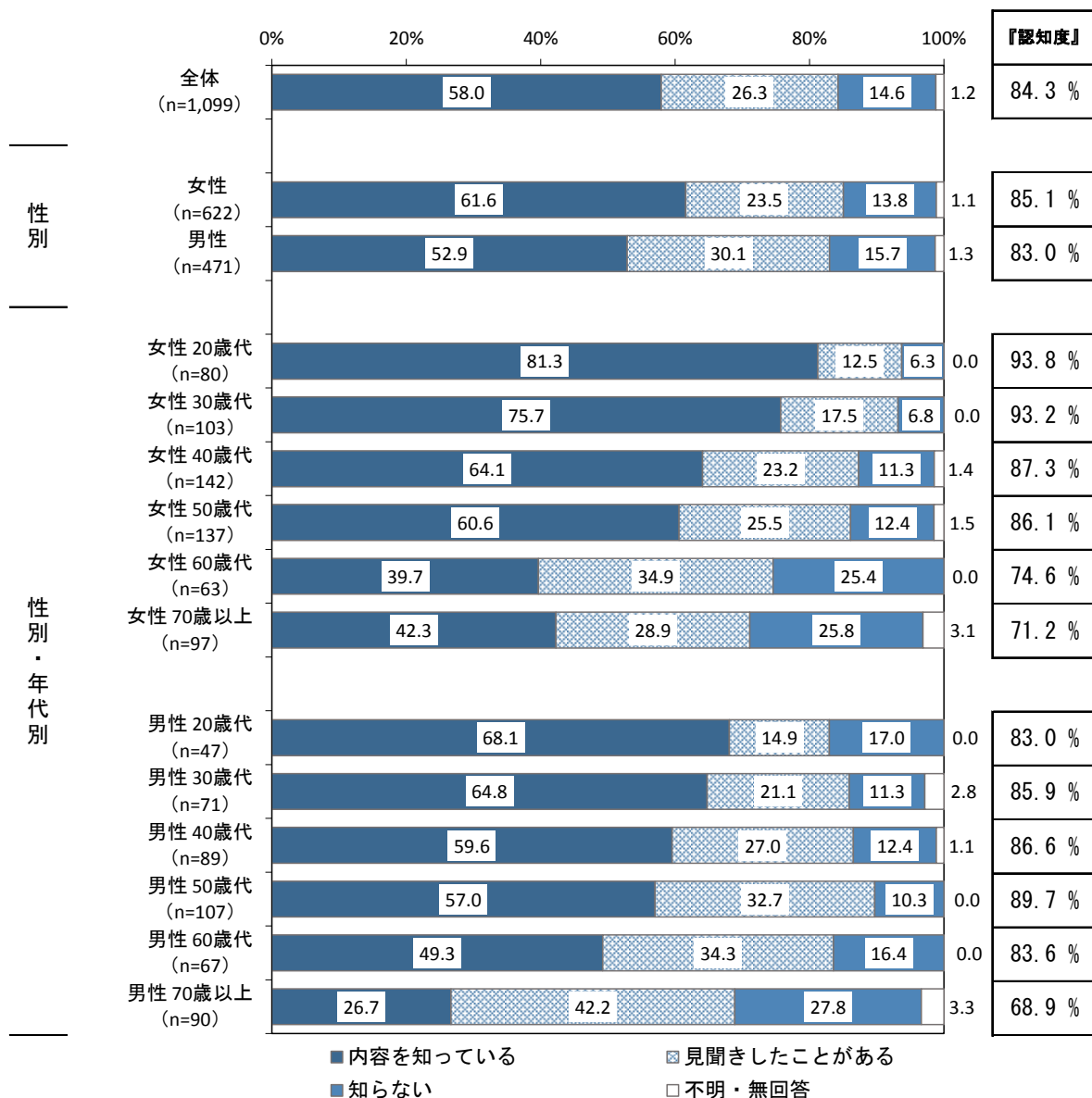
⑩ L G B T （性的少数者）

「L G B T （性的少数者）」の認知度について、性別で見ると、「内容を知っている」では、女性が61.6%で、男性（52.9%）よりも8.7ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、女性では『認知度』が、男性では「内容を知っている」が年代が上がるにつれて割合が減少しており、『認知度』『内容を知っている』いずれも女性 20 歳代の割合が最も高く、男性 70 歳以上の割合が最も低くなっています。

図表 3-2-36 法律等の認知度 ⑩ L G B T （性的少数者）

性別・年代別



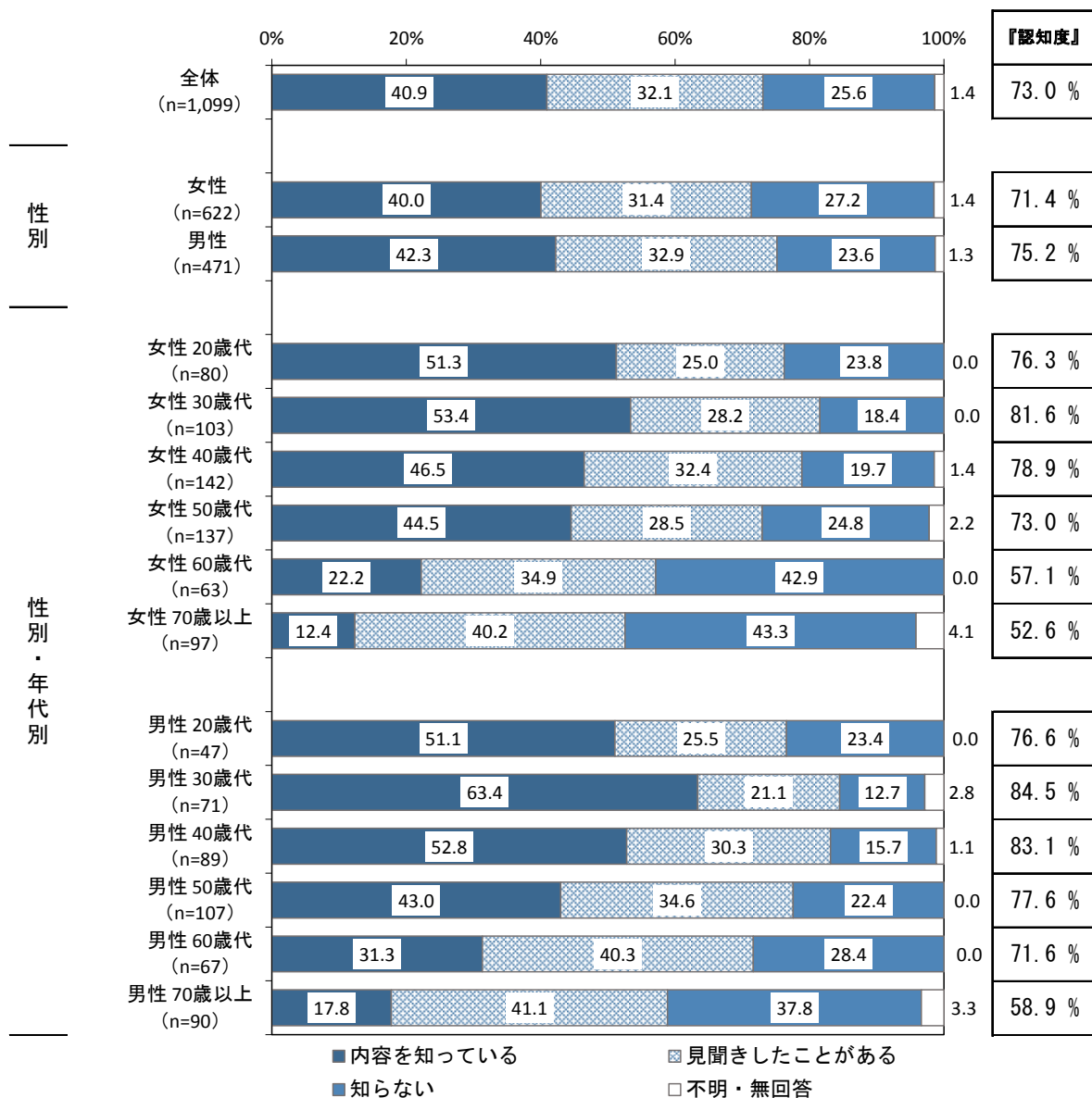
⑪ JKビジネス

「JKビジネス」の認知度について、性別で見ると、『認知度』では、男性が75.2%で、女性(71.4%)よりも3.8ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『認知度』では、女性・男性いずれも30歳代以上で年代が上がるにつれて割合が減少しており、男性30歳代が84.5%で最も高く、女性70歳以上が52.6%で最も低くなっています。

図表 3-2-37 法律等の認知度 ⑪ JKビジネス

性別・年代別



⑫ねやがわ男女共同参画プラン

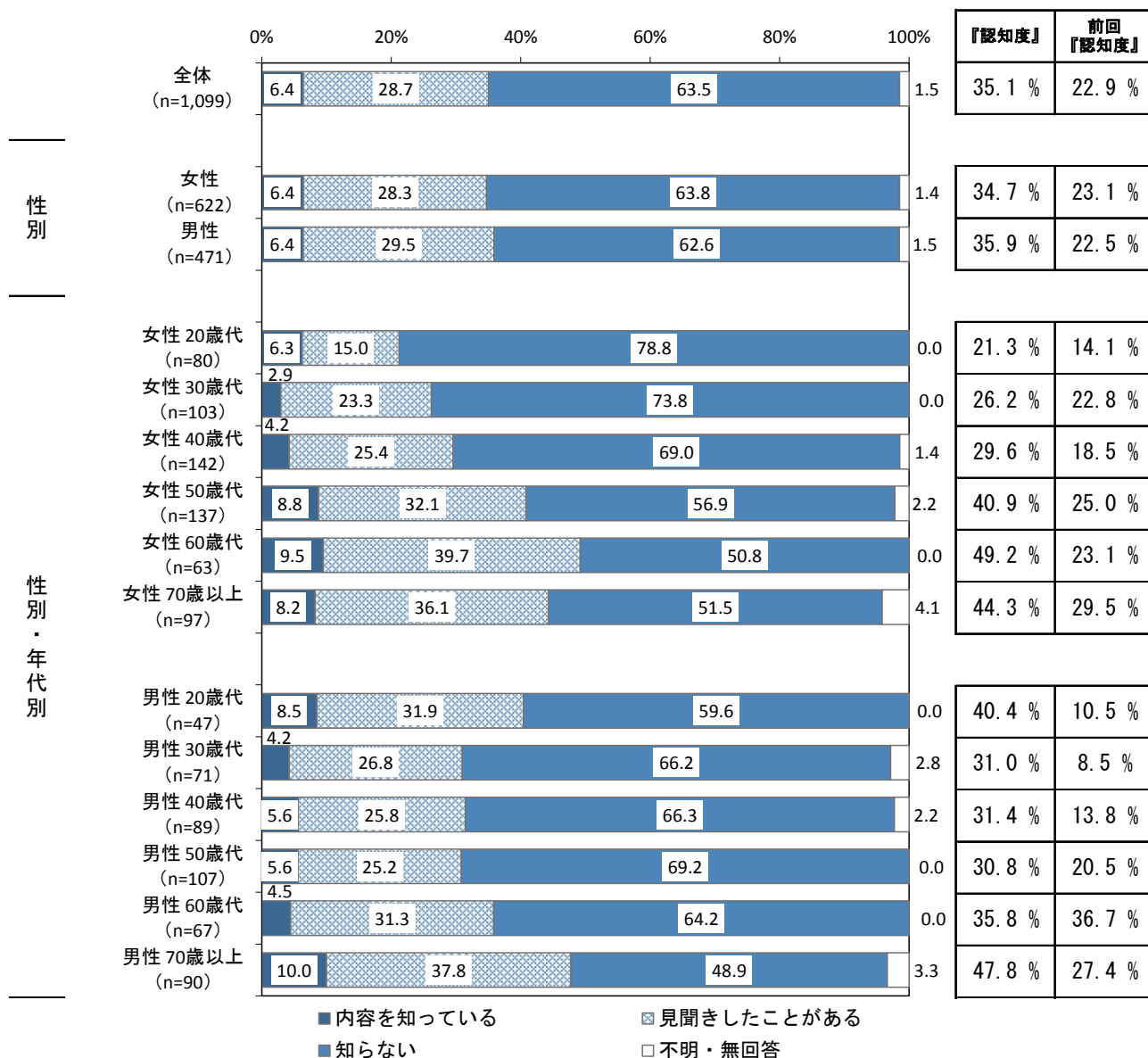
「ねやがわ男女共同参画プラン」の認知度について、性別で見ると、大きな差はみられません。

性別・年代別でみると、『認知度』では、女性 60 歳代が 49.2%で最も高く、女性 20 歳代が 21.3%で最も低くなっています。

前回調査と比較すると、男性 60 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しており、男性 20 歳代が 29.9%増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-2-38 法律等の認知度 ⑫ねやがわ男女共同参画プラン

性別・年代別



⑬男女共同参画推進センター「ふらっと ねやがわ」

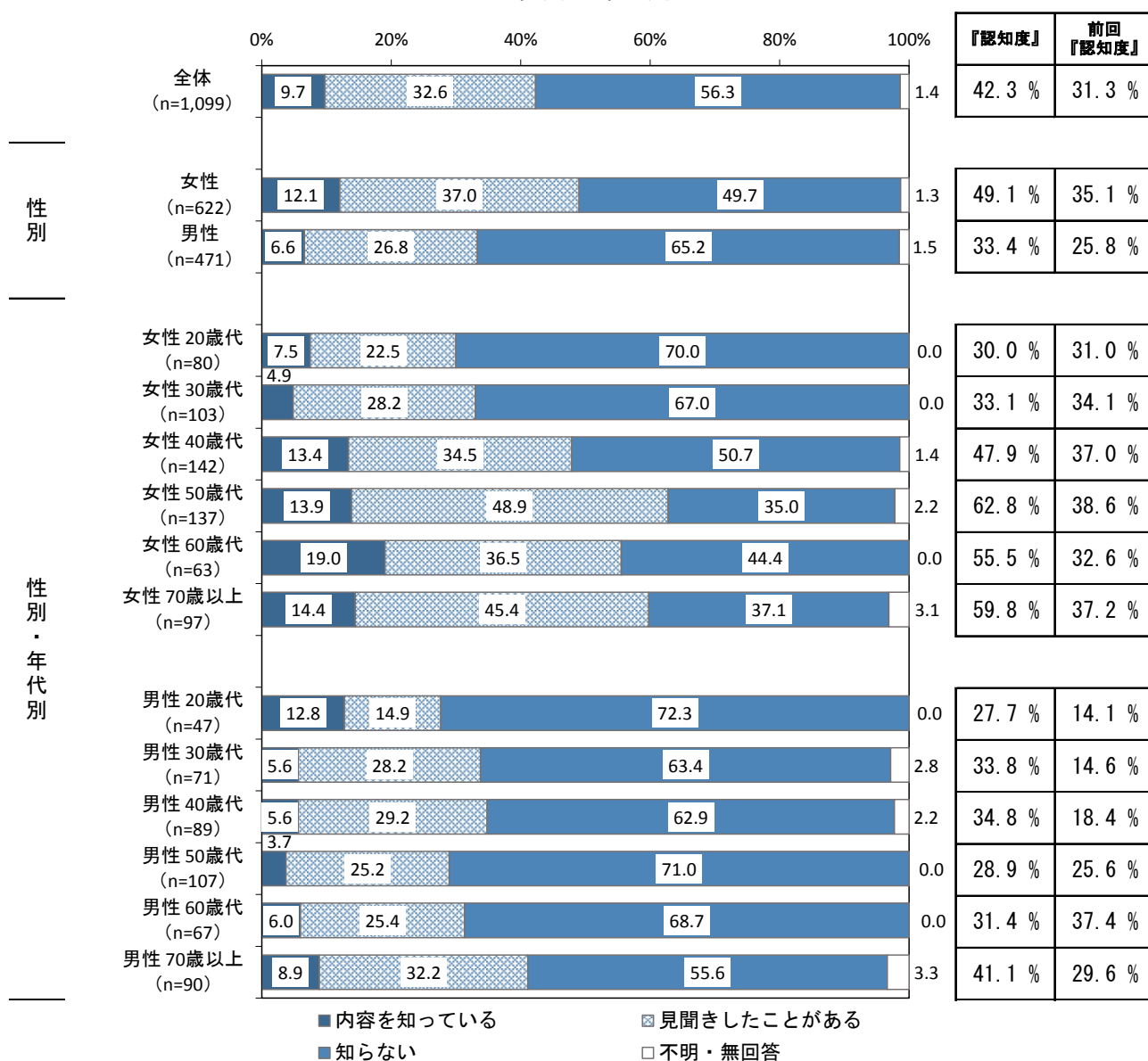
「男女共同参画推進センター「ふらっと ねやがわ」」の認知度について、性別で見ると、『認知度』では、女性が49.1%で、男性（33.4%）よりも15.7ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『認知度』では、30歳代を除く全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっており、女性50歳代が62.8%で最も高く、男性20歳代が27.7%で最も低くなっています。

前回調査と比較すると、女性20歳代から30歳代、男性60歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しており、女性50歳代が24.2ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-2-39 法律等の認知度 ⑬男女共同参画推進センター「ふらっと ねやがわ」

性別・年代別



3. 家庭生活等について

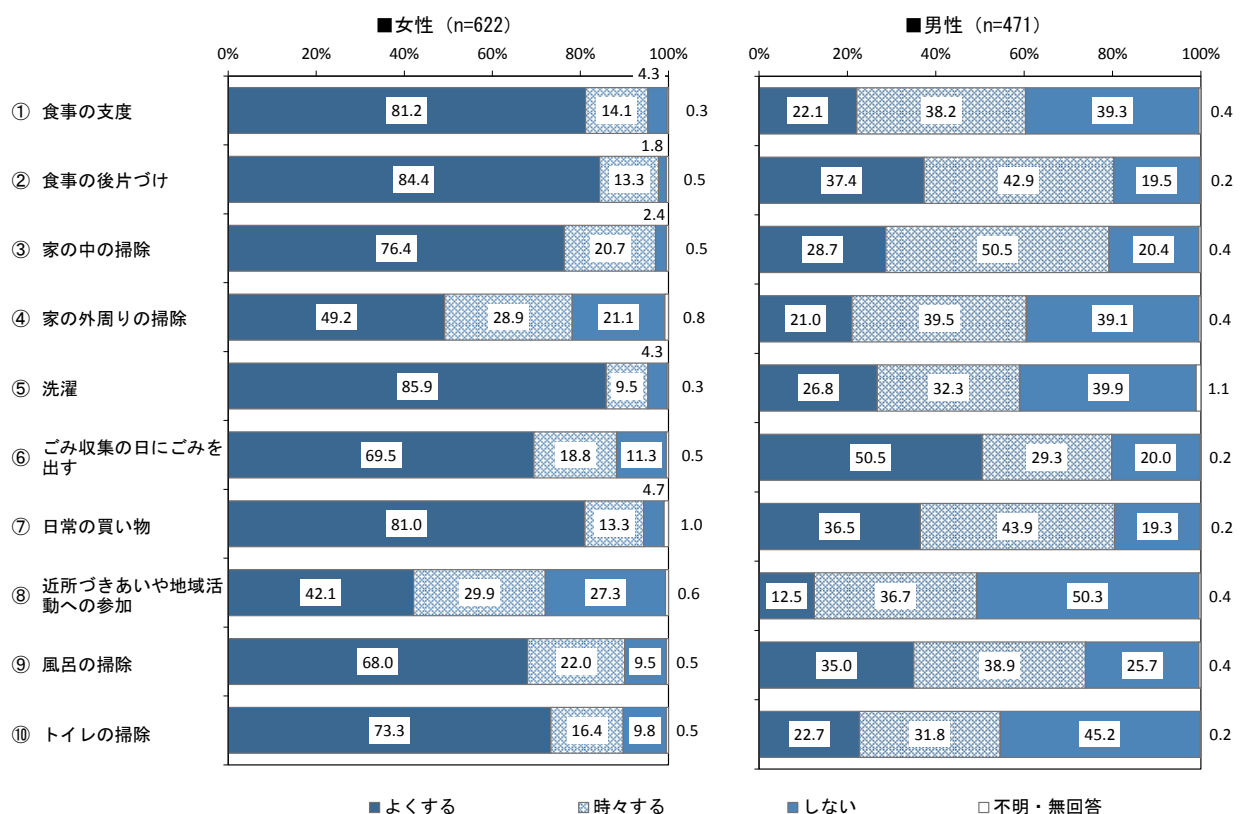
(1) 家事の頻度

問 12	次の家事をする場合、あなたはどの程度担っていますか。①～⑩の項目についてお答えください。（それぞれに○は1つだけ）

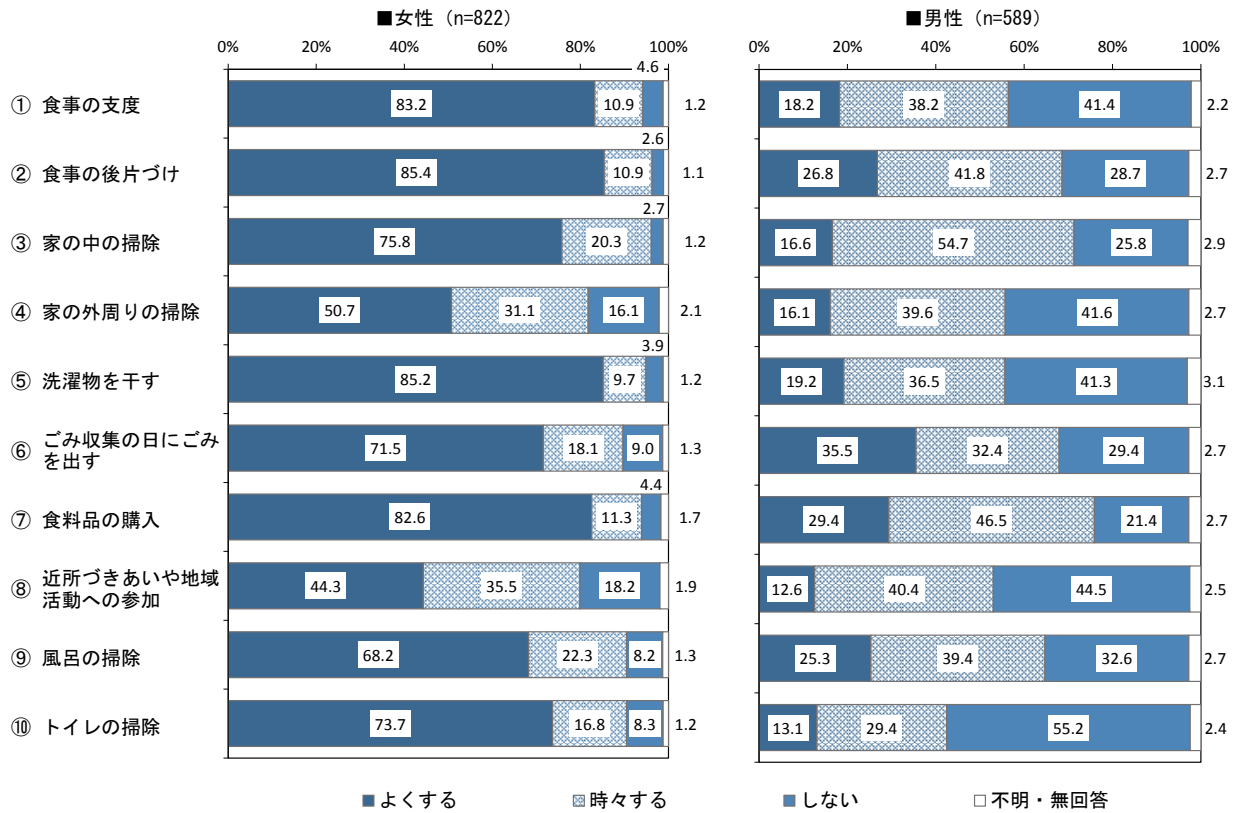
家事の頻度について性別でみると、「よくする」では、女性は「⑤ 洗濯」が 85.9%で最も高く、次いで「② 食事の後片づけ」が 84.4%、「① 食事の支度」が 81.2%と続いており、男性は「⑥ ごみ収集の日にごみを出す」が 50.5%で最も高く、次いで「② 食事の後片づけ」が 37.4%、「⑦ 日常の買い物」が 36.5%と続いています。また、「よくする」では、全ての項目で女性の割合が男性よりも高くなっており、「① 食事の支度」「⑤ 洗濯」がいずれも 59.1 ポイントの差で最も差が大きい項目となっており、次いで差が大きい項目として「⑩ トイレの掃除」が 50.6 ポイントとなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、女性は「③ 家の中の掃除」「⑤ 洗濯」を除く全ての項目で前回調査より割合が減少しており、「⑧ 近所づきあいや地域活動への参加」が 2.2 ポイント減少し、最も減少した項目となっています。また、男性は「⑧ 近所づきあいや地域活動への参加」を除く全ての項目で「よくする」が前回調査より割合が増加しており、「⑥ ごみ収集の日にごみを出す」が 15.0 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-3-1 家事の頻度



図表 3-3-2 家事の頻度 前回調査

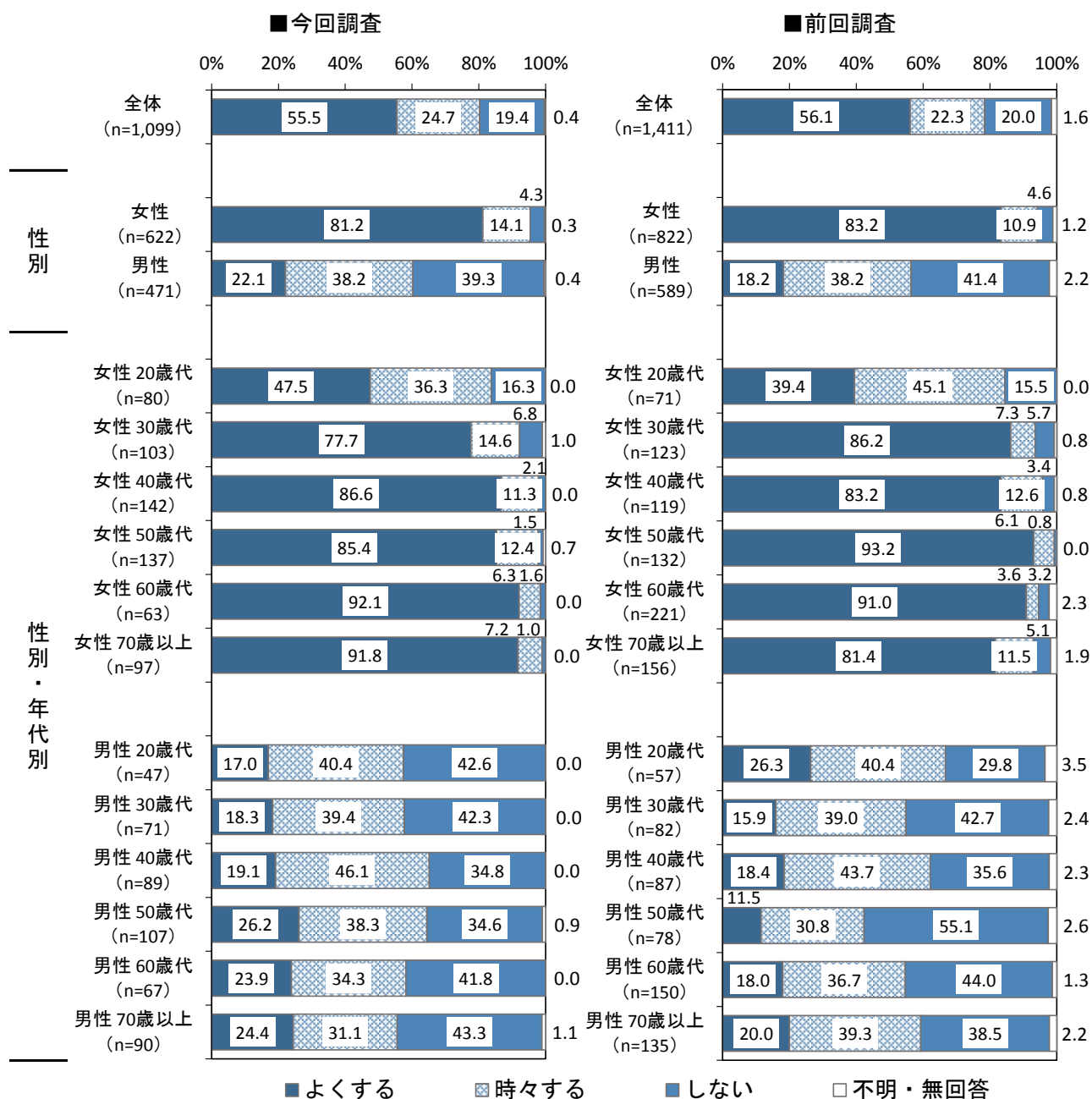


①食事の支度

家事の頻度について、「食事の支度」を性別・年代別でみると、「よくする」では、女性は20歳代が47.5%で、30歳代以上で7割を超えているのに対し、男性は全ての年代で3割以下となっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、女性30歳代、女性50歳代、男性20歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しており、男性50歳代は14.7ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-3-3 家事の頻度 ①食事の支度
性別・年代別

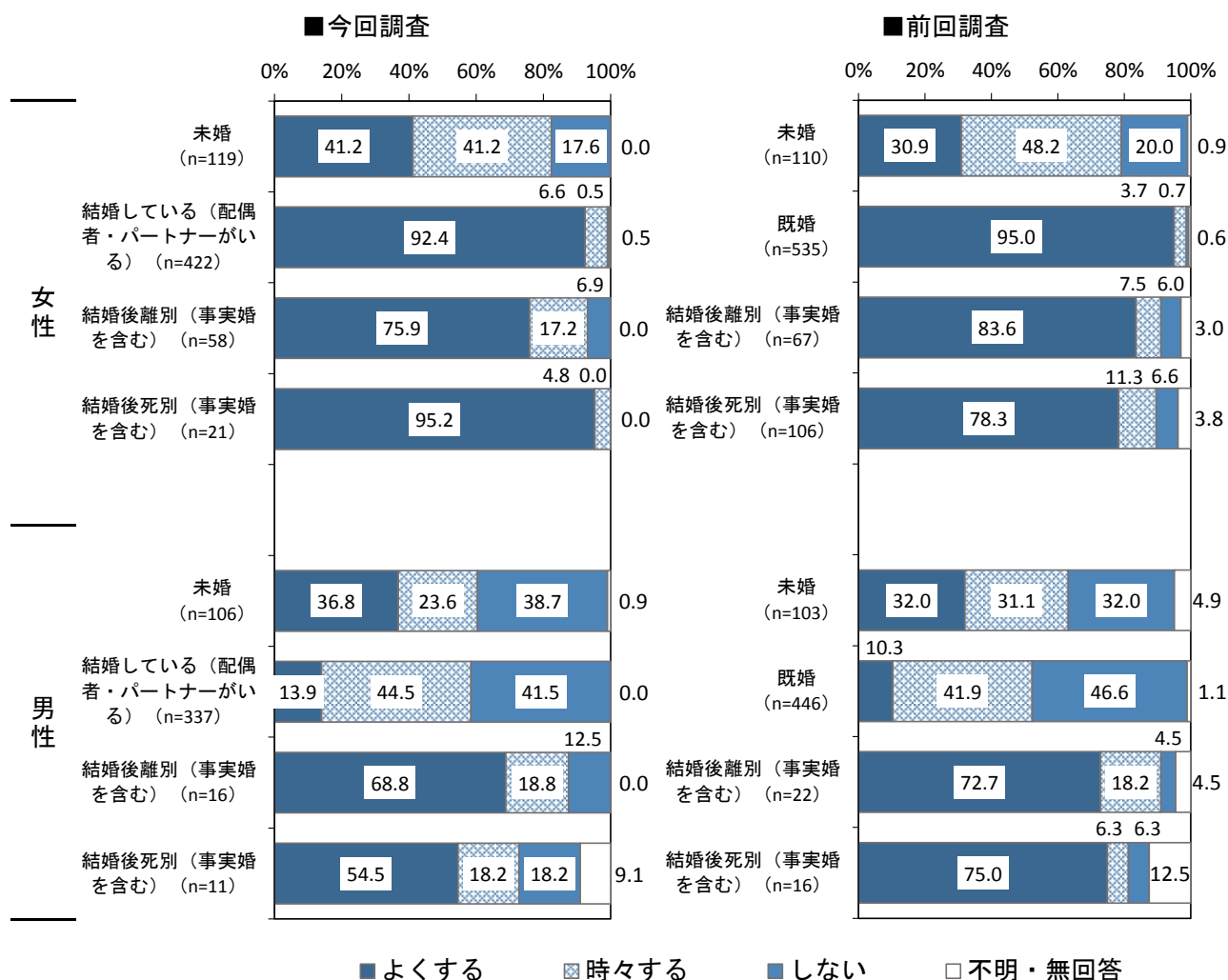


家事の頻度について、「食事の支度」を結婚別でみると、「よくする」では、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」は女性が92.4%で、男性（13.9%）よりも78.5ポイント高く、性別間で最も差が大きくなっています。

前回調査と比較すると、「しない」では、男性は「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」のみ前回調査より割合が減少しています。

図表 3-3-4 家事の頻度 ①食事の支度

結婚別

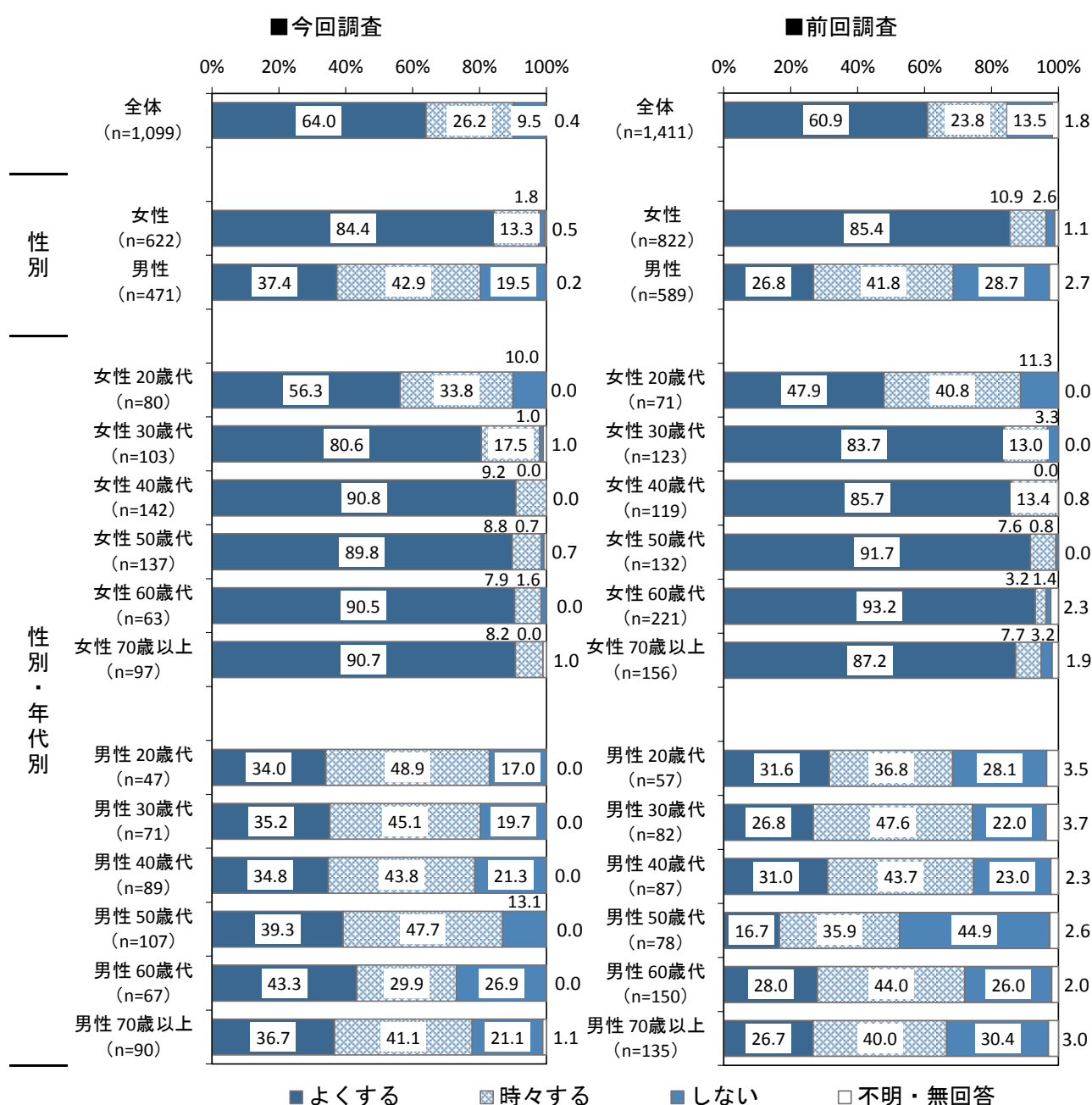


②食事の後片づけ

家事の頻度について、「食事の後片づけ」を性別・年代別でみると、「よくする」では、女性は20歳代が56.3%で、30歳代以上で8割を超えているのに対し、男性は全ての年代で5割以下となっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は全ての年代で前回調査より割合が増加しており、男性50歳代が22.6ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

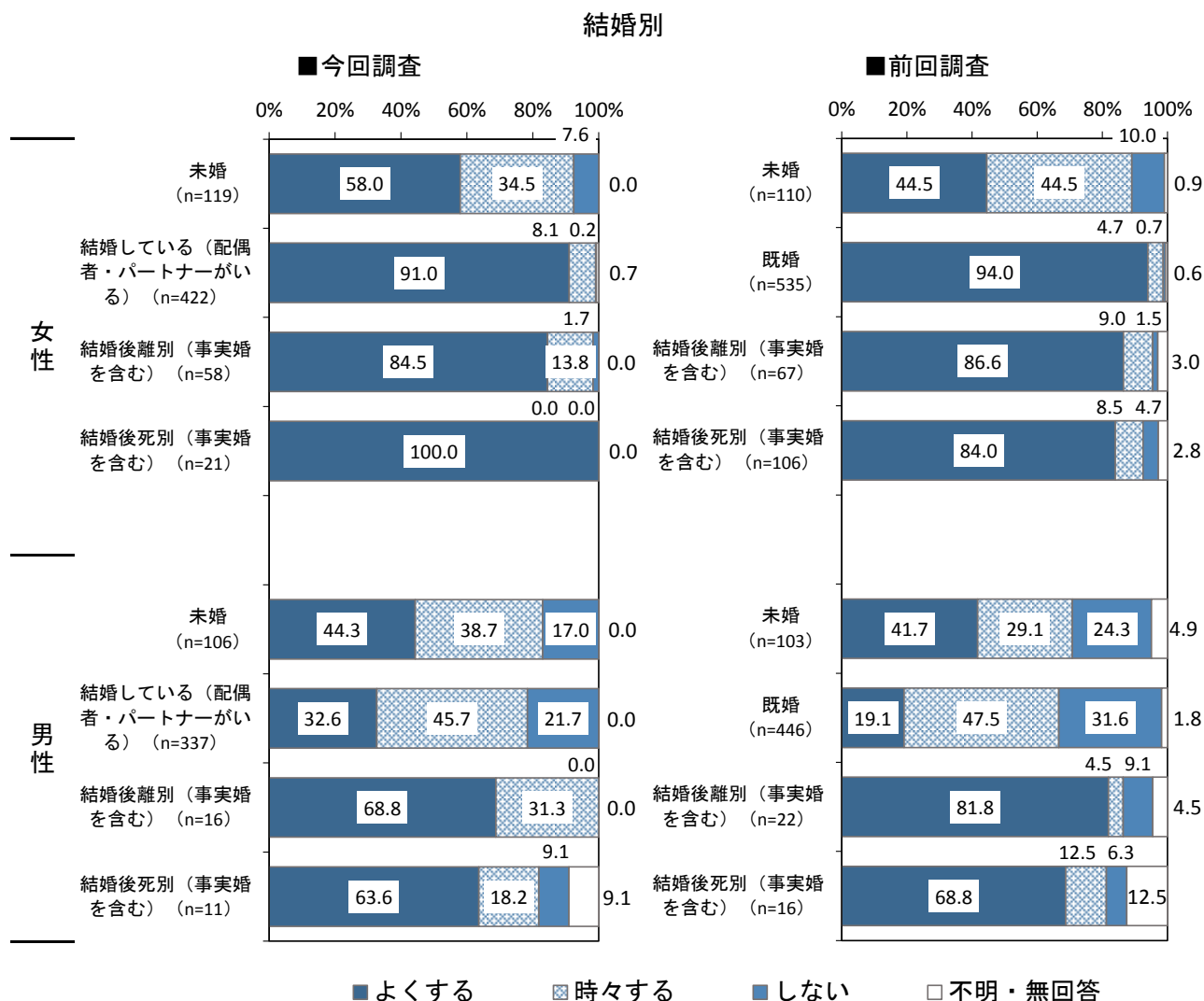
図表 3-3-5 家事の頻度 ②食事の後片づけ
性別・年代別



家事の頻度について、「食事の後片づけ」を結婚別でみると、「よくする」では、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」は女性が91.0%で、男性（32.6%）よりも58.4ポイント高く、性別間で最も差が大きくなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は「未婚」「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-6 家事の頻度 ②食事の後片づけ

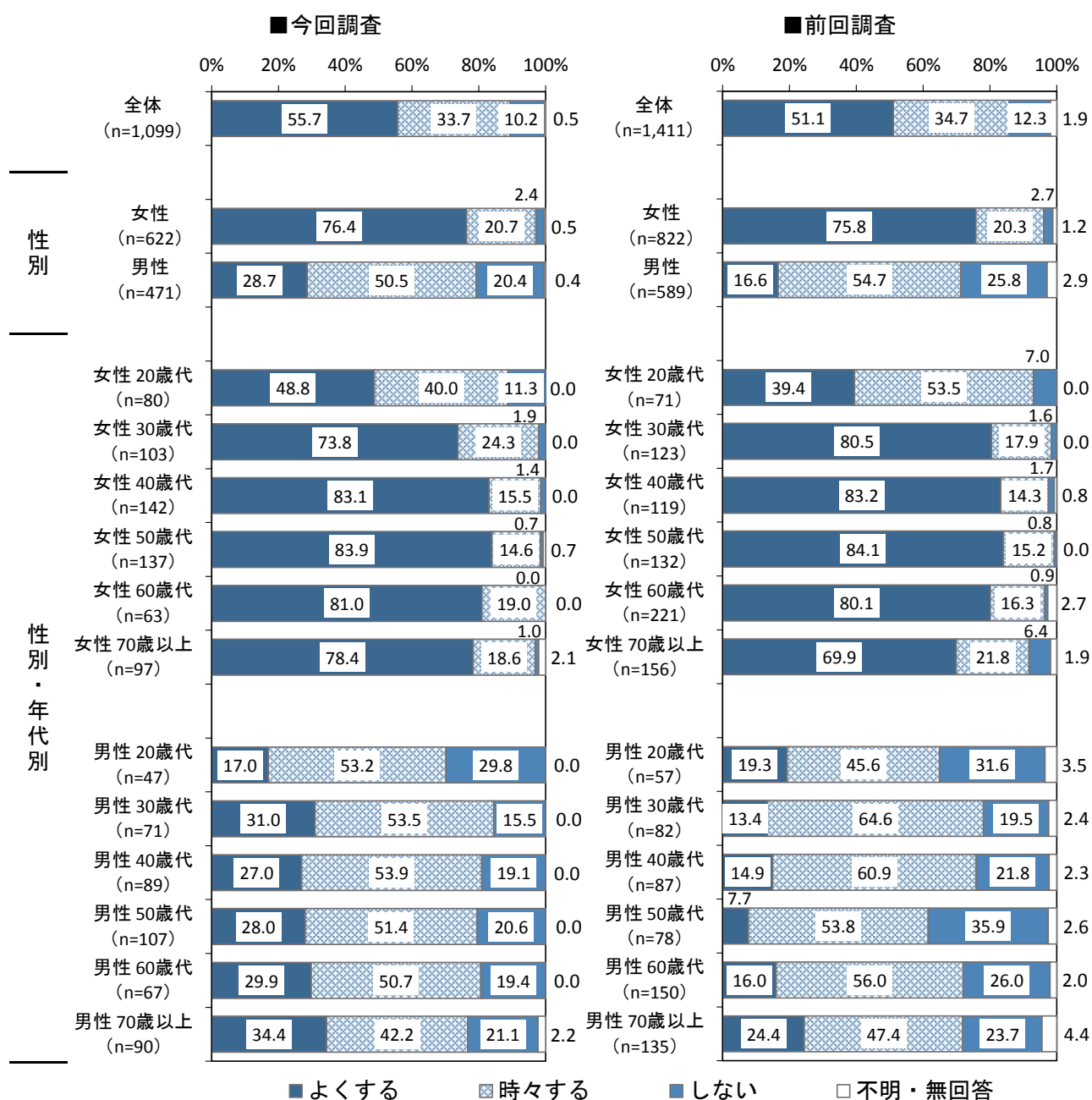


③家の中の掃除

家事の頻度について、「家の中の掃除」を性別・年代別でみると、「よくする」では、女性は20歳代が48.8%で、30歳代以上で7割を超えているのに対し、男性は全ての年代で4割以下となっています。

前回調査と比較すると、「しない」では、男性は全ての年代で前回調査より割合が減少しています。

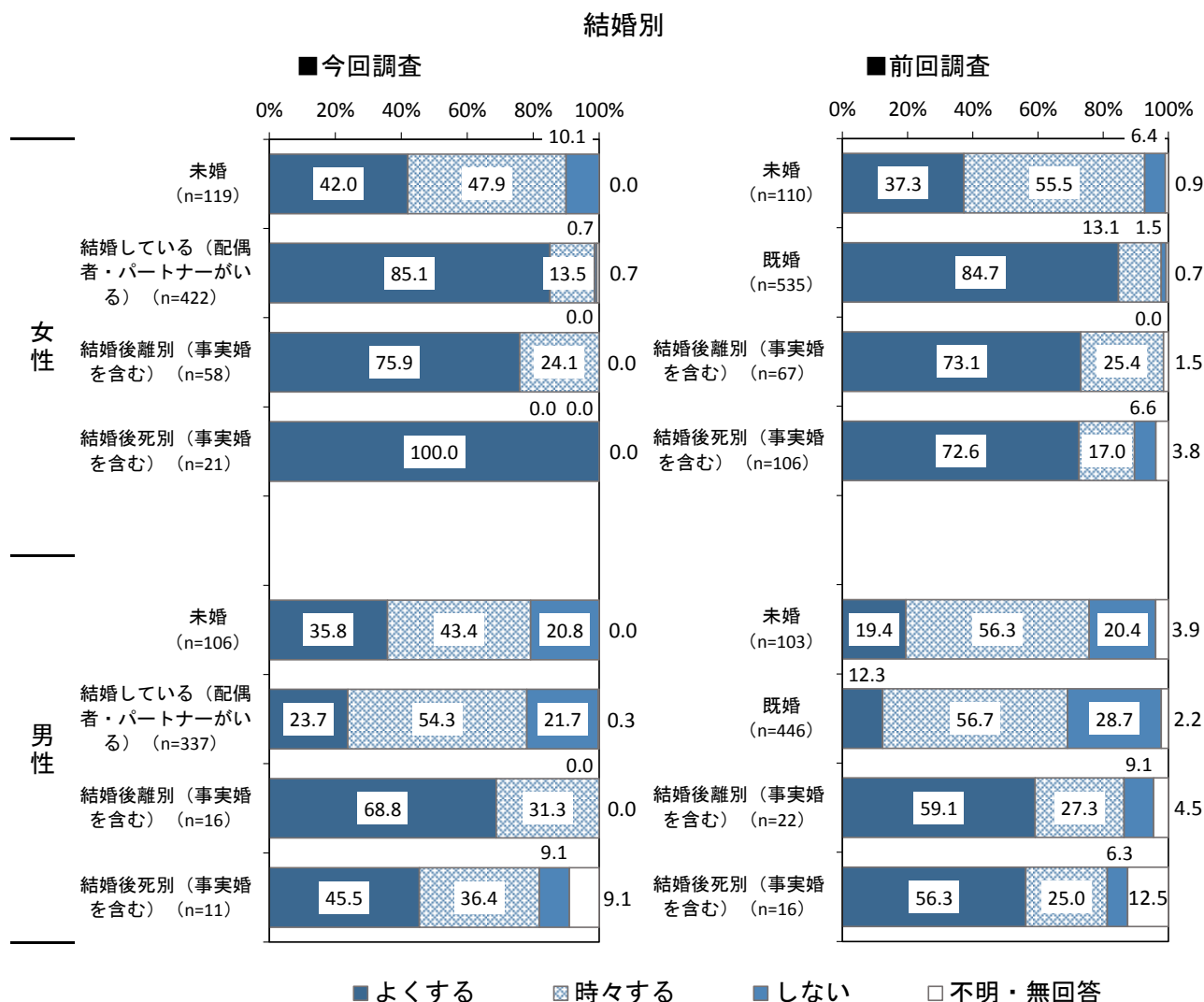
図表 3-3-7 家事の頻度 ③家の中の掃除
性別・年代別



家事の頻度について、「家の中の掃除」を結婚別でみると、「よくする」では、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」は女性が85.1%で、男性（23.7%）よりも61.4ポイント高く、性別間で最も差が大きくなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性の「結婚後死別（事実婚を含む）」のみ前回調査より割合が減少しています。

図表 3-3-8 家事の頻度 ③家の中の掃除

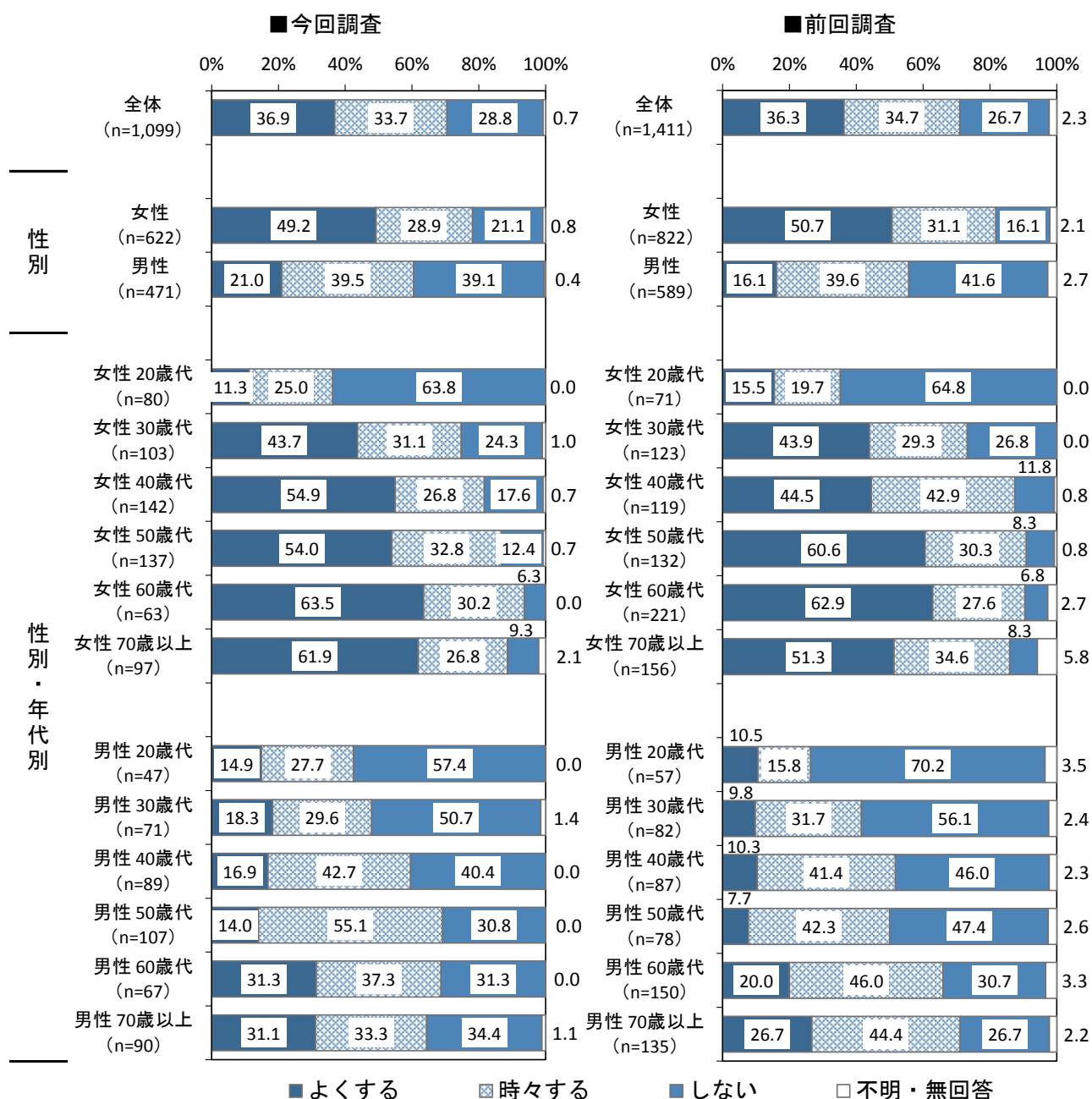


④家の外周りの掃除

家事の頻度について、「家の外周りの掃除」を性別・年代別でみると、「よくする」では、20歳代を除く全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は全ての年代で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-9 家事の頻度 ④家の外周りの掃除
性別・年代別

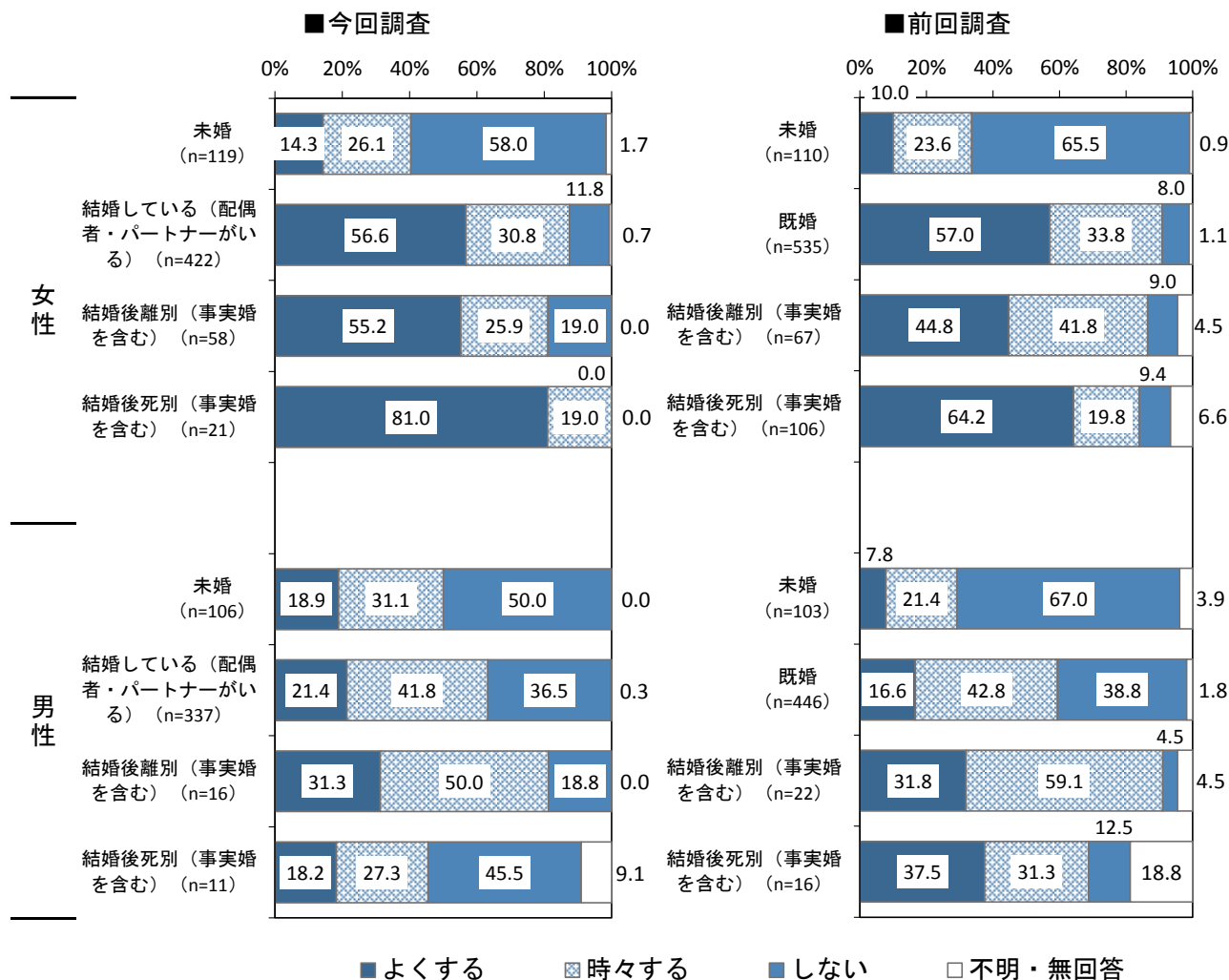


家事の頻度について、「家の外周りの掃除」を結婚別でみると、「よくする」では、「未婚」を除く全ての結婚別で女性の割合が男性よりも高くなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は「未婚」「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」で、前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-10 家事の頻度 ④家の外周りの掃除

結婚別



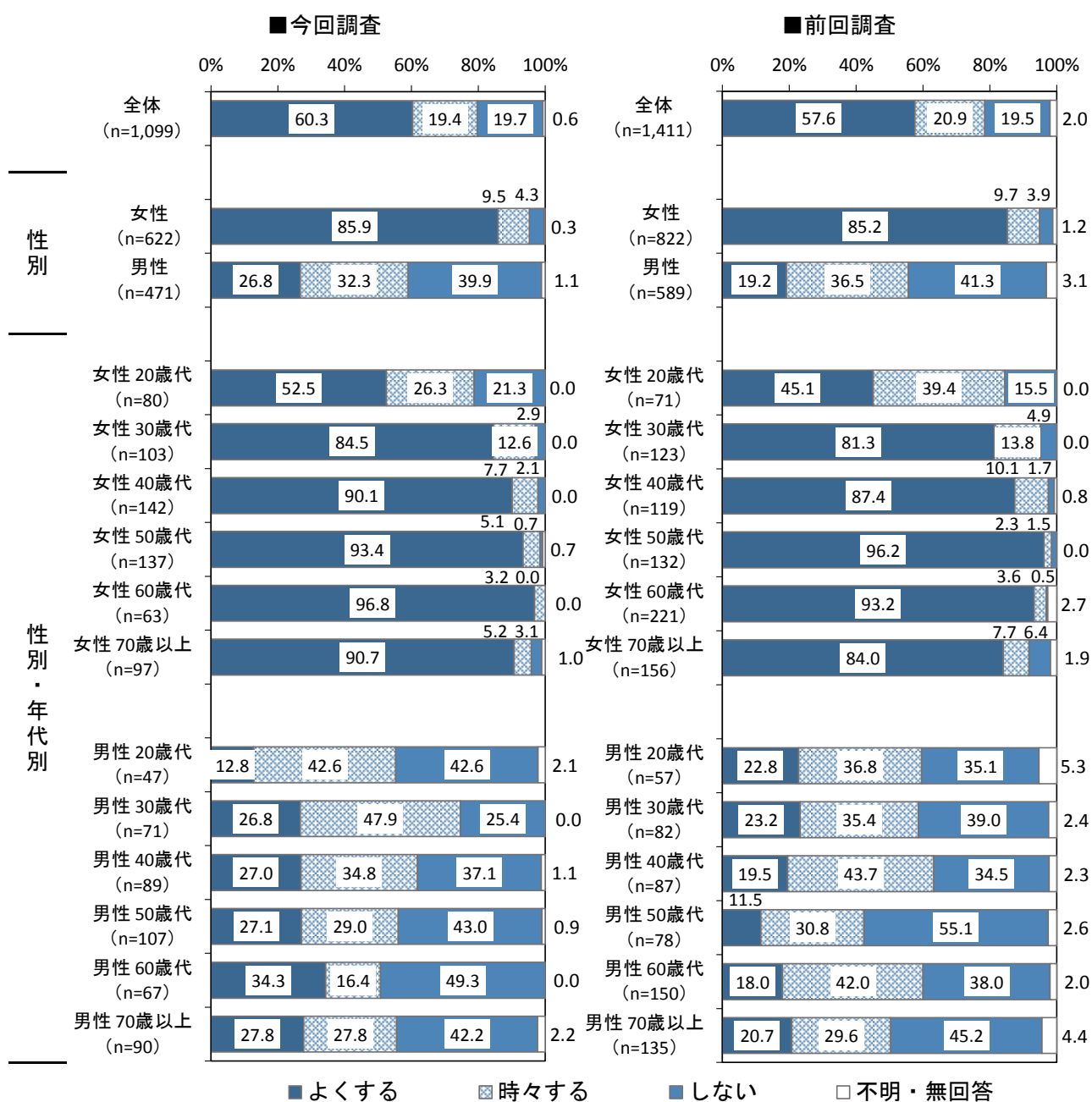
⑤洗濯

家事の頻度について、「洗濯」を性別・年代別でみると、「よくする」では、女性は20歳代が52.5%で、30歳代以上で8割を超えているのに対し、男性は全ての年代で4割以下となっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は20歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-11 家事の頻度 ⑤洗濯

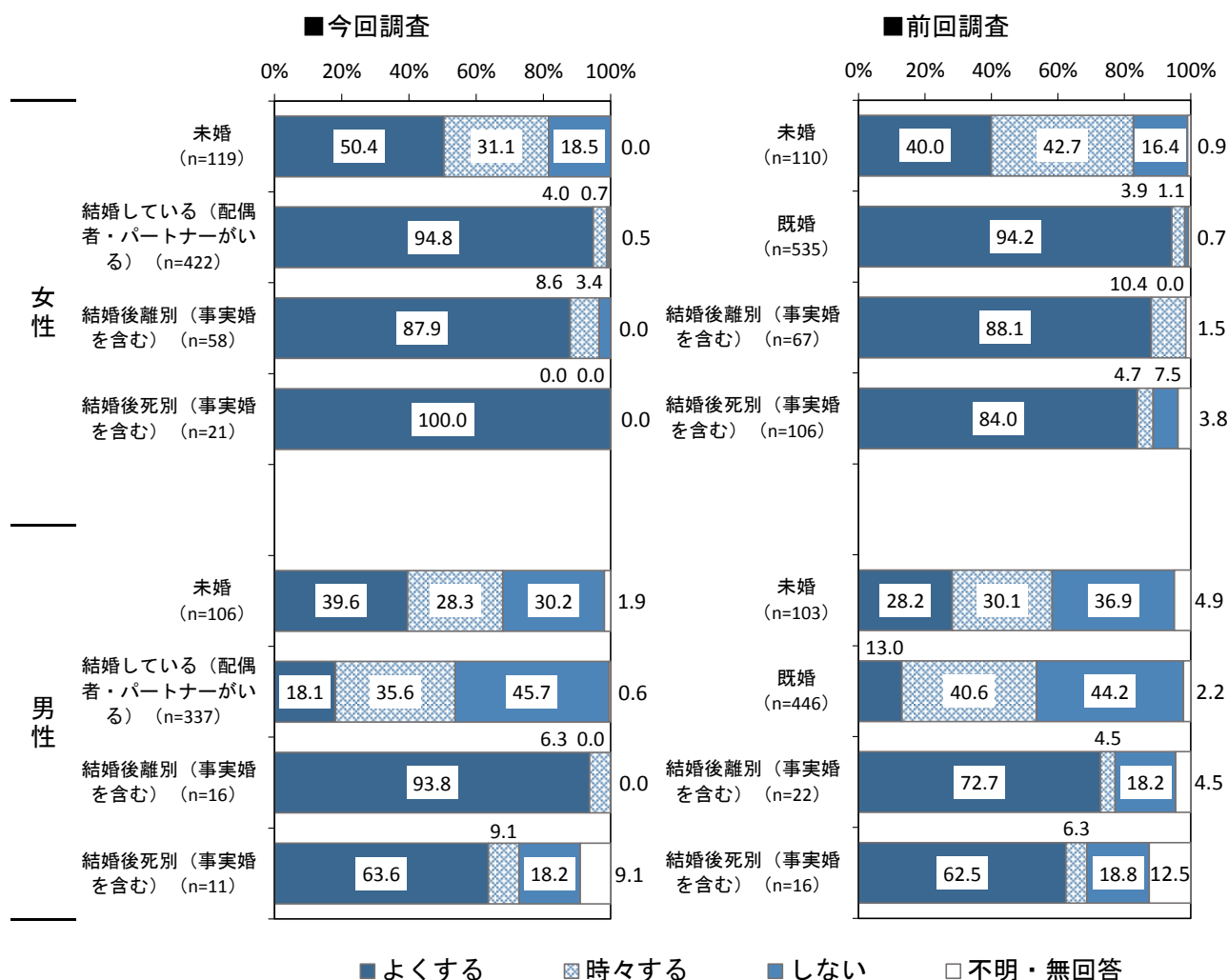
性別・年代別



家事の頻度について、洗濯を結婚別でみると、「よくする」では、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」は女性が94.8%で、男性（18.1%）よりも76.7ポイント高く、性別間で最も差が大きくなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は全ての結婚別で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-12 家事の頻度 ⑤洗濯
結婚別

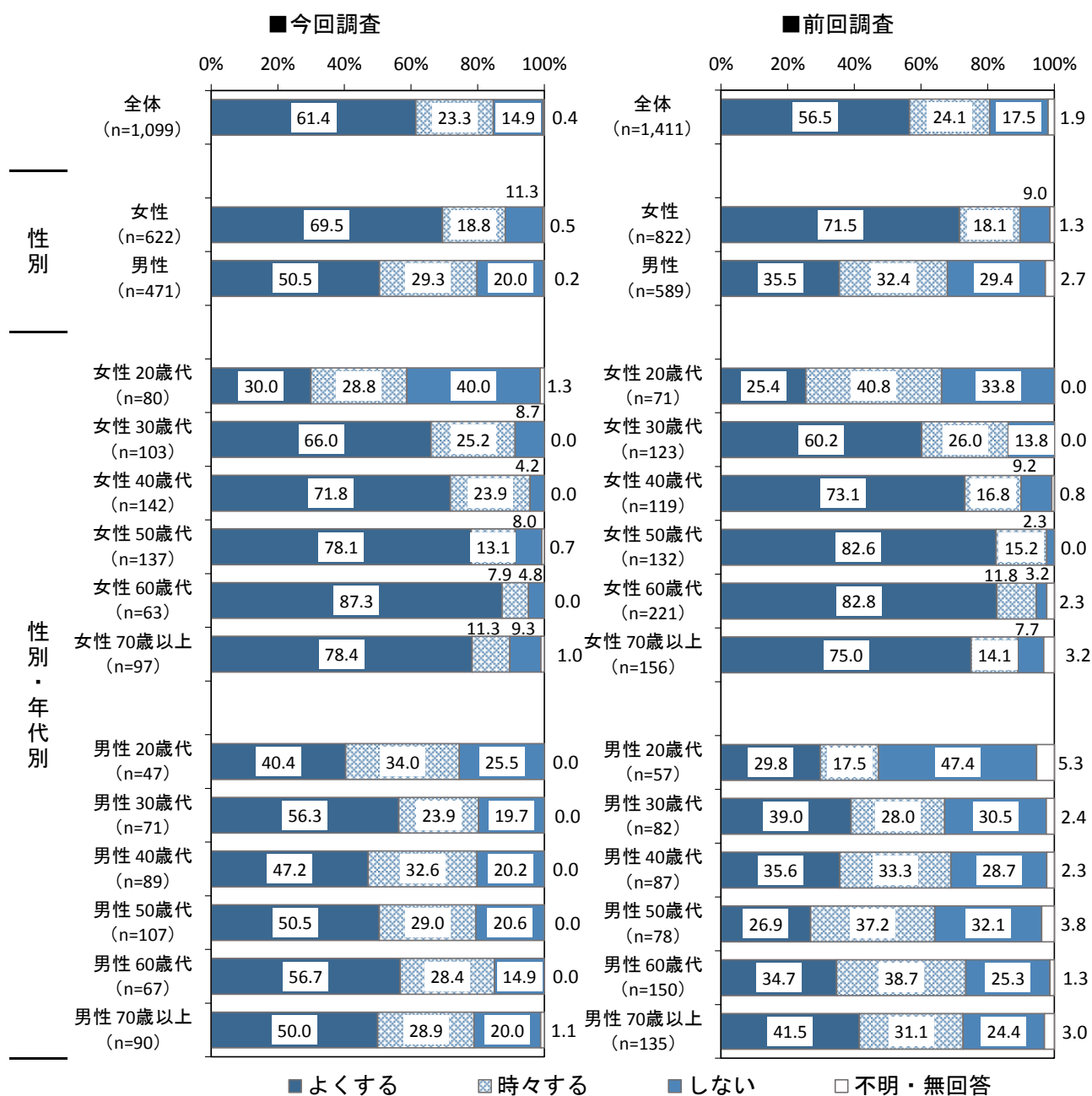


⑥ごみ収集の日にごみを出す

家事の頻度について、「ごみ収集の日にごみを出す」を性別・年代別でみると、「よくする」では、20歳代を除く全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は全ての年代で前回調査より割合が増加しています。

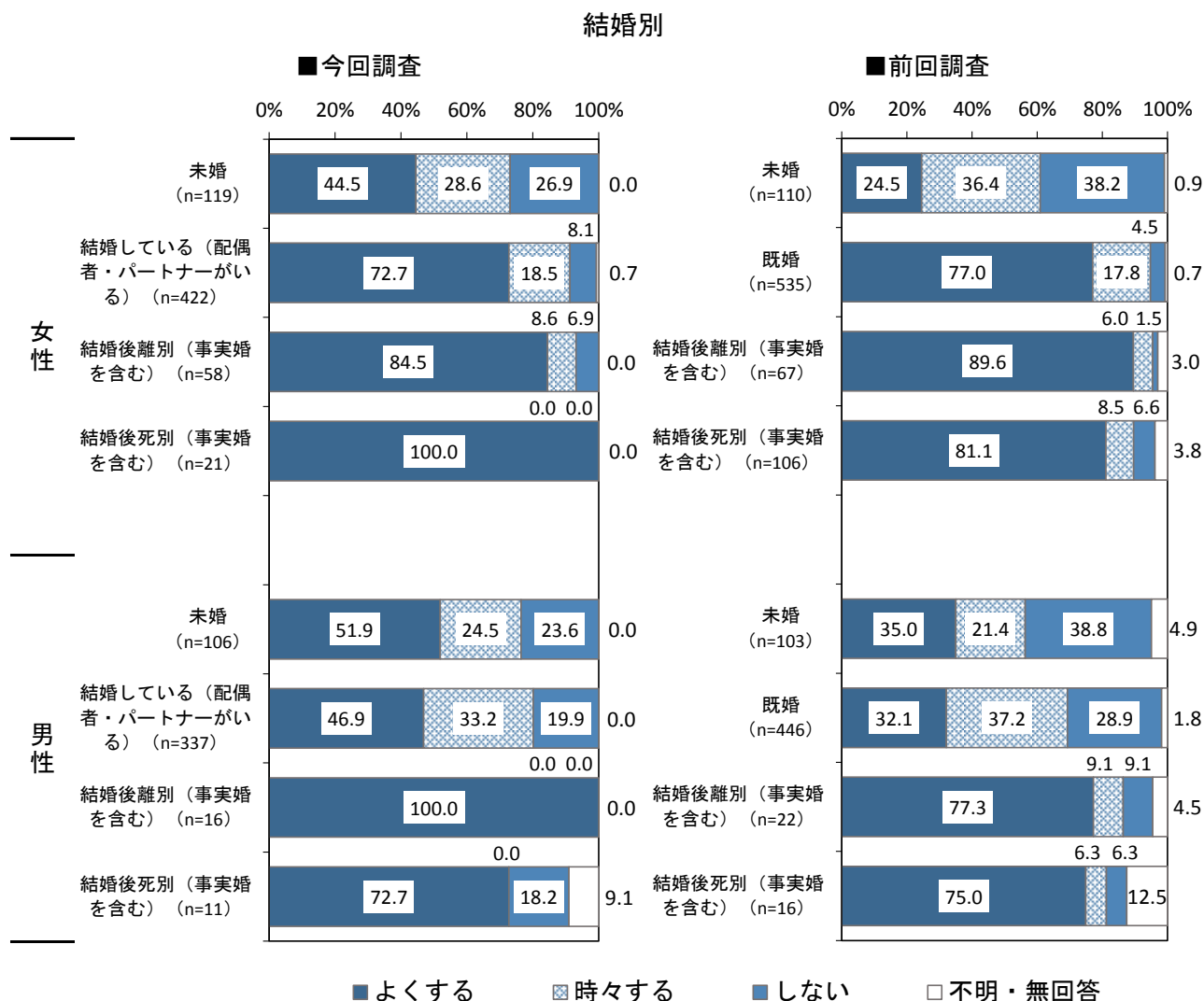
図表 3-3-13 家事の頻度 ⑥ごみ収集の日にごみを出す
性別・年代別



家事の頻度について、「ごみ収集の日にごみを出す」を結婚別でみると、「よくする」では、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」「結婚後死別（事実婚を含む）」で女性の割合が男性よりも高くなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は「結婚後死別（事実婚を含む）」を除く全ての結婚別で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-14 家事の頻度 ⑥ごみ収集の日にごみを出す

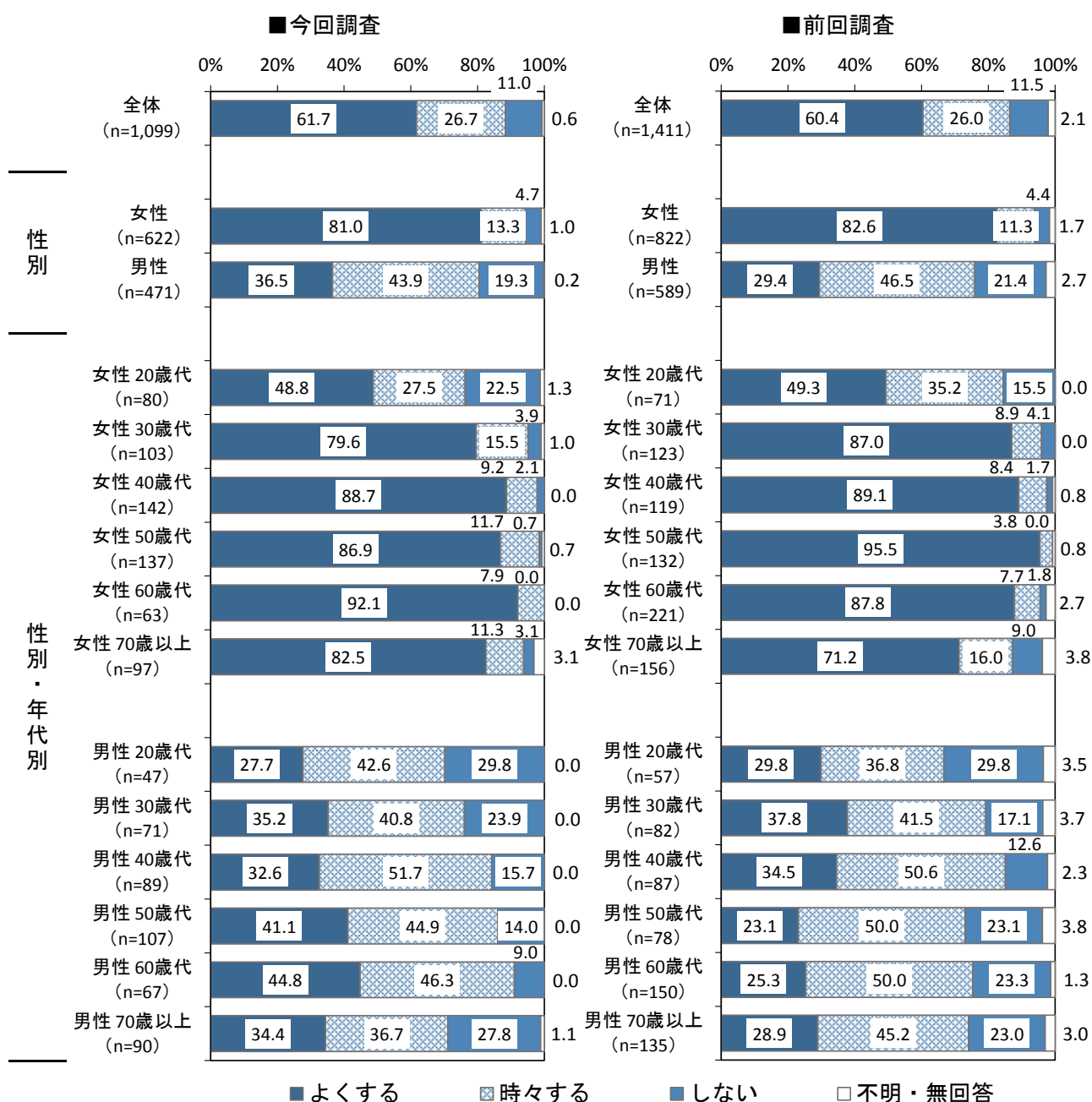


⑦日常の買い物

家事の頻度について、「日常の買い物」を性別・年代別でみると、「よくする」では、女性は20歳代が48.8%で、30歳代以上で7割を超えているのに対し、男性は全ての年代で5割以下となっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、女性は60歳代以上、男性は50歳代以上で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-15 家事の頻度 ⑦日常の買い物
性別・年代別

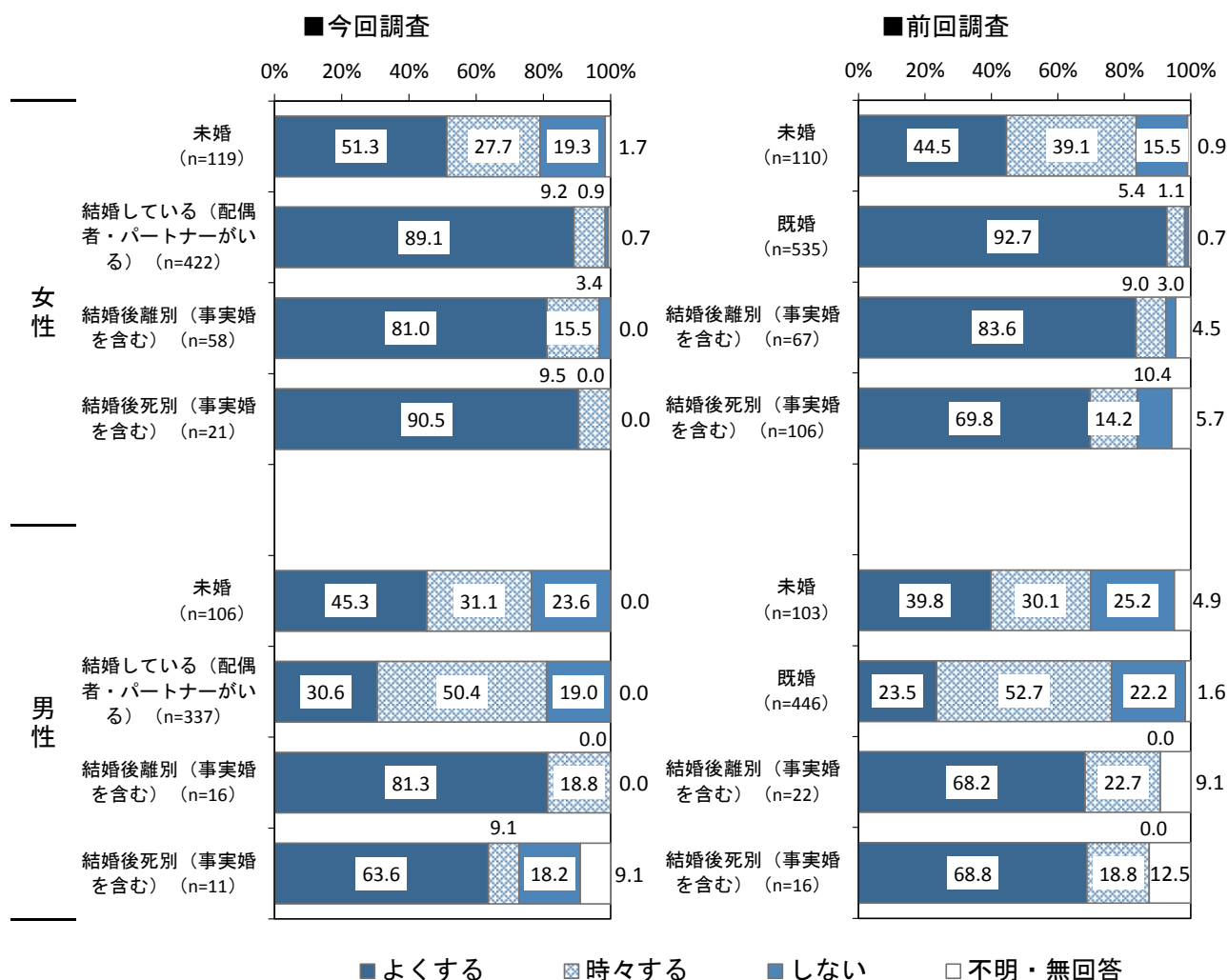


家事の頻度について、「日常の買い物」を結婚別でみると、「よくする」では、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」は女性が89.1%で、男性（30.6%）よりも58.5ポイント高く、性別間で最も差が大きくなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は「結婚後死別（事実婚を含む）」を除く全ての結婚別で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-16 家事の頻度 ⑦日常の買い物

結婚別

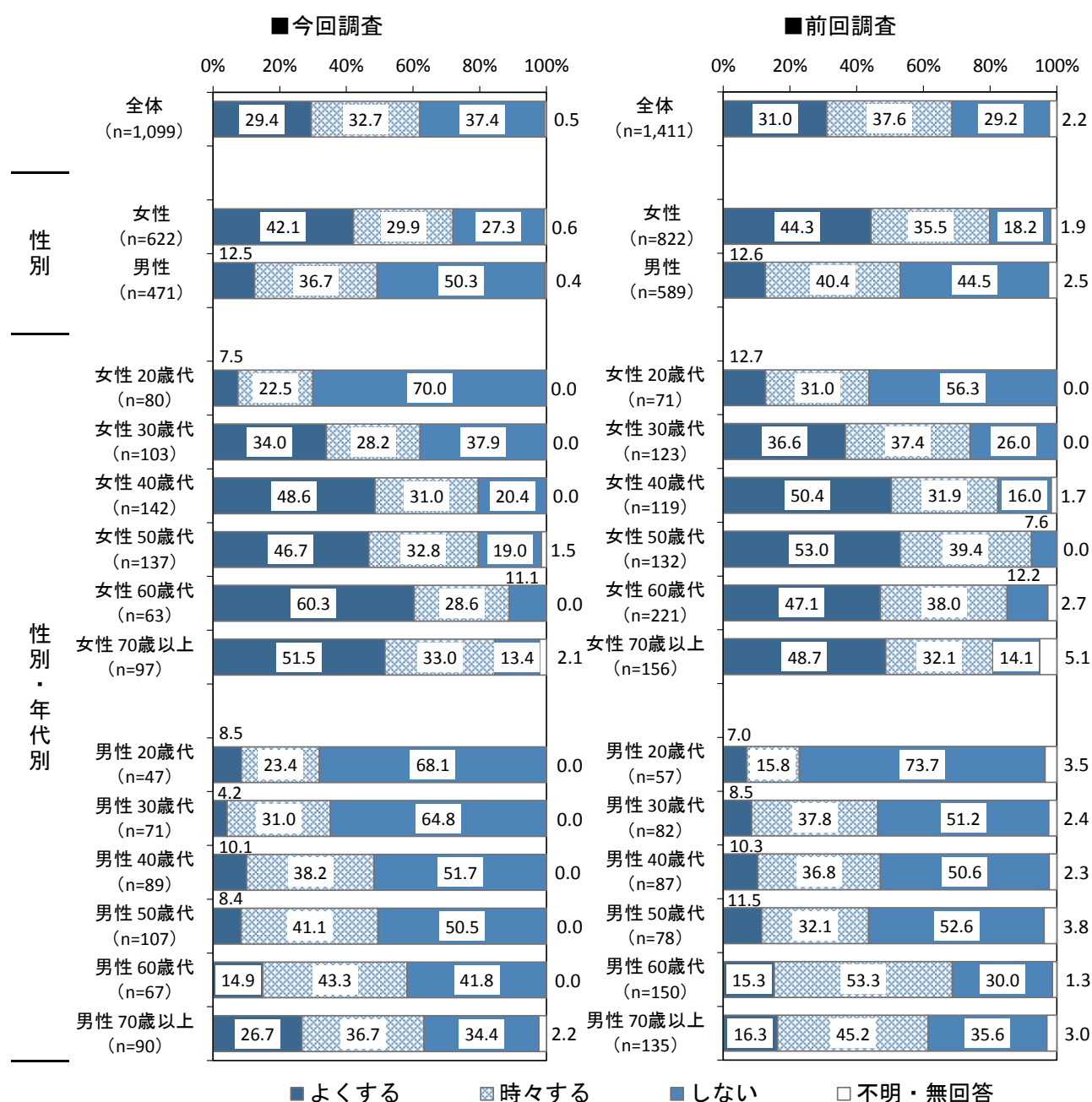


⑧近所づきあいや地域活動への参加

家事の頻度について、「近所づきあいや地域活動への参加」を性別・年代別でみると、「しない」では、女性・男性いずれも年代が上がるにつれて概ね割合が減少しています。また、「よくする」では、女性では60歳代が60.3%で最も高く、男性では70歳以上が26.7%で最も高くなっており、20歳代を除く全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、女性は50歳代以下で、男性は30歳代から60歳代で前回調査より割合が減少しています。

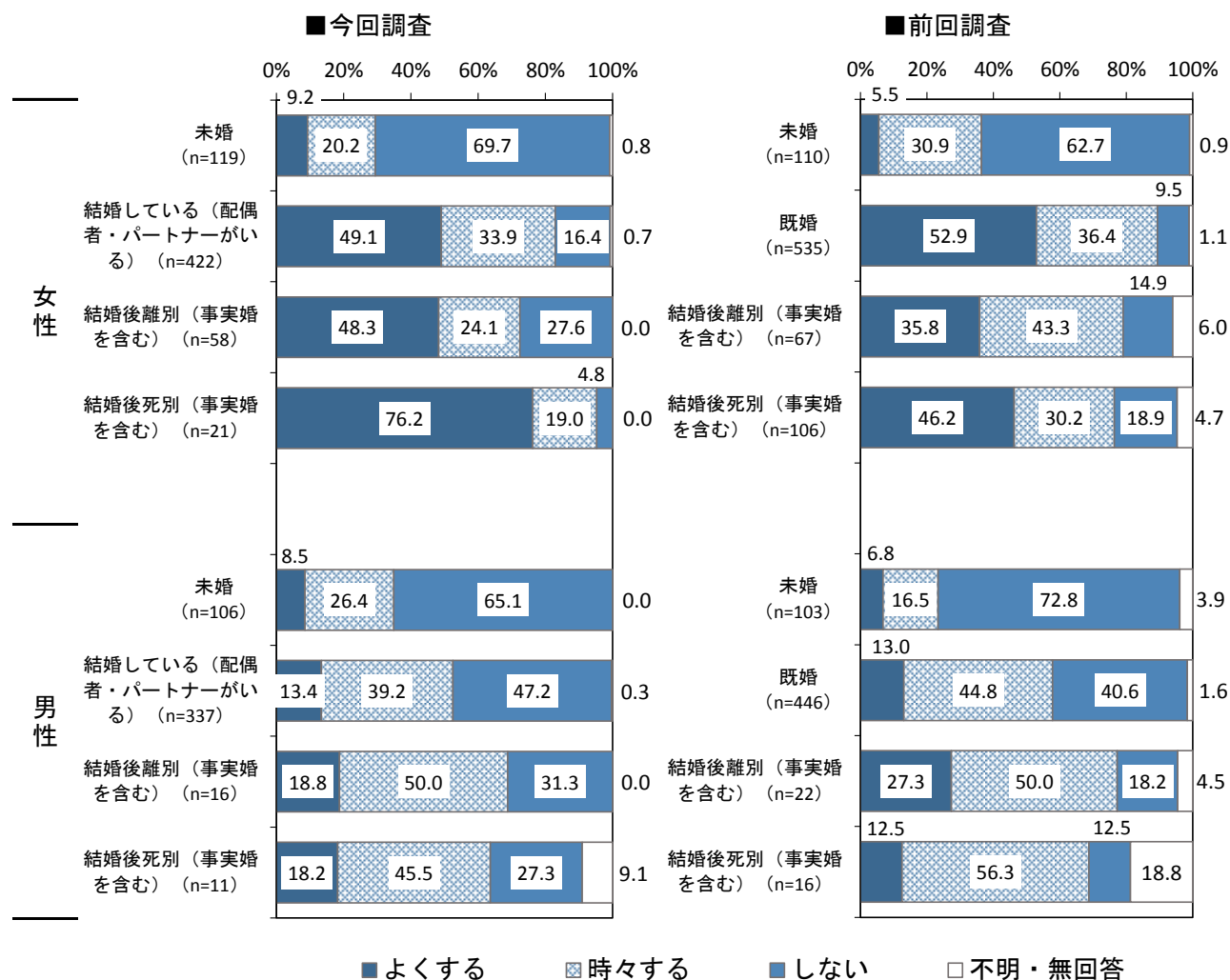
図表 3-3-17 家事の頻度 ⑧近所づきあいや地域活動への参加
性別・年代別



家事の頻度について、「近所づきあいや地域活動への参加」を結婚別でみると、「よくする」では、全ての結婚別で女性の割合が男性よりも高くなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、女性は「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」で、男性は「結婚後離別（事実婚を含む）」で前回調査より割合が減少しています。

図表 3-3-18 家事の頻度 ⑧近所づきあいや地域活動への参加
結婚別

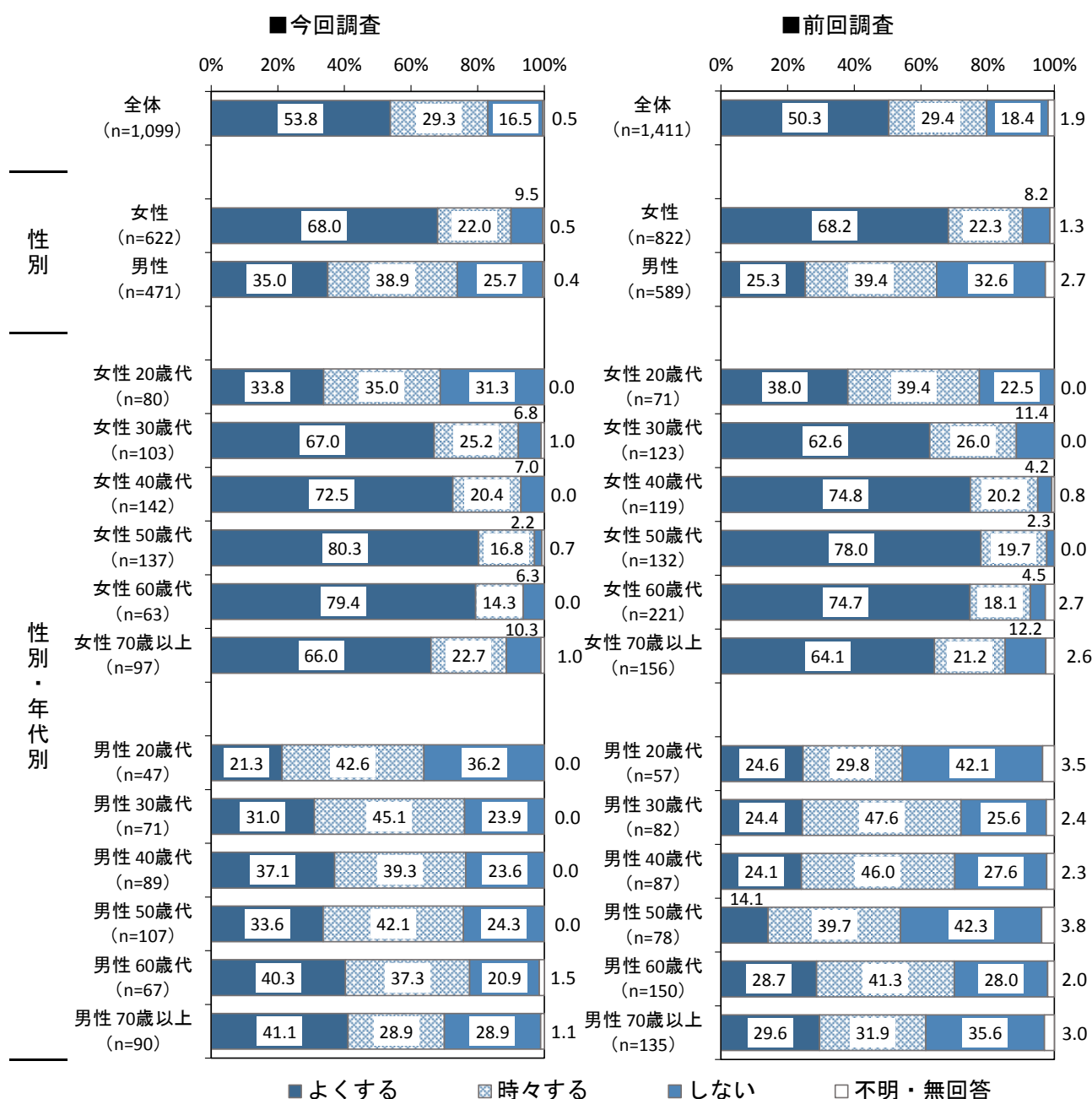


⑨風呂の掃除

家事の頻度について、「風呂の掃除」を性別・年代別でみると、「よくする」では、女性は20歳代が33.8%で、30歳代以上で6割を超えているのに対し、男性は全ての年代で5割以下となっています。

前回調査と比較すると、「しない」では、男性は全ての年代で前回調査より割合が減少しています。

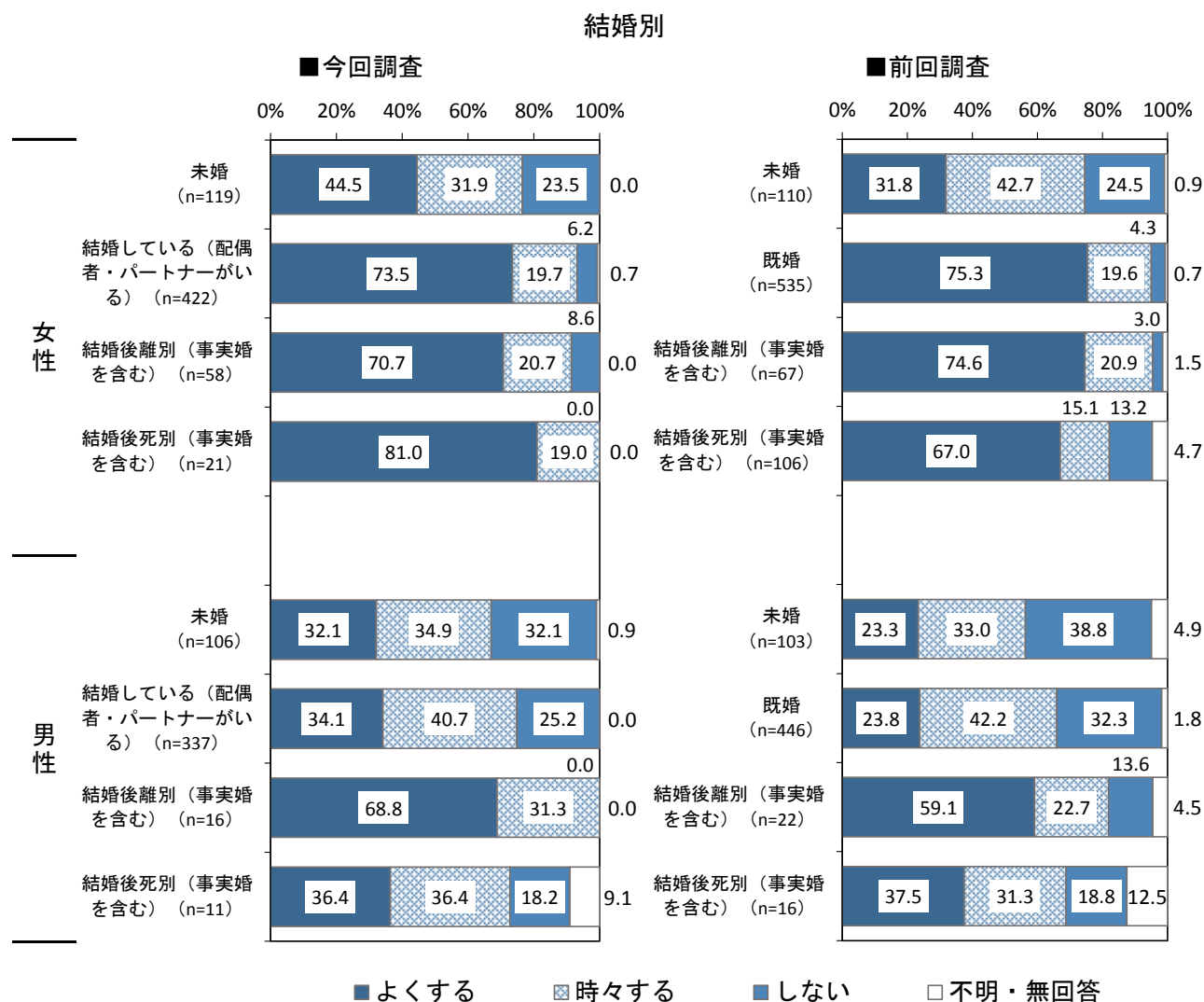
図表 3-3-19 家事の頻度 ⑨風呂の掃除
性別・年代別



家事の頻度について、「風呂の掃除」を結婚別でみると、「よくする」では、全ての結婚別で女性の割合が男性よりも高くなっています。

前回調査と比較すると、「しない」では、男性は全ての結婚別で前回調査より割合が減少しています。

図表 3-3-20 家事の頻度 ⑨風呂の掃除

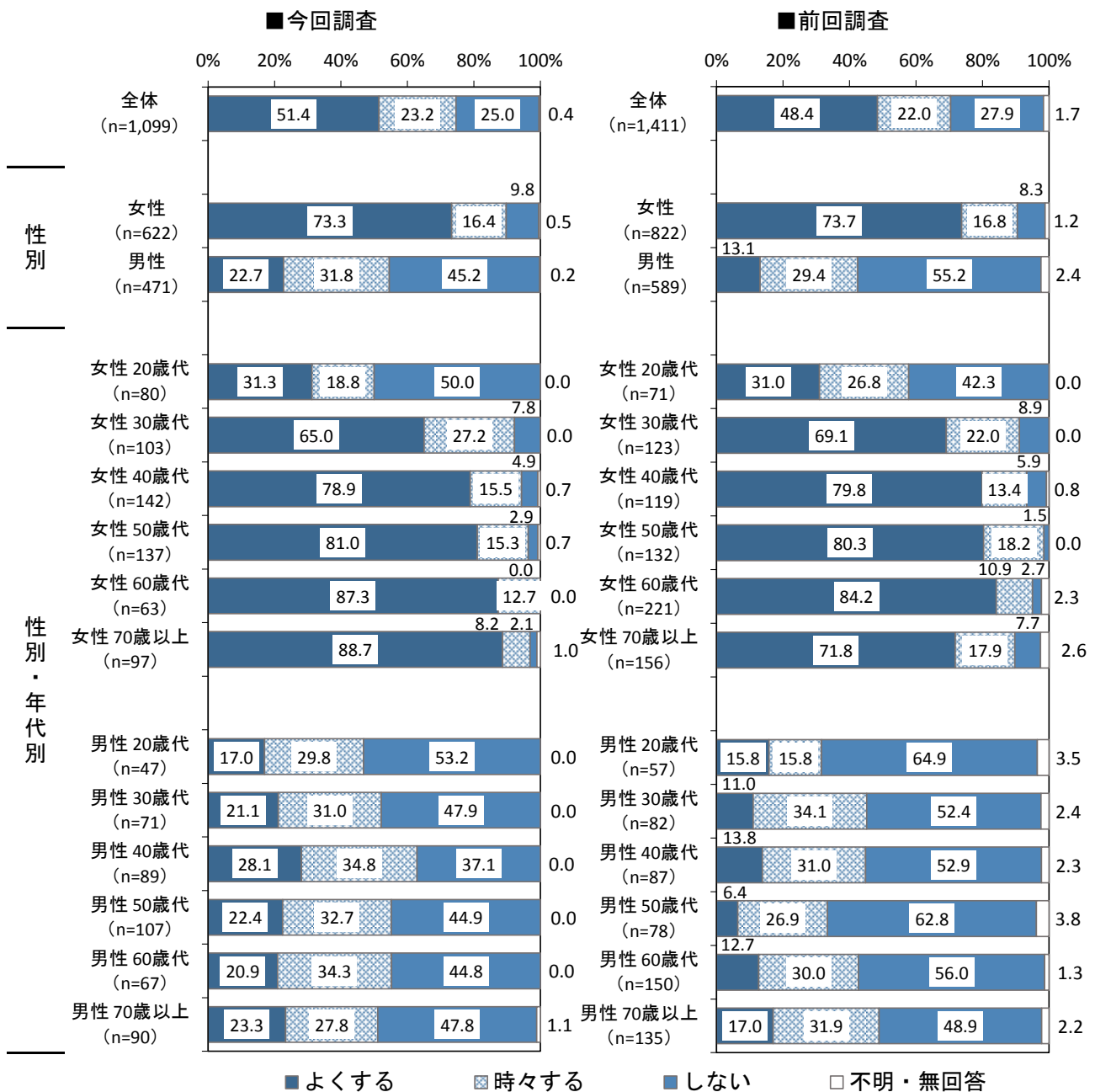


⑩トイレの掃除

家事の頻度について、「トイレの掃除」を性別・年代別でみると、「よくする」では、女性は20歳代が31.3%で、30歳代以上で6割を超えているのに対し、男性は全ての年代で3割以下となっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は全ての年代で前回調査より割合が増加しています。

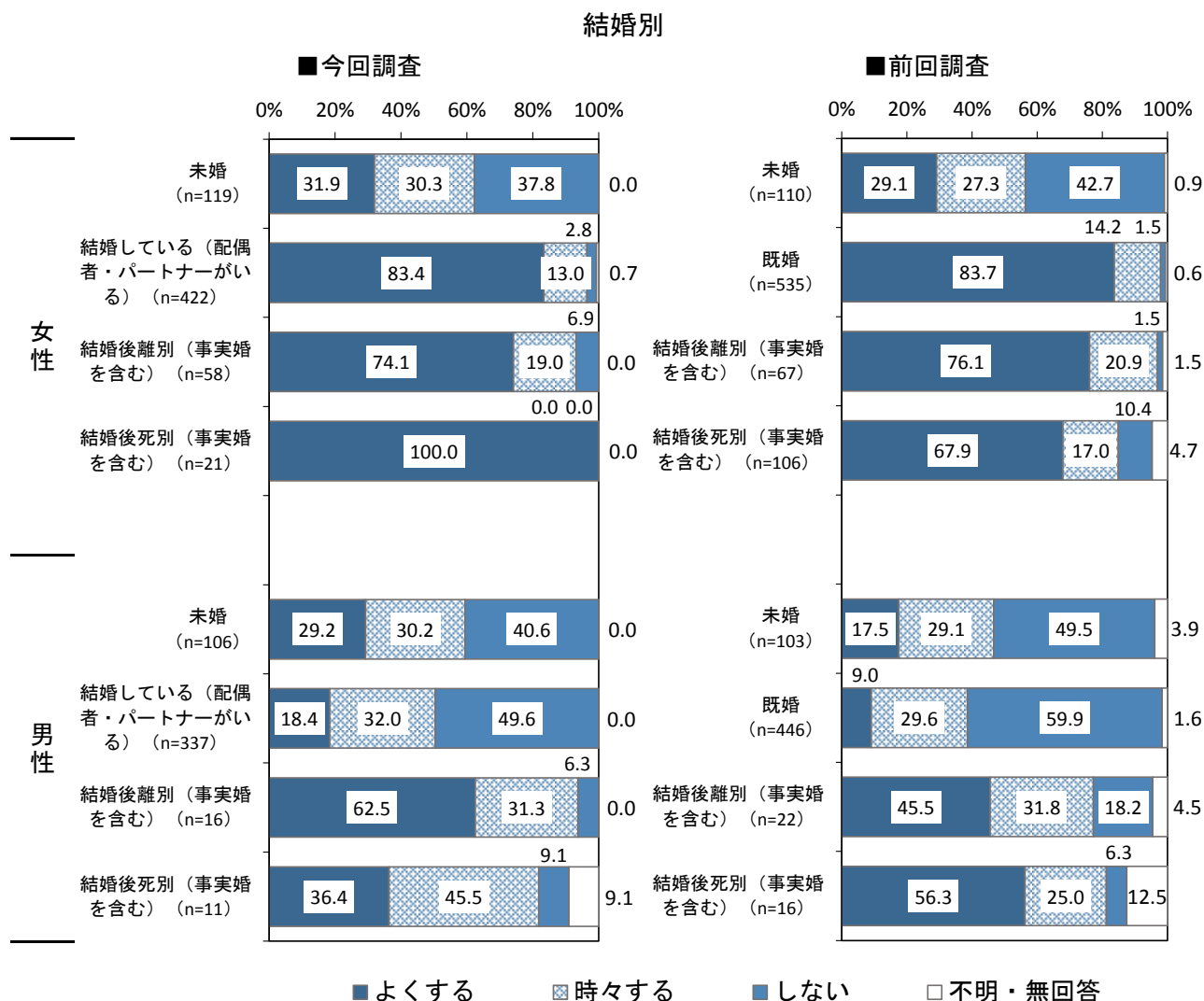
図表 3-3-21 家事の頻度 ⑩トイレの掃除
性別・年代別



家事の頻度について、「トイレの掃除」を結婚別でみると、「よくする」では、「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」は女性が83.4%で、男性（18.4%）よりも65.0ポイント高く、性別間で最も差が大きくなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、男性は「結婚後死別（事実婚を含む）」を除く全ての結婚別で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-22 家事の頻度 ⑩トイレの掃除



(2) 家事・育児・介護のために1日に使う時間

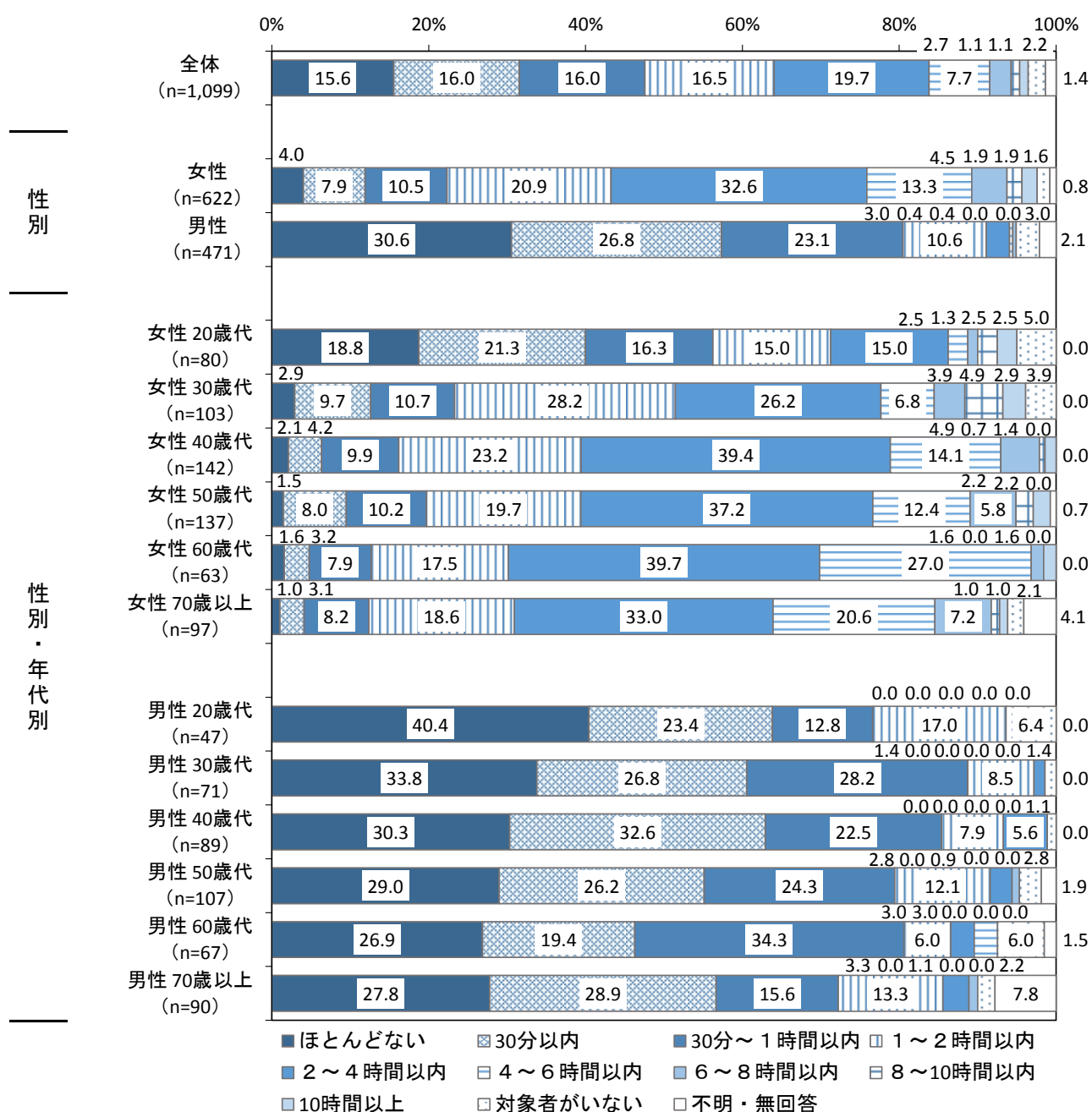
問 13	あなたが家事・育児・介護のために1日に使う時間はどれくらいですか。平日と休日について、お答えください。（それぞれに○は1つだけ）

①平日の家事

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「平日の家事」では、性別でみると、女性は「2～4時間以内」が32.6%で最も高く、男性は「ほとんどない」が30.6%で最も高くなっています。

性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-23 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ①平日の家事

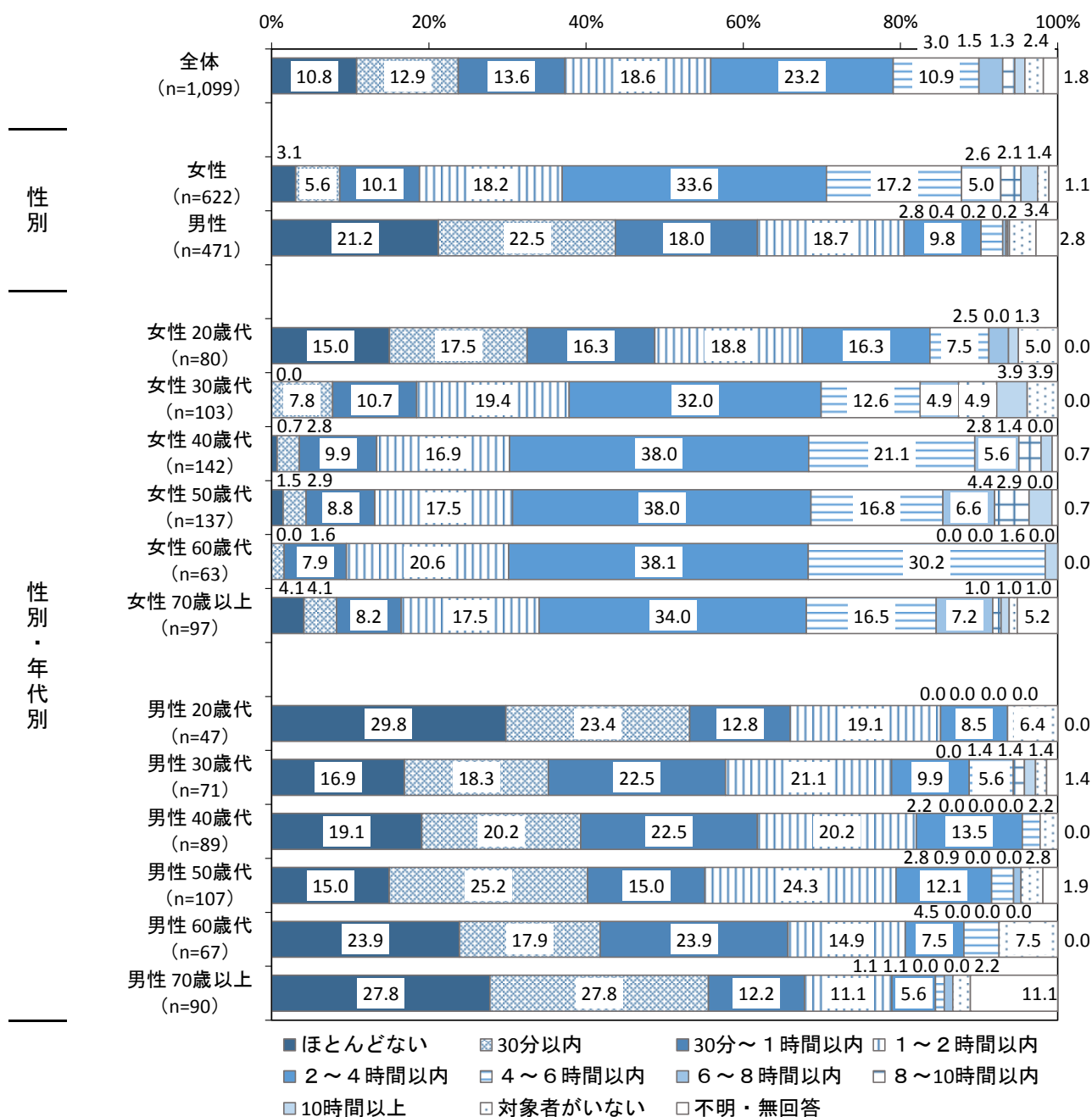


②休日の家事

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「休日の家事」では、性別でみると、女性は「2～4時間以内」が33.6%で最も高く、男性は「30分以内」が22.5%で最も高くなっています。

性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-24 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ②休日の家事

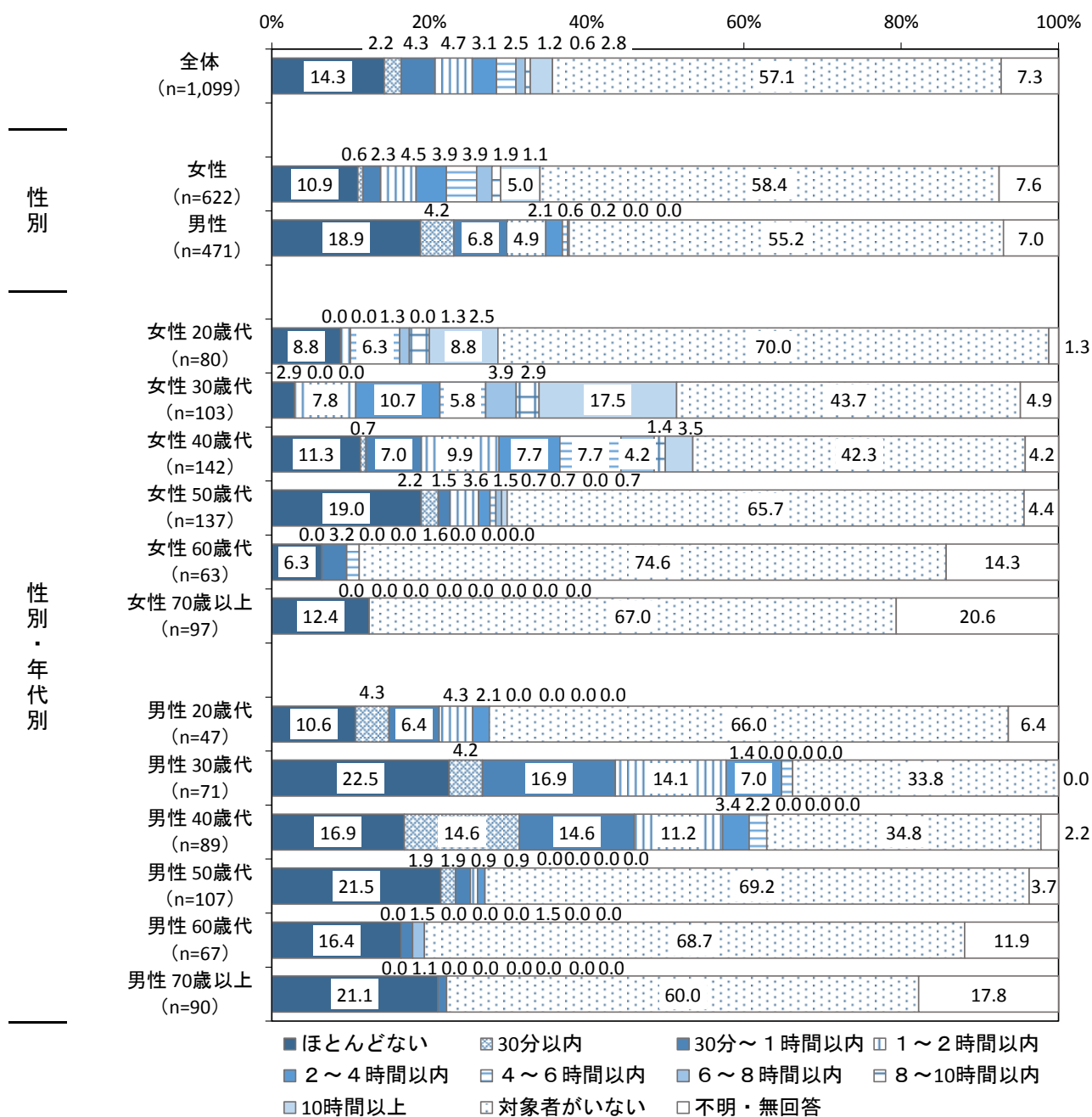


③平日の育児

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「平日の育児」では、性別で見ると、女性・男性いずれも「対象者がいない」の割合が最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が高くなっています。

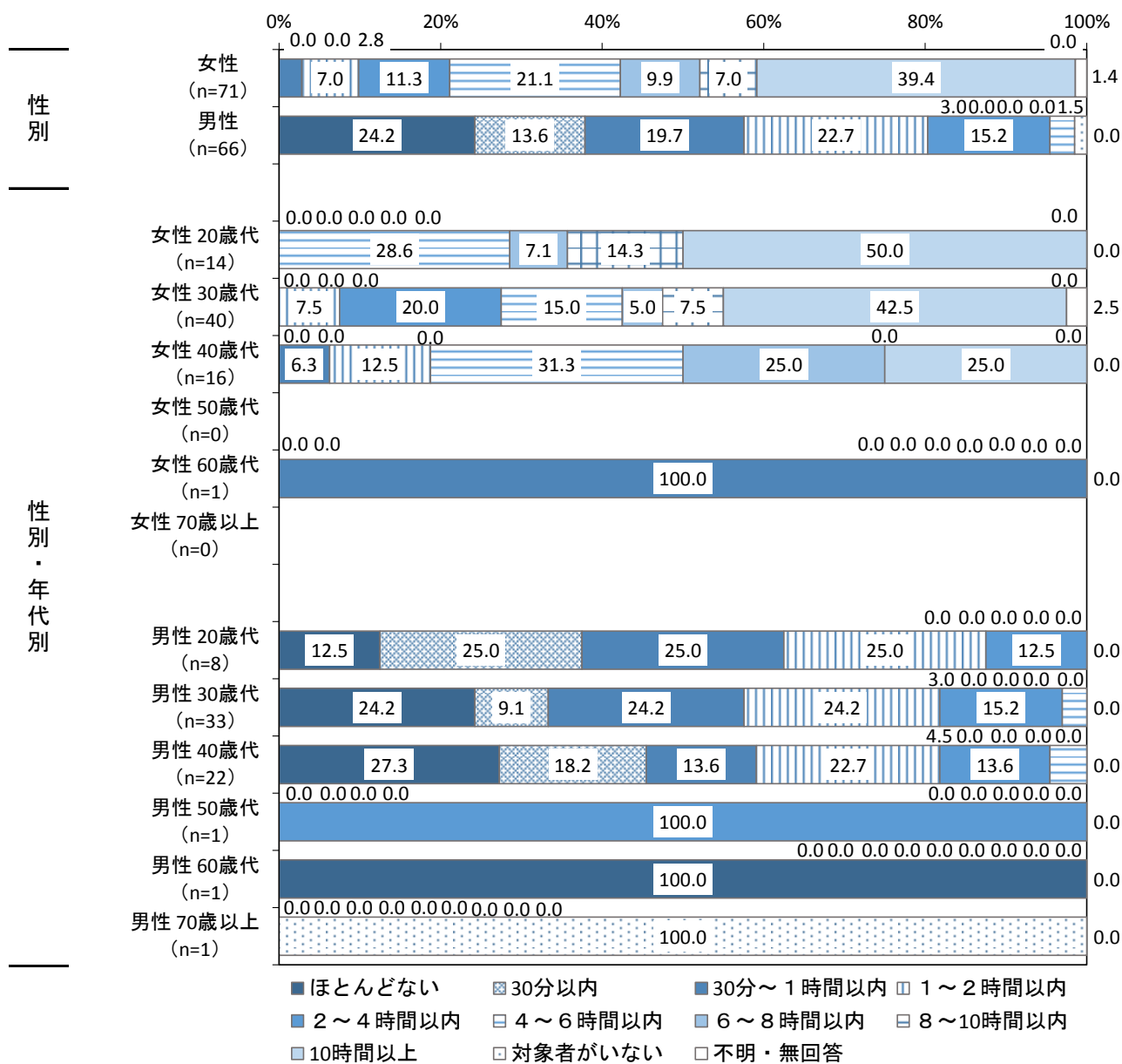
性別・年代別で見ると、「ほとんどない」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-25 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ③平日の育児



家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「平日の育児」を未就学児の子どもがいる人限定（問5で「3歳未満」「3歳以上の未就学児」を回答した人）でみると、女性では「10時間以上」が39.4%で最も高く、男性では「ほとんどない」が24.2%で最も高くなっており、性別・年代別でみると、「ほとんどない」は、40歳代以下で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-26 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ③平日の育児
未就学児の子どもがいる人 性別・年齢別

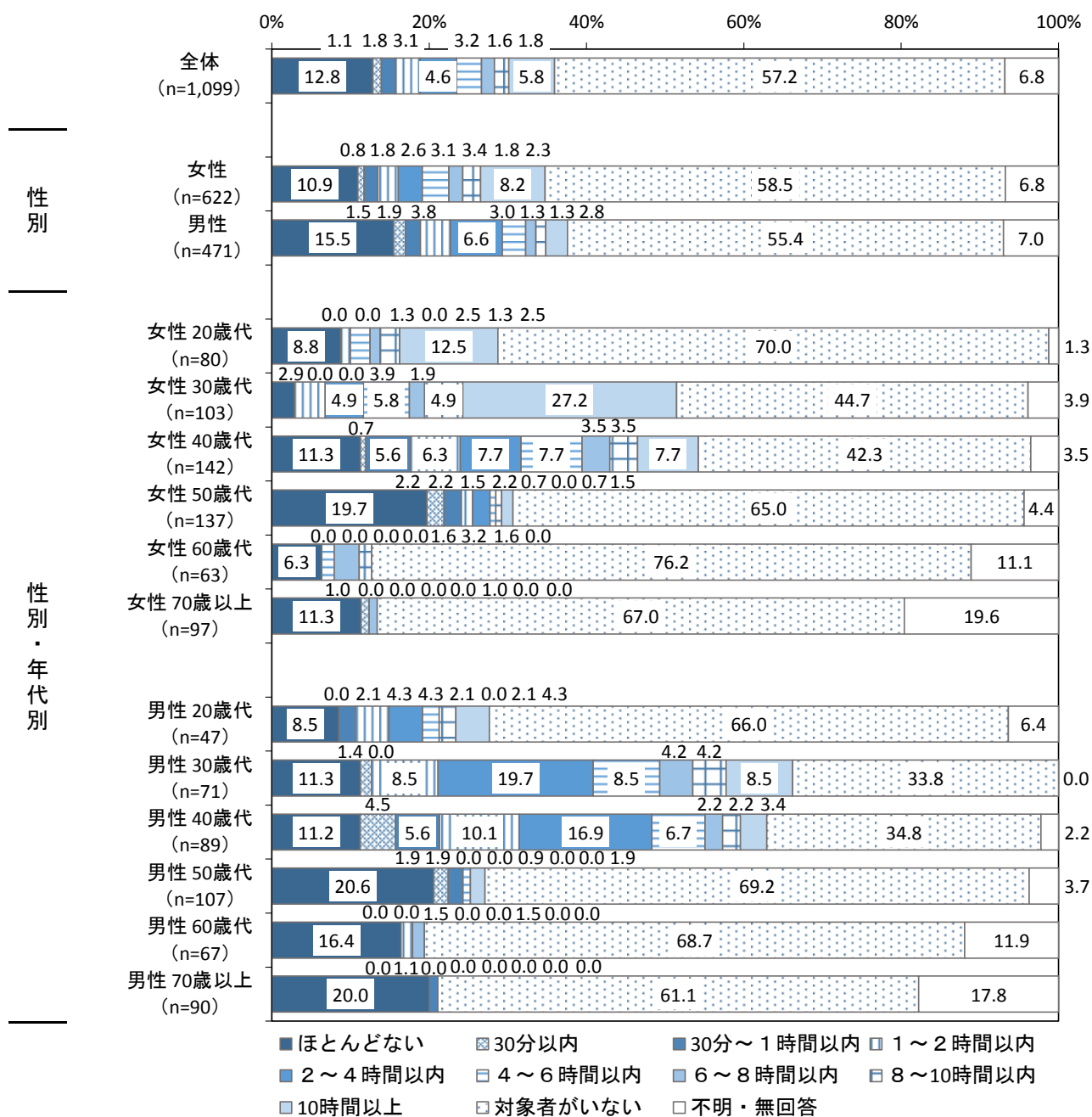


④休日の育児

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「休日の育児」では、性別で見ると、女性・男性いずれも「対象者がいない」の割合が最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が高くなっています。

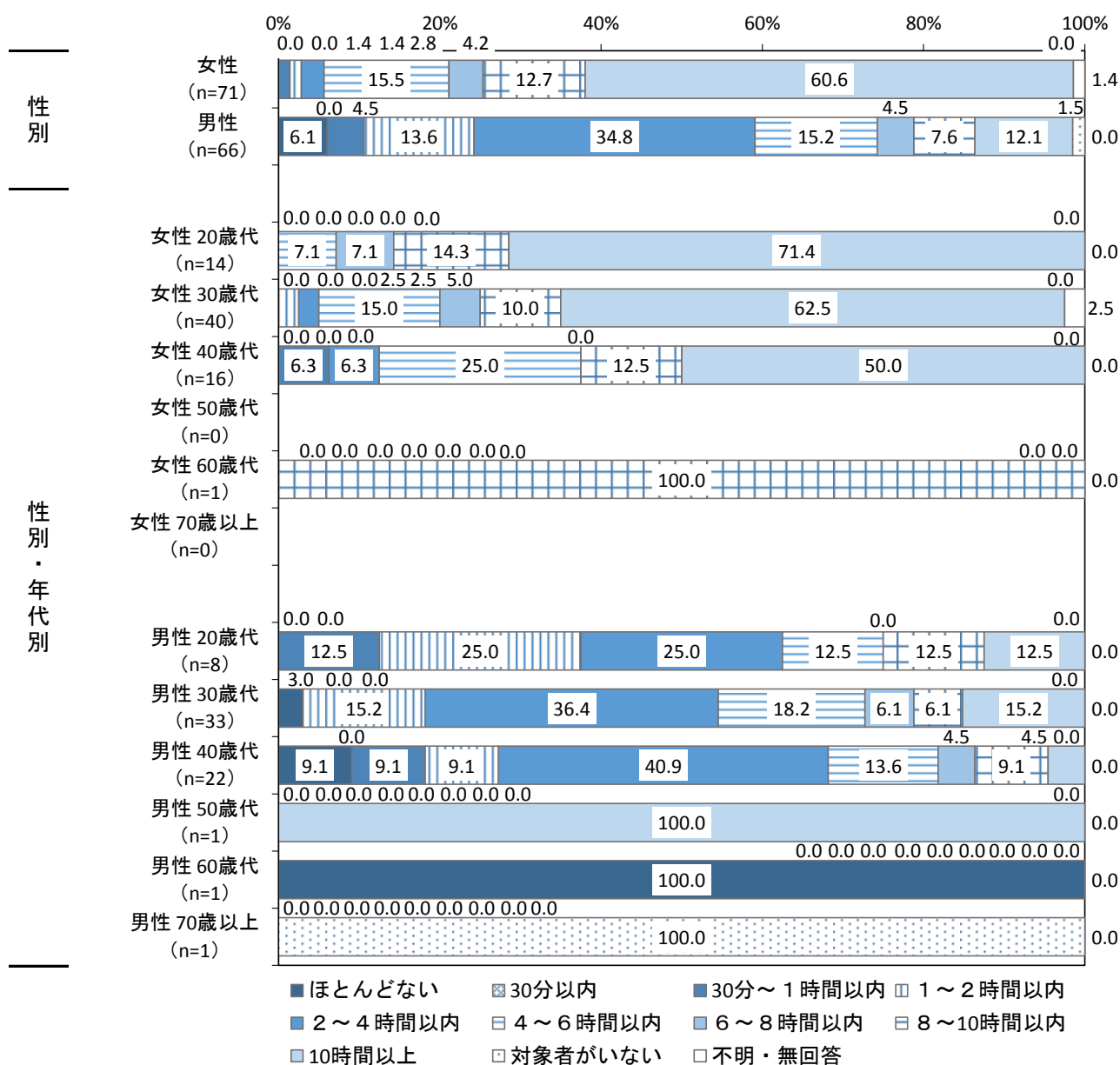
性別・年代別で見ると、「ほとんどない」では、20歳代、40歳代を除く全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-27 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ④休日の育児



家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「休日の育児」を未就学児の子どもがいる人限定（問5で「3歳未満」「3歳以上の未就学児」を回答した人）でみると、女性では「10時間以上」が60.6%で最も高く、男性では「2～4時間以内」が34.8%で最も高くなっており、性別・年代別でみると、40歳代以下では、「10時間以上」は、全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっています。

図表 3-3-28 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ④休日の育児
未就学児の子どもがいる人 性別・年齢別

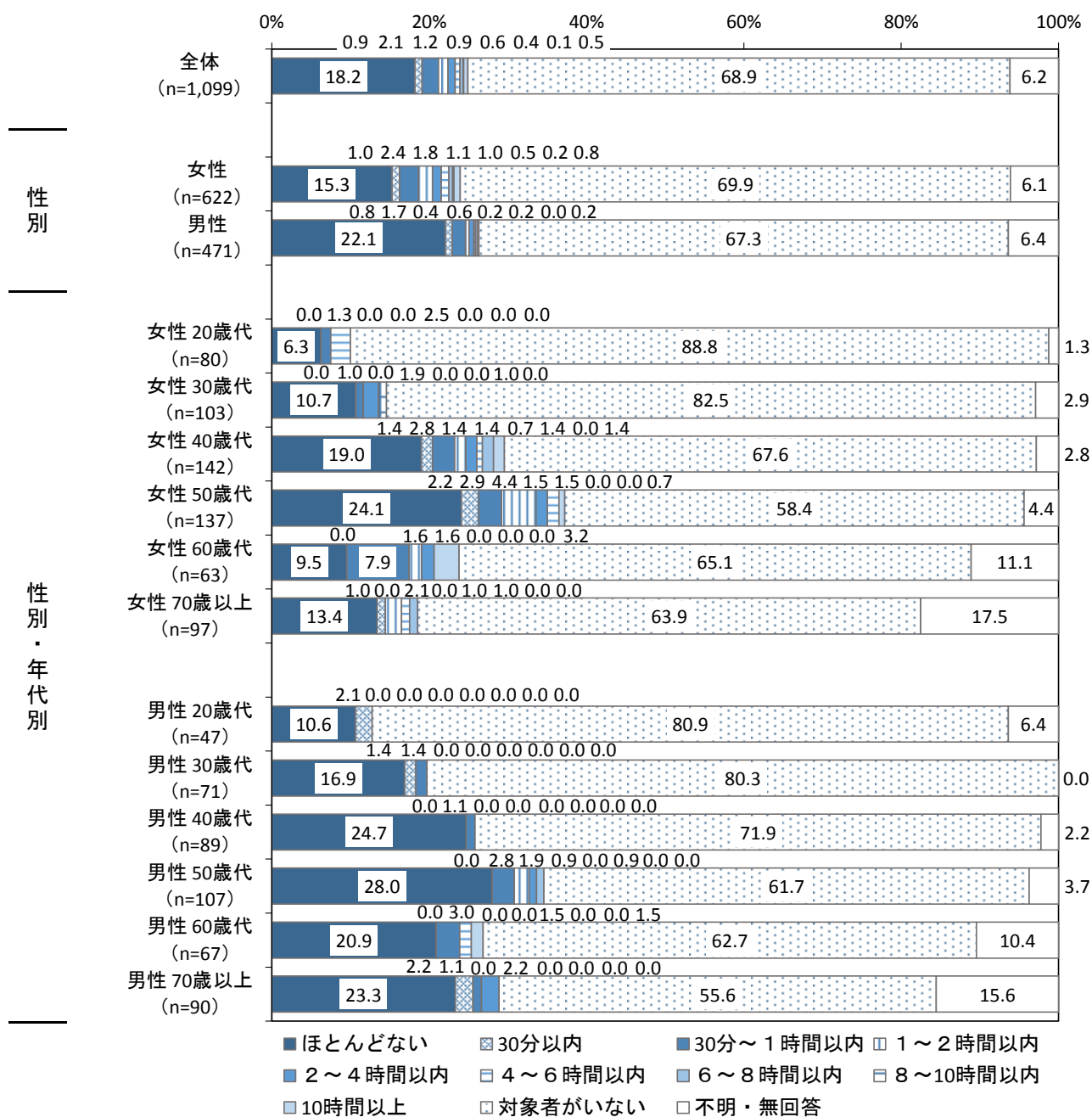


⑤平日の介護

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「平日の介護」では、性別で見ると、女性・男性いずれも「対象者がいない」の割合が最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が高くなっています。

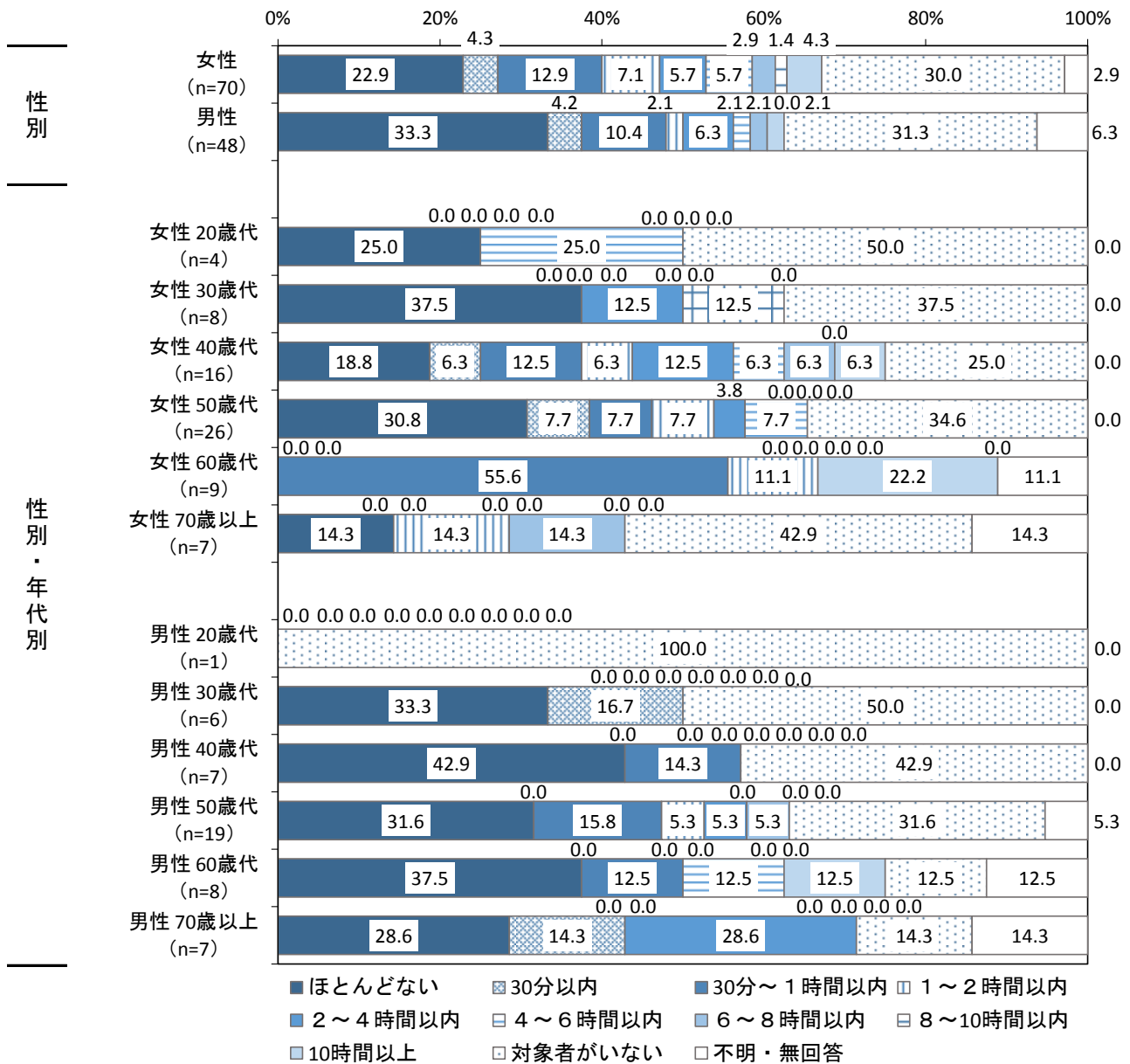
性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-29 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ⑤平日の介護



家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「平日の介護」を家庭に高齢のために介護・介助が必要な人がいる人（問28で「いる」を回答した人）でみると、『介護をしている人』（「30分以内」から「10時間以上」の合計）では、女性が44.3%、男性が29.3%で、性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、40歳代以上で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-30 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ⑤平日の介護
家庭に高齢のために介護・介助が必要な人がいる人 性別・年齢別

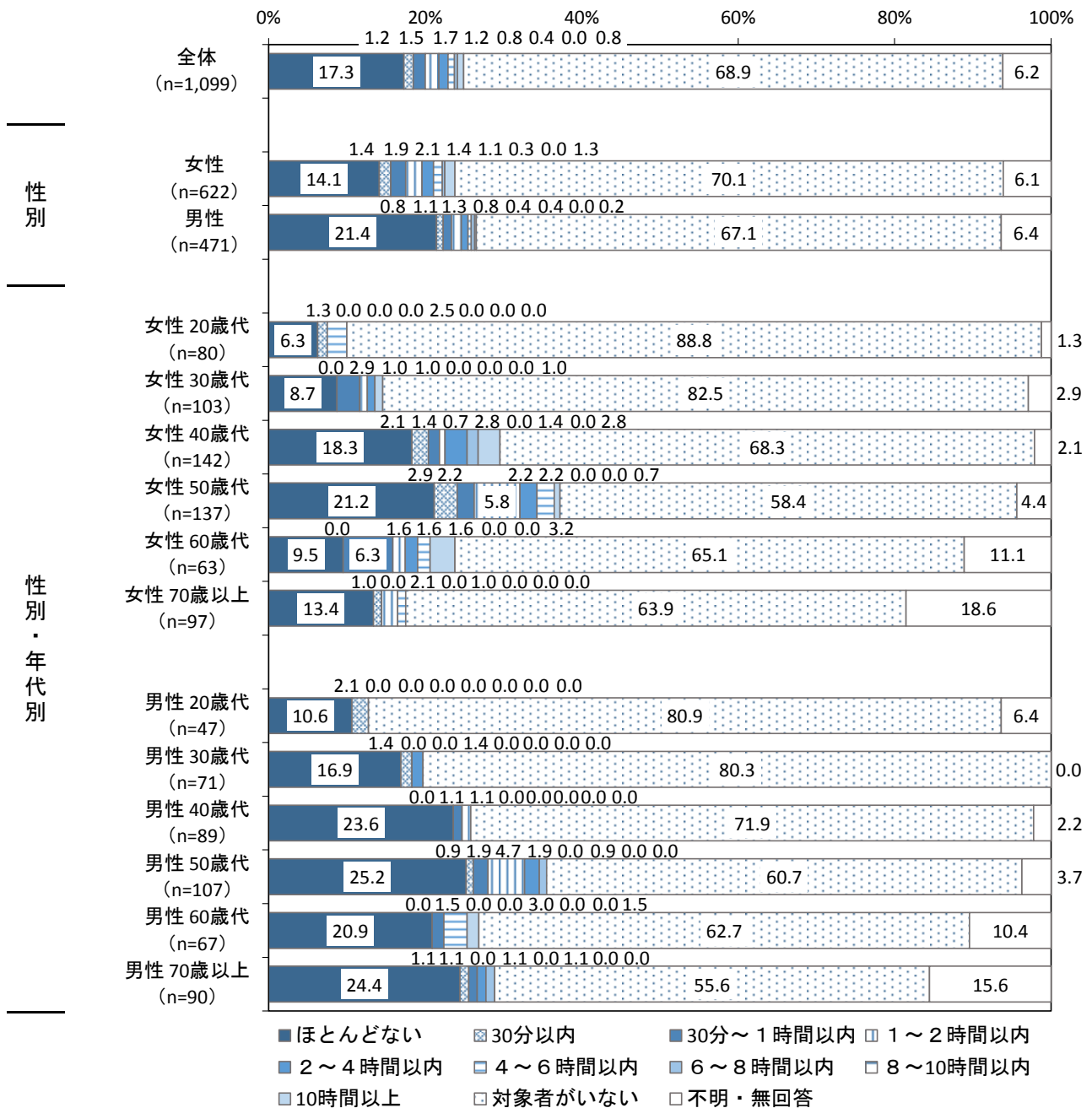


⑥休日の介護

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「休日の介護」では、性別で見ると、女性・男性いずれも「対象者がいない」の割合が最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が高くなっています。

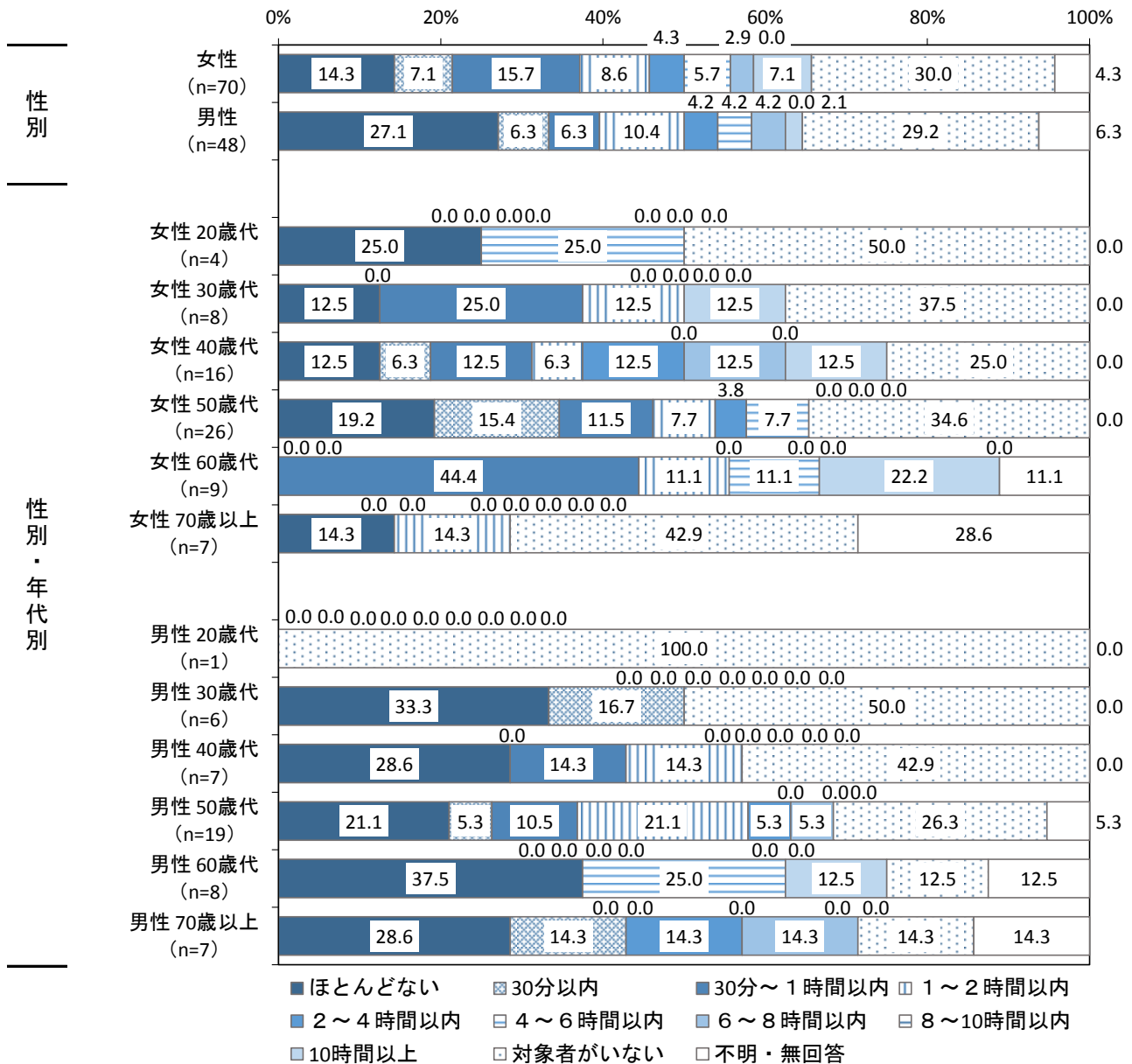
性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-31 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ⑥休日の介護



家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「休日の介護」を家庭に高齢のために介護・介助が必要な人がいる人（問28で「いる」を回答した人）でみると、『介護をしている人』（「30分以内」から「10時間以上」の合計）では、女性が51.4%、男性が37.7%で、性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、20歳代を除く全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-32 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ⑥休日の介護
家庭に高齢のために介護・介助が必要な人がいる人 性別・年齢別



(3) 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」について

問 14	「仕事」「家庭生活・地域活動（自治会やPTAなど）」「個人の生活」について、あなたの①希望と②現実（実態）にもっとも近い項目に○印をつけてください。

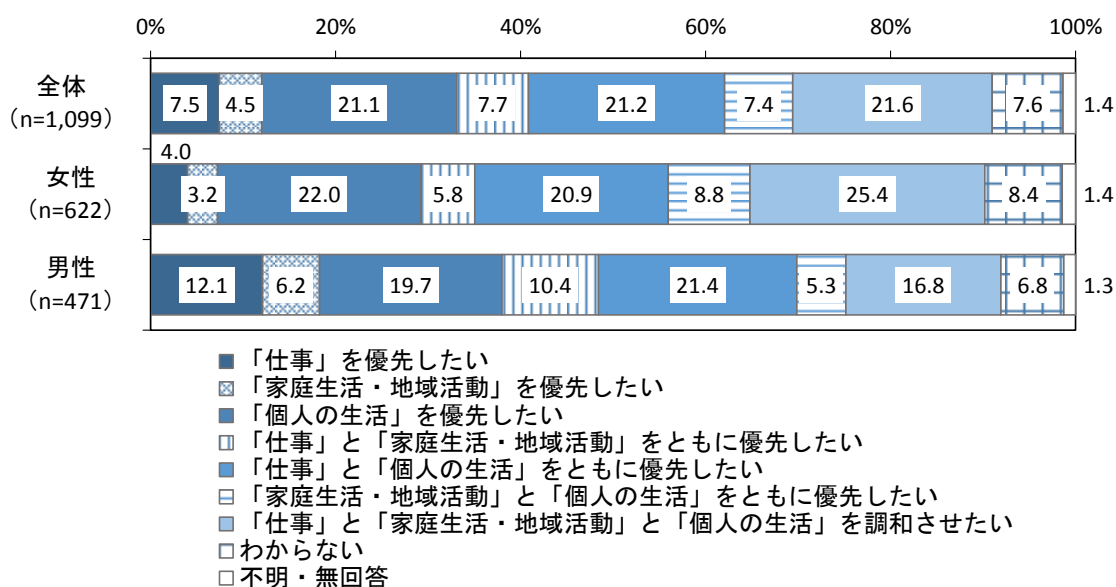
①希望

「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の希望について全体では、「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させたい」が21.6%で最も高く、次いで「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」が21.2%、「個人の生活」を優先したい」が21.1%と続いています。

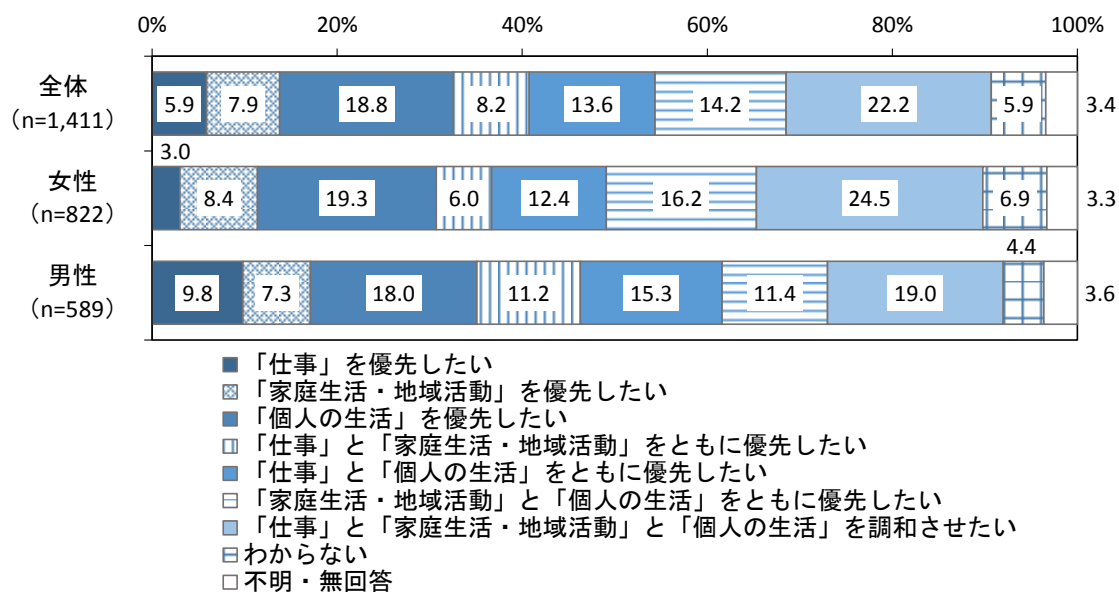
性別でみると、女性は「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させたい」が25.4%で最も高く、男性は「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」が21.4%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性・男性いずれも「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」が前回調査より最も増加した項目となっており、「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい」が最も減少した項目となっています。

図表 3-3-33 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の希望について



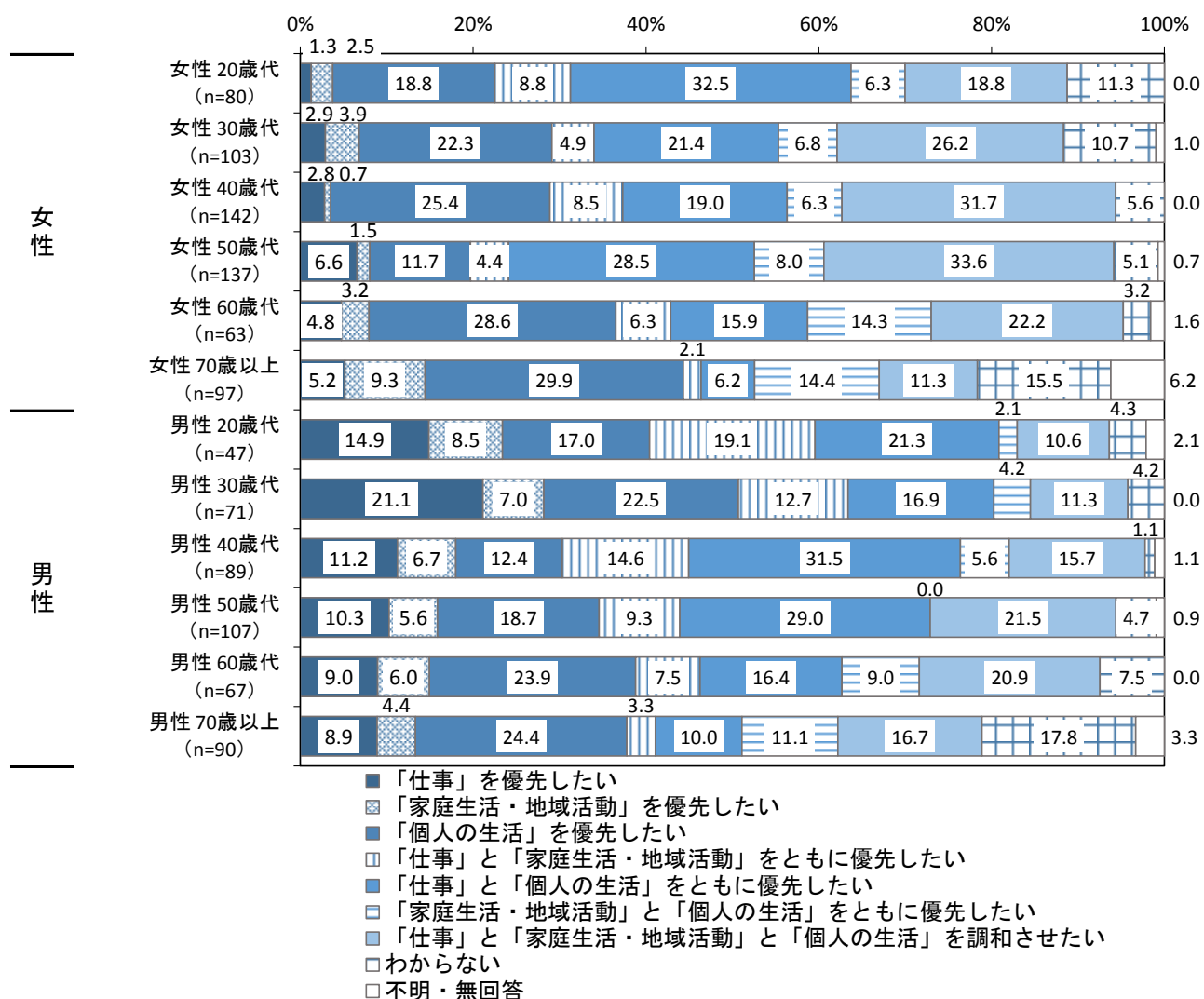
図表 3-3-34 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の希望について 前回調査



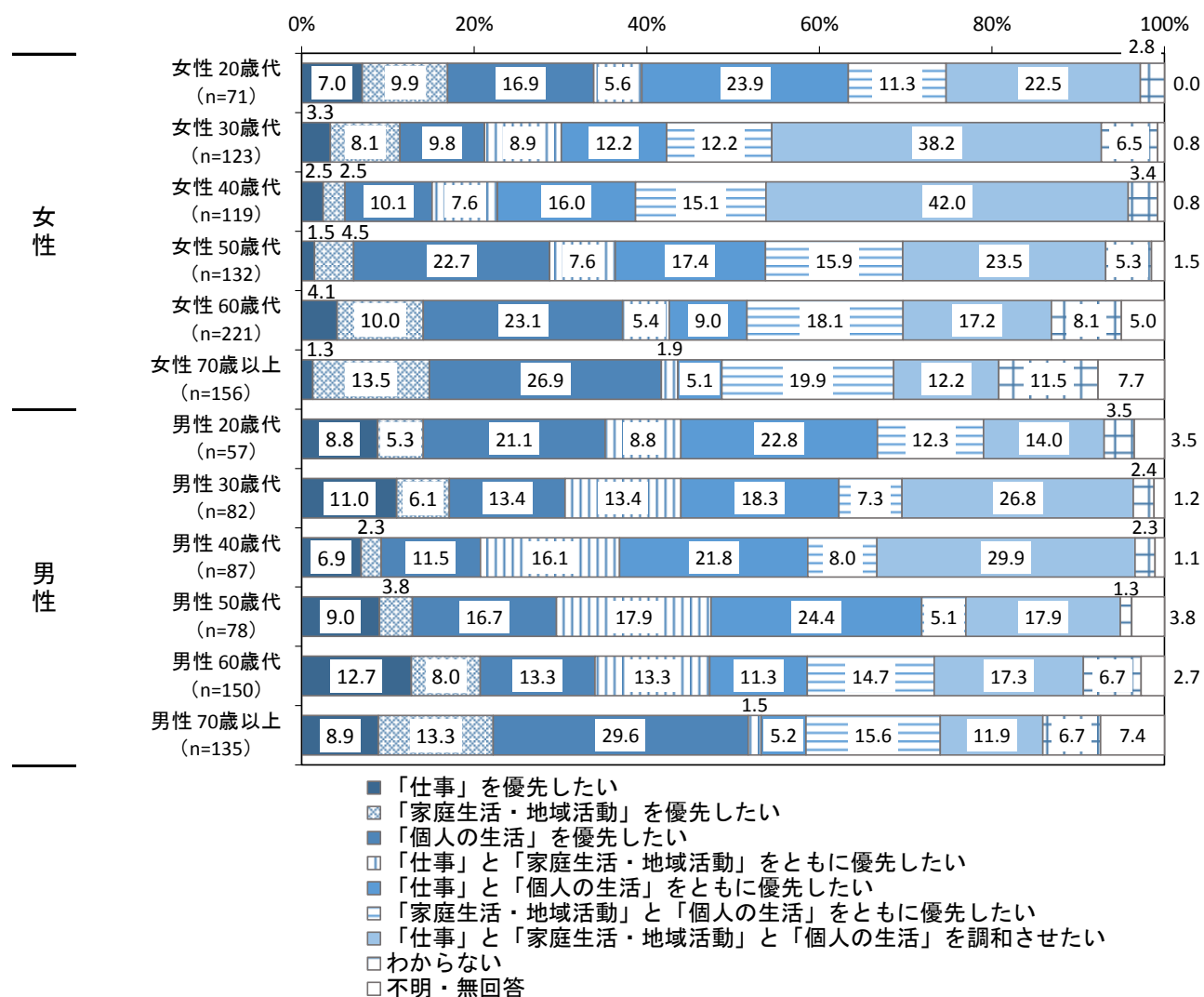
性別・年代別でみると、20歳代、男性40歳代から50歳代では「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」の割合が最も高く、女性30歳代から50歳代では「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させたい」の割合が最も高く、男性30歳代、60歳代以上では「個人の生活」を優先したい」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい」では、全ての年代で前回調査より割合が減少し、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」では、男性20歳代から30歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-35 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の希望について
性別・年齢別



図表 3-3-36 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の希望について
性別・年齢別 前回調査



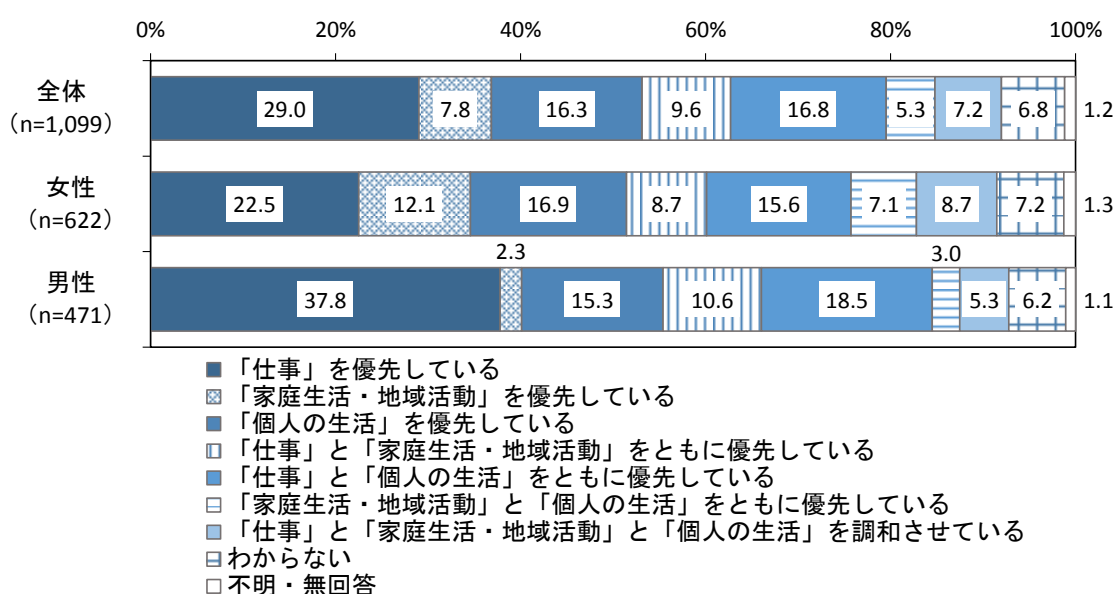
②現実（実態）

「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の現実（実態）について全体では、「仕事」を優先している」が 29.0%で最も高く、次いで「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」が 16.8%、「個人の生活」を優先している」が 16.3%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「仕事」を優先している」の割合が最も高くなっています。

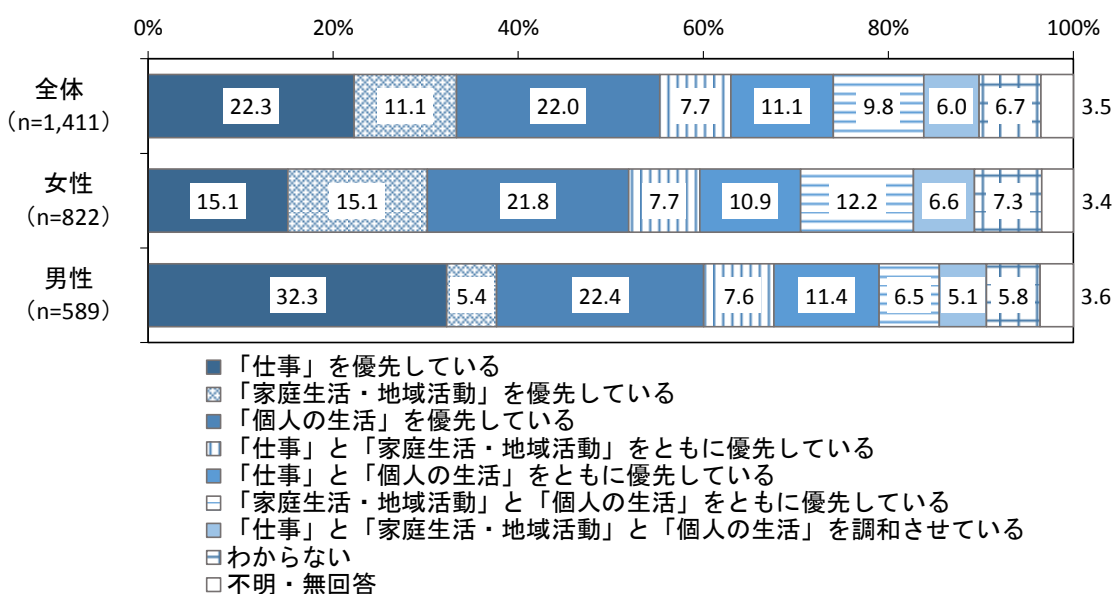
前回調査と比較すると、女性では「仕事」を優先している」が 7.4 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」が 7.1 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-3-37 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の現実（実態）について



図表 3-3-38 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の現実（実態）について

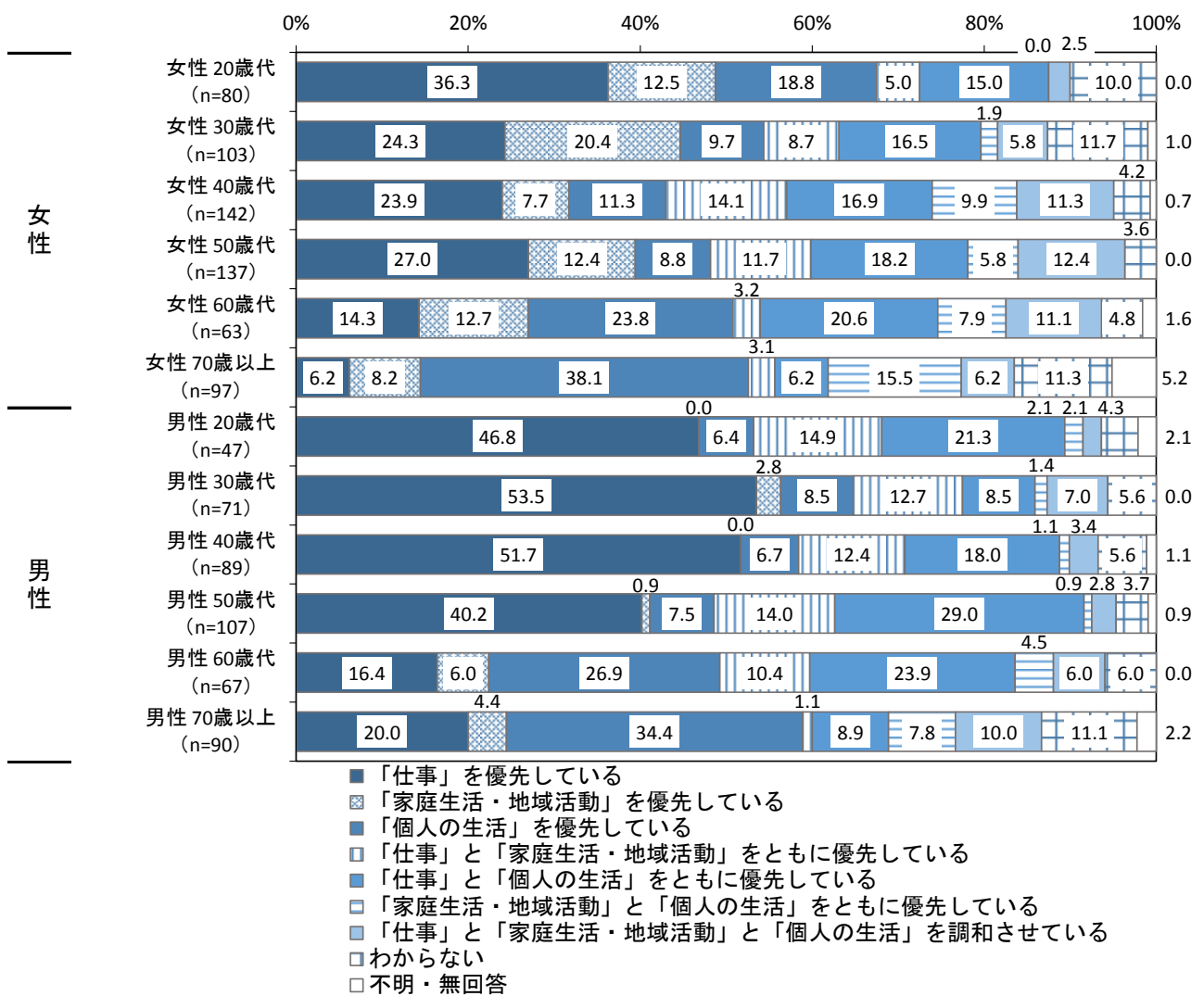
前回調査



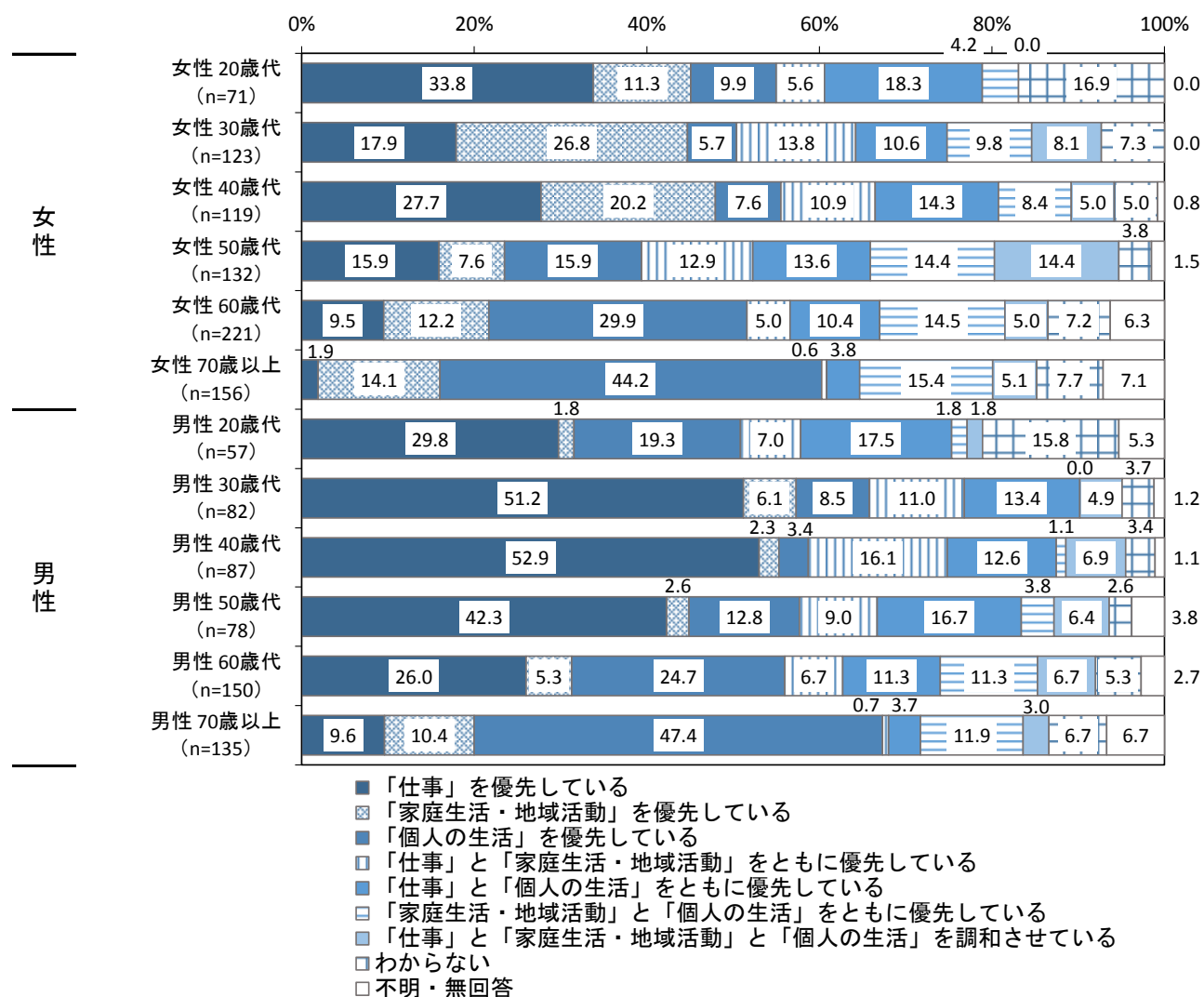
性別・年代別でみると、女性・男性いずれも 20 歳代から 50 歳代では「仕事」を優先している」の割合が最も高く、60 歳代以上では「個人の生活」を優先している」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「仕事」を優先している」では、女性 40 歳代、男性 40 歳代から 60 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加し、「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」では、女性 20 歳代、男性 30 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-3-39 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の現実（実態）について
性別・年齢別



図表 3-3-40 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の現実（実態）について
性別・年齢別 前回調査



(4) 男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うこと

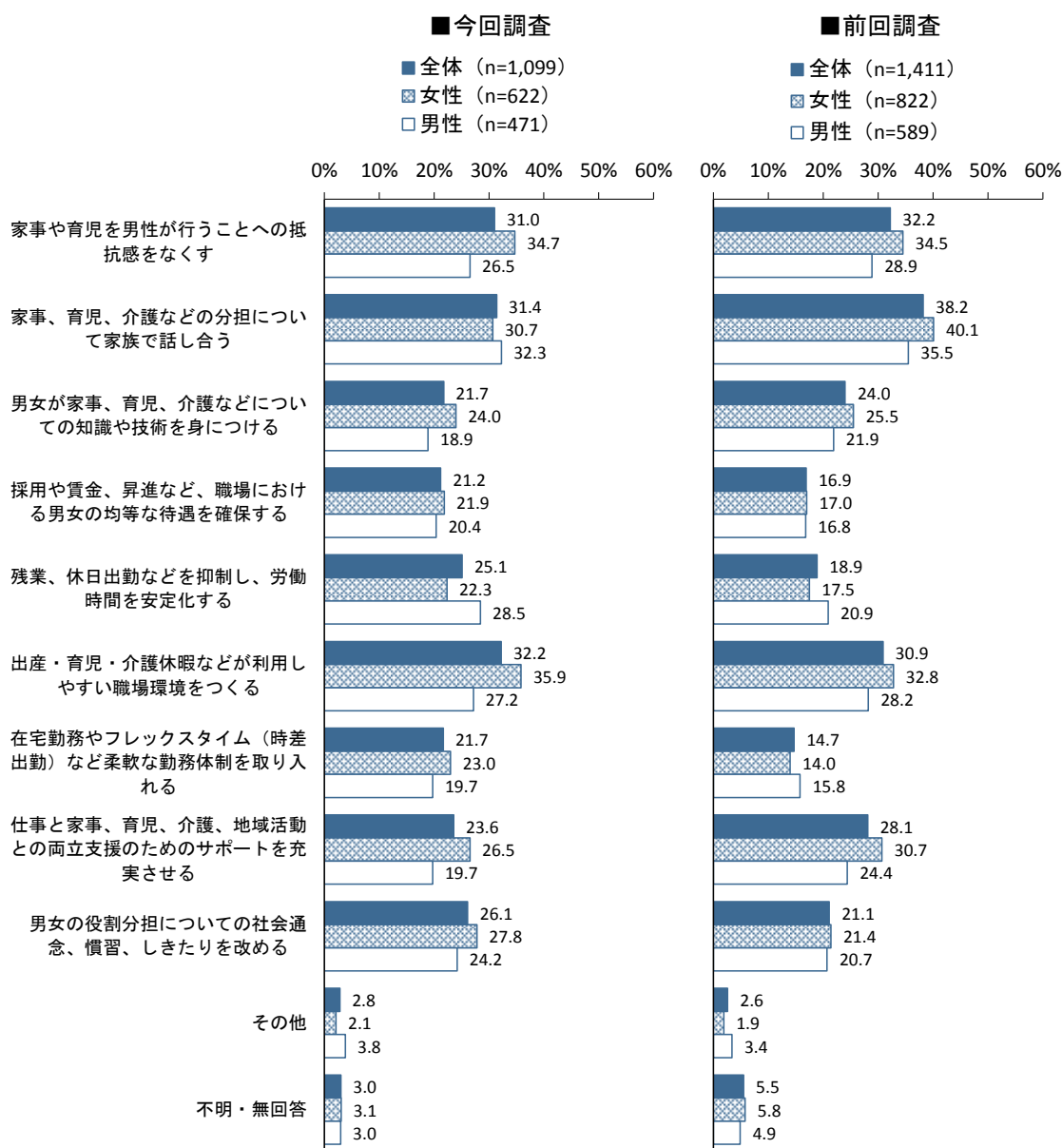
問 15	男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するためには、どのようなことが必要だと思われますか。(〇は3つ以内)

男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うことについて全体では、「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」が 32.2%で最も高く、次いで「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」が 31.4%、「家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす」が 31.0%と続いています。

性別でみると、女性は「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」が 35.9%で最も高く、次いで「家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす」が 34.7%、「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」が 30.7%と続いており、男性は「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」が 32.3%で最も高く、次いで「残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する」が 28.5%、「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」が 27.2%と続いています。

前回調査と比較すると、女性では「在宅勤務やフレックスタイム（時差出勤）など柔軟な勤務体制を取り入れる」が前回調査より 7.0 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する」が前回調査より 7.6 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-3-41 男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うこと



性別・年代別でみると、女性 20 歳代から 30 歳代、60 歳代では「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」の割合が最も高く、女性 40 歳代から 50 歳代、男性 20 歳代では「家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす」の割合が最も高く、女性 70 歳以上、男性 50 歳代では「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」の割合が最も高く、男性 30 歳代から 40 歳代では「残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する」の割合が最も高く、男性 70 歳以上では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では全ての年代で「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」の割合が前回調査より減少し、「在宅勤務やフレックスタイム（時差出勤）など柔軟な勤務体制を取り入れる」の割合が前回調査より増加しています。

図表 3-3-42 男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うこと
性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす	家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う	男女が家事、育児、介護などについて知識や技術を得る	採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する	残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する	出産・育児・介護休業環境をつくる	在宅勤務やフレックスタイム（時差出勤）など柔軟な勤務体制を取り入れる	仕事と家事、育児、介護、地域の活動との両立支援のため、サポートを充実させる	男女の役割分担についての意識、慣習、しきたりなどを改める	その他	不明・無回答
全体		1,099	31.0	31.4	21.7	21.2	25.1	32.2	21.7	23.6	26.1	2.8	3.0
性別	女性	622	34.7	30.7	24.0	21.9	22.3	35.9	23.0	26.5	27.8	2.1	3.1
	男性	471	26.5	32.3	18.9	20.4	28.5	27.2	19.7	19.7	24.2	3.8	3.0
性別・年代別	女性 20歳代	80	40.0	23.8	21.3	22.5	36.3	45.0	26.3	21.3	22.5	1.3	1.3
	女性 30歳代	103	36.9	23.3	19.4	29.1	22.3	47.6	28.2	29.1	28.2	1.0	1.9
	女性 40歳代	142	37.3	31.0	22.5	21.8	19.7	33.1	28.2	24.6	28.2	2.8	1.4
	女性 50歳代	137	35.8	31.4	26.3	25.5	22.6	32.8	21.9	35.0	25.5	2.9	0.7
	女性 60歳代	63	30.2	33.3	31.7	12.7	25.4	34.9	19.0	31.7	28.6	0.0	4.8
	女性 70歳以上	97	25.8	41.2	24.7	14.4	12.4	24.7	11.3	15.5	34.0	3.1	10.3
	男性 20歳代	47	38.3	34.0	12.8	21.3	34.0	27.7	25.5	21.3	17.0	0.0	2.1
	男性 30歳代	71	18.3	29.6	15.5	21.1	42.3	39.4	19.7	18.3	21.1	7.0	1.4
	男性 40歳代	89	24.7	27.0	21.3	20.2	42.7	18.0	24.7	18.0	18.0	7.9	4.5
	男性 50歳代	107	27.1	43.9	19.6	19.6	23.4	29.0	19.6	19.6	20.6	1.9	0.9
	男性 60歳代	67	22.4	28.4	16.4	26.9	25.4	35.8	23.9	26.9	31.3	0.0	1.5
	男性 70歳以上	90	31.1	27.8	23.3	15.6	8.9	17.8	8.9	16.7	35.6	4.4	6.7

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-3-43 男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うこと
性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす	家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う	男女が家事、育児、介護などについて知識や技術を得る	採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する	残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する	出産・育児・介護休業環境をつくる	在宅勤務やフレックスタイム（時差出勤）など柔軟な勤務体制を取り入れる	地域の活動との両立支援のため、地域のサポートを充実させる	仕事と家事、育児、介護の役割分担についての意識、慣習、しきたりなどを改める	その他	不明・無回答
全体		1,411	32.2	38.2	24.0	16.9	18.9	30.9	14.7	28.1	21.1	2.6	5.5
性別	女性	822	34.5	40.1	25.5	17.0	17.5	32.8	14.0	30.7	21.4	1.9	5.8
	男性	589	28.9	35.5	21.9	16.8	20.9	28.2	15.8	24.4	20.7	3.4	4.9
性別・年代別	女性 20歳代	71	36.6	47.9	18.3	25.4	38.0	40.8	15.5	22.5	9.9	1.4	1.4
	女性 30歳代	123	36.6	38.2	17.1	17.1	28.5	49.6	23.6	36.6	17.9	3.3	0.0
	女性 40歳代	119	28.6	37.8	24.4	26.1	17.6	31.1	19.3	38.7	23.5	0.0	2.5
	女性 50歳代	132	37.9	36.4	25.8	22.0	15.2	41.7	14.4	44.7	23.5	1.5	2.3
	女性 60歳代	221	35.3	39.8	29.9	13.1	12.2	28.1	10.9	28.5	26.2	1.8	6.8
	女性 70歳以上	156	32.7	43.6	30.1	7.7	9.0	16.7	5.8	14.7	19.2	3.2	16.7
	男性 20歳代	57	31.6	31.6	15.8	19.3	33.3	29.8	21.1	21.1	17.5	5.3	5.3
	男性 30歳代	82	39.0	29.3	15.9	26.8	40.2	36.6	22.0	17.1	12.2	3.7	1.2
	男性 40歳代	87	17.2	40.2	9.2	21.8	27.6	34.5	26.4	31.0	14.9	3.4	2.3
	男性 50歳代	78	19.2	32.1	20.5	19.2	26.9	34.6	15.4	34.6	24.4	1.3	5.1
	男性 60歳代	150	30.7	41.3	32.7	14.0	11.3	27.3	13.3	28.0	23.3	2.7	3.3
	男性 70歳以上	135	32.6	33.3	25.2	8.1	6.7	15.6	5.9	16.3	25.9	4.4	10.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

(5) 結婚に関する考え方について

問 16	あなたは結婚に関する次のような考え方についてどう思いますか。①～⑤までのそれぞれの項目についてお答えください。(それぞれに○は1つだけ)

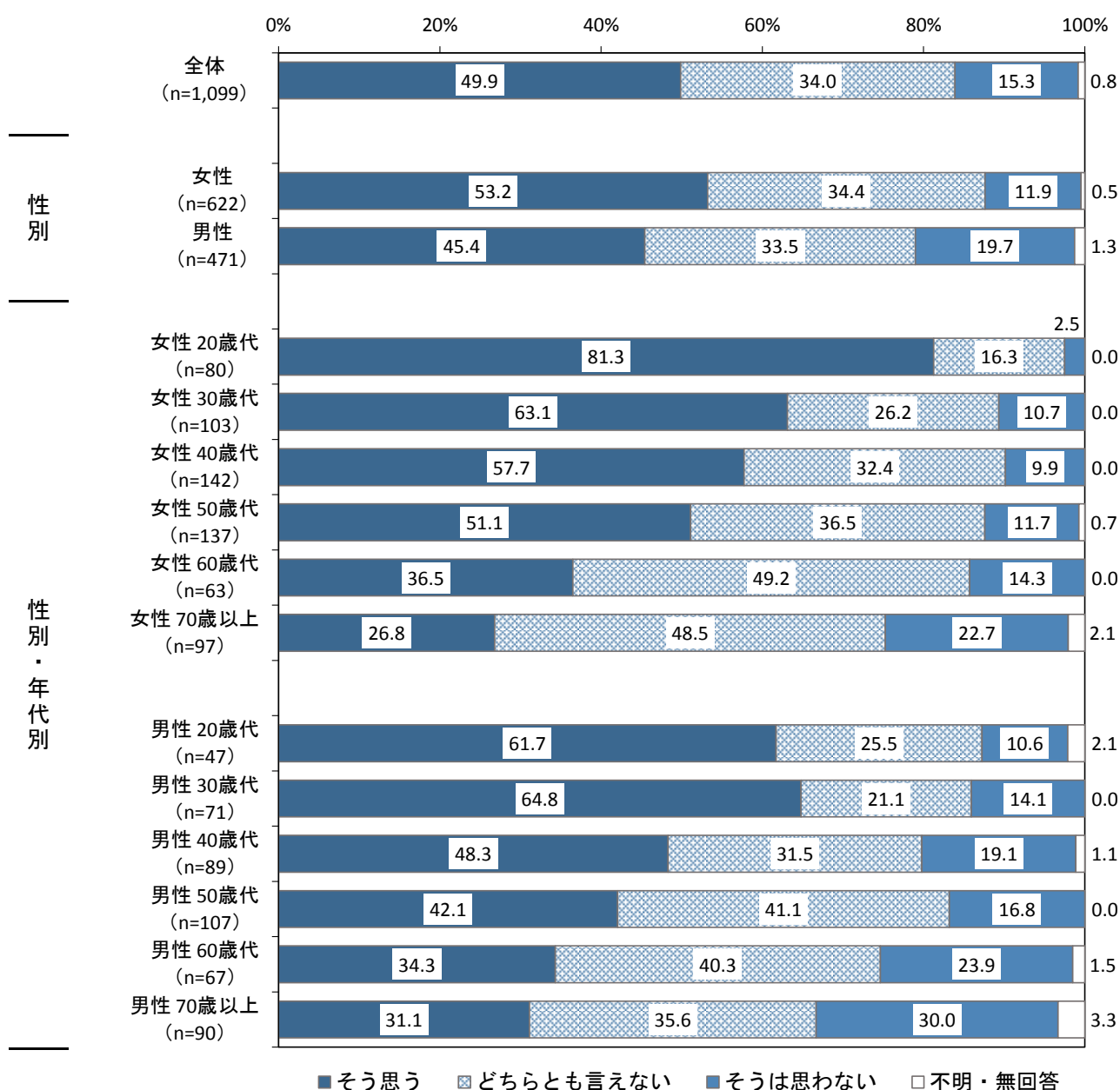
①女性も男性も必ずしも結婚する必要はない

結婚に関する考え方についてについて、「女性も男性も必ずしも結婚する必要はない」では、全体でみると、「そう思う」が49.9%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が34.0%、「そうは思わない」が15.3%となっています。

性別でみると、「そう思う」では、女性が53.2%で、男性(45.4%)よりも7.8ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、女性・男性いずれも年代が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、女性20歳代が81.3%で最も高くなっています。

図表 3-3-44 結婚に関する考え方について ①女性も男性も必ずしも結婚する必要はない



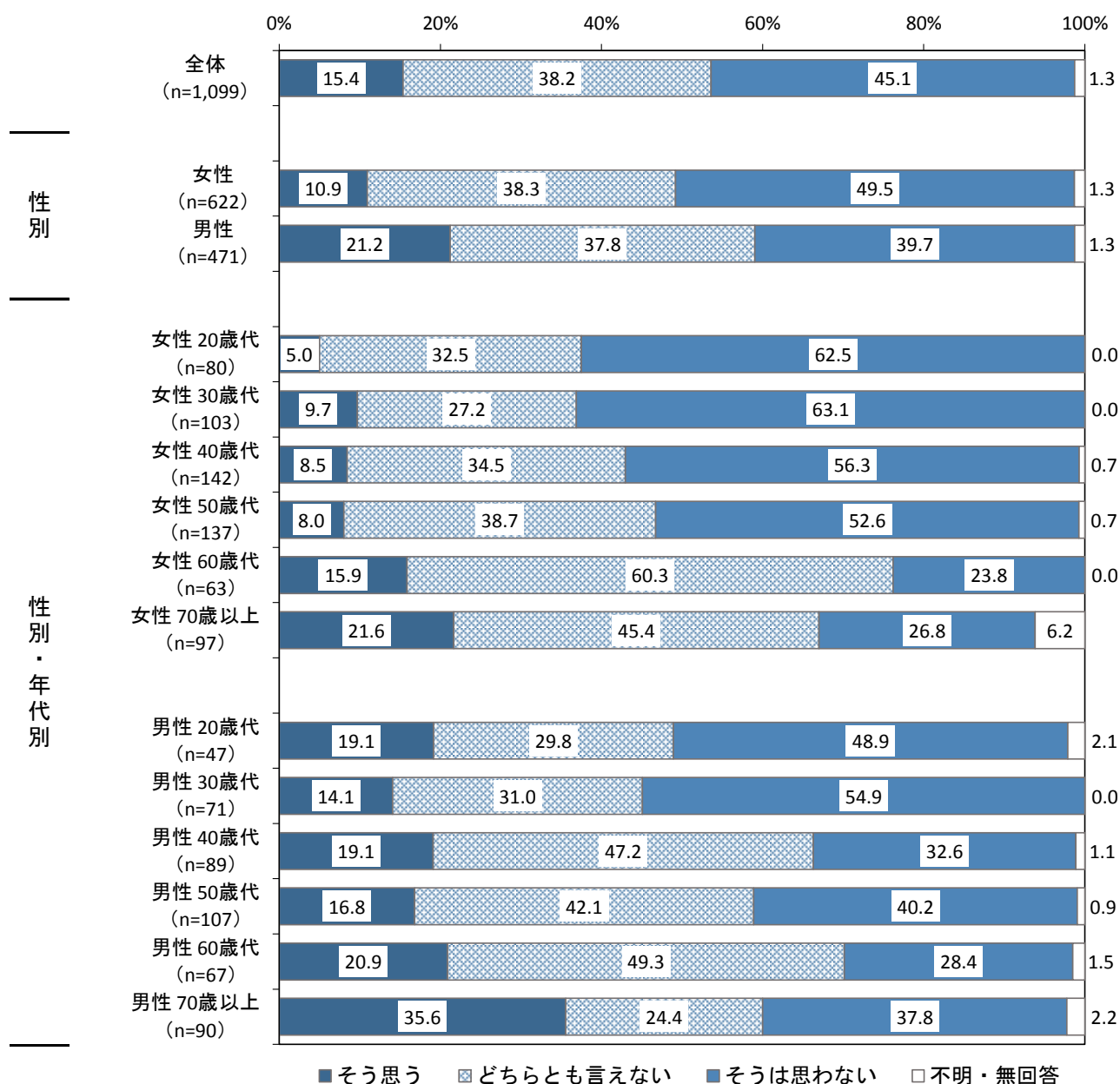
②夫婦別姓は認められない

結婚に関する考え方についてについて、「夫婦別姓は認められない」では、全体でみると、「そうは思わない」が45.1%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が38.2%、「そう思う」が15.4%となっています。

性別でみると、「そう思う」では、男性が21.2%で、女性（10.9%）よりも10.3ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっており、男性70歳以上が35.6%で最も高くなっています。

図表 3-3-45 結婚に関する考え方について ②夫婦別姓は認められない



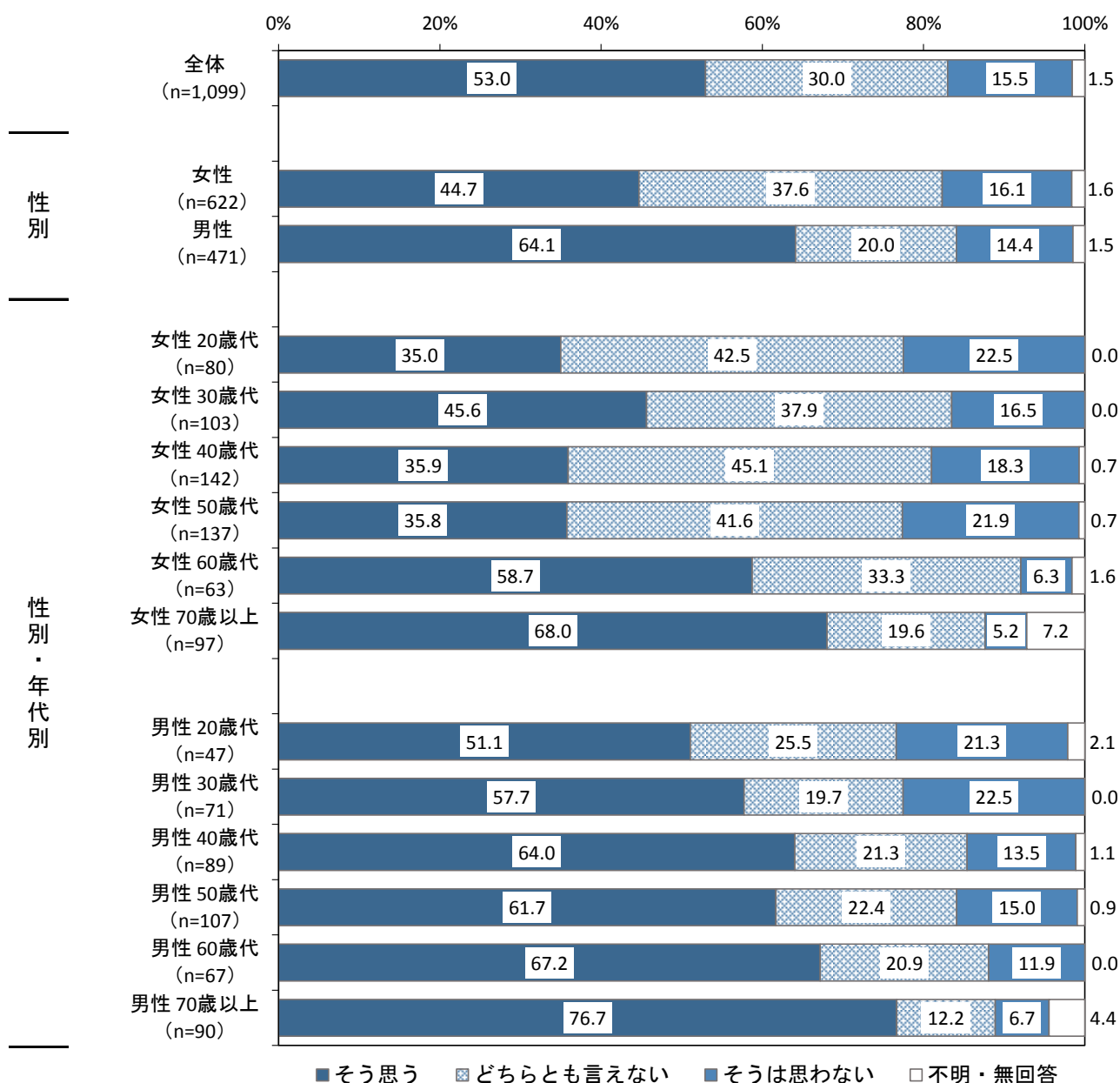
③結婚する際は必ず婚姻届を出さなければならない

結婚に関する考え方についてについて、「結婚する際は必ず婚姻届を出さなければならない」では、全体でみると、「そう思う」が53.0%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が30.0%、「そうは思わない」が15.5%となっています。

性別でみると、「そう思う」では、男性が64.1%で、女性（44.7%）よりも19.4ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、女性では70歳以上が68.0%で最も高く、男性では年代が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、70歳以上が76.7%で最も高くなっています。

図表 3-3-46 結婚に関する考え方について ③結婚する際は必ず婚姻届を出さなければならない



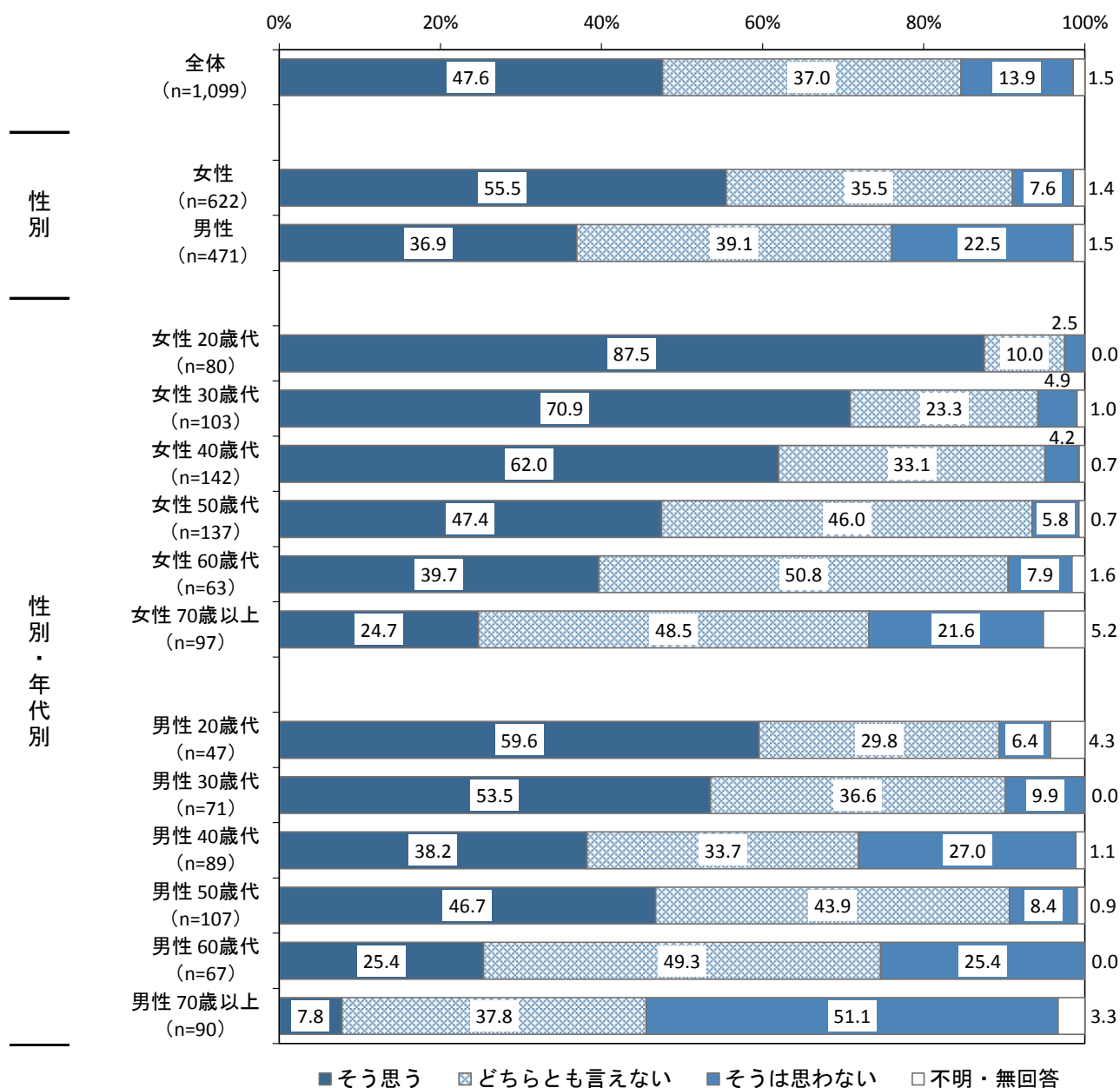
④同性同士の結婚が認められてもよい

結婚に関する考え方についてについて、「同性同士の結婚が認められてもよい」では、全体でみると、「そう思う」が47.6%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が37.0%、「そうは思わない」が13.9%となっています。

性別でみると、「そう思う」では、女性が55.5%で、男性（36.9%）よりも18.6ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、女性は年代が上がるにつれて割合が低くなっており、女性20歳代が87.5%で最も高くなっています。また、「そうは思わない」は全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっており、女性・男性いずれも70歳以上の割合が最も高くなっています。

図表 3-3-47 結婚に関する考え方について ④同性同士の結婚が認められてもよい



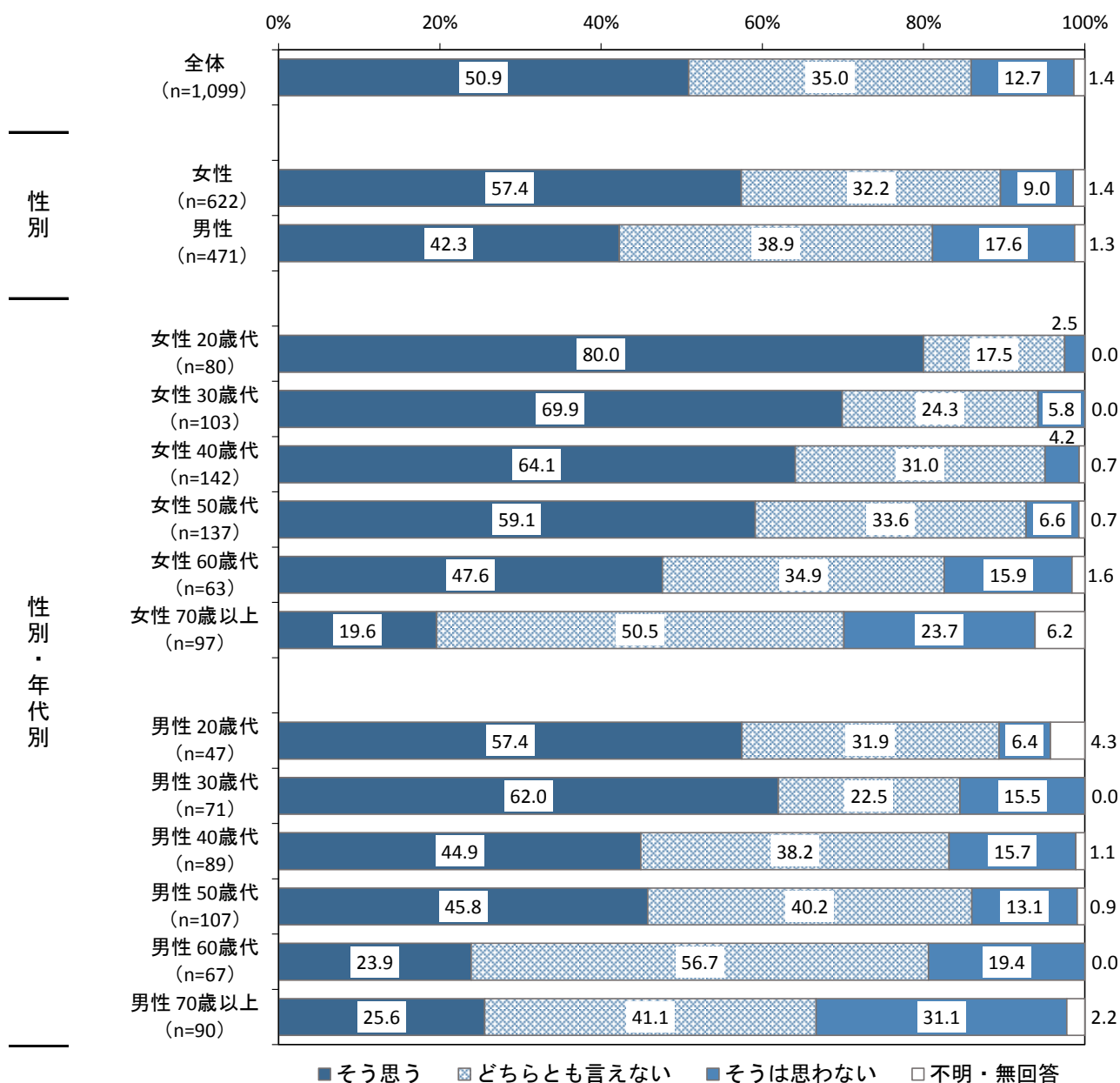
⑤結婚しても必ずしも子どもをもうけなくてもよい

結婚に関する考え方についてについて、「結婚しても必ずしも子どもをもうけなくてもよい」では、全体でみると、「そう思う」が 50.9%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 35.0%、「そうは思わない」が 12.7%となっています。

性別でみると、「そう思う」では、女性が 57.4%で、男性（42.3%）よりも 15.1 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「そう思う」では、女性は年代が上がるにつれて割合が低くなっており、女性 20 歳代が 80.0%で最も高くなっています。また、「そうは思わない」は全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっており、女性・男性いずれも 70 歳以上の割合が最も高くなっています。

図表 3-3-48 結婚に関する考え方について ⑤結婚しても必ずしも子どもをもうけなくてもよい



4. 子育て・教育について

(1) 子育てについて

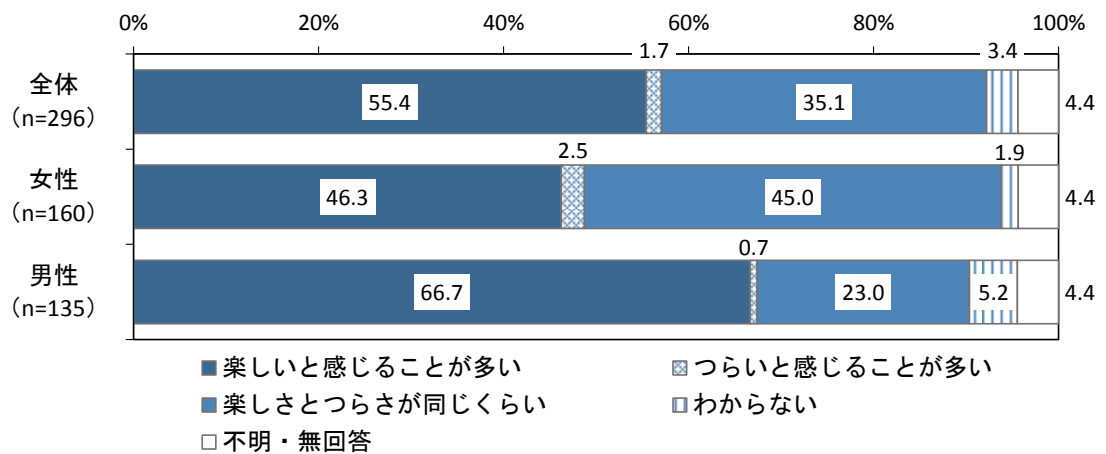
問 17	【問 5 で「3歳未満」～「高校生」を回答された方】 あなたは、「子育て」についてどのように感じていますか。(○は1つだけ)

子育てをどのように感じているかについて全体では、「楽しいと感じることが多い」が 55.4% で最も高く、次いで「楽しさとつらさが同じくらい」が 35.1%、「わからない」が 3.4%と続いています。

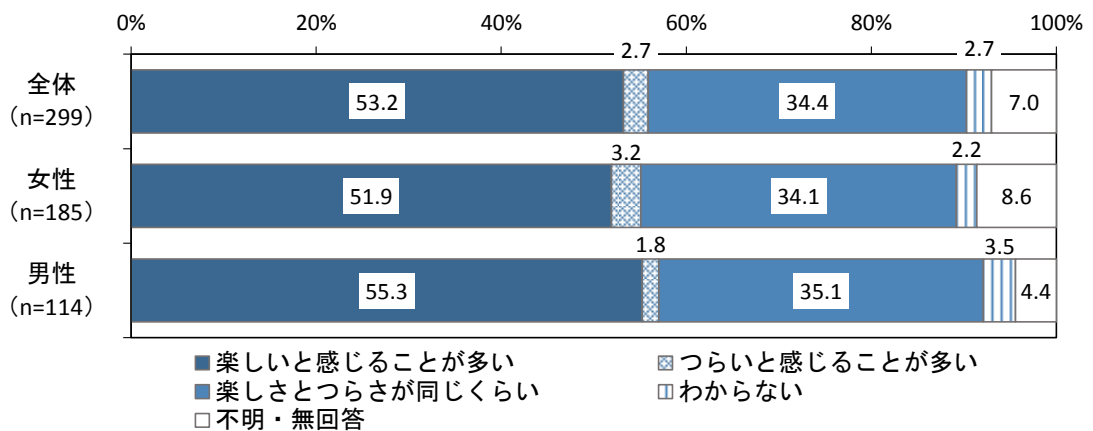
性別でみると、「楽しいと感じることが多い」では、男性が 66.7%で、女性（46.3%）よりも 20.4 ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「楽しいと感じることが多い」では、女性は前回調査より 5.6 ポイント減少し、男性は前回調査より 11.4 ポイント増加しています。

図表 3-4-1 子育てをどのように感じているか



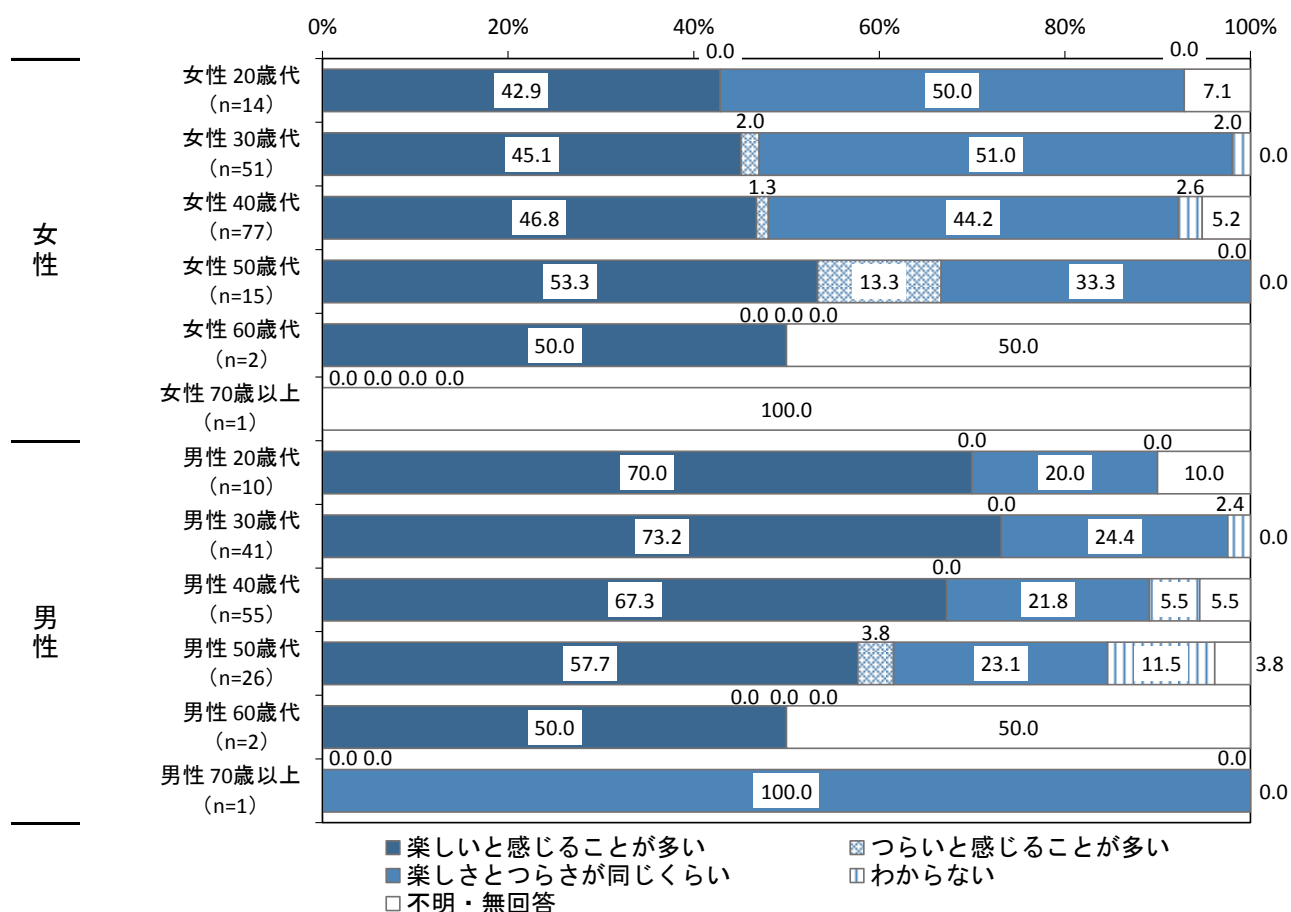
図表 3-4-2 子育てをどのように感じているか 前回調査



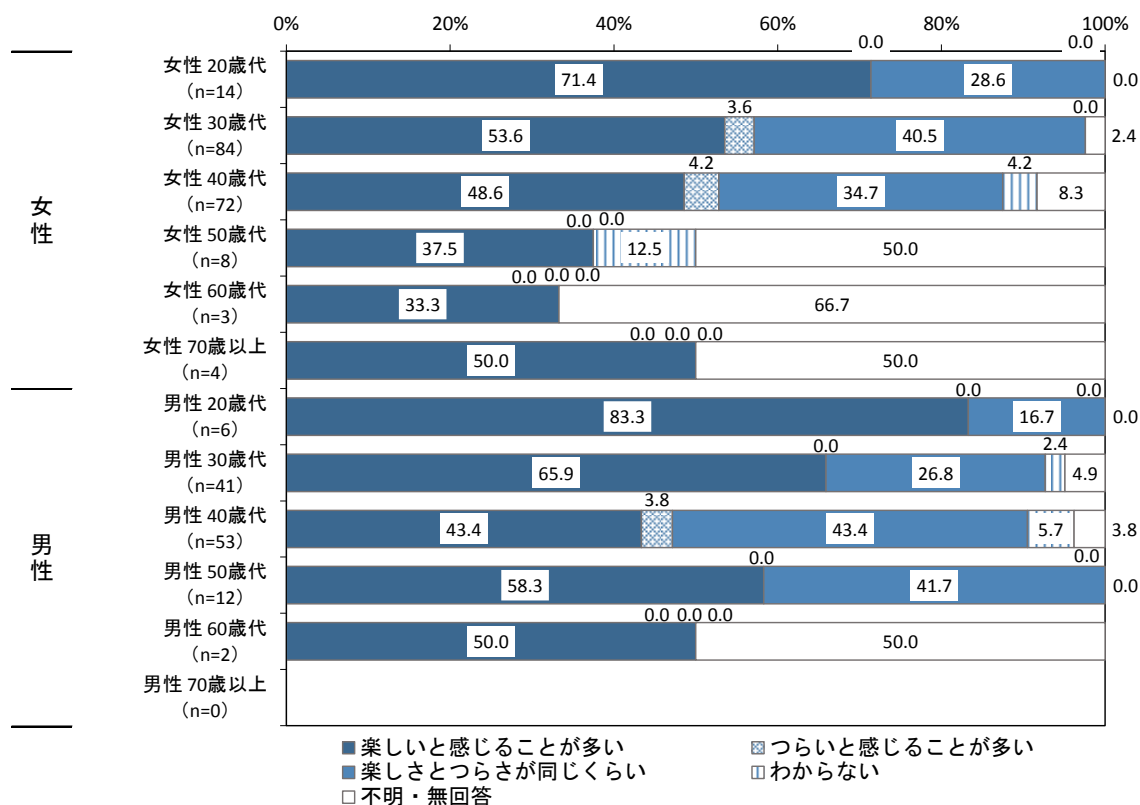
性別・年代別でみると、女性では、20歳代から30歳代では「楽しさと同じくらい」の割合が最も高く、40歳代から50歳代では「楽しいと感じることが多い」の割合が最も高く、男性では、20歳代から50歳代で「楽しいと感じることが多い」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性20歳代から50歳代で「楽しさと同じくらい」の割合が前回調査より増加しています。

図表 3-4-3 子育てをどのように感じているか 性別・年代別



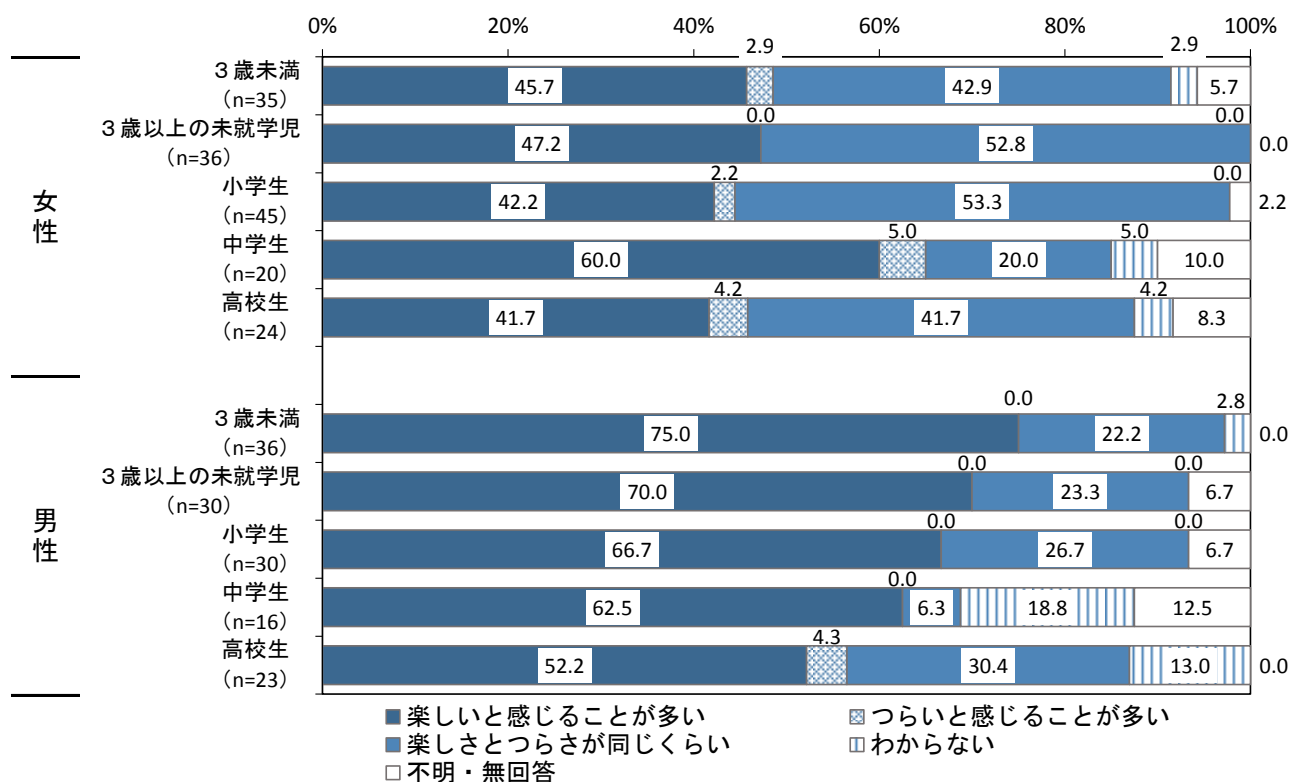
図表 3-4-4 子育てをどのように感じているか 性別・年代別 前回調査



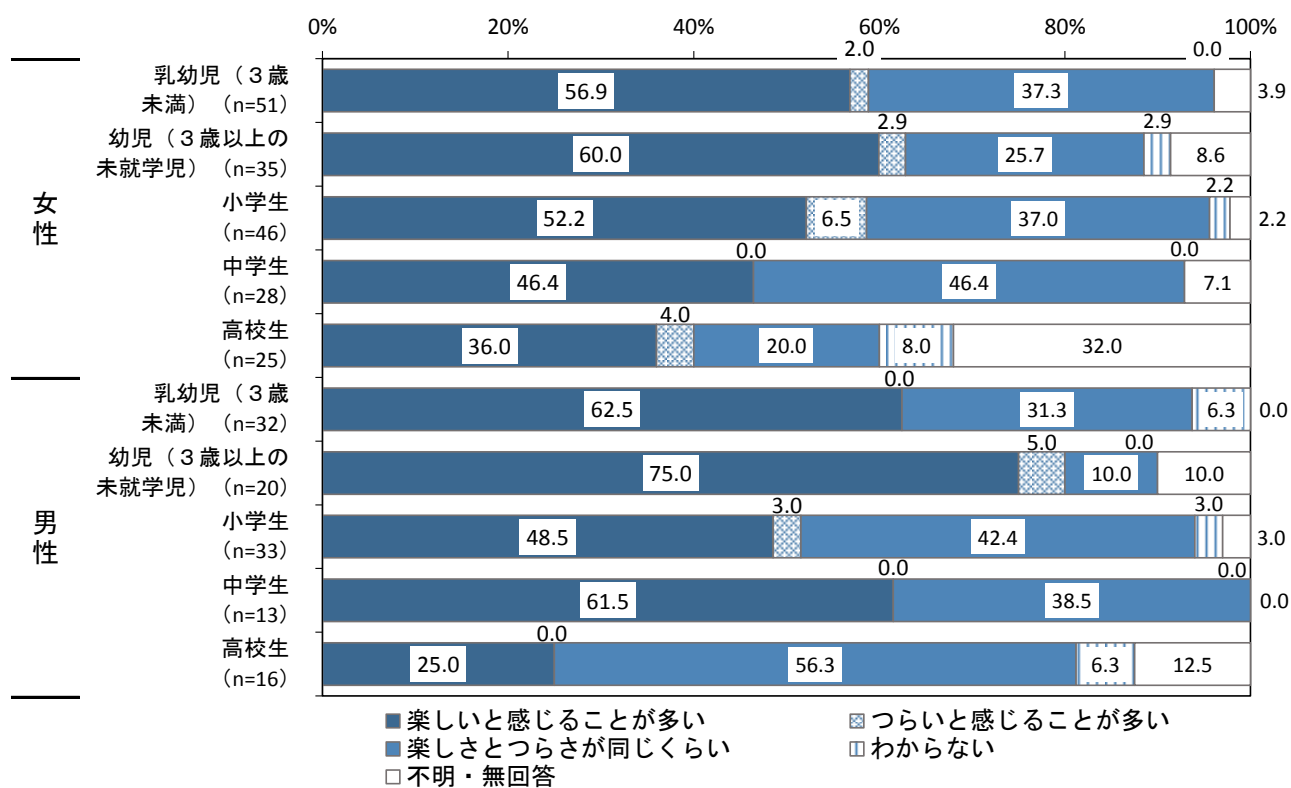
末子の年齢別でみると、女性では「3歳未満」「中学生」で「楽しいと感じることが多い」の割合が最も高く、「3歳以上の未就学児」「小学生」で「楽しさとつらさが同じくらい」の割合が最も高く、「高校生」で「楽しいと感じることが多い」「楽しさとつらさが同じくらい」が同率となっており、男性では全ての年代で「楽しいと感じることが多い」の割合が最も高く、年代が上がるにつれて割合が低くなっています。

前回調査と比較すると、女性では、「3歳未満」「3歳以上の未就学児」「小学生」で、「楽しいと感じることが多い」の割合が減少しています。

図表 3-4-5 子育てをどのように感じているか 末子の年齢別



図表 3-4-6 子育てをどのように感じているか 末子の年齢別 前回調査



(2) 子育てをつらいと感じる時

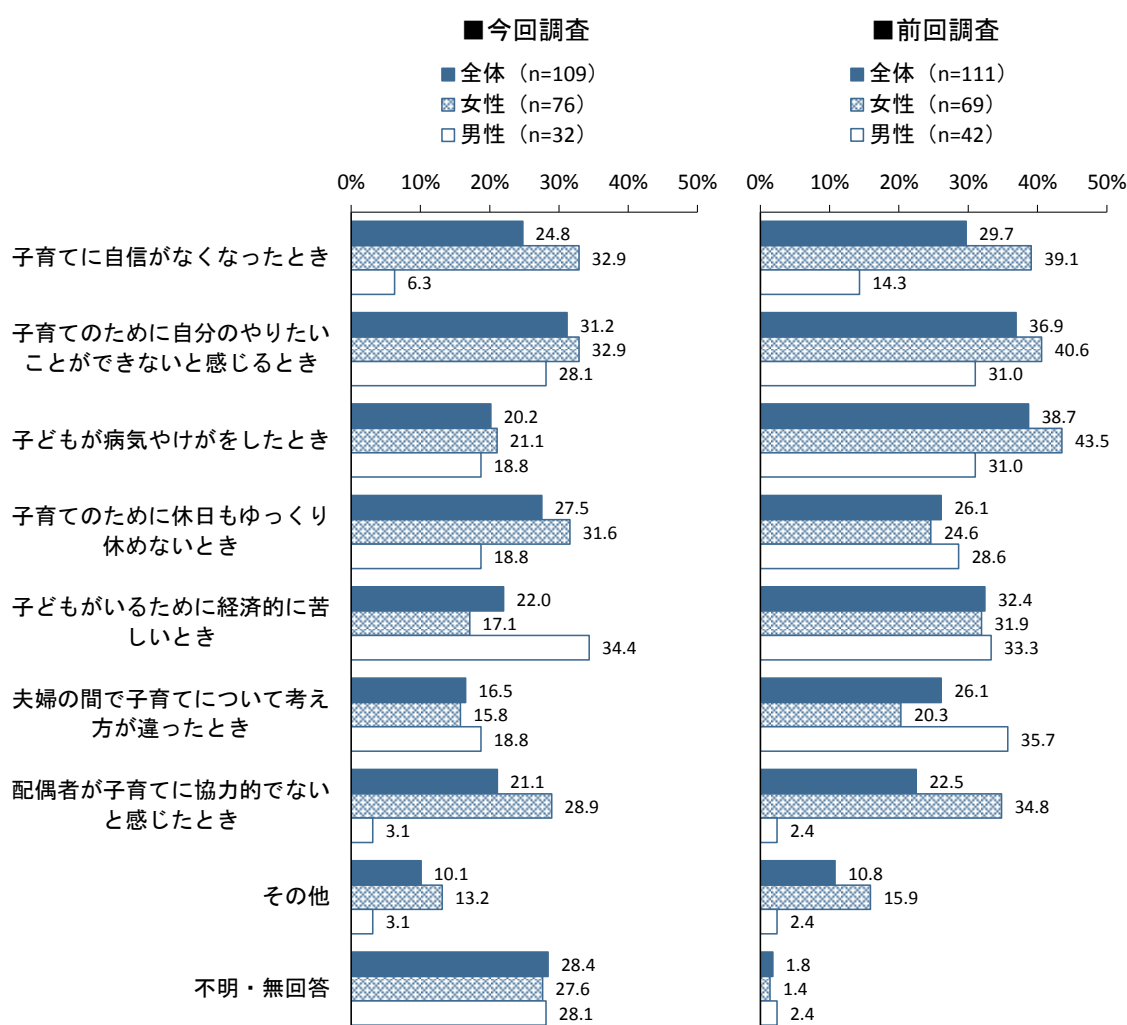
問 17-1	【問 17 で「つらいと感じることが多い」「楽しさとつらさが同じくらい」を回答された方】 つらいと感じるのはどのような時ですか。(〇はいくつでも)

子育てをつらいと感じる時について全体では、「子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき」が 31.2% で最も高く、次いで「子育てのために休日もゆっくり休めないとき」が 27.5%、「子育てに自信がなくなったとき」が 24.8% と続いています。

性別でみると、女性では「子育てに自信がなくなったとき」「子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき」がいずれも 32.9% で最も高く、次いで「子育てのために休日もゆっくり休めないとき」が 31.6% と続いております、男性では「子どもがいるために経済的に苦しいとき」が 34.4% で最も高く、次いで「子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき」が 28.1% と続いております。

前回調査と比較すると、女性では「子育てのために休日もゆっくり休めないとき」が 7.0 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「子どもがいるために経済的に苦しいとき」が 1.1 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-4-7 子育てをつらいと感じる時



図表 3-4-8 子育てをつらいと感じる時 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	子育てに自信がなくなったとき	子育てのために自分のやることができないと感じるとき	子どもが病気やけがをしたとき	子育てのために休日もゆっくり休めないとき	子どもがいるために経済的に苦しいとき	夫婦の間で子育てについて考え方が違ったとき	配偶者が子育てに協力的でないと感じたとき	その他	不明・無回答
全体		109	24.8	31.2	20.2	27.5	22.0	16.5	21.1	10.1	28.4
性別	女性	76	32.9	32.9	21.1	31.6	17.1	15.8	28.9	13.2	27.6
	男性	32	6.3	28.1	18.8	18.8	34.4	18.8	3.1	3.1	28.1
性別・年代別	女性 20歳代	7	28.6	28.6	0.0	28.6	0.0	14.3	28.6	28.6	28.6
	女性 30歳代	27	29.6	48.1	22.2	51.9	3.7	18.5	29.6	7.4	22.2
	女性 40歳代	35	34.3	20.0	28.6	17.1	25.7	17.1	20.0	11.4	34.3
	女性 50歳代	7	42.9	42.9	0.0	28.6	42.9	0.0	71.4	28.6	14.3
	女性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	男性 30歳代	10	0.0	60.0	20.0	40.0	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0
	男性 40歳代	12	8.3	8.3	16.7	8.3	41.7	16.7	0.0	0.0	33.3
	男性 50歳代	7	0.0	0.0	28.6	0.0	42.9	28.6	0.0	0.0	42.9
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-4-9 子育てをつらいと感じる時 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	子育てに自信がなくなったとき	子育てのために自分のやることができないと感じるとき	子どもが病気やけがをしたとき	子育てのために休日もゆっくり休めないとき	子どもがいるために経済的に苦しいとき	夫婦の間で子育てについて考え方が違ったとき	配偶者が子育てに協力的でないと感じたとき	その他	不明・無回答
全体		111	29.7	36.9	38.7	26.1	32.4	26.1	22.5	10.8	1.8
性別	女性	69	39.1	40.6	43.5	24.6	31.9	20.3	34.8	15.9	1.4
	男性	42	14.3	31.0	31.0	28.6	33.3	35.7	2.4	2.4	2.4
性別・年代別	女性 20歳代	4	50.0	75.0	25.0	50.0	50.0	0.0	50.0	25.0	0.0
	女性 30歳代	37	37.8	45.9	43.2	32.4	21.6	27.0	40.5	10.8	0.0
	女性 40歳代	28	39.3	28.6	46.4	10.7	42.9	14.3	25.0	21.4	3.6
	女性 50歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	11	18.2	72.7	36.4	36.4	36.4	18.2	0.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	25	16.0	20.0	28.0	24.0	32.0	40.0	4.0	4.0	4.0
	男性 50歳代	5	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

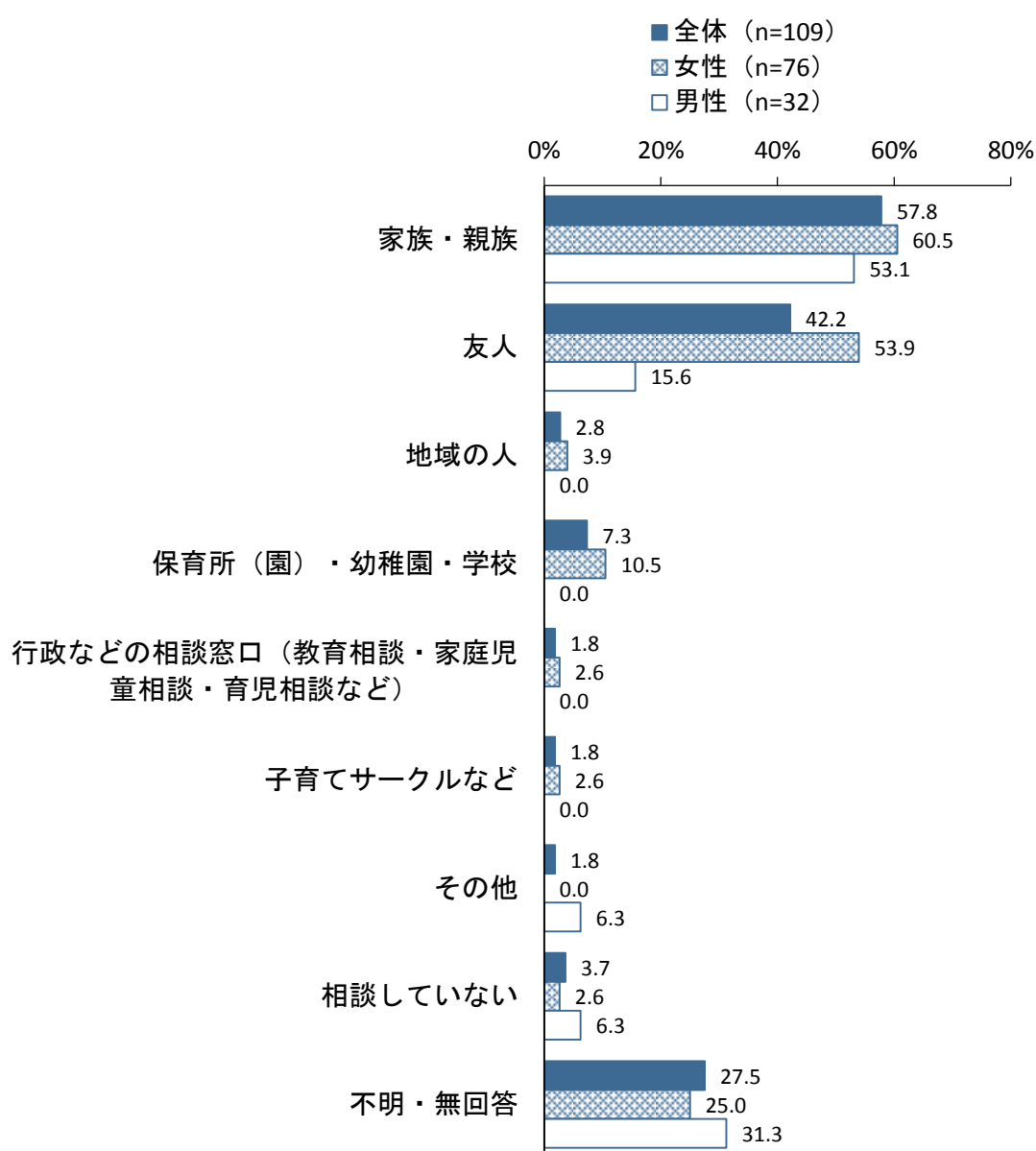
(3) 子育てについての相談先

問 17-2	【問 17 で「つらいと感じることが多い」「楽しさとつらさが同じくらい」を回答された方】 あなたは、子育てについてだれに（どこで）相談していますか。 （〇はいくつでも）

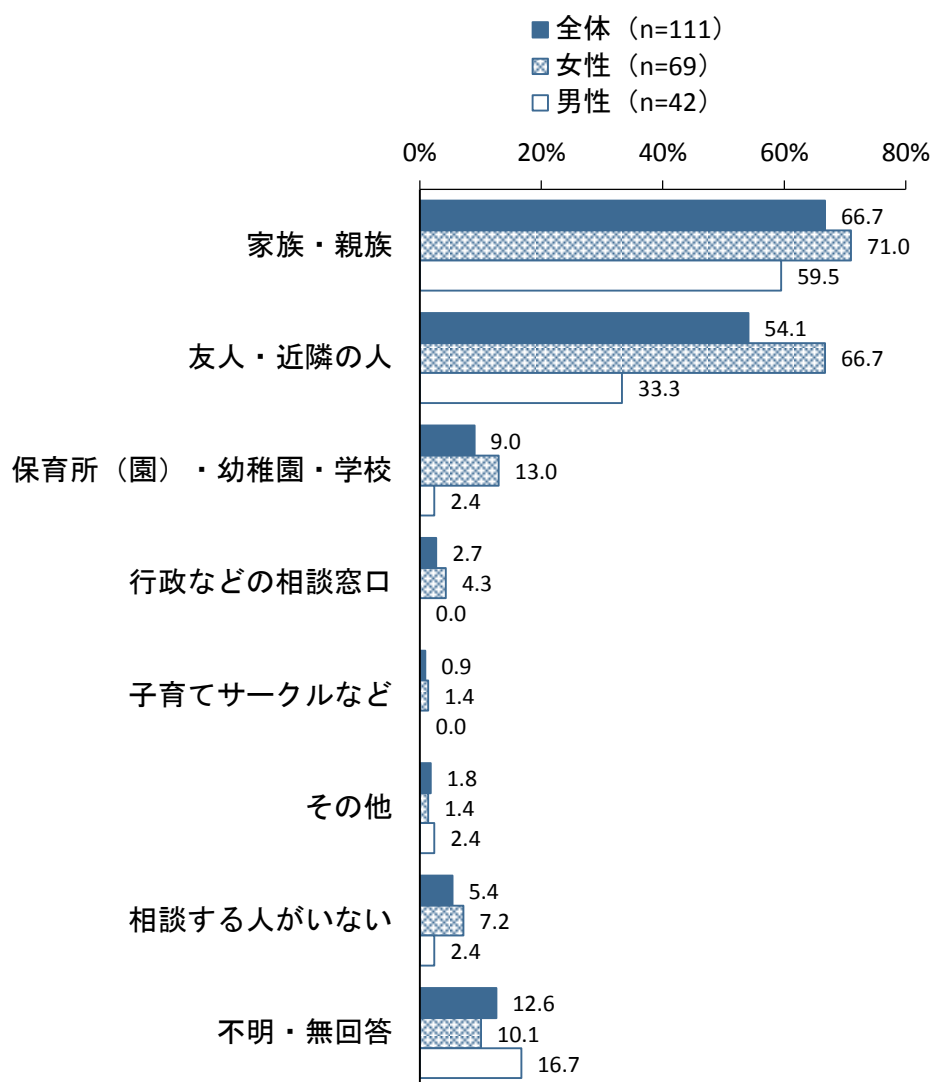
子育てについての相談先について全体では、「家族・親族」が 57.8%で最も高く、次いで「友人」が 42.2%、「保育所（園）・幼稚園・学校」が 7.3%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「家族・親族」の割合が最も高く、「友人」では、女性が 53.9%で、男性（15.6%）よりも 38.3 ポイント高く、最も差の大きい項目となっています。

図表 3-4-10 子育てについての相談先



図表 3-4-11 子育てについての相談先 前回調査



図表 3-4-12 子育てについての相談先 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家族・親族	友人	地域の 人	校保育 所（園）・幼稚園・学	行政な どの相 談窓口 （教育 相談 など）	子育て サークル など	その他	相談 してい ない	不明・無 回答
全体		109	57.8	42.2	2.8	7.3	1.8	1.8	1.8	3.7	27.5
性別	女性	76	60.5	53.9	3.9	10.5	2.6	2.6	0.0	2.6	25.0
	男性	32	53.1	15.6	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	31.3
性別・年代別	女性 20歳代	7	42.9	57.1	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6
	女性 30歳代	27	63.0	70.4	7.4	14.8	0.0	7.4	0.0	3.7	18.5
	女性 40歳代	35	62.9	37.1	2.9	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4
	女性 50歳代	7	57.1	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
	女性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	男性 30歳代	10	50.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	男性 40歳代	12	58.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	33.3
	男性 50歳代	7	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-4-13 子育てについての相談先 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家族・親族	友人・近 隣の 人	校保育 所（園）・幼稚園・学	行政な どの相 談窓口	子育て サークル など	その他	相談 する人 がい ない	不明・無 回答
全体		111	66.7	54.1	9.0	2.7	0.9	1.8	5.4	12.6
性別	女性	69	71.0	66.7	13.0	4.3	1.4	1.4	7.2	10.1
	男性	42	59.5	33.3	2.4	0.0	0.0	2.4	2.4	16.7
性別・年代別	女性 20歳代	4	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	37	78.4	64.9	13.5	5.4	2.7	0.0	2.7	10.8
	女性 40歳代	28	57.1	67.9	10.7	3.6	0.0	3.6	14.3	10.7
	女性 50歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	男性 30歳代	11	63.6	27.3	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1
	男性 40歳代	25	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0
	男性 50歳代	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

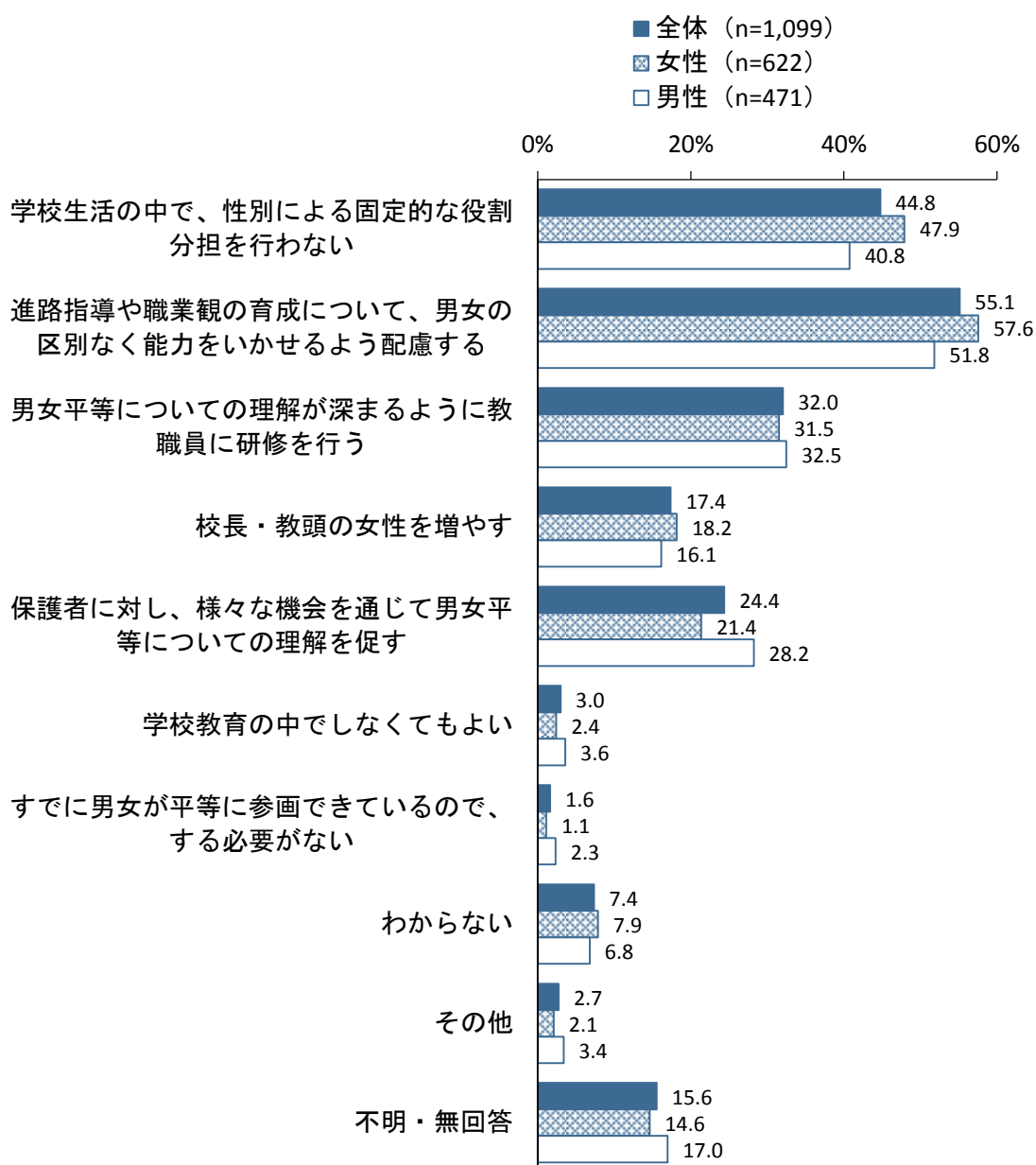
(4) 男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うもの

問 18	男女共同参画を推進していくために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)

男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うものについて全体では、「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力をいかせるよう配慮する」が 55.1%で最も高く、次いで「学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」が 44.8%、「男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う」が 32.0%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも上位3位は全体と同順となっており、「学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」では、女性が 47.9%で、男性（40.8%）よりも 7.1 ポイント高く、最も差の大きい項目となっています。

図表 3-4-14 男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うもの



性別・年代別でみると、女性 30 歳代を除く全ての年代で「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力をいかせるよう配慮する」の割合が最も高く、女性 30 歳代では「学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」の割合が最も高くなっています。

図表 3-4-15 男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うもの 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	な い	学 校 生 活 中 の 固 定 的 な 役 割 分 担 を 行 わ な い	力 を い か せ る よ う の 区 別 な く 配 慮 す る 能 力	進 路 指 導 や 職 業 観 の 育 成 に つ い て	深 ま る よ う に 行 う	男 女 平 等 に つ い て	校 長 ・ 教 頭 の 女 性 を 増 や す	の 理 解 を 促 す 機 会	保 護 者 に 対 し 、 平 等 な 機 会	よ い 学 校 教 育 中 で し な く も	な き で い る の で 、 平 等 に 参 画 す る 必 要 が	わ か ら な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体		1,099	44.8	55.1	32.0	17.4	24.4	3.0	1.6	7.4	2.7	15.6				
性別	女性	622	47.9	57.6	31.5	18.2	21.4	2.4	1.1	7.9	2.1	14.6				
	男性	471	40.8	51.8	32.5	16.1	28.2	3.6	2.3	6.8	3.4	17.0				
性別・年代別	女性 20歳代	80	52.5	55.0	36.3	21.3	25.0	1.3	0.0	10.0	2.5	11.3				
	女性 30歳代	103	47.6	44.7	29.1	22.3	16.5	5.8	0.0	5.8	2.9	22.3				
	女性 40歳代	142	45.8	52.1	23.2	12.7	14.8	2.8	2.1	6.3	2.1	20.4				
	女性 50歳代	137	49.6	65.7	35.8	18.2	22.6	1.5	1.5	9.5	2.2	8.8				
	女性 60歳代	63	52.4	65.1	33.3	15.9	19.0	3.2	1.6	4.8	0.0	12.7				
	女性 70歳以上	97	42.3	64.9	35.1	20.6	33.0	0.0	1.0	10.3	2.1	10.3				
	男性 20歳代	47	34.0	38.3	29.8	14.9	36.2	6.4	2.1	10.6	2.1	10.6				
	男性 30歳代	71	35.2	50.7	31.0	15.5	26.8	2.8	1.4	2.8	5.6	23.9				
	男性 40歳代	89	29.2	39.3	28.1	11.2	22.5	3.4	4.5	10.1	4.5	27.0				
	男性 50歳代	107	50.5	54.2	36.4	19.6	27.1	4.7	0.0	2.8	2.8	15.0				
	男性 60歳代	67	55.2	70.1	41.8	14.9	25.4	1.5	3.0	7.5	1.5	3.0				
	男性 70歳以上	90	37.8	55.6	27.8	18.9	34.4	3.3	3.3	8.9	3.3	17.8				

※網掛け■は最も割合が高いもの

5. 働くことについて

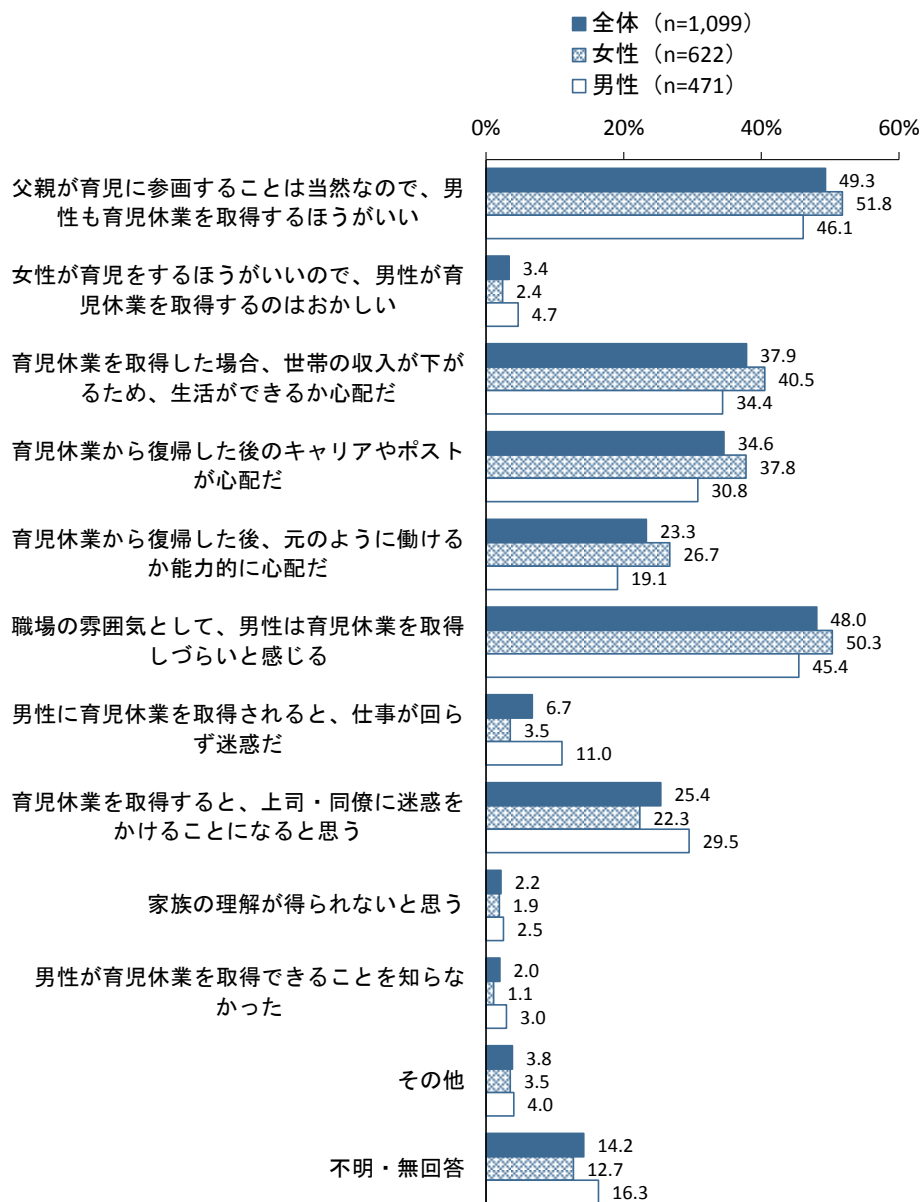
(1) 男性の育児休業取得について

問 19	あなたは、「男性の育児休業取得」について、どう思いますか。 (〇はいくつでも)

男性の育児休業取得について全体では、「父親が育児に参画することは当然なので、男性も育児休業を取得するほうが良い」が49.3%で最も高く、次いで「職場の雰囲気として、男性は育児休業を取得しづらいと感じる」が48.0%、「育児休業を取得した場合、世帯の収入が下がるため、生活ができるか心配だ」が37.9%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも上位3位は全体と同順となっており、「育児休業から復帰した後、元のように働けるか能力的に心配だ」では、女性が26.7%で、男性（19.1%）よりも7.6ポイント高く、最も差の大きい項目となっています。

図表 3-5-1 男性の育児休業取得について



る男	と司育	思家	る男

(2) 男性の育児休業の取得状況

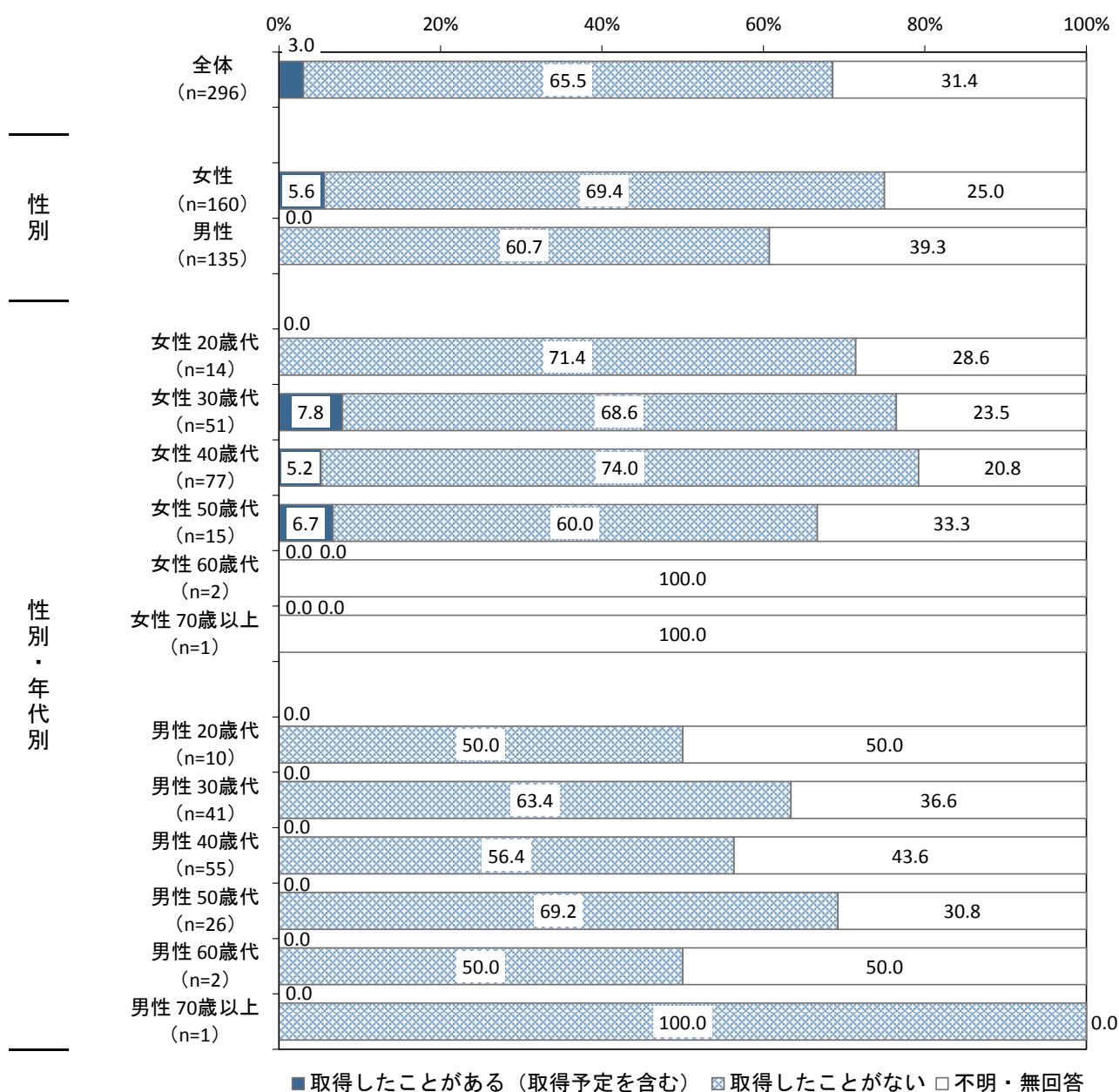
問 19-1	【問 5 で「3歳未満」～「高校生」を回答された方】 あなた、もしくはあなたの配偶者・パートナーは「男性の育児休業取得」をしたことがありますか。(○は1つだけ)

男性の育児休業の取得状況について全体では、「取得したことがない」が65.5%で、「取得したことがある（取得予定を含む）」が3.0%となっています。

性別でみると、「取得したことがある（取得予定を含む）」では、女性が5.6%、男性は0%となっています。

性別・年代別でみると、「取得したことがある（取得予定を含む）」では、女性30歳代が7.8%で最も高く、次いで女性50歳代が6.7%、女性40歳代が5.2%となっています。

図表 3-5-3 男性の育児休業の取得状況



(3) 働いている主な理由

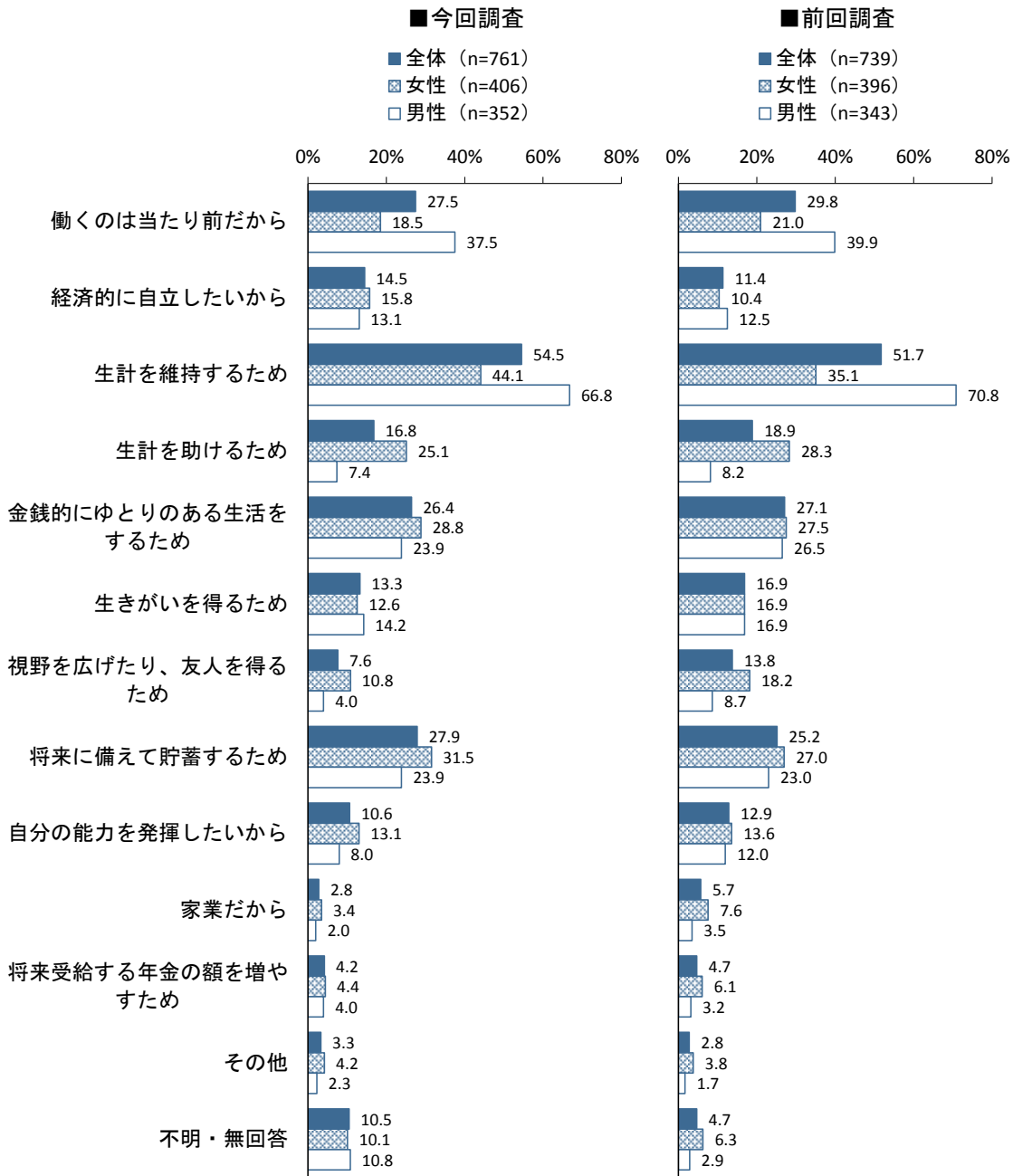
問 20	【問 6①で「正規雇用（正社員・正職員など）」～「自営業、自由業（家族従業者含む）」、「その他の職業」を回答された方】 あなたが働いている主な理由は何ですか。（○は3つ以内）

働いている主な理由について全体では、「生計を維持するため」が 54.5%で最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が 27.9%、「働くのは当たり前だから」が 27.5%と続いています。

性別でみると、女性では「生計を維持するため」が 44.1%で最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が 31.5%、「金銭的にゆとりのある生活をするため」が 28.8%と続いており、男性では「生計を維持するため」が 66.8%で最も高く、次いで「働くのは当たり前だから」が 37.5%、「金銭的にゆとりのある生活をするため」「将来に備えて貯蓄するため」がいずれも 23.9%と続いています。

前回調査と比較すると、女性では「生計を維持するため」が前回調査より 9.0 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「視野を広げたり、友人を得るため」が 4.7 ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 3-5-4 働いている主な理由



性別・年代別でみると、女性 20 歳代では「金銭的にゆとりのある生活をするため」「将来に備えて貯蓄するため」の割合が同率で最も高く、男性 20 歳代では「働くのは当たり前だから」の割合が最も高く、それ以外の年代では「生計を維持するため」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では、全ての年代で「生計を維持するため」の割合が前回調査よりも増加しており、70 歳以上を除く全ての年代で「経済的に自立したいから」の割合が前回調査よりも増加しています。

図表 3-5-5 働いている主な理由 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	働くのは当たり前だから	経済的に自立したいから	生計を維持するため	生計を助けるため	金銭的にゆとりのある生活をするため	生きがいを得るため	視野を広げたり、友人を得るため	将来に備えて貯蓄するため	自分の能力を発揮したいから	家業だから
全体		761	27.5	14.5	54.5	16.8	26.4	13.3	7.6	27.9	10.6	2.8
性別	女性	406	18.5	15.8	44.1	25.1	28.8	12.6	10.8	31.5	13.1	3.4
	男性	352	37.5	13.1	66.8	7.4	23.9	14.2	4.0	23.9	8.0	2.0
性別・年代別	女性 20歳代	50	28.0	26.0	44.0	18.0	52.0	12.0	6.0	52.0	4.0	2.0
	女性 30歳代	78	25.6	23.1	51.3	15.4	26.9	11.5	12.8	37.2	15.4	1.3
	女性 40歳代	112	17.9	11.6	46.4	33.9	25.9	14.3	9.8	33.0	10.7	3.6
	女性 50歳代	111	12.6	12.6	40.5	27.9	26.1	10.8	12.6	28.8	18.0	3.6
	女性 60歳代	34	14.7	17.6	41.2	23.5	29.4	20.6	14.7	11.8	20.6	5.9
	女性 70歳以上	21	9.5	0.0	28.6	19.0	9.5	4.8	4.8	0.0	0.0	9.5
	男性 20歳代	38	52.6	31.6	44.7	10.5	31.6	15.8	5.3	39.5	5.3	0.0
	男性 30歳代	64	39.1	14.1	68.8	4.7	28.1	12.5	1.6	35.9	7.8	1.6
	男性 40歳代	83	43.4	12.0	75.9	6.0	28.9	10.8	2.4	19.3	9.6	2.4
	男性 50歳代	94	38.3	13.8	79.8	1.1	13.8	12.8	3.2	24.5	9.6	0.0
	男性 60歳代	44	15.9	4.5	56.8	22.7	20.5	13.6	6.8	13.6	6.8	4.5
	男性 70歳以上	29	27.6	0.0	37.9	10.3	27.6	31.0	10.3	3.4	3.4	6.9

		合計	将来受給する年金の額を増やすため	その他	不明・無回答
全体		761	4.2	3.3	10.5
性別	女性	406	4.4	4.2	10.1
	男性	352	4.0	2.3	10.8
性別・年代別	女性 20歳代	50	0.0	6.0	2.0
	女性 30歳代	78	3.8	7.7	7.7
	女性 40歳代	112	5.4	1.8	7.1
	女性 50歳代	111	8.1	3.6	12.6
	女性 60歳代	34	0.0	0.0	11.8
	女性 70歳以上	21	0.0	9.5	38.1
	男性 20歳代	38	0.0	2.6	7.9
	男性 30歳代	64	1.6	4.7	9.4
	男性 40歳代	83	3.6	0.0	9.6
	男性 50歳代	94	6.4	1.1	9.6
	男性 60歳代	44	9.1	2.3	11.4
	男性 70歳以上	29	0.0	6.9	24.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-5-6 働いている主な理由 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	働くのは当たり前だから	経済的に自立したいから	生計を維持するため	生計を助けるため	金銭的にゆとりのある生活をするため	生きがいを得るため	視野を広げたり、友人を得るため	将来に備えて貯蓄するため	自分の能力を発揮したいから	家業だから
全体		739	29.8	11.4	51.7	18.9	27.1	16.9	13.8	25.2	12.9	5.7
性別	女性	396	21.0	10.4	35.1	28.3	27.5	16.9	18.2	27.0	13.6	7.6
	男性	343	39.9	12.5	70.8	8.2	26.5	16.9	8.7	23.0	12.0	3.5
性別・年代別	女性 20歳代	48	35.4	16.7	37.5	16.7	22.9	6.3	31.3	41.7	14.6	2.1
	女性 30歳代	81	23.5	16.0	35.8	29.6	37.0	17.3	17.3	33.3	13.6	4.9
	女性 40歳代	87	13.8	6.9	33.3	39.1	21.8	13.8	20.7	26.4	13.8	3.4
	女性 50歳代	94	18.1	9.6	35.1	28.7	29.8	20.2	18.1	26.6	19.1	8.5
	女性 60歳代	71	22.5	5.6	36.6	21.1	25.4	21.1	7.0	15.5	7.0	18.3
	女性 70歳以上	15	13.3	6.7	26.7	26.7	20.0	26.7	20.0	6.7	6.7	6.7
	男性 20歳代	35	42.9	25.7	77.1	8.6	22.9	20.0	14.3	25.7	11.4	0.0
	男性 30歳代	74	45.9	13.5	70.3	5.4	31.1	16.2	6.8	28.4	2.7	4.1
	男性 40歳代	84	47.6	8.3	78.6	4.8	23.8	14.3	6.0	20.2	17.9	2.4
	男性 50歳代	67	44.8	14.9	77.6	4.5	19.4	10.4	7.5	23.9	20.9	1.5
	男性 60歳代	67	20.9	7.5	59.7	16.4	37.3	25.4	11.9	20.9	7.5	3.0
	男性 70歳以上	16	25.0	12.5	37.5	18.8	12.5	18.8	12.5	12.5	6.3	25.0

		合計	将来受給する年金の額を増やすため	その他	不明・無回答
全体		739	4.7	2.8	4.7
性別	女性	396	6.1	3.8	6.3
	男性	343	3.2	1.7	2.9
性別・年代別	女性 20歳代	48	4.2	6.3	6.3
	女性 30歳代	81	2.5	2.5	0.0
	女性 40歳代	87	4.6	6.9	2.3
	女性 50歳代	94	6.4	1.1	6.4
	女性 60歳代	71	14.1	2.8	12.7
	女性 70歳以上	15	0.0	6.7	33.3
	男性 20歳代	35	2.9	0.0	2.9
	男性 30歳代	74	1.4	0.0	2.7
	男性 40歳代	84	6.0	0.0	1.2
	男性 50歳代	67	1.5	0.0	0.0
	男性 60歳代	67	4.5	9.0	6.0
	男性 70歳以上	16	0.0	0.0	12.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

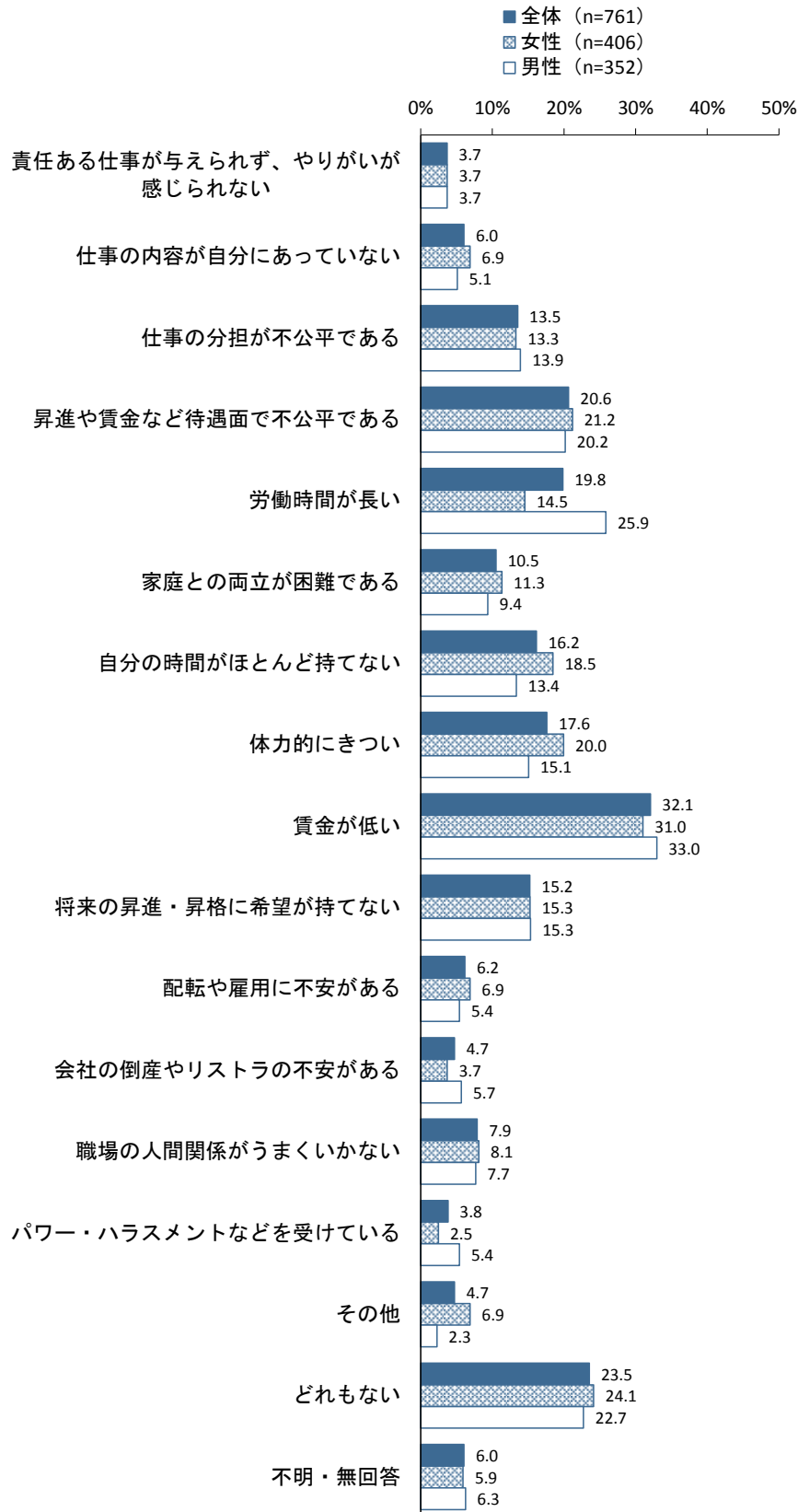
(4) 仕事について悩んでいること・不満に思うこと

問 20-1	【問 6①で「正規雇用（正社員・正職員など）」～「自営業、自由業（家族従業者含む）」、「その他の職業」を回答された方】 あなたは、現在、仕事について悩んでいることや、不満に思うことがありますか。（〇はいくつでも）

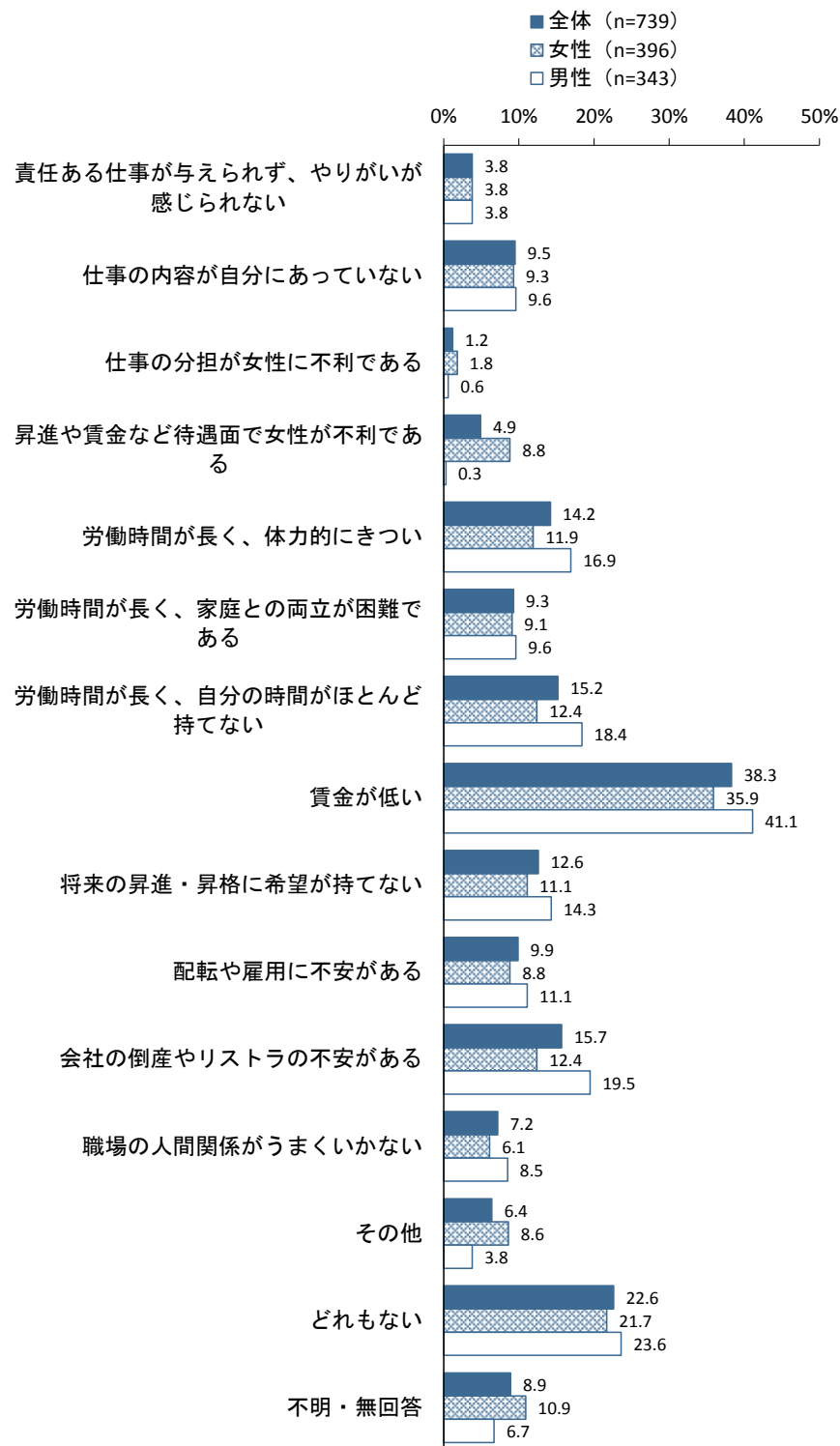
仕事について悩んでいること・不満に思うことについて全体では、「賃金が低い」が 32.1%で最も高く、次いで「どれもない」が 23.5%、「昇進や賃金など待遇面で不公平である」が 20.6%と続いています。

性別でみると、女性では「賃金が低い」が 31.0%で最も高く、次いで「どれもない」が 24.1%、「昇進や賃金など待遇面で不公平である」が 21.2%と続いており、男性では「賃金が低い」が 33.0%で最も高く、次いで「労働時間が長い」が 25.9%、「どれもない」が 22.7%と続いています。

図表 3-5-7 仕事について悩んでいること・不満に思うこと



図表 3-5-8 仕事について悩んでいること・不満に思うこと 前回調査



性別・年代別でみると、女性 20 歳代から 50 歳代、男性 50 歳代から 60 歳代では「賃金が低い」の割合が最も高く、男性 30 歳代から 40 歳代では「労働時間が長い」の割合が最も高く、女性 60 歳代以上、男性 70 歳以上では「どれもない」の割合が最も高く、男性 20 歳代では「賃金が低い」「どれもない」の割合が同率で最も高くなっています。

図表 3-5-9 仕事について悩んでいること・不満に思うこと 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	いず責任 やりの 仕事 が与え られな い	仕事 の内容が 自分に あつて いない	仕事 の負担 が不公 平であ る	昇進 や賃金 など待 遇面で 不公 平であ る	労働 時間が 長い	家庭 との両 立が困 難であ る	自分 の時間 がほと んど持 てない	体的 的にき つ	賃金 が低い	将来 の昇進 ・昇格 に希望 が持て ない
全体		761	3.7	6.0	13.5	20.6	19.8	10.5	16.2	17.6	32.1	15.2
性別	女性	406	3.7	6.9	13.3	21.2	14.5	11.3	18.5	20.0	31.0	15.3
	男性	352	3.7	5.1	13.9	20.2	25.9	9.4	13.4	15.1	33.0	15.3
性別・年代別	女性 20歳代	50	6.0	12.0	18.0	22.0	22.0	18.0	20.0	12.0	36.0	28.0
	女性 30歳代	78	2.6	14.1	19.2	26.9	19.2	15.4	25.6	19.2	37.2	20.5
	女性 40歳代	112	2.7	2.7	15.2	25.0	14.3	16.1	21.4	25.0	29.5	17.9
	女性 50歳代	111	5.4	6.3	9.9	18.9	10.8	5.4	13.5	20.7	29.7	10.8
	女性 60歳代	34	2.9	2.9	5.9	14.7	11.8	2.9	11.8	23.5	26.5	0.0
	女性 70歳以上	21	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	9.5	4.8	19.0	0.0
	男性 20歳代	38	0.0	2.6	10.5	18.4	23.7	7.9	10.5	5.3	31.6	21.1
	男性 30歳代	64	6.3	7.8	18.8	26.6	43.8	15.6	25.0	14.1	37.5	18.8
	男性 40歳代	83	1.2	7.2	15.7	24.1	38.6	18.1	18.1	20.5	36.1	21.7
	男性 50歳代	94	7.4	5.3	13.8	21.3	17.0	3.2	11.7	10.6	28.7	16.0
	男性 60歳代	44	2.3	2.3	13.6	13.6	9.1	2.3	2.3	25.0	36.4	0.0
	男性 70歳以上	29	0.0	0.0	3.4	3.4	6.9	3.4	0.0	13.8	24.1	3.4

		合計	配転 や雇用 に不安 がある	会社 の倒産 やリス トラの 不安が ある	職場 の人間 関係が うまく いかない	パワ ー・ハ ラスメ ントな どを受 けてい る	その他	どれも ない	不明・ 無回答
全体			6.2	4.7	7.9	3.8	4.7	23.5	6.0
性別	女性		6.9	3.7	8.1	2.5	6.9	24.1	5.9
	男性		5.4	5.7	7.7	5.4	2.3	22.7	6.3
性別・年代別	女性 20歳代		8.0	0.0	18.0	6.0	10.0	18.0	0.0
	女性 30歳代		7.7	3.8	9.0	0.0	6.4	20.5	3.8
	女性 40歳代		11.6	3.6	8.0	2.7	10.7	22.3	3.6
	女性 50歳代		3.6	6.3	6.3	2.7	5.4	27.9	5.4
	女性 60歳代		2.9	2.9	0.0	2.9	0.0	29.4	8.8
	女性 70歳以上		0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	33.3	38.1
	男性 20歳代		5.3	0.0	2.6	0.0	0.0	31.6	2.6
	男性 30歳代		10.9	4.7	12.5	12.5	3.1	17.2	0.0
	男性 40歳代		4.8	8.4	4.8	6.0	3.6	14.5	3.6
	男性 50歳代		5.3	7.4	11.7	6.4	2.1	26.6	5.3
	男性 60歳代		2.3	6.8	4.5	0.0	0.0	22.7	13.6
	男性 70歳以上		0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	34.5	24.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-5-10 仕事について悩んでいること・不満に思うこと 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	責任ある仕事 が与えられな い	仕事の 内容が自分 にあつて いない	仕事 の負担が 女性に不 利である	昇進や 賃金など 待遇面で 女性に不 利である	労働時 間が長く 、体力的 にきつい	労働時 間が長く 、家庭と の両立が 困難であ る	労働時 間が長く 、自分 の時間 がとれな い	賃金 が低い	将来の 昇進・ 昇格に 希望が 持てな い	配 転や雇 用に不 安があ る
全体		739	3.8	9.5	1.2	4.9	14.2	9.3	15.2	38.3	12.6	9.9
性別	女性	396	3.8	9.3	1.8	8.8	11.9	9.1	12.4	35.9	11.1	8.8
	男性	343	3.8	9.6	0.6	0.3	16.9	9.6	18.4	41.1	14.3	11.1
性別・年代別	女性 20歳代	48	2.1	14.6	2.1	6.3	10.4	10.4	12.5	50.0	20.8	8.3
	女性 30歳代	81	9.9	11.1	0.0	9.9	12.3	14.8	14.8	33.3	16.0	12.3
	女性 40歳代	87	2.3	10.3	2.3	9.2	17.2	12.6	18.4	37.9	13.8	9.2
	女性 50歳代	94	4.3	4.3	1.1	12.8	8.5	5.3	5.3	37.2	6.4	9.6
	女性 60歳代	71	0.0	8.5	1.4	5.6	8.5	2.8	11.3	29.6	2.8	5.6
	女性 70歳以上	15	0.0	13.3	13.3	0.0	20.0	6.7	13.3	13.3	6.7	0.0
	男性 20歳代	35	2.9	11.4	0.0	0.0	22.9	25.7	34.3	45.7	22.9	11.4
	男性 30歳代	74	5.4	16.2	0.0	1.4	25.7	14.9	28.4	51.4	17.6	20.3
	男性 40歳代	84	3.6	8.3	1.2	0.0	21.4	13.1	21.4	40.5	22.6	13.1
	男性 50歳代	67	4.5	13.4	1.5	0.0	13.4	1.5	10.4	41.8	11.9	6.0
	男性 60歳代	67	3.0	1.5	0.0	0.0	6.0	1.5	7.5	34.3	1.5	4.5
	男性 70歳以上	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3

		合計	会社の倒産やリス トラの不 安がある	職場の人間関係が うまくい かない	その他	どれも ない	不明・無 回答
全体		739	15.7	7.2	6.4	22.6	8.9
性別	女性	396	12.4	6.1	8.6	21.7	10.9
	男性	343	19.5	8.5	3.8	23.6	6.7
性別・年代別	女性 20歳代	48	10.4	8.3	8.3	14.6	8.3
	女性 30歳代	81	13.6	6.2	13.6	19.8	2.5
	女性 40歳代	87	17.2	4.6	8.0	26.4	4.6
	女性 50歳代	94	11.7	8.5	8.5	21.3	12.8
	女性 60歳代	71	9.9	4.2	5.6	23.9	21.1
	女性 70歳以上	15	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	男性 20歳代	35	14.3	11.4	5.7	11.4	8.6
	男性 30歳代	74	23.0	8.1	6.8	17.6	2.7
	男性 40歳代	84	26.2	14.3	0.0	20.2	2.4
	男性 50歳代	67	20.9	4.5	3.0	20.9	3.0
	男性 60歳代	67	11.9	6.0	3.0	37.3	16.4
	男性 70歳以上	16	6.3	0.0	12.5	50.0	18.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

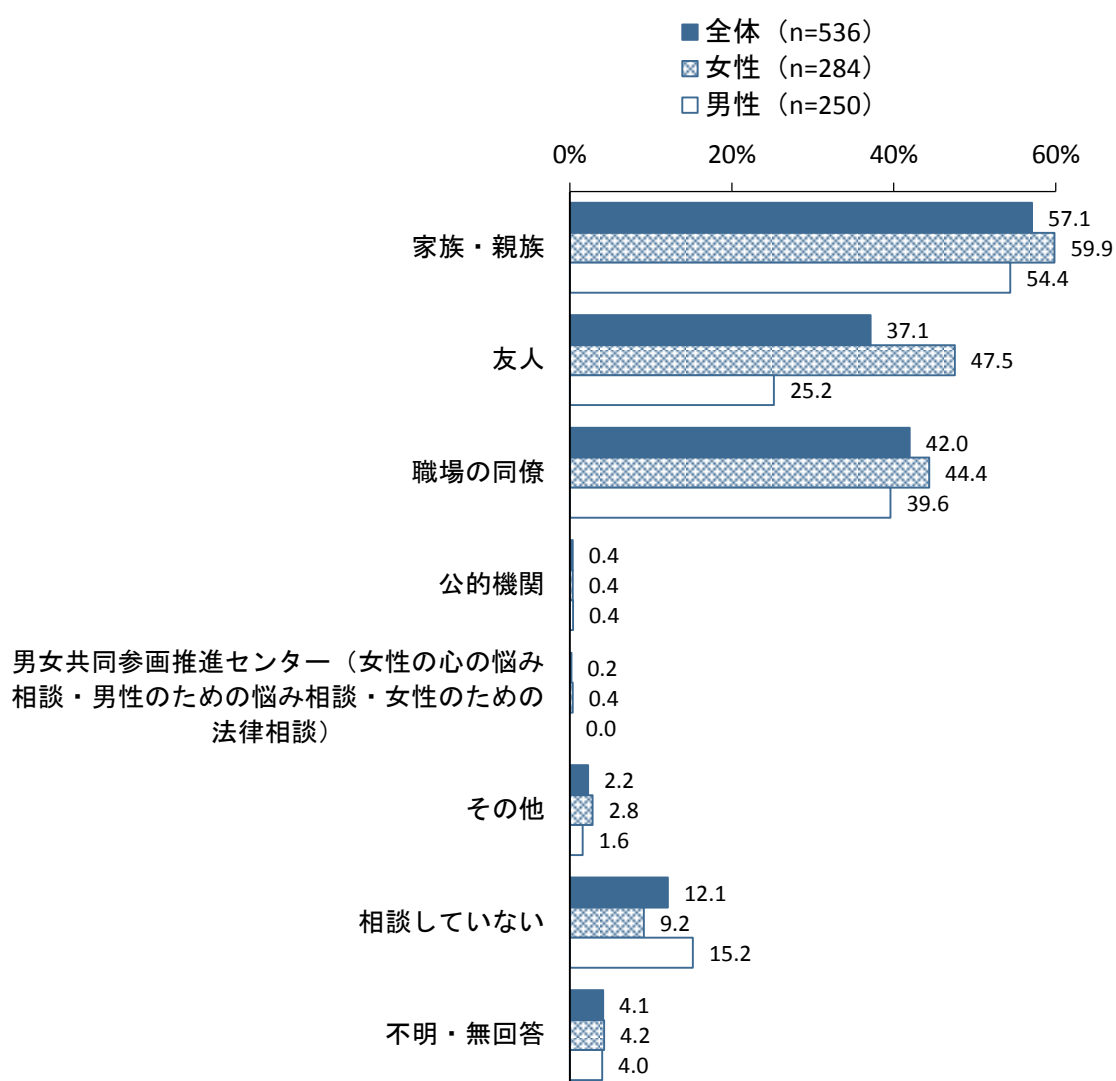
(5) 仕事についての相談先

問 20-2	【問 20-1 で「どれもない」以外を回答された方】 あなたは、仕事についての悩みを、だれに（どこで）相談していますか。 （〇はいくつでも）

仕事についての相談先について全体では、「家族・親族」が 57.1% で最も高く、次いで「職場の同僚」が 42.0%、「友人」が 37.1% と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「家族・親族」の割合が最も高く、女性では次いで「友人」、「職場の同僚」と続いている、男性では次いで「職場の同僚」、「友人」と続いている、「友人」では女性が 47.5% で、男性（25.2%）よりも 22.3 ポイント高く、最も差が大きい項目となっています。

図表 3-5-11 仕事についての相談先



性別・年代別でみると、女性 20 歳代では「友人」の割合が最も高く、女性 60 歳代以上では「家族・親族」「友人」の割合が最も高く、女性 70 歳以上では「家族・親族」「職場の同僚」の割合が同率で最も高く、男性 60 歳代では「職場の同僚」の割合が最も高く、それ以外の年代では「家族・親族」の割合が最も高くなっています。また、女性では、「友人」は年代が上がるにつれて割合が低くなっており、「家族・親族」は 30 歳代以上で年代が上がるにつれて概ね割合が低くなっています。

図表 3-5-12 仕事についての相談先 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家族・親族	友人	職場の同僚	公的機関	女性の悩み相談のため法律相談（女性のみ） 男性の悩み相談のため法律相談（男性のみ） 男女共同参画推進センターの悩み相談（女性のみ） 女性の悩み相談（女性のみ）	その他	相談していない	不明・無回答
全体		536	57.1	37.1	42.0	0.4	0.2	2.2	12.1	4.1
性別	女性	284	59.9	47.5	44.4	0.4	0.4	2.8	9.2	4.2
	男性	250	54.4	25.2	39.6	0.4	0.0	1.6	15.2	4.0
性別・年代別	女性 20歳代	41	65.9	70.7	39.0	2.4	0.0	2.4	9.8	0.0
	女性 30歳代	59	76.3	52.5	52.5	0.0	0.0	8.5	1.7	3.4
	女性 40歳代	83	61.4	44.6	44.6	0.0	0.0	1.2	10.8	3.6
	女性 50歳代	74	51.4	41.9	45.9	0.0	1.4	1.4	13.5	1.4
	女性 60歳代	21	33.3	33.3	28.6	0.0	0.0	0.0	4.8	19.0
	女性 70歳以上	6	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3
	男性 20歳代	25	56.0	32.0	48.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0
	男性 30歳代	53	60.4	34.0	43.4	1.9	0.0	1.9	11.3	3.8
	男性 40歳代	68	58.8	23.5	36.8	0.0	0.0	1.5	23.5	1.5
	男性 50歳代	64	51.6	20.3	42.2	0.0	0.0	3.1	14.1	4.7
	男性 60歳代	28	35.7	25.0	42.9	0.0	0.0	0.0	3.6	7.1
	男性 70歳以上	12	58.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7

※網掛け■は最も割合が高いもの

（６）配偶者・パートナーが働いていることについて

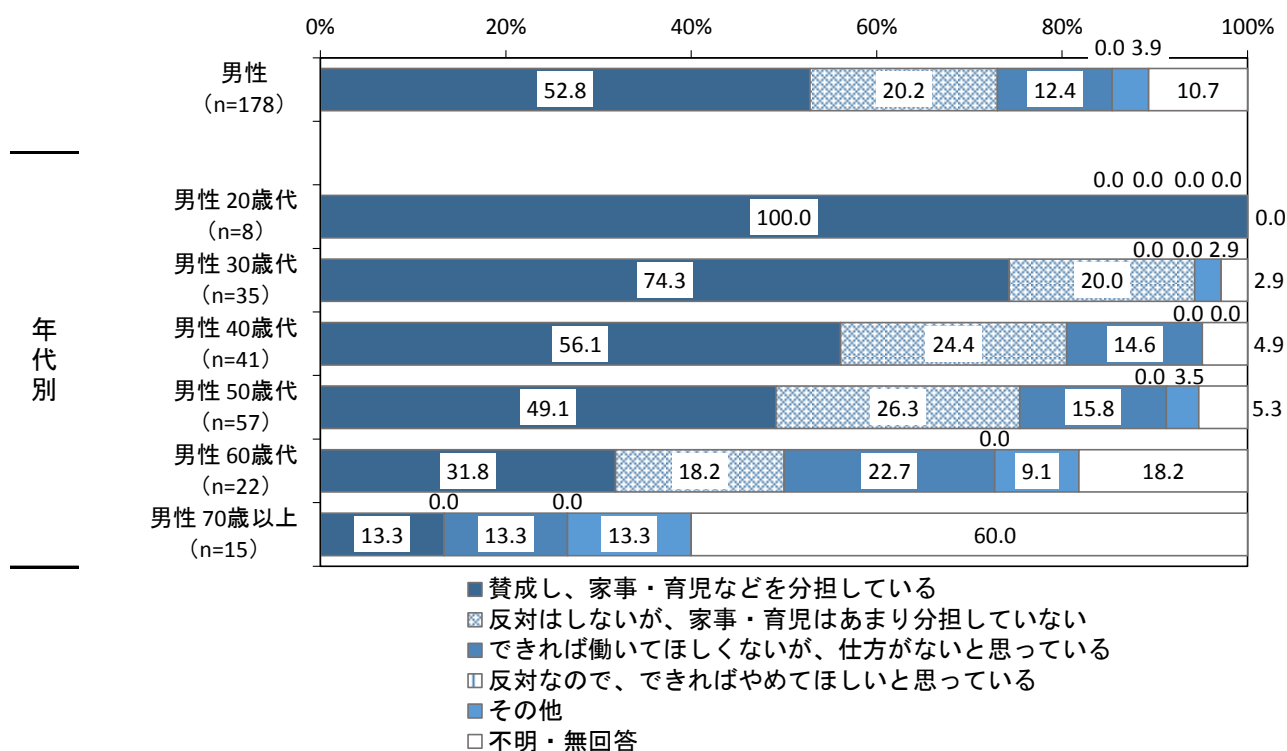
問 21	【問 1 で「男性」を回答し、かつ問 3 で「既婚（配偶者・パートナーがいる）」を、問 6②で「正規雇用（正社員・正職員など）」～「自営業、自由業（家族従業者含む）」、「その他の職業」を回答された方】 配偶者・パートナーが働いているあなたは、配偶者・パートナーが働いていることについてどう思いますか。（○は1つだけ）

女性の配偶者・パートナーが働いていることについて全体では、「賛成し、家事・育児などを分担している」が 52.8%で最も高く、次いで「反対はしないが、家事・育児はあまり分担していない」が 20.2%、「できれば働いてほしくないが、仕方がないと思っている」が 12.4%と続いています。

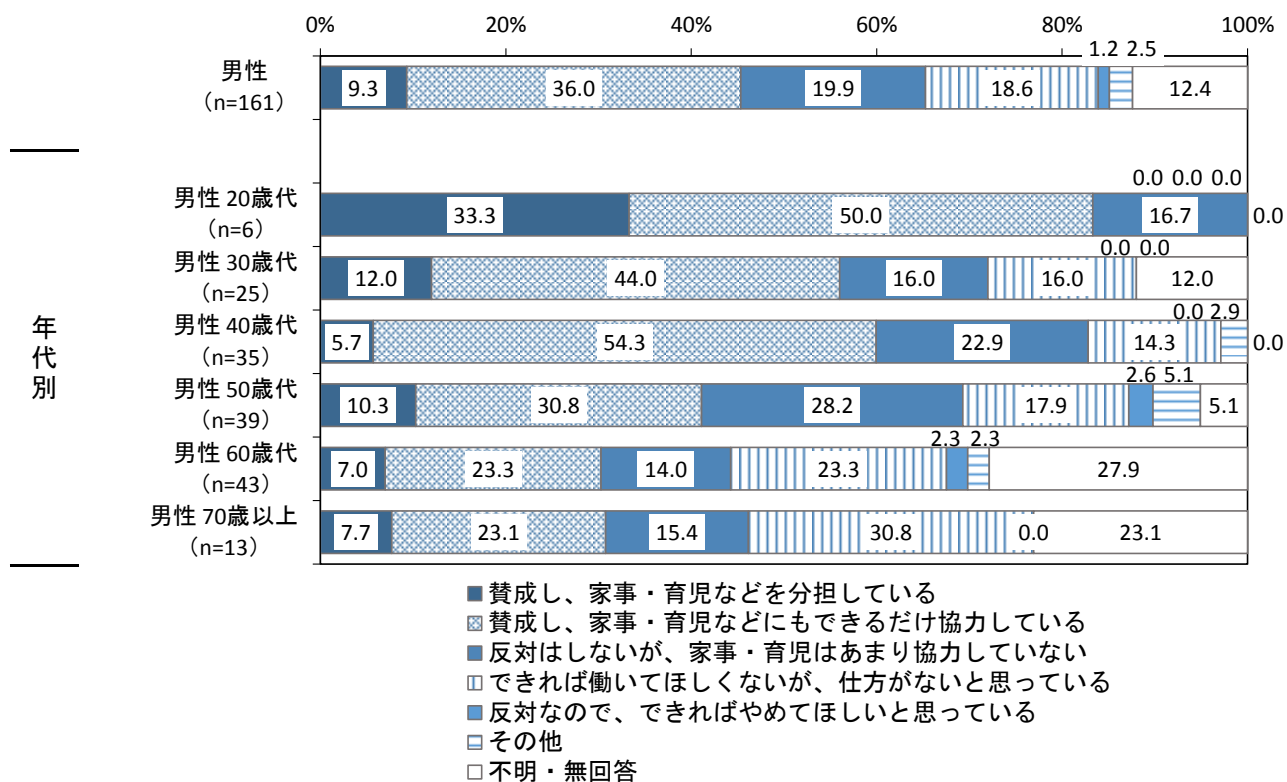
年代別にみると、「賛成し、家事・育児などを分担している」では、年代が上がるにつれて割合が低くなっています。

前回調査と比較すると、「賛成し、家事・育児などを分担している」では、全ての年代で前回調査よりも割合が増加しています。

図表 3-5-13 配偶者・パートナーが働いていることについて



図表 3-5-14 配偶者・パートナーが働いていることについて 前回調査



(7) 働いていない理由

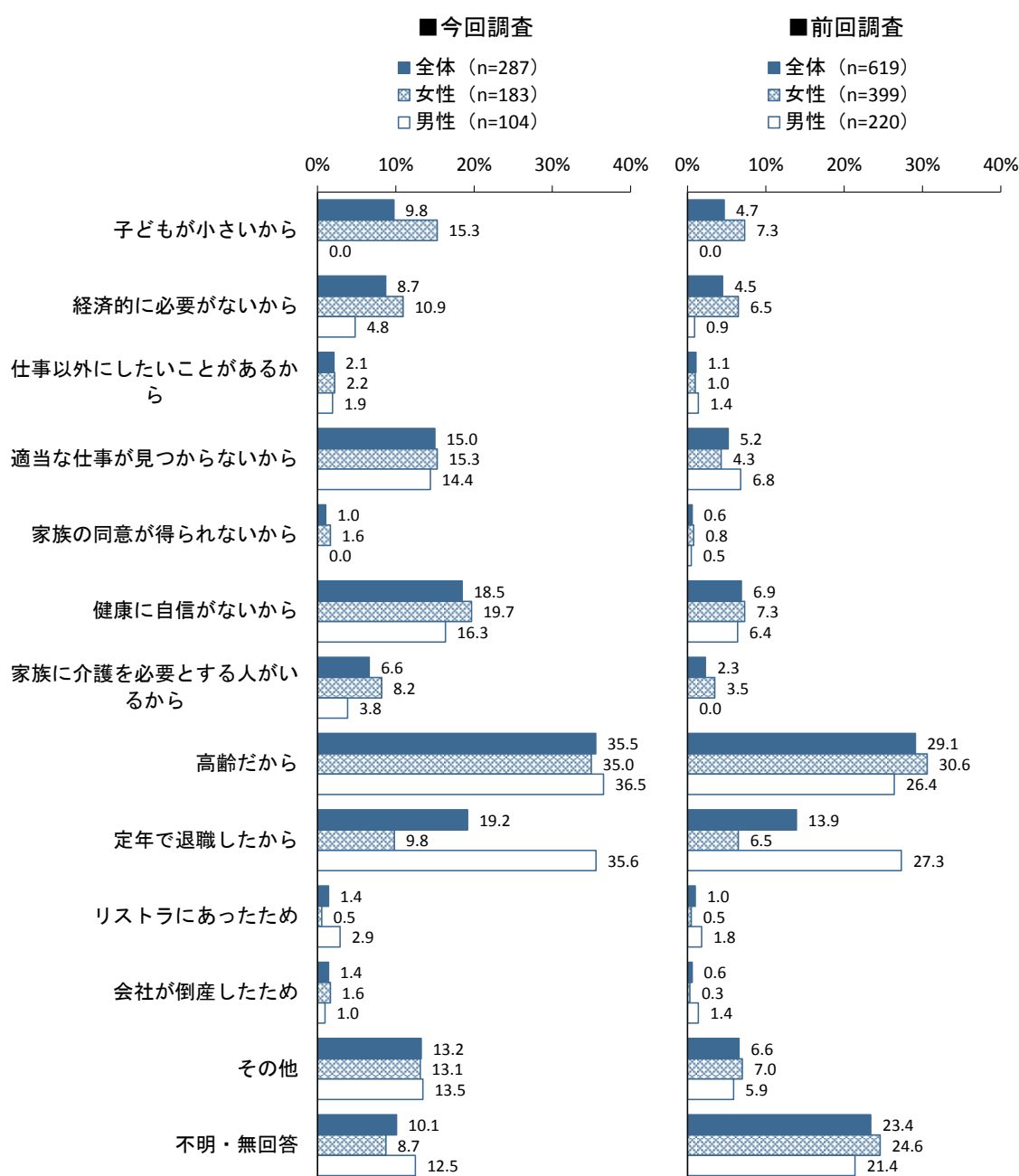
問 22	【問 6①で「家事専業」「無職（家事専業以外の人）」を回答された方】 あなたが働いていない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

働いていない理由について全体では、「高齢だから」が 35.5%で最も高く、次いで「定年で退職したから」が 19.2%、「健康に自信がないから」が 18.5%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「高齢だから」の割合が最も高く、女性では次いで「健康に自信がないから」、男性では次いで「定年で退職したから」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「健康に自信がないから」が 12.4 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「高齢だから」が 10.1 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-5-15 働いていない理由



性別・年代別でみると、女性 20 歳代から 30 歳代では「子どもが小さいから」の割合が最も高く、40 歳代では「適当な仕事が見つからないから」の割合が最も高く、50 歳代では「健康に自信がないから」の割合が最も高く、女性 60 歳代以上、男性 70 歳以上では「高齢だから」の割合が最も高く、男性 60 歳代では「定年で退職したから」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では全ての年代で「適当な仕事が見つからないから」「健康に自信がないから」の割合が前回調査よりも増加しています。

図表 3-5-16 働いていない理由 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	子どもが小さいから	経済的に必要がないから	仕事以外にしたいことがあるから	適当な仕事が見つからないから	家族の同意が得られないから	健康に自信がないから	家族に介護を必要とする人がいるから	高齢だから	定年で退職したから	リストラにあつたため
全体	287	9.8	8.7	2.1	15.0	1.0	18.5	6.6	35.5	19.2	1.4
性別											
女性	183	15.3	10.9	2.2	15.3	1.6	19.7	8.2	35.0	9.8	0.5
男性	104	0.0	4.8	1.9	14.4	0.0	16.3	3.8	36.5	35.6	2.9
性別・年代別											
女性 20歳代	15	53.3	0.0	0.0	13.3	0.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0
女性 30歳代	25	60.0	16.0	0.0	24.0	0.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性 40歳代	26	19.2	11.5	0.0	34.6	3.8	23.1	11.5	0.0	0.0	0.0
女性 50歳代	21	0.0	19.0	4.8	23.8	0.0	38.1	28.6	4.8	0.0	4.8
女性 60歳代	29	0.0	17.2	3.4	13.8	3.4	20.7	10.3	51.7	20.7	0.0
女性 70歳以上	67	0.0	6.0	3.0	3.0	1.5	14.9	3.0	71.6	17.9	0.0
男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 30歳代	6	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 40歳代	5	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
男性 50歳代	11	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	45.5	18.2	0.0	0.0	9.1
男性 60歳代	23	0.0	4.3	4.3	17.4	0.0	13.0	8.7	21.7	65.2	0.0
男性 70歳以上	59	0.0	6.8	1.7	8.5	0.0	13.6	0.0	55.9	37.3	1.7

	合計	会社が倒産したため	その他	不明・無回答
全体	287	1.4	13.2	10.1
性別				
女性	183	1.6	13.1	8.7
男性	104	1.0	13.5	12.5
性別・年代別				
女性 20歳代	15	0.0	33.3	6.7
女性 30歳代	25	0.0	20.0	4.0
女性 40歳代	26	0.0	23.1	3.8
女性 50歳代	21	0.0	14.3	9.5
女性 60歳代	29	3.4	10.3	6.9
女性 70歳以上	67	3.0	3.0	13.4
男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0
男性 30歳代	6	0.0	50.0	16.7
男性 40歳代	5	0.0	40.0	0.0
男性 50歳代	11	0.0	27.3	9.1
男性 60歳代	23	0.0	4.3	4.3
男性 70歳以上	59	1.7	8.5	16.9

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-5-17 働いていない理由 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	子どもが小さいから	経済的に必要がないから	仕事以外にしたいことがあるから	適当な仕事が見つからないから	家族の同意が得られないから	健康に自信がないから	家族に介護を必要とする人がいるから	高齢だから	定年で退職したから	リストラにあつたため
全体		619	4.7	4.5	1.1	5.2	0.6	6.9	2.3	29.1	13.9	1.0
性別	女性	399	7.3	6.5	1.0	4.3	0.8	7.3	3.5	30.6	6.5	0.5
	男性	220	0.0	0.9	1.4	6.8	0.5	6.4	0.0	26.4	27.3	1.8
性別・年代別	女性 20歳代	11	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	42	47.6	14.3	0.0	14.3	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 40歳代	32	21.9	21.9	0.0	6.3	3.1	18.8	6.3	0.0	0.0	3.1
	女性 50歳代	34	0.0	14.7	5.9	11.8	2.9	11.8	17.6	2.9	0.0	2.9
	女性 60歳代	146	0.0	4.1	0.7	2.7	0.7	8.2	2.7	32.9	15.8	0.0
	女性 70歳以上	134	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	2.2	1.5	54.5	2.2	0.0
	男性 20歳代	6	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	男性 30歳代	8	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
	男性 40歳代	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	10	0.0	0.0	10.0	30.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	男性 60歳代	78	0.0	2.6	1.3	7.7	0.0	9.0	0.0	6.4	44.9	2.6
	男性 70歳以上	116	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	2.6	0.0	44.8	21.6	0.0

		合計	会社が倒産したため	その他	不明・無回答
全体		619	0.6	6.6	23.4
性別	女性	399	0.3	7.0	24.6
	男性	220	1.4	5.9	21.4
性別・年代別	女性 20歳代	11	0.0	54.5	9.1
	女性 30歳代	42	0.0	9.5	4.8
	女性 40歳代	32	0.0	12.5	6.3
	女性 50歳代	34	2.9	14.7	11.8
	女性 60歳代	146	0.0	5.5	26.7
	女性 70歳以上	134	0.0	0.7	37.3
	男性 20歳代	6	0.0	50.0	0.0
	男性 30歳代	8	12.5	12.5	12.5
	男性 40歳代	2	0.0	50.0	0.0
	男性 50歳代	10	0.0	20.0	0.0
	男性 60歳代	78	0.0	3.8	21.8
	男性 70歳以上	116	1.7	2.6	25.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(8) 仕事があれば働きたいと思うか

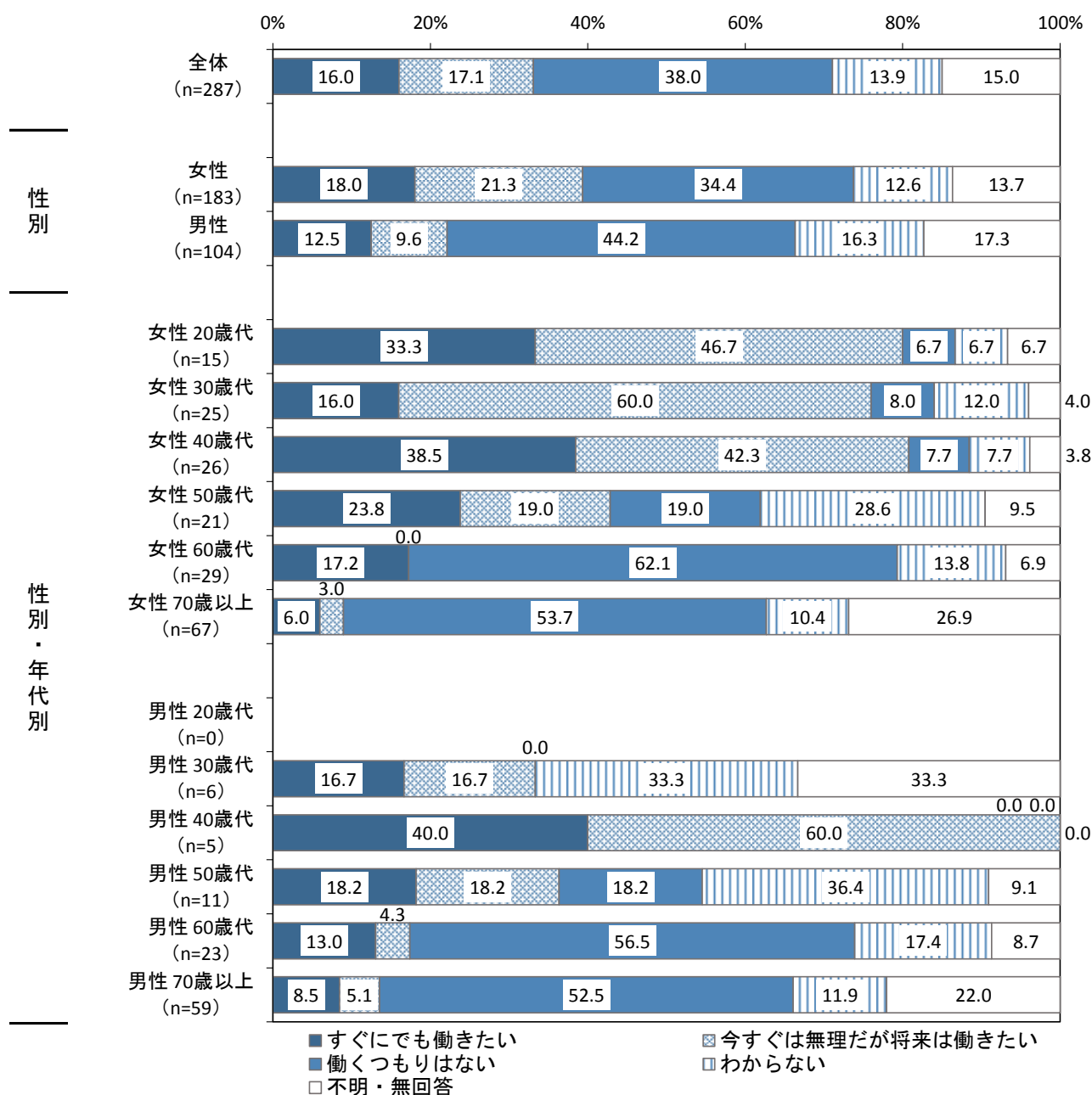
問 22-1	【問 6①で「家事専業」「無職（家事専業以外の人）」を回答された方】 あなたは、適当な仕事があれば働きたいと思いますか。（○は1つだけ）

仕事があれば働きたいと思うかについて全体では、「働くつもりはない」が 38.0%で最も高く、次いで「今すぐは無理だが将来は働きたい」が 17.1%、「すぐにでも働きたい」が 16.0%と続いています。

性別でみると、「働くつもりはない」では、男性が 44.2%で、女性（34.4%）よりも 9.8 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「働くつもりはない」では、女性・男性いずれも 60 歳代の割合が最も高く、女性 20 歳代から 40 歳代では「今すぐは無理だが将来は働きたい」の割合が最も高くなっています。

図表 3-5-18 仕事があれば働きたいと思うか



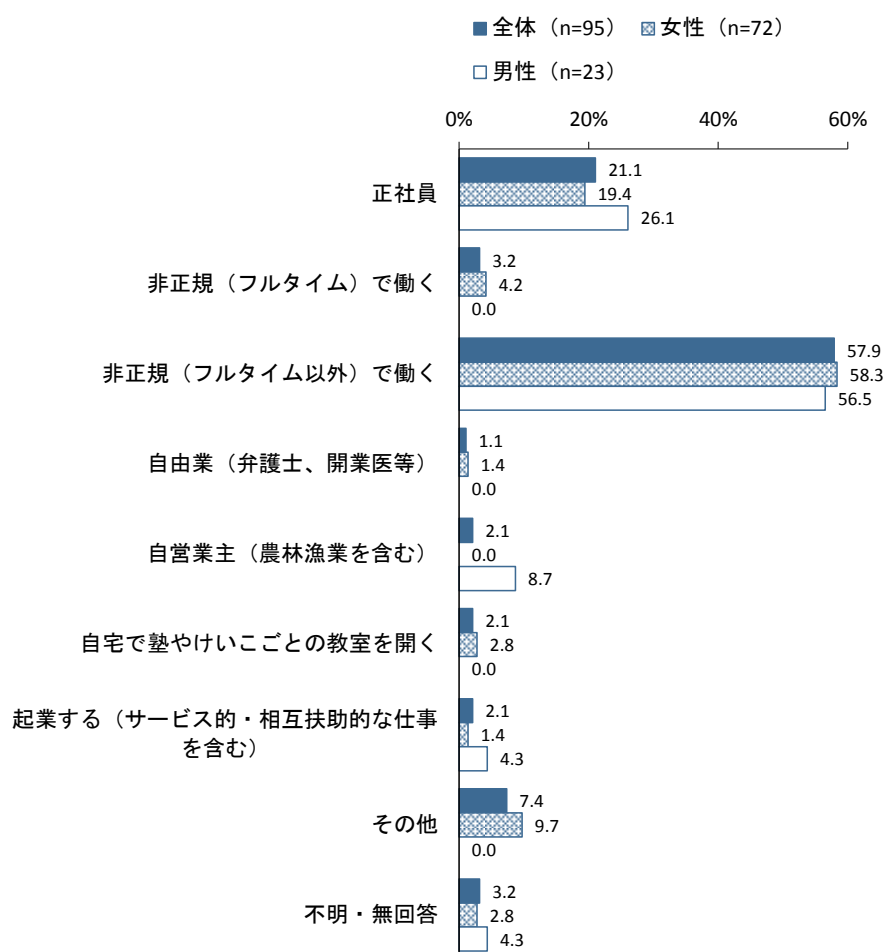
(9) 働く場合の就労形態

問 22-2	【問 22-1 で「すぐにでも働きたい」「今すぐは無理だが将来は働きたい」を回答された方】 働くとしたら、どのような形で働きたいと思いますか。(〇は1つだけ)

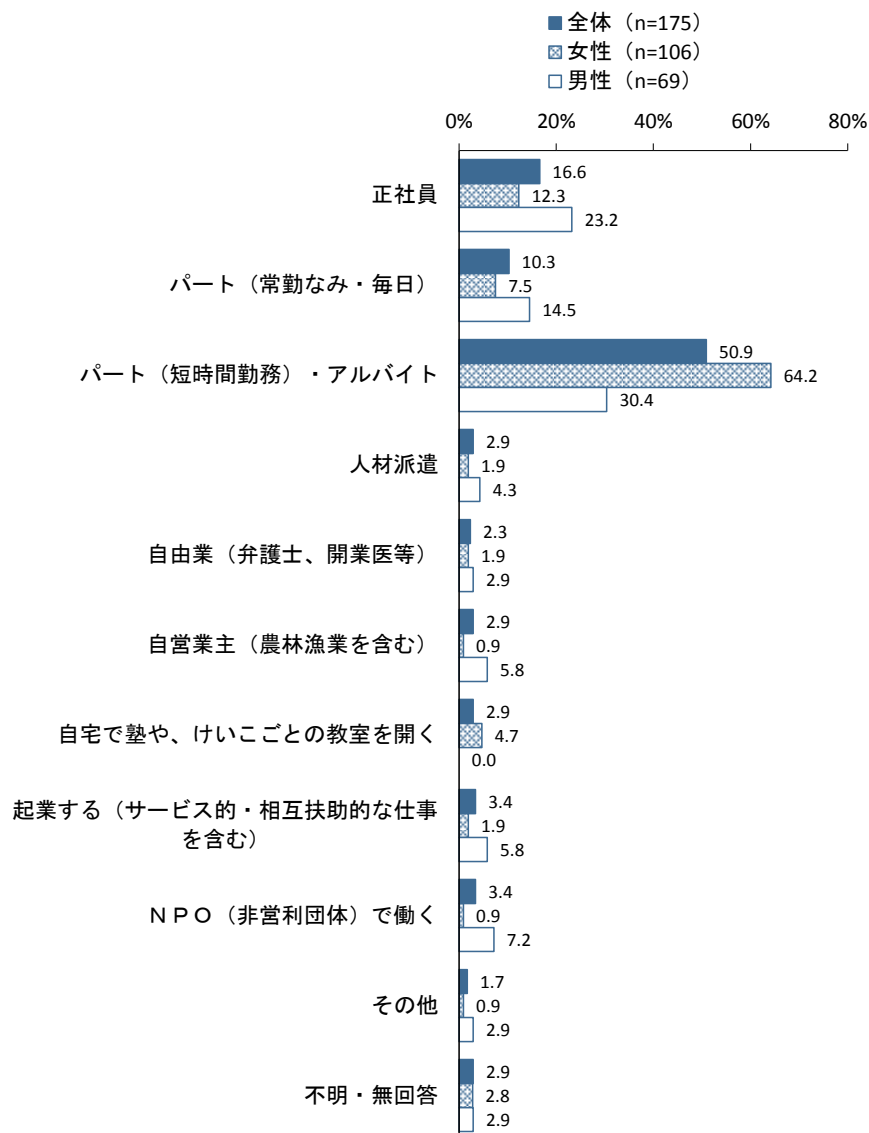
働く場合の就労形態について全体では、「非正規（フルタイム以外）で働く」が 57.9%で最も高く、次いで「正社員」が 21.1%、「その他」が 7.4%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「非正規（フルタイム以外）で働く」の割合が最も高く、次いで「正社員」となっています。

図表 3-5-19 働く場合の就労形態



図表 3-5-20 働く場合の就労形態 前回調査



図表 3-5-21 働く場合の就労形態 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	正社員	＜非正規（フルタイム）で働く＞	非正規（フルタイム以外）で働く	等自由業（弁護士、開業医）	自営業主（農林漁業を含む）	自宅で塾やけいこことの教室を開く	互起業する（サービスの相）	その他	不明・無回答
全体		95	21.1	3.2	57.9	1.1	2.1	2.1	2.1	7.4	3.2
性別	女性	72	19.4	4.2	58.3	1.4	0.0	2.8	1.4	9.7	2.8
	男性	23	26.1	0.0	56.5	0.0	8.7	0.0	4.3	0.0	4.3
性別・年代別	女性 20歳代	12	33.3	8.3	25.0	8.3	0.0	8.3	0.0	16.7	0.0
	女性 30歳代	19	15.8	5.3	68.4	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3
	女性 40歳代	21	9.5	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
	女性 50歳代	9	33.3	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0
	女性 60歳代	5	40.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	6	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	16.7
	男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	5	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	男性 50歳代	4	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	4	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	8	0.0	0.0	75.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-5-22 働く場合の就労形態 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	正社員	パート（常勤なみ・毎日）	アルバイト（短時間勤務）・ア	人材派遣	等自由業（弁護士、開業医）	自営業主（農林漁業を含む）	自宅で塾や、けいこことの教室を開く	互起業する（サービスの相）	＜NPO（非営利団体）で働く＞	その他	不明・無回答
全体		175	16.6	10.3	50.9	2.9	2.3	2.9	2.9	3.4	3.4	1.7	2.9
性別	女性	106	12.3	7.5	64.2	1.9	1.9	0.9	4.7	1.9	0.9	0.9	2.8
	男性	69	23.2	14.5	30.4	4.3	2.9	5.8	0.0	5.8	7.2	2.9	2.9
性別・年代別	女性 20歳代	10	50.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	女性 30歳代	32	3.1	6.3	84.4	0.0	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 40歳代	19	21.1	21.1	42.1	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0
	女性 50歳代	13	0.0	7.7	61.5	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7
	女性 60歳代	23	0.0	0.0	82.6	0.0	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0	4.3	0.0
	女性 70歳以上	9	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1
	男性 20歳代	4	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	8	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0
	男性 60歳代	28	14.3	17.9	35.7	3.6	3.6	7.1	0.0	3.6	7.1	3.6	3.6
	男性 70歳以上	22	0.0	13.6	50.0	9.1	4.5	4.5	0.0	0.0	9.1	4.5	4.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

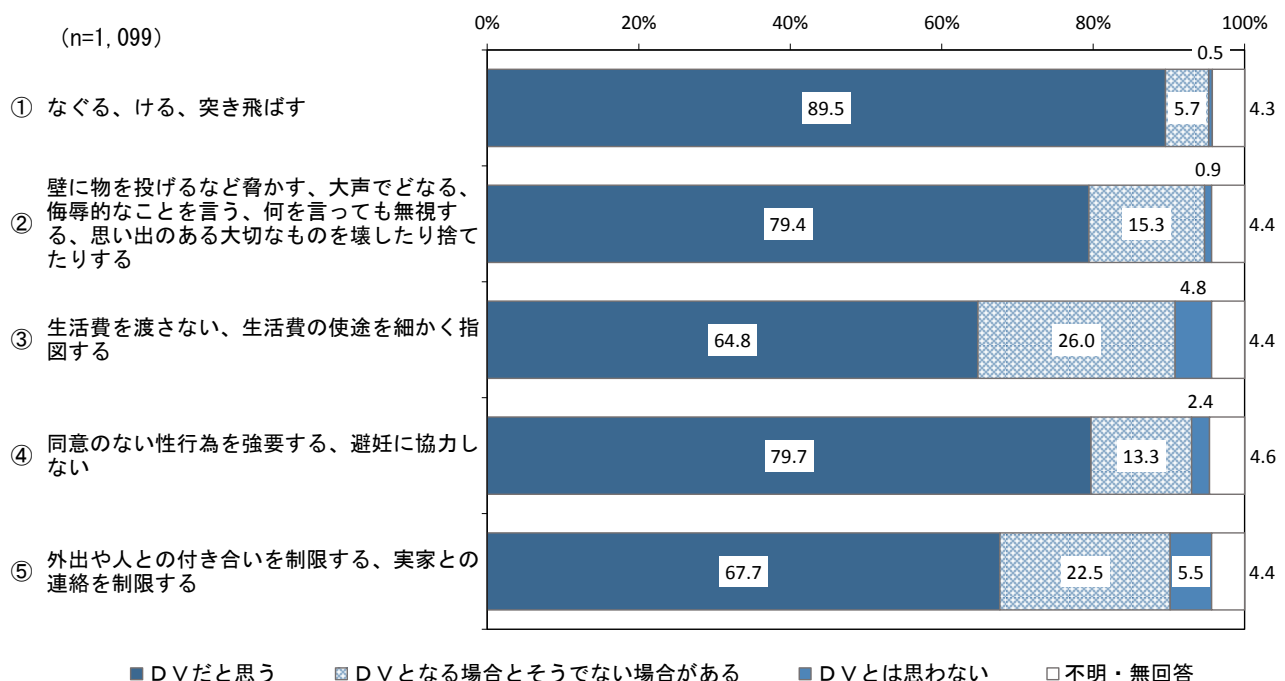
6. 男女間の暴力について

(1) DVだと思う行為

問 23	あなたは、配偶者（元配偶者を含む。）や交際相手（元交際相手を含む。）からの次のような行為についてどう思いますか。①～⑤の行為についてお答えください。（それぞれに○は1つだけ）

DVだと思う行為について、「DVだと思う」では、「① なぐる、ける、突き飛ばす」が89.5%で最も高く、次いで「④ 同意のない性行為を強要する、避妊に協力しない」が79.7%、「② 壁に物を投げるなど脅かす、大声でどなる、侮辱的なことを言う、何を言っても無視する、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりする」が79.4%と続いています。

図表 3-6-1 DVだと思う行為



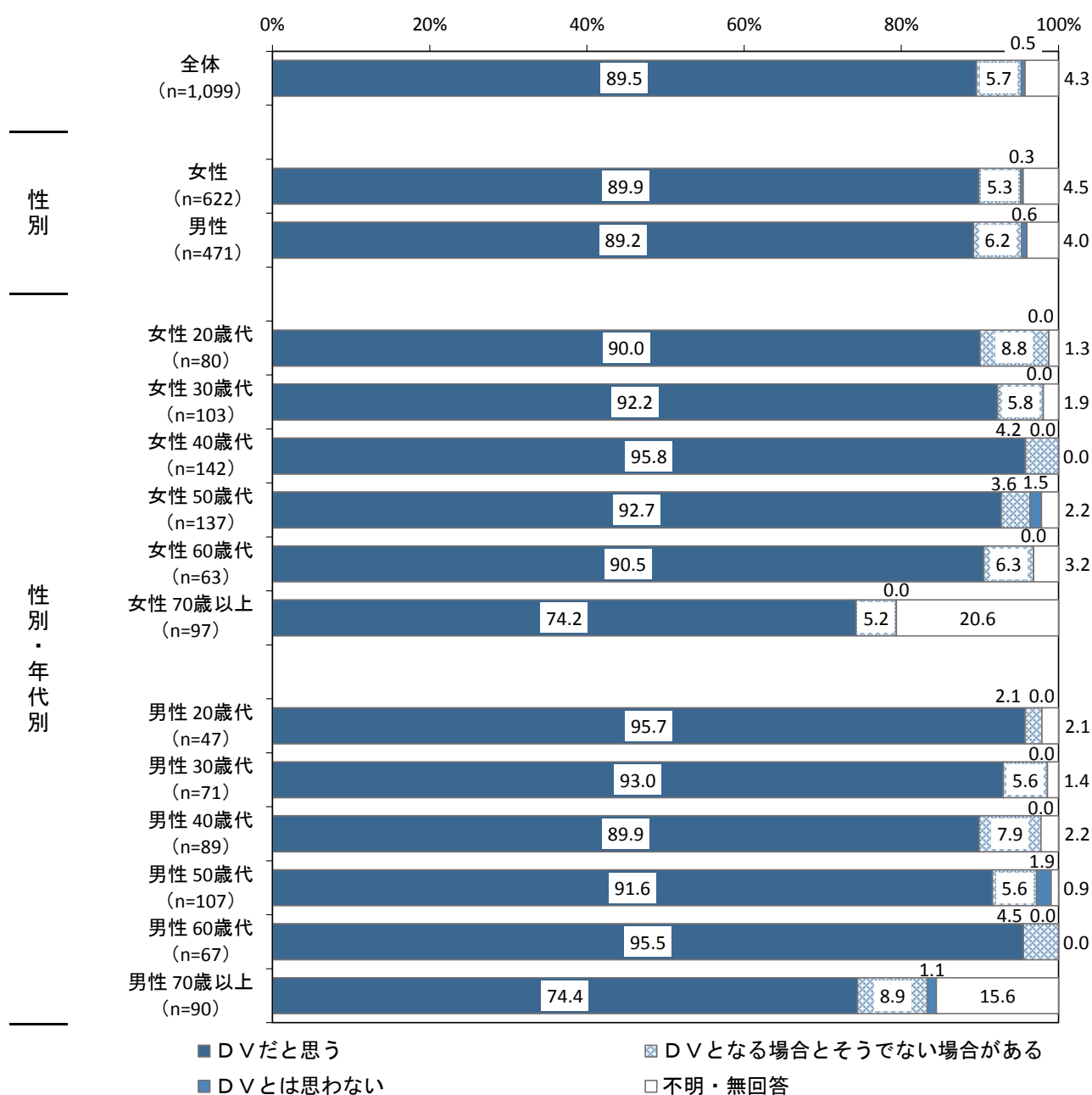
①なぐる、ける、突き飛ばす

DVだと思う行為について、「なぐる、ける、突き飛ばす」では、全体でみると、「DVだと思う」が89.5%で最も高く、次いで「DVとなる場合とそうでない場合がある」が5.7%、「DVとは思わない」が0.5%となっています。

性別でみると、大きな差はみられません。

性別・年代別でみると、「DVだと思う」では、70歳以上、男性40歳代を除く全ての年代で9割以上となっており、女性40歳代が95.8%で最も高くなっています。

図表 3-6-2 DVだと思う行為 ①なぐる、ける、突き飛ばす



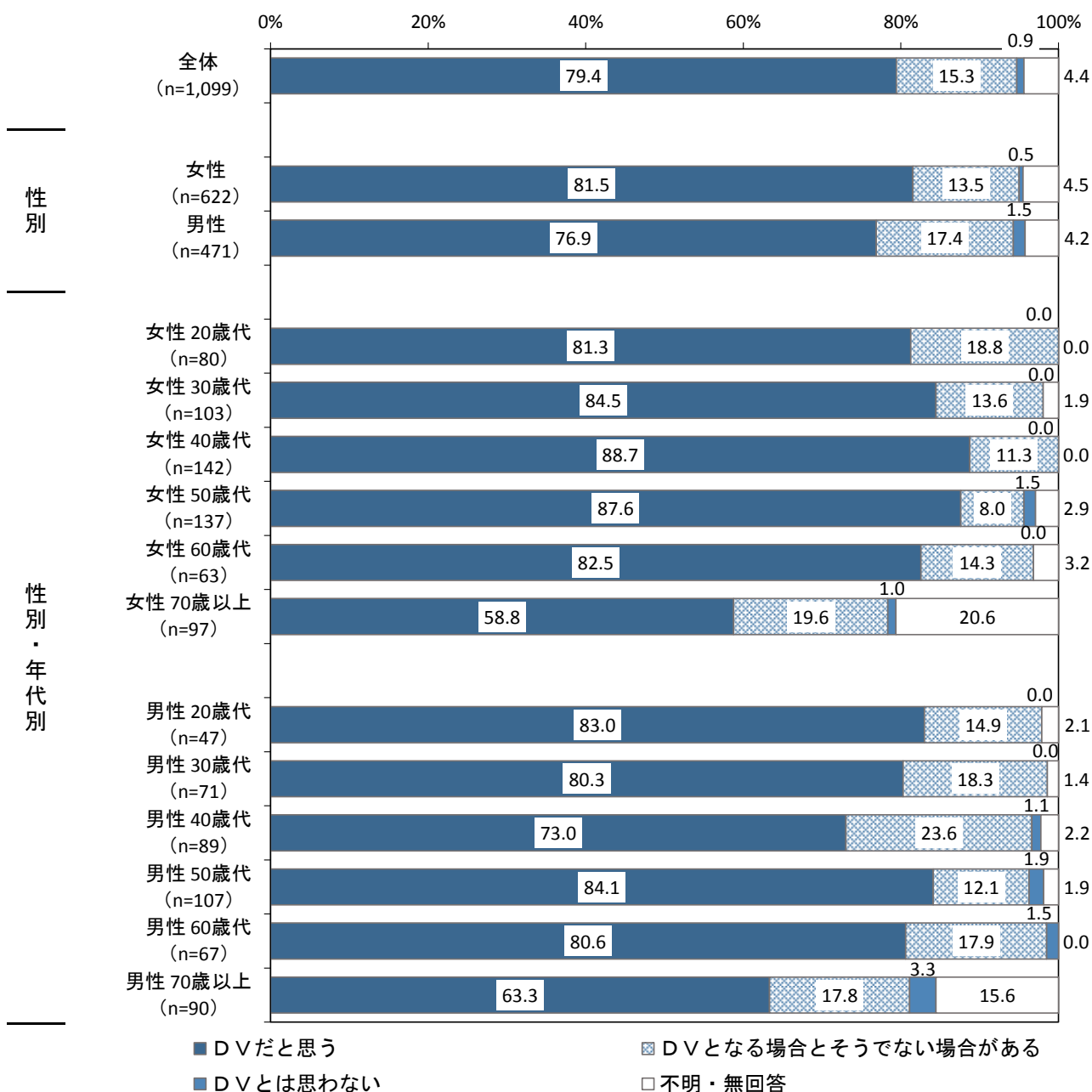
②壁に物を投げるなど脅かす、大声でどなる、侮辱的なことを言う、何を言っても無視する、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりする

DVだと思う行為について、「壁に物を投げるなど脅かす、大声でどなる、侮辱的なことを言う、何を言っても無視する、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりする」では、全体でみると、「DVだと思う」が79.4%で最も高く、次いで「DVとなる場合とそうでない場合がある」が15.3%、「DVとは思わない」が0.9%となっています。

性別でみると、「DVだと思う」では、女性が81.5%で、男性（76.9%）よりも4.6ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「DVだと思う」では、70歳以上、男性40歳代を除く全ての年代で8割以上となっており、女性40歳代が88.7%で最も高くなっています。

図表 3-6-3 DVだと思う行為 ②壁に物を投げるなど脅かす、大声でどなる、侮辱的なことを言う、何を言っても無視する、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりする



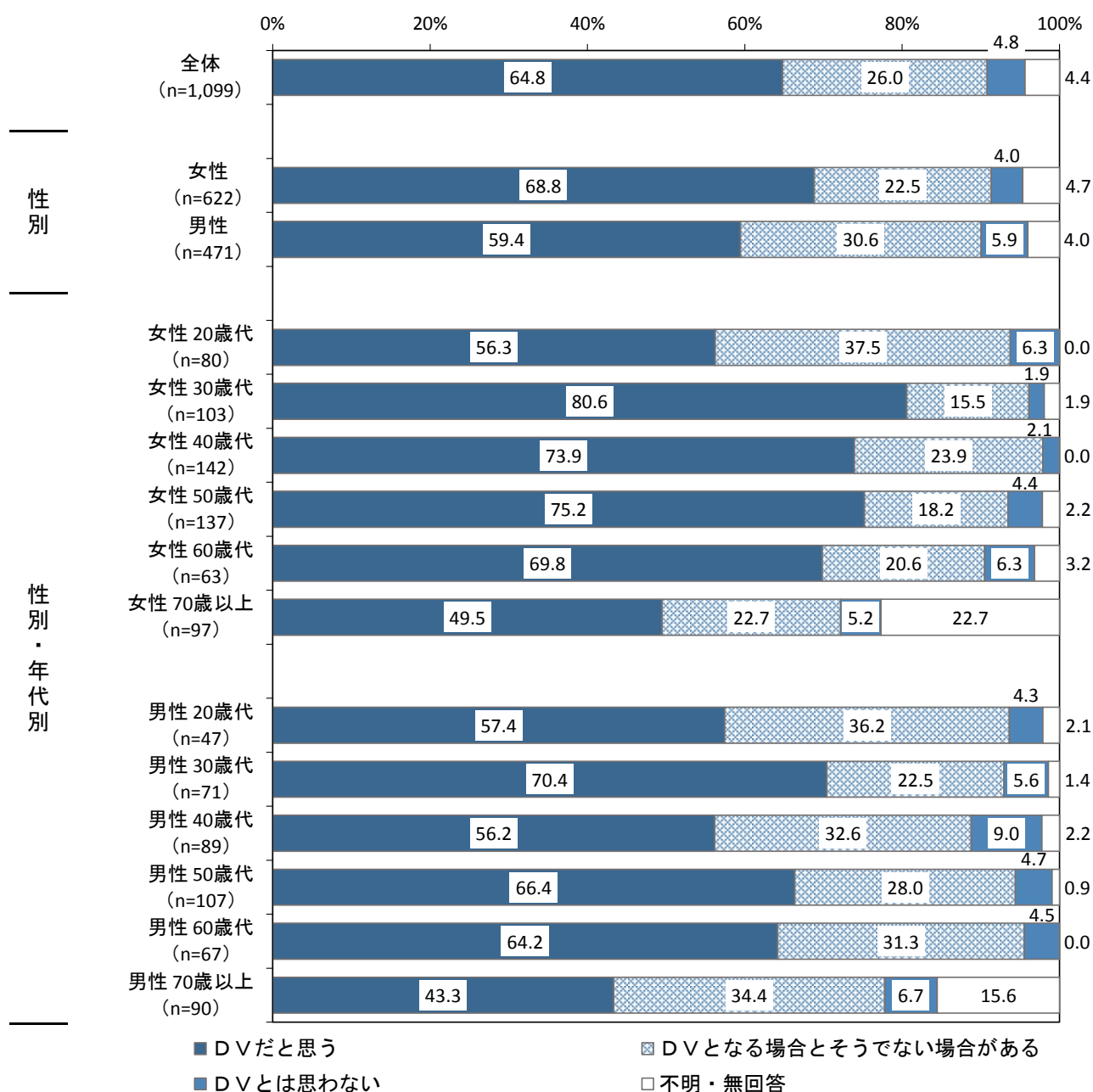
③生活費を渡さない、生活費の使途を細かく指図する

DVだと思う行為について、「生活費を渡さない、生活費の使途を細かく指図する」では、全体でみると、「DVだと思う」が64.8%で最も高く、次いで「DVとなる場合とそうでない場合がある」が26.0%、「DVとは思わない」が4.8%となっています。

性別でみると、「DVだと思う」では、女性が68.8%で、男性（59.4%）よりも9.4ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「DVだと思う」では、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっており、20歳代を除く全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっています。

図表 3-6-4 DVだと思う行為 ③生活費を渡さない、生活費の使途を細かく指図する



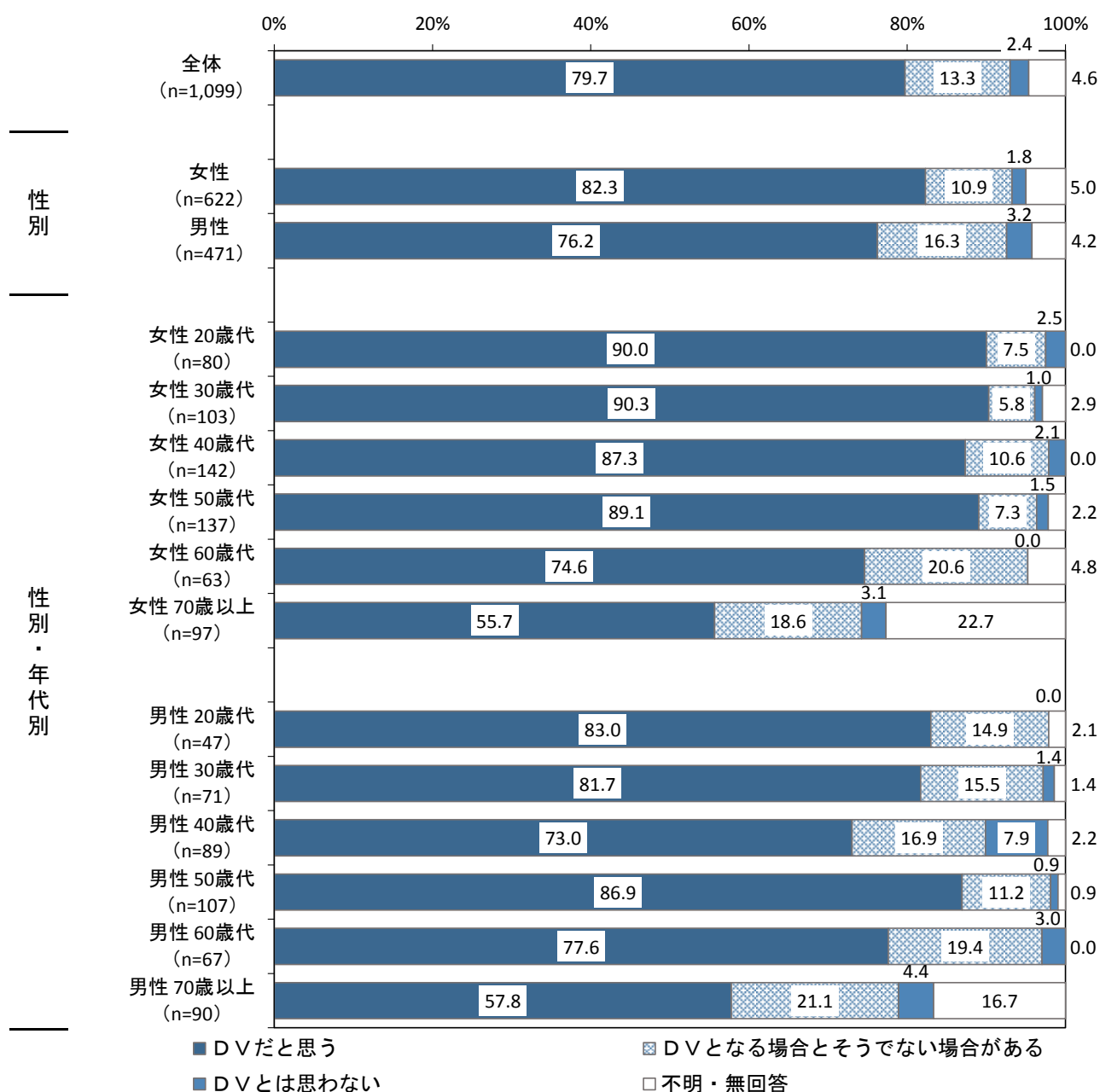
④同意のない性行為を強要する、避妊に協力しない

DVだと思う行為について、「同意のない性行為を強要する、避妊に協力しない」では、全体でみると、「DVだと思う」が79.7%で最も高く、次いで「DVとなる場合とそうでない場合がある」が13.3%、「DVとは思わない」が2.4%となっています。

性別でみると、「DVだと思う」では、女性が82.3%で、男性（76.2%）よりも6.1ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「DVだと思う」では、20歳代から50歳代では女性の割合が男性よりも高く、60歳代以上では男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-6-5 DVだと思う行為 ④同意のない性行為を強要する、避妊に協力しない



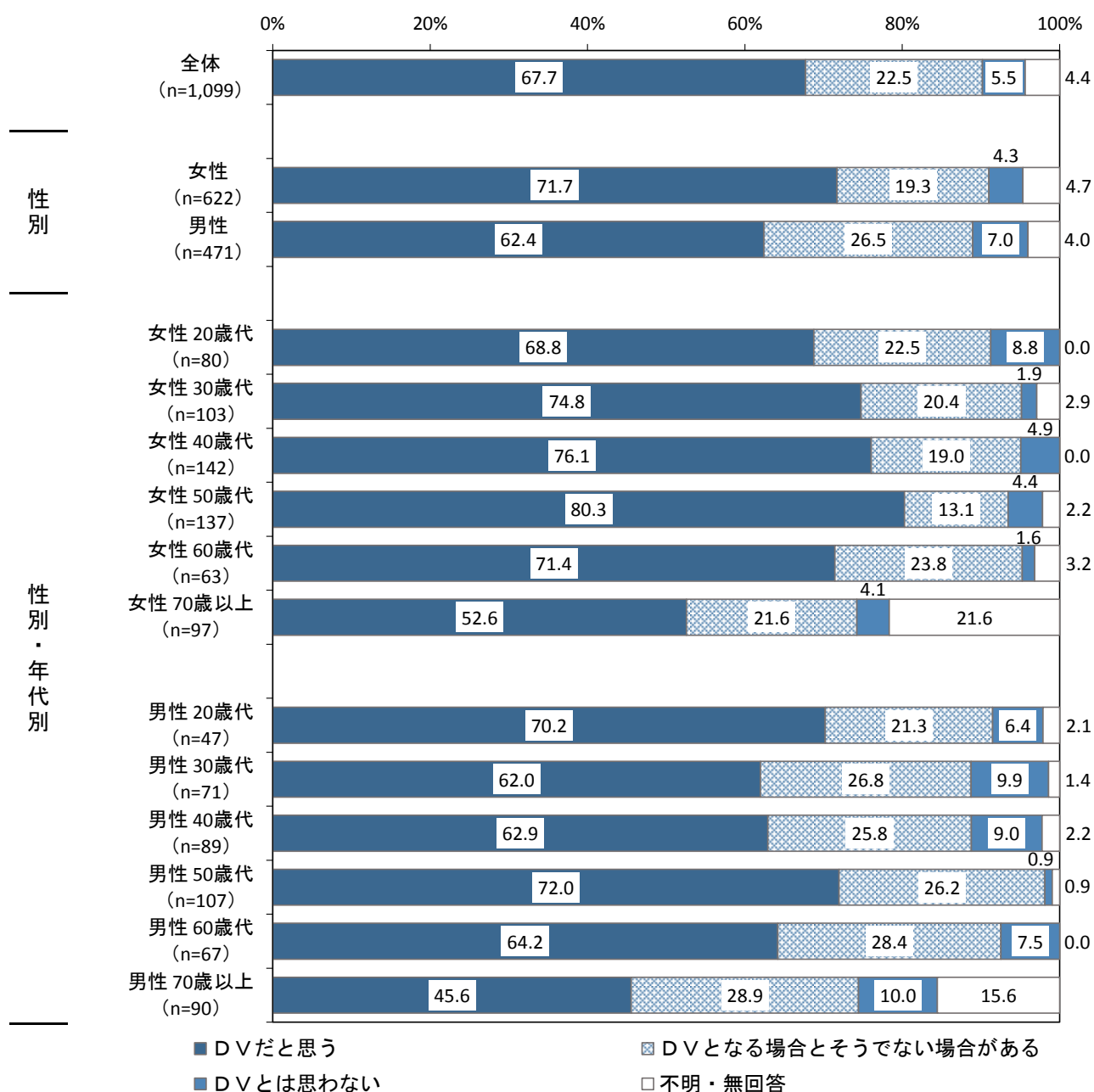
⑤外出や人との付き合いを制限する、実家との連絡を制限する

DVだと思う行為について、「外出や人との付き合いを制限する、実家との連絡を制限する」では、全体でみると、「DVだと思う」が67.7%で最も高く、次いで「DVとなる場合とそうでない場合がある」が22.5%、「DVとは思わない」が5.5%となっています。

性別でみると、「DVだと思う」では、女性が71.7%で、男性（62.4%）よりも9.3ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「DVだと思う」では、女性・男性いずれも50歳代の割合が男性よりも高くなっています。

図表 3-6-6 DVだと思う行為 ⑤外出や人との付き合いを制限する、実家との連絡を制限する

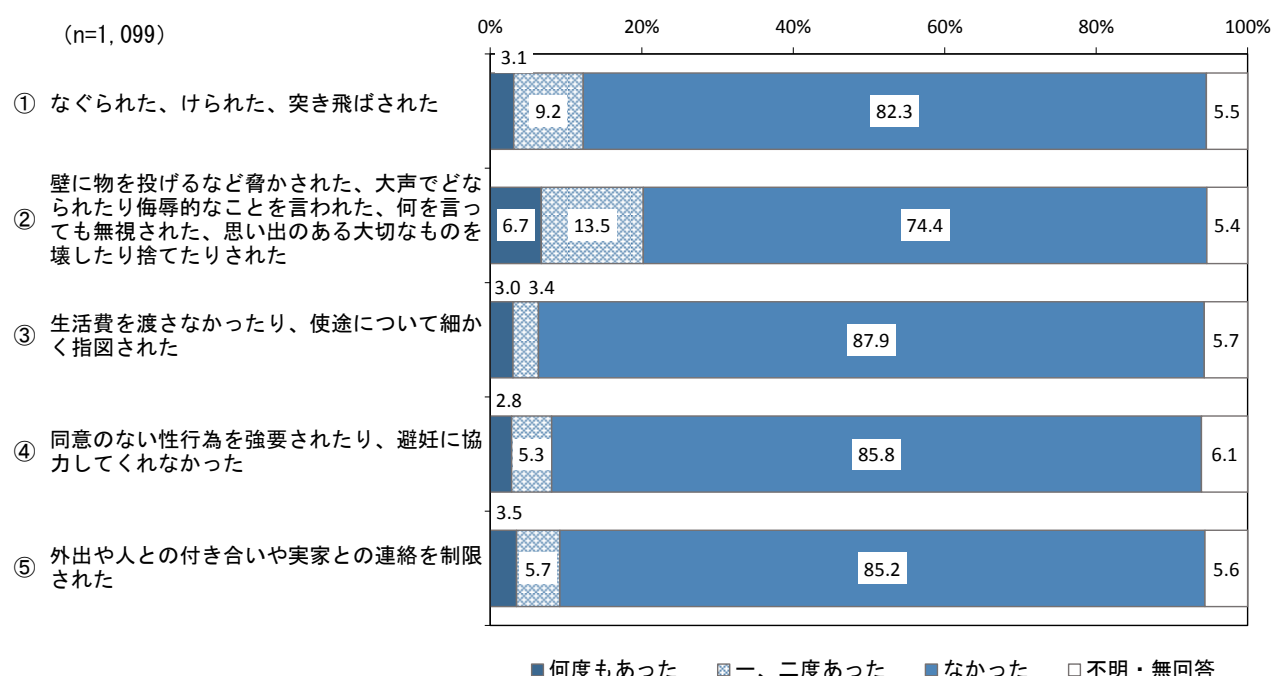


(2) DVの経験

問 24	あなたは、配偶者（元配偶者を含む。）や交際相手（元交際相手を含む。）からの次のような行為を体験されたことがありますか。①～⑤の行為についてそれぞれお答えください。（それぞれに○は1つだけ）

DVの経験について全体でみると、『あった』（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）では「② 壁に物を投げるなど脅かされた、大声でどなられたり侮辱的なことを言われた、何を言っても無視された、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりされた」が20.2%で最も高く、次いで「① なぐられた、けられた、突き飛ばされた」が12.3%、「⑤ 外出や人との付き合いや実家との連絡を制限された」が9.2%と続いています。

図表 3-6-7 DVの経験



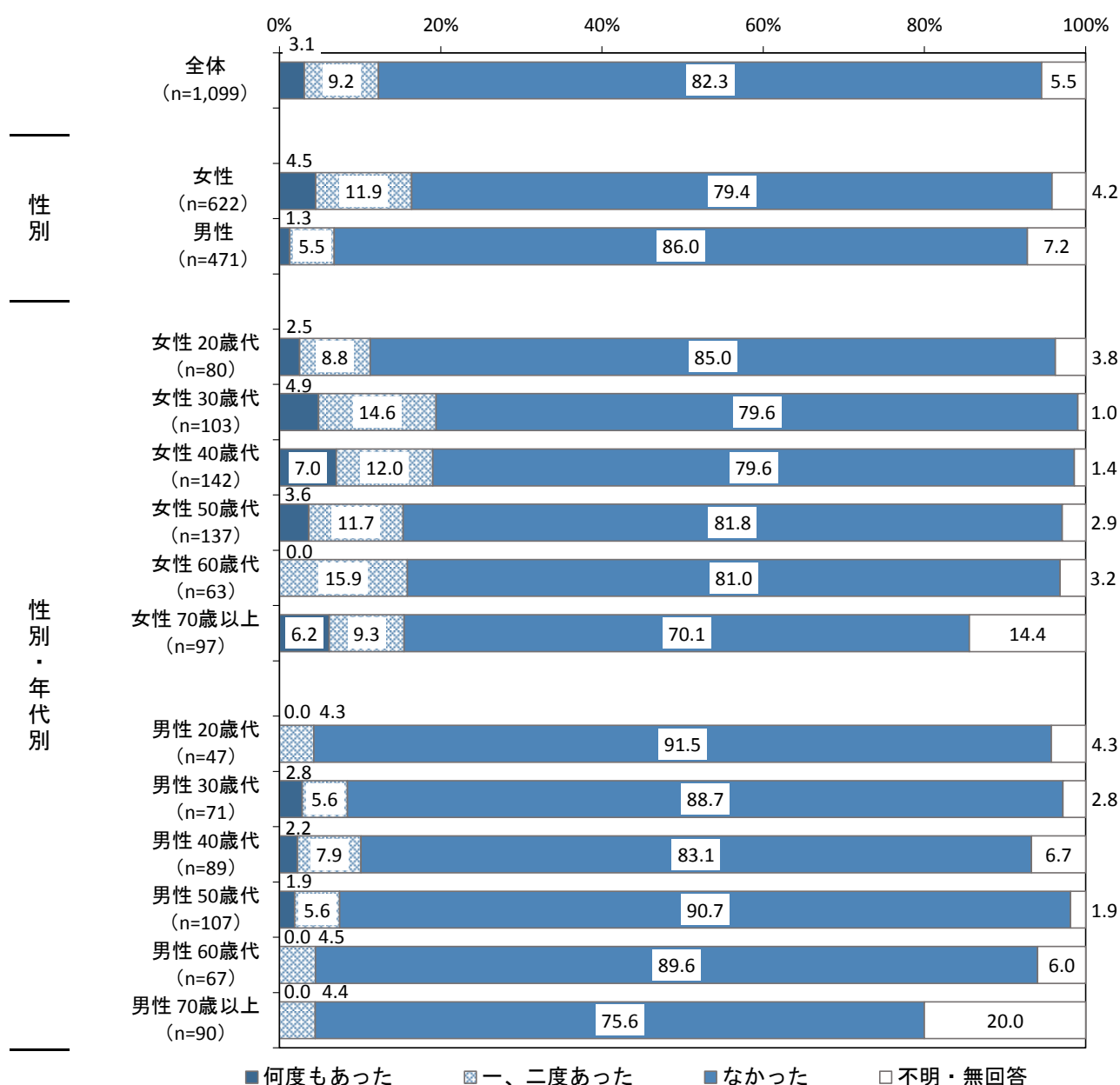
①なぐられた、けられた、突き飛ばされた

DVの経験について、「なぐられた、けられた、突き飛ばされた」では、全体でみると、「なかった」が82.3%で最も高く、次いで「一、二度あった」が9.2%、「何度もあった」が3.1%となっています。

性別でみると、『あった』では、女性が16.4%で、男性（6.8%）よりも9.6ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『あった』では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっており、女性30歳代が19.5%で最も高くなっています。

図表 3-6-8 DVの経験 ①なぐられた、けられた、突き飛ばされた



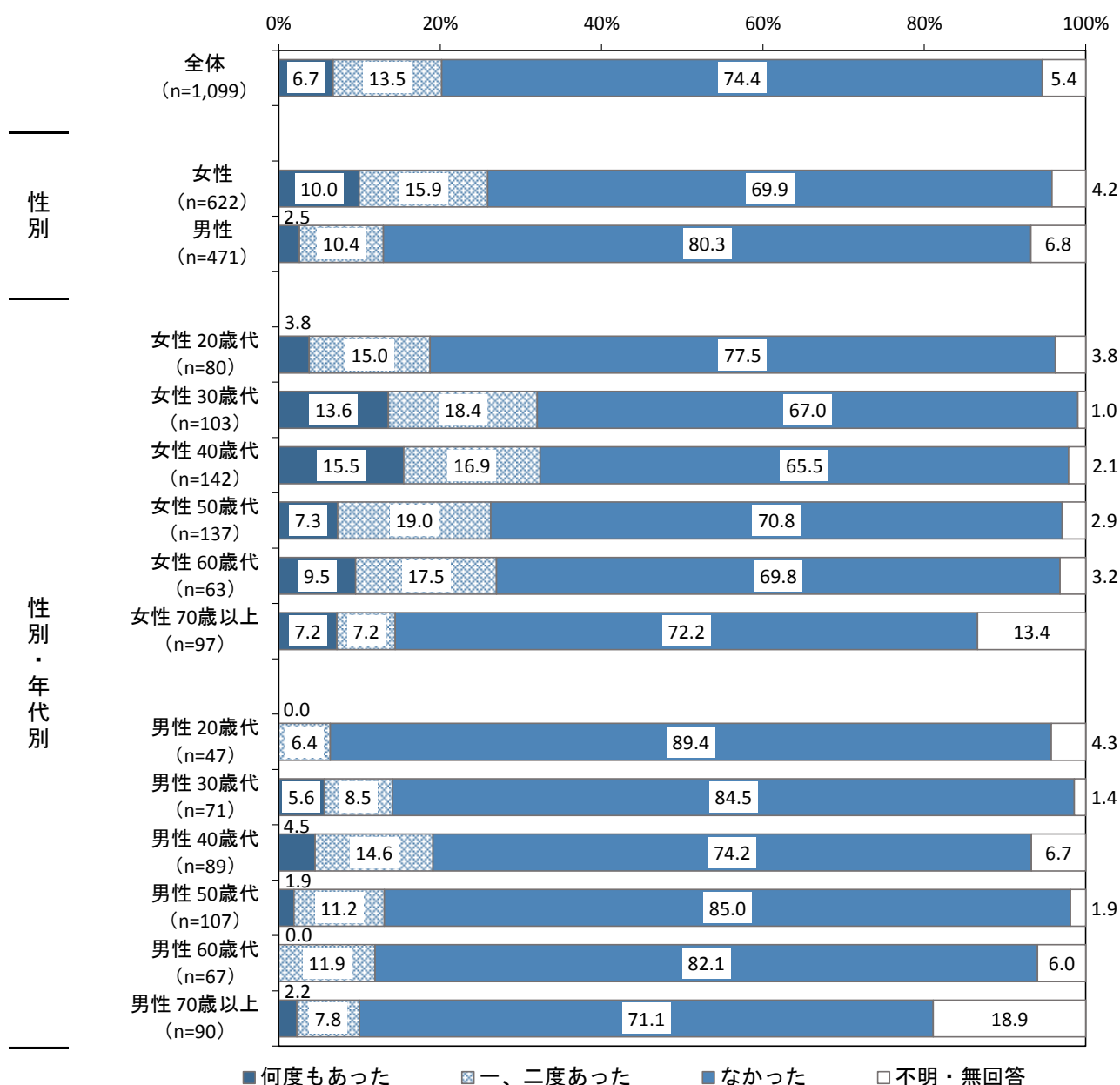
②壁に物を投げるなど脅かされた、大声でどなられたり侮辱的なことを言われた、何を言っても無視された、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりされた

DVの経験について、「壁に物を投げるなど脅かされた、大声でどなられたり侮辱的なことを言われた、何を言っても無視された、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりされた」では、全体でみると、「なかった」が74.4%で最も高く、次いで「一、二度あった」が13.5%、「何度もあった」が6.7%となっています。

性別でみると、『あった』では、女性が25.9%で、男性（12.9%）よりも13.0ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『あった』では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっており、女性30歳代が32.4%で最も高くなっています。

図表 3-6-9 DVの経験 ②壁に物を投げるなど脅かされた、大声でどなられたり侮辱的なことを言われた、何を言っても無視された、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりされた



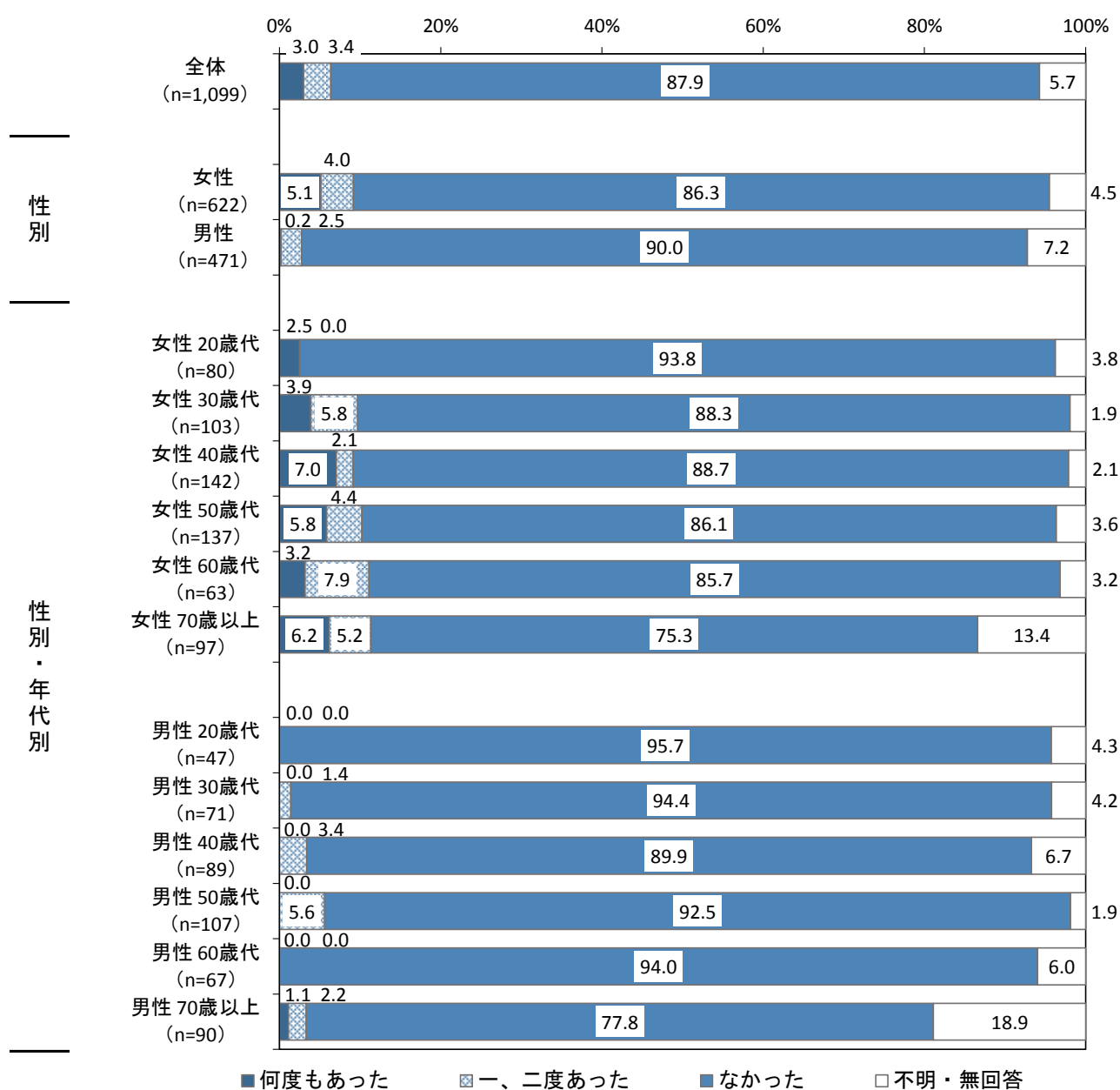
③生活費を渡さなかったり、使途について細かく指図された

DVの経験について、「生活費を渡さなかったり、使途について細かく指図された」では、全体でみると、「なかった」が87.9%で最も高く、次いで「一、二度あった」が3.4%、「何度もあった」が3.0%となっています。

性別でみると、『あった』では、女性が9.1%で、男性（2.7%）よりも6.4ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『あった』では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっており、女性は年代が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、女性70歳以上が11.4%で最も高くなっています。

図表 3-6-10 DVの経験 ③生活費を渡さなかったり、使途について細かく指図された



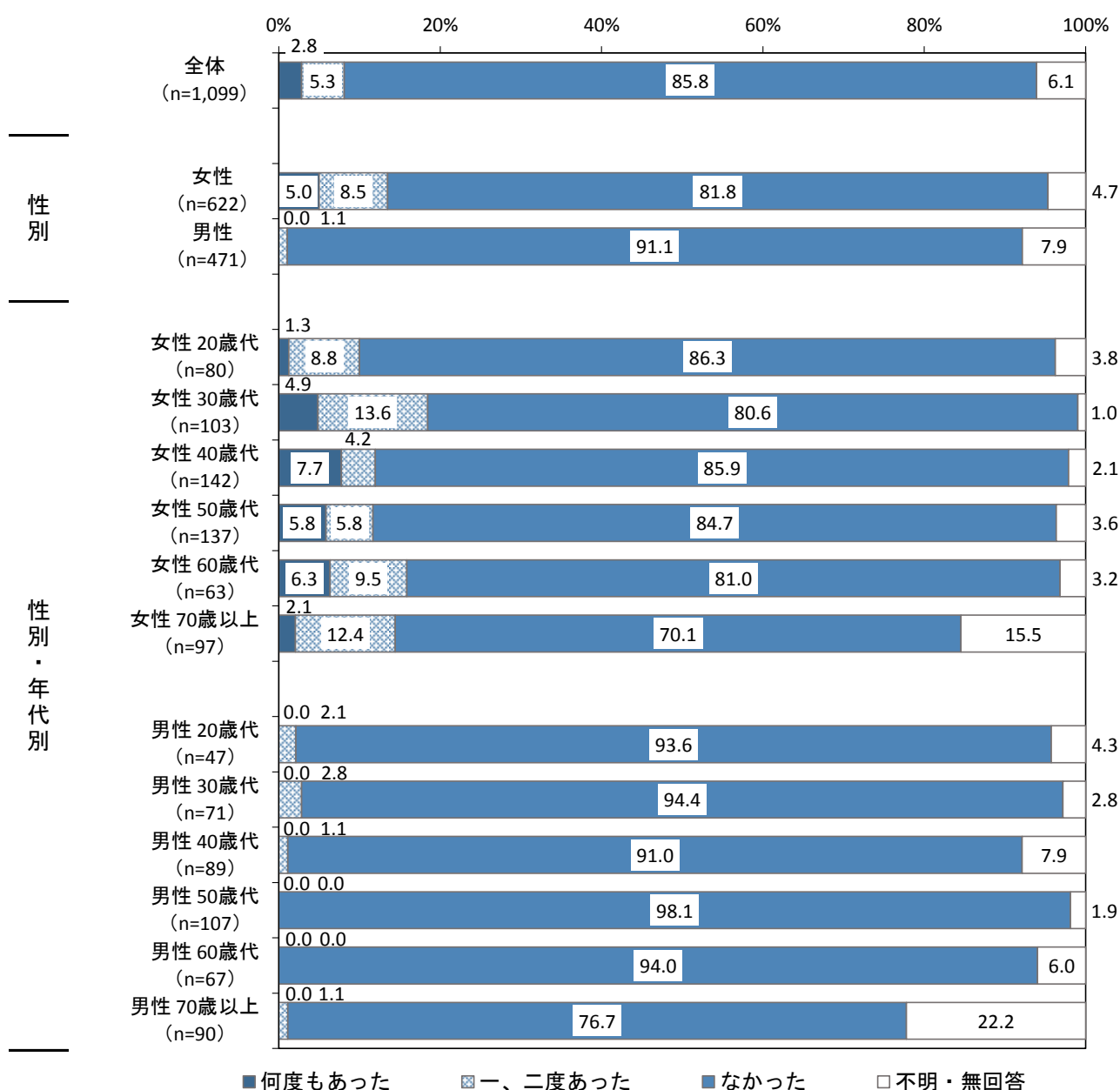
④同意のない性行為を強要されたり、避妊に協力してくれなかった

DVの経験について、「同意のない性行為を強要されたり、避妊に協力してくれなかった」では、全体でみると、「なかった」が85.8%で最も高く、次いで「一、二度あった」が5.3%、「何度もあった」が2.8%となっています。

性別でみると、『あった』では、女性が13.5%で、男性（1.1%）よりも12.4ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『あった』では、女性は全ての年代で1割台となっており、女性30歳代が18.5%で最も高くなっています。

図表 3-6-11 DVの経験 ④同意のない性行為を強要されたり、避妊に協力してくれなかった



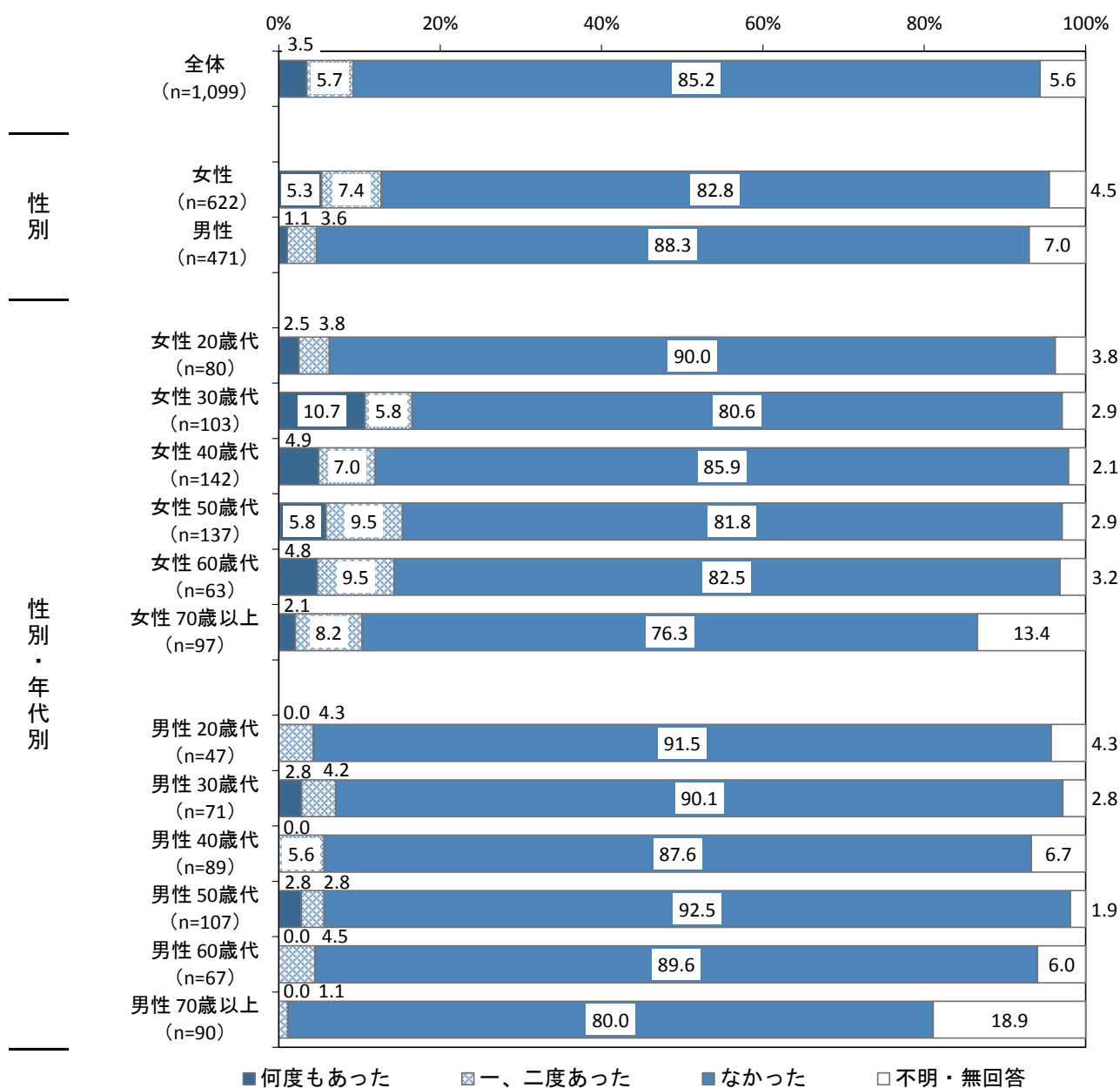
⑤外出や人との付き合いや実家との連絡を制限された

DVの経験について、「外出や人との付き合いや実家との連絡を制限された」では、全体でみると、「なかった」が85.2%で最も高く、次いで「一、二度あった」が5.7%、「何度もあった」が3.5%となっています。

性別でみると、『あった』では、女性が12.7%で、男性（4.7%）よりも8.0ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、『あった』では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっており、女性は20歳代を除く全ての年代で1割台となっており、女性30歳代が16.5%で最も高くなっています。

図表 3-6-12 DVの経験 ⑤外出や人との付き合いや実家との連絡を制限された



(3) DVの被害を受けた際の相談先

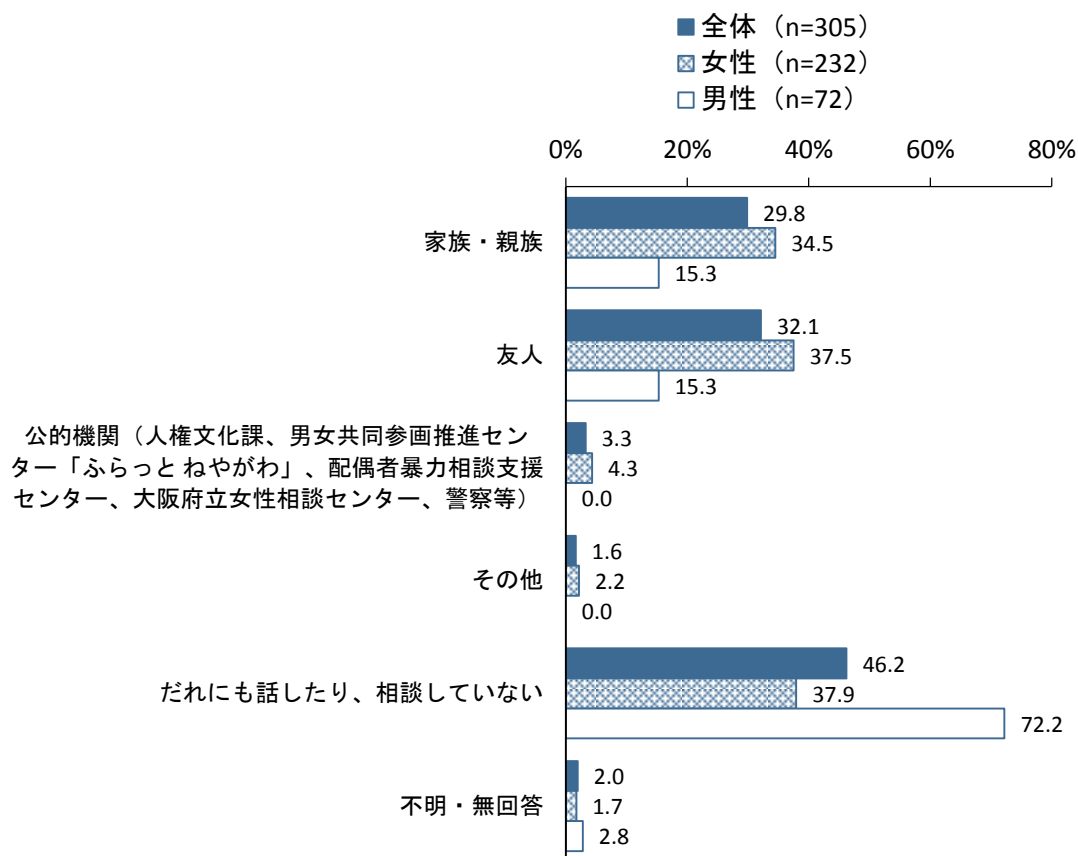
問 24-1	【問 24 の①～⑤の行為で、「何度もあった」または「一、二度あった」を回答された方】 あなたは、そのことをだれかに話したり、相談しましたか。(〇はいくつでも)

DVの被害を受けた際の相談先について全体では、「だれにも話したり、相談していない」が46.2%で最も高く、次いで「友人」が32.1%、「家族・親族」が29.8%と続いています。

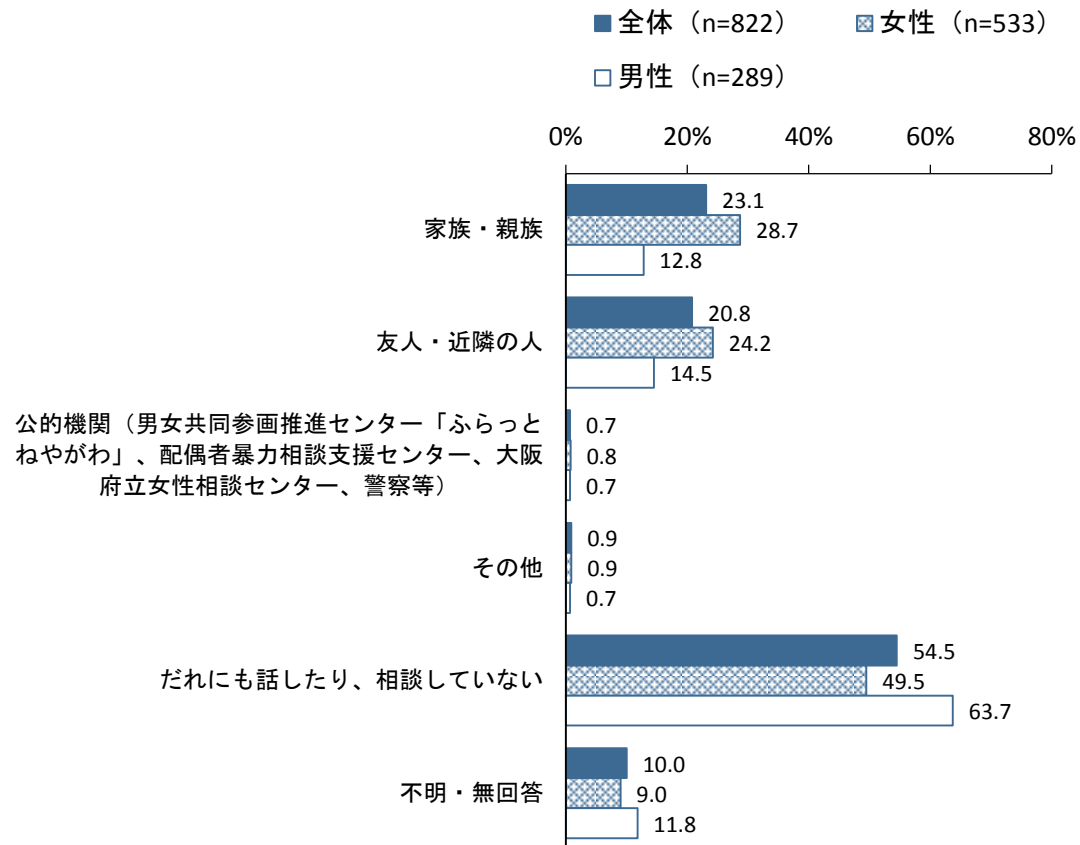
性別でみると、女性・男性いずれも「だれにも話したり、相談していない」の割合が最も高く、男性が72.2%で、女性（37.9%）よりも34.3ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「だれにも話したり、相談していない」では、女性は前回調査より11.6ポイント減少し、男性は前回調査より8.5ポイント増加しています。

図表 3-6-13 DVの被害を受けた際の相談先



図表 3-6-14 DVの被害を受けた際の相談先 前回調査



性別・年代別でみると、女性 20 歳代から 30 歳代、女性 50 歳代では「友人」の割合が最も高く、女性 40 歳代では「家族・親族」の割合が最も高く、その他の年代では「だれにも話したり、相談していない」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「だれにも話したり、相談していない」では、女性 20 歳代から 60 歳代で前回調査より割合が減少しています。

図表 3-6-15 DVの被害を受けた際の相談先 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家族・親族	友人	性的被害を受けた際の相談先（女性相談センター、大阪府立女性相談センター、警察等）	その他	だれにも話したり、相談していない	不明・無回答
全体		305	29.8	32.1	3.3	1.6	46.2	2.0
性別	女性	232	34.5	37.5	4.3	2.2	37.9	1.7
	男性	72	15.3	15.3	0.0	0.0	72.2	2.8
性別・年代別	女性 20歳代	22	13.6	45.5	4.5	9.1	31.8	0.0
	女性 30歳代	42	38.1	40.5	4.8	2.4	38.1	2.4
	女性 40歳代	59	44.1	42.4	6.8	3.4	30.5	0.0
	女性 50歳代	51	27.5	39.2	3.9	0.0	39.2	3.9
	女性 60歳代	28	32.1	35.7	3.6	0.0	39.3	0.0
	女性 70歳以上	30	40.0	16.7	0.0	0.0	53.3	3.3
	男性 20歳代	3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0
	男性 30歳代	13	15.4	7.7	0.0	0.0	76.9	0.0
	男性 40歳代	17	11.8	23.5	0.0	0.0	70.6	0.0
	男性 50歳代	17	23.5	17.6	0.0	0.0	70.6	0.0
	男性 60歳代	10	10.0	0.0	0.0	0.0	80.0	10.0
	男性 70歳以上	12	16.7	16.7	0.0	0.0	66.7	8.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-6-16 DVの被害を受けた際の相談先 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家族・親族	友人・近隣の人	性的被害を受けた際の相談先（女性相談センター、大阪府立女性相談センター、警察等）	その他	だれにも話したり、相談していない	不明・無回答
全体		822	23.1	20.8	0.7	0.9	54.5	10.0
性別	女性	533	28.7	24.2	0.8	0.9	49.5	9.0
	男性	289	12.8	14.5	0.7	0.7	63.7	11.8
性別・年代別	女性 20歳代	37	29.7	43.2	0.0	0.0	45.9	5.4
	女性 30歳代	78	26.9	38.5	0.0	2.6	47.4	3.8
	女性 40歳代	76	27.6	38.2	1.3	1.3	42.1	5.3
	女性 50歳代	97	32.0	20.6	1.0	1.0	47.4	10.3
	女性 60歳代	155	26.5	11.6	0.6	0.6	56.1	10.3
	女性 70歳以上	90	31.1	17.8	1.1	0.0	50.0	14.4
	男性 20歳代	24	8.3	25.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	男性 30歳代	45	15.6	22.2	0.0	0.0	57.8	11.1
	男性 40歳代	48	14.6	25.0	0.0	0.0	62.5	6.3
	男性 50歳代	34	5.9	2.9	0.0	0.0	70.6	20.6
	男性 60歳代	78	9.0	9.0	2.6	1.3	65.4	14.1
	男性 70歳以上	60	20.0	10.0	0.0	1.7	61.7	13.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

(4) 相談しなかった理由

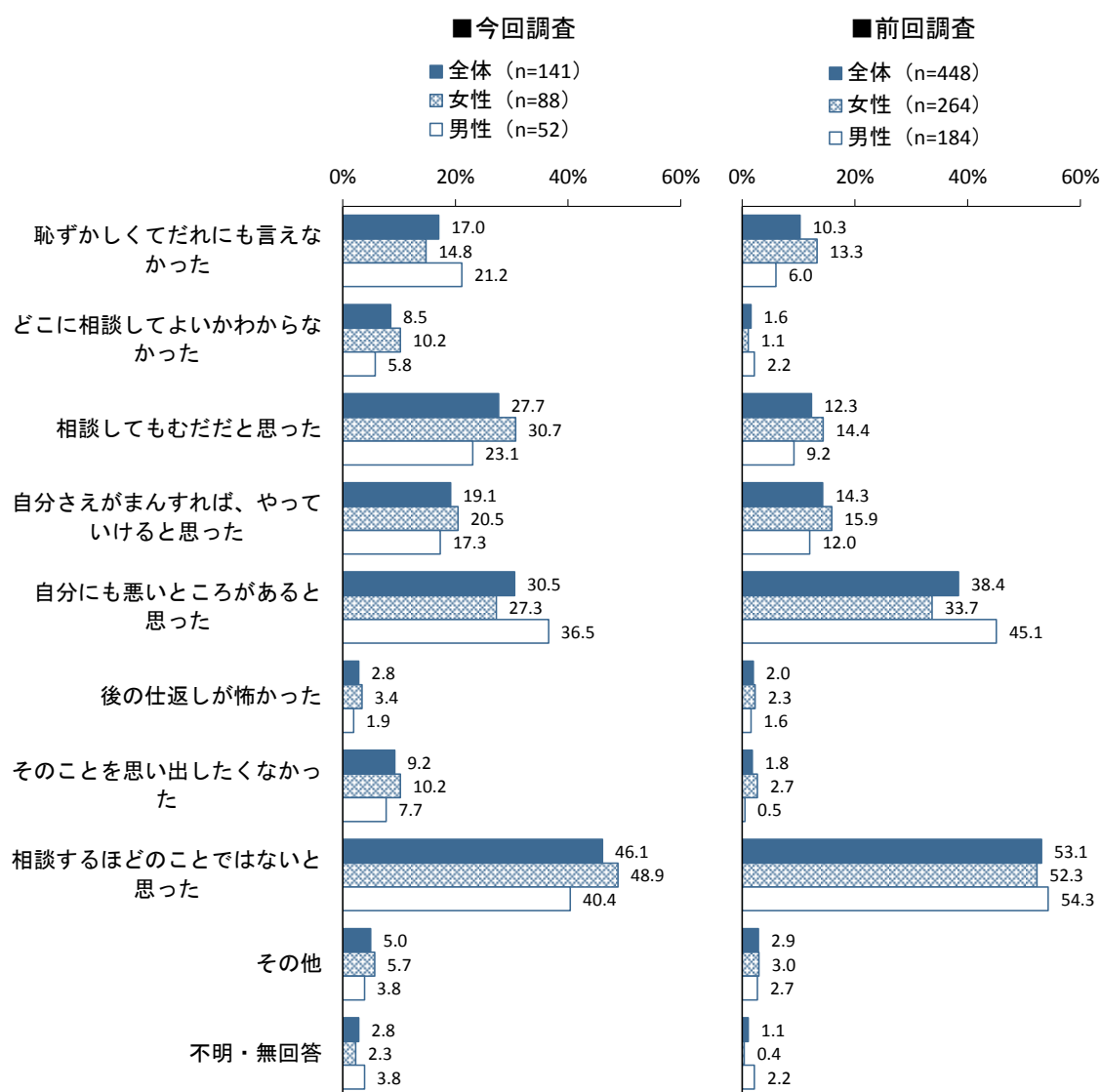
問 24-2	【問 24-1 で「だれにも話したり、相談していない」と回答された方】 だれにも話したり、相談しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

相談しなかった理由について全体では、「相談するほどのことではないと思った」が 46.1%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が 30.5%、「相談してもむだだと思った」が 27.7%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高く、女性では次いで「相談してもむだだと思った」の割合が高く、男性では次いで「自分にも悪いところがあると思った」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「相談してもむだだと思った」が前回調査より 15.4 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が 15.2 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-6-17 相談しなかった理由



性別・年代別でみると、女性 40 歳代では「自分さえがまんすれば、やっていけると思った」の割合が最も高く、女性 60 歳代では「相談してもむだだと思った」の割合が最も高く、男性 20 歳代から 30 歳代、男性 70 歳以上では「自分にも悪いところがあると思った」の割合が最も高く、その他の年代では「相談するほどのことではないと思った」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思った」では、女性 20 歳代から 30 歳代、70 歳以上を除く全ての年代で前回調査より割合が減少しています。

図表 3-6-18 相談しなかった理由 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	な 恥 か づ か っ た	ら だ ど こ に 相 談 し て よ い か わ か	相 談 し て も む だ だ と 思 っ た	や 自 分 さ え が ま ん す れ ば、 や っ て い け る と 思 っ た	と 自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と 思 っ た	後 の 仕 返 し が 怖 か っ た	か そ の こ と を 思 い 出 し た く な か っ た	い 相 談 す る ほ ど の こ と で は な い	そ の 他	不 明・ 無 回 答
全体		141	17.0	8.5	27.7	19.1	30.5	2.8	9.2	46.1	5.0	2.8
性別	女性	88	14.8	10.2	30.7	20.5	27.3	3.4	10.2	48.9	5.7	2.3
	男性	52	21.2	5.8	23.1	17.3	36.5	1.9	7.7	40.4	3.8	3.8
性別・年代別	女性 20歳代	7	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	28.6	71.4	28.6	0.0
	女性 30歳代	16	6.3	12.5	18.8	6.3	18.8	6.3	6.3	68.8	6.3	0.0
	女性 40歳代	18	22.2	11.1	16.7	44.4	27.8	0.0	16.7	27.8	0.0	5.6
	女性 50歳代	20	15.0	10.0	40.0	15.0	10.0	0.0	10.0	50.0	5.0	5.0
	女性 60歳代	11	27.3	9.1	54.5	0.0	27.3	0.0	9.1	27.3	9.1	0.0
	女性 70歳以上	16	6.3	6.3	37.5	31.3	50.0	6.3	0.0	56.3	0.0	0.0
	男性 20歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	10	10.0	10.0	20.0	20.0	30.0	10.0	20.0	20.0	10.0	0.0
	男性 40歳代	12	16.7	0.0	25.0	8.3	16.7	0.0	0.0	41.7	8.3	8.3
	男性 50歳代	12	8.3	8.3	25.0	25.0	25.0	0.0	8.3	41.7	0.0	8.3
	男性 60歳代	8	37.5	12.5	25.0	12.5	37.5	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	8	50.0	0.0	25.0	25.0	75.0	0.0	12.5	50.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-6-19 相談しなかった理由 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	恥ずかしくてだれにも言えなかった	どこに相談してよいかわからなかった	相談してもむだだと思った	自分さえがまんすれば、やっていけると思った	自分にも悪いところがあると思った	後の仕返しが怖かった	そのことを思い出しにくかった	相談するほどのことではないと思った	その他	不明・無回答
全体		448	10.3	1.6	12.3	14.3	38.4	2.0	1.8	53.1	2.9	1.1
性別	女性	264	13.3	1.1	14.4	15.9	33.7	2.3	2.7	52.3	3.0	0.4
	男性	184	6.0	2.2	9.2	12.0	45.1	1.6	0.5	54.3	2.7	2.2
性別・年代別	女性 20歳代	17	17.6	5.9	23.5	17.6	29.4	5.9	5.9	47.1	0.0	0.0
	女性 30歳代	37	16.2	0.0	13.5	8.1	32.4	2.7	5.4	67.6	5.4	0.0
	女性 40歳代	32	12.5	3.1	12.5	21.9	28.1	3.1	3.1	50.0	3.1	0.0
	女性 50歳代	46	10.9	0.0	8.7	13.0	39.1	0.0	4.3	56.5	2.2	0.0
	女性 60歳代	87	12.6	0.0	16.1	16.1	28.7	2.3	0.0	52.9	2.3	1.1
	女性 70歳以上	45	13.3	2.2	15.6	20.0	44.4	2.2	2.2	37.8	4.4	0.0
	男性 20歳代	16	0.0	12.5	18.8	12.5	31.3	0.0	0.0	62.5	12.5	0.0
	男性 30歳代	26	3.8	0.0	3.8	19.2	57.7	0.0	0.0	46.2	3.8	3.8
	男性 40歳代	30	3.3	6.7	16.7	10.0	23.3	6.7	3.3	60.0	3.3	3.3
	男性 50歳代	24	4.2	0.0	12.5	12.5	54.2	4.2	0.0	45.8	0.0	0.0
	男性 60歳代	51	3.9	0.0	7.8	7.8	43.1	0.0	0.0	62.7	0.0	3.9
	男性 70歳以上	37	16.2	0.0	2.7	13.5	56.8	0.0	0.0	45.9	2.7	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(5) DVの防止に特に必要だと思うこと

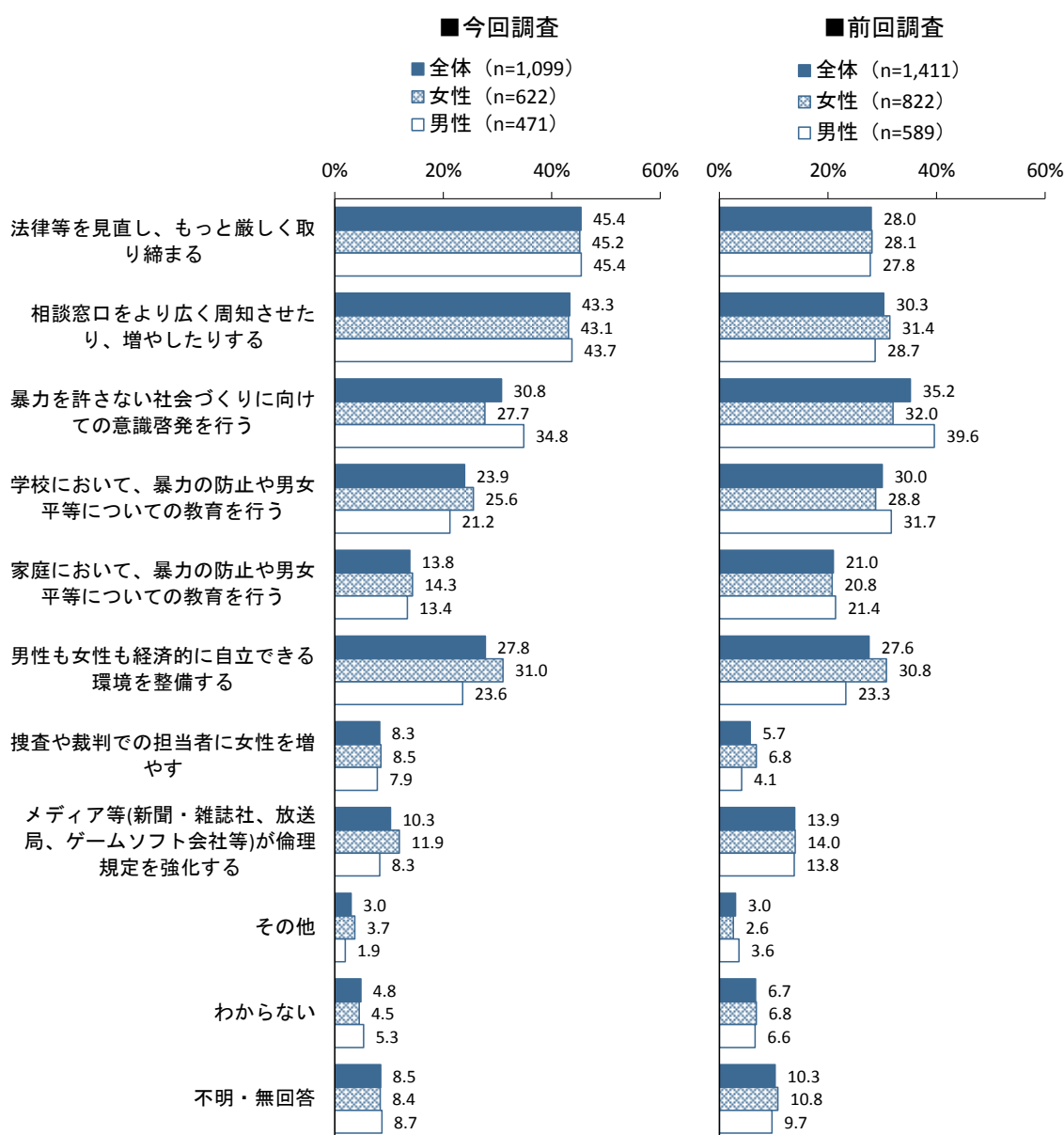
問 25	配偶者（元配偶者を含む。）や交際相手（元交際相手を含む。）からの暴力の防止に特に必要なことは何だと思いますか。（〇は3つ以内）

DVの防止に特に必要だと思うことについて全体では、「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」が45.4%で最も高く、次いで「相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする」が43.3%、「暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う」が30.8%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」の割合が最も高く、次いで「相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする」の割合が高くなっており、女性は続いて「男性も女性も経済的に自立できる環境を整備する」の割合が高く、男性は続いて「暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」では、女性が17.1ポイント、男性が17.6ポイントそれぞれ前回調査より増加しており、女性・男性いずれも最も増加した項目となっています。

図表 3-6-20 DVの防止に特に必要だと思うこと



性別・年代別でみると、50 歳代、女性 60 歳代では「相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする」の割合が最も高く、男性 60 歳代以上では「暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う」の割合が最も高く、その他の年代では「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」では、全ての年代で前回調査よりも増加しており、「相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする」では、女性 30 歳代を除く全ての年代で前回調査よりも割合が増加しています。

図表 3-6-21 DV の防止に特に必要だと思うこと 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	法律等を見直し、 もっと厳しく取り締まる	相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする	暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う	学校において、暴力の防止や男女平等についての教育を行う	家庭において、暴力の防止や男女平等についての教育を行う	男性も女性も経済的に自立できる環境を整備する	捜査や裁判での担当者に女性を増やす	社、放送局、ゲームソフト等）が倫理規定を強化する	メディア等（新聞・雑誌等）が倫理規定を強化する	その他	わからない	不明・無回答
全体		1,099	45.4	43.3	30.8	23.9	13.8	27.8	8.3	10.3	3.0	4.8	8.5	
性別	女性	622	45.2	43.1	27.7	25.6	14.3	31.0	8.5	11.9	3.7	4.5	8.4	
	男性	471	45.4	43.7	34.8	21.2	13.4	23.6	7.9	8.3	1.9	5.3	8.7	
性別・年代別	女性 20歳代	80	47.5	46.3	22.5	26.3	12.5	26.3	16.3	12.5	6.3	3.8	6.3	
	女性 30歳代	103	48.5	40.8	25.2	27.2	19.4	34.0	5.8	6.8	8.7	5.8	6.8	
	女性 40歳代	142	50.7	40.1	22.5	31.0	14.8	32.4	7.0	13.4	3.5	4.9	4.9	
	女性 50歳代	137	43.8	51.8	36.5	19.0	11.7	35.8	8.0	17.5	0.7	5.1	3.6	
	女性 60歳代	63	46.0	49.2	39.7	30.2	19.0	19.0	9.5	7.9	0.0	0.0	9.5	
	女性 70歳以上	97	33.0	30.9	21.6	21.6	10.3	30.9	7.2	9.3	3.1	5.2	22.7	
	男性 20歳代	47	46.8	38.3	27.7	31.9	14.9	23.4	0.0	8.5	4.3	6.4	6.4	
	男性 30歳代	71	47.9	39.4	26.8	16.9	18.3	25.4	14.1	9.9	4.2	4.2	8.5	
	男性 40歳代	89	58.4	43.8	27.0	18.0	9.0	28.1	11.2	6.7	1.1	6.7	7.9	
	男性 50歳代	107	52.3	63.6	31.8	24.3	14.0	19.6	7.5	11.2	0.9	5.6	2.8	
	男性 60歳代	67	38.8	32.8	52.2	22.4	17.9	20.9	6.0	3.0	1.5	1.5	9.0	
	男性 70歳以上	90	26.7	34.4	43.3	17.8	8.9	24.4	5.6	8.9	1.1	6.7	17.8	

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-6-22 DVの防止に特に必要だと思うこと 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる	相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする	暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う	学校において、暴力の防止や男女平等について、暴力の教育を行う	家庭において、暴力の防止や男女平等について、暴力の教育を行う	男性も女性も経済的に自立できる環境を整備する	捜査や裁判での担当者に女性を増やす	社会（放送局、ゲームソフト等）が倫理規定を強化する	メディア等（新聞・雑誌）	その他	わからない	不明・無回答
全体		1,411	28.0	30.3	35.2	30.0	21.0	27.6	5.7	13.9		3.0	6.7	10.3
性別	女性	822	28.1	31.4	32.0	28.8	20.8	30.8	6.8	14.0		2.6	6.8	10.8
	男性	589	27.8	28.7	39.6	31.7	21.4	23.3	4.1	13.8		3.6	6.6	9.7
性別・年代別	女性 20歳代	71	36.6	38.0	33.8	28.2	25.4	33.8	12.7	16.9		1.4	1.4	2.8
	女性 30歳代	123	43.9	48.0	27.6	28.5	17.9	28.5	9.8	13.8		4.1	4.1	4.9
	女性 40歳代	119	37.0	37.0	35.3	29.4	22.7	29.4	14.3	17.6		2.5	6.7	3.4
	女性 50歳代	132	23.5	37.1	37.1	34.1	20.5	37.1	3.8	24.2		0.8	6.1	5.3
	女性 60歳代	221	22.6	23.5	32.1	28.1	22.2	33.0	3.6	10.0		4.1	10.4	11.3
	女性 70歳以上	156	16.7	17.3	27.6	25.6	17.9	23.7	3.2	7.1		1.3	7.1	28.8
	男性 20歳代	57	29.8	21.1	38.6	26.3	24.6	29.8	5.3	8.8		5.3	10.5	3.5
	男性 30歳代	82	36.6	23.2	40.2	35.4	26.8	25.6	4.9	8.5		4.9	8.5	2.4
	男性 40歳代	87	29.9	33.3	28.7	39.1	27.6	14.9	8.0	18.4		4.6	8.0	2.3
	男性 50歳代	78	26.9	32.1	42.3	30.8	16.7	30.8	6.4	16.7		2.6	6.4	2.6
	男性 60歳代	150	24.7	32.0	46.0	35.3	17.3	20.7	2.7	17.3		2.7	4.7	14.0
	男性 70歳以上	135	24.4	26.7	37.8	23.7	20.0	23.0	0.7	10.4		3.0	5.2	20.7

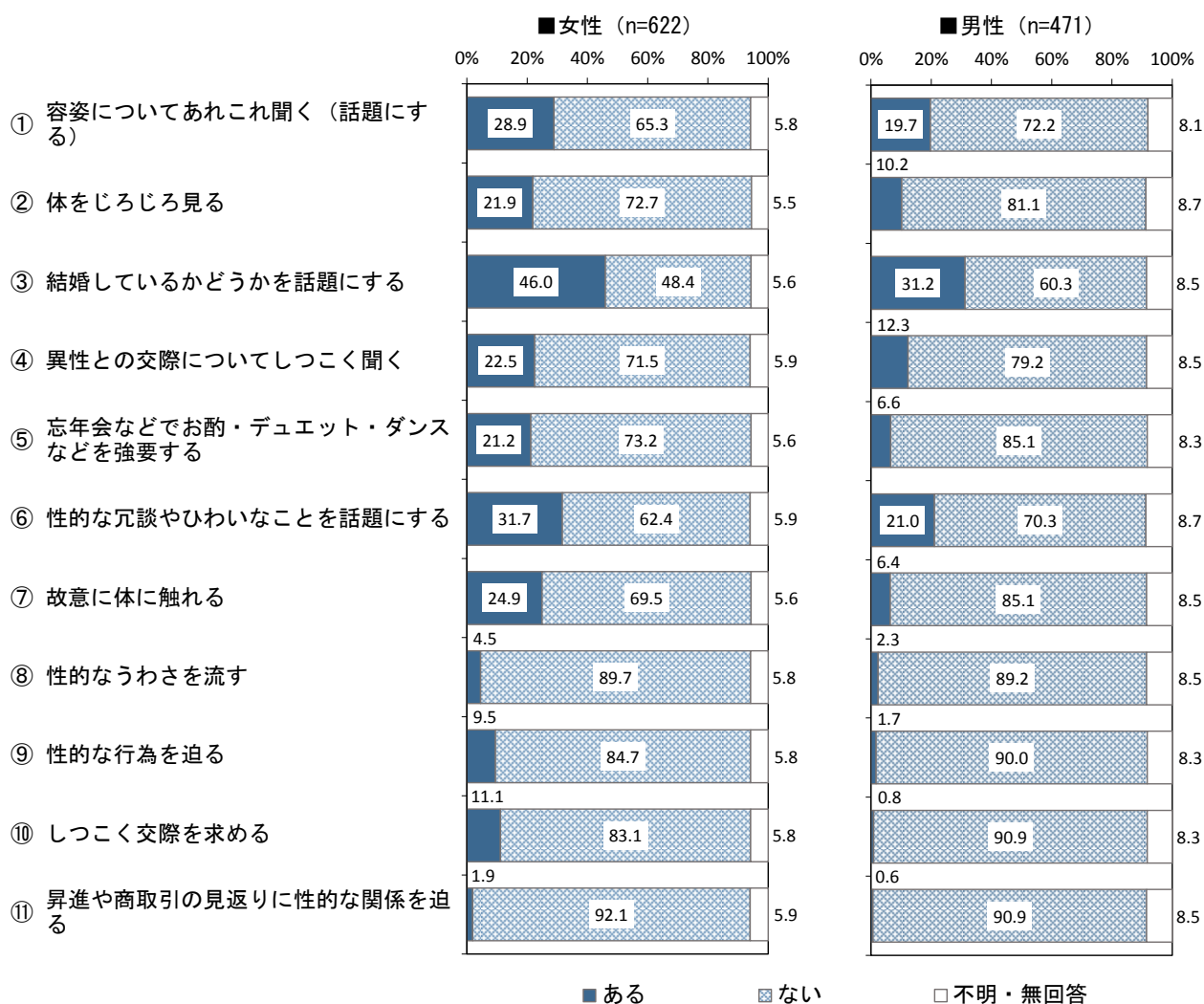
※網掛け■は最も割合が高いもの

(6) セクシャル・ハラスメントについて

問 26	次のような行為のうち、今までに職場や学校、地域等で「(1) あなたがされたこと」、「(2) あなたがしたこと」について該当する項目に○印をつけてください。(それぞれに○は1つだけ)

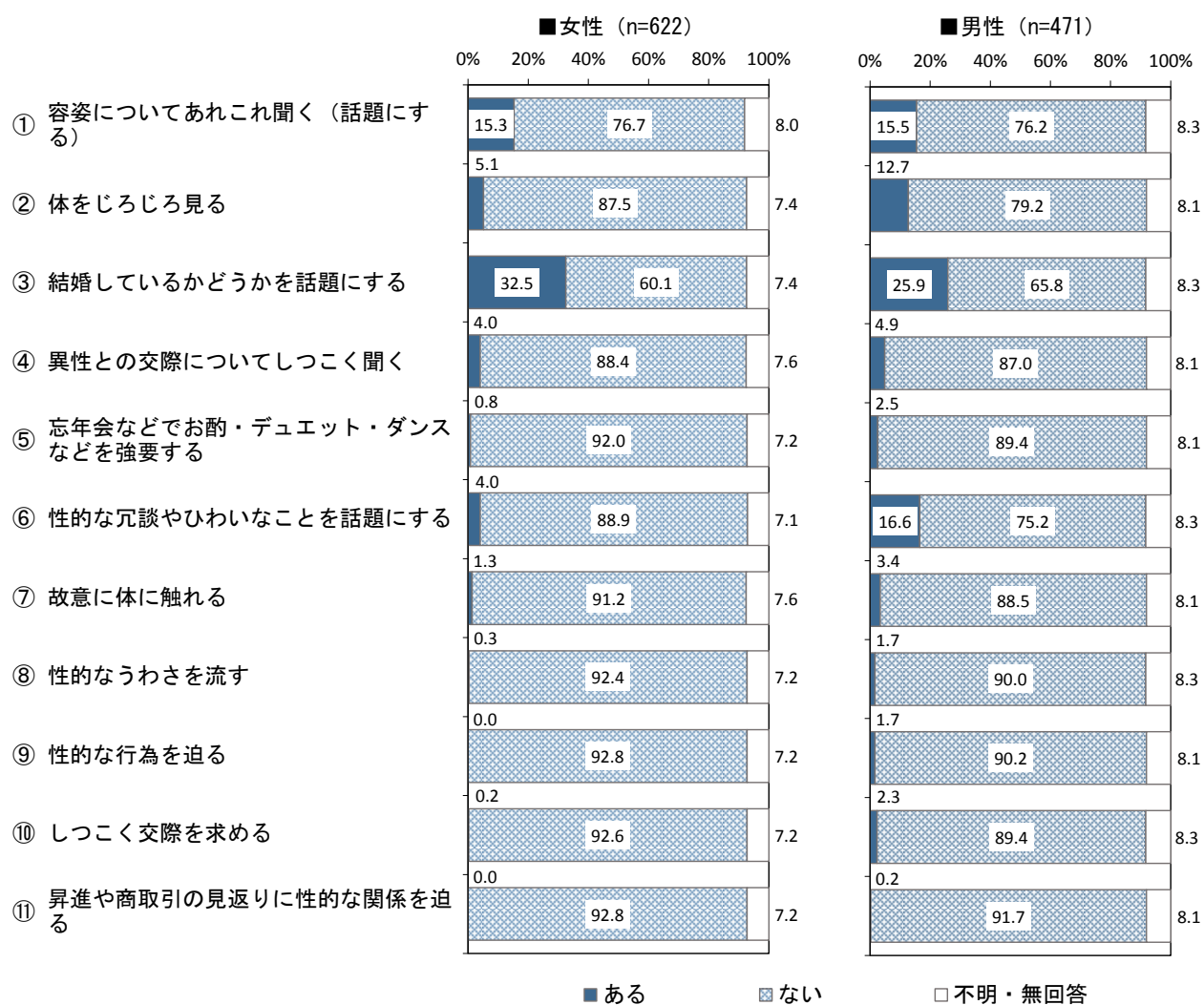
セクシャル・ハラスメントについて、「あなたがされたこと」では、性別でみると、全ての項目で女性の割合が男性よりも高くなっており、女性・男性いずれも「結婚しているかどうかを話題にする」の割合が最も高く、次いで「性的な冗談やひわいなことを話題にする」、「容姿についてあれこれ聞く（話題にする）」の割合が高くなっています。

図表 3-6-23 セクシャル・ハラスメントについて (1) あなたがされたこと



セクシャル・ハラスメントについて、「あなたがしたこと」では、性別でみると、「結婚しているかどうかを話題にする」を除く全ての項目で男性の割合が女性よりも高くなっており、女性・男性いずれも「結婚しているかどうかを話題にする」の割合が最も高くなっており、女性では次いで「容姿についてあれこれ聞く（話題にする）」の割合が高く、男性では次いで「性的な冗談やひわいなことを話題にする」の割合が高くなっています。

図表 3-6-24 セクシャル・ハラスメントについて （２）あなたがしたこと

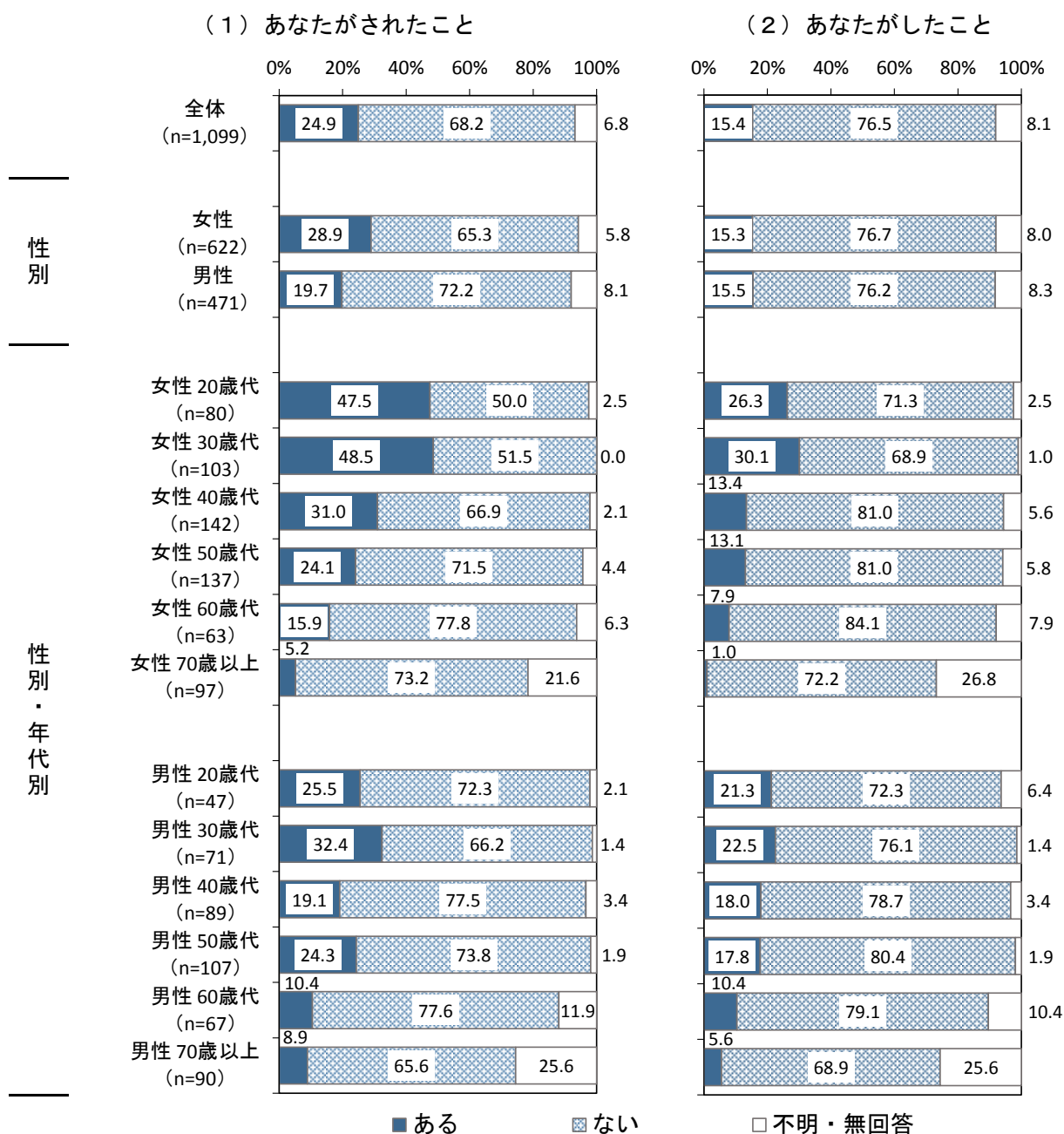


①容姿についてあれこれ聞く（話題にする）

「容姿についてあれこれ聞く（話題にする）」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、女性・男性いずれも 30 歳代の割合が最も高く、次いで 20 歳代の割合が高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、女性・男性いずれも 30 歳代の割合が最も高く、次いで 20 歳代の割合が高くなっています。

図表 3-6-25 セクシャル・ハラスメントについて ①容姿についてあれこれ聞く（話題にする）

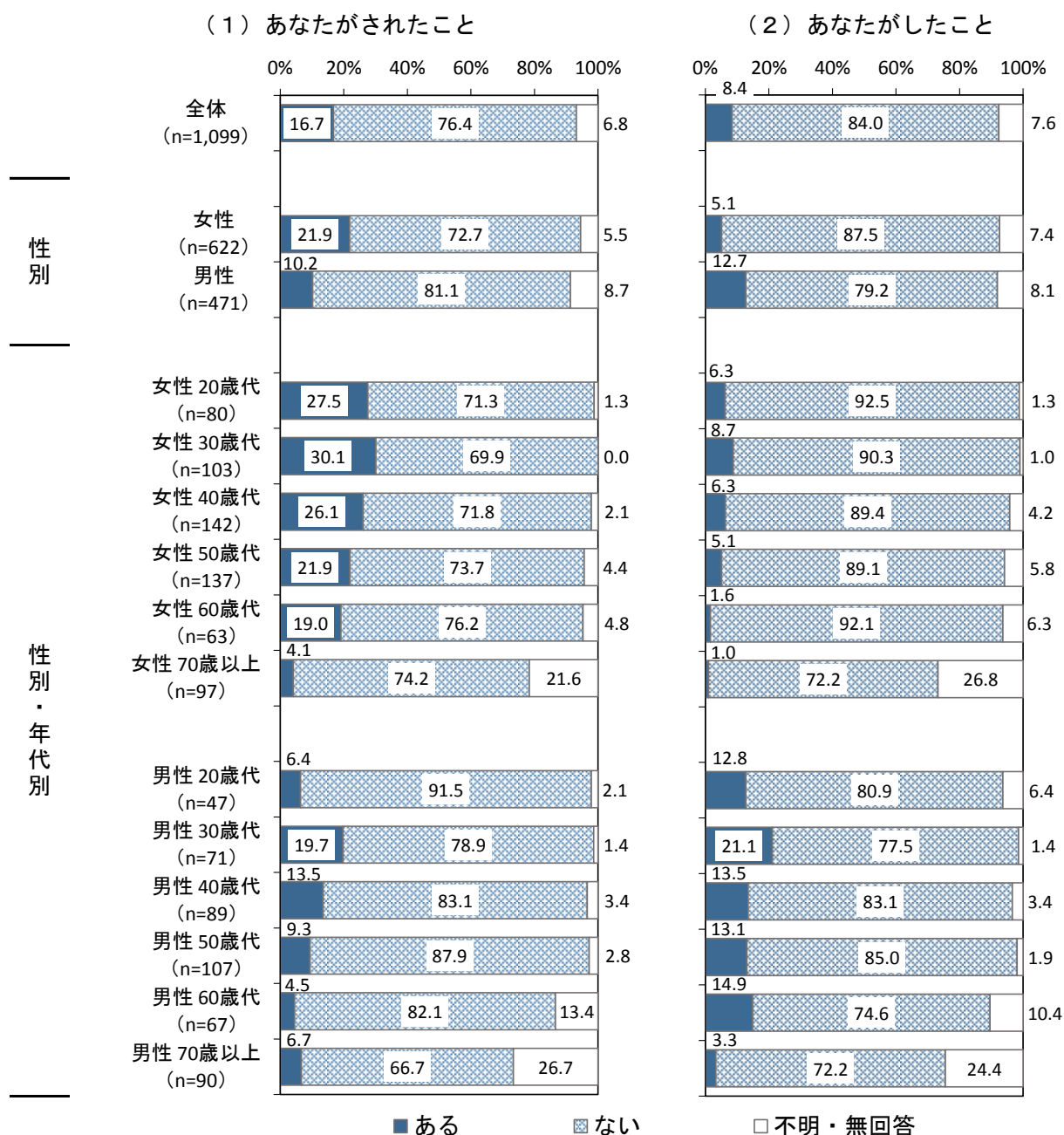


②体をじろじろ見る

「体をじろじろ見る」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、70歳以上を除く全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高く、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっています。

図表 3-6-26 セクシャル・ハラスメントについて ②体をじろじろ見る

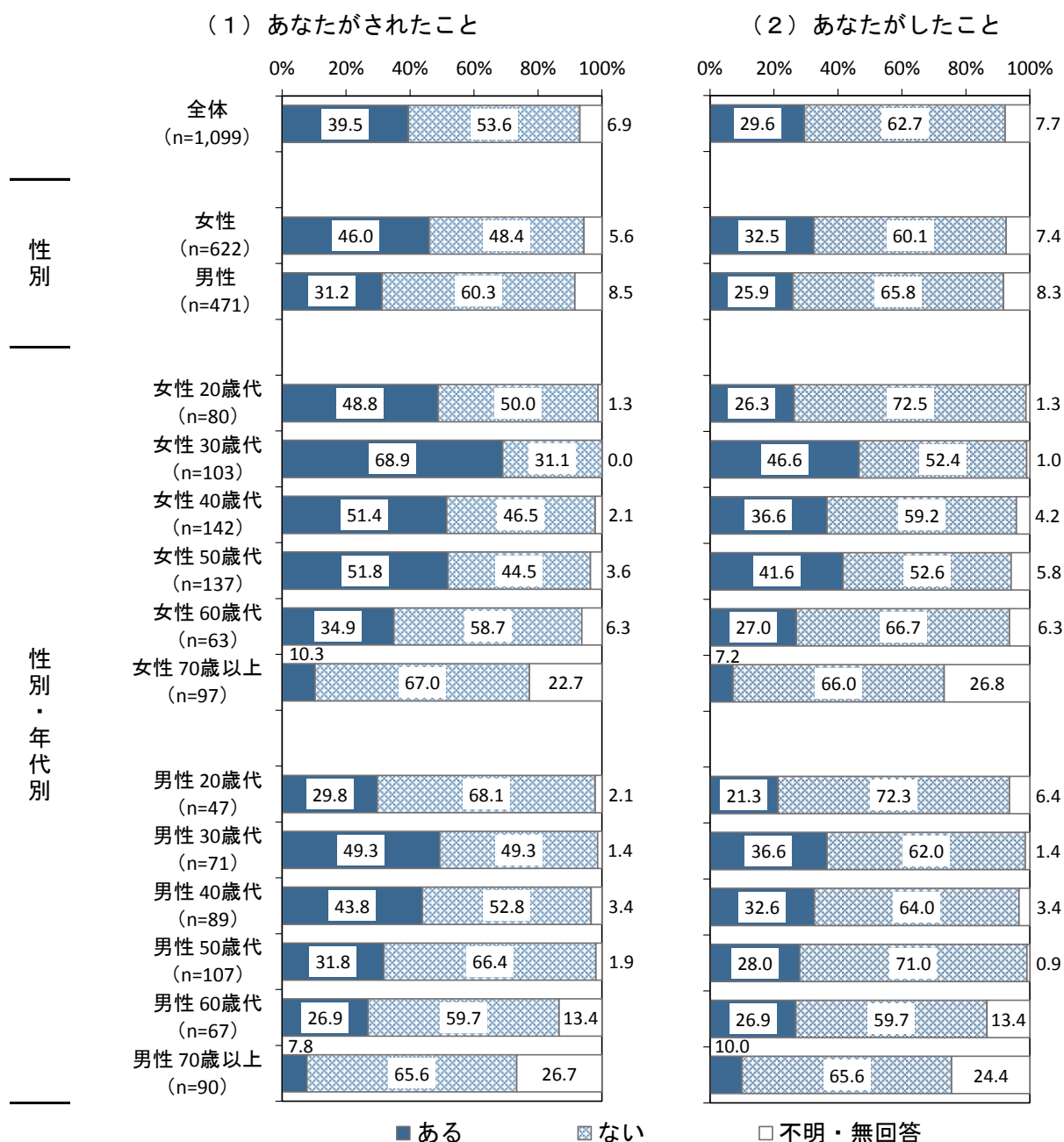


③結婚しているかどうかを話題にする

「結婚しているかどうかを話題にする」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、70歳以上を除く全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっています。

図表 3-6-27 セクシャル・ハラスメントについて ③結婚しているかどうかを話題にする

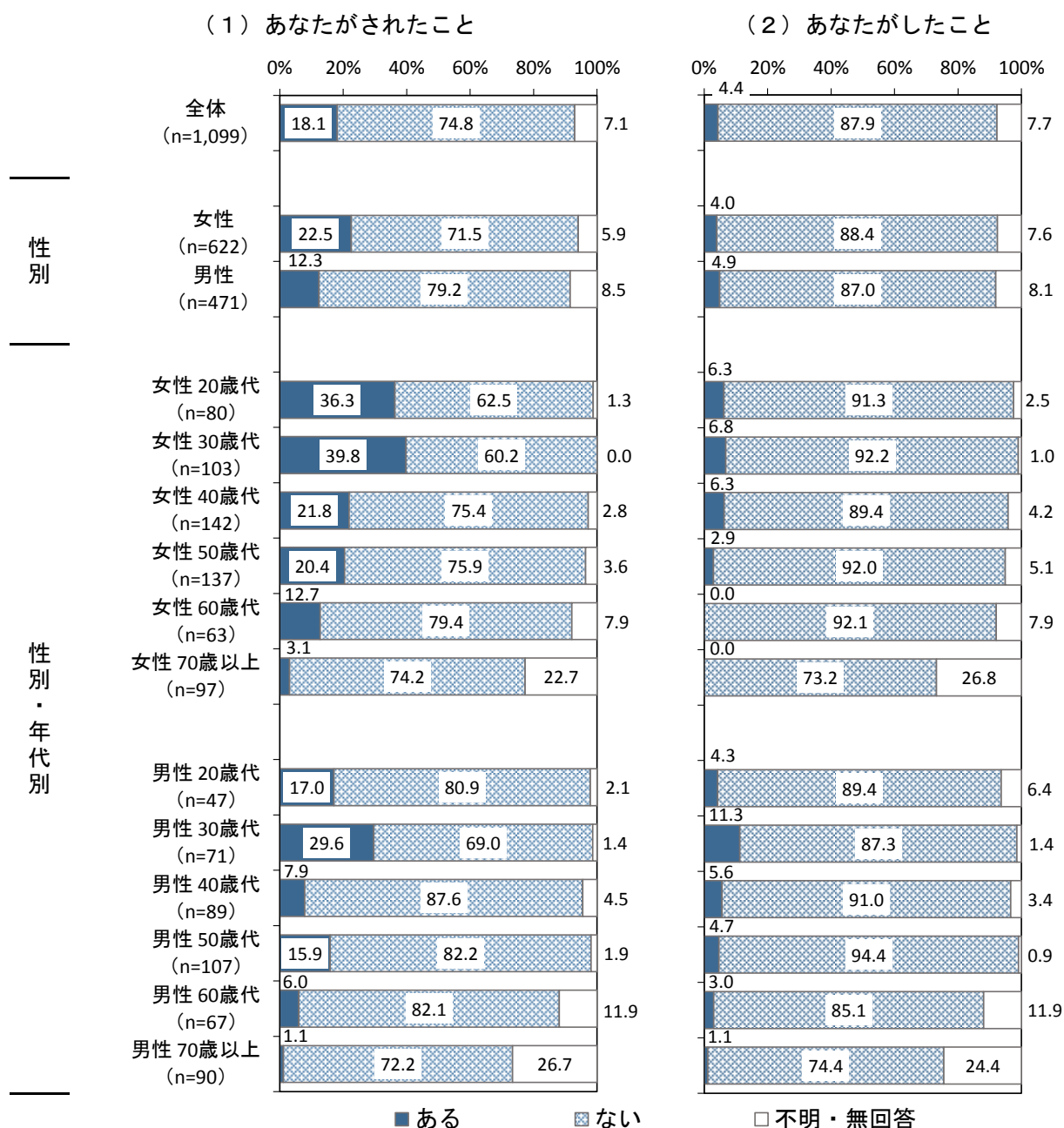


④異性との交際についてしつこく聞く

「異性との交際についてしつこく聞く」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別で見ると、「ある」では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別で見ると、「ある」では、男性30歳代を除く全ての年代で1割位以下となっており、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっています。

図表 3-6-28 セクシャル・ハラスメントについて ④異性との交際についてしつこく聞く

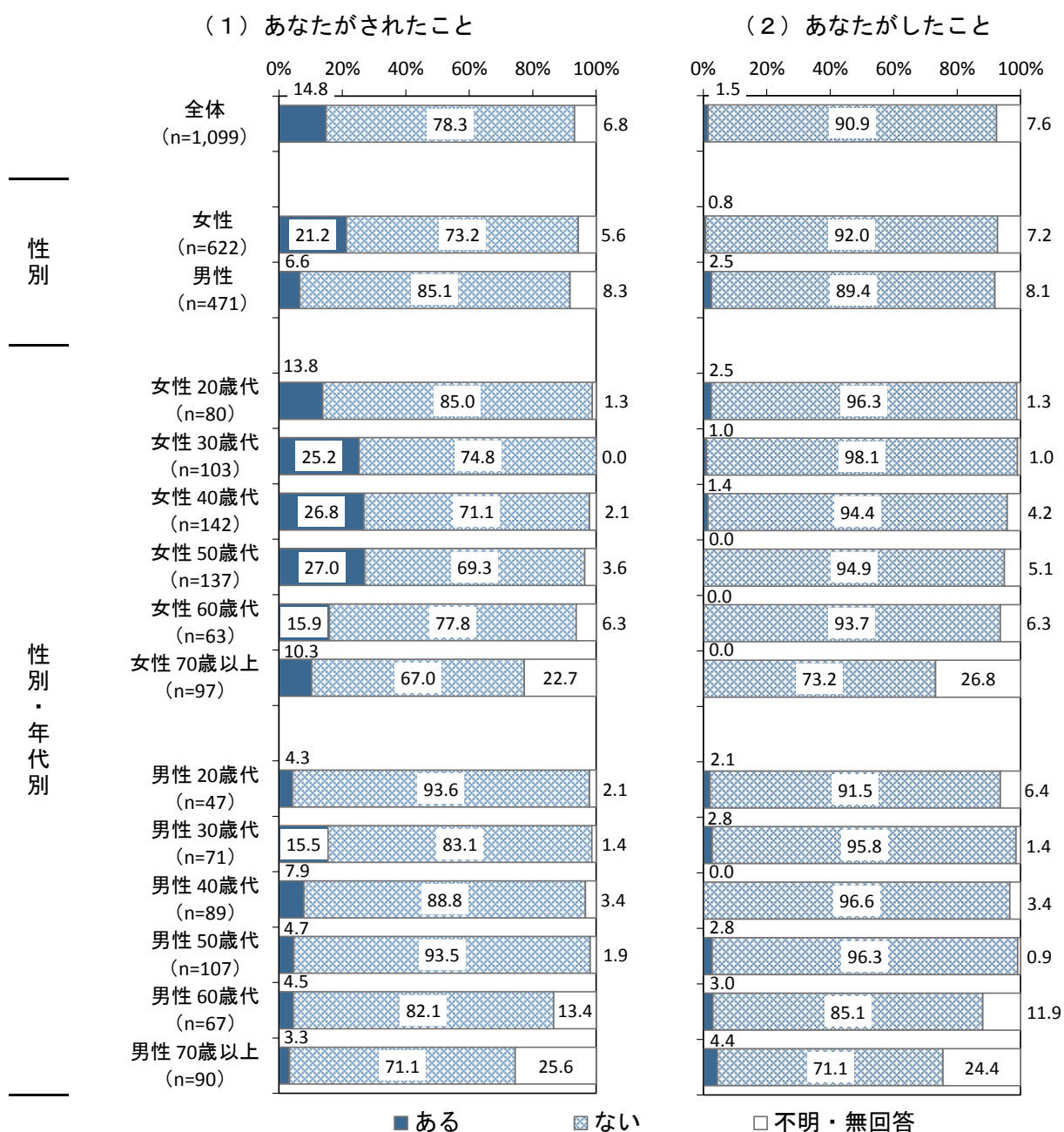


⑤忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要する

「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要する」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性は50歳代が、男性は30歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、女性は20歳代が、男性は70歳以上の割合が最も高くなっています。

図表 3-6-29 セクシャル・ハラスメントについて ⑤忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要する

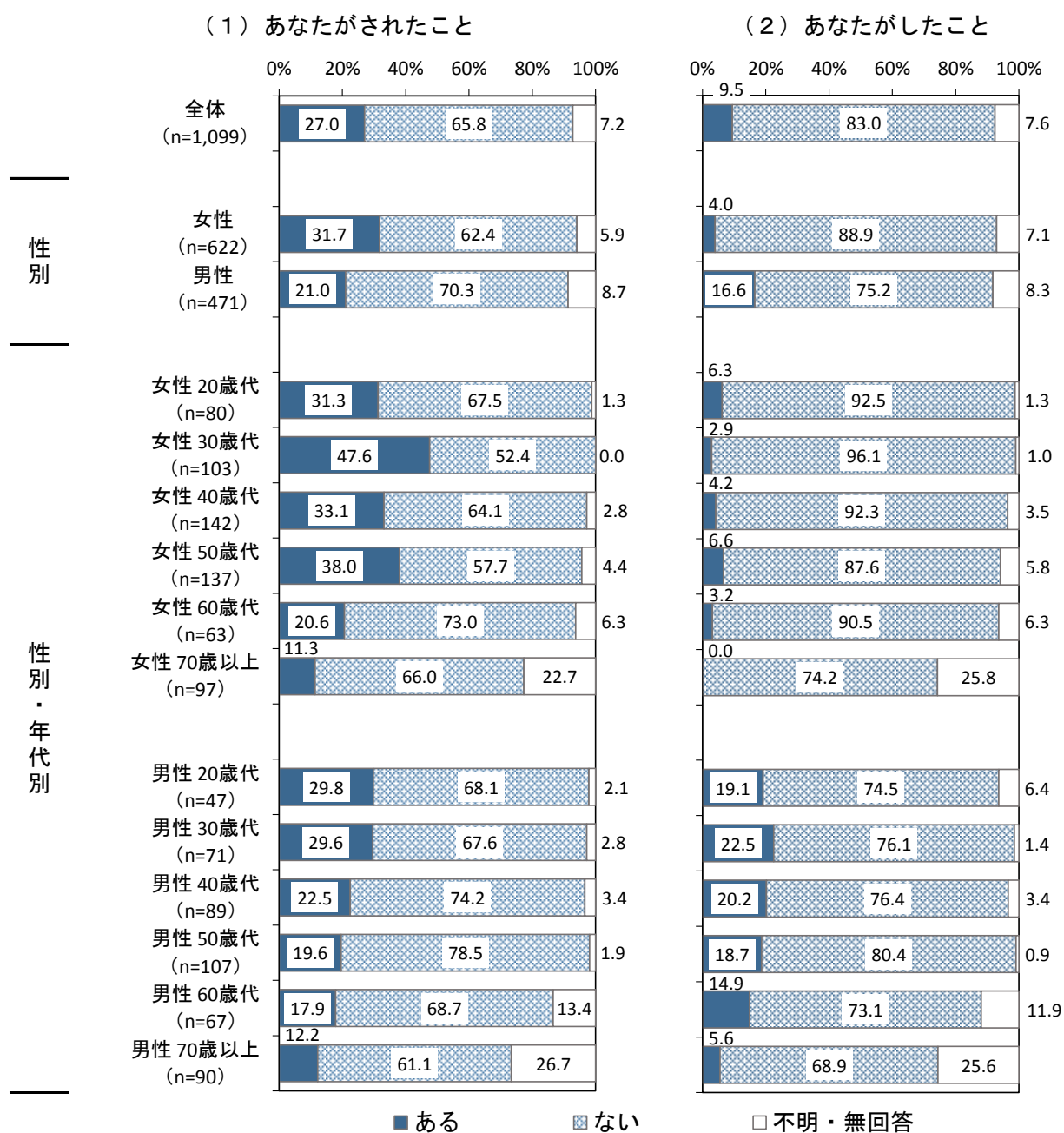


⑥性的な冗談やひわいなことを話題にする

「性的な冗談やひわいなことを話題にする」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、70歳以上を除く全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性は30歳代が、男性は20歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高く、女性は全ての年代で1割以下で、男性は70歳以上を除く全ての年代で1割以上となっています。

図表 3-6-30 セクシャル・ハラスメントについて ⑥性的な冗談やひわいなことを話題にする



⑦故意に体に触れる

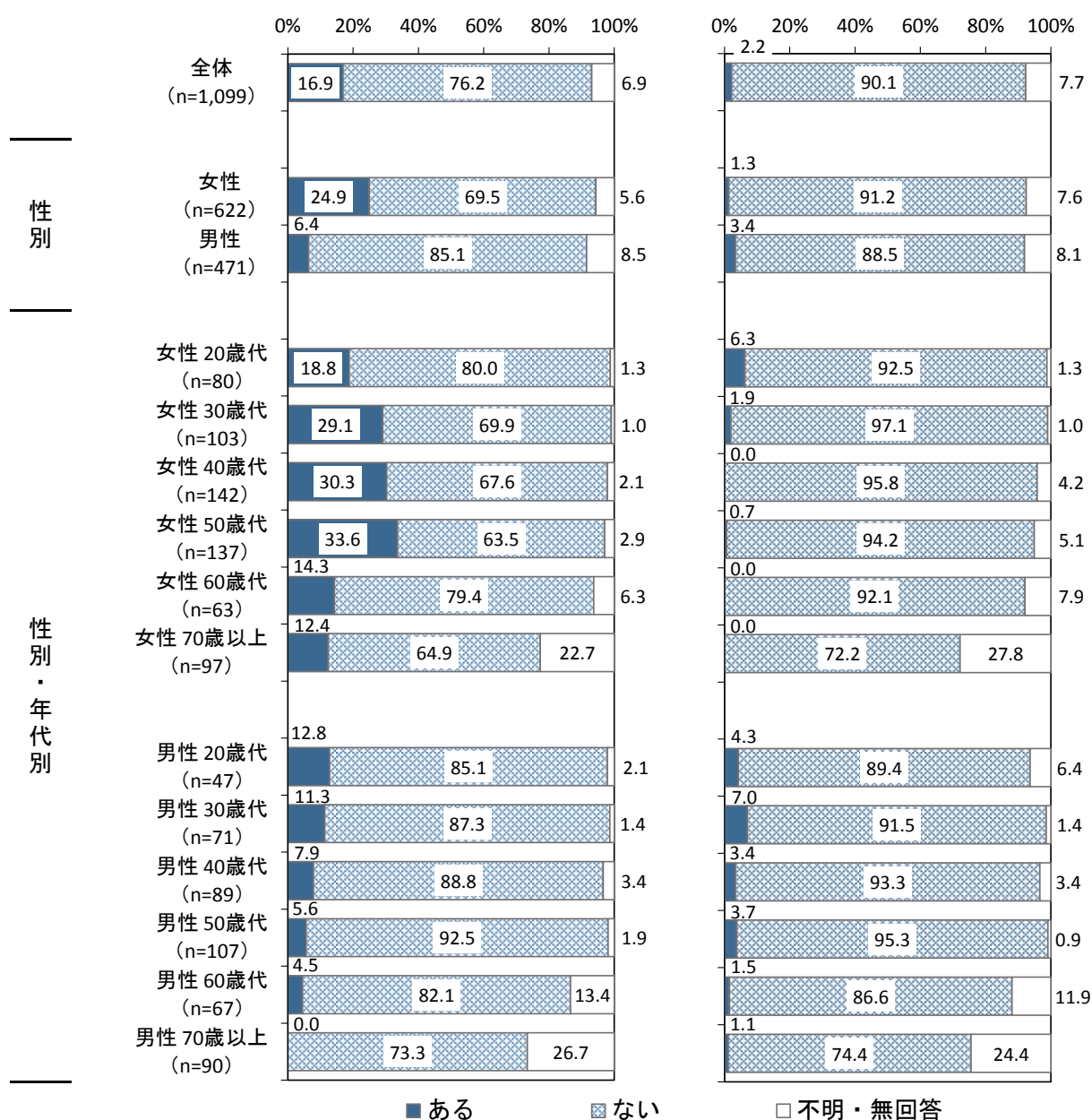
「故意に体に触れる」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性は50歳代が、男性は20歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、女性は20歳代が、男性は30歳代の割合が最も高くなっています。

図表 3-6-31 セクシャル・ハラスメントについて ⑦故意に体に触れる

(1) あなたがされたこと

(2) あなたがしたこと

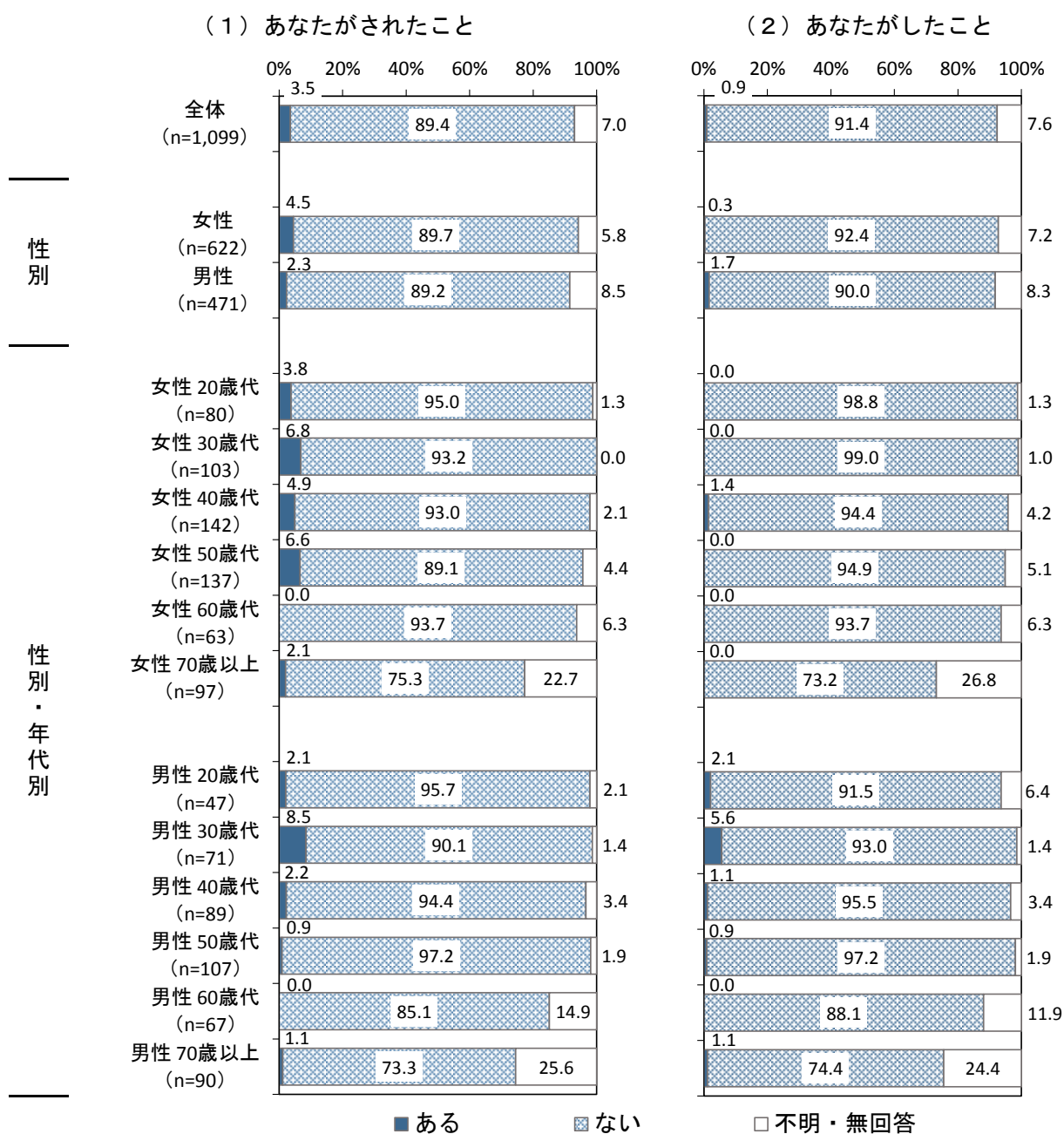


⑧性的なうわさを流す

「性的なうわさを流す」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、女性は40歳代が、男性は30歳代の割合が最も高くなっています。

図表 3-6-32 セクシャル・ハラスメントについて ⑧性的なうわさを流す

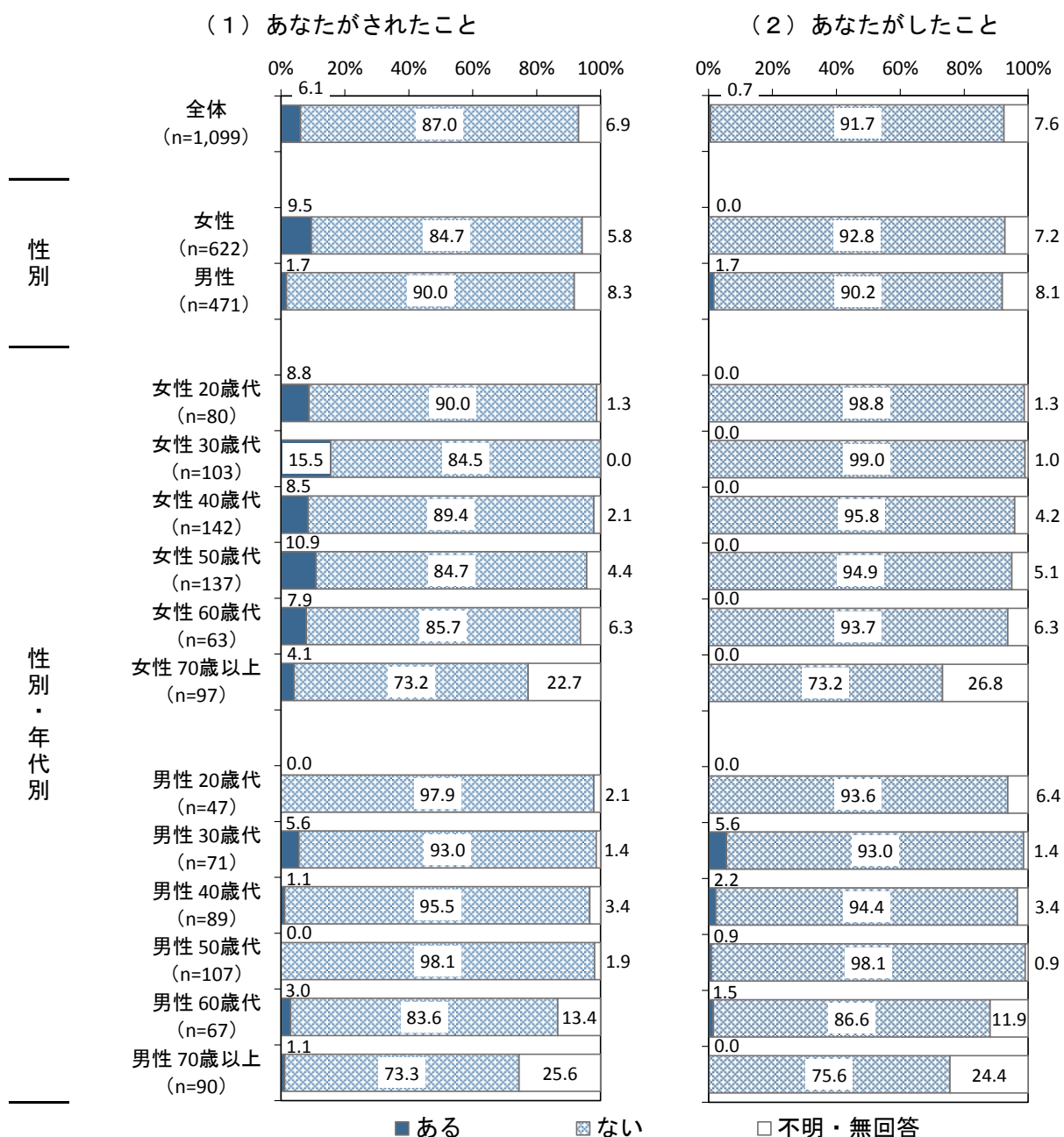


⑨性的な行為を迫る

「性的な行為を迫る」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性・男性いずれも30歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、男性は30歳代の割合が最も高くなっています。

図表 3-6-33 セクシャル・ハラスメントについて ⑨性的な行為を迫る



⑩しつこく交際を求める

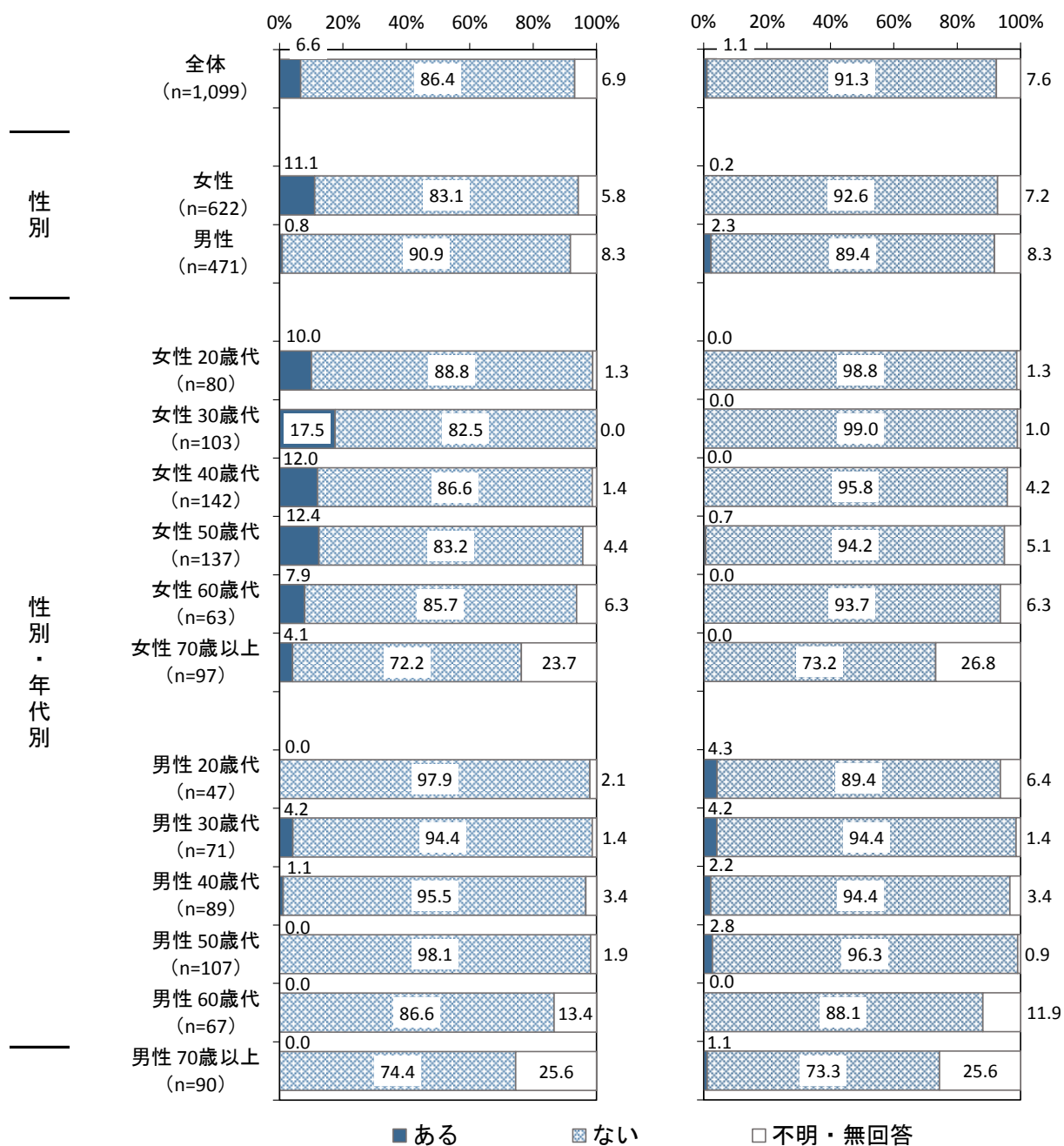
「しつこく交際を求める」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、全ての年代で女性の割合が男性よりも高く、女性・男性いずれも 30 歳代の割合が最も高くなっています。

「あなたがしたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、男性は 20 歳代の割合が最も高くなっています。

図表 3-6-34 セクシャル・ハラスメントについて ⑩しつこく交際を求める

(1) あなたがされたこと

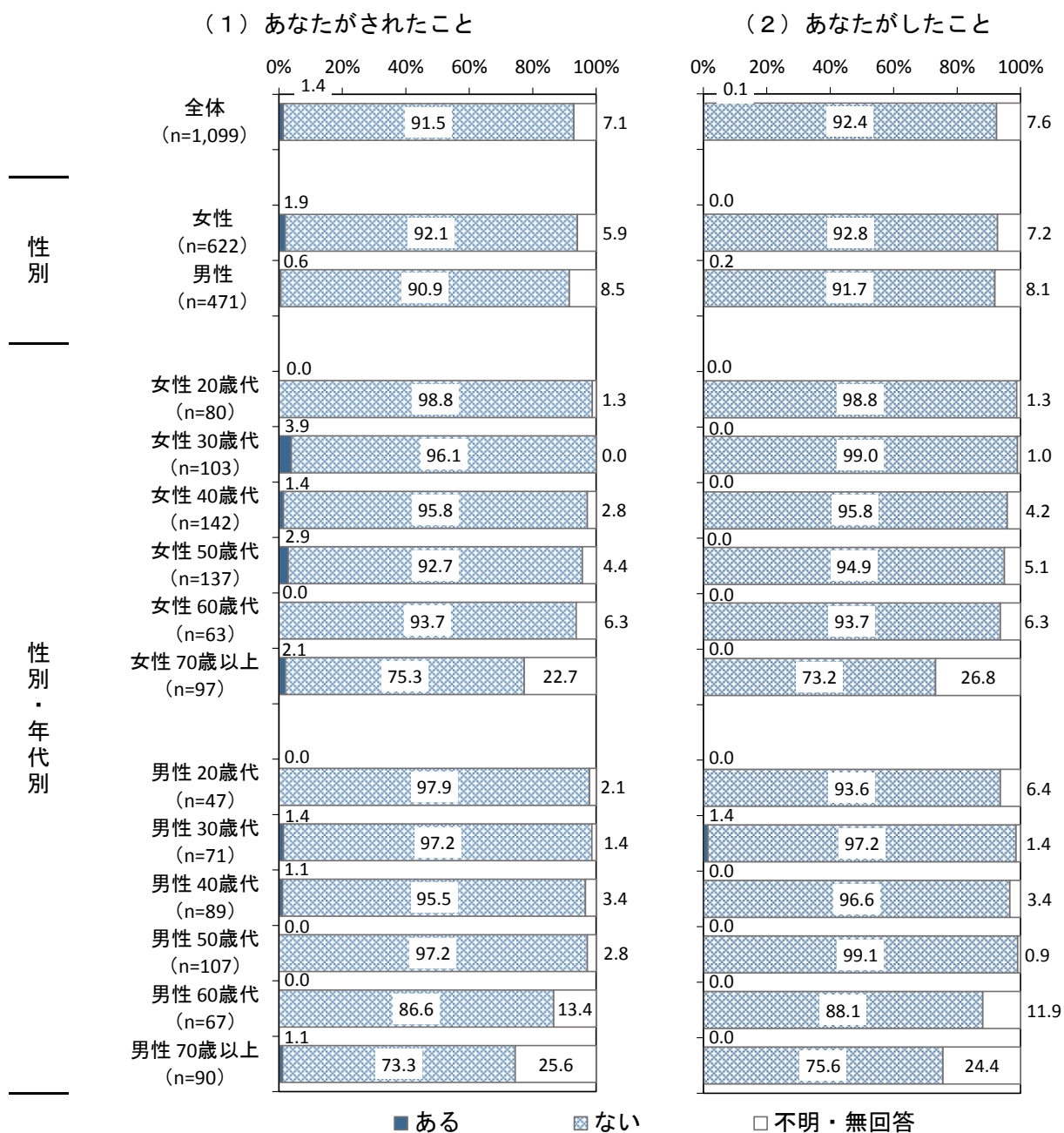
(2) あなたがしたこと



⑪昇進や商取引の見返りに性的な関係を迫る

「昇進や商取引の見返りに性的な関係を迫る」について、「あなたがされたこと」を性別・年代別でみると、「ある」では、女性 30 歳代が 3.9%で最も高くなっています。

図表 3-6-35 セクシャル・ハラスメントについて ⑪昇進や商取引の見返りに性的な関係を迫る



(7) 誰からセクシャル・ハラスメントを受けたか

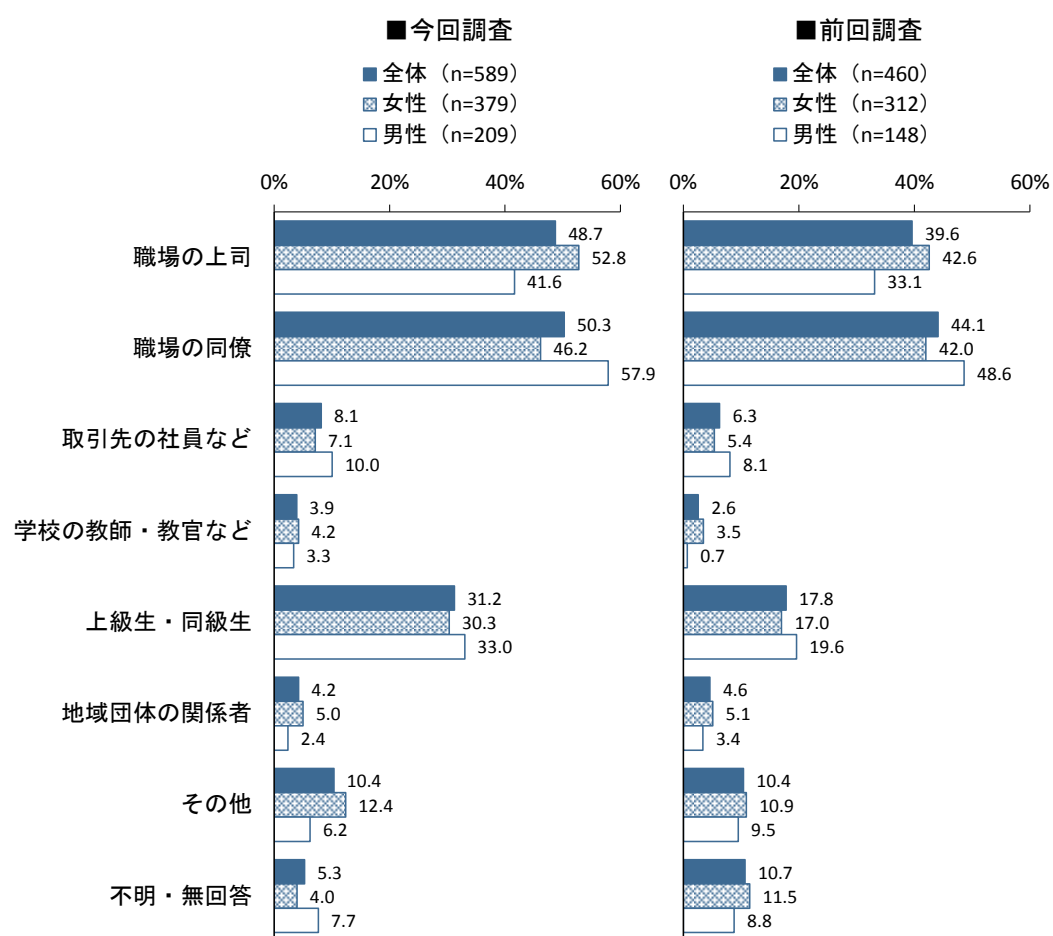
問 26-1	【問 26 で「(1) あなたがされたこと」で「ある」を1つでも回答された方】 それを受けたのは、だれからですか。(〇はいくつでも)

誰からセクシャル・ハラスメントを受けたかについて全体では、「職場の同僚」が 50.3%で最も高く、次いで「職場の上司」が 48.7%、「上級生・同級生」が 31.2%と続いています。

性別でみると、女性では「職場の上司」が 52.8%で最も高く、男性では「職場の同僚」が 57.9%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「地域団体の関係者」以外の項目で、男性では「地域団体の関係者」「その他」以外の項目で前回調査よりも割合が増加しています。

図表 3-6-36 誰からセクシャル・ハラスメントを受けたか



性別・年代別でみると、20 歳代では「上級生・同級生」の割合が最も高く、女性 30 歳代から 60 歳代、男性 40 歳代では「職場の上司」の割合が最も高く、それ以外の年代では「職場の同僚」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「上級生・同級生」では、女性 70 歳以上を除く全ての年代で割合が増加しており、「職場の上司」では、女性の全ての年代で前回調査よりも割合が増加しています。

図表 3-6-37 誰からセクシャル・ハラスメントを受けたか 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	職場の上司	職場の同僚	取引先の社員など	学校の教師・教官など	上級生・同級生	地域団体の関係者	その他	不明・無回答
全体		589	48.7	50.3	8.1	3.9	31.2	4.2	10.4	5.3
性別	女性	379	52.8	46.2	7.1	4.2	30.3	5.0	12.4	4.0
	男性	209	41.6	57.9	10.0	3.3	33.0	2.4	6.2	7.7
性別・年代別	女性 20歳代	59	50.8	40.7	3.4	1.7	54.2	0.0	10.2	1.7
	女性 30歳代	81	53.1	45.7	9.9	4.9	38.3	1.2	16.0	3.7
	女性 40歳代	94	60.6	48.9	8.5	3.2	24.5	6.4	13.8	0.0
	女性 50歳代	89	51.7	47.2	10.1	6.7	22.5	4.5	9.0	6.7
	女性 60歳代	31	54.8	45.2	0.0	6.5	22.6	6.5	16.1	9.7
	女性 70歳以上	25	28.0	48.0	0.0	0.0	8.0	24.0	8.0	8.0
	男性 20歳代	22	36.4	45.5	4.5	4.5	72.7	0.0	4.5	4.5
	男性 30歳代	45	40.0	66.7	13.3	6.7	42.2	4.4	4.4	2.2
	男性 40歳代	46	60.9	56.5	8.7	0.0	28.3	2.2	6.5	15.2
	男性 50歳代	51	31.4	60.8	13.7	3.9	25.5	0.0	3.9	0.0
	男性 60歳代	26	50.0	57.7	7.7	0.0	19.2	7.7	15.4	3.8
	男性 70歳以上	19	21.1	47.4	5.3	5.3	15.8	0.0	5.3	31.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-6-38 誰からセクシャル・ハラスメントを受けたか 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	職場の上司	職場の同僚	取引先の社員など	学校の教師・教官など	上級生・同級生	地域団体の関係者	その他	不明・無回答
全体		460	39.6	44.1	6.3	2.6	17.8	4.6	10.4	10.7
性別	女性	312	42.6	42.0	5.4	3.5	17.0	5.1	10.9	11.5
	男性	148	33.1	48.6	8.1	0.7	19.6	3.4	9.5	8.8
性別・年代別	女性 20歳代	31	48.4	41.9	9.7	3.2	41.9	0.0	12.9	0.0
	女性 30歳代	72	51.4	40.3	8.3	5.6	13.9	9.7	11.1	5.6
	女性 40歳代	63	60.3	38.1	9.5	1.6	20.6	1.6	9.5	3.2
	女性 50歳代	59	40.7	40.7	1.7	6.8	10.2	3.4	11.9	15.3
	女性 60歳代	58	24.1	48.3	0.0	1.7	13.8	8.6	12.1	17.2
	女性 70歳以上	29	17.2	44.8	3.4	0.0	10.3	3.4	6.9	37.9
	男性 20歳代	24	20.8	29.2	0.0	0.0	50.0	0.0	20.8	4.2
	男性 30歳代	29	58.6	44.8	10.3	0.0	24.1	0.0	6.9	10.3
	男性 40歳代	29	27.6	55.2	6.9	3.4	13.8	10.3	3.4	6.9
	男性 50歳代	15	46.7	46.7	13.3	0.0	6.7	13.3	0.0	6.7
	男性 60歳代	25	24.0	48.0	8.0	0.0	8.0	0.0	20.0	16.0
	男性 70歳以上	26	23.1	65.4	11.5	0.0	11.5	0.0	3.8	7.7

※網掛け■は最も割合が高いもの

(8) セクシャル・ハラスメントの相談先

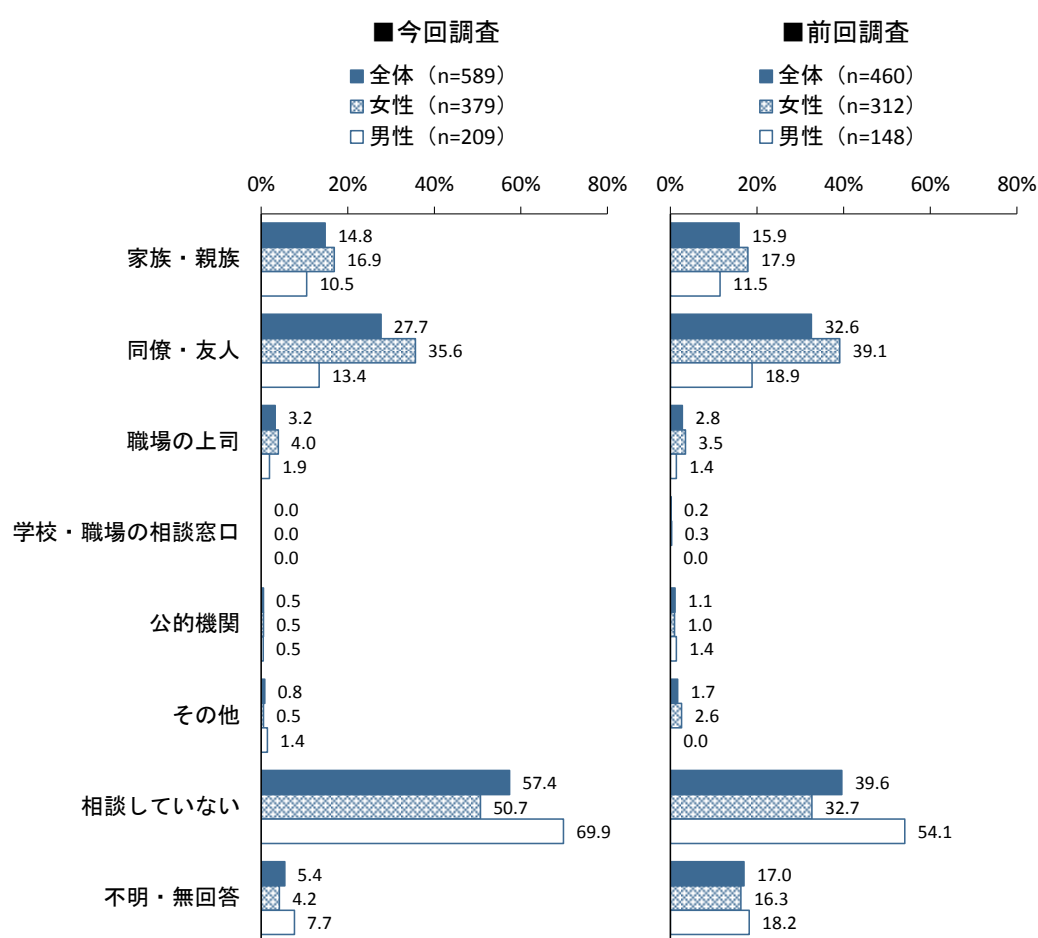
問 26-2	【問 26 で「(1) あなたがされたこと」で「ある」を1つでも回答された方】 あなたは、それをだれかに打ち明けたり、相談しましたか。(〇はいくつでも)

セクシャル・ハラスメントの相談先について全体では、「相談していない」が 57.4%で最も高く、次いで「同僚・友人」が 27.7%、「家族・親族」が 14.8%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「相談していない」の割合が最も高く、男性が 69.9%で、女性（50.7%）よりも 19.2 ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「相談していない」では、女性・男性いずれも前回調査よりも割合が増加しています。

図表 3-6-39 セクシャル・ハラスメントの相談先



性別・年代別でみると、女性 60 歳代では「同僚・友人」の割合が最も高く、それ以外の年代では「相談していない」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「相談していない」では、全ての年代で前回調査より割合が増加しており、女性 40 歳代が 31.0 ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-6-40 セクシャル・ハラスメントの相談先 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家族・親族	同僚・友人	職場の上司	学校・職場の相談窓口	公的機関	その他	相談していない	不明・無回答
全体		589	14.8	27.7	3.2	0.0	0.5	0.8	57.4	5.4
性別	女性	379	16.9	35.6	4.0	0.0	0.5	0.5	50.7	4.2
	男性	209	10.5	13.4	1.9	0.0	0.5	1.4	69.9	7.7
性別・年代別	女性 20歳代	59	22.0	23.7	5.1	0.0	0.0	0.0	61.0	1.7
	女性 30歳代	81	18.5	42.0	7.4	0.0	1.2	1.2	44.4	3.7
	女性 40歳代	94	14.9	38.3	3.2	0.0	0.0	0.0	53.2	0.0
	女性 50歳代	89	13.5	33.7	3.4	0.0	1.1	1.1	50.6	6.7
	女性 60歳代	31	16.1	48.4	0.0	0.0	0.0	0.0	41.9	6.5
	女性 70歳以上	25	20.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	48.0	16.0
	男性 20歳代	22	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	77.3	4.5
	男性 30歳代	45	15.6	17.8	4.4	0.0	2.2	0.0	66.7	2.2
	男性 40歳代	46	8.7	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	67.4	15.2
	男性 50歳代	51	7.8	13.7	3.9	0.0	0.0	0.0	80.4	0.0
	男性 60歳代	26	3.8	15.4	0.0	0.0	0.0	11.5	65.4	3.8
	男性 70歳以上	19	10.5	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	52.6	31.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-6-41 セクシャル・ハラスメントの相談先 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家族・親族	同僚・友人	職場の上司	学校・職場の相談窓口	公的機関	その他	相談していない	不明・無回答
全体		460	15.9	32.6	2.8	0.2	1.1	1.7	39.6	17.0
性別	女性	312	17.9	39.1	3.5	0.3	1.0	2.6	32.7	16.3
	男性	148	11.5	18.9	1.4	0.0	1.4	0.0	54.1	18.2
性別・年代別	女性 20歳代	31	19.4	35.5	9.7	0.0	0.0	9.7	41.9	9.7
	女性 30歳代	72	18.1	43.1	4.2	1.4	0.0	2.8	34.7	9.7
	女性 40歳代	63	23.8	54.0	3.2	0.0	1.6	3.2	22.2	7.9
	女性 50歳代	59	13.6	32.2	1.7	0.0	0.0	1.7	39.0	20.3
	女性 60歳代	58	13.8	36.2	1.7	0.0	3.4	0.0	31.0	22.4
	女性 70歳以上	29	20.7	20.7	3.4	0.0	0.0	0.0	31.0	37.9
	男性 20歳代	24	4.2	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	20.8
	男性 30歳代	29	13.8	24.1	3.4	0.0	6.9	0.0	58.6	6.9
	男性 40歳代	29	17.2	17.2	0.0	0.0	0.0	0.0	55.2	13.8
	男性 50歳代	15	6.7	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	66.7	13.3
	男性 60歳代	25	12.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	52.0	24.0
	男性 70歳以上	26	11.5	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	34.6	30.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

7. 高齢期の生活について

(1) 高齢期の生活への不安

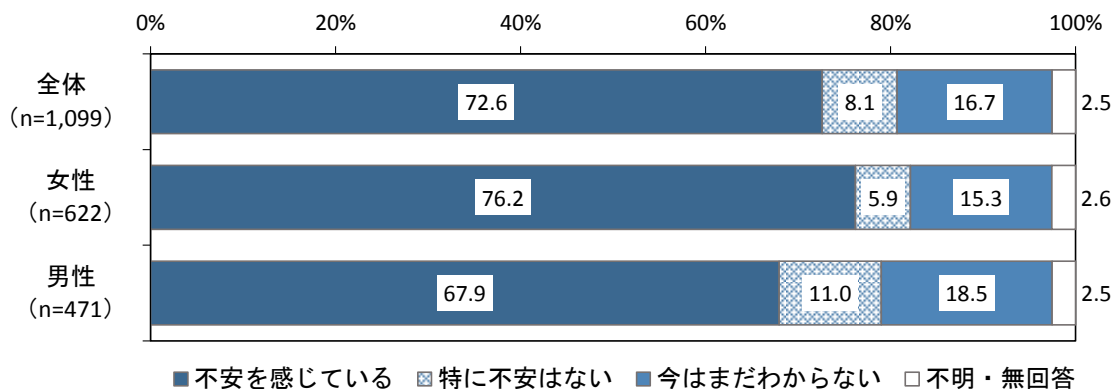
問 27	あなたは、高齢になったときの生活に不安がありますか。(○は1つだけ)

高齢期の生活への不安について全体では、「不安を感じている」が 72.6%で最も高く、次いで「今はまだわからない」が 16.7%、「特に不安はない」が 8.1%となっています。

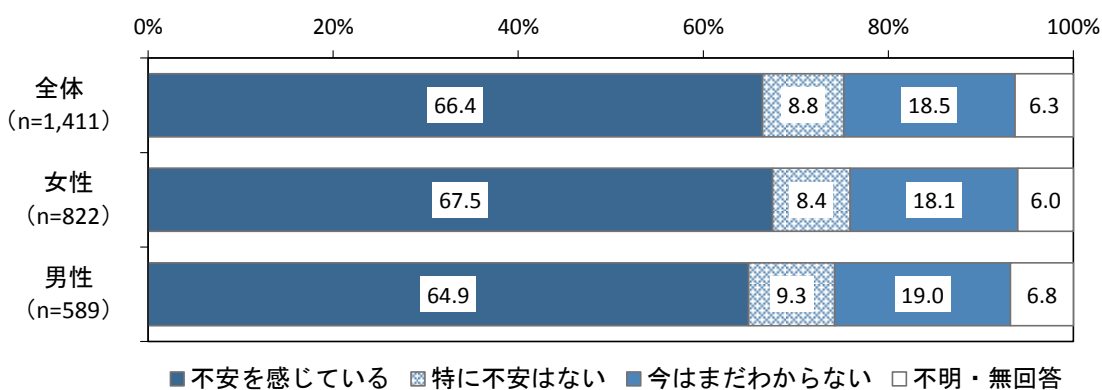
性別でみると、「不安を感じている」では、女性が 76.2%で、男性（67.9%）よりも 8.3 ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「不安を感じている」では、女性・男性いずれも前回調査より割合が増加しています。

図表 3-7-1 高齢期の生活への不安



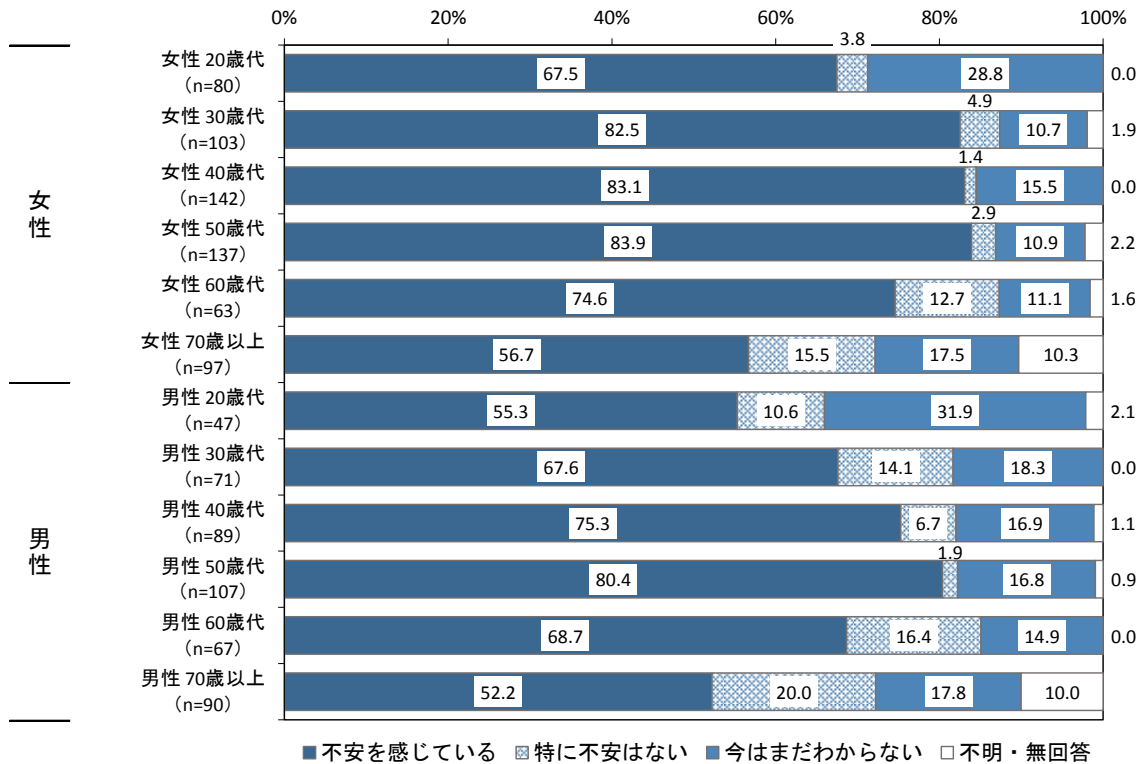
図表 3-7-2 高齢期の生活への不安 前回調査



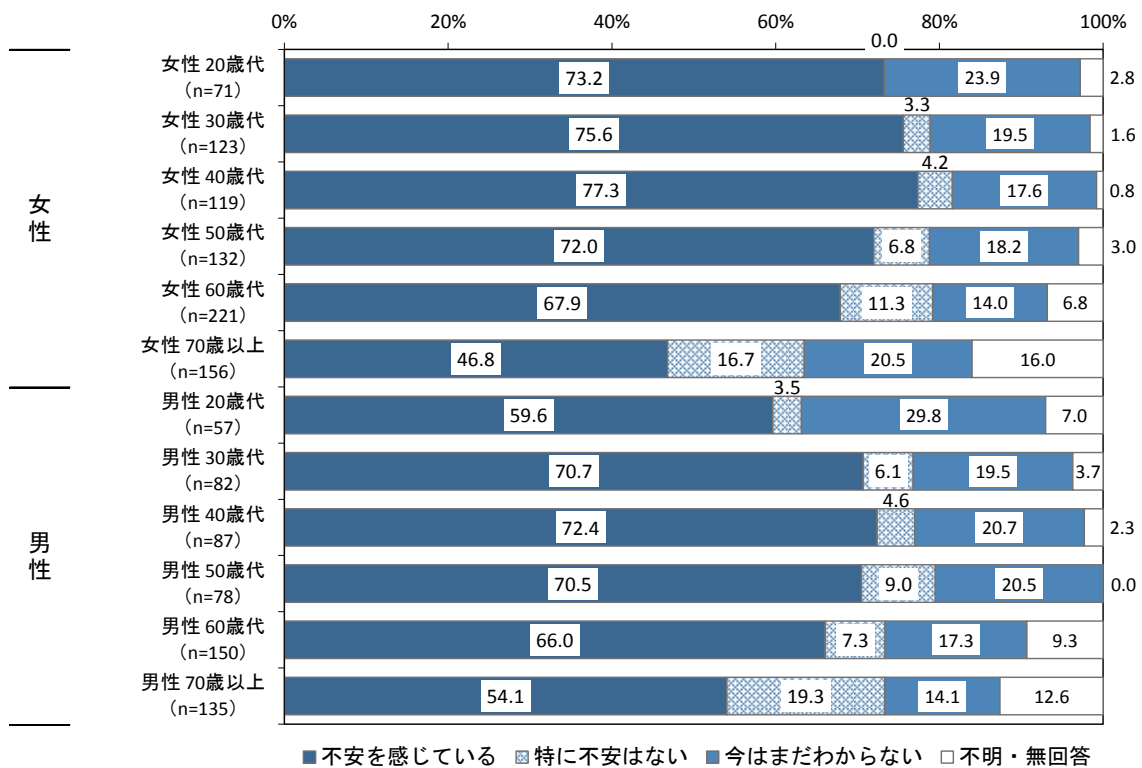
性別・年代別でみると、「不安を感じている」では、女性・男性いずれも 20 歳代から 50 歳代までは年代が上がるにつれて割合が高くなりそれ以降は年代が上がるにつれて割合が低くなっており、全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっています。

前回調査と比較すると、「不安を感じている」では、20 歳代、男性 30 歳代、男性 70 歳以上を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しており、女性 50 歳代は前回調査より 11.9 ポイント増加し、最も増加した年代となっています。

図表 3-7-3 高齢期の生活への不安 性別・年代別



図表 3-7-4 高齢期の生活への不安 性別・年代別 前回調査



(2) 高齢期の生活への不安の具体例

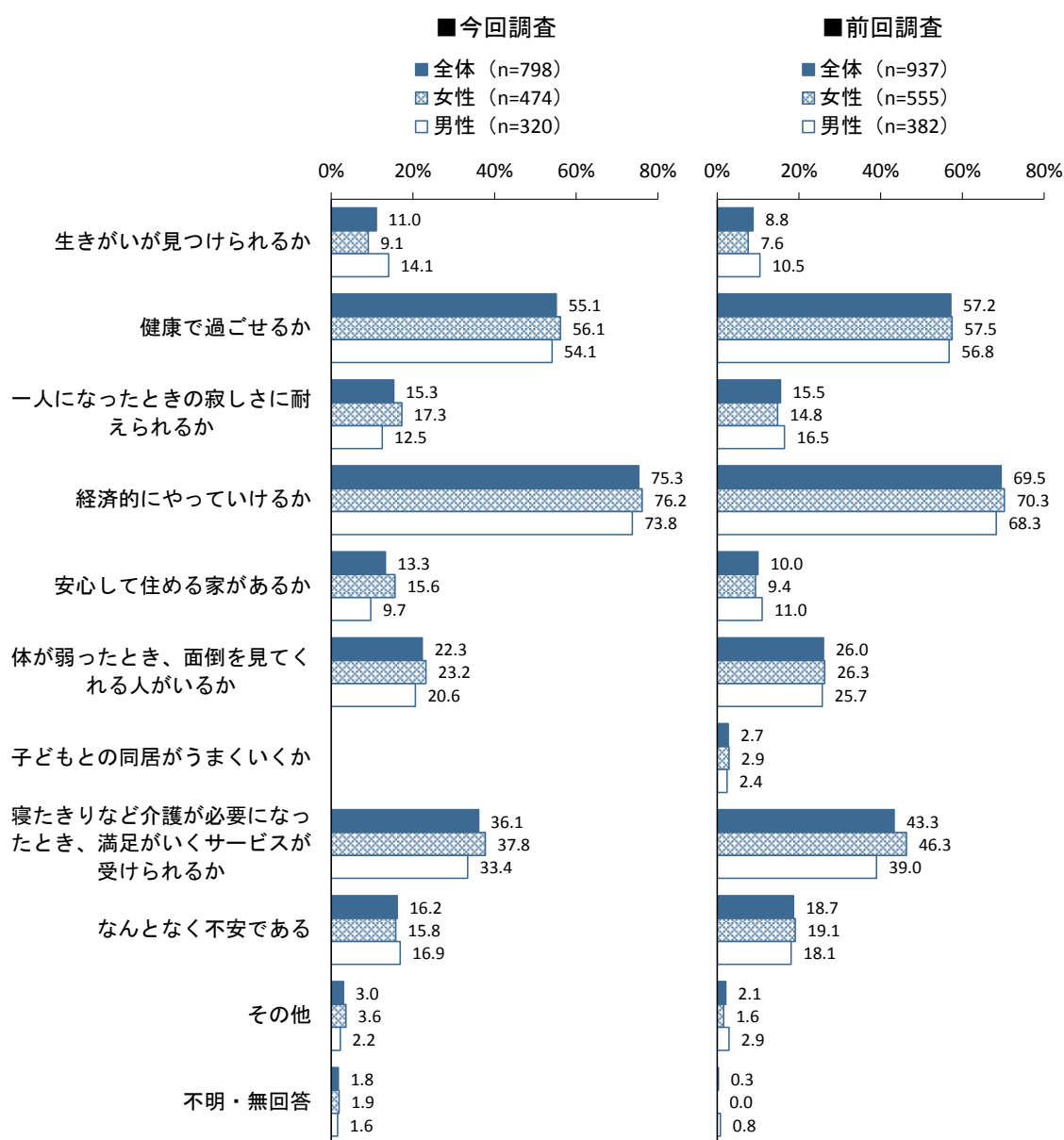
問 27-1	【問 27 で「不安を感じている」と回答された方】 それはどのような不安ですか。(〇は3つ以内)

高齢期の生活への不安の具体例について全体では、「経済的にやっていけるか」が 75.3%で最も高く、次いで「健康で過ごせるか」が 55.1%、「寝たきりなど介護が必要になったとき、満足がいくサービスが受けられるか」が 36.1%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも上位3位は全体と同順となっています。

前回調査と比較すると、女性では「安心して住める家があるか」が前回調査より 6.2 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「経済的にやっていけるか」が前回調査より 5.5 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-7-5 高齢期の生活への不安の具体例



性別・年代別でみると、女性・男性いずれも 20 歳代から 50 歳代では「経済的にやっていけるか」の割合が最も高く、60 歳代以上では「健康で過ごせるか」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「体が弱ったとき、面倒を見てくれる人がいるか」では、女性 60 歳代、男性 50 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が減少しています。

図表 3-7-6 高齢期の生活への不安の具体例 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	生きがいが見つけられるか	健康で過ごせるか	一人になつたときの寂しさ に耐えられるか	経済的にやっていけるか	安心して住める家があるか	体が弱ったとき、面倒を見てくれる人がいるか	なつたとき、介護が必要に なったとき、満足がいく サービスが受けられるか	なんとなく不安である	その他	不明・無回答
全体		798	11.0	55.1	15.3	75.3	13.3	22.3	36.1	16.2	3.0	1.8
性別	女性	474	9.1	56.1	17.3	76.2	15.6	23.2	37.8	15.8	3.6	1.9
	男性	320	14.1	54.1	12.5	73.8	9.7	20.6	33.4	16.9	2.2	1.6
性別・年代別	女性 20歳代	54	9.3	50.0	13.0	66.7	24.1	29.6	22.2	29.6	9.3	0.0
	女性 30歳代	85	10.6	36.5	22.4	82.4	15.3	23.5	36.5	9.4	4.7	4.7
	女性 40歳代	118	6.8	55.9	19.5	86.4	21.2	25.4	27.1	13.6	2.5	1.7
	女性 50歳代	115	11.3	55.7	17.4	83.5	10.4	16.5	40.9	15.7	2.6	1.7
	女性 60歳代	47	12.8	80.9	12.8	59.6	12.8	27.7	46.8	14.9	2.1	2.1
	女性 70歳以上	55	3.6	72.7	12.7	52.7	9.1	21.8	63.6	18.2	1.8	0.0
	男性 20歳代	26	15.4	34.6	7.7	84.6	11.5	11.5	23.1	15.4	7.7	0.0
	男性 30歳代	48	16.7	29.2	10.4	85.4	8.3	18.8	35.4	16.7	6.3	0.0
	男性 40歳代	67	13.4	52.2	14.9	89.6	10.4	20.9	22.4	22.4	1.5	1.5
	男性 50歳代	86	19.8	60.5	11.6	70.9	15.1	26.7	30.2	8.1	0.0	3.5
	男性 60歳代	46	8.7	73.9	10.9	65.2	6.5	19.6	43.5	19.6	2.2	2.2
	男性 70歳以上	47	6.4	61.7	17.0	46.8	2.1	17.0	48.9	23.4	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-7-7 高齢期の生活への不安の具体例 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	生きがいが見つけられるか	健康で過ごせるか	一人になつたときの寂しさ に耐えられるか	経済的にやっていけるか	安心して住める家があるか	体が弱ったとき、面倒を見てくれる人がいるか	子どもとの同居がうまくいくか	なつたとき、介護が必要に なったとき、満足がいく サービスが受けられるか	なんとなく不安である	その他	不明・無回答
全体		937	8.8	57.2	15.5	69.5	10.0	26.0	2.7	43.3	18.7	2.1	0.3
性別	女性	555	7.6	57.5	14.8	70.3	9.4	26.3	2.9	46.3	19.1	1.6	0.0
	男性	382	10.5	56.8	16.5	68.3	11.0	25.7	2.4	39.0	18.1	2.9	0.8
性別・年代別	女性 20歳代	52	9.6	25.0	21.2	90.4	17.3	36.5	0.0	23.1	23.1	3.8	0.0
	女性 30歳代	93	9.7	38.7	21.5	82.8	16.1	29.0	1.1	29.0	19.4	2.2	0.0
	女性 40歳代	92	6.5	60.9	7.6	85.9	10.9	28.3	2.2	41.3	15.2	1.1	0.0
	女性 50歳代	95	15.8	63.2	13.7	75.8	9.5	22.1	0.0	53.7	15.8	0.0	0.0
	女性 60歳代	150	3.3	67.3	14.7	59.3	4.7	24.0	6.0	59.3	17.3	1.3	0.0
	女性 70歳以上	73	2.7	72.6	12.3	35.6	2.7	23.3	5.5	54.8	28.8	2.7	0.0
	男性 20歳代	34	17.6	29.4	11.8	79.4	29.4	29.4	0.0	29.4	14.7	8.8	2.9
	男性 30歳代	58	8.6	44.8	15.5	86.2	17.2	27.6	1.7	27.6	15.5	6.9	0.0
	男性 40歳代	63	20.6	63.5	14.3	77.8	11.1	36.5	0.0	30.2	11.1	0.0	0.0
	男性 50歳代	55	9.1	61.8	9.1	80.0	9.1	16.4	0.0	34.5	20.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	99	6.1	59.6	15.2	60.6	4.0	20.2	8.1	50.5	21.2	3.0	2.0
	男性 70歳以上	73	6.8	65.8	28.8	42.5	8.2	27.4	0.0	47.9	21.9	1.4	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(3) 高齢のために介護・介助が必要な人の有無

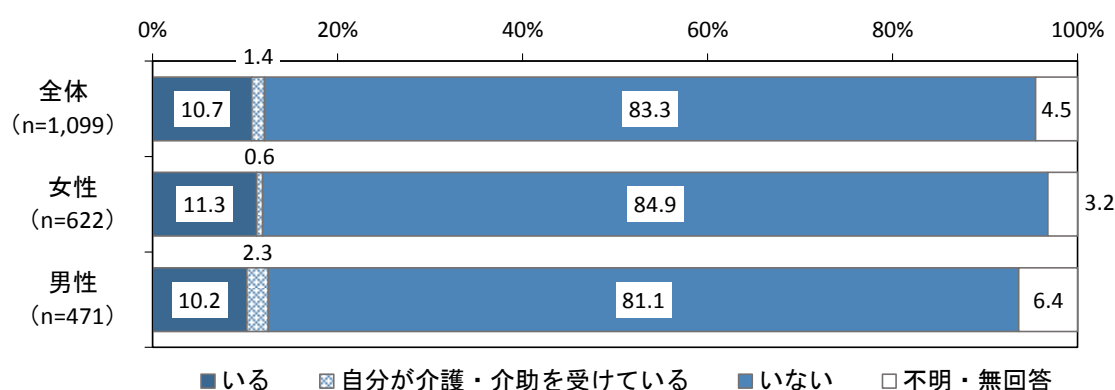
問 28	あなたの家庭には、高齢のために介護・介助が必要な方がいますか。 (○は1つだけ)

高齢のために介護・介助が必要な人の有無について全体では、「いない」が 83.3%で最も高く、次いで「いる」が 10.7%、「自分が介護・介助を受けている」が 1.4%となっています。

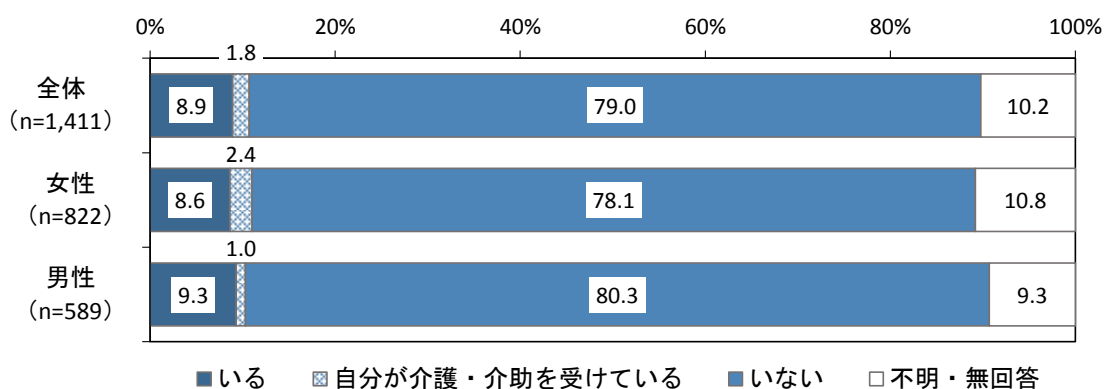
性別でみると、「いない」では、女性が 84.9%で、男性（81.1%）よりも 3.8 ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「いる」では、女性・男性いずれも前回調査より割合が増加しています。

図表 3-7-8 高齢のために介護・介助が必要な人の有無



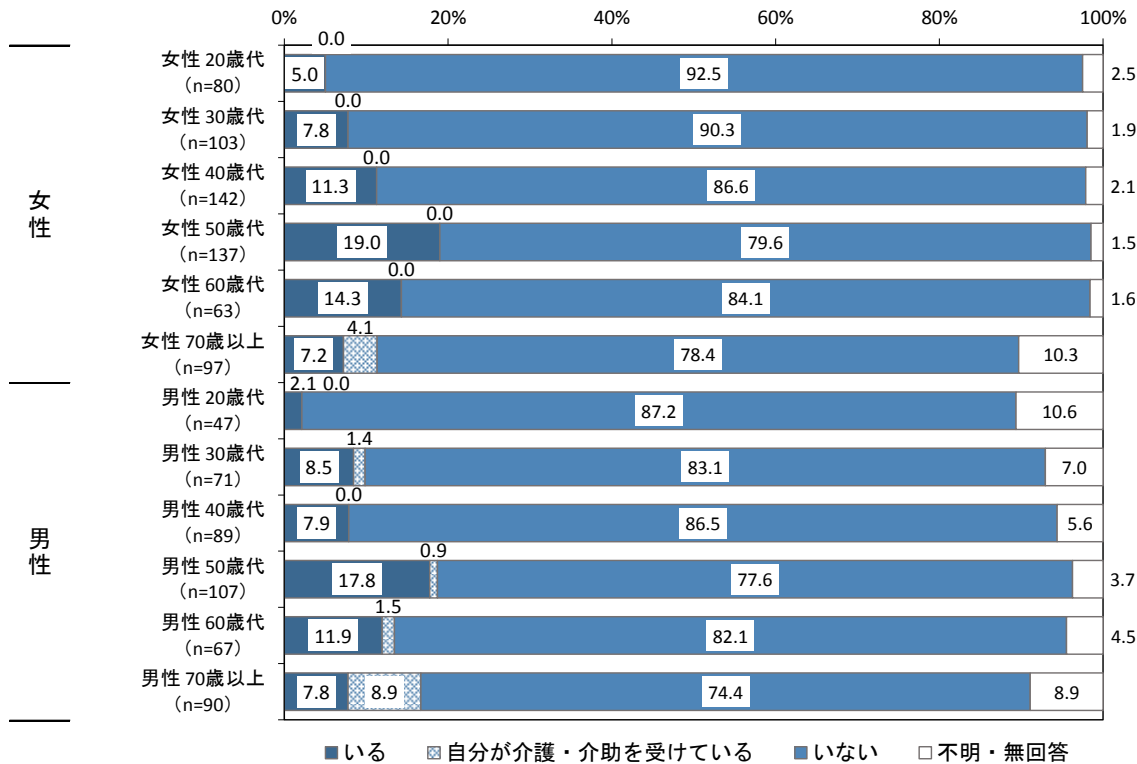
図表 3-7-9 高齢のために介護・介助が必要な人の有無 前回調査



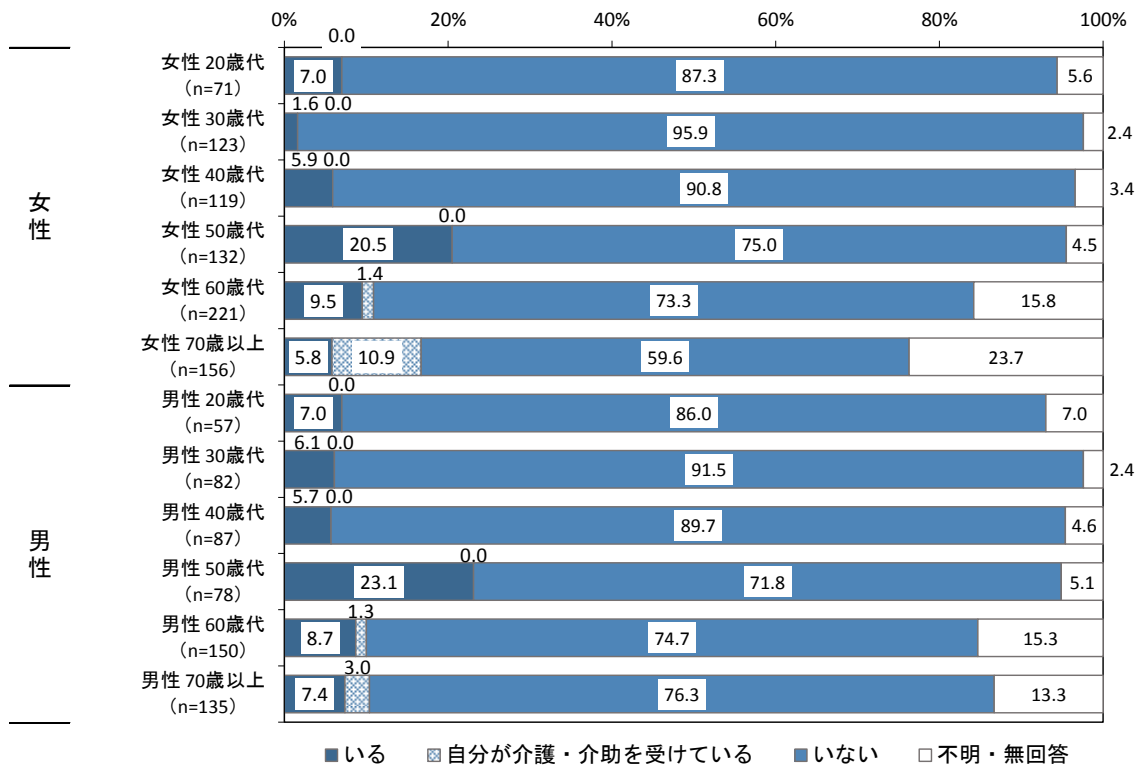
性別・年代別でみると、「いる」では、女性・男性いずれも 50 歳代の割合が最も高く、次いで 60 歳代の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「いる」では、20 歳代、50 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しています。

図表 3-7-10 高齢のために介護・介助が必要な人の有無 性別・年代別



図表 3-7-11 高齢のために介護・介助が必要な人の有無 性別・年代別 前回調査



(4) 主としてだれが介護・介助をしているか

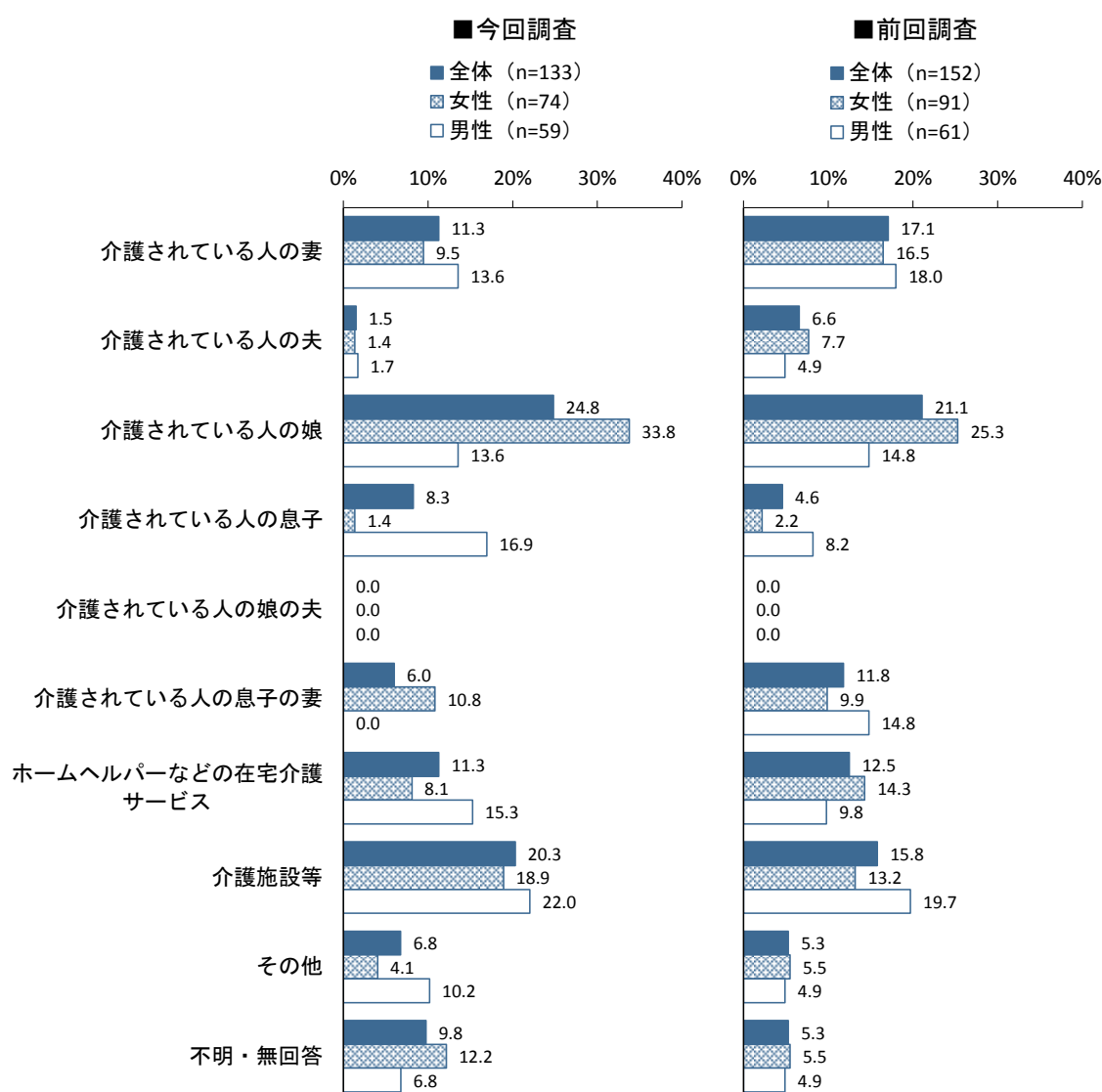
問 28-1	【問 28 で「いる」「自分が介護・介助を受けている」と回答された方】 主としてだれが介護・介助（居宅又は入所）をしていますか。（○は1つだけ）

主としてだれが介護・介助をしているかについて全体では、「介護されている人の娘」が 24.8% で最も高く、次いで「介護施設等」が 20.3%、「介護されている人の妻」が 11.3%と続いています。

性別でみると、女性では「介護されている人の娘」が 33.8%で最も高く、男性では「介護施設等」が 22.0%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、全体では「介護施設等」が 4.5 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、「介護されている人の妻」「介護されている人の息子の妻」がいずれも 5.8 ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 3-7-12 主としてだれが介護・介助をしているか



図表 3-7-13 主としてだれが介護・介助をしているか 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	介護されている人の妻	介護されている人の夫	介護されている人の娘	介護されている人の息子	介護されている人の娘の夫	妻 介護されている人の息子の	介護サ―ビス ホームヘルパーなどの在宅	介護施設等	その他	不明・無回答
全体		133	11.3	1.5	24.8	8.3	0.0	6.0	11.3	20.3	6.8	9.8
性別	女性	74	9.5	1.4	33.8	1.4	0.0	10.8	8.1	18.9	4.1	12.2
	男性	59	13.6	1.7	13.6	16.9	0.0	0.0	15.3	22.0	10.2	6.8
性別・年代別	女性 20歳代	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	女性 30歳代	8	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0
	女性 40歳代	16	12.5	0.0	50.0	0.0	0.0	6.3	18.8	0.0	0.0	12.5
	女性 50歳代	26	3.8	3.8	26.9	3.8	0.0	15.4	0.0	34.6	3.8	7.7
	女性 60歳代	9	22.2	0.0	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0
	女性 70歳以上	11	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	9.1	45.5
	男性 20歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	7	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3
	男性 40歳代	7	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0
	男性 50歳代	20	10.0	0.0	5.0	20.0	0.0	0.0	15.0	25.0	15.0	10.0
	男性 60歳代	9	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1
	男性 70歳以上	15	26.7	0.0	20.0	13.3	0.0	0.0	13.3	20.0	6.7	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-7-14 主としてだれが介護・介助をしているか 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	介護されている人の妻	介護されている人の夫	介護されている人の娘	介護されている人の息子	介護されている人の娘の夫	妻 介護されている人の息子の	介護サ―ビス ホームヘルパーなどの在宅	介護施設等	その他	不明・無回答
全体		152	17.1	6.6	21.1	4.6	0.0	11.8	12.5	15.8	5.3	5.3
性別	女性	91	16.5	7.7	25.3	2.2	0.0	9.9	14.3	13.2	5.5	5.5
	男性	61	18.0	4.9	14.8	8.2	0.0	14.8	9.8	19.7	4.9	4.9
性別・年代別	女性 20歳代	5	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	女性 40歳代	7	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0
	女性 50歳代	27	11.1	3.7	48.1	3.7	0.0	7.4	3.7	11.1	7.4	3.7
	女性 60歳代	24	20.8	4.2	20.8	4.2	0.0	12.5	4.2	29.2	0.0	4.2
	女性 70歳以上	26	19.2	11.5	11.5	0.0	0.0	0.0	38.5	0.0	7.7	11.5
	男性 20歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	男性 30歳代	5	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0
	男性 40歳代	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	男性 50歳代	18	5.6	5.6	16.7	11.1	0.0	16.7	22.2	16.7	5.6	0.0
	男性 60歳代	15	13.3	0.0	26.7	20.0	0.0	6.7	13.3	20.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	14	35.7	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	28.6	7.1	7.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

(5) 介護・介助に関して困っていること

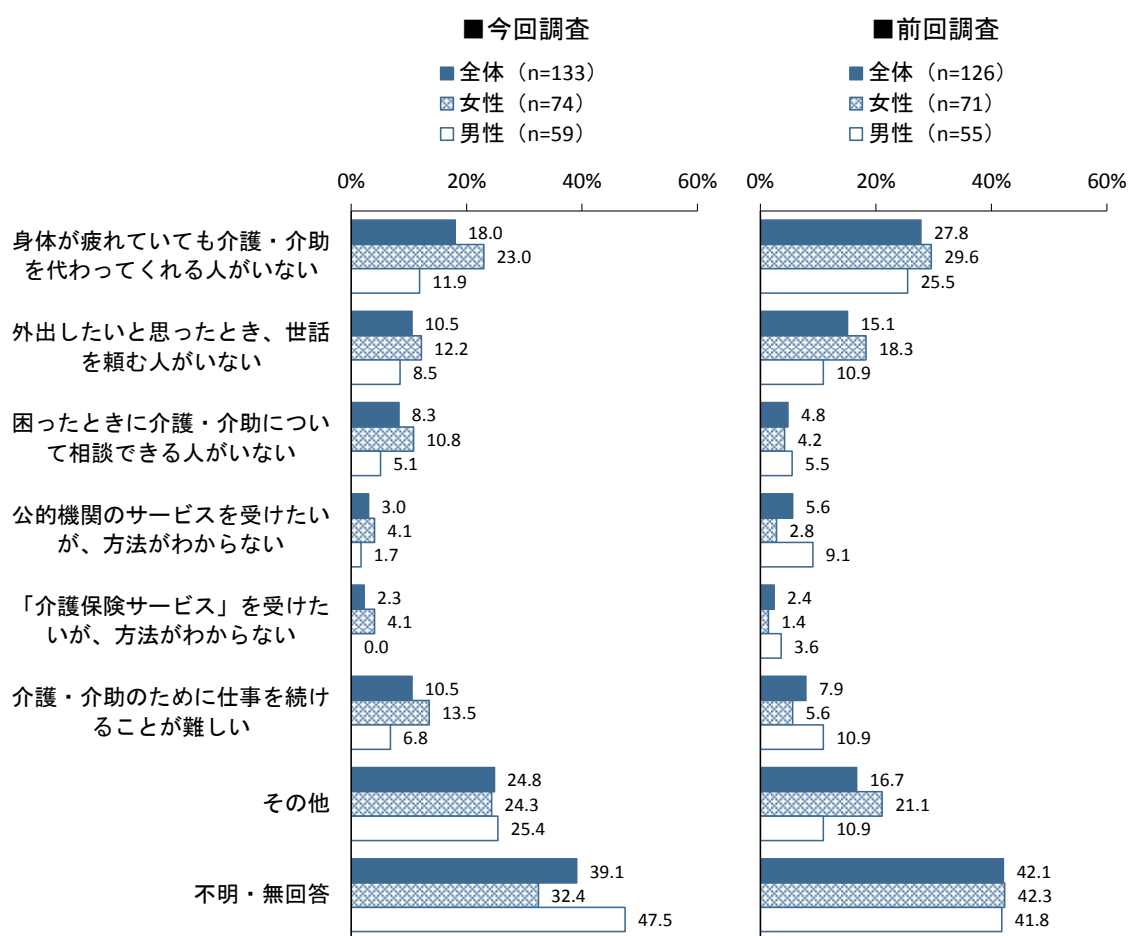
問 28-2	【問 28 で「いる」「自分が介護・介助を受けている」と回答された方】 あなたは、介護・介助に関して困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

介護・介助に関して困っていることについて全体では、「その他」が 24.8%で最も高く、次いで「身体が疲れていても介護・介助を代わりにしてくれる人がいない」が 18.0%、「外出したいと思ったとき、世話を頼む人がいない」が 10.5%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「その他」の割合が最も高く、次いで「身体が疲れていても介護・介助を代わりにしてくれる人がいない」の割合が高くなっており、女性では続いて「介護・介助のために仕事を続けることが難しい」の割合が高く、男性では続いて「外出したいと思ったとき、世話を頼む人がいない」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「介護・介助のために仕事を続けることが難しい」が前回調査より 7.9 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「身体が疲れていても介護・介助を代わりにしてくれる人がいない」が 13.6 ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 3-7-15 介護・介助に関して困っていること



図表 3-7-16 介護・介助に関して困っていること 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	身体が 介助を いない 代わつて くれる 人 が	外出した 世話を 頼む 人 が いない とき	困った つた ときに 介助・ 介助に ない 人 が	公的機 関のサ ービス を受け たい が、方 法がわ からな い	「介 護保 険サ ービ ス」を 受け たい が、方 法がわ から ない	介護・ 介助の ために 仕事を 続ける ことが 難しい	その他	不明・ 無回答
全体		133	18.0	10.5	8.3	3.0	2.3	10.5	24.8	39.1
性別	女性	74	23.0	12.2	10.8	4.1	4.1	13.5	24.3	32.4
	男性	59	11.9	8.5	5.1	1.7	0.0	6.8	25.4	47.5
性別・ 年代別	女性 20歳代	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0
	女性 30歳代	8	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	37.5
	女性 40歳代	16	31.3	18.8	12.5	0.0	0.0	12.5	18.8	37.5
	女性 50歳代	26	15.4	3.8	3.8	3.8	7.7	19.2	30.8	26.9
	女性 60歳代	9	44.4	22.2	22.2	11.1	0.0	11.1	11.1	22.2
	女性 70歳以上	11	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	27.3	45.5
	男性 20歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	男性 30歳代	7	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1
	男性 40歳代	7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	42.9
	男性 50歳代	20	15.0	10.0	10.0	5.0	0.0	10.0	10.0	50.0
	男性 60歳代	9	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	22.2
	男性 70歳以上	15	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	26.7	53.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-7-17 介護・介助に関して困っていること 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	身体が 介助を いない 代わっ てくれ る介護 が・	外出し たいた と思っ たとき 、世話 を頼む 人がい ない	困った ときに 介護人 が介助 にいた りない	公的機 関のサ ービス を受け たいが 、方法 がわか らない	「介護 保険サ ービス 」を受 けたい が、方 法がわ からな い	介護・ 介助の ために 仕事を 続ける ことが 難しい	その他	不明・ 無回答
全体		126	27.8	15.1	4.8	5.6	2.4	7.9	16.7	42.1
性別	女性	71	29.6	18.3	4.2	2.8	1.4	5.6	21.1	42.3
	男性	55	25.5	10.9	5.5	9.1	3.6	10.9	10.9	41.8
性別・年代別	女性 20歳代	5	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	女性 30歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	女性 40歳代	7	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0	28.6	28.6	28.6
	女性 50歳代	27	25.9	11.1	7.4	3.7	0.0	3.7	25.9	40.7
	女性 60歳代	21	33.3	9.5	0.0	4.8	0.0	4.8	9.5	52.4
	女性 70歳以上	9	44.4	33.3	11.1	0.0	11.1	0.0	33.3	22.2
	男性 20歳代	4	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0
	男性 30歳代	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0
	男性 40歳代	5	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	男性 50歳代	18	16.7	11.1	0.0	11.1	5.6	16.7	5.6	50.0
	男性 60歳代	13	23.1	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7	46.2
	男性 70歳以上	10	30.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	30.0	20.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(6) 主にだれに介護をしてもらいたいのか

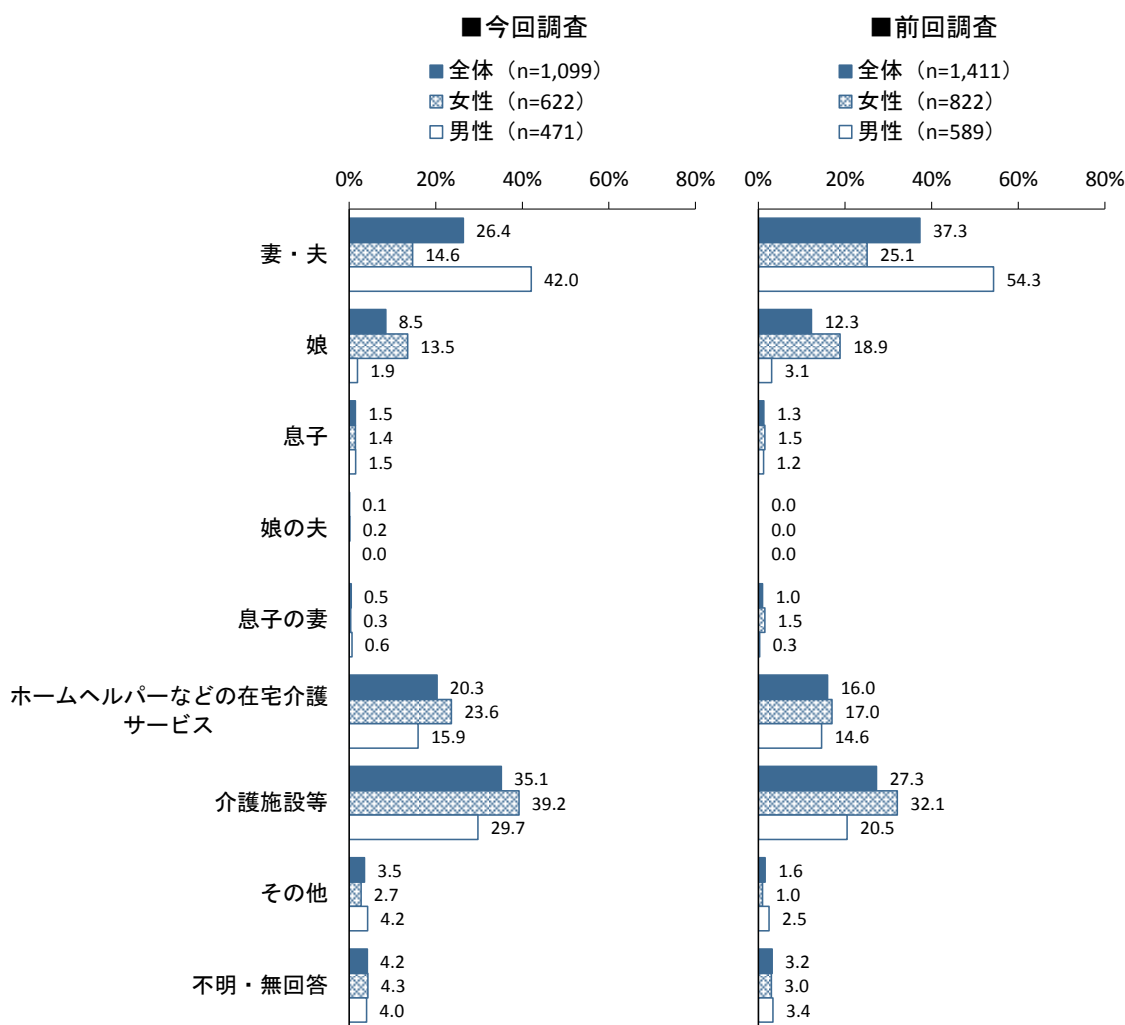
問 29	もし、あなたが寝たきりで介護が必要になったとしたら、主にだれに介護をしてもらいたいですか。(○は1つだけ)

主にだれに介護をしてもらいたいのかについて全体では、「介護施設等」が 35.1%で最も高く、次いで「妻・夫」が 26.4%、「ホームヘルパーなどの在宅介護サービス」が 20.3%と続いています。

性別でみると、女性では「介護施設等」が 39.2%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの在宅介護サービス」が 23.6%、「妻・夫」が 14.6%と続いております、男性では「妻・夫」が 42.0%で最も高く、次いで「介護施設等」が 29.7%、「ホームヘルパーなどの在宅介護サービス」が 15.9%と続いています。

前回調査と比較すると、女性・男性いずれも「介護施設等」が前回調査より割合が最も増加した項目となっており、「妻・夫」が前回調査より最も減少した項目となっています。

図表 3-7-18 主にだれに介護をしてもらいたいのか



性別・年代別でみると、女性では全ての年代で「介護施設等」の割合が最も高く、男性では20歳代が「妻・夫」「介護施設等」が同率で最も高く、30歳以上が「妻・夫」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「介護施設等」では、女性20歳代、女性40歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しており、「妻・夫」では、70歳以上を除く全ての年代で前回調査より割合が減少しています。

図表 3-7-19 主にだれに介護をしてもらいたいのか 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	妻・夫	娘	息子	娘の夫	息子の妻	ホームヘルパーなどの在宅介護サービス	介護施設等	その他	不明・無回答
全体		1,099	26.4	8.5	1.5	0.1	0.5	20.3	35.1	3.5	4.2
性別	女性	622	14.6	13.5	1.4	0.2	0.3	23.6	39.2	2.7	4.3
	男性	471	42.0	1.9	1.5	0.0	0.6	15.9	29.7	4.2	4.0
性別・年代別	女性 20歳代	80	15.0	12.5	0.0	0.0	0.0	21.3	33.8	11.3	6.3
	女性 30歳代	103	15.5	2.9	1.0	0.0	0.0	30.1	42.7	2.9	4.9
	女性 40歳代	142	14.8	12.7	3.5	0.0	0.0	28.9	33.8	1.4	4.9
	女性 50歳代	137	10.9	13.9	0.7	0.0	0.0	19.7	49.6	1.5	3.6
	女性 60歳代	63	14.3	20.6	0.0	0.0	0.0	22.2	41.3	0.0	1.6
	女性 70歳以上	97	18.6	21.6	2.1	1.0	2.1	17.5	32.0	1.0	4.1
	男性 20歳代	47	31.9	0.0	2.1	0.0	0.0	21.3	31.9	8.5	4.3
	男性 30歳代	71	40.8	1.4	1.4	0.0	0.0	14.1	31.0	8.5	2.8
	男性 40歳代	89	41.6	2.2	1.1	0.0	0.0	12.4	36.0	4.5	2.2
	男性 50歳代	107	43.0	1.9	0.9	0.0	0.0	19.6	26.2	1.9	6.5
	男性 60歳代	67	40.3	0.0	0.0	0.0	1.5	17.9	37.3	1.5	1.5
	男性 70歳以上	90	48.9	4.4	3.3	0.0	2.2	12.2	20.0	3.3	5.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-7-20 主にだれに介護をしてもらいたいのか 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	妻・夫	娘	息子	娘の夫	息子の妻	ホームヘルパーなどの在宅介護サービス	介護施設等	その他	不明・無回答
全体		1,411	37.3	12.3	1.3	0.0	1.0	16.0	27.3	1.6	3.2
性別	女性	822	25.1	18.9	1.5	0.0	1.5	17.0	32.1	1.0	3.0
	男性	589	54.3	3.1	1.2	0.0	0.3	14.6	20.5	2.5	3.4
性別・年代別	女性 20歳代	71	28.2	21.1	0.0	0.0	0.0	11.3	33.8	1.4	4.2
	女性 30歳代	123	34.1	9.8	0.8	0.0	0.0	17.1	35.0	1.6	1.6
	女性 40歳代	119	23.5	16.8	0.0	0.0	0.0	18.5	40.3	0.0	0.8
	女性 50歳代	132	21.2	15.2	0.8	0.0	1.5	15.2	41.7	1.5	3.0
	女性 60歳代	221	27.6	21.3	2.3	0.0	0.5	17.2	28.5	0.9	1.8
	女性 70歳以上	156	17.3	26.3	3.2	0.0	5.8	19.9	19.9	0.6	7.1
	男性 20歳代	57	38.6	5.3	0.0	0.0	0.0	17.5	24.6	8.8	5.3
	男性 30歳代	82	54.9	2.4	0.0	0.0	0.0	13.4	22.0	4.9	2.4
	男性 40歳代	87	52.9	1.1	1.1	0.0	0.0	17.2	23.0	3.4	1.1
	男性 50歳代	78	62.8	0.0	1.3	0.0	0.0	11.5	23.1	1.3	0.0
	男性 60歳代	150	61.3	2.0	2.0	0.0	0.0	14.7	16.7	0.7	2.7
	男性 70歳以上	135	48.9	6.7	1.5	0.0	1.5	14.1	19.3	0.7	7.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

8. 男女共同参画施策の推進について

(1) 男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能

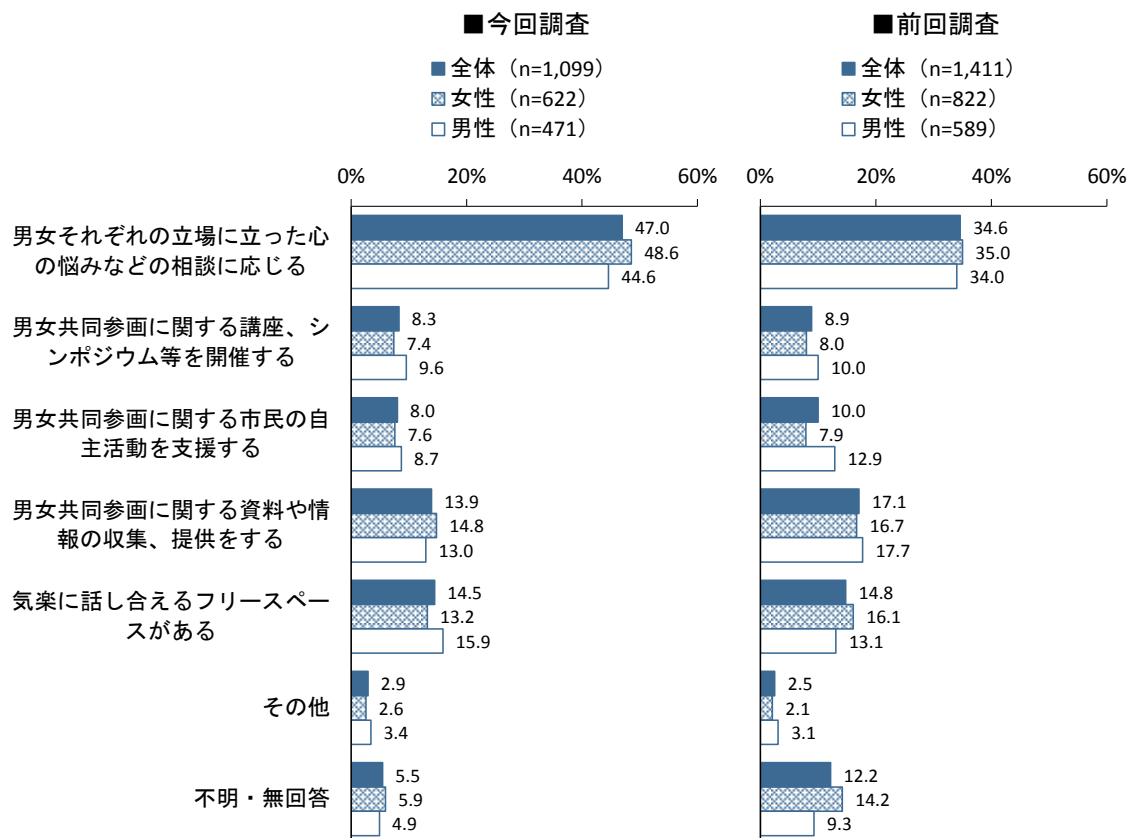
問 30	男女共同参画推進センターの次のような機能の中で特にどれが重要だと思いますか。(〇は1つだけ)

男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能について全体では、「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」が47.0%で最も高く、次いで「気楽に話し合えるフリースペースがある」が14.5%、「男女共同参画に関する資料や情報の収集、提供をする」が13.9%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」の割合が最も高く、女性では次いで「男女共同参画に関する資料や情報の収集、提供をする」の割合が高く、男性では次いで「気楽に話し合えるフリースペースがある」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性・男性いずれも「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」の割合が前回調査よりも増加しており、最も増加した項目となっています。

図表 3-8-1 男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能



性別・年代別でみると、全ての年代で「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、全ての年代で「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」の割合が前回調査よりも増加しています。

図表 3-8-2 男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	男女それぞれの立場に じた心の悩みなどの 相談に応じる	男女共同参画に関 する座、シンポジウ ム等を開催	男女共同参画に関 する自主活動を支 援する市民	男女共同参画に関 する情報収集、提 供する資料	気軽に話せるフ リースペースがあ る	その他	不明・無回答
全体		1,099	47.0	8.3	8.0	13.9	14.5	2.9	5.5
性別	女性	622	48.6	7.4	7.6	14.8	13.2	2.6	5.9
	男性	471	44.6	9.6	8.7	13.0	15.9	3.4	4.9
性別・年代別	女性 20歳代	80	53.8	5.0	10.0	15.0	10.0	3.8	2.5
	女性 30歳代	103	58.3	6.8	5.8	14.6	4.9	3.9	5.8
	女性 40歳代	142	51.4	6.3	10.6	15.5	12.0	2.1	2.1
	女性 50歳代	137	51.8	8.8	4.4	16.1	10.2	4.4	4.4
	女性 60歳代	63	38.1	9.5	12.7	12.7	19.0	0.0	7.9
	女性 70歳以上	97	32.0	8.2	4.1	13.4	26.8	0.0	15.5
	男性 20歳代	47	55.3	6.4	4.3	14.9	12.8	4.3	2.1
	男性 30歳代	71	45.1	7.0	7.0	18.3	15.5	2.8	4.2
	男性 40歳代	89	49.4	6.7	14.6	7.9	14.6	4.5	2.2
	男性 50歳代	107	52.3	10.3	7.5	11.2	13.1	3.7	1.9
	男性 60歳代	67	35.8	19.4	9.0	13.4	19.4	1.5	1.5
	男性 70歳以上	90	31.1	7.8	7.8	14.4	20.0	3.3	15.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-8-3 男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	男女それぞれの立場に立つ た心の悩みなどの相談に 応じる	男女共同参画に関する講 座、シンポジウム等を開 催する	男女共同参画に関する市 民の自主活動を支援する	男女共同参画に関する資 料の収集、提供をする	気楽に話し合えるフリース ベースがある	その他	不明・無回答
全体		1,411	34.6	8.9	10.0	17.1	14.8	2.5	12.2
性別	女性	822	35.0	8.0	7.9	16.7	16.1	2.1	14.2
	男性	589	34.0	10.0	12.9	17.7	13.1	3.1	9.3
性別・年代別	女性 20歳代	71	46.5	5.6	9.9	31.0	2.8	0.0	4.2
	女性 30歳代	123	46.3	8.9	6.5	17.1	13.0	4.1	4.1
	女性 40歳代	119	37.0	10.9	9.2	20.2	13.4	4.2	5.0
	女性 50歳代	132	34.8	6.1	9.8	18.9	15.9	1.5	12.9
	女性 60歳代	221	30.3	9.5	6.8	13.6	19.9	0.9	19.0
	女性 70歳以上	156	26.3	5.8	7.1	9.6	21.2	1.9	28.2
	男性 20歳代	57	42.1	5.3	5.3	26.3	14.0	1.8	5.3
	男性 30歳代	82	37.8	12.2	15.9	13.4	11.0	6.1	3.7
	男性 40歳代	87	42.5	10.3	13.8	8.0	11.5	4.6	9.2
	男性 50歳代	78	28.2	9.0	20.5	23.1	6.4	2.6	10.3
	男性 60歳代	150	32.0	10.0	11.3	19.3	17.3	4.0	6.0
	男性 70歳以上	135	28.1	11.1	11.1	17.8	14.1	0.0	17.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

(2) 男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うこと

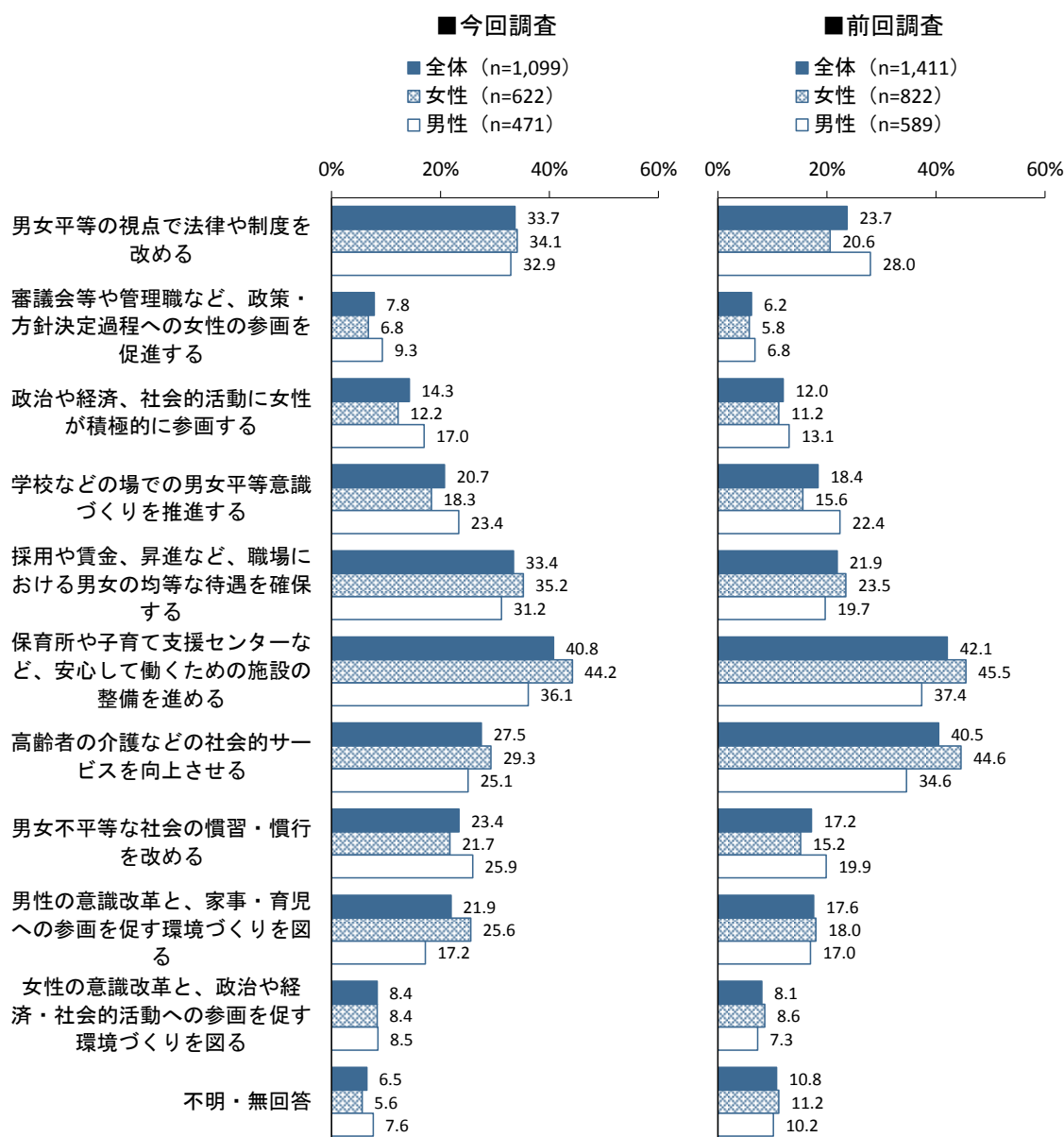
問31	男女共同参画を進めるに当たって、何が必要だと思いますか。(〇は3つ以内)

男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うことについて全体では、「保育所や子育て支援センターなど、安心して働くための施設の整備を進める」が40.8%で最も高く、次いで「男女平等の視点で法律や制度を改める」が33.7%、「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」が33.4%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「保育所や子育て支援センターなど、安心して働くための施設の整備を進める」の割合が最も高く、女性では次いで「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」の割合が高く、男性では次いで「男女平等の視点で法律や制度を改める」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「男女平等の視点で法律や制度を改める」が13.5ポイント増加し、前回調査よりも最も増加した項目となっており、男性では「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」が11.5ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-8-4 男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うこと



性別・年代別でみると、女性 20 歳代、男性 40 歳代では「男女平等の視点で法律や制度を改める」の割合が最も高く、男性 20 歳代では「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」の割合が最も高く、70 歳代では「高齢者の介護などの社会的サービスを向上させる」の割合が最も高く、それ以外の年代では「保育所や子育て支援センターなど、安心して働くための施設の整備を進める」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」では、全ての年代で前回調査より割合が増加しており、「高齢者の介護などの社会的サービスを向上させる」では、男性 50 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が減少しています。

図表 3-8-5 男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うこと 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	男女平等の視 点を改める	審議会等や管理職など、政 策・方針決定過程への女性 の参画を促進する	政治や経済、社会的活動に 女性が積極的に参画する	学校などの場での男女平等 意識づくりを推進する	採用や賃金、昇進など、職 場における男女の均等な待 遇を確保する	保育所や子育て支援セン ターなど、安心して働くた めの施設の整備を進める	高齢者の介護などの社会的 サービスの向上させる	慣行を改める 男女平等な社会の慣習・	育児への参画を促す 環境づくり	経済・社会的活動への参画 を促す環境づくりを促す	女性の意識改革と、政治 や経済・社会的活動への参 画を促す	不明・無回答
全体	1,099	33.7	7.8	14.3	20.7	33.4	40.8	27.5	23.4	21.9	8.4	6.5	
性別													
女性	622	34.1	6.8	12.2	18.3	35.2	44.2	29.3	21.7	25.6	8.4	5.6	
男性	471	32.9	9.3	17.0	23.4	31.2	36.1	25.1	25.9	17.2	8.5	7.6	
性別・年代別													
女性 20歳代	80	48.8	7.5	16.3	18.8	43.8	46.3	15.0	31.3	31.3	8.8	1.3	
女性 30歳代	103	41.7	5.8	11.7	23.3	37.9	53.4	15.5	22.3	22.3	9.7	3.9	
女性 40歳代	142	35.2	5.6	9.9	18.3	38.7	41.5	26.8	25.4	26.8	6.3	3.5	
女性 50歳代	137	30.7	7.3	16.1	16.8	39.4	45.3	26.3	23.4	29.9	5.8	4.4	
女性 60歳代	63	28.6	6.3	11.1	15.9	28.6	52.4	46.0	11.1	23.8	11.1	9.5	
女性 70歳以上	97	20.6	8.2	8.2	16.5	18.6	29.9	52.6	12.4	17.5	11.3	13.4	
男性 20歳代	47	38.3	4.3	19.1	23.4	40.4	34.0	23.4	25.5	19.1	8.5	6.4	
男性 30歳代	71	29.6	9.9	16.9	29.6	39.4	45.1	14.1	19.7	19.7	9.9	7.0	
男性 40歳代	89	42.7	10.1	13.5	18.0	33.7	37.1	12.4	33.7	16.9	9.0	4.5	
男性 50歳代	107	31.8	9.3	19.6	18.7	26.2	36.4	31.8	30.8	15.9	5.6	7.5	
男性 60歳代	67	31.3	10.4	17.9	23.9	32.8	37.3	25.4	25.4	23.9	14.9	3.0	
男性 70歳以上	90	25.6	10.0	15.6	28.9	22.2	27.8	38.9	17.8	11.1	5.6	15.6	

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 3-8-6 男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うこと 性別・年代別 前回調査

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	男女平等の視 点を改める	審議会等や管理職など、政 策・方針決定過程への女性 の参画を促進する	政治や経済、社会的活動に 女性が積極的に参画する	学校などの場での男女平等 意識づくりを推進する	採用や賃金、昇進など、職 場における男女の均等な待 遇を確保する	保育所や子育て支援セン ターなど、安心して働くた めの施設の整備を進める	高齢者の介護などの社会的 サービスの向上させる	慣行を改める 男女平等な社会の慣習・	育児への参画を促す 環境づくり	経済・社会的活動への参画 を促す環境づくりを促す	女性の意識改革と、政治 や経済・社会的活動への参 画を促す	不明・無回答
全体	1,411	23.7	6.2	12.0	18.4	21.9	42.1	40.5	17.2	17.6	8.1	10.8	
性別													
女性	822	20.6	5.8	11.2	15.6	23.5	45.5	44.6	15.2	18.0	8.6	11.2	
男性	589	28.0	6.8	13.1	22.4	19.7	37.4	34.6	19.9	17.0	7.3	10.2	
性別・年代別													
女性 20歳代	71	18.6	5.6	12.7	22.5	42.3	60.6	26.8	15.5	22.5	8.5	4.2	
女性 30歳代	123	30.1	4.1	3.3	19.5	30.9	64.2	26.0	12.2	32.5	7.3	4.1	
女性 40歳代	119	17.6	9.2	9.2	16.8	26.9	47.1	43.7	21.8	17.6	12.6	5.9	
女性 50歳代	132	27.3	4.5	12.9	18.9	29.5	49.2	40.2	19.7	16.7	6.8	7.6	
女性 60歳代	221	17.2	4.5	12.7	12.2	14.9	40.3	56.1	14.0	11.3	7.2	16.7	
女性 70歳以上	156	15.4	7.7	14.7	10.3	13.5	26.9	55.8	10.3	15.4	10.3	19.2	
男性 20歳代	57	22.8	10.5	12.3	21.1	28.1	40.4	24.6	14.0	15.8	3.5	10.5	
男性 30歳代	82	29.3	8.5	14.6	24.4	25.6	48.8	17.1	18.3	23.2	8.5	7.3	
男性 40歳代	87	26.4	6.9	5.7	25.3	25.3	40.2	21.8	14.9	18.4	9.2	11.5	
男性 50歳代	78	33.3	6.4	14.1	24.4	20.5	30.8	19.2	34.6	19.2	11.5	7.7	
男性 60歳代	150	29.3	4.7	17.3	22.0	18.0	45.3	47.3	23.3	12.7	6.0	7.3	
男性 70歳以上	135	25.9	6.7	11.9	19.3	10.4	22.2	52.6	14.1	16.3	5.9	15.6	

※網掛け■は最も割合が高いもの

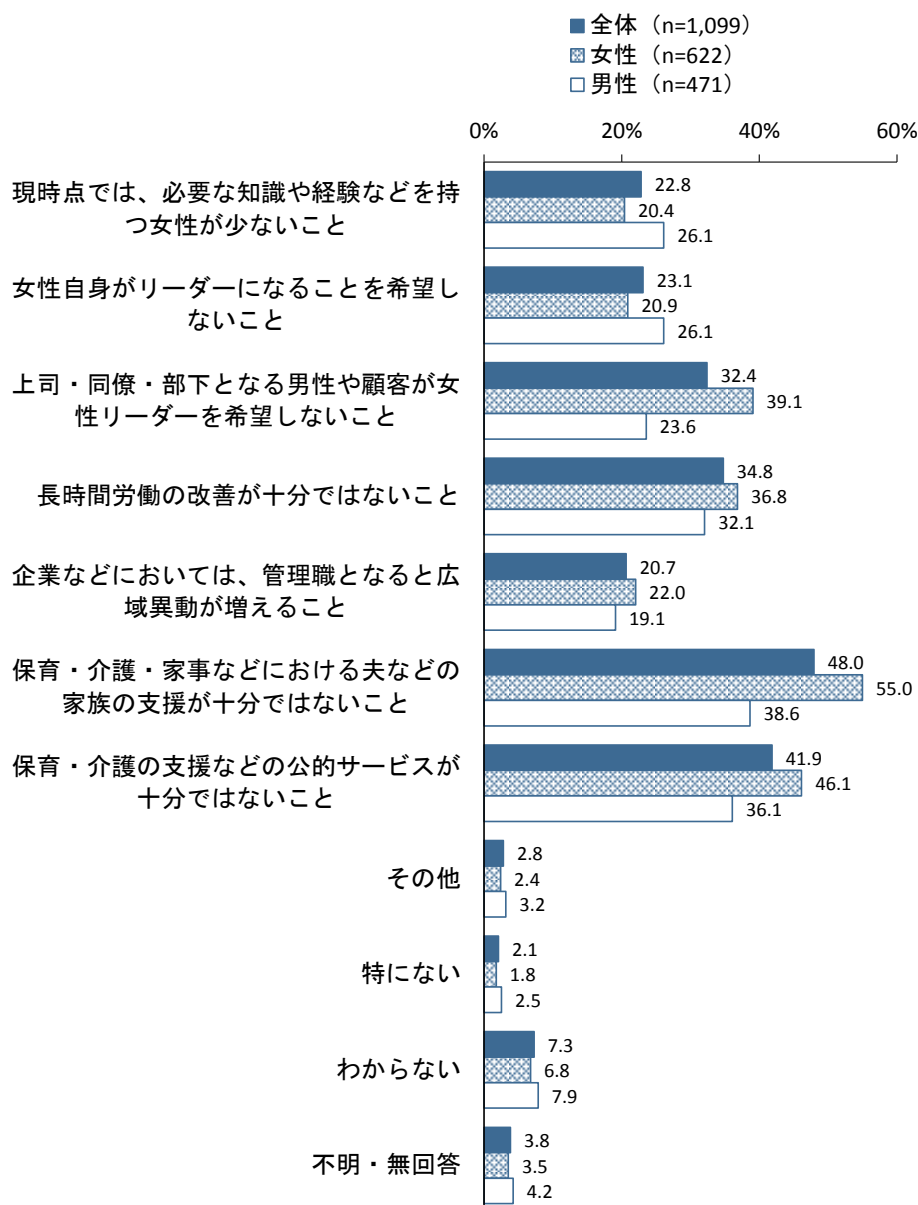
(3) 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

問 32	あなたは、経済・地域・政治などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて全体では、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が 48.0%で最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が 41.9%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が 34.8%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の割合が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」の割合が高くなっており、女性では続いて「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」の割合が高く、男性では続いて「長時間労働の改善が十分ではないこと」の割合が高くなっています。

図表 3-8-7 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの



性別・年代別でみると、男性 20 歳代、男性 50 歳代、60 歳代では「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」の割合が最も高く、女性 70 歳以上では「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」の割合が最も高く、男性 30 歳代では「長時間労働の改善が十分ではないこと」の割合が最も高く、その他の年代では「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の割合が最も高くなっています。

図表 3-8-8 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業などにおいて、管理職となると広域異動が増えること	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	その他	特になし	わからない	不明・無回答
全体	1,099	22.8	23.1	32.4	34.8	20.7	48.0	41.9	2.8	2.1	7.3	3.8
性別												
女性	622	20.4	20.9	39.1	36.8	22.0	55.0	46.1	2.4	1.8	6.8	3.5
男性	471	26.1	26.1	23.6	32.1	19.1	38.6	36.1	3.2	2.5	7.9	4.2
性別・年代別												
女性 20歳代	80	12.5	28.8	42.5	42.5	18.8	65.0	52.5	1.3	2.5	6.3	0.0
女性 30歳代	103	10.7	24.3	39.8	41.7	25.2	62.1	53.4	5.8	1.0	3.9	0.0
女性 40歳代	142	19.7	20.4	45.1	36.6	21.1	57.0	40.1	4.2	1.4	4.9	1.4
女性 50歳代	137	19.7	21.9	42.3	33.6	25.5	61.3	50.4	0.7	0.7	6.6	1.5
女性 60歳代	63	28.6	19.0	38.1	46.0	22.2	49.2	57.1	0.0	1.6	7.9	3.2
女性 70歳以上	97	34.0	11.3	22.7	25.8	17.5	30.9	28.9	1.0	4.1	12.4	16.5
男性 20歳代	47	25.5	25.5	23.4	34.0	19.1	29.8	36.2	2.1	0.0	10.6	2.1
男性 30歳代	71	23.9	29.6	31.0	45.1	14.1	40.8	31.0	5.6	0.0	5.6	1.4
男性 40歳代	89	23.6	22.5	16.9	40.4	12.4	56.2	38.2	4.5	4.5	5.6	2.2
男性 50歳代	107	28.0	24.3	23.4	23.4	20.6	30.8	41.1	1.9	5.6	7.5	2.8
男性 60歳代	67	29.9	34.3	29.9	32.8	31.3	44.8	44.8	0.0	0.0	4.5	1.5
男性 70歳以上	90	25.6	23.3	20.0	22.2	18.9	28.9	25.6	4.4	2.2	13.3	13.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

9. 自由意見

	男女共同参画についての御意見がございましたら、お書きください。

男女共同参画について、119 人から自由記述による回答があり、「第 4 期ねやがわ男女共同参画プラン」の基本目標及び施策の方向等にそれぞれ分類・集計しました。なお、1 人の回答が複数の内容にわたる場合は、複数回答として、それぞれの内容に分類しています。

図表 3-9-1 男女共同参画についての自由意見

具体的内容	件数 (件)
基本目標Ⅰ 男女が共に参画する社会づくり	3
市の政策・方針決定過程への女性の参画推進	2
地域活動への参加を促進するための環境づくり	1
基本目標Ⅱ 男女共同参画社会実現に向けた文化の創造	20
男女の人権尊重に関する法律の理解の促進	3
男女共同参画の視点に立った情報提供や啓発活動の充実	10
男女共同参画の視点に立った慣行の見直し	2
男女平等保育・教育の推進	3
性別役割にとらわれない家庭教育の促進と保護者との連携	2
基本目標Ⅲ 働く場での男女共同参画の推進	7
性別にとらわれない労働観・職業観の醸成	2
就労継続への支援	1
女性の活用促進に関する企業への働きかけ	3
採用・配置における男女平等の推進	1
基本目標Ⅳ 仕事と生活の調和の実現	11
地域における子育て支援サービスの充実	2
仕事と子育ての両立に向けた支援	3
男性の子育てへの参画促進	1
仕事と生活の両立に向けた支援	4
男性の育児・介護休業取得促進	1
基本目標Ⅴ あらゆる人が生きがいを持って安心して暮らせる環境整備	1
高齢者への自立支援	1
基本目標Ⅶ 女性等に対するあらゆる暴力の根絶	1
相談体制の充実	1
アンケートについて	8
その他	70
合計	121

IV. 事業所実態調査結果

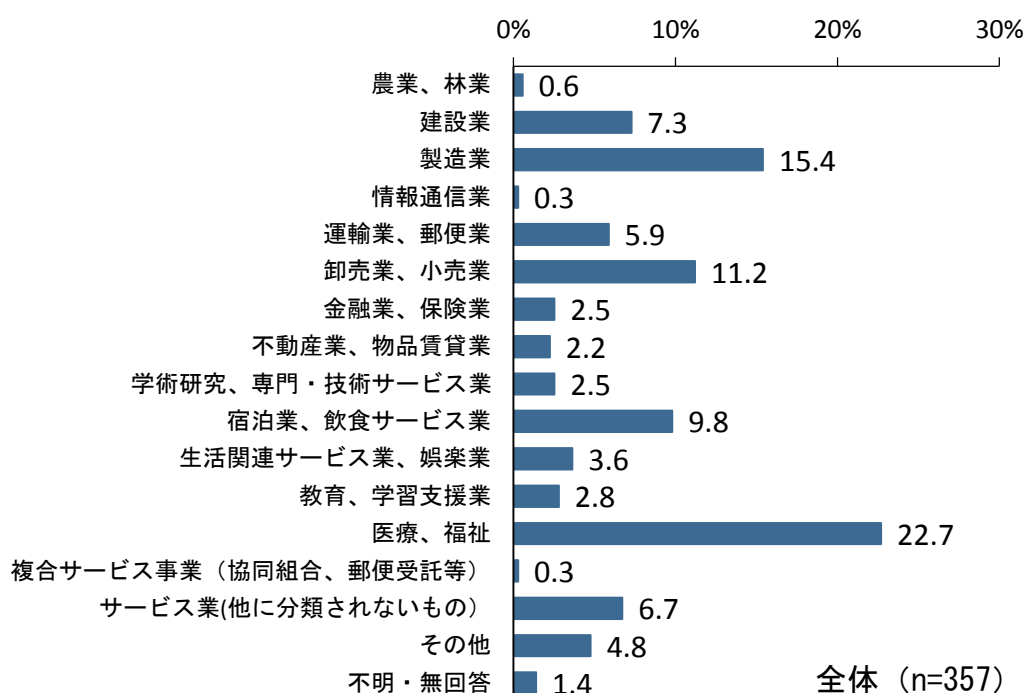
1. 事業所の概要

(1) 業種

問 1	貴事業所の主な業種は次のどれですか。(○は1つ)

業種については、「医療、福祉」が 22.7%で最も高く、次いで「製造業」が 15.4%、「卸売業、小売業」が 11.2%と続いています。

図表 4-1-1 業種

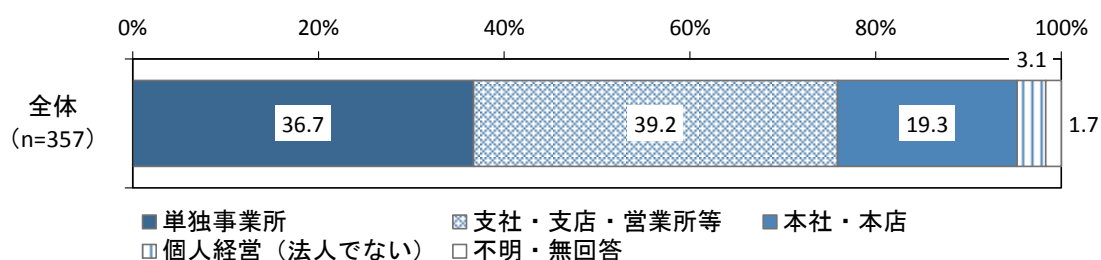


(2) 事業所の形態

問 2	貴事業所は次のどれに該当しますか。(○は1つ)

事業所の形態については、「支社・支店・営業所等」が 39.2%で最も高く、次いで「単独事業所」が 36.7%、「本社・本店」が 19.3%と続いています。

図表 4-1-2 事業所の形態

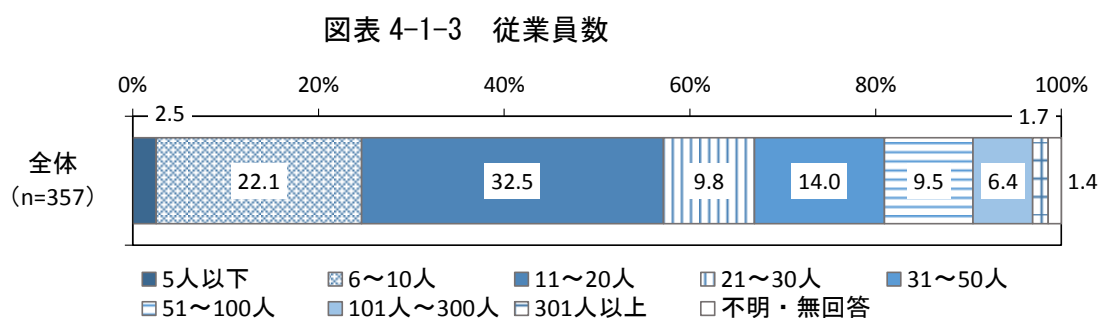


(3) 従業員数・育児・介護休業取得者の状況

問 3	貴事業所の現在（平成 31 年 4 月 1 日現在）雇用する従業員数、管理職数等を御記入ください。また、最近 3 年間（平成 28 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）に育児休業・介護休業を取得した従業員の人数、育児休業・介護休業の平均取得日数についてもそれぞれを男女別で御記入ください。

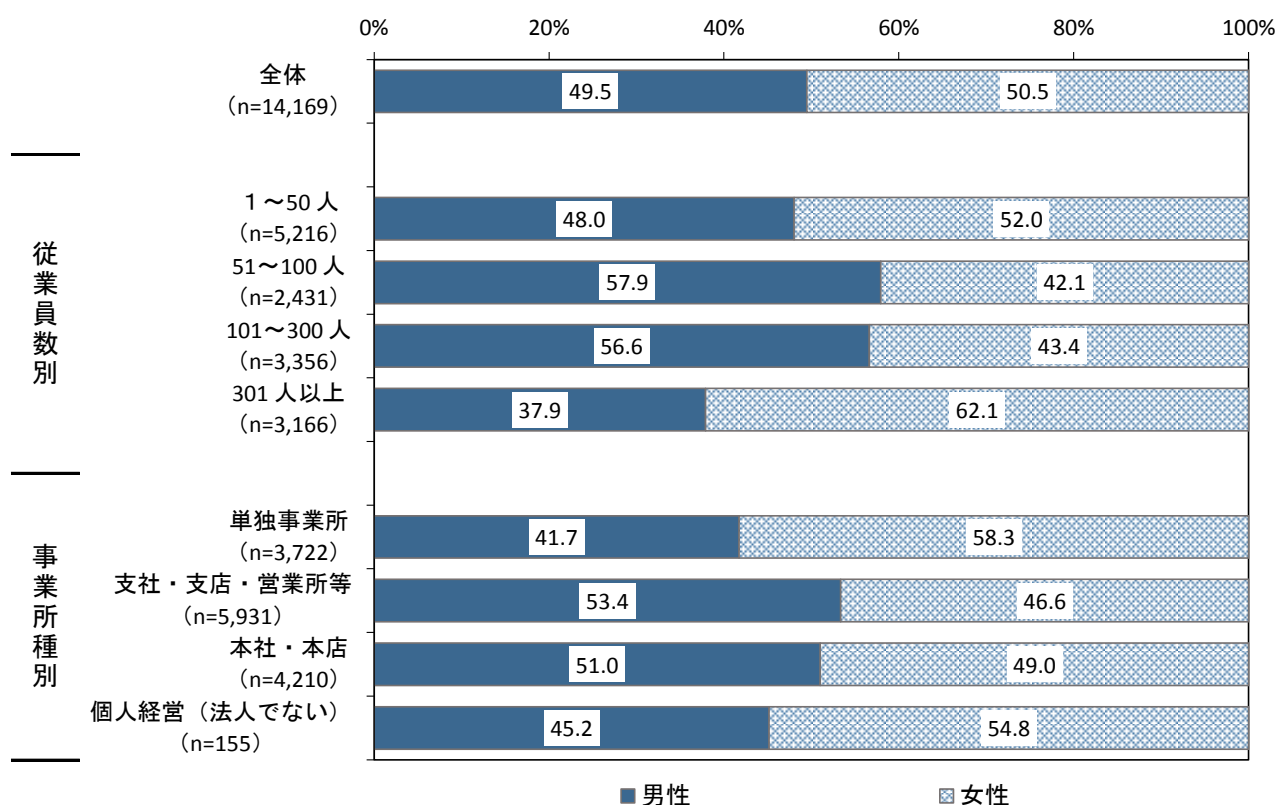
①従業員

従業員数については、「11～20 人」が 32.5%で最も高く、次いで「6～10 人」が 22.1%、「31～50 人」が 14.0%と続いています。



男性・女性別従業員数について全体では、男性が 49.5%、女性が 50.5%となっています。

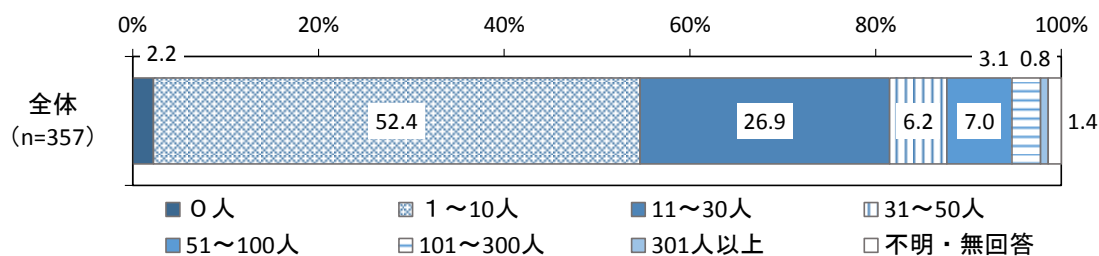
図表 4-1-4 従業員数 男性・女性別



②正社員

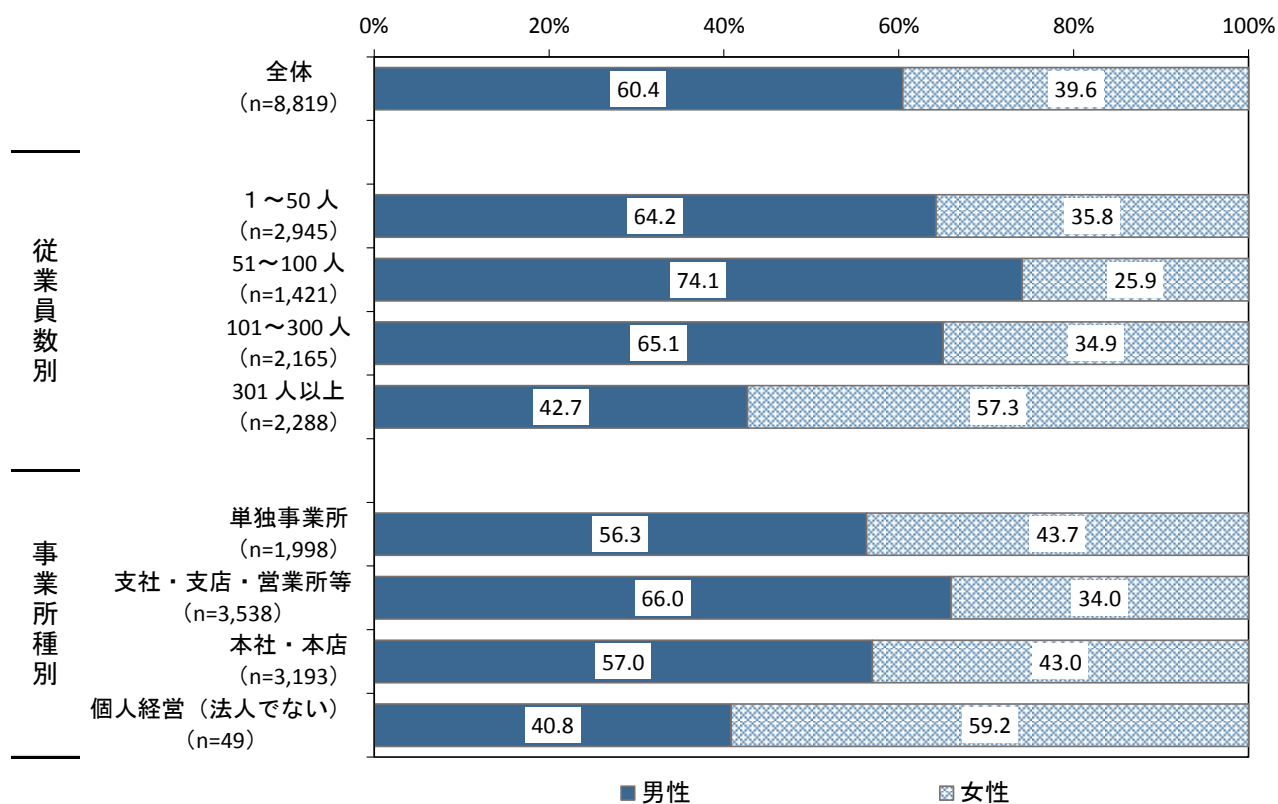
正社員数については、「1～10人」が52.4%で最も高く、次いで「11～30人」が26.9%、「51～100人」が7.0%と続いています。

図表 4-1-5 正社員数



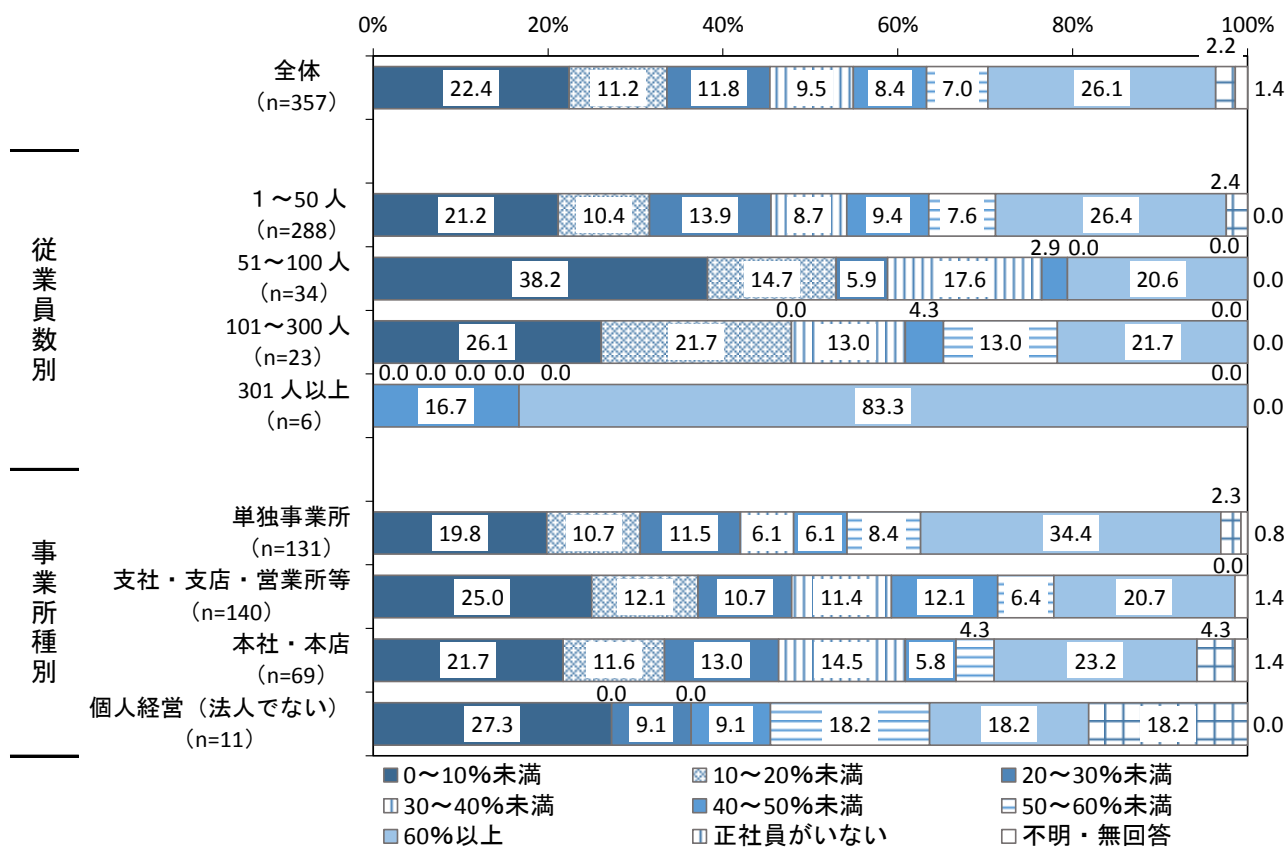
男性・女性別正社員数について全体では、男性が60.4%、女性が39.6%となっています。

図表 4-1-6 正社員 男性・女性別



正社員の女性比率について全体では、「60%以上」が26.1%で最も高く、次いで「0～10%未満」が22.4%、「20～30%未満」が11.8%と続いています。

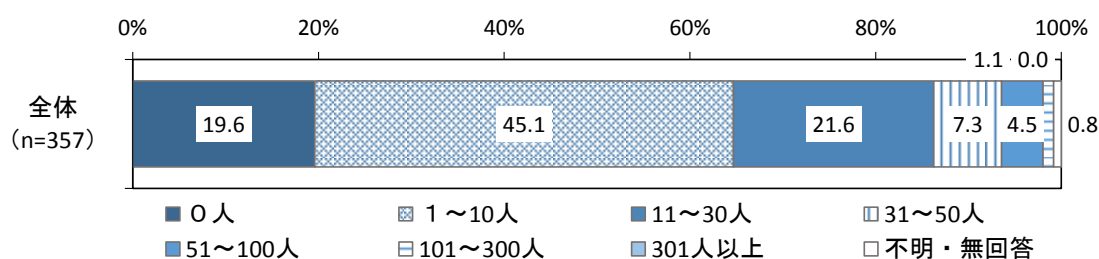
図表 4-1-7 正社員 女性比率



③パート・嘱託等非正社員

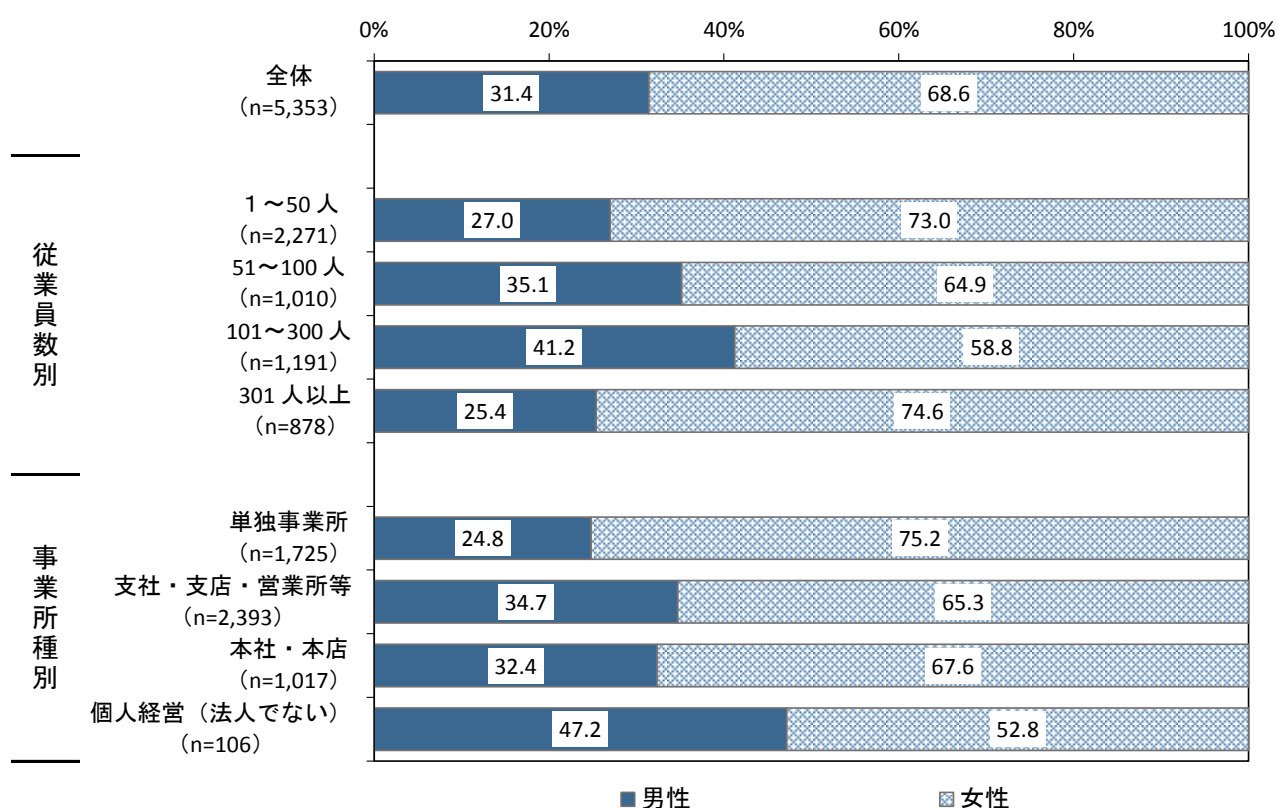
パート・嘱託等非正社員数については、「1～10人」が45.1%で最も高く、次いで「11～30人」が21.6%、「0人」が19.6%と続いています。

図表 4-1-8 パート・嘱託等非正社員数



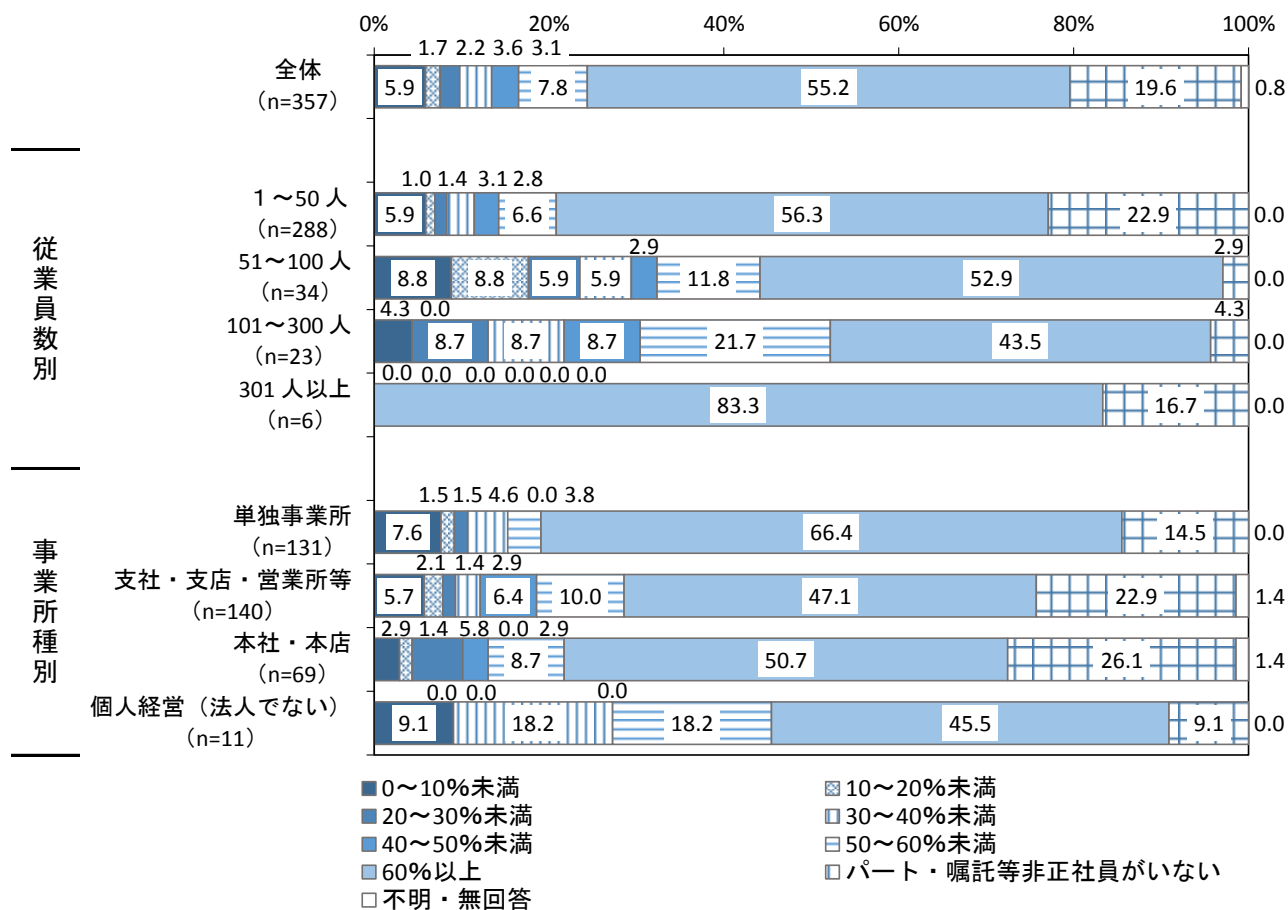
男性・女性別パート・嘱託等非正社員数について全体では、男性が31.4%、女性が68.6%となっています。

図表 4-1-9 パート・嘱託等非正社員 男性・女性別



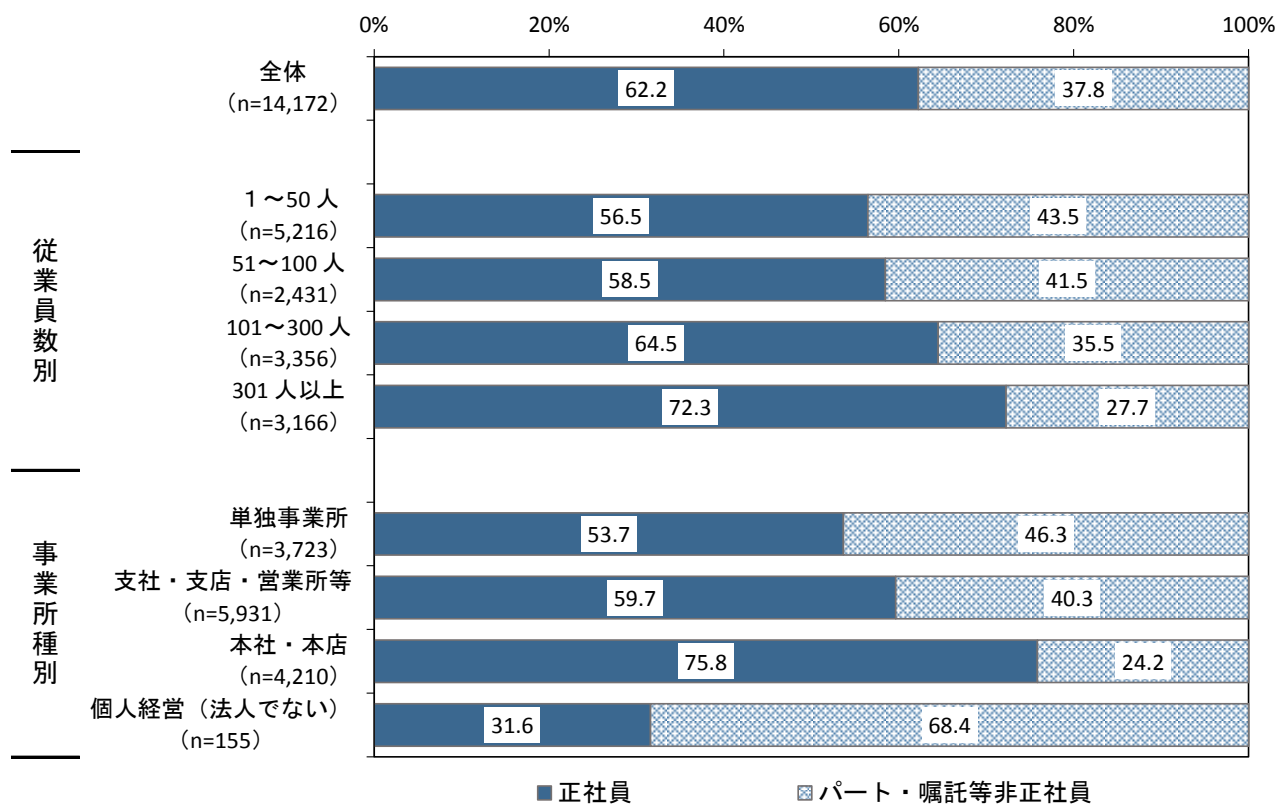
パート・嘱託等非正社員の女性比率について全体では、「60%以上」が55.2%で最も高く、次いで「パート・嘱託等非正社員がいない」が19.6%、「50～60%未満」が7.8%と続いています。

図表 4-1-10 パート・嘱託等非正社員 女性比率



従業員の正社員、パート・嘱託等非正社員の状況について全体では、「正社員」が 62.2%、「パート・嘱託等非正社員」が 37.8%となっています。

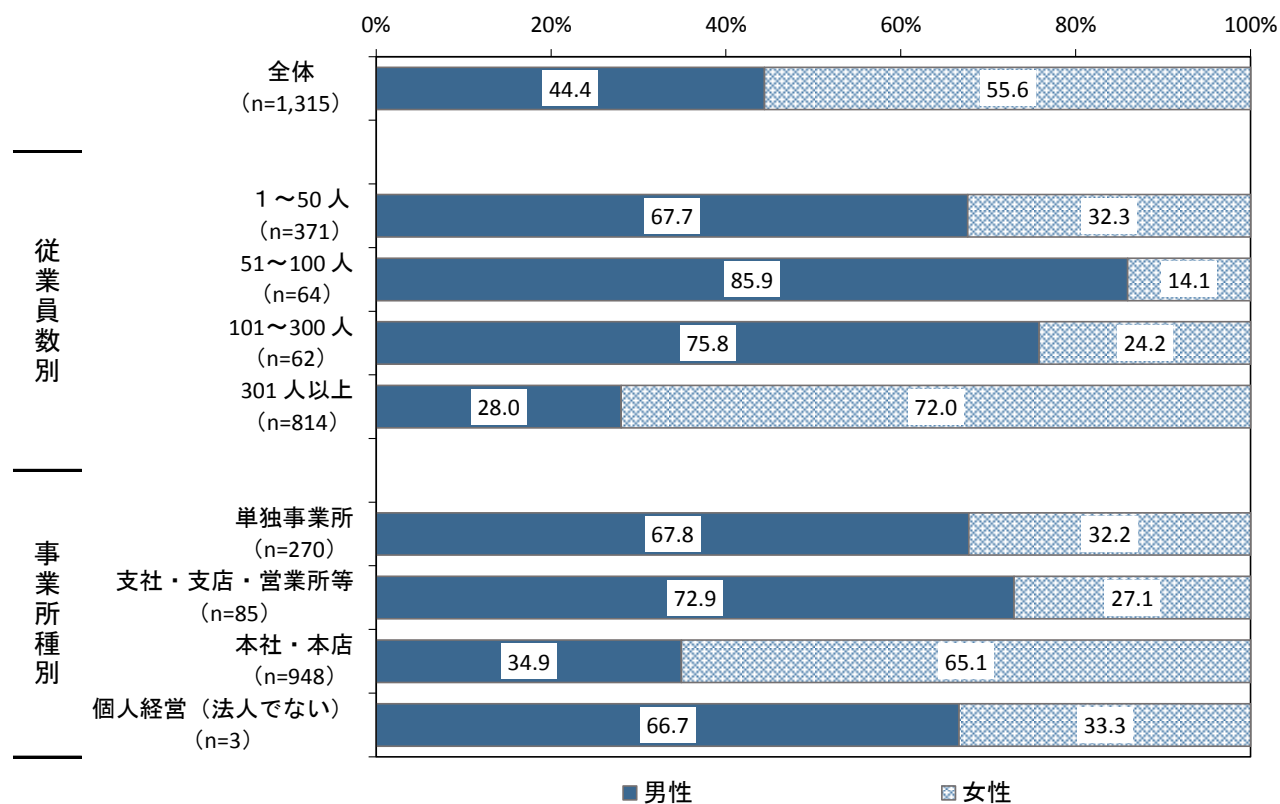
図表 4-1-11 従業者 正社員 パート・嘱託等非正社員別



④役員

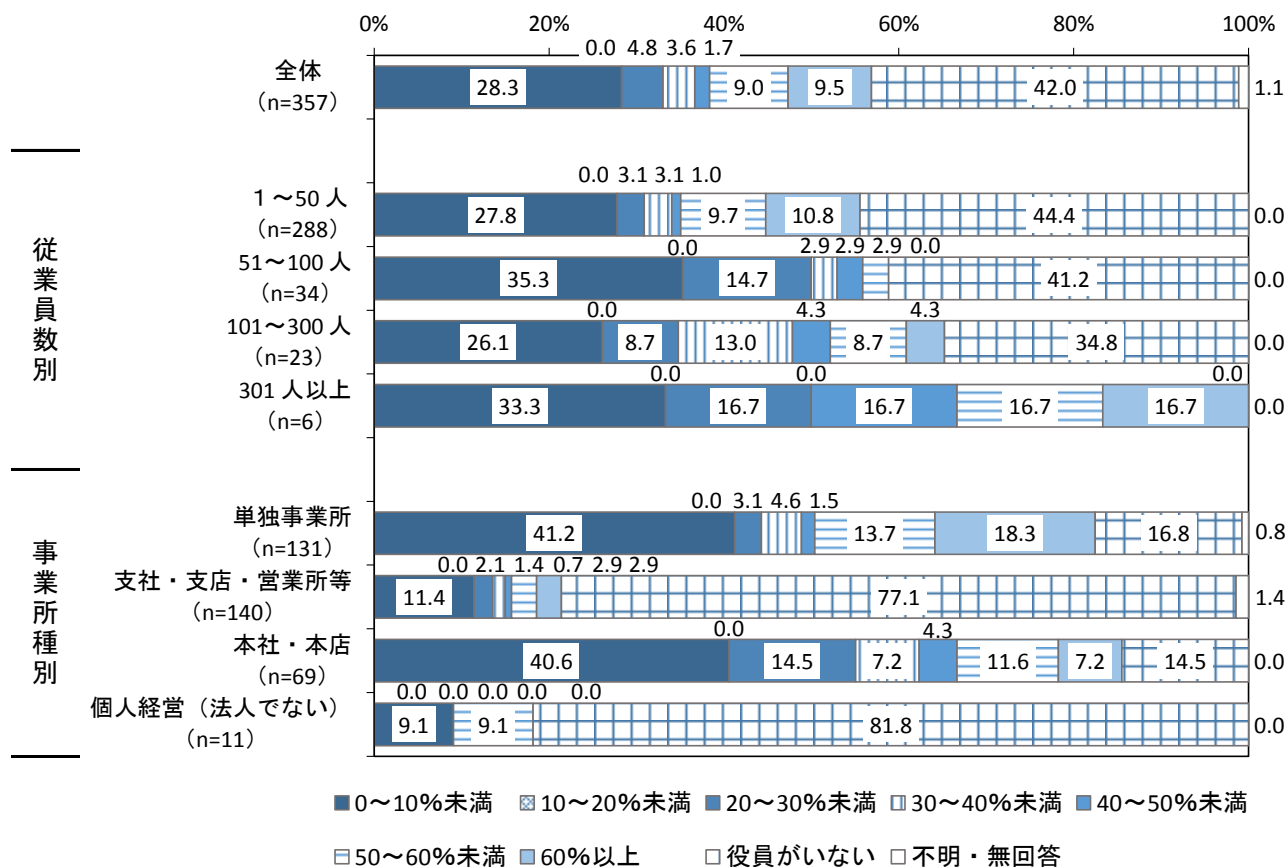
男性・女性別役員数について全体では、男性が 44.4%、女性が 55.6%となっています。

図表 4-1-12 役員 男性・女性別



役員の女性比率について全体では、「役員がいない」が42.0%で最も高く、次いで「0～10%未満」が28.3%、「60%以上」が9.5%と続いています。

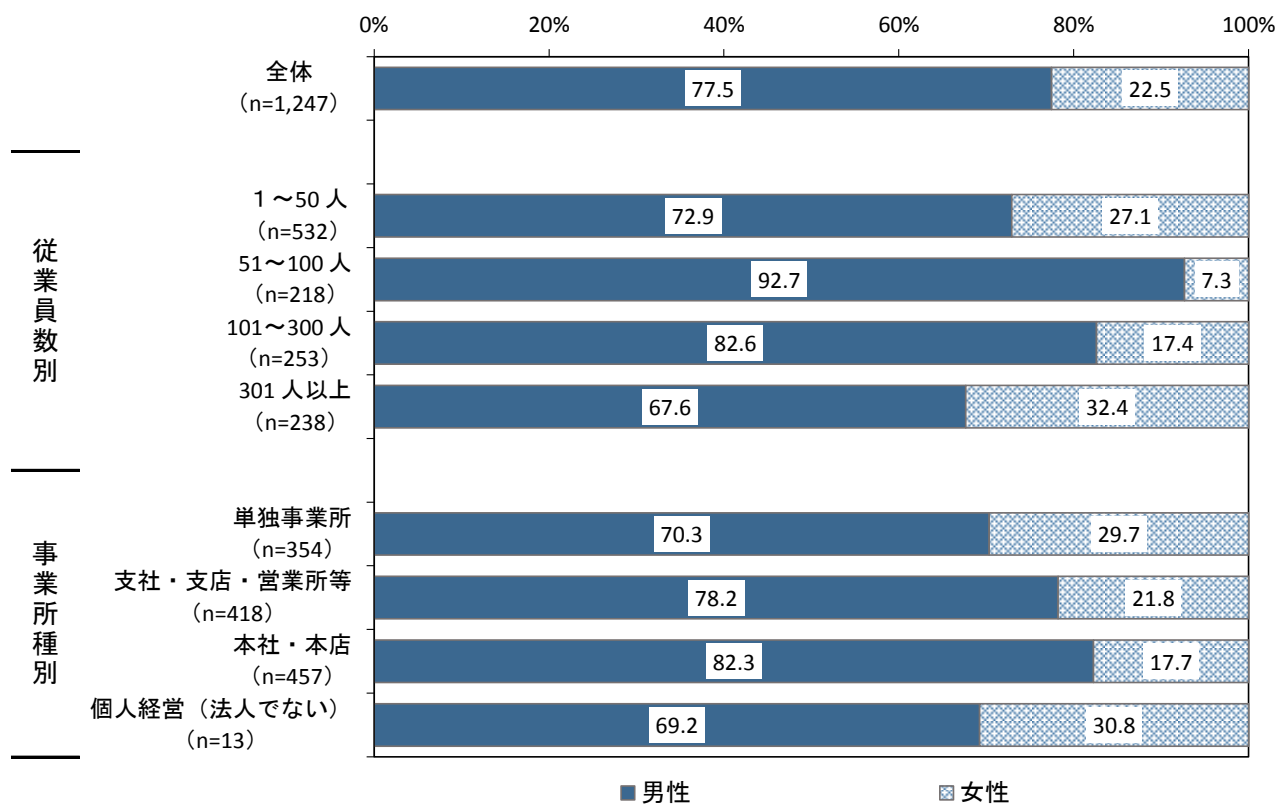
図表 4-1-13 役員 女性率



⑤管理職

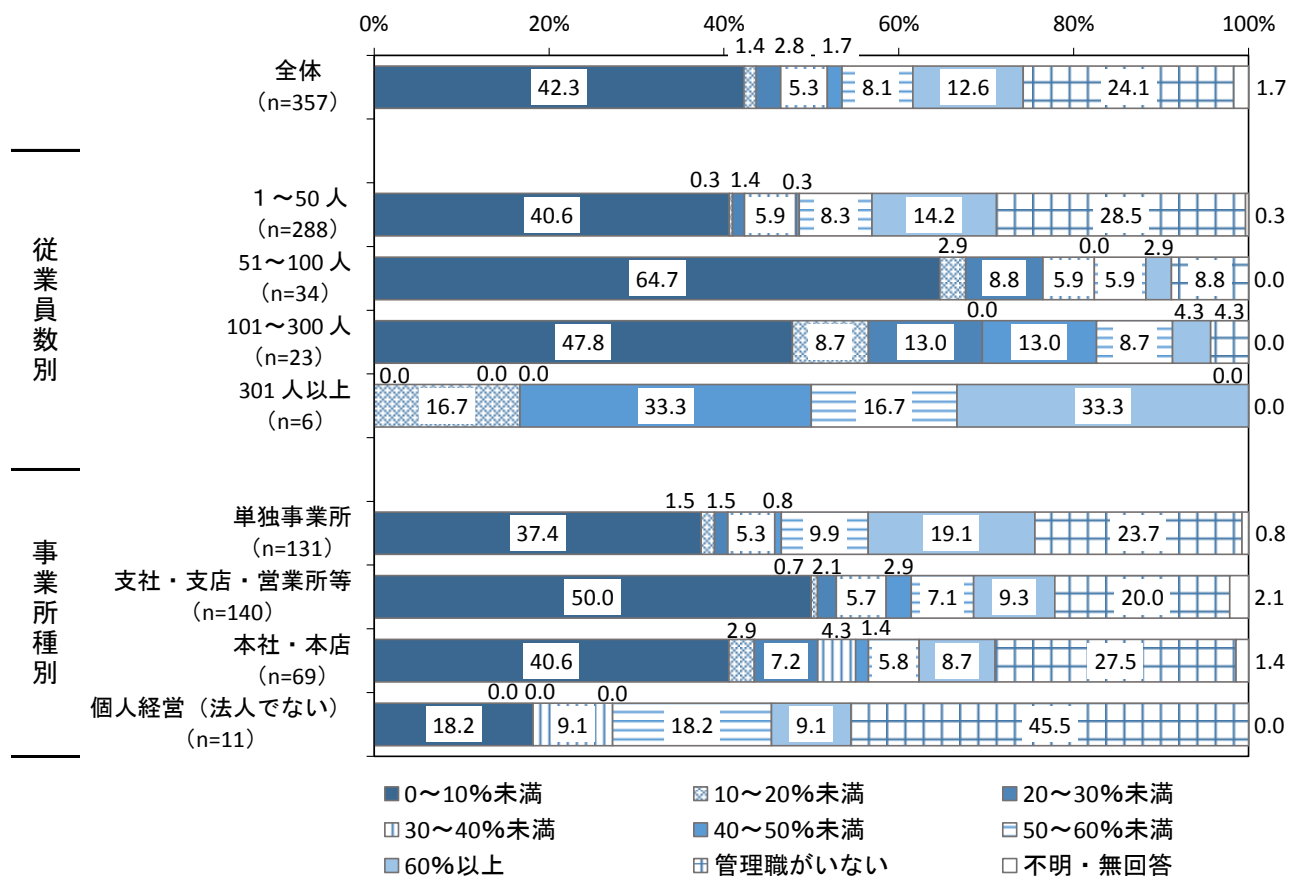
男性・女性別管理職数について全体では、男性が77.5%、女性が22.5%となっています。

図表 4-1-14 管理職数 男性・女性別



管理職の女性比率について全体では、「0～10%未満」が42.3%で最も高く、次いで「管理職がない」が24.1%、「60%以上」が12.6%と続いています。

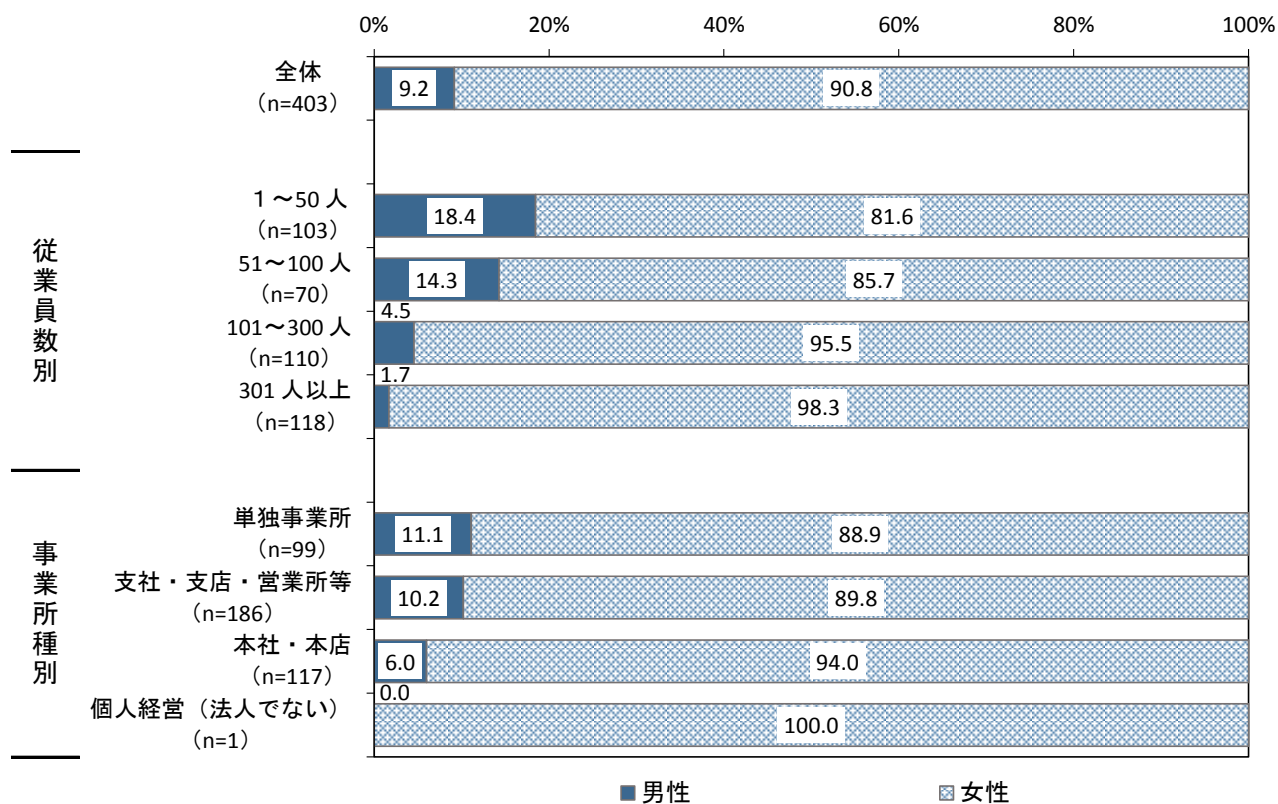
図表 4-1-15 管理職 女性率



⑥育児休業の取得状況

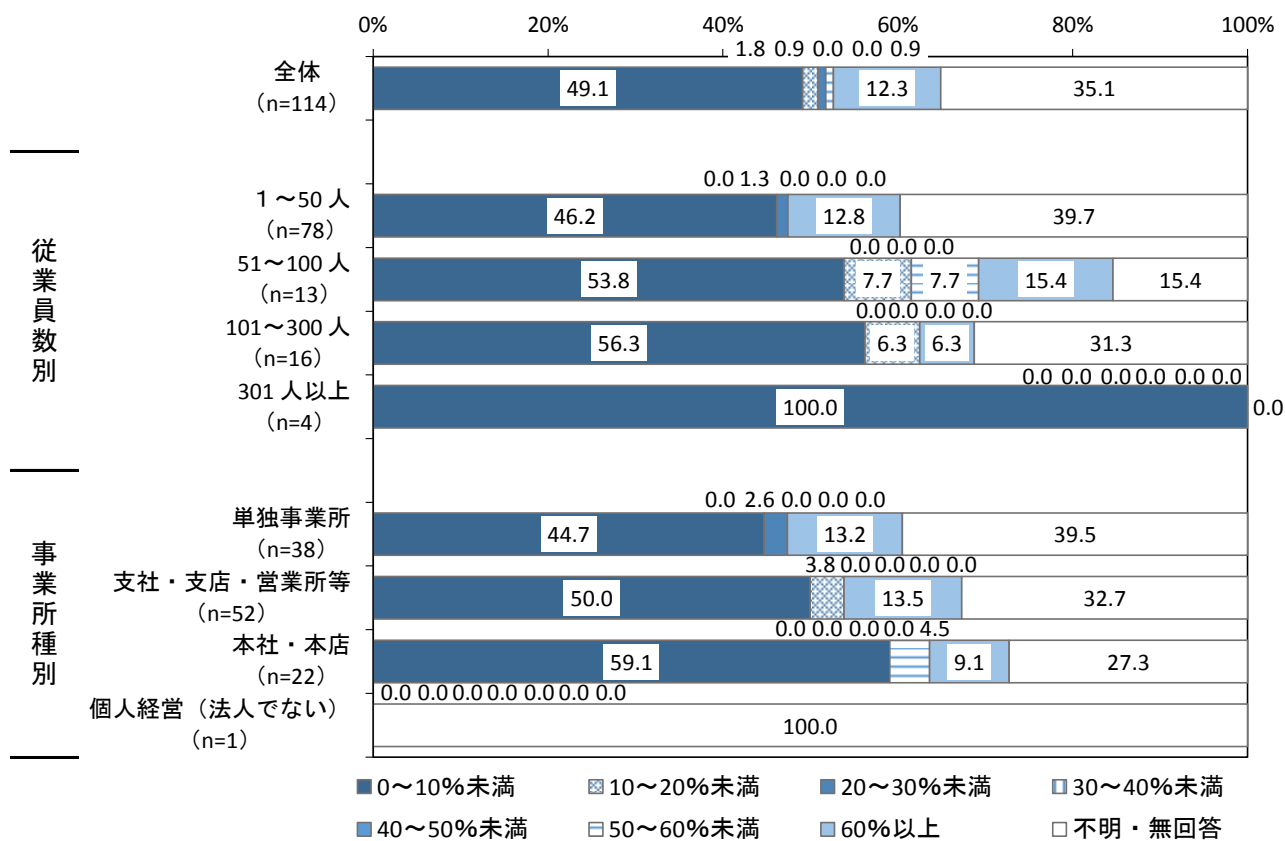
男性・女性別育児休業者数について全体では、男性が 9.2%、女性が 90.8%となっています。

図表 4-1-16 育児休業取得者の状況 男性・女性別



育児休業取得率について、男性では、「0～10%未満」が49.1%で最も高く、次いで「60%以上」が12.3%、「10～20%未満」が1.8%と続いています。

図表 4-1-17 育児休業取得率 男性



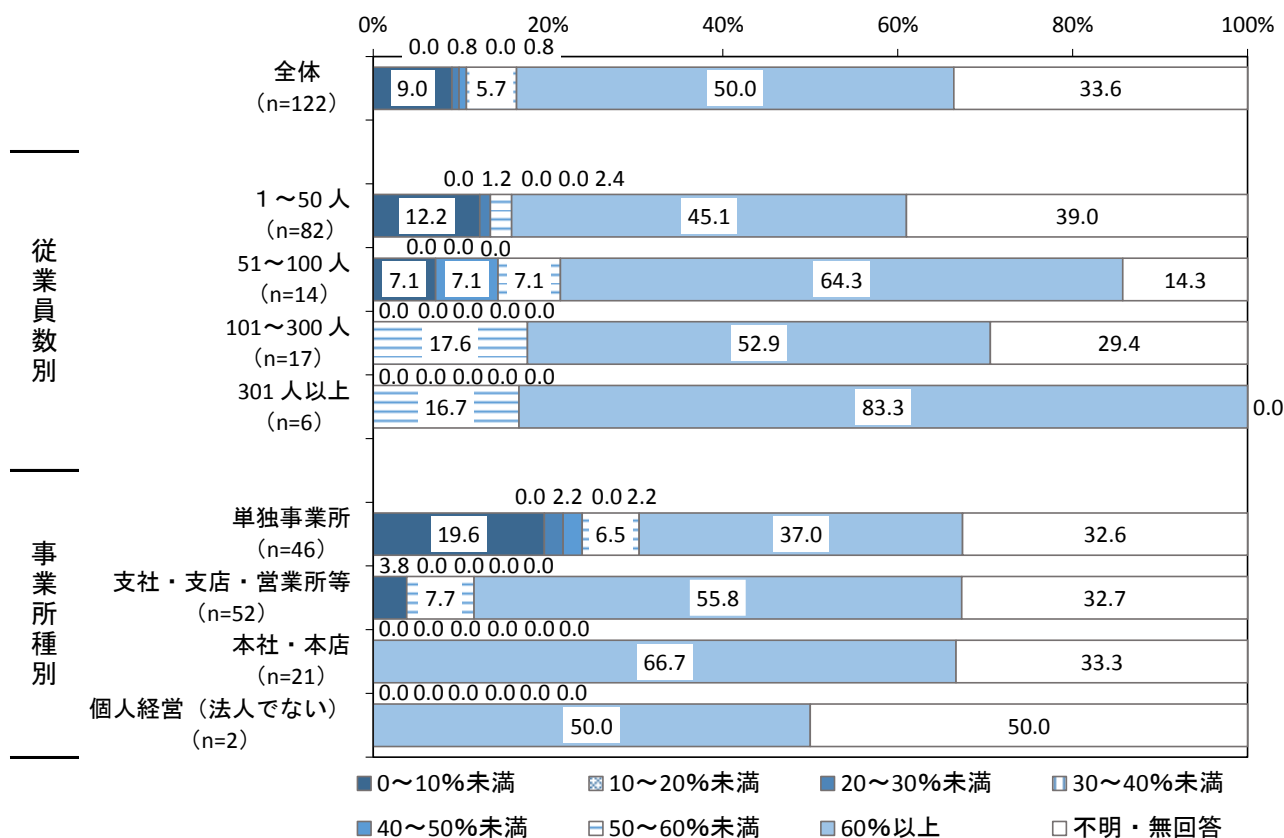
育児休業取得者の平均取得日数について、男性では全体で43.6日となっています。

図表 4-1-18 育児休業取得者の平均取得日数 男性

		事業所数	平均取得日数
全体		20 事業所	43.6 日
従業員数別	1～50 人	11 事業所	46.3 日
	51～100 人	4 事業所	6.1 日
	101～300 人	3 事業所	104.7 日
	301 人以上	1 事業所	22.0 日
事業所種別	単独事業所	7 事業所	56.6 日
	支社・支店・営業所等	9 事業所	48.2 日
	本社・本店	4 事業所	10.6 日
	個人経営（法人でない）	0 事業所	—

育児休業取得率について、女性では、「60%以上」が 50.0%で最も高く、次いで「0～10%未満」が 9.0%、「50～60%未満」が 5.7%と続いています。

図表 4-1-19 育児休業取得率 女性



育児休業取得者の平均取得日数について、女性では全体で 372.1 日となっています。

図表 4-1-20 育児休業取得者の平均取得日数 女性

		事業所数	平均取得日数
全体		67 事業所	372.1 日
従業員数別	1～50人	38 事業所	390.9 日
	51～100人	11 事業所	355.8 日
	101～300人	13 事業所	367.8 日
	301人以上	5 事業所	276.6 日
事業所種別	単独事業所	20 事業所	402.9 日
	支社・支店・営業所等	34 事業所	375.6 日
	本社・本店	12 事業所	323.8 日
	個人経営（法人でない）	1 事業所	220.0 日

⑦介護休業の取得状況

介護休業の取得者については男性が 12 人、女性が 21 人で、平均取得日数については男性が 29.2 日、女性が 17.9 日となっています。

図表 4-1-21 介護休業取得者の平均取得日数 男性

		事業所数	平均取得日数
全体		12 事業所	29.2 日
従業員数別	1～50 人	4 事業所	4.8 日
	51～100 人	3 事業所	64.7 日
	101～300 人	4 事業所	17.9 日
	301 人以上	1 事業所	66.0 日
事業所種別	単独事業所	4 事業所	50.0 日
	支社・支店・営業所等	5 事業所	15.3 日
	本社・本店	3 事業所	24.7 日
	個人経営（法人でない）	0 事業所	—

図表 4-1-22 介護休業取得者の平均取得日数 女性

		事業所数	平均取得日数
全体		21 事業所	17.9 日
従業員数別	1～50 人	9 事業所	8.3 日
	51～100 人	4 事業所	22.6 日
	101～300 人	4 事業所	5.5 日
	301 人以上	3 事業所	43.0 日
事業所種別	単独事業所	8 事業所	22.5 日
	支社・支店・営業所等	8 事業所	9.0 日
	本社・本店	4 事業所	16.3 日
	個人経営（法人でない）	0 事業所	—

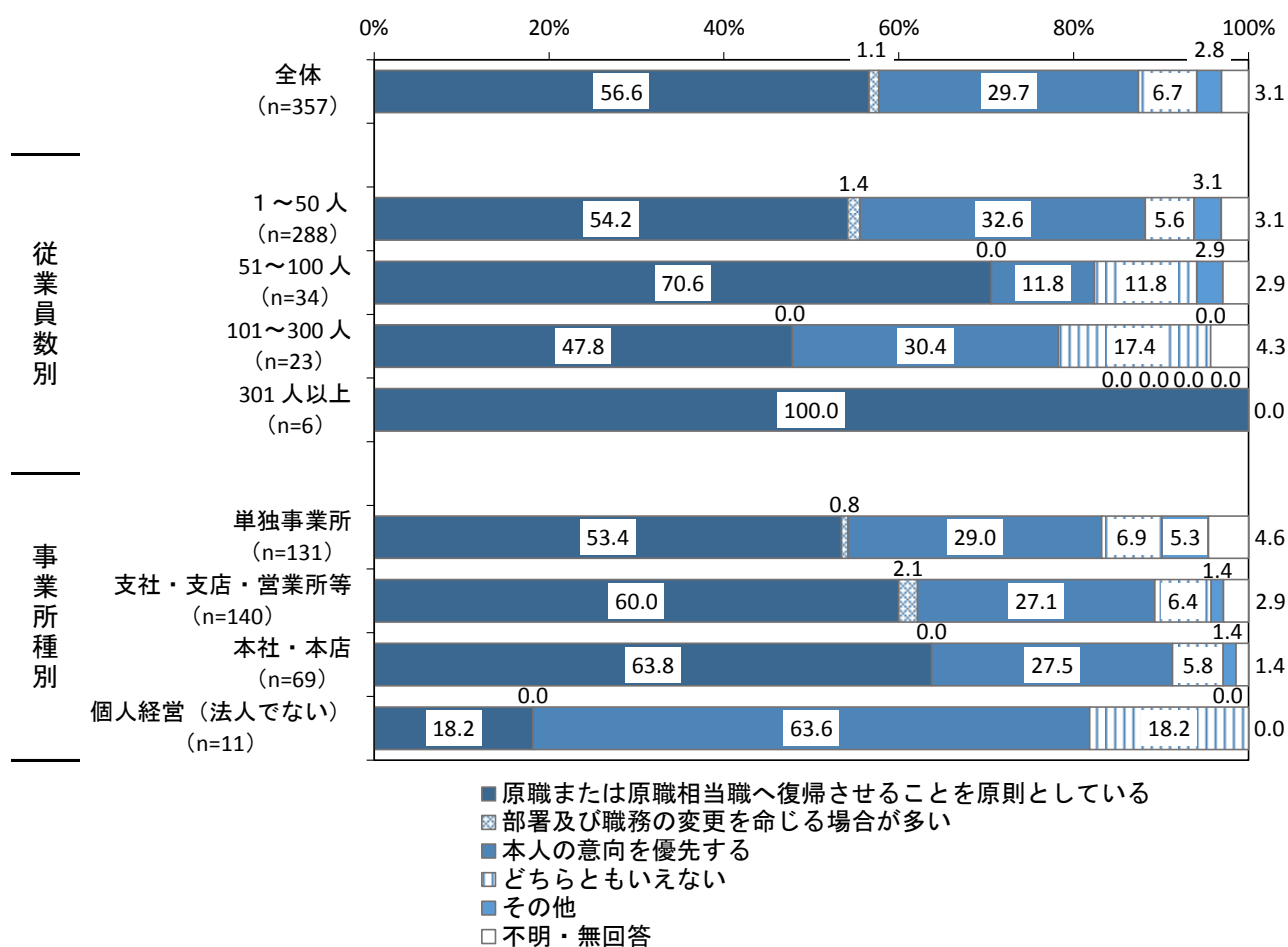
(4) 育児・介護休業取得者の復職後の配置状況

問 4	貴事業所において、育児・介護休業取得者の復職後の配置状況はどうなっていますか。(〇は1つ)

育児・介護休業取得者の復職後の配置状況については、「原職または原職相当職へ復帰させることを原則としている」が56.6%で最も高く、次いで「本人の意向を優先する」が29.7%、「どちらともいえない」が6.7%と続いています。

事業所種別でみると、「原職または原職相当職へ復帰させることを原則としている」では、本社・本店が63.8%で最も高くなっています。

図表 4-1-23 育児・介護休業取得者の復職後の配置状況



(5) 一般事業主行動計画の認知度

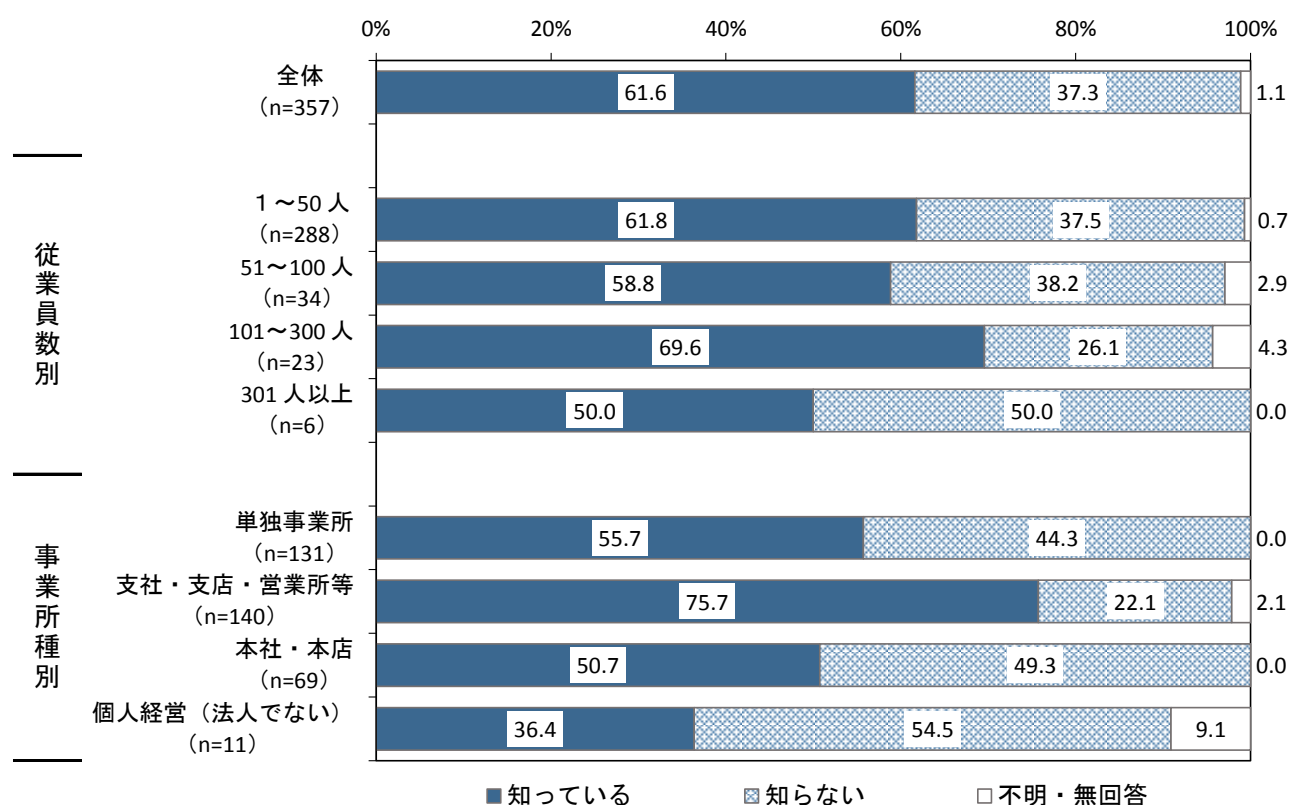
問 5-1	国では、仕事と子育ての両立支援と職場における女性の活躍推進のために、次世代育成支援対策推進法（平成 17 年施行）と女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）（平成 28 年施行）を定めています。これらの法律における一般事業主行動計画についてお聞きます。 上記の法律の一般事業主行動計画について御存知ですか。（各項目に○は1つ）

①次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画

次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画の認知度については、「知っている」が 61.6%、「知らない」が 37.3%となっています。

従業員数別でみると、「知っている」では、101～300 人が 69.6%、301 人以上が 50.0%となっています。

図表 4-1-24 次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画の認知度

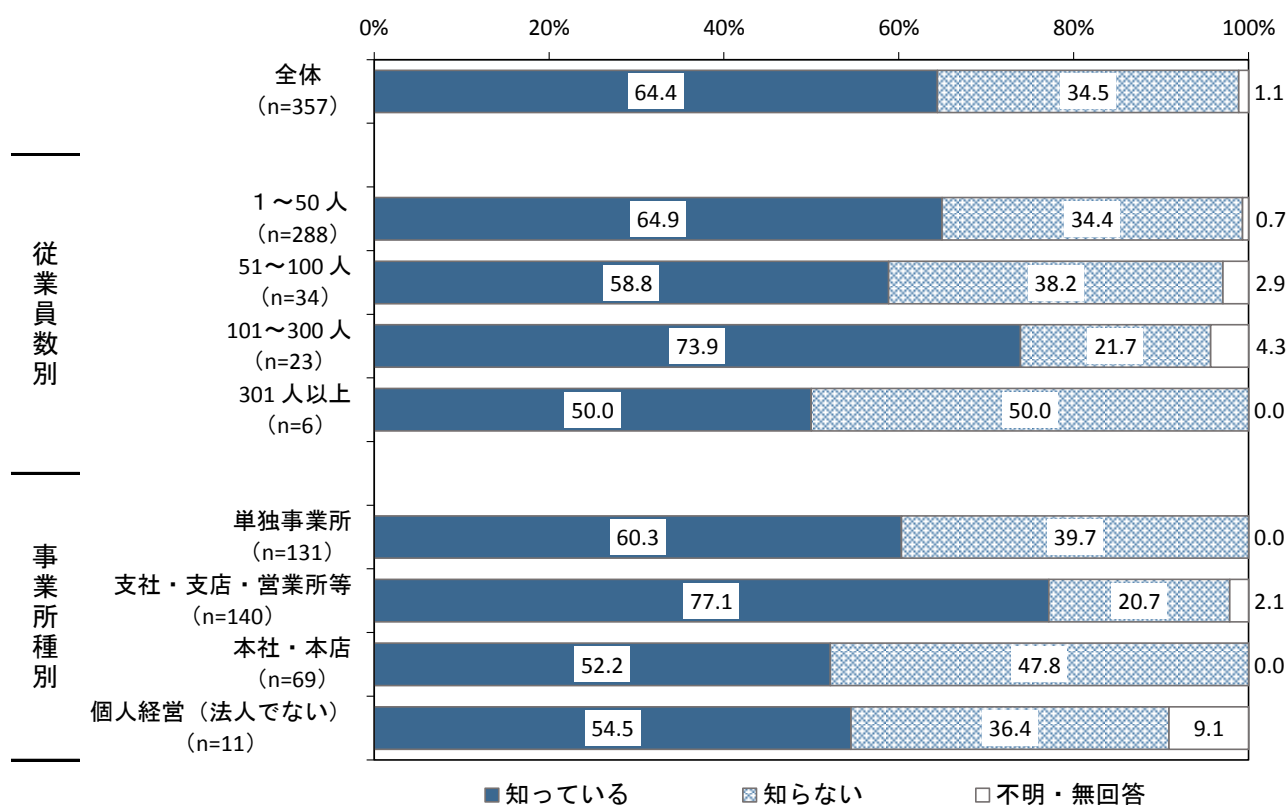


②女性活躍推進法における一般事業主行動計画

女性活躍推進法における一般事業主行動計画の認知度については、「知っている」が64.4%で、「知らない」が34.5%となっています。

従業員数別でみると、「知っている」では、101～300人が73.9%、301人以上が50.0%となっています。

図表 4-1-25 女性活躍推進法における一般事業主行動計画の認知度



（６）一般事業主行動計画の策定状況

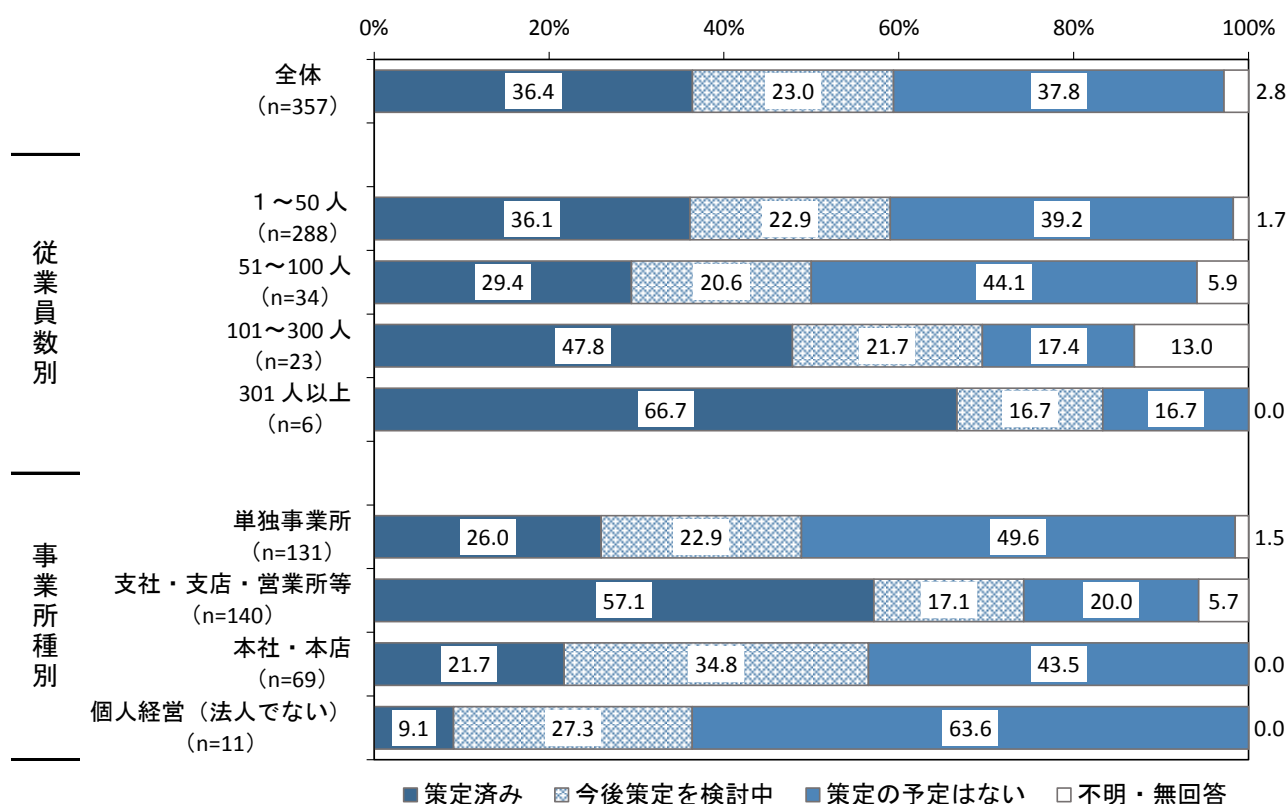
問 5-2	それぞれの一般事業主行動計画の策定状況はいかがですか。 (各項目に○は1つ)

①次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画

次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画の策定状況については、「策定の予定はない」が37.8%で最も高く、次いで「策定済み」が36.4%、「今後策定を検討中」が23.0%となっています。

従業員数別でみると、「策定済み」では、101～300人が47.8%、301人以上が66.7%となっています。

図表 4-1-26 次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画の策定状況

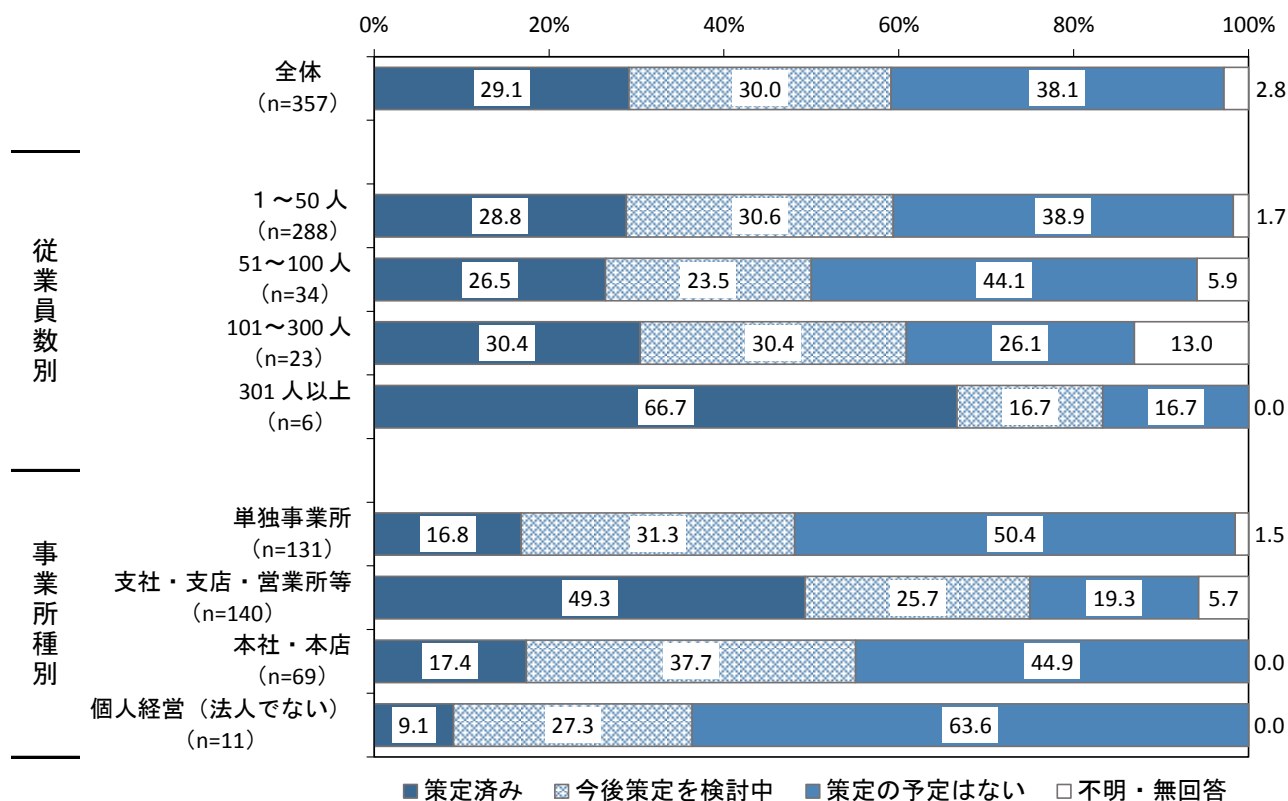


②女性活躍推進法における一般事業主行動計画

女性活躍推進法における一般事業主行動計画の策定状況については、「策定の予定はない」が38.1%で最も高く、次いで「今後策定を検討中」が30.0%、「策定済み」が29.1%と続いています。

従業員数別でみると、「策定済み」では、101～300人が30.4%、301人以上が66.7%となっています。

図表 4-1-27 女性活躍推進法における一般事業主行動計画の策定状況



(7) 女性従業員の育児休業取得について

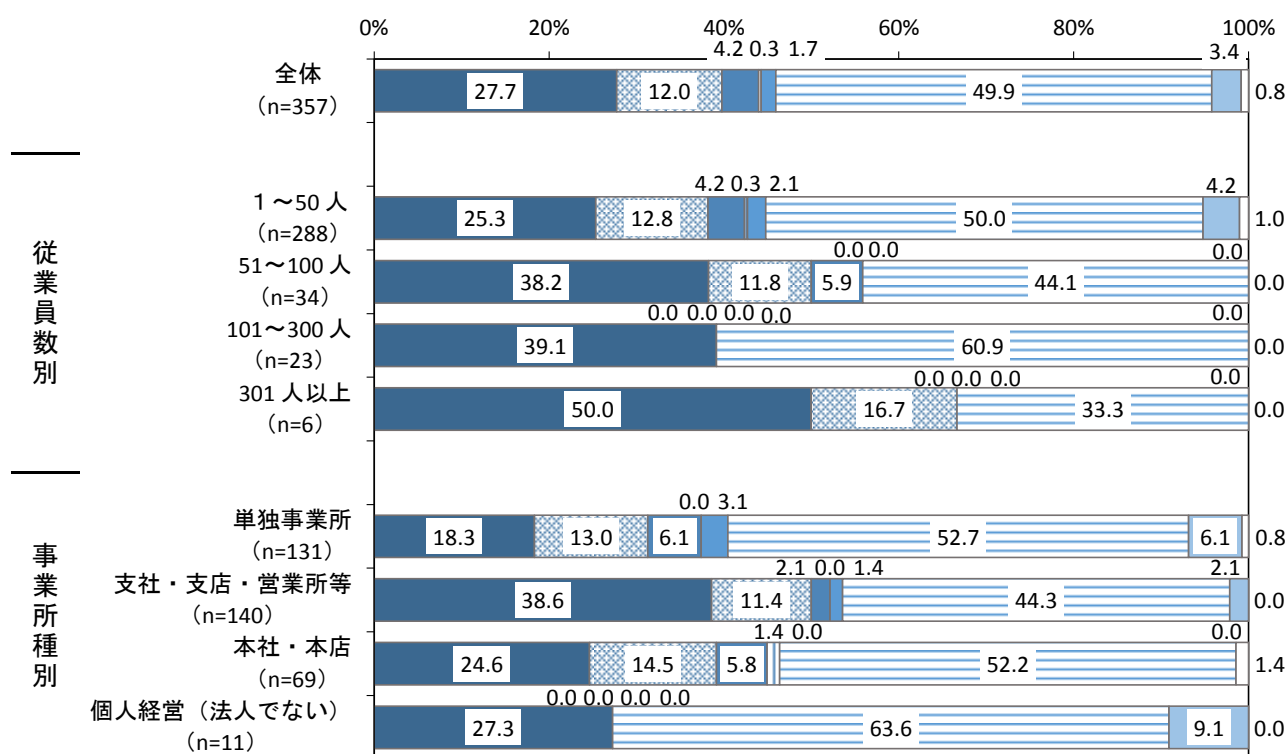
問 6	事業所では、女性従業員の育児休業取得に対して、どのようにお考えですか。 (〇は1つ)

女性従業員の育児休業取得に対する考えについては、「本人の意向を優先したい」が49.9%で最も高く、次いで「長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい」が27.7%、「できる限り育児休業期間を短くして早めに職場復帰し、短時間勤務等、両立支援制度を利用しながら働いてほしい」が12.0%と続いています。

従業員数別にみると、「長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい」では、従業員数が多くなるに従い、割合が高くなっています。

事業所種別でみると、「長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい」では、支社・支店・営業所等が38.6%で最も高くなっています。

図表 4-1-28 女性従業員の育児休業取得について



- 長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい
- ▨ できる限り育児休業期間を短くして早めに職場復帰し、短時間勤務等、両立支援制度を利用しながら働いてほしい
- 短期の育児休業を取得した後、休業前と同様に働いてほしい
- ▨ 産前・産後休業のみを取得し、育児休業は取得せず両立支援制度を利用しながら働いてほしい
- 育児の期間は一旦退職し、再雇用制度等を利用し時機をみて復帰してほしい
- ▨ 本人の意向を優先したい
- その他
- 不明・無回答

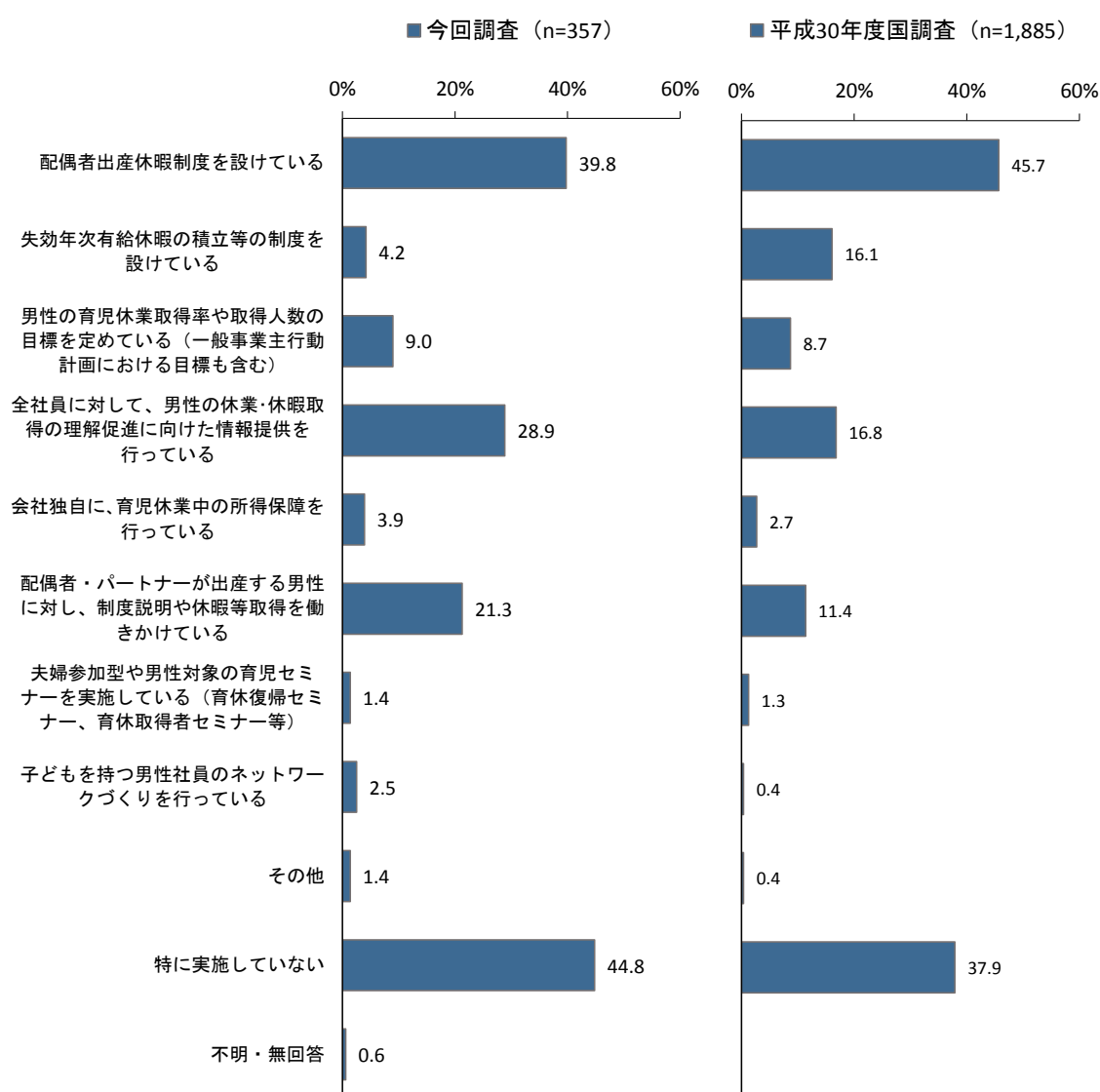
(8) 男性の育児参加促進のための取組について

問 6-1	貴事業所では、男性正社員の育児休業や配偶者が出産した際の休暇等の取得促進、もしくは男性の育児参加促進を目的として、以下のような取組を行っていますか。(〇はいくつでも)

男性の育児参加促進のための取組については、「特に実施していない」が 44.8%で最も高く、次いで「配偶者出産休暇制度を設けている」が 39.8%、「全社員に対して、男性の休業・休暇取得の理解促進に向けた情報提供を行っている」が 28.9%と続いています。

国調査と比較すると、「特に実施していない」では、国調査より 6.9 ポイント高くなっています。

図表 4-1-29 男性の育児参加促進のための取組について



平成 30 年度国調査：企業等における仕事と生活の調和に関する調査研究報告書（平成 31 年 3 月）

事業所種別でみると、「配偶者出産休暇制度を設けている」では、支社・支店・営業所等が 56.4%で最も高く、「特に実施していない」では、個人経営（法人でない）が 63.6%で最も高くなっています。

図表 4-1-30 男性の育児参加促進のための取組について 従業員数別・事業所種別

単位：実数（事業所）、構成比（％）

		合計	配偶者出産休暇制度を設けている	失効年次有給休暇の積立等の制度を設けている	男性の育児休業取得率や取得人数の目標を定めている（一般事業主行動計画における目標も含む）	全社員に対して、男性の休業・休暇取得の理解促進に向けた情報・提供を行っている	会社独自に、育児休業中の所得保障を行っている	配偶者・パートナーが出産する男性に対して、制度説明や休暇等取得を働きかけている	夫婦参加型や男性対象の育児セミナーを実施している（育児復帰セミナー等）	子どもを持つ男性社員のネットワークを行っている	その他	特に実施していない	不明・無回答
全体		357	39.8	4.2	9.0	28.9	3.9	21.3	1.4	2.5	1.4	44.8	0.6
従業員数別	1～50 人	288	40.3	3.5	7.6	28.5	3.8	23.6	0.7	2.8	1.7	45.8	0.3
	51～100 人	34	41.2	8.8	17.6	32.4	5.9	8.8	8.8	0.0	0.0	41.2	0.0
	101～300 人	23	43.5	8.7	13.0	39.1	0.0	17.4	0.0	4.3	0.0	26.1	0.0
	301 人以上	6	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
事業所種別	単独事業所	131	32.8	3.8	2.3	22.9	2.3	18.3	0.8	1.5	3.1	48.9	0.8
	支社・支店・営業所等	140	56.4	6.4	17.9	40.0	5.7	30.0	2.1	4.3	0.0	28.6	0.7
	本社・本店	69	27.5	1.4	5.8	21.7	2.9	11.6	1.4	0.0	1.4	62.3	0.0
	個人経営（法人でない）	11	9.1	0.0	0.0	18.2	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0	63.6	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

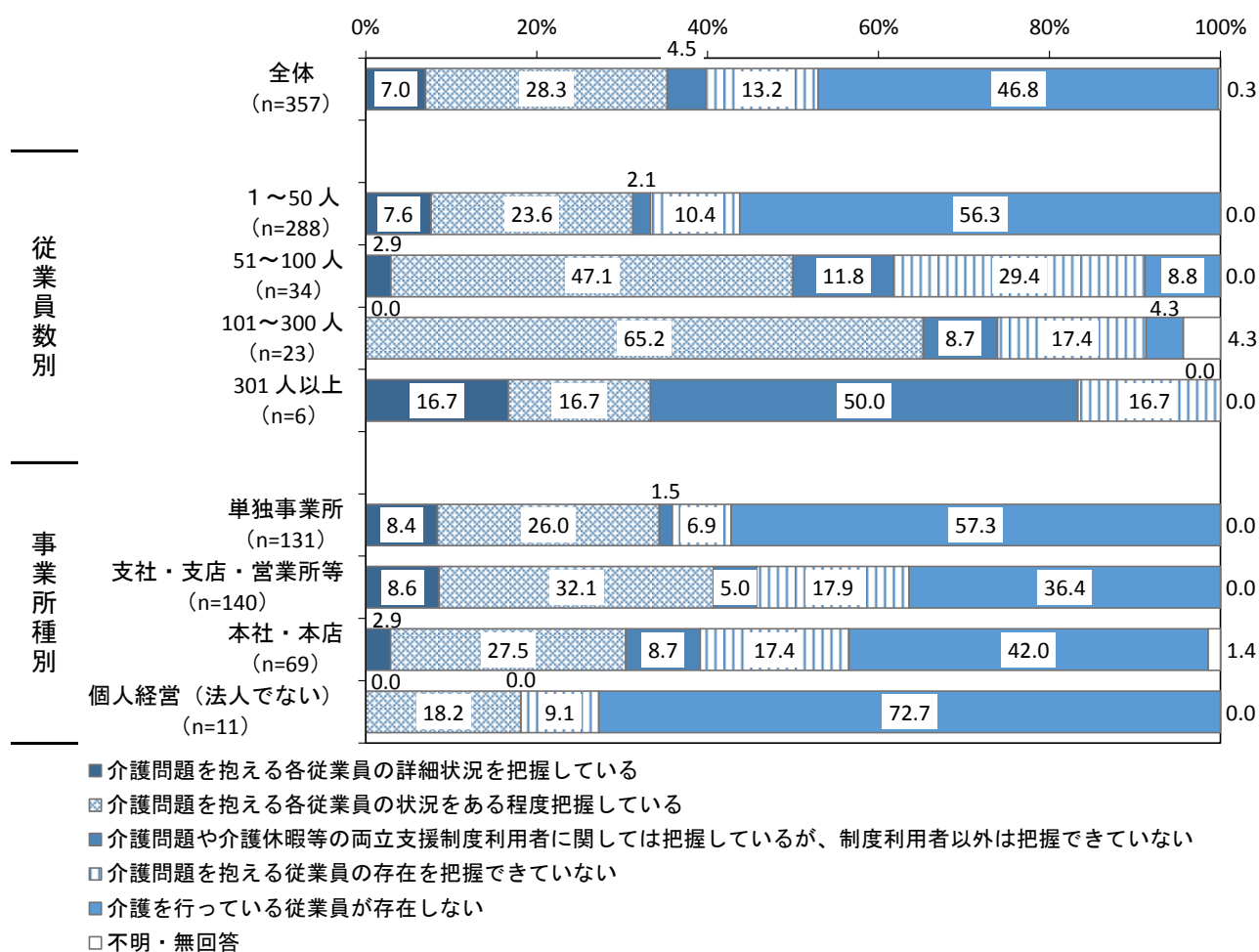
(9) 介護問題を抱える従業員の把握状況

問 7	貴事業所では、介護問題を抱える従業員の把握状況はいかがですか。(○は1つ)

介護問題を抱える従業員の把握状況については、「介護を行っている従業員が存在しない」が46.8%で最も高く、次いで「介護問題を抱える各従業員の状況にある程度把握している」が28.3%、「介護問題を抱える従業員の存在を把握できていない」が13.2%と続いています。

事業所種別でみると、「介護問題を抱える各従業員の詳細状況を把握している」では、支社・支店・営業所等が8.6%で最も高くなっています。

図表 4-1-31 介護問題を抱える従業員の把握状況



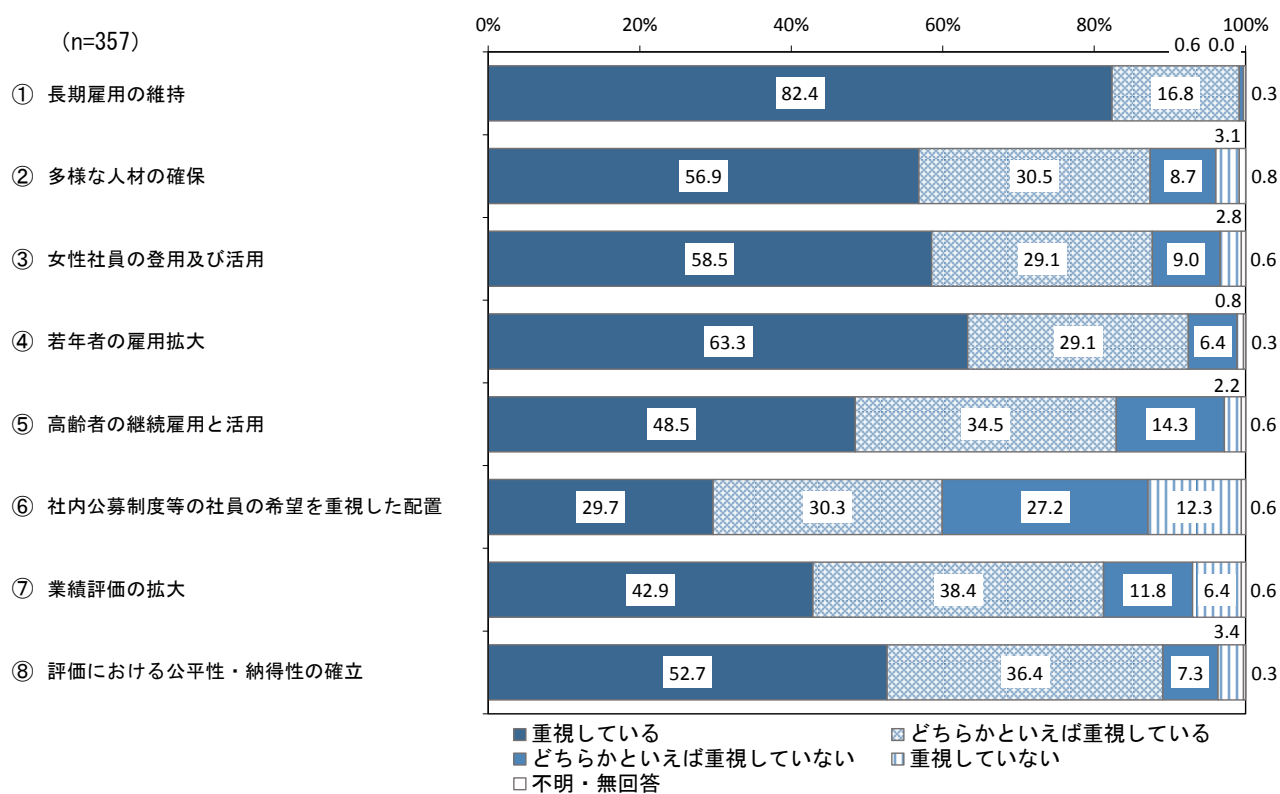
2. 両立支援について

(1) 人事の方針で重視していること

問 8	貴事業所における人事の方針についてお伺いします。以下の事項についてどの程度重視されていますか。(各項目に○は1つ)

人事の方針で重視していることについて、「重視している」では、「① 長期雇用の維持」が82.4%で最も高く、次いで「④ 若年者の雇用拡大」が63.6%、「③ 女性社員の登用及び活用」が58.5%と続いています。

図表 4-2-1 人事の方針

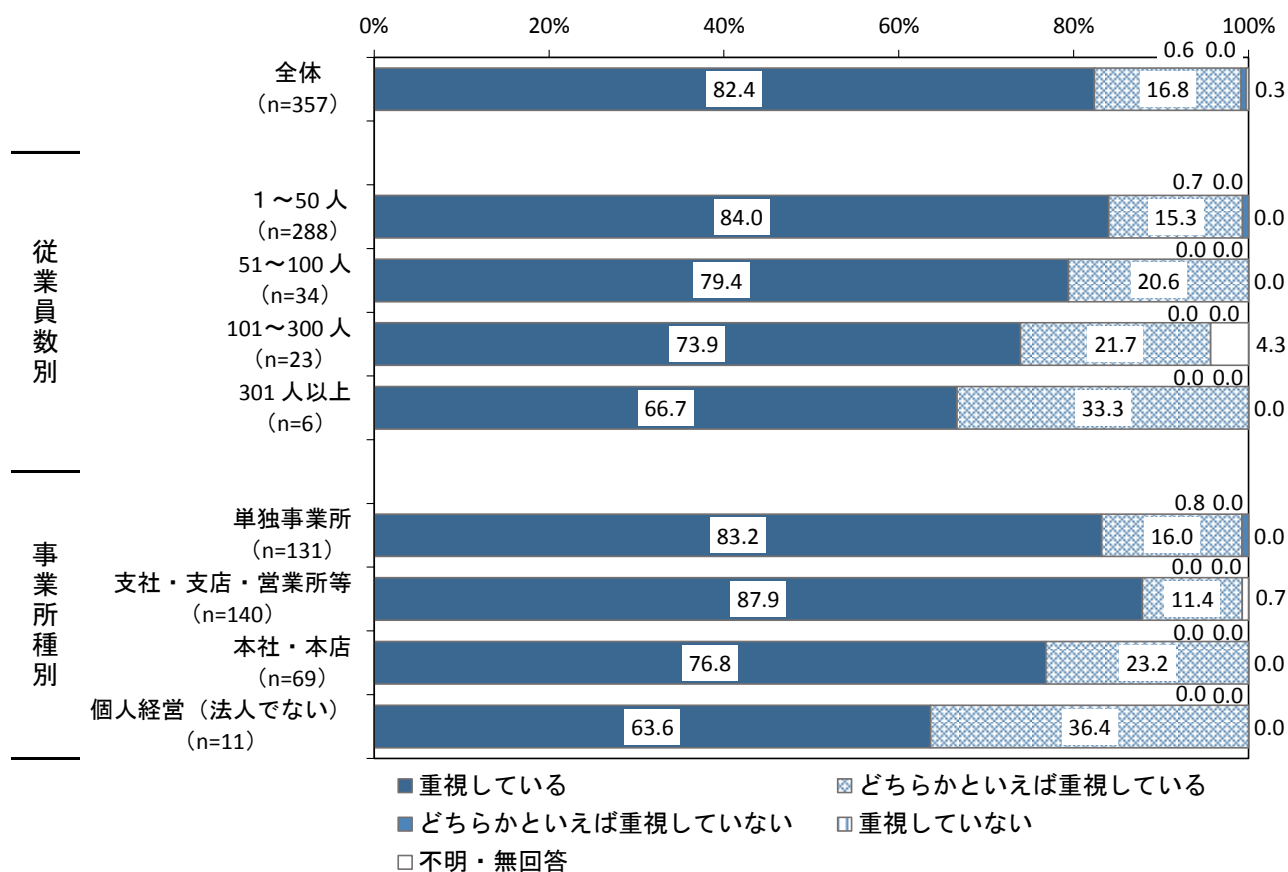


①長期雇用の維持

人事の方針で重視していることについて、「長期雇用の維持」では、「重視している」が82.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば重視している」が16.8%、「どちらかといえば重視していない」が0.6%と続いています。

事業所種別で見ると、「重視している」では、支社・支店・営業所等が87.9%で最も高くなっています。

図表 4-2-2 人事の方針で重視していること ①長期雇用の維持

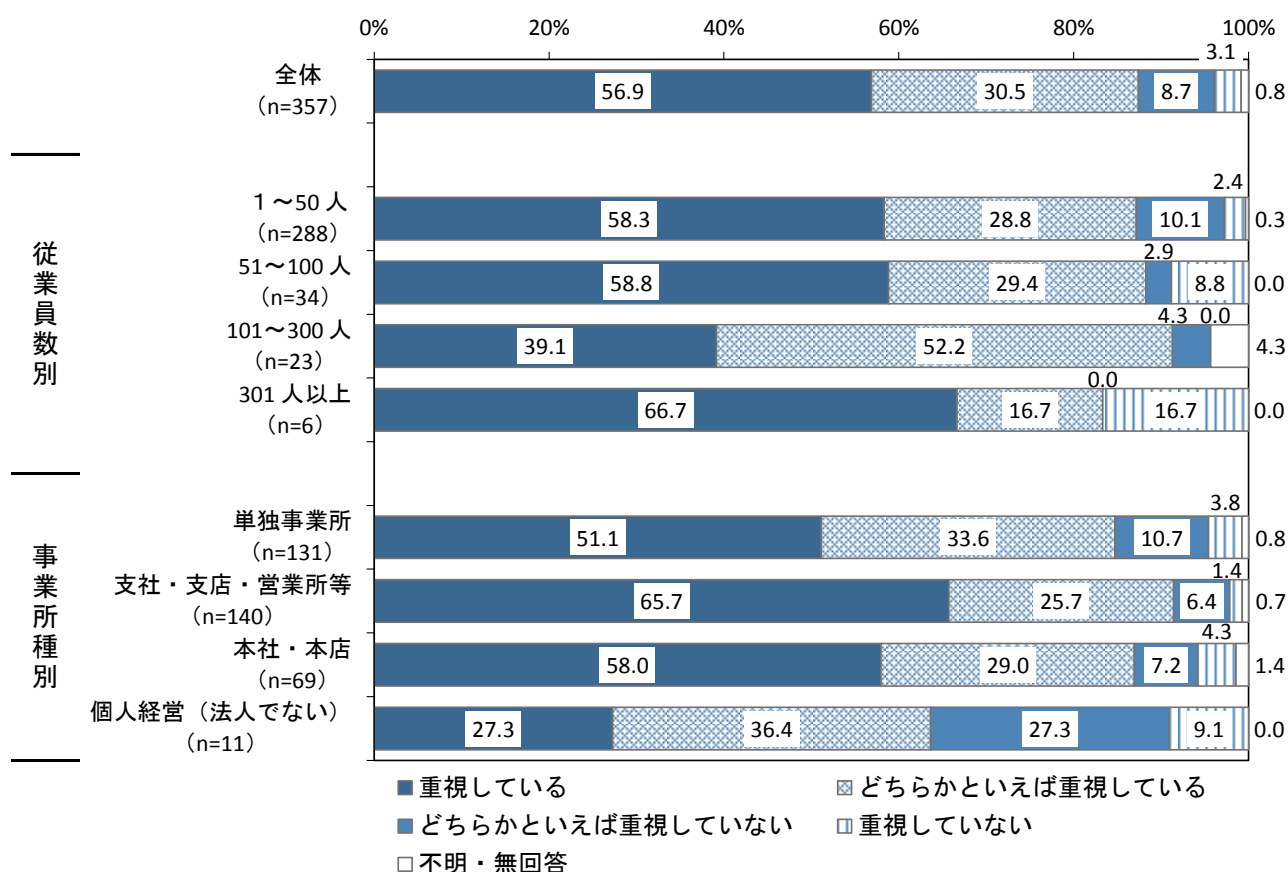


②多様な人材の確保

人事の方針で重視していることについて、「多様な人材の確保」では、「重視している」が56.9%で最も高く、次いで「どちらかといえば重視している」が30.5%、「どちらかといえば重視していない」が8.7%と続いています。

事業所種別で見ると、「重視している」では、支社・支店・営業所等が65.7%で最も高くなっています。

図表 4-2-3 人事の方針で重視していること ②多様な人材の確保

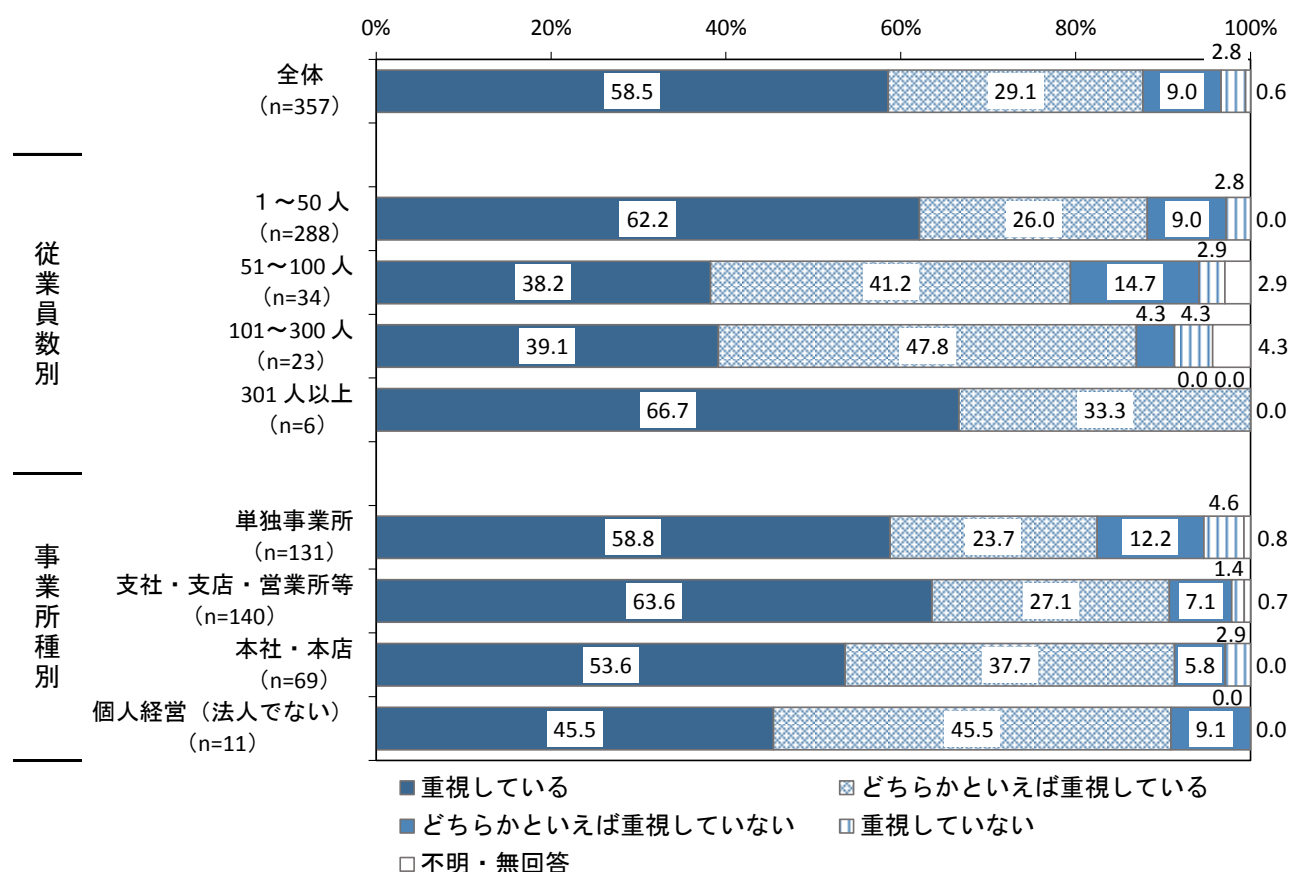


③女性社員の登用及び活用

人事の方針で重視していることについて、「女性社員の登用及び活用」では、「重視している」が58.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば重視している」が29.1%、「どちらかといえば重視していない」が9.0%と続いています。

事業所種別で見ると、「重視している」では、支社・支店・営業所等が63.6%で最も高くなっています。

図表 4-2-4 人事の方針で重視していること ③女性社員の登用及び活用

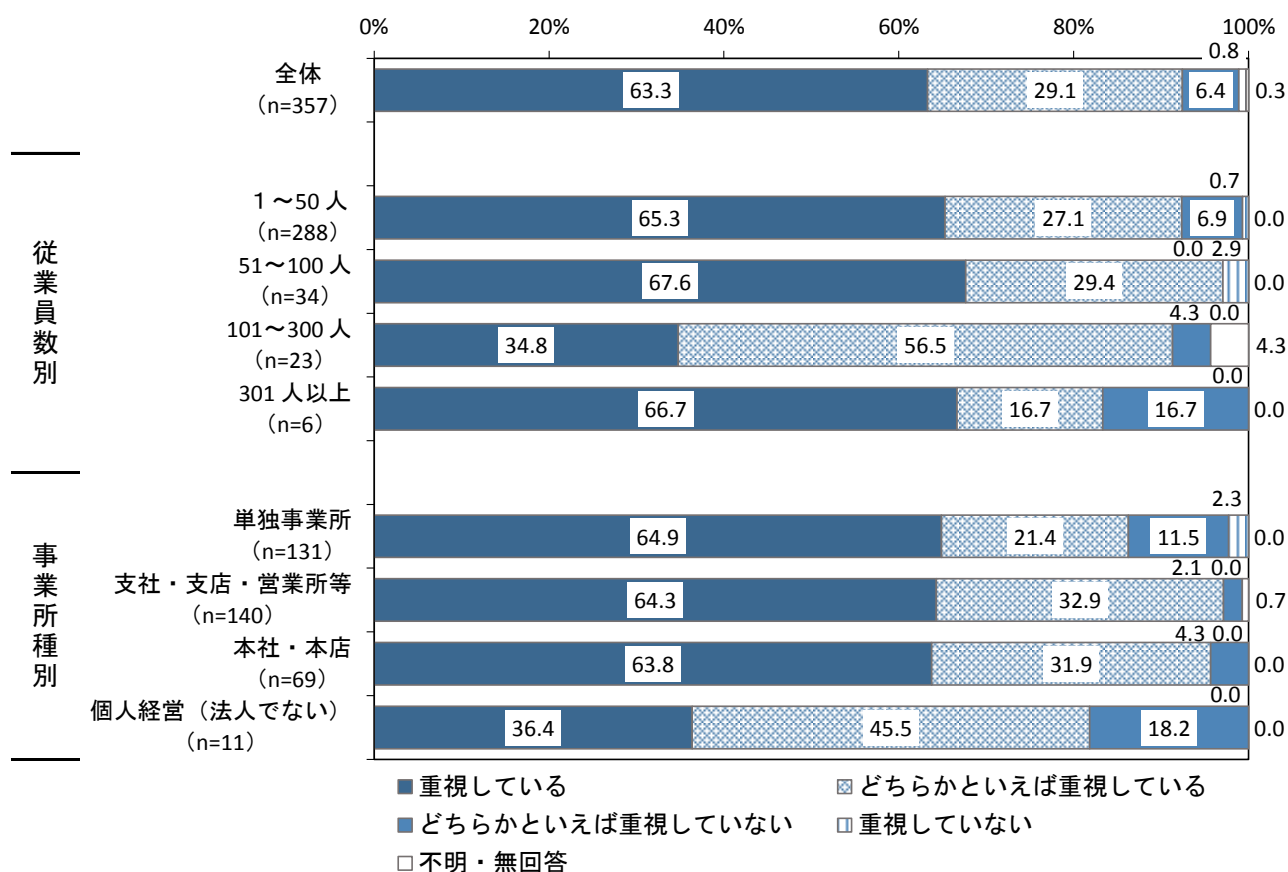


④若年者の雇用拡大

人事の方針で重視していることについて、「若年者の雇用拡大」では、「重視している」が63.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば重視している」が29.1%、「どちらかといえば重視していない」が6.4%と続いています。

事業所種別で見ると、「重視している」では、単独事業所が64.9%で最も高くなっています。

図表 4-2-5 人事の方針で重視していること ④若年者の雇用拡大

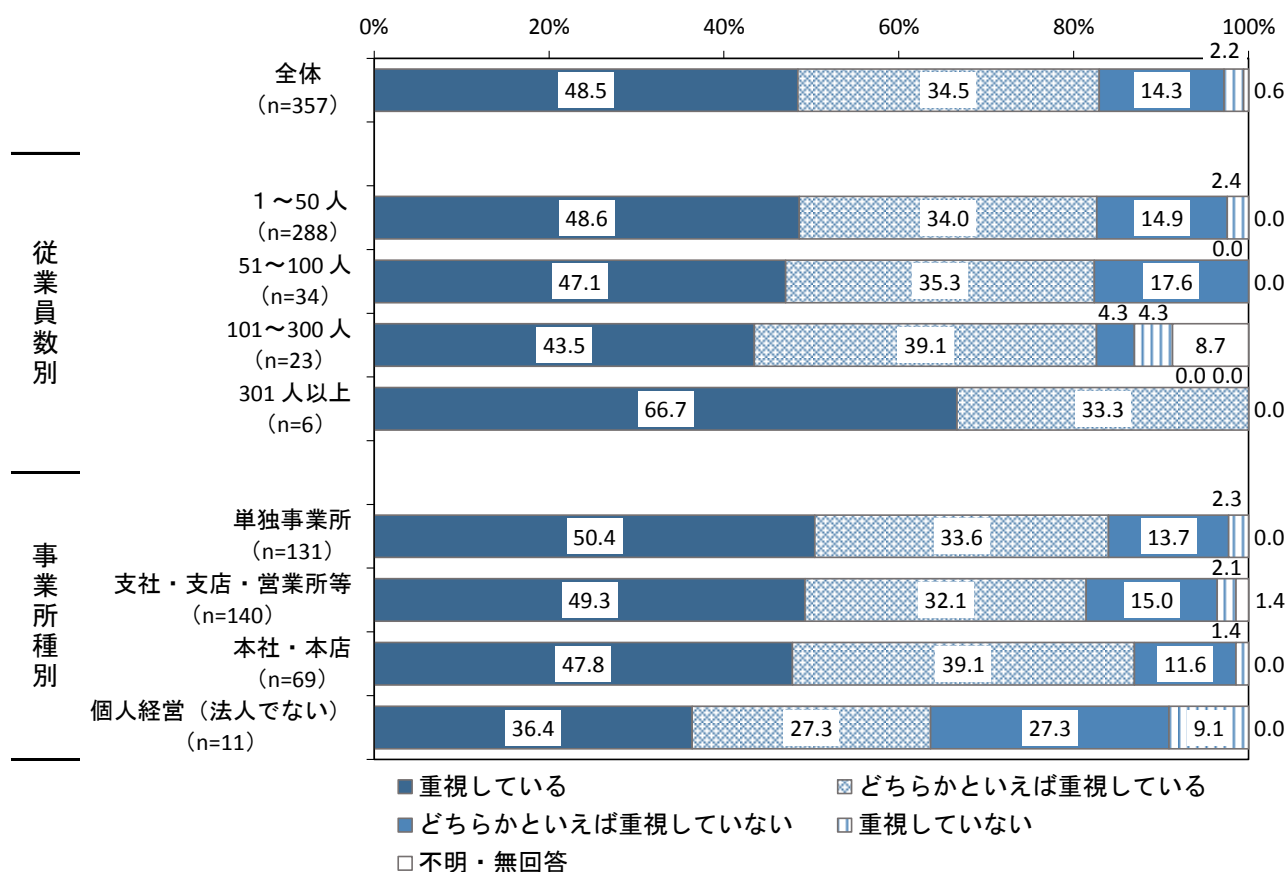


⑤高齢者の継続雇用と活用

人事の方針で重視していることについて、「高齢者の継続雇用と活用」では、「重視している」が48.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば重視している」が34.5%、「どちらかといえば重視していない」が14.3%と続いています。

事業所種別で見ると、「重視している」では、単独事業所が50.4%で最も高くなっています。

図表 4-2-6 人事の方針で重視していること ⑤高齢者の継続雇用と活用

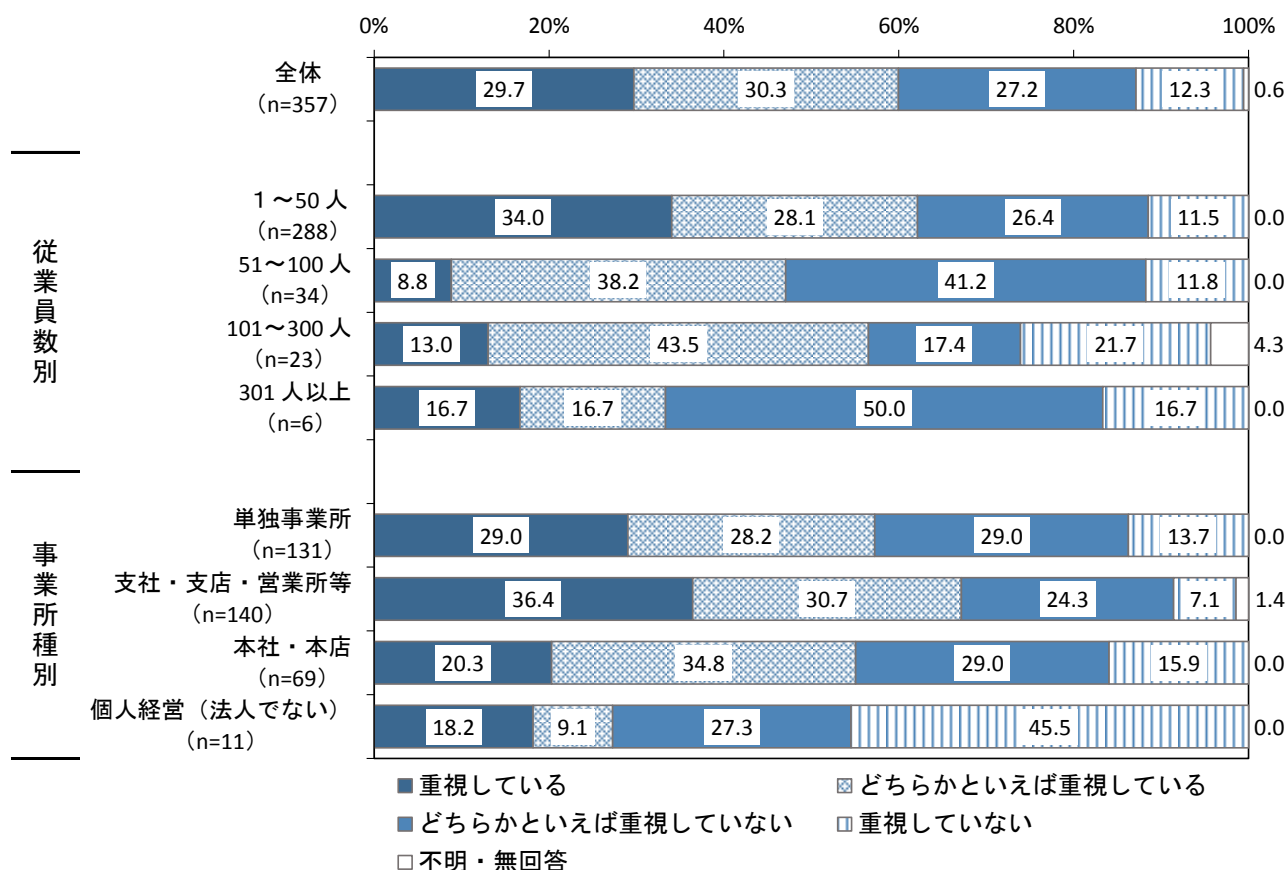


⑥社内公募制度等の社員の希望を重視した配置

人事の方針で重視していることについて、「社内公募制度等の社員の希望を重視した配置」では、「どちらかといえば重視している」が30.3%で最も高く、次いで「重視している」が29.7%、「どちらかといえば重視していない」が27.2%と続いています。

事業所種別で見ると、「重視している」では、支社・支店・営業所等が36.4%で最も高くなっています。

図表 4-2-7 人事の方針で重視していること ⑥社内公募制度等の社員の希望を重視した配置

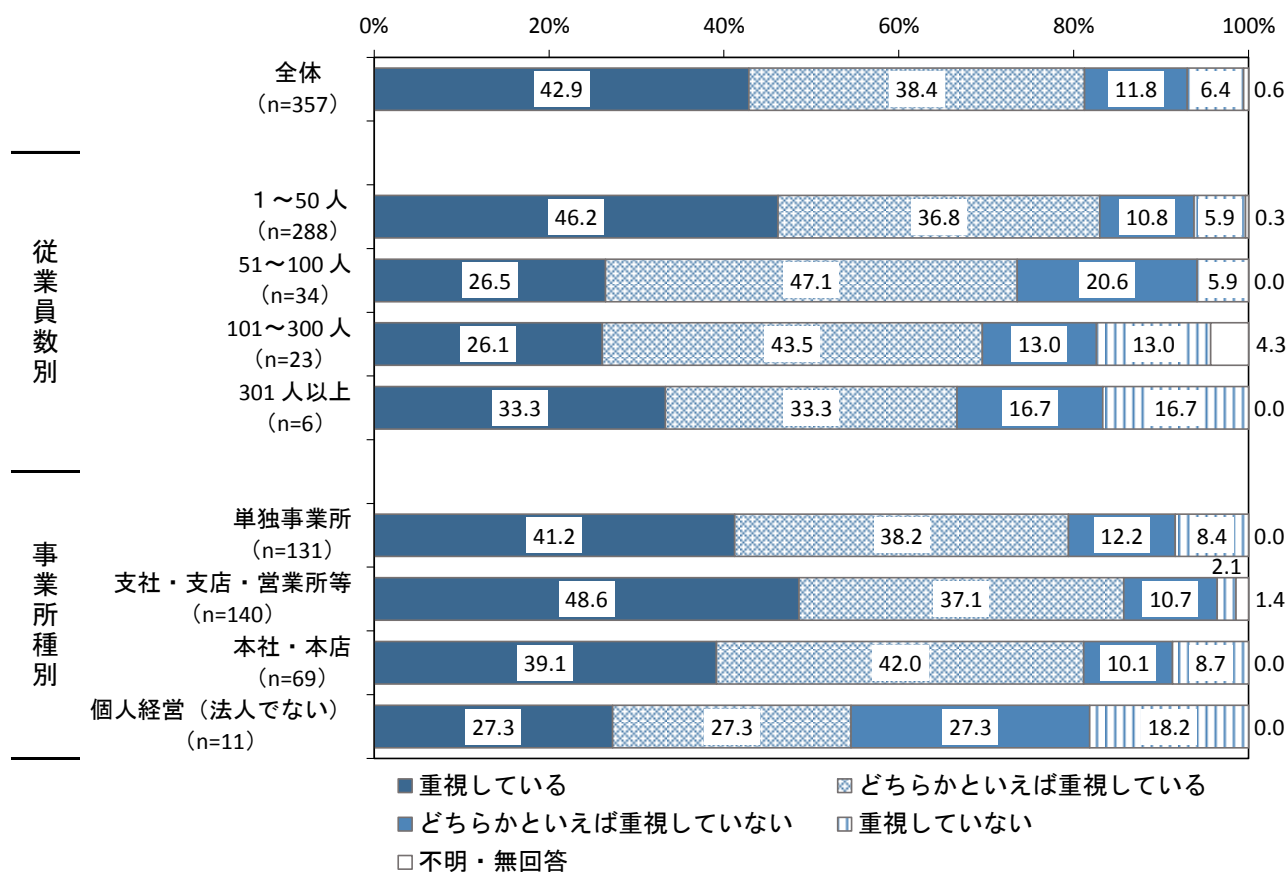


⑦業績評価の拡大

人事の方針で重視していることについて、「業績評価の拡大」では、「重視している」が42.9%で最も高く、次いで「どちらかといえば重視している」が38.4%、「どちらかといえば重視していない」が11.8%と続いています。

事業所種別で見ると、「重視している」では、支社・支店・営業所等が48.6%で最も高くなっています。

図表 4-2-8 人事の方針で重視していること ⑦業績評価の拡大

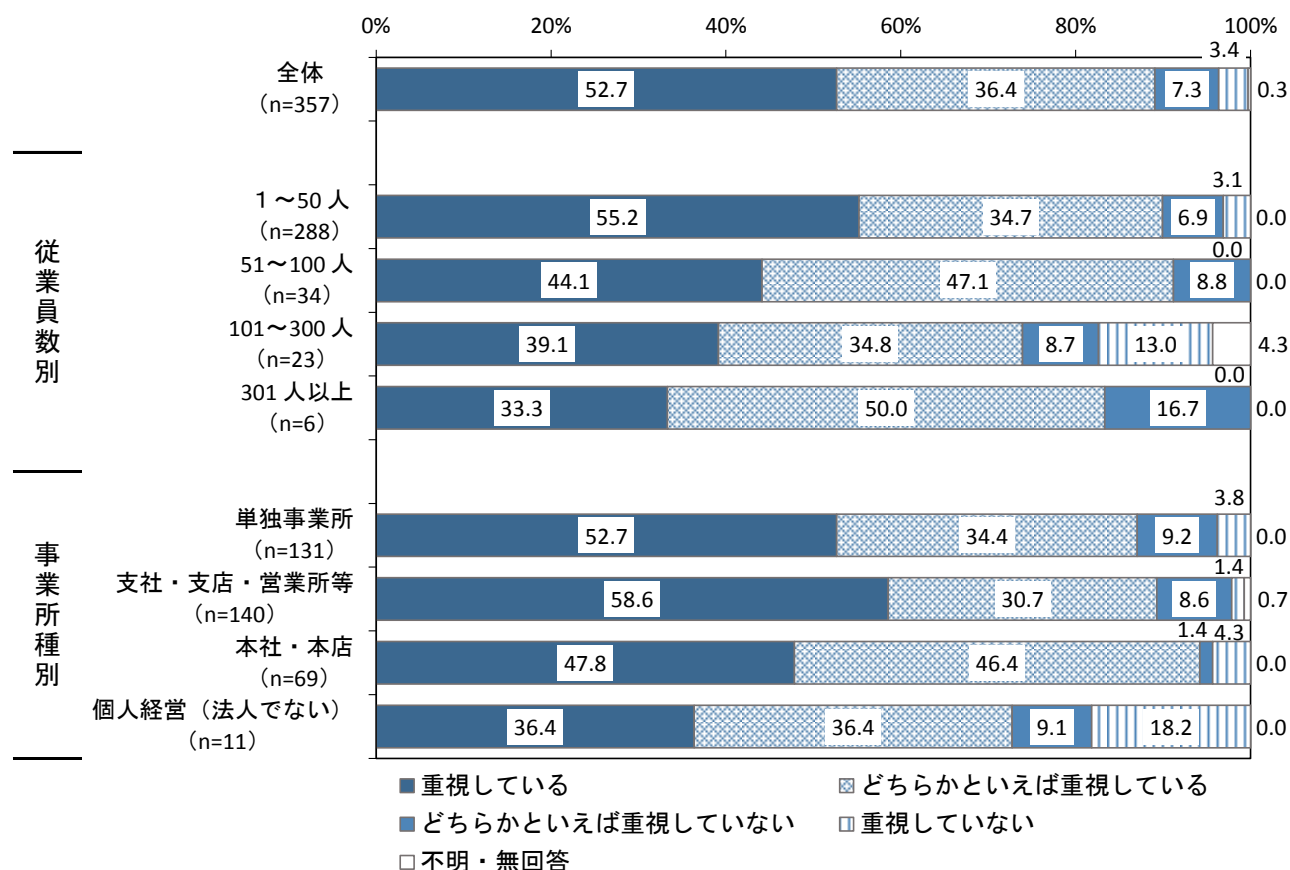


⑧評価における公平性・納得性の確立

人事の方針で重視していることについて、「評価における公平性・納得性の確立」では、「重視している」が52.7%で最も高く、次いで「どちらかといえば重視している」が36.4%、「どちらかといえば重視していない」が7.3%と続いています。

事業所種別で見ると、「重視している」では、支社・支店・営業所等が58.6%で最も高くなっています。

図表 4-2-9 人事の方針で重視していること ⑧評価における公平性・納得性の確立

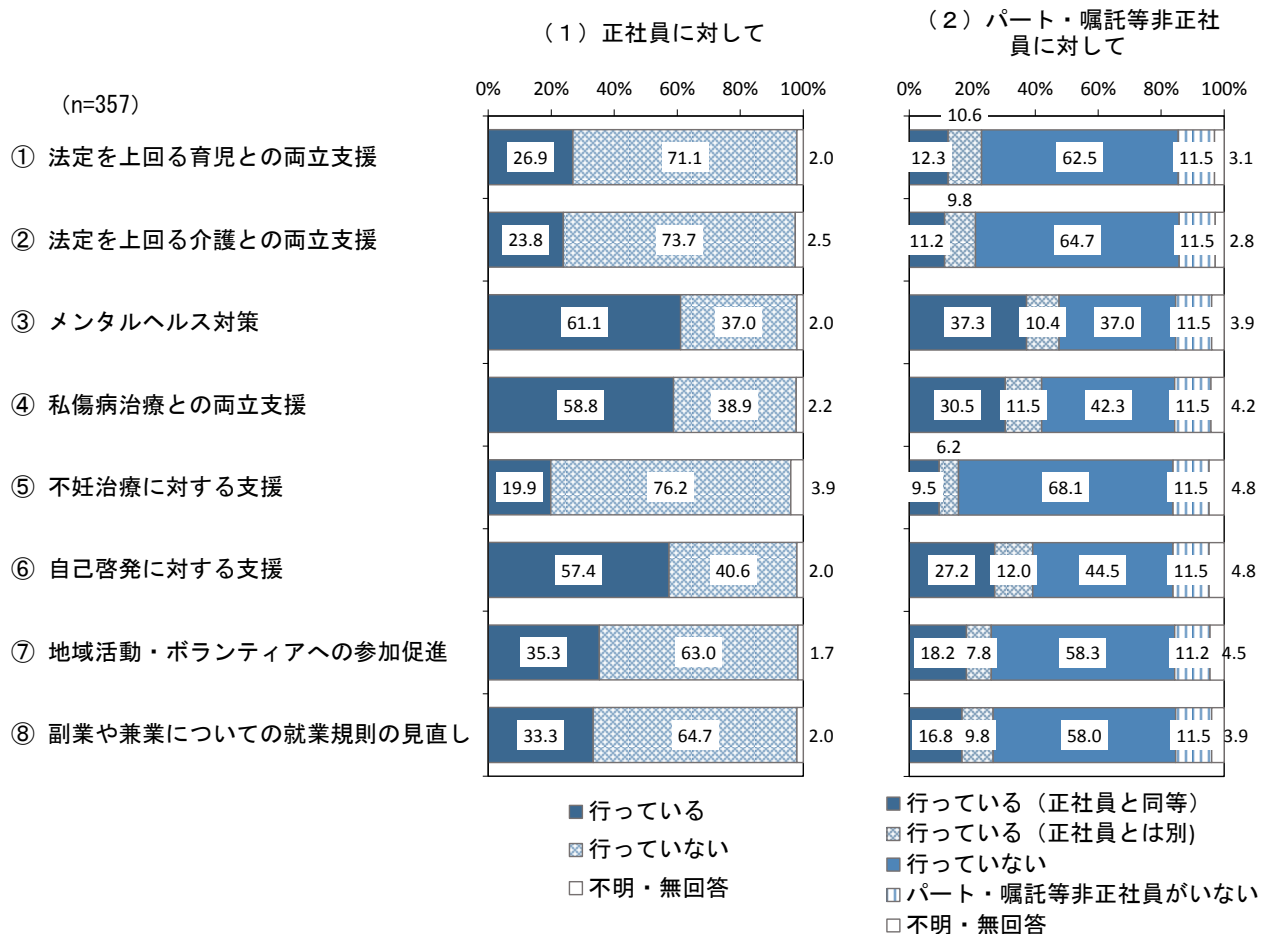


(2) 従業員に対する支援や取組

問 9	貴事業所では以下の①～⑧について、何らかの支援や取組を行っていますか。 (1) 正社員、(2) パート・嘱託等非正社員の別にそれぞれお答えください。 ((1)、(2) について、①～⑧それぞれ、○は1つ)

従業員に対する支援や取組について、正社員でみると、「行っている」では、「③ メンタルヘルス対策」が61.1%で最も高く、次いで「④ 私傷病治療との両立支援」が58.8%、「⑥ 自己啓発に対する支援」が57.4%と続いており、パート・嘱託等非正社員でみると、『行っている』（「行っている（正社員と同等）」と「行っている（正社員とは別）」の合計）では、「③ メンタルヘルス対策」が47.7%で最も高く、次いで「④ 私傷病治療との両立支援」が42.0%、「⑥ 自己啓発に対する支援」が39.2%と続いています。

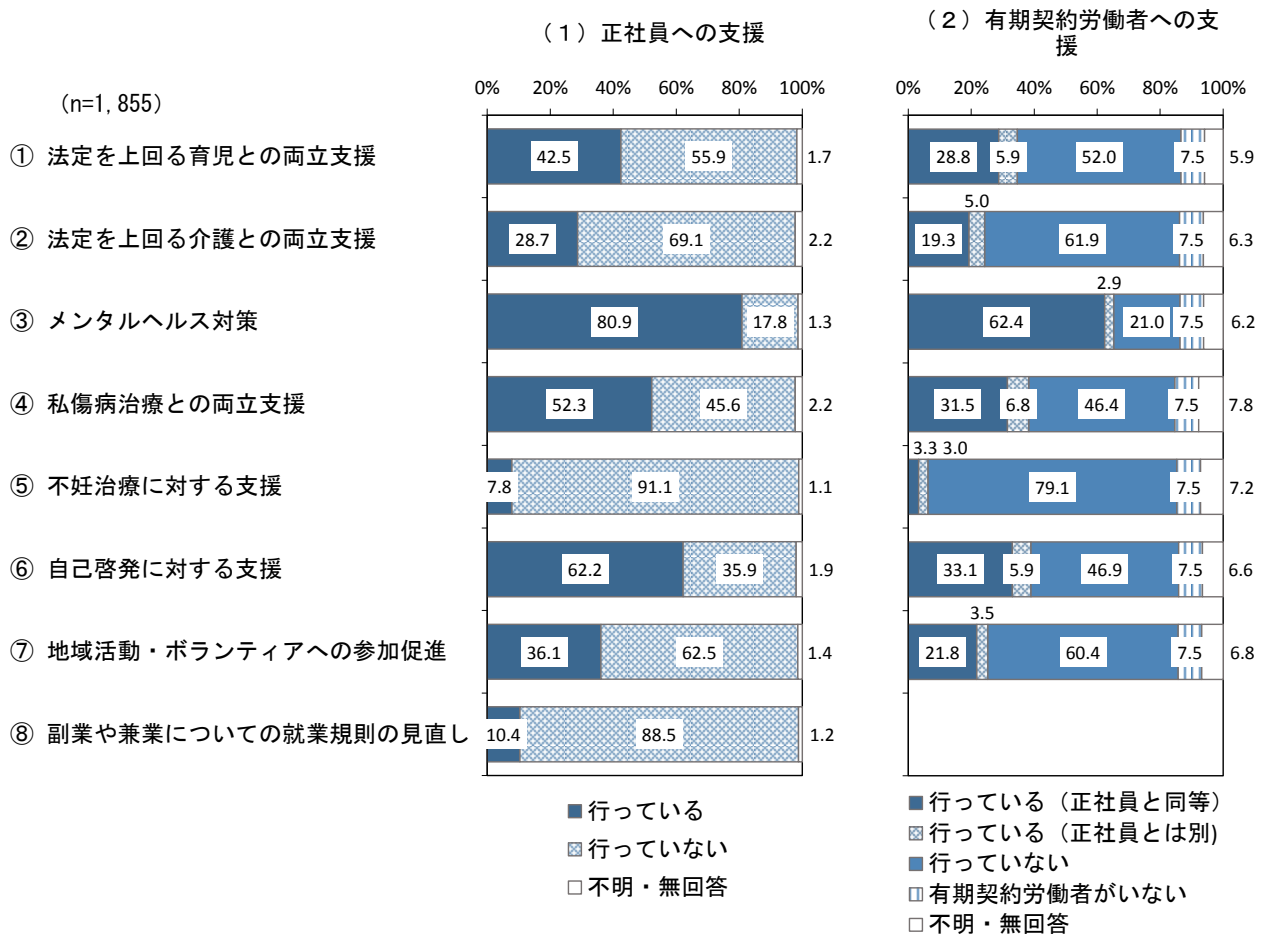
図表 4-2-10 従業員に対する支援や取組



国調査と比較すると、正社員の「行っている」では、「⑧ 副業や兼業についての就業規則の見直し」が国調査より 22.9 ポイント高く、最も差が大きい項目となっており、次いで差が大きい項目として、「③ メンタルヘルス対策」が国調査より 19.8 ポイント低くなっています。

パート・嘱託等非正社員（国調査は「有期契約労働者」）でみると、『行っている』では、「③ メンタルヘルス対策」が国調査より 17.6 ポイント低く、最も差が大きい項目となっており、次いで差が大きい項目として、「① 法定を上回る育児との両立支援」が国調査より 11.8 ポイント低くなっています。

図表 4-2-11 従業員に対する支援や取組 平成 30 年度国調査

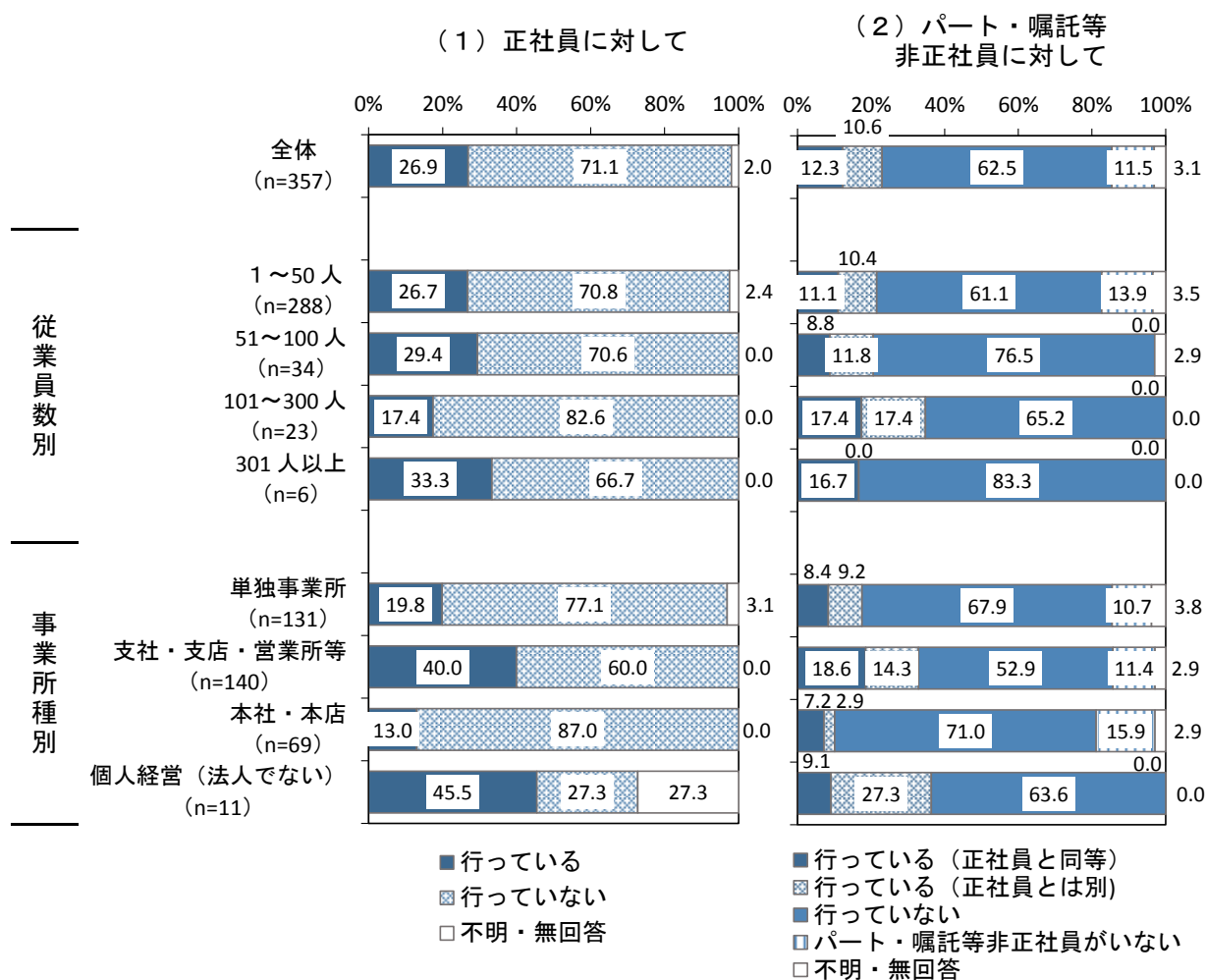


平成 30 年度国調査：企業等における仕事と生活の調和に関する調査研究報告書（平成 31 年 3 月）

①法定を上回る育児との両立支援

従業員に対する支援や取組について、「法定を上回る育児との両立支援」を事業所種別でみると、正社員の「行っている」では、支社・支店・営業所等が40.0%で最も高く、パート・嘱託等非正社員の『行っている』では、個人経営（法人でない）が36.4%で最も高くなっています。

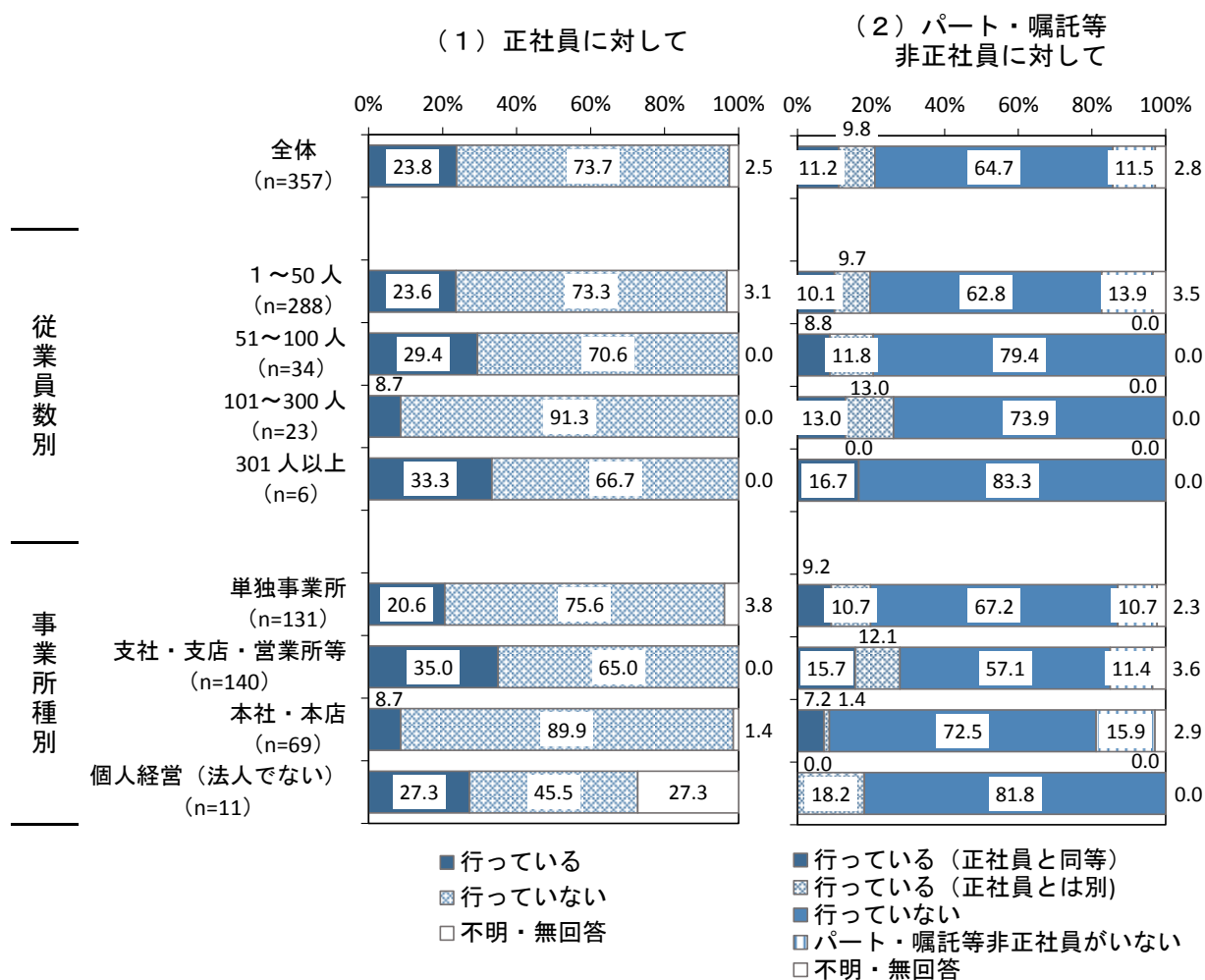
図表 4-2-12 従業員に対する支援や取組 ①法定を上回る育児との両立支援



②法定を上回る介護との両立支援

従業員に対する支援や取組について、「法定を上回る介護との両立支援」を事業所種別でみると、正社員の「行っている」では、支社・支店・営業所等が35.0%で最も高く、パート・嘱託等非正社員の『行っている』では、支社・支店・営業所等が27.8%で最も高くなっています。

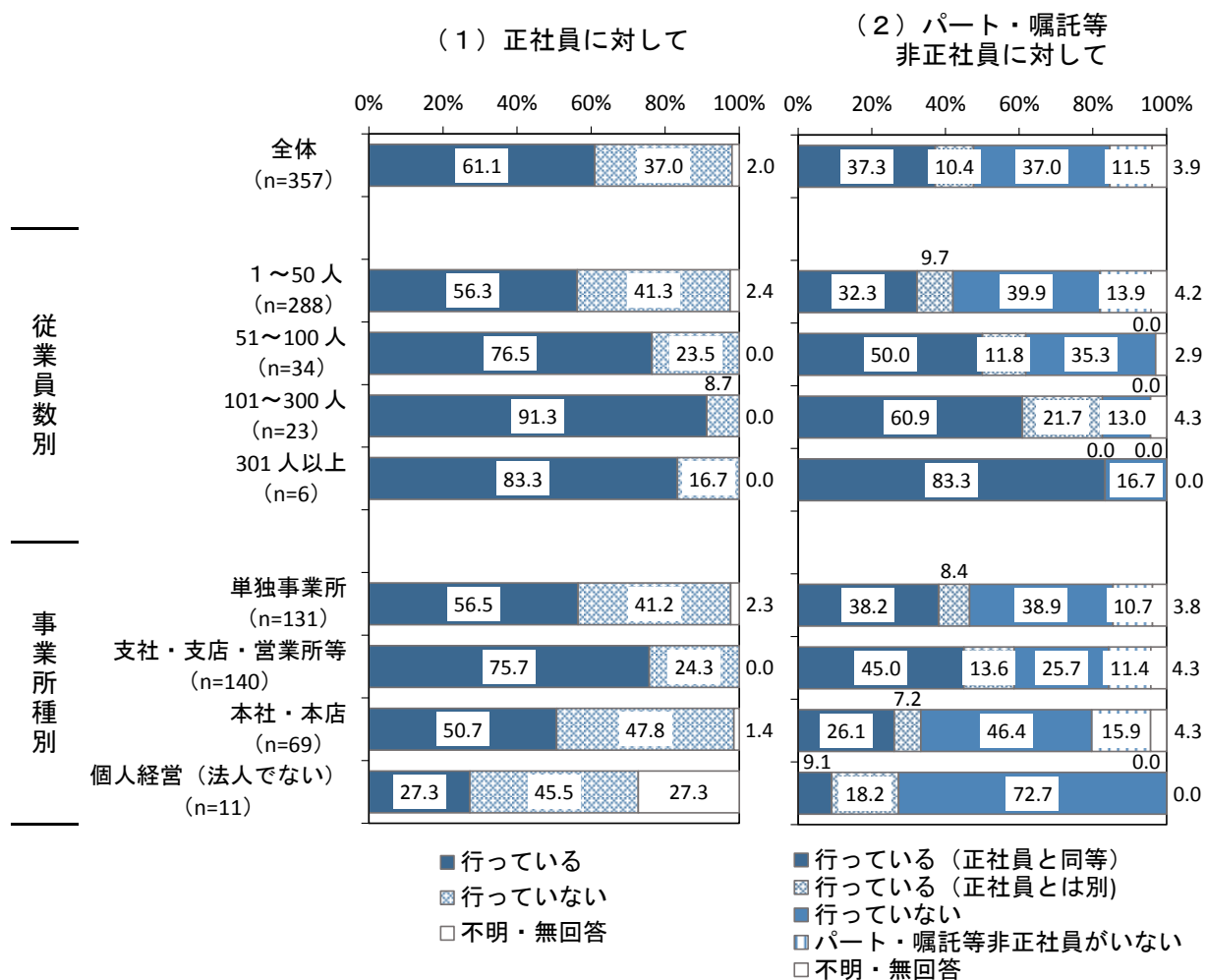
図表 4-2-13 従業員に対する支援や取組 ②法定を上回る介護との両立支援



③メンタルヘルス対策

従業員に対する支援や取組について、「メンタルヘルス対策」を事業所種別でみると、正社員の「行っている」では、支社・支店・営業所等が75.7%で最も高く、パート・嘱託等非正社員の『行っている』では、支社・支店・営業所等が58.6%で最も高くなっています。

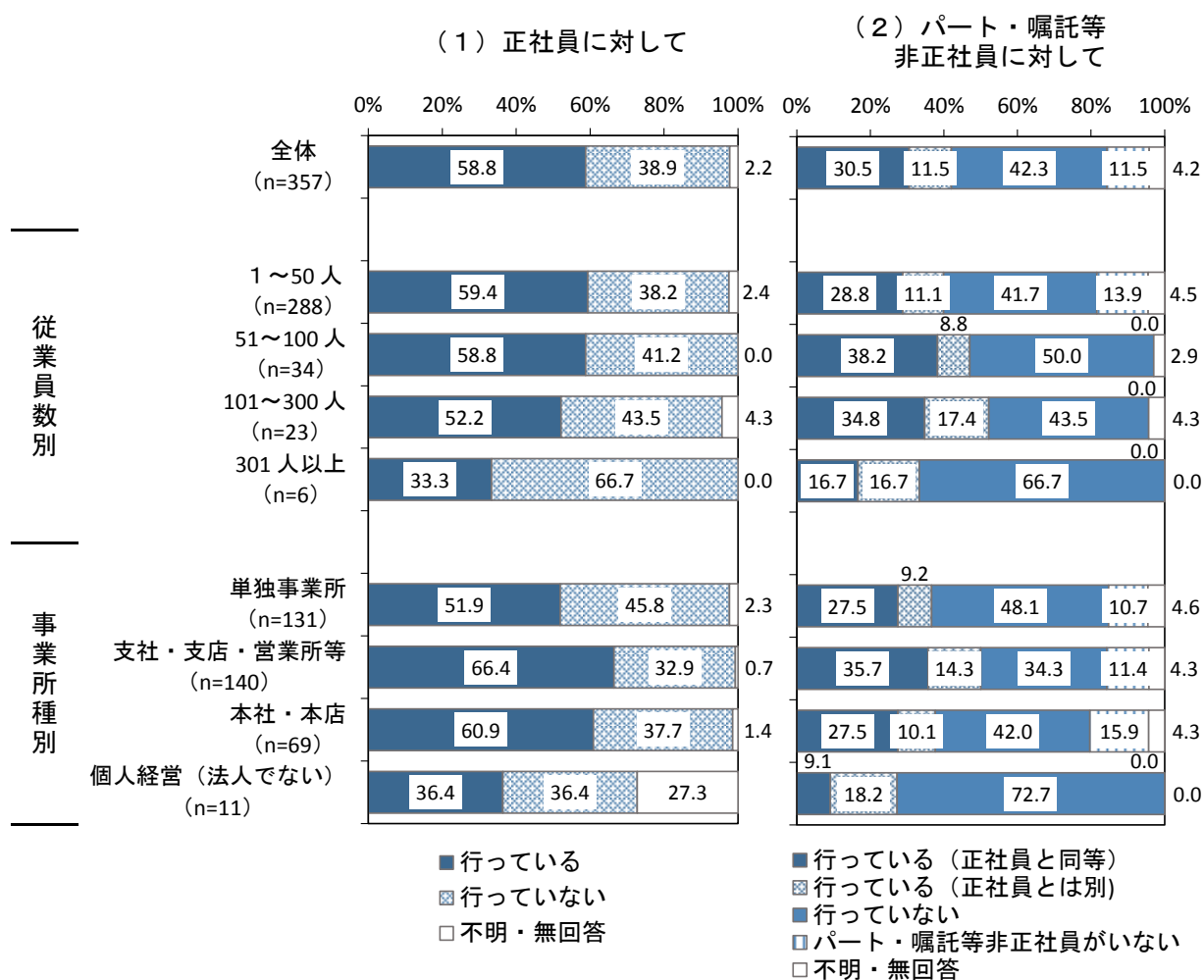
図表 4-2-14 従業員に対する支援や取組 ③メンタルヘルス対策



④私傷病治療との両立支援

従業員に対する支援や取組について、「私傷病治療との両立支援」を事業所種別でみると、正社員の「行っている」では、支社・支店・営業所等が66.4%で最も高く、パート・嘱託等非正社員の『行っている』では、支社・支店・営業所等が50.0%で最も高くなっています。

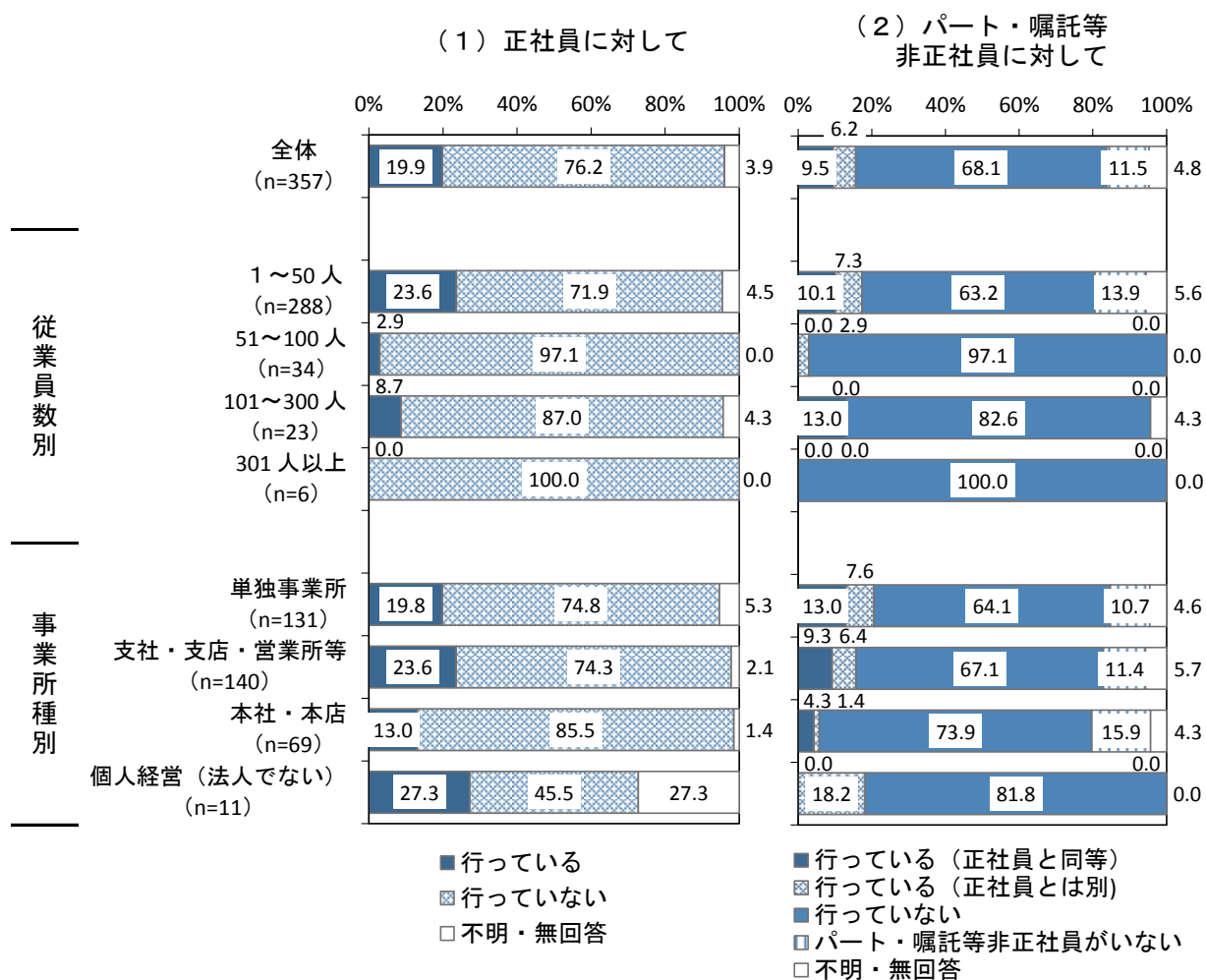
図表 4-2-15 従業員に対する支援や取組 ④私傷病治療との両立支援



⑤不妊治療に対する支援

従業員に対する支援や取組について、「不妊治療に対する支援」を事業所種別でみると、正社員の「行っている」では、個人経営（法人でない）が27.3%で最も高く、パート・嘱託等非正社員の『行っている』では、単独事業所が20.6%で最も高くなっています。

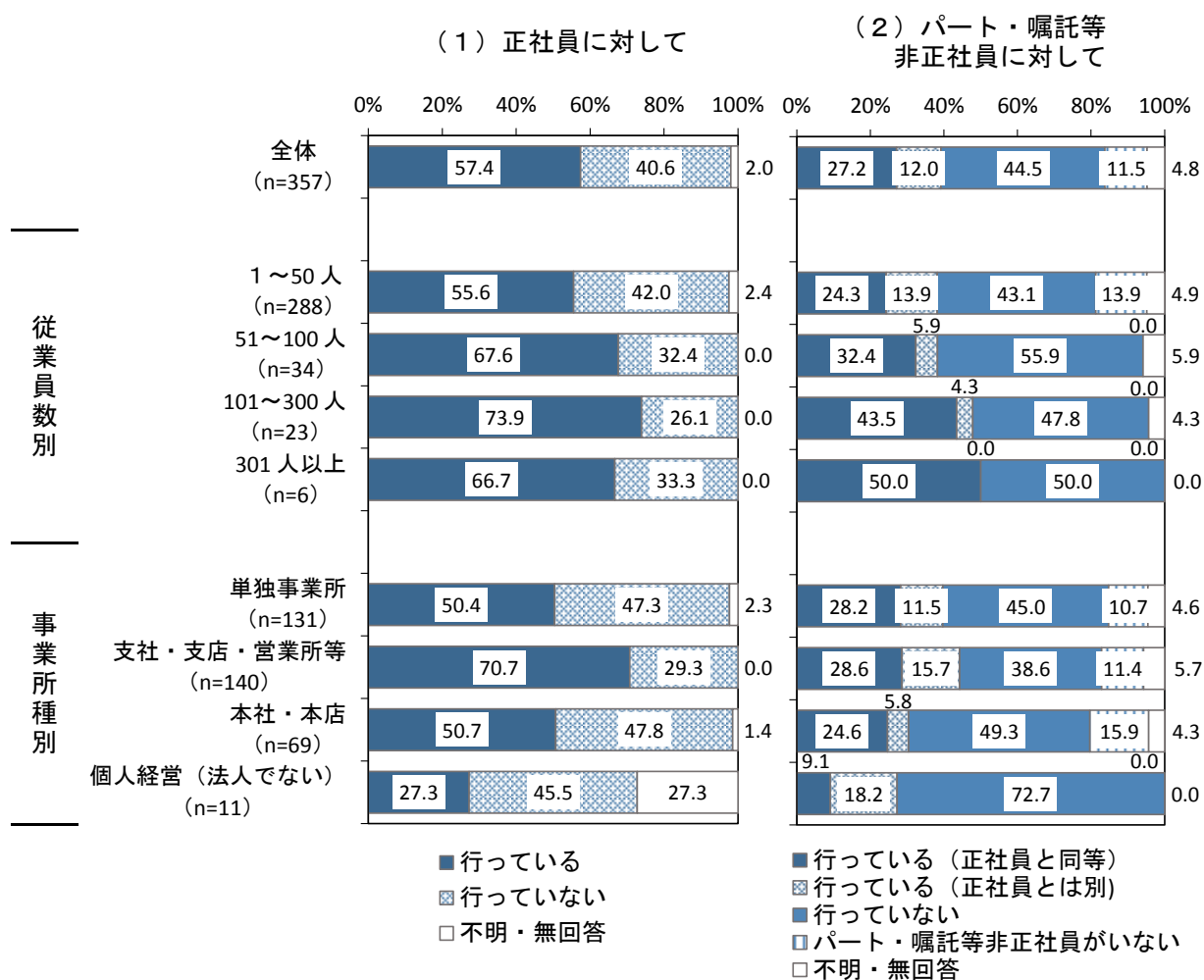
図表 4-2-16 従業員に対する支援や取組 ⑤不妊治療に対する支援



⑥自己啓発に対する支援

従業員に対する支援や取組について、「自己啓発に対する支援」を事業所種別でみると、正社員の「行っている」では、支社・支店・営業所等が70.7%で最も高く、パート・嘱託等非正社員の『行っている』では、支社・支店・営業所等が44.3%で最も高くなっています。

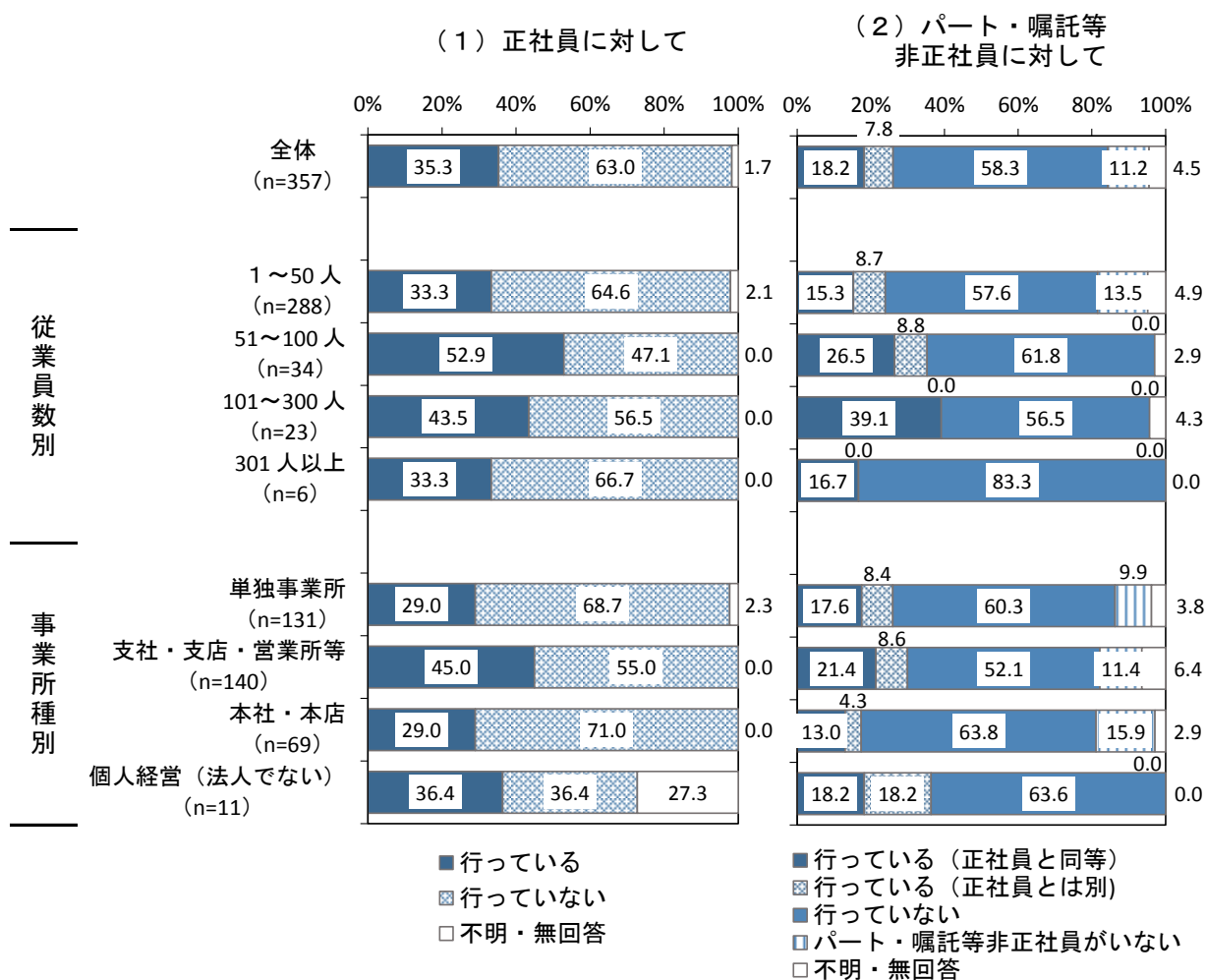
図表 4-2-17 従業員に対する支援や取組 ⑥自己啓発に対する支援



⑦地域活動・ボランティアへの参加促進

従業員に対する支援や取組について、「地域活動・ボランティアへの参加促進」を事業所種別でみると、正社員の「行っている」では、支社・支店・営業所等が45.0%で最も高く、パート・嘱託等非正社員の『行っている』では、個人経営（法人でない）が36.4%で最も高くなっています。

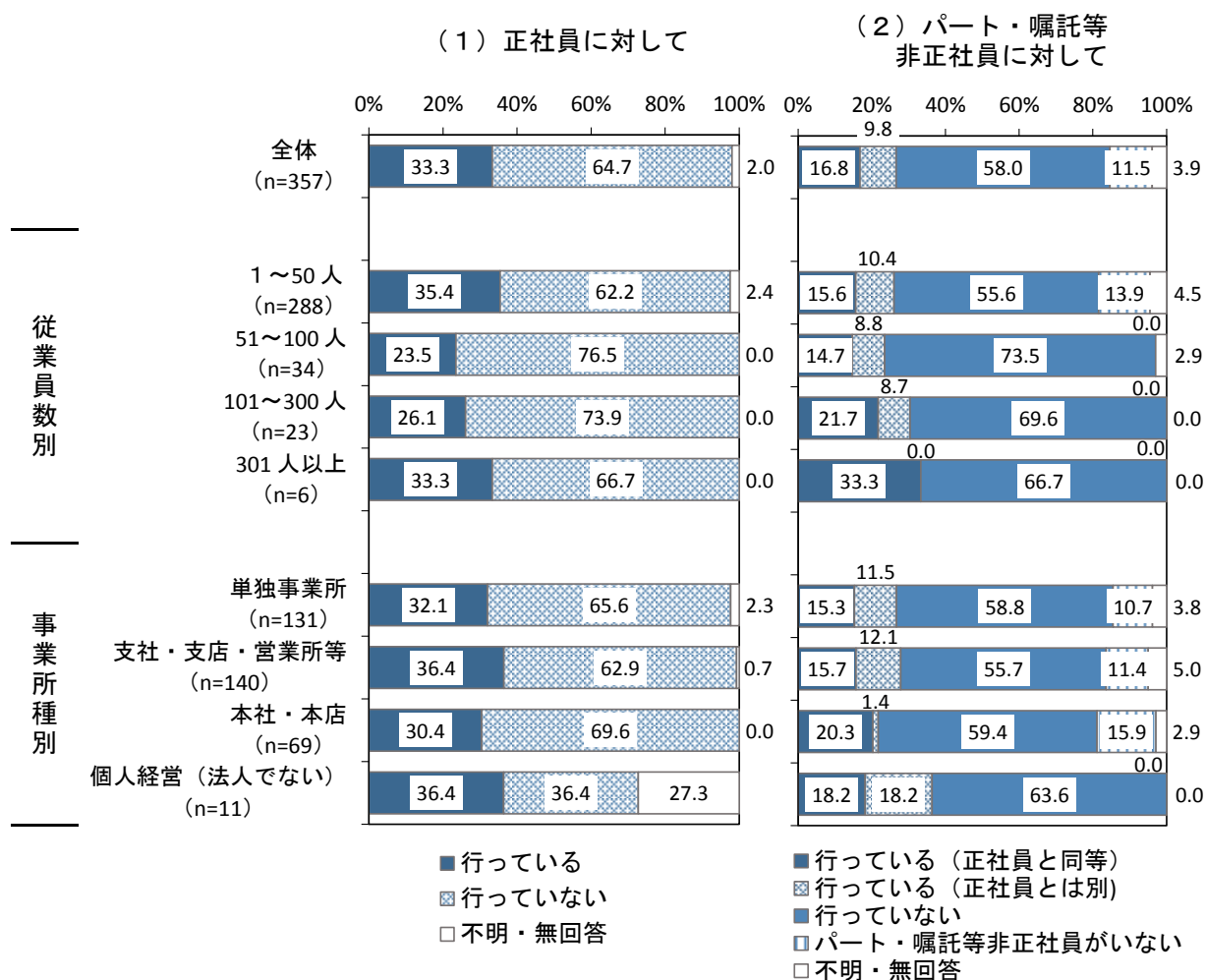
図表 4-2-18 従業員に対する支援や取組 ⑦地域活動・ボランティアへの参加促進



⑧副業や兼業についての就業規則の見直し

従業員に対する支援や取組について、「副業や兼業についての就業規則の見直し」を事業所種別でみると、正社員の「行っている」では、支社・支店・営業所等、個人経営（法人でない）がいずれも36.4%で最も高く、パート・嘱託等非正社員の『行っている』では、個人経営（法人でない）が36.4%で最も高くなっています。

図表 4-2-19 従業員に対する支援や取組 ⑧副業や兼業についての就業規則の見直し

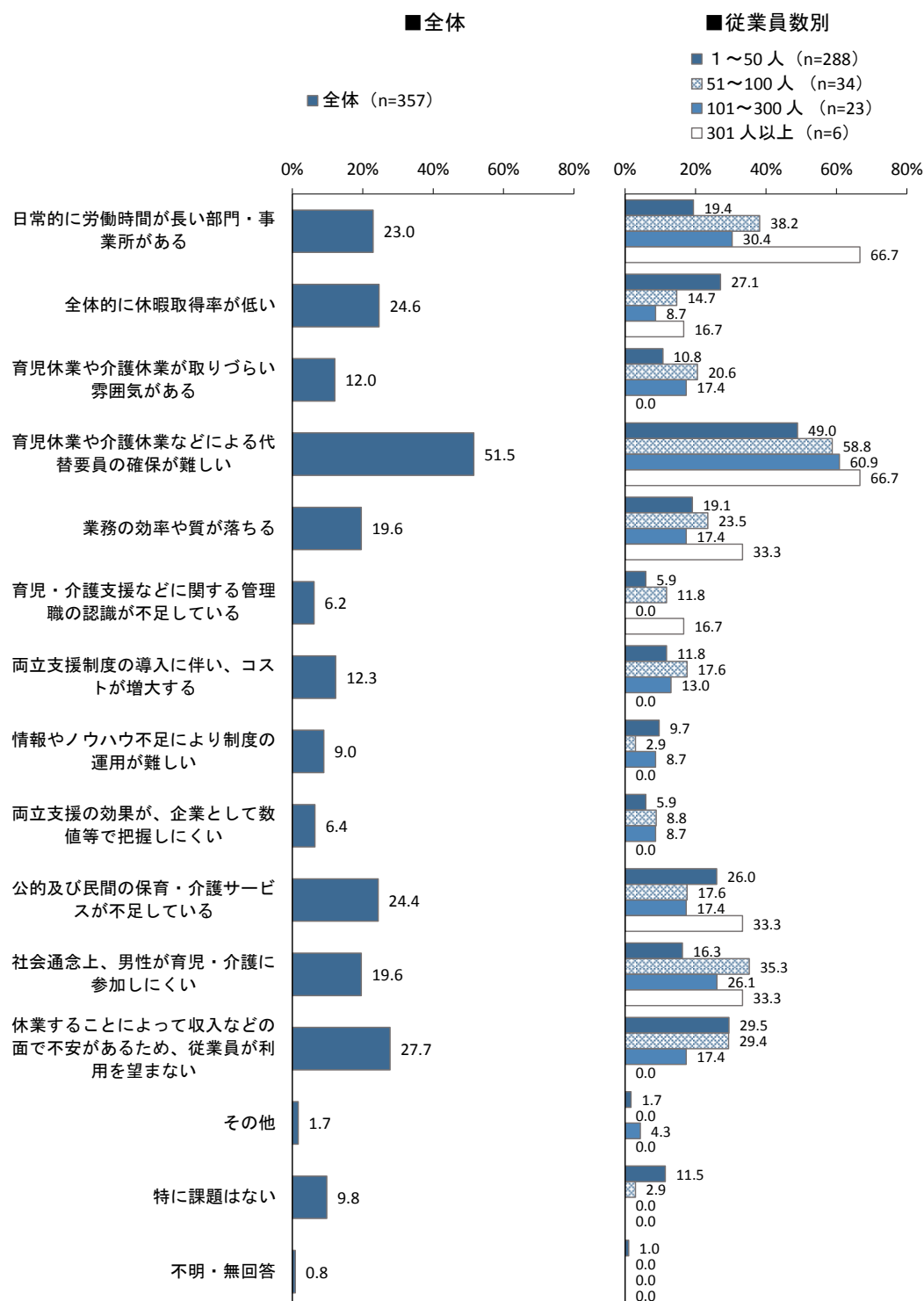


(3) 仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題

問 10	仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合、どのような課題があると思いますか。(〇はいくつでも)

仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題については、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が 51.5%で最も高く、次いで「休業することによって収入などの面で不安があるため、従業員が利用を望まない」が 27.7%、「全体的に休暇取得率が低い」が 24.6%と続いています。

図表 4-2-20 仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題



従業員数別でみると、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」では、従業員数が増加するにつれて、割合が高くなっています。

図表 4-2-21 仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題

従業員数別・事業所種別

単位：実数（事業所）、構成比（％）

		合計	日常的に労働時間が長い部門・事業所がある	全体的に休暇取得率が低い	育児休業や介護休業が取りづらく、雰囲気がある	育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい	業務の効率や質が落ちる	育児・介護支援などに関する管理職の認識が不足している	両立支援制度の導入に伴い、コストが増大する	情報やノウハウ不足により制度の運用が難しい	両立支援の効果、企業として数値等で把握しにくい	公共的及び民間の保育・介護サービスが不足している
全体		357	23.0	24.6	12.0	51.5	19.6	6.2	12.3	9.0	6.4	24.4
従業員数別	1～50 人	288	19.4	27.1	10.8	49.0	19.1	5.9	11.8	9.7	5.9	26.0
	51～100 人	34	38.2	14.7	20.6	58.8	23.5	11.8	17.6	2.9	8.8	17.6
	101～300 人	23	30.4	8.7	17.4	60.9	17.4	0.0	13.0	8.7	8.7	17.4
	301 人以上	6	66.7	16.7	0.0	66.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3
事業所種別	単独事業所	131	16.8	22.9	8.4	51.9	25.2	3.8	12.2	9.9	4.6	22.9
	支社・支店・営業所等	140	27.9	27.9	12.9	47.9	15.0	6.4	10.7	7.1	7.9	26.4
	本社・本店	69	27.5	18.8	15.9	56.5	17.4	10.1	17.4	8.7	7.2	24.6
	個人経営（法人でない）	11	9.1	27.3	9.1	45.5	18.2	9.1	9.1	27.3	9.1	18.2

		合計	社会参加しにくい、男性が育児・介護に参画しない	休業することによって収入が不安定なため、従業員が利用を望まない	その他	特に課題はない	不明・無回答
全体		357	19.6	27.7	1.7	9.8	0.8
従業員数別	1～50 人	288	16.3	29.5	1.7	11.5	1.0
	51～100 人	34	35.3	29.4	0.0	2.9	0.0
	101～300 人	23	26.1	17.4	4.3	0.0	0.0
	301 人以上	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
事業所種別	単独事業所	131	15.3	22.9	3.1	12.2	1.5
	支社・支店・営業所等	140	22.1	32.9	1.4	7.1	0.7
	本社・本店	69	21.7	26.1	0.0	8.7	0.0
	個人経営（法人でない）	11	27.3	18.2	0.0	27.3	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

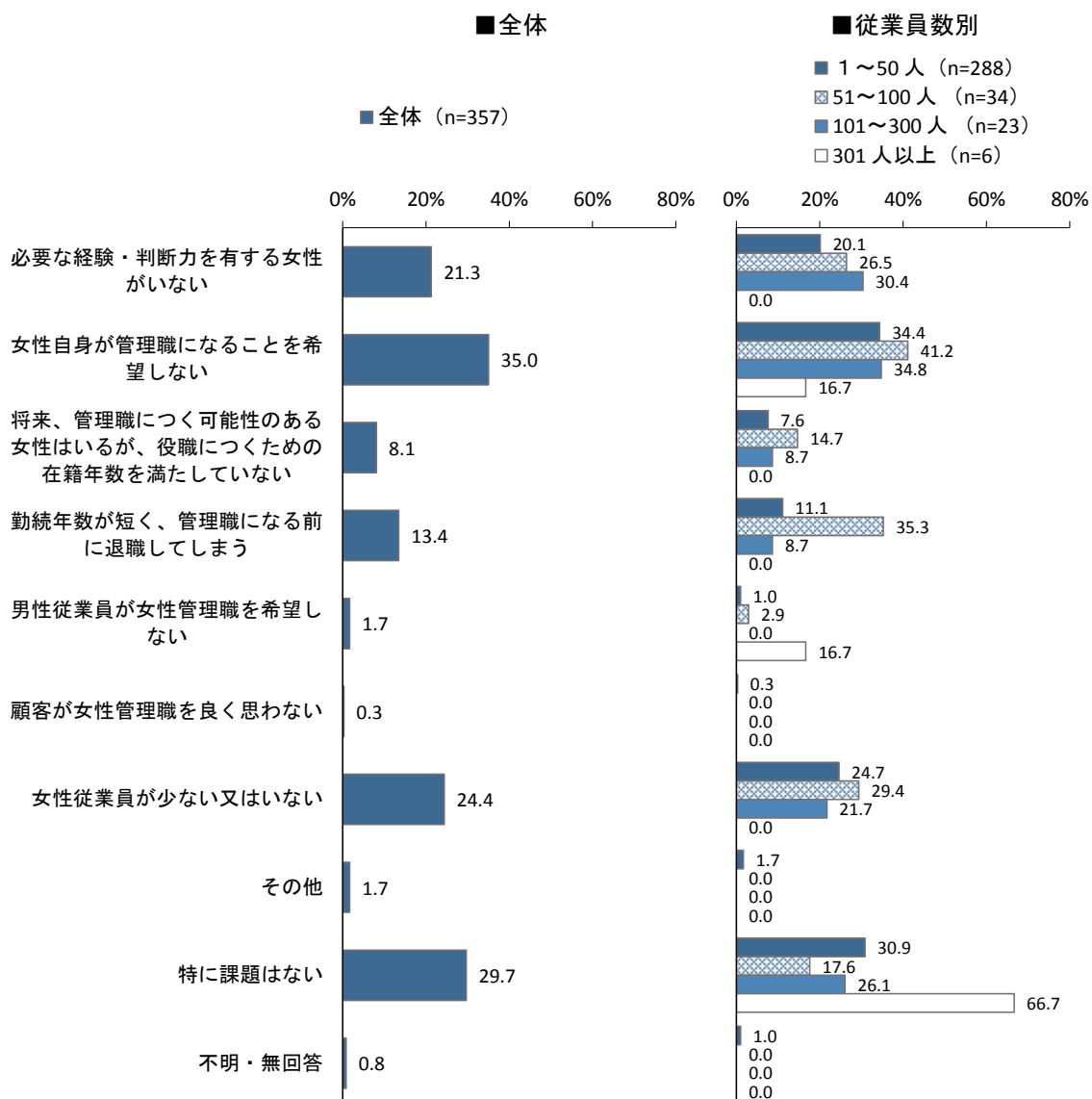
3. 女性の活躍推進について

(1) 女性の管理職登用を促進しようとする場合の課題

問 11	貴事業所で女性の管理職登用を促進しようとする場合、どのような課題がありますか。(〇はいくつでも)

女性の管理職登用を促進しようとする場合の課題については、「女性自身が管理職になることを希望しない」が35.0%で最も高く、次いで「特に課題はない」が29.7%、「女性従業員が少ない又はいない」が24.4%と続いています。

図表 4-3-1 女性の管理職登用を促進しようとする場合の課題



事業所種別でみると、個人経営（法人でない）では「特に課題はない」の割合が最も高く、それ以外の事業所種では「女性自身が管理職になることを希望しない」の割合が最も高くなっています。

単位：実数（事業所）、構成比（％）

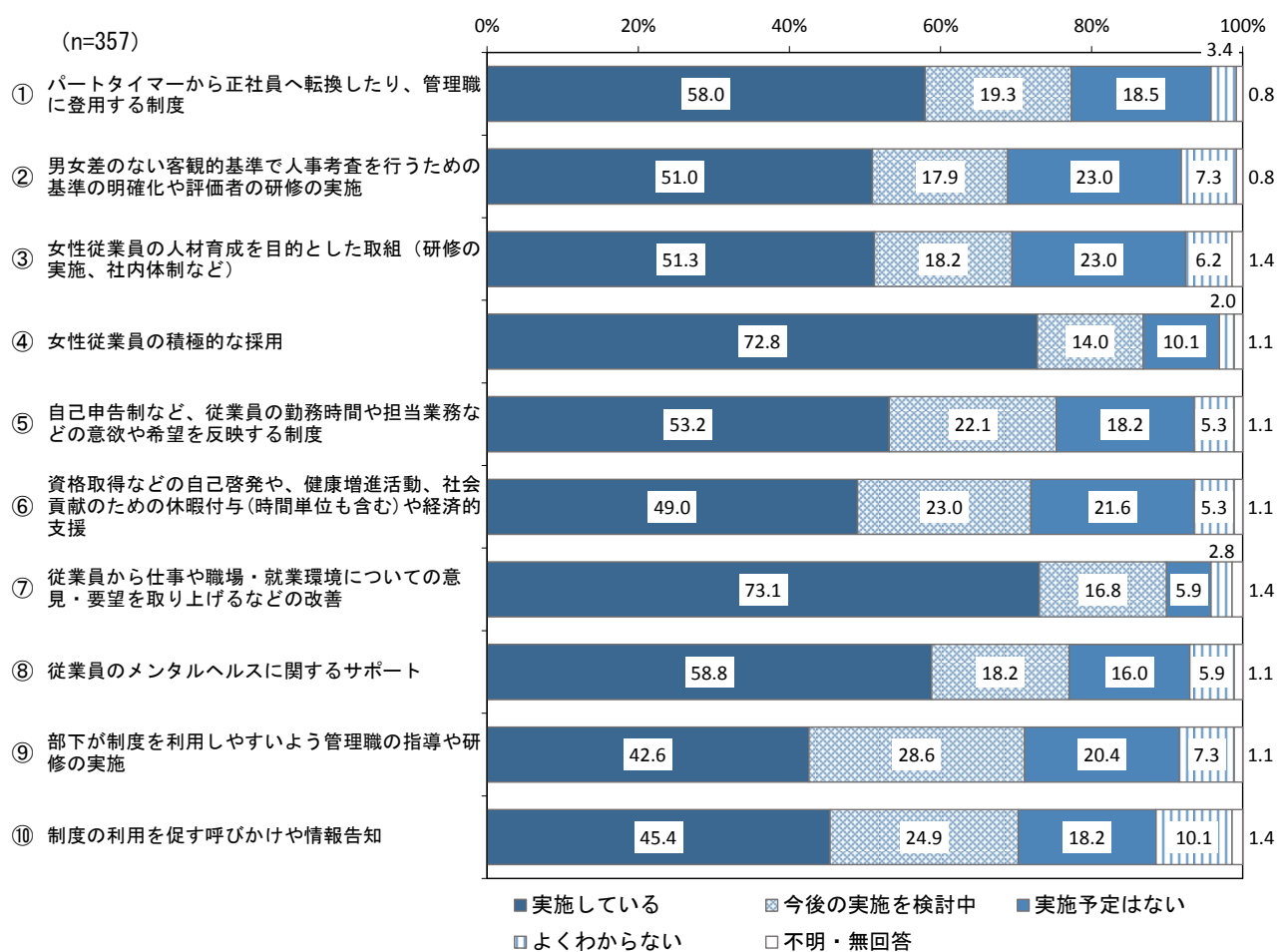
※網掛け■は最も割合が高いもの

(2) 女性の活躍推進のための取組の実施状況

問 12	女性の活躍推進のために、貴事業所では次のような措置を実施していますか。 (各項目に○は1つ)

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「実施している」では、「⑦ 従業員から仕事や職場・就業環境についての意見・要望を取り上げるなどの改善」が73.1%で最も高く、次いで「④ 女性従業員の積極的な採用」が72.8%、「⑧ 従業員のメンタルヘルスに関するサポート」が58.8%と続いています。

図表 4-3-3 女性の活躍推進のための取組の実施状況



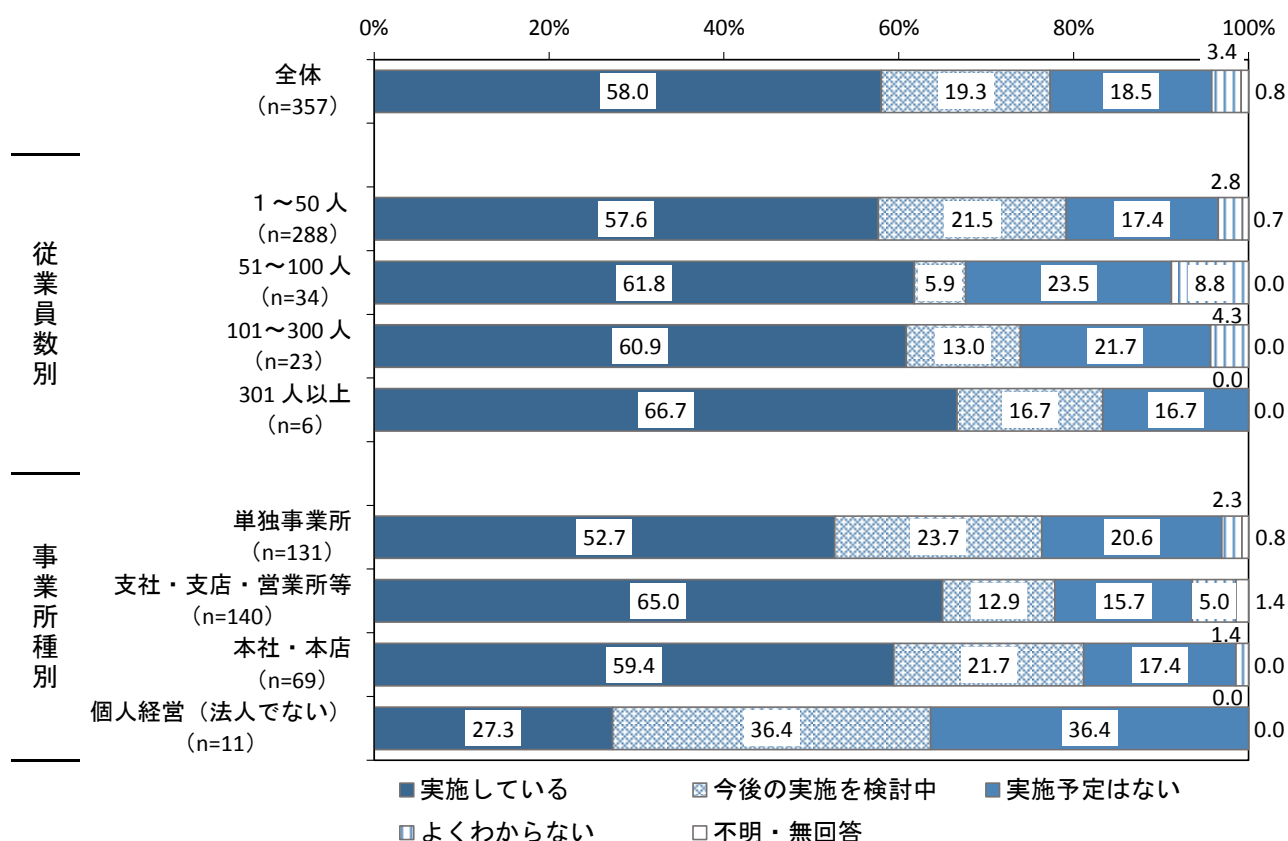
①パートタイマーから正社員へ転換したり、管理職に登用する制度

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「パートタイマーから正社員へ転換したり、管理職に登用する制度」では、「実施している」が 58.0%で最も高く、次いで「今後の実施を検討中」が 19.3%、「実施予定はない」が 18.5%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が 65.0%で最も高くなっています。

図表 4-3-4 女性の活躍推進のための取組の実施状況

①パートタイマーから正社員へ転換したり、管理職に登用する制度



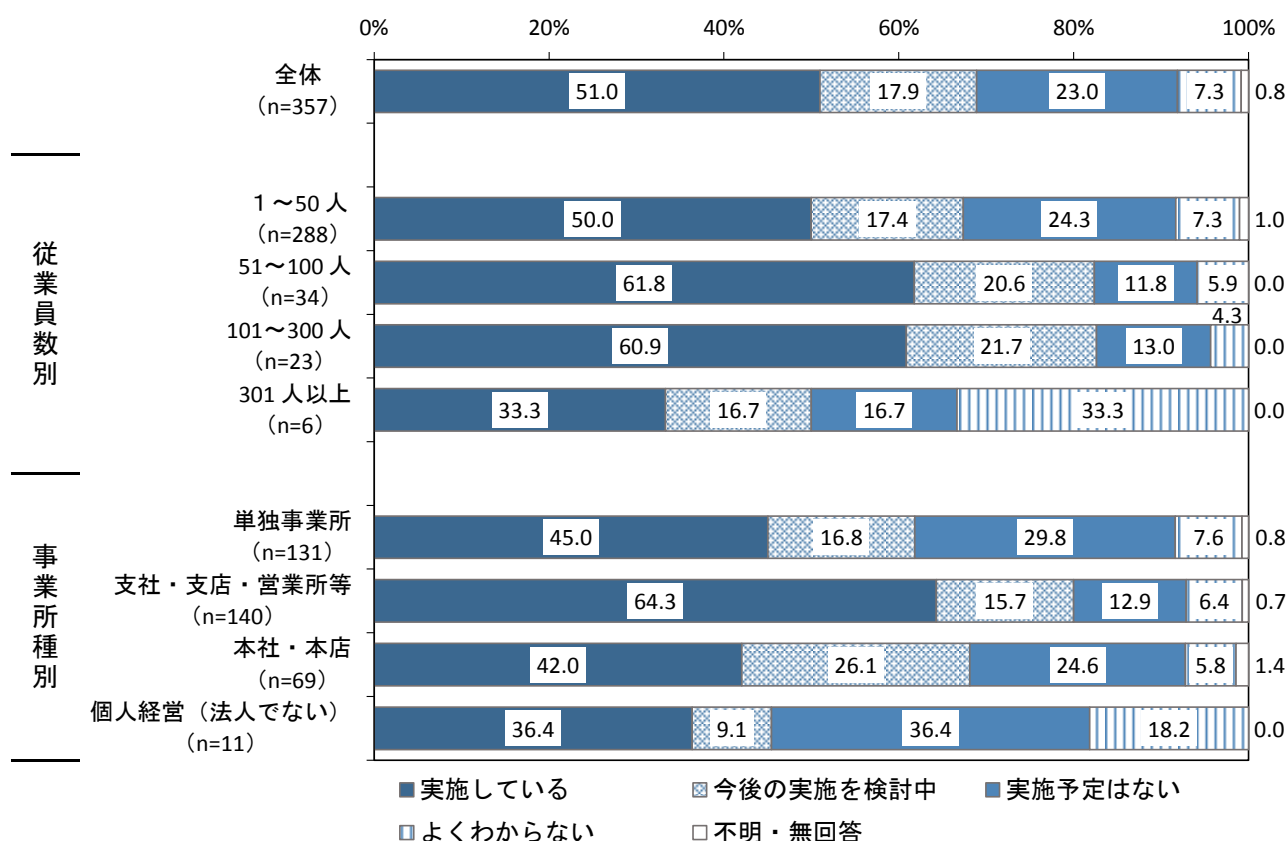
②男女差のない客観的基準で人事考査を行うための基準の明確化や評価者の研修の実施

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「男女差のない客観的基準で人事考査を行うための基準の明確化や評価者の研修の実施」では、「実施している」が 51.0%で最も高く、次いで「実施予定はない」が 23.0%、「今後の実施を検討中」が 17.9%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が 64.3%で最も高くなっています。

図表 4-3-5 女性の活躍推進のための取組の実施状況

②男女差のない客観的基準で人事考査を行うための基準の明確化や評価者の研修の実施



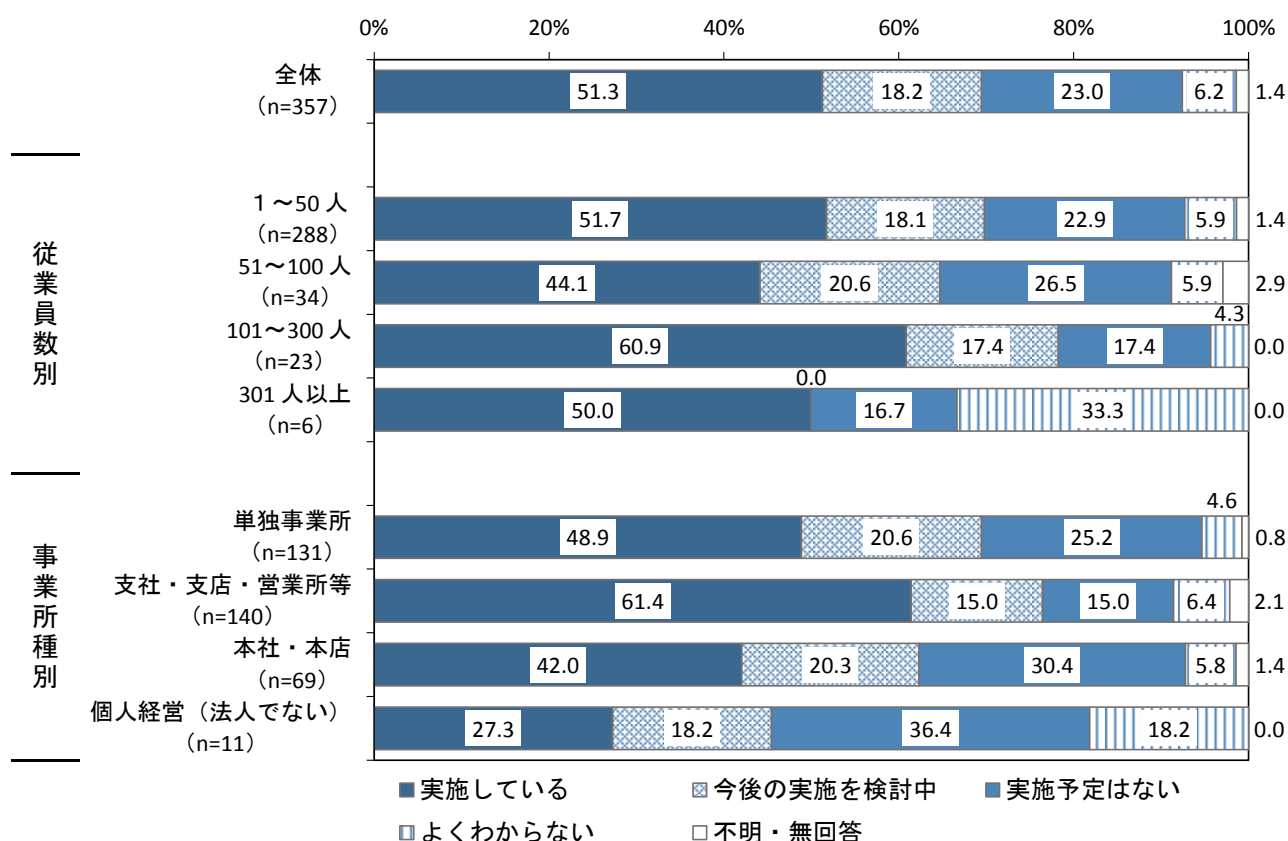
③女性従業員の人材育成を目的とした取組（研修の実施、社内体制など）

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「女性従業員の人材育成を目的とした取組（研修の実施、社内体制など）」では、「実施している」が51.3%で最も高く、次いで「実施予定はない」が23.0%、「今後の実施を検討中」が18.2%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が61.4%で最も高くなっています。

図表 4-3-6 女性の活躍推進のための取組の実施状況

③女性従業員の人材育成を目的とした取組（研修の実施、社内体制など）



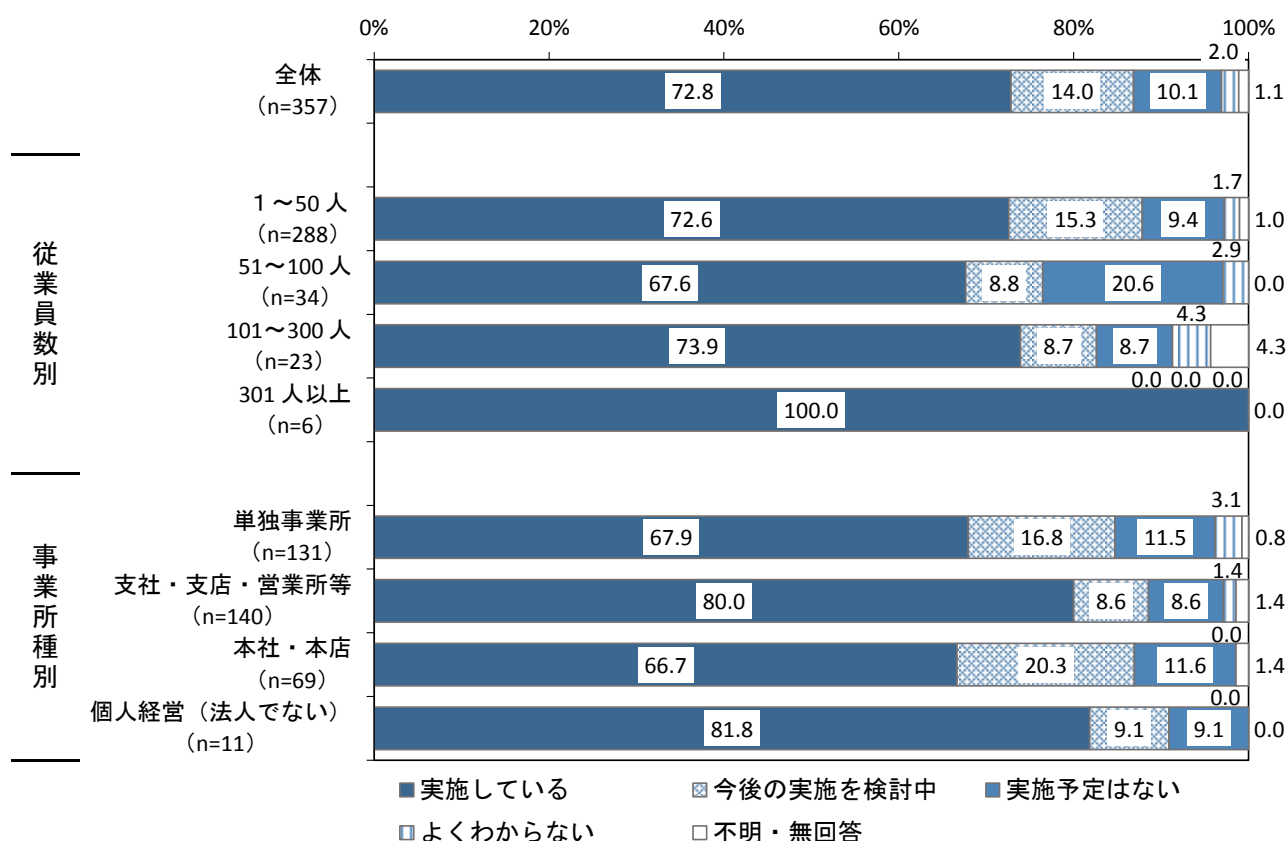
④女性従業員の積極的な採用

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「女性従業員の積極的な採用」では、「実施している」が 72.8%で最も高く、次いで「今後の実施を検討中」が 14.0%、「実施予定はない」が 10.1%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、個人経営（法人でない）が 81.8%で最も高くなっています。

図表 4-3-7 女性の活躍推進のための取組の実施状況

④女性従業員の積極的な採用



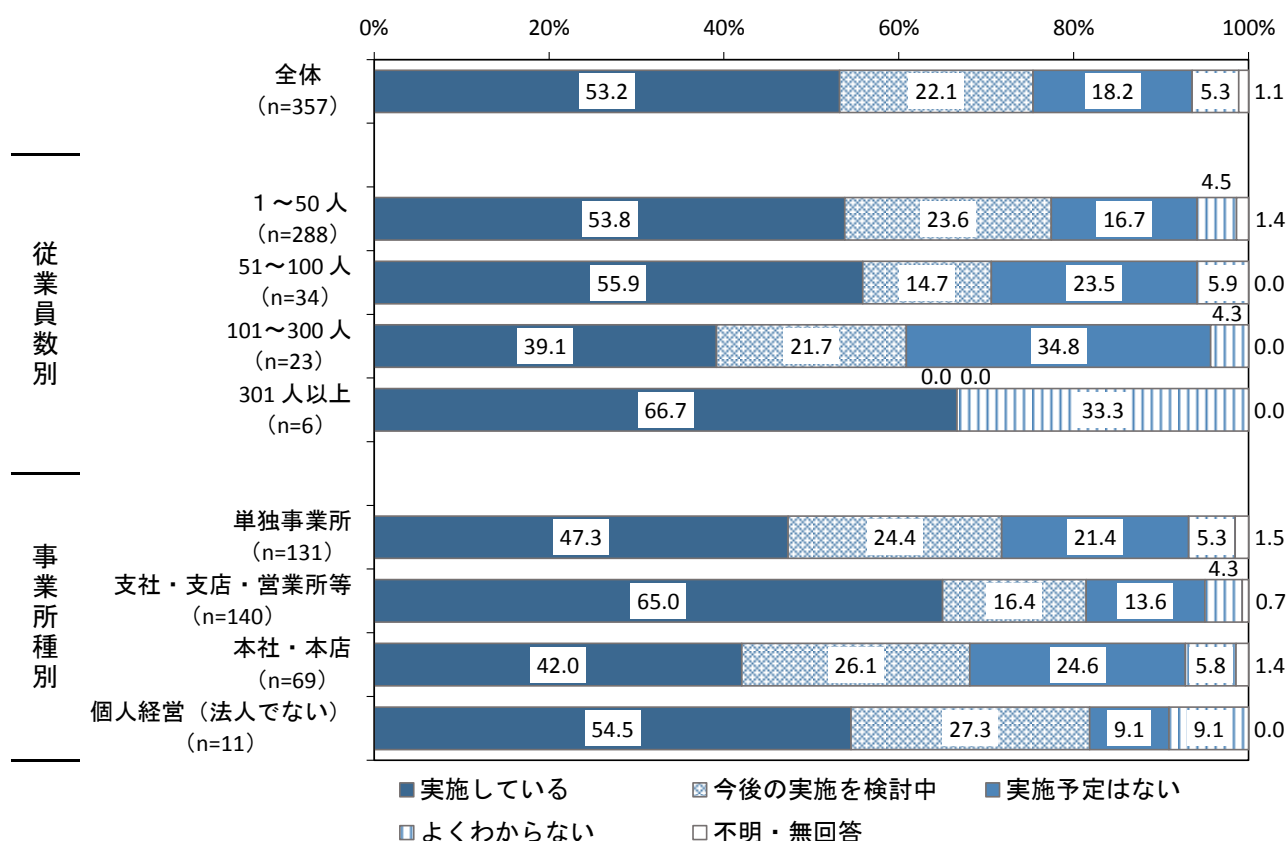
⑤自己申告制など、従業員の勤務時間や担当業務などの意欲や希望を反映する制度

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「自己申告制など、従業員の勤務時間や担当業務などの意欲や希望を反映する制度」では、「実施している」が53.2%で最も高く、次いで「今後の実施を検討中」が22.1%、「実施予定はない」が18.2%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が65.0%で最も高くなっています。

図表 4-3-8 女性の活躍推進のための取組の実施状況

⑤自己申告制など、従業員の勤務時間や担当業務などの意欲や希望を反映する制度



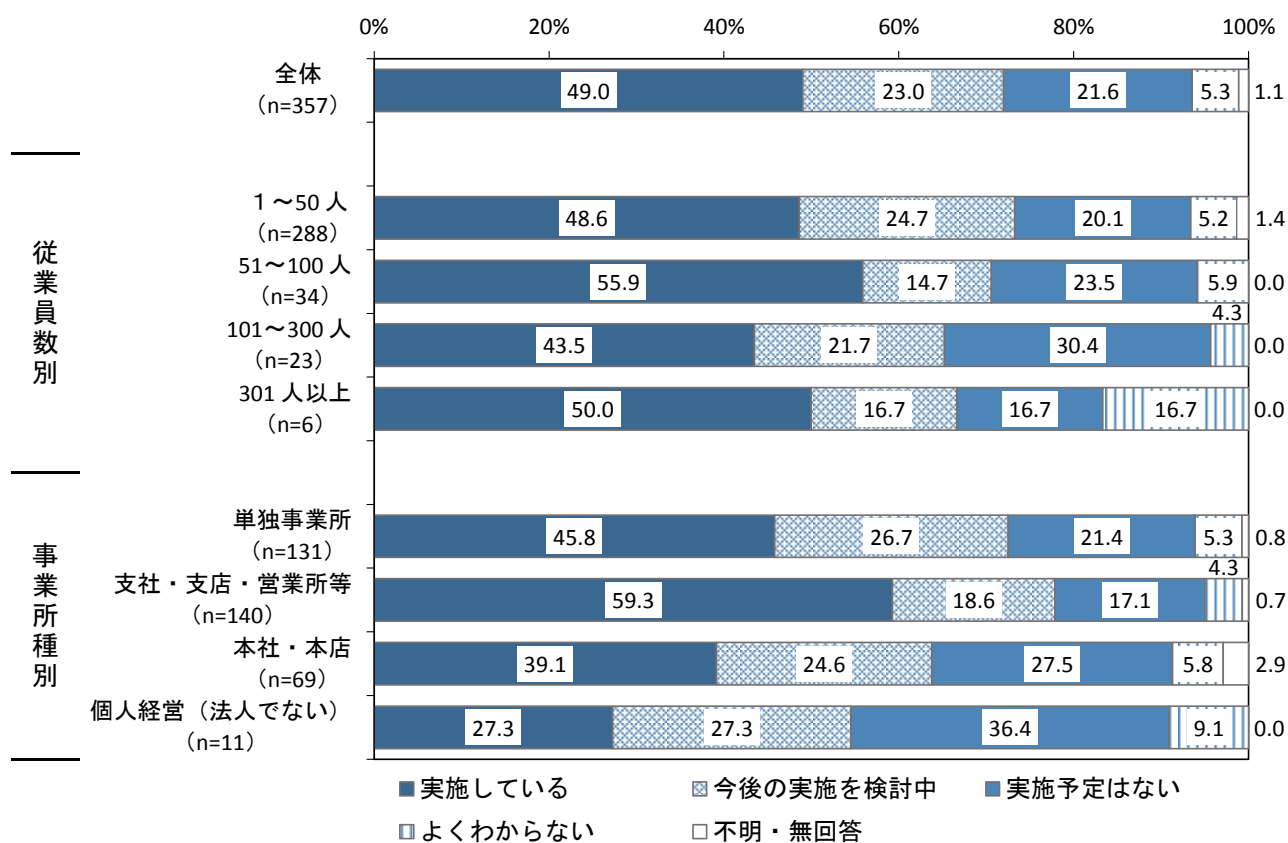
⑥資格取得などの自己啓発や、健康増進活動、社会貢献のための休暇付与(時間単位も含む)や経済的支援

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「資格取得などの自己啓発や、健康増進活動、社会貢献のための休暇付与(時間単位も含む)や経済的支援」では、「実施している」が49.0%で最も高く、次いで「今後の実施を検討中」が23.0%、「実施予定はない」が21.6%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が59.3%で最も高くなっています。

図表 4-3-9 女性の活躍推進のための取組の実施状況

⑥資格取得などの自己啓発や、健康増進活動、社会貢献のための休暇付与(時間単位も含む)や経済的支援



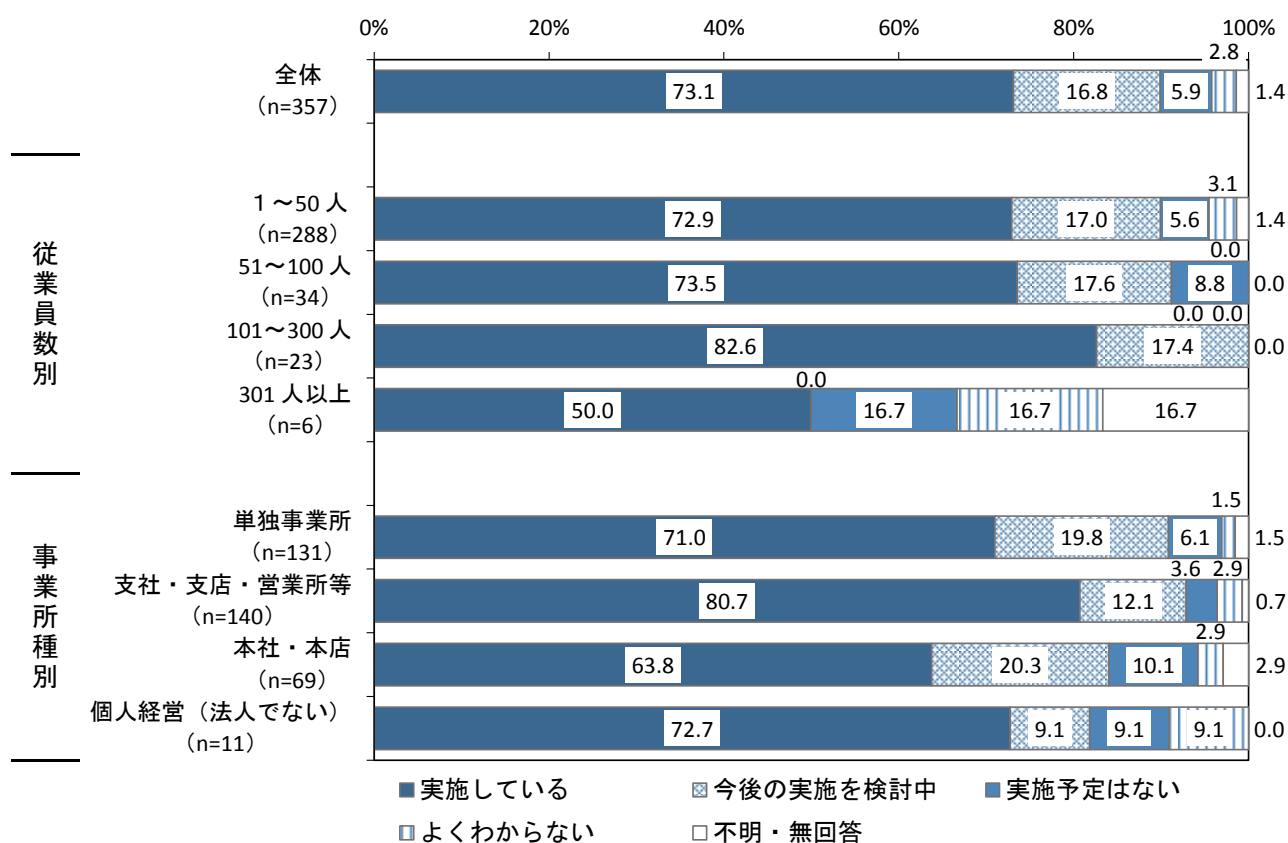
⑦従業員から仕事や職場・就業環境についての意見・要望を取り上げるなどの改善

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「従業員から仕事や職場・就業環境についての意見・要望を取り上げるなどの改善」では、「実施している」が73.1%で最も高く、次いで「今後の実施を検討中」が16.8%、「実施予定はない」が5.9%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が80.7%で最も高くなっています。

図表 4-3-10 女性の活躍推進のための取組の実施状況

⑦従業員から仕事や職場・就業環境についての意見・要望を取り上げるなどの改善



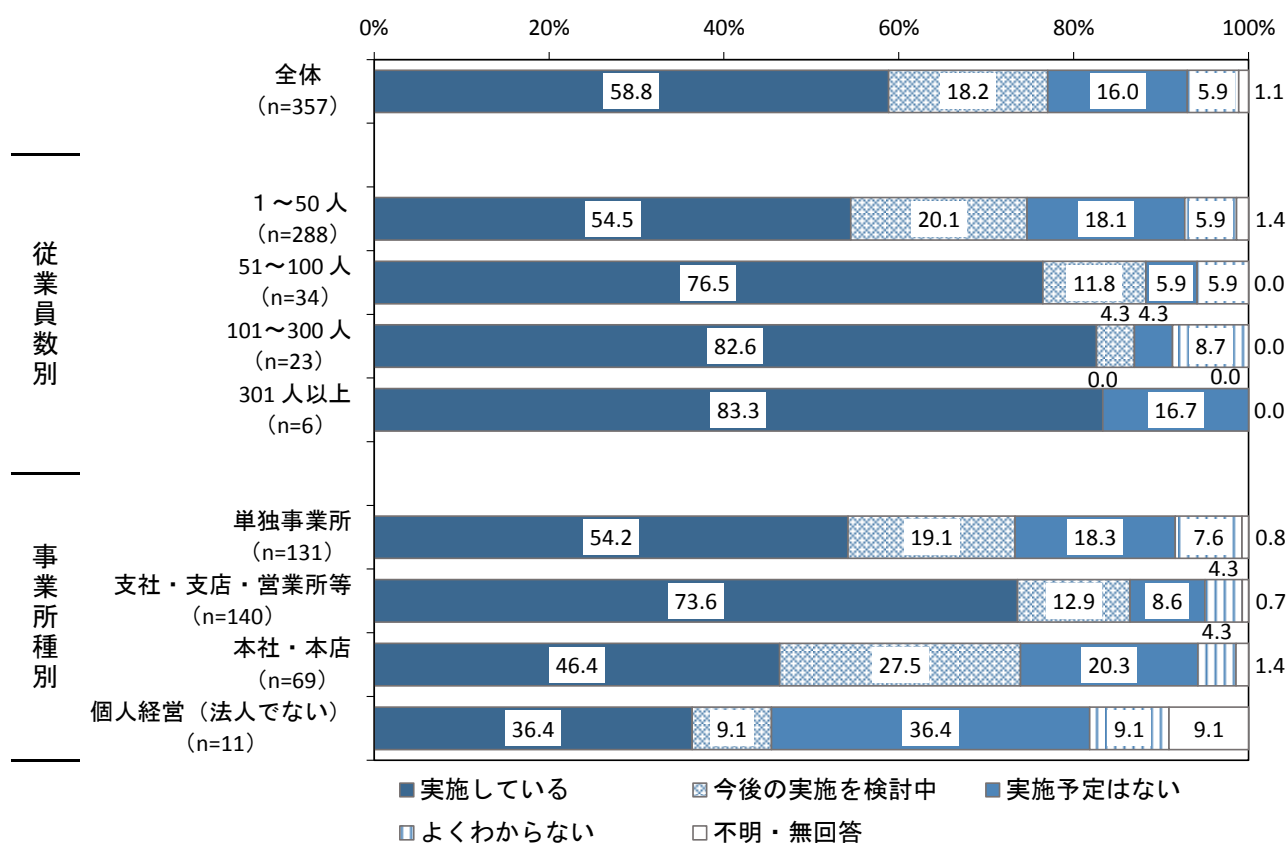
⑧従業員のメンタルヘルスに関するサポート

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「従業員のメンタルヘルスに関するサポート」では、「実施している」が58.8%で最も高く、次いで「今後の実施を検討中」が18.2%、「実施予定はない」が16.0%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が73.6%で最も高くなっています。

図表 4-3-11 女性の活躍推進のための取組の実施状況

⑧従業員のメンタルヘルスに関するサポート



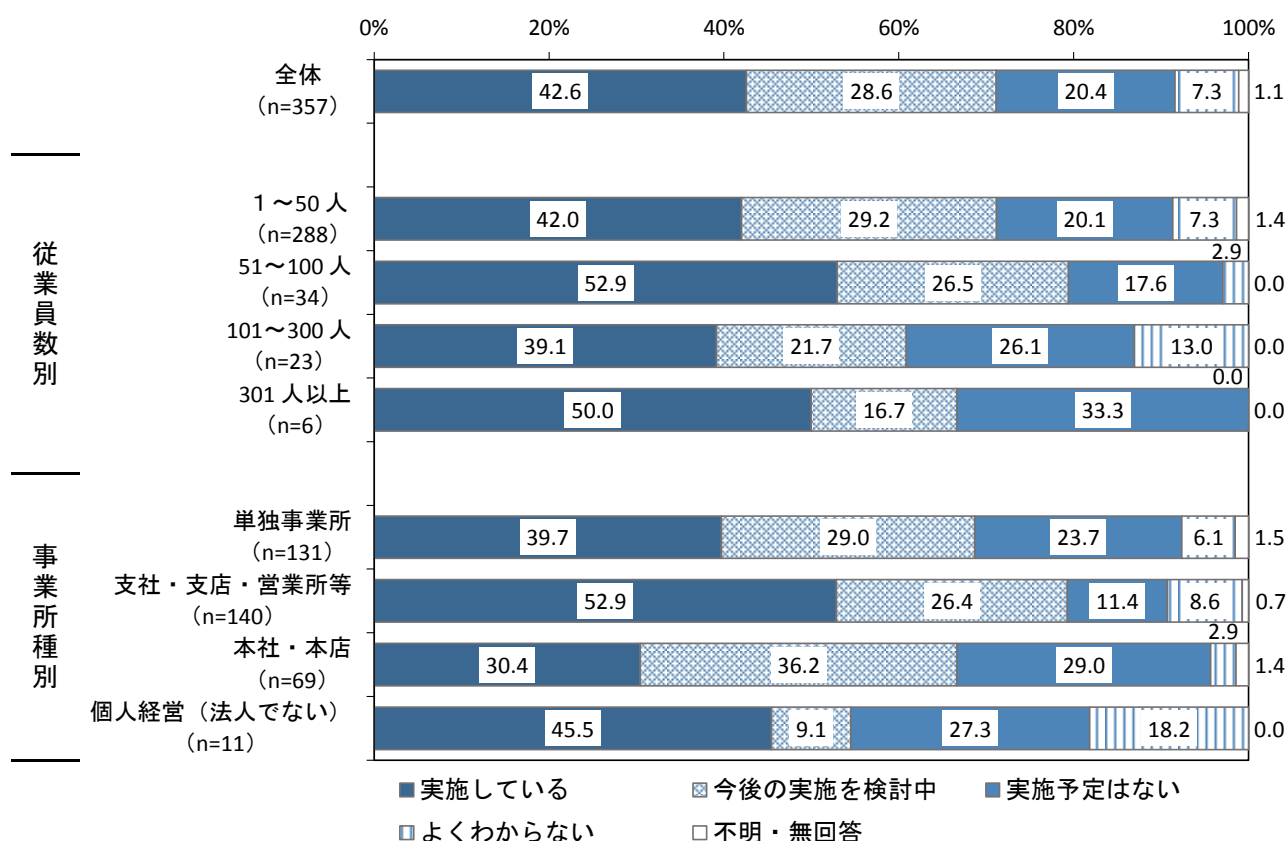
⑨部下が制度を利用しやすいよう管理職の指導や研修の実施

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「部下が制度を利用しやすいよう管理職の指導や研修の実施」では、「実施している」が42.6%で最も高く、次いで「今後の実施を検討中」が28.6%、「実施予定はない」が20.4%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が52.9%で最も高くなっています。

図表 4-3-12 女性の活躍推進のための取組の実施状況

⑨部下が制度を利用しやすいよう管理職の指導や研修の実施



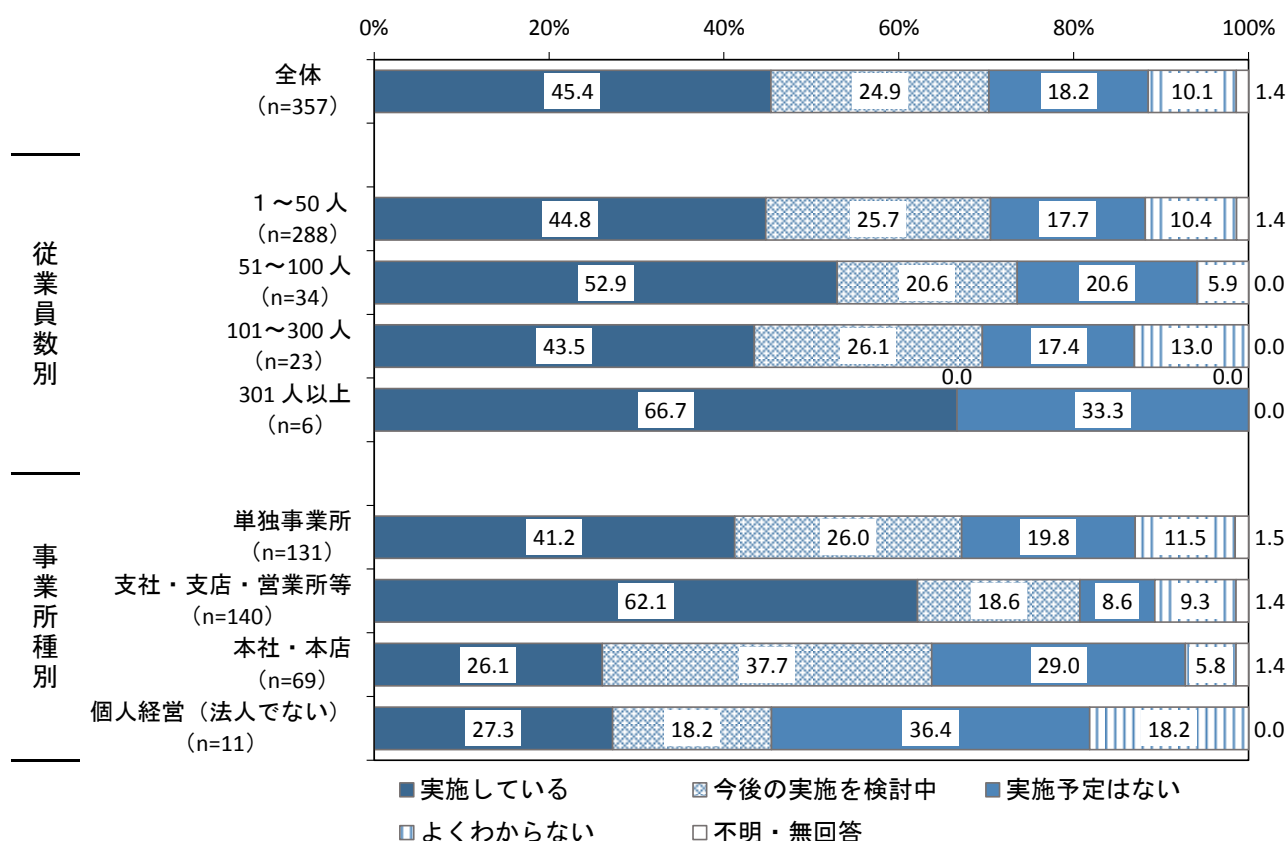
⑩制度の利用を促す呼びかけや情報告知

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「制度の利用を促す呼びかけや情報告知」では、「実施している」が45.4%で最も高く、次いで「今後の実施を検討中」が24.9%、「実施予定はない」が18.2%と続いています。

事業所種別でみると、「実施している」では、支社・支店・営業所等が62.1%で最も高くなっています。

図表 4-3-13 女性の活躍推進のための取組の実施状況

⑩制度の利用を促す呼びかけや情報告知



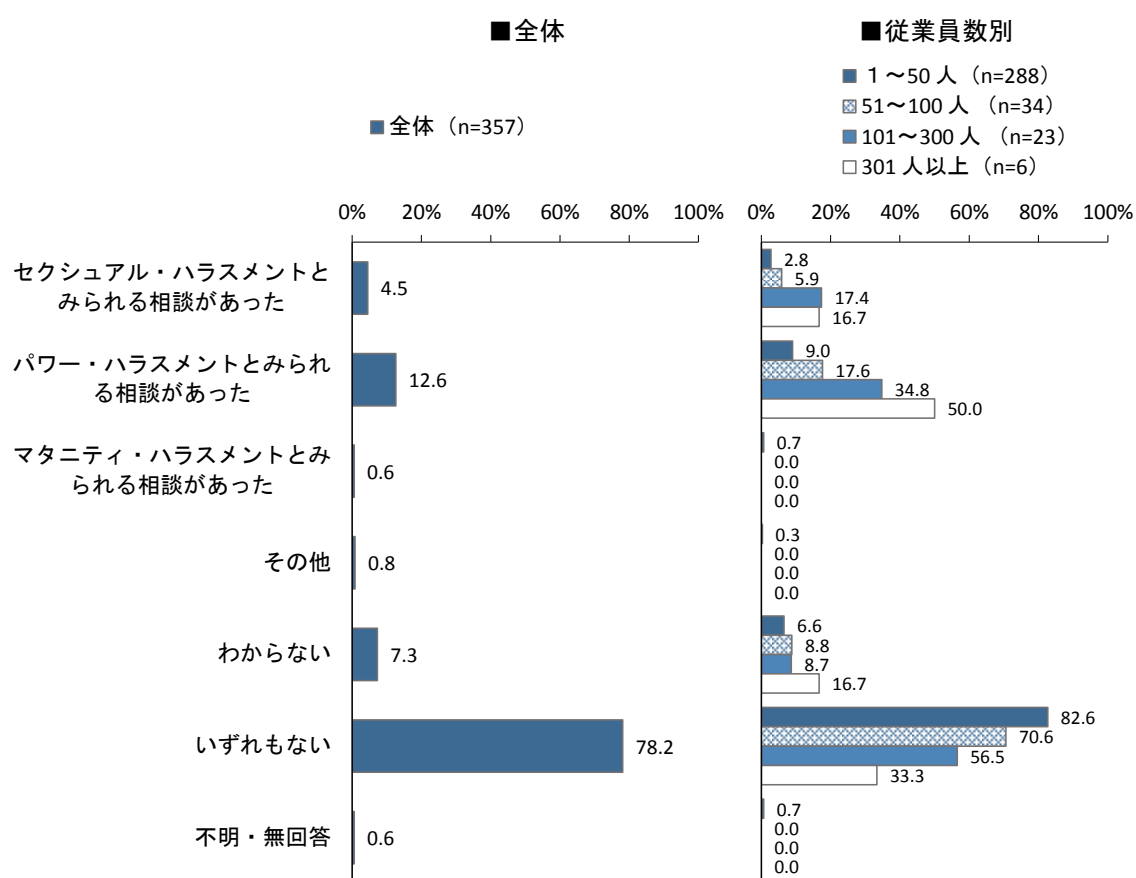
4. 職場環境について

(1) セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例

問 13	貴事業所では、この3年間にセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントや、マタニティ・ハラスメントなどの相談事例がありましたか。 (〇はいくつでも)

セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例については、「いずれもない」が78.2%で最も高く、次いで「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」が12.6%、「わからない」が7.3%と続いています。

図表 4-4-1 セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例



従業員数別でみると、「いずれもない」では、従業員数が多くなるにつれて割合が低くなっており、「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」では、従業員数が多くなるにつれて割合が高くなっています。

図表 4-4-2 セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例 従業員数別・事業所種別

単位：実数（事業所）、構成比（％）

		合計	トセク とみ られる 相・ハ ラスメ ン	らパ ワ ー・ハ ラスメ ン とみ	とマ タニ テイ・ ハラ スメ ン	そ 他	わ か ら な い	い ず れ も な い	不 明・ 無回 答
全体		357	4.5	12.6	0.6	0.8	7.3	78.2	0.6
従業員 数別	1～50 人	288	2.8	9.0	0.7	0.3	6.6	82.6	0.7
	51～100 人	34	5.9	17.6	0.0	0.0	8.8	70.6	0.0
	101～300 人	23	17.4	34.8	0.0	0.0	8.7	56.5	0.0
	301 人以上	6	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0
事業所 種別	単独事業所	131	3.1	9.2	0.8	1.5	5.3	84.0	0.8
	支社・支店・営業所等	140	5.0	13.6	0.7	0.0	7.9	76.4	0.7
	本社・本店	69	7.2	17.4	0.0	1.4	8.7	71.0	0.0
	個人経営 （法人でない）	11	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	81.8	0.0

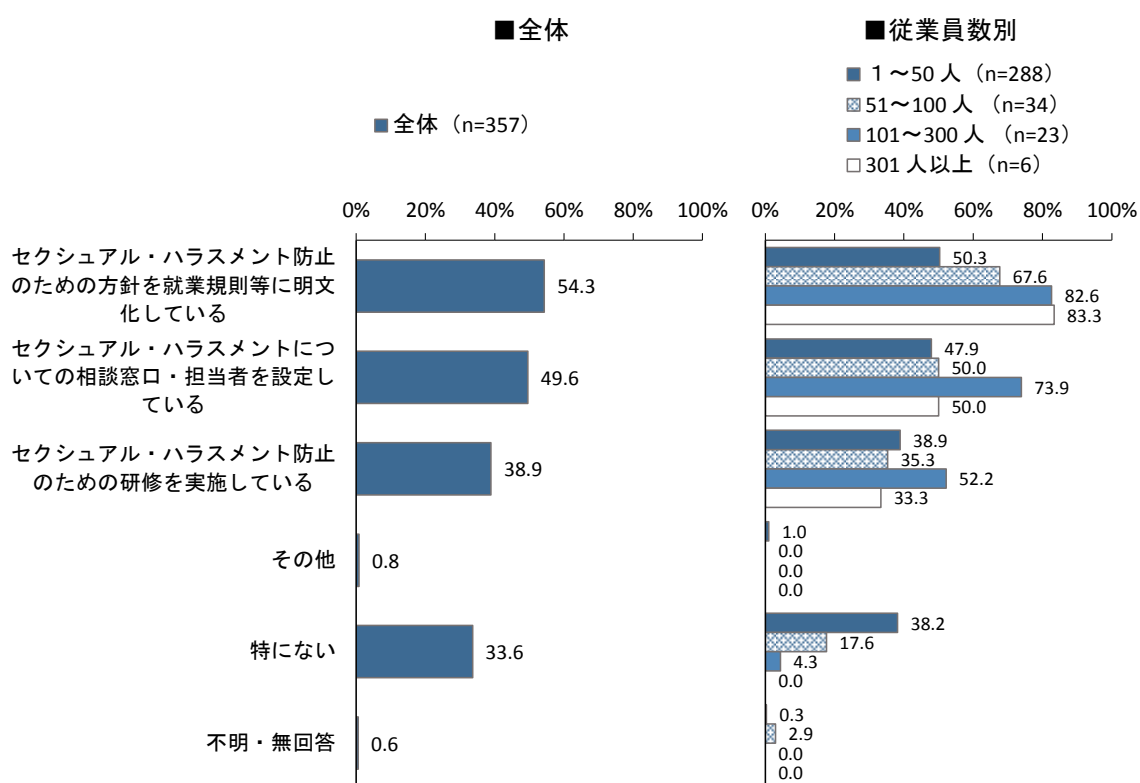
※網掛け■は最も割合が高いもの

(2) セクシュアル・ハラスメントに対する取組

問 14	貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。(〇はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントに対する取組については、「セクシュアル・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が54.3%で最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が49.6%、「セクシュアル・ハラスメント防止のための研修を実施している」が38.9%と続いています。

図表 4-4-3 セクシュアル・ハラスメントに対する取組



事業所種別でみると、「特にない」では、個人経営（法人でない）が 63.6%で最も高くなっています。

単位：実数（事業所）、構成比（%）

		合計	セクシユアル・ハラスメント防止のための文化の推進に努める	セクシユアル・ハラスメント防止に関する相談窓口を設ける	セクシユアル・ハラスメント防止の実施状況について説明する	その他	特になし	不明・無回答
全体		357	54.3	49.6	38.9	0.8	33.6	0.6
従業員数別	1～50人	288	50.3	47.9	38.9	1.0	38.2	0.3
	51～100人	34	67.6	50.0	35.3	0.0	17.6	2.9
	101～300人	23	82.6	73.9	52.2	0.0	4.3	0.0
	301人以上	6	83.3	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0
事業所種別	単独事業所	131	44.3	39.7	35.9	2.3	42.7	1.5
	支社・支店・営業所等	140	69.3	70.0	53.6	0.0	15.7	0.0
	本社・本店	69	50.7	34.8	21.7	0.0	43.5	0.0
	個人経営（法人でない）	11	27.3	27.3	18.2	0.0	63.6	0.0

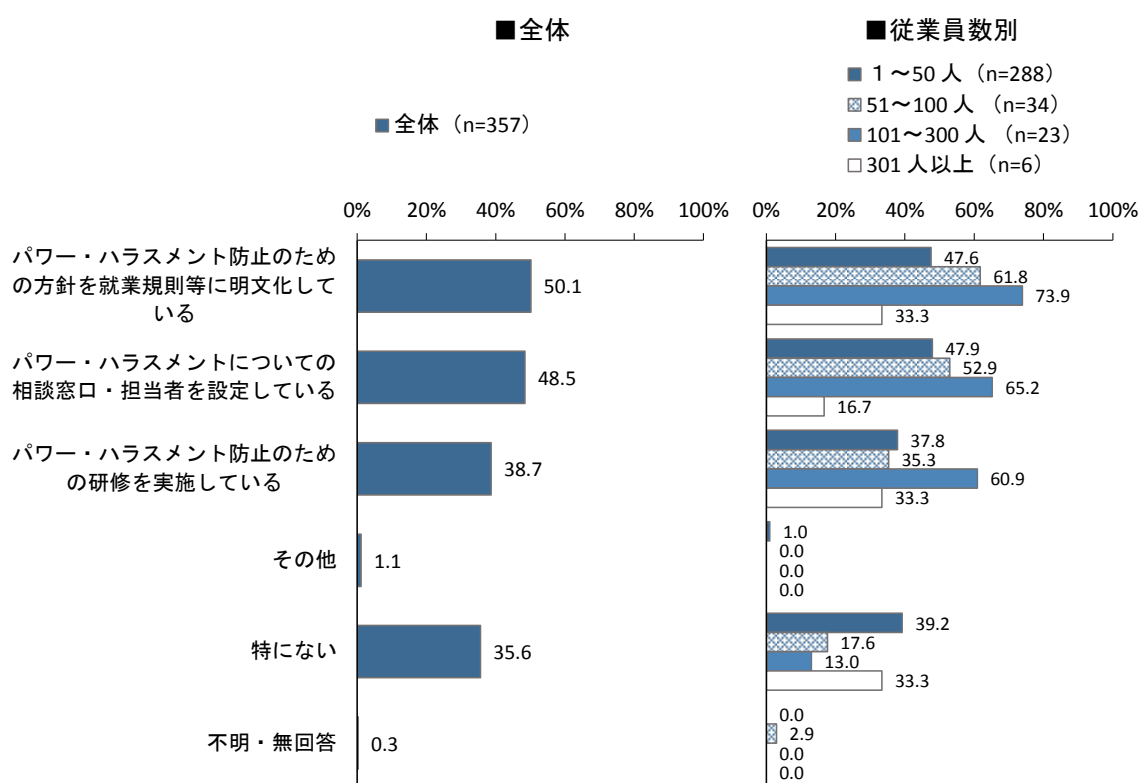
278

(3) パワー・ハラスメントに対する取組

問 15	貴事業所では、パワー・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。(〇はいくつでも)

パワー・ハラスメントに対する取組については、「パワー・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が50.1%で最も高く、次いで「パワー・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が48.5%、「パワー・ハラスメント防止のための研修を実施している」が38.7%と続いています。

図表 4-4-5 パワー・ハラスメントに対する取組



事業所種別でみると、「特にない」では、個人経営（法人でない）が 72.7%で最も高くなっています。

図表 4-4-6 パワー・ハラスメントに対する取組 従業員数別・事業所種別

単位：実数（事業所）、構成比（%）

		合計	にのた 明ため 文化の 化の方 針を 針を 就 業 メ ン ト 規 則 防 止	設い 定て して の相 ハ ラ ス メ ン ト に つ	るの た め の ハ ラ ス メ ン ト を 実 施 し て 防 止	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体		357	50.1	48.5	38.7	1.1	35.6	0.3
従業員 数別	1～50 人	288	47.6	47.9	37.8	1.0	39.2	0.0
	51～100 人	34	61.8	52.9	35.3	0.0	17.6	2.9
	101～300 人	23	73.9	65.2	60.9	0.0	13.0	0.0
	301 人以上	6	33.3	16.7	33.3	0.0	33.3	0.0
事業所 種別	単独事業所	131	41.2	41.2	36.6	3.1	43.5	0.8
	支社・支店・営業所等	140	64.3	67.1	51.4	0.0	17.9	0.0
	本社・本店	69	46.4	31.9	23.2	0.0	46.4	0.0
	個人経営 （法人でない）	11	27.3	18.2	18.2	0.0	72.7	0.0

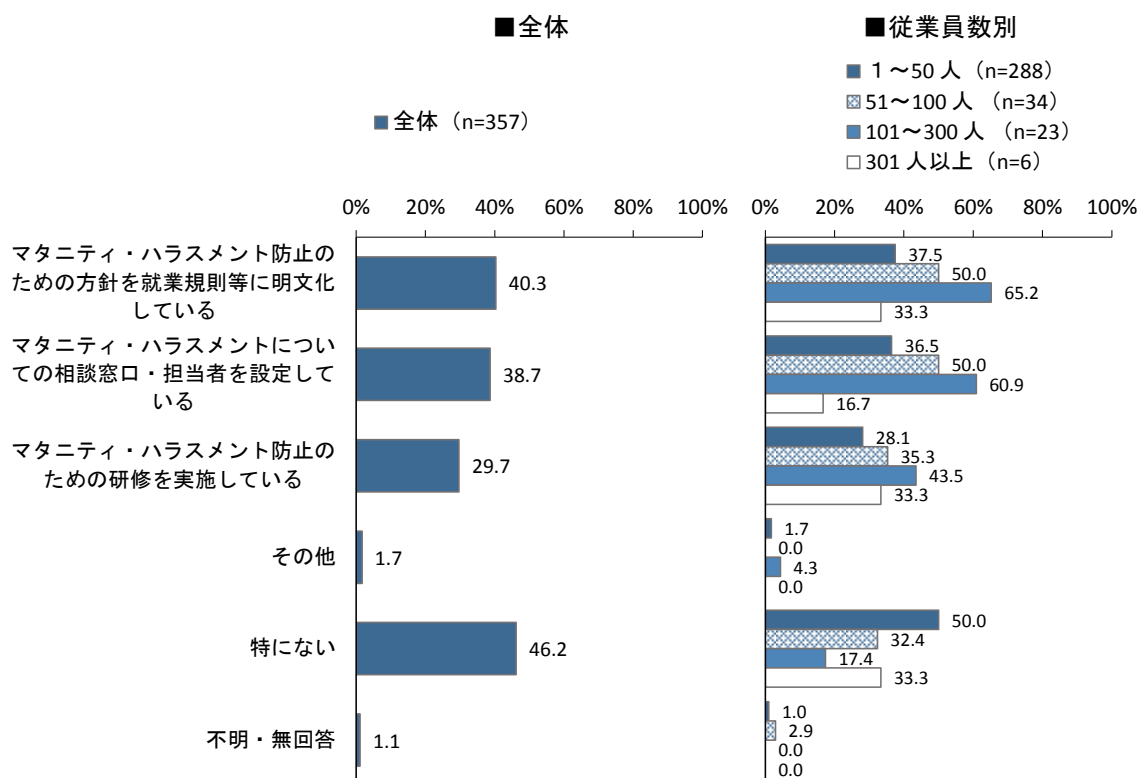
※網掛け■は最も割合が高いもの

(4) マタニティ・ハラスメントに対する取組

問 16	貴事業所では、マタニティ・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。(〇はいくつでも)

マタニティ・ハラスメントに対する取組については、「特にない」が46.2%で最も高く、次いで「マタニティ・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が40.3%、「マタニティ・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が38.7%と続いています。

図表 4-4-7 マタニティ・ハラスメントに対する取組



事業所種別でみると、「特にない」では、個人経営（法人でない）が81.8%で最も高くなっています。

図表 4-4-8 マタニティ・ハラスメントに対する取組 従業員数別・事業所種別

単位：実数（事業所）、構成比（%）

		合計	防 止 の た め の 研 修 を 実 施 し た	マ タ ニ ティ の ハ ラ ス メ ン ト を 防 止 す る た め の 研 修 を 実 施 し た	マ タ ニ ティ の ハ ラ ス メ ン ト を 防 止 す る た め の 研 修 を 実 施 し た	マ タ ニ ティ の ハ ラ ス メ ン ト を 防 止 す る た め の 研 修 を 実 施 し た	マ タ ニ ティ の ハ ラ ス メ ン ト を 防 止 す る た め の 研 修 を 実 施 し た	マ タ ニ ティ の ハ ラ ス メ ン ト を 防 止 す る た め の 研 修 を 実 施 し た
全体		357	40.3	38.7	29.7	1.7	46.2	1.1
従業員 数別	1～50 人	288	37.5	36.5	28.1	1.7	50.0	1.0
	51～100 人	34	50.0	50.0	35.3	0.0	32.4	2.9
	101～300 人	23	65.2	60.9	43.5	4.3	17.4	0.0
	301 人以上	6	33.3	16.7	33.3	0.0	33.3	0.0
事業所 種別	単独事業所	131	31.3	28.2	26.0	2.3	55.7	3.1
	支社・支店・営業所等	140	56.4	57.1	40.7	0.7	26.4	0.0
	本社・本店	69	33.3	29.0	18.8	2.9	58.0	0.0
	個人経営 （法人でない）	11	9.1	9.1	18.2	0.0	81.8	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(5) 男女がともに働きやすい職場づくりのための取組

問 17	男女がともに働きやすい職場づくりのための取組等があれば、具体的にお書きください。

男女がともに働きやすい職場づくりのための取組について、主な意見は以下の通りです。

図表 4-4-9 男女がともに働きやすい職場づくりのための取組

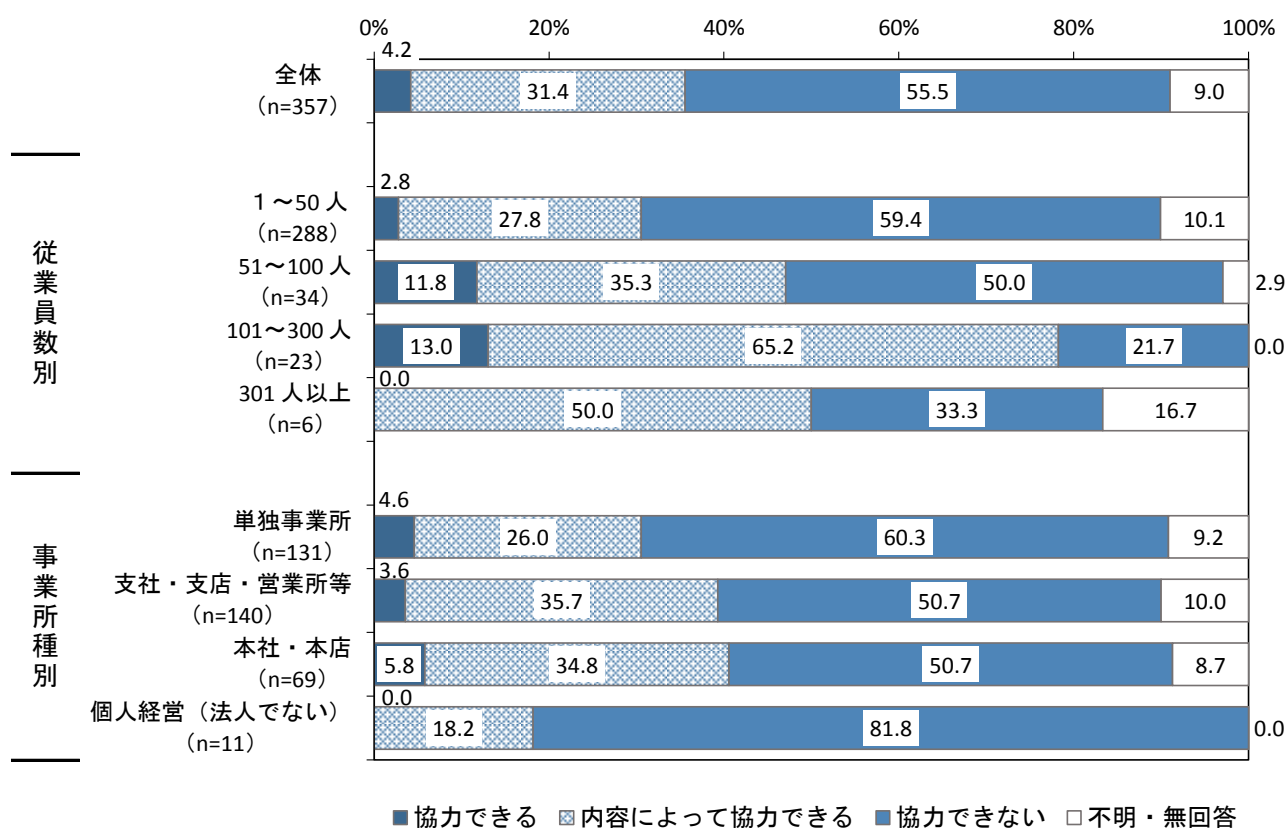
具体的内容
勤務は月単位のシフト制として、家庭での所用があれば優先して休みを設定している。
半日単位の自己申告（事前）による活動。
有給の理由など聞かない。体調不良など当日のお休みも有給あつかいしている。
能力性
ジョブリターン（退職後復帰）、啓蒙教育など。
区別をしない。
男女ともに仕事に関して平等に扱う。
衛生面の強化、美化運動、休憩室の整備・充実。
職員数が少ないので、様々な相談や課題等に対して全員できめ細やかに話し合いをするようにしている。
私の会社は少人数ですので一人一人に目をむけて、話を聞いてその都度対応しています。
積極的に意見を出し合える環境作り、お互いを認め合うこと（立場や役割など）。
女性、発言の場を増やす。
1 回/月で、運営委員会を実施。
定期的な個別面談を行なっている。
月々のコミュニケーションの徹底。
連絡調整。
定期的に正社員、パート含めて 食事会や交流会等コミュニケーションを取るよう心がけている。
規定を策定し、社員個別に配布することで情報共有を図ることで男女ともに職場の環境づくりを意識させています。
アンケートの実施。
女性のためのミーティングを行い、内容について管理職と女性リーダーで対応する。

(6) 事業への協力意向

問 18	寝屋川市では、仕事と生活の両立支援、職場における女性の活躍推進に向けた講座などの事業を検討しています。今後、こういった事業への参加や御協力をお願いできるでしょうか。(〇は1つ)

事業への協力意向については、「協力できない」が55.5%で最も高く、次いで「内容によって協力できる」が31.4%、「協力できる」が4.2%と続いています。

図表 4-4-10 事業への協力意向



V. 小学生から大学生への調査結果

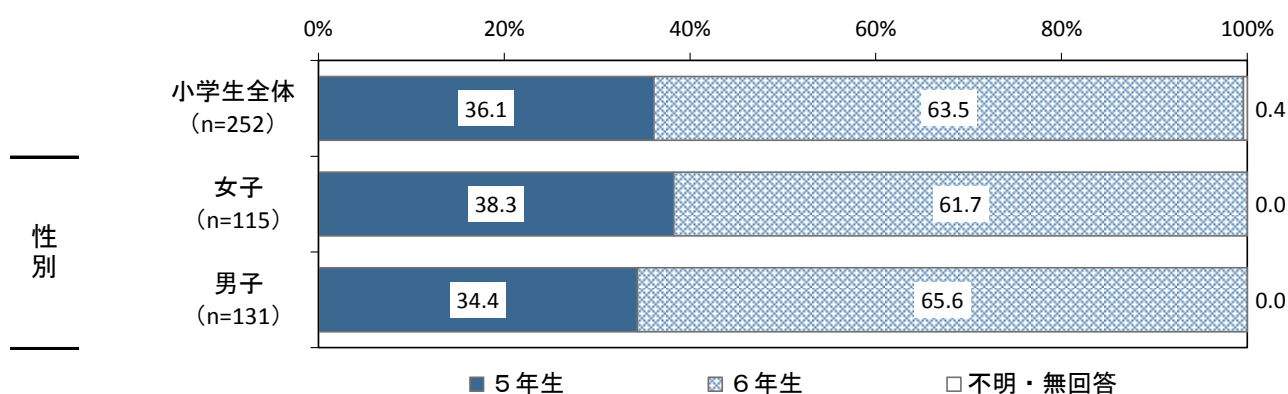
1. 回答者と家族について

(1) 学年

問	あなたの学年は。 ＜小学生 問1、中学生 問1、高校生 問1、大学生 問1＞

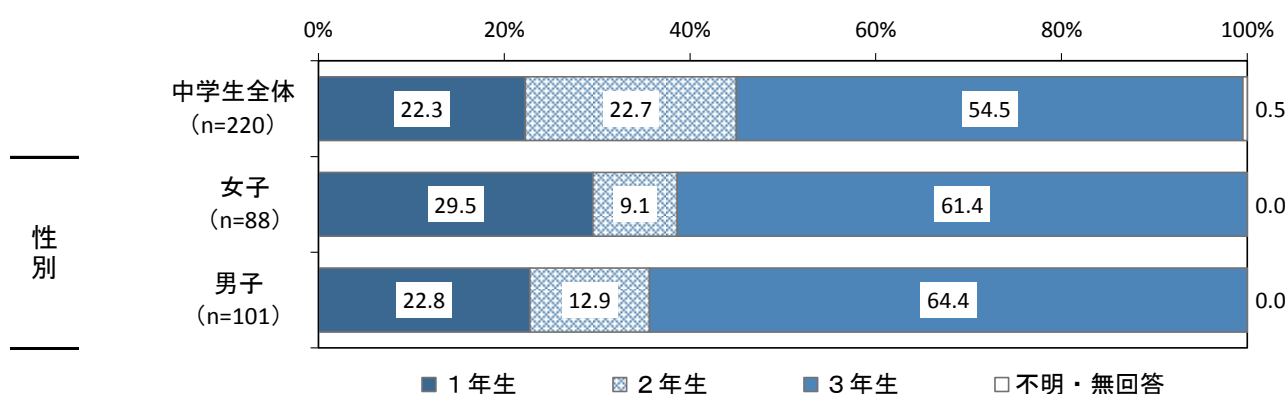
学年について、小学生では、5年生が36.1%、6年生が63.5%となっています。

図表 5-1-1 学年 小学生



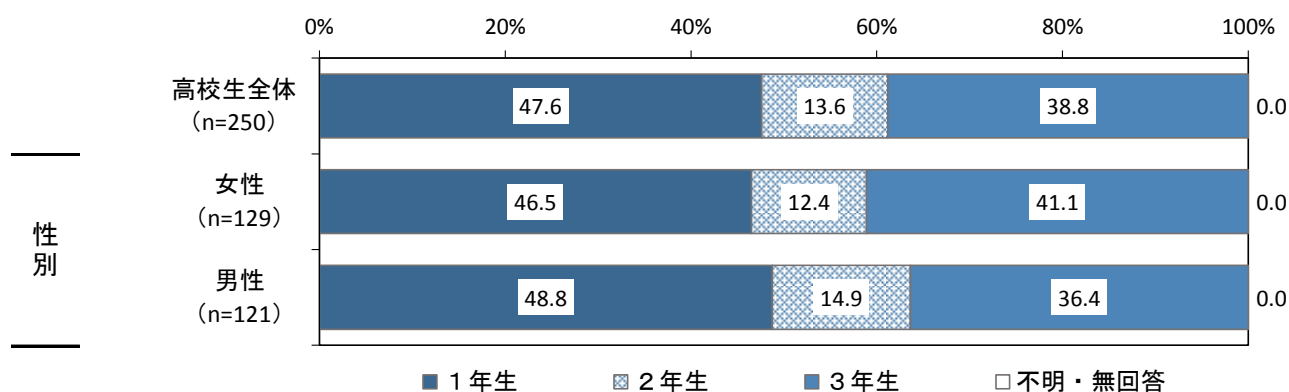
学年について、中学生では、1年生が22.3%、2年生が22.7%、3年生が54.5%となっています。

図表 5-1-2 学年 中学生



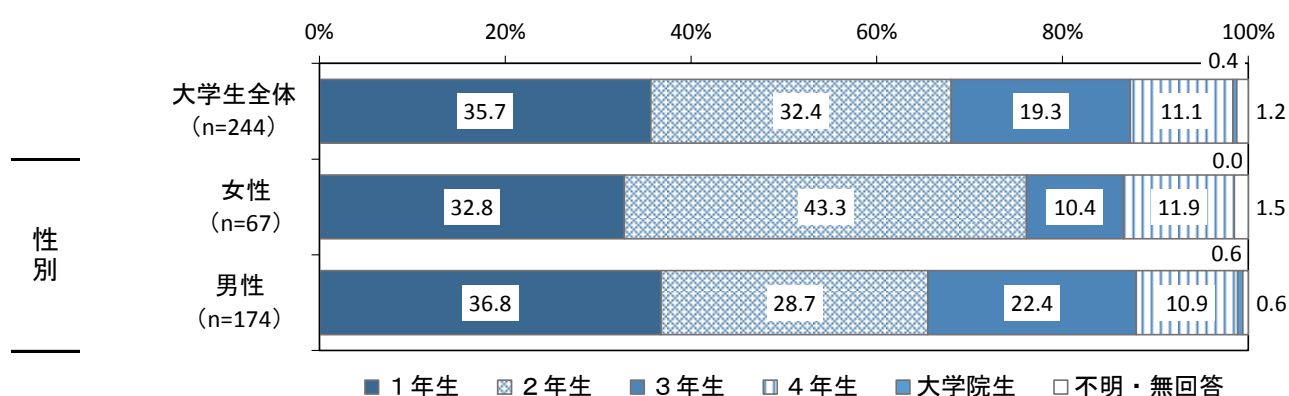
学年について、高校生では、1年生が47.6%、2年生が13.6%、3年生が38.8%となっています。

図表 5-1-3 学年 高校生



学年について、大学生では、1年生が35.7%、2年生が32.4%、3年生が19.3%、4年生が11.1%、大学院生が0.4%となっています。

図表 5-1-4 学年 大学生



(2) 性別

問	あなたの性別は。 ＜小学生 問2、中学生 問2、高校生 問2、大学生 問2＞

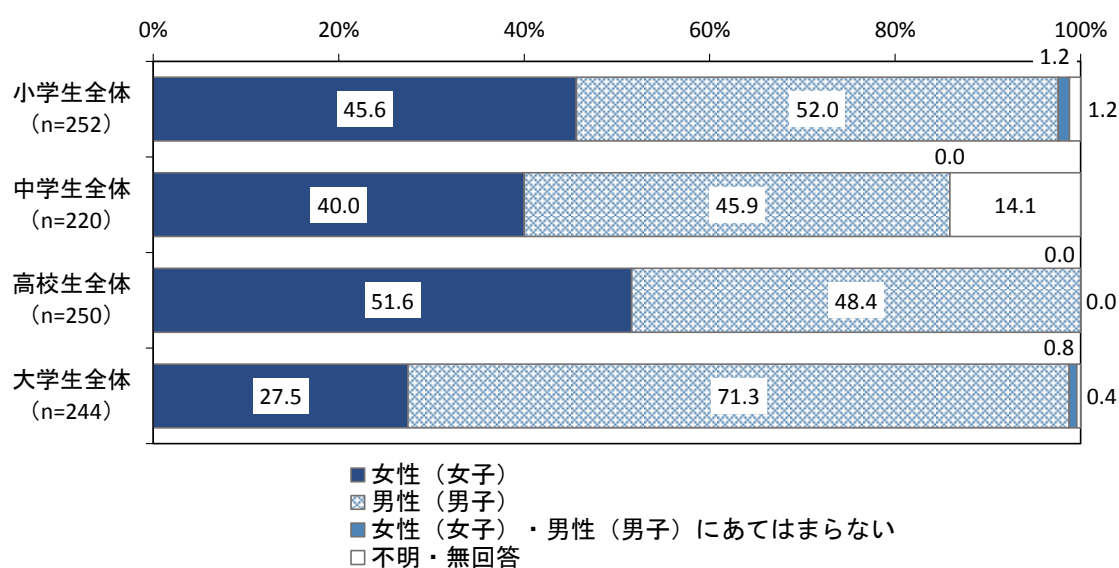
性別について小学生では、「女子」が45.6%、「男子」が52.0%、「女子・男子にあてはまらない」が1.2%となっています。

中学生では、「女子」が40.0%、「男子」が45.9%となっています。

高校生では、「女性」が51.6%、「男性」が48.4%となっています。

大学生では、「女性」が27.5%、「男性」が71.3%、「女性・男性にあてはまらない」が0.8%となっています。

図表 5-1-5 性別



「女性 (女子)・男性 (男子) にあてはまらない」については、その総数が小さい (小学生3人、大学生2人) ため、クロス集計等においては「女性 (女子)」「男性 (男子)」のみを対象とします。

(3) 同居家族

問	あなたが同居している家族は。(あてはまるものすべてに○) <小学生 問3、中学生 問3、高校生 問3、大学生 問3>

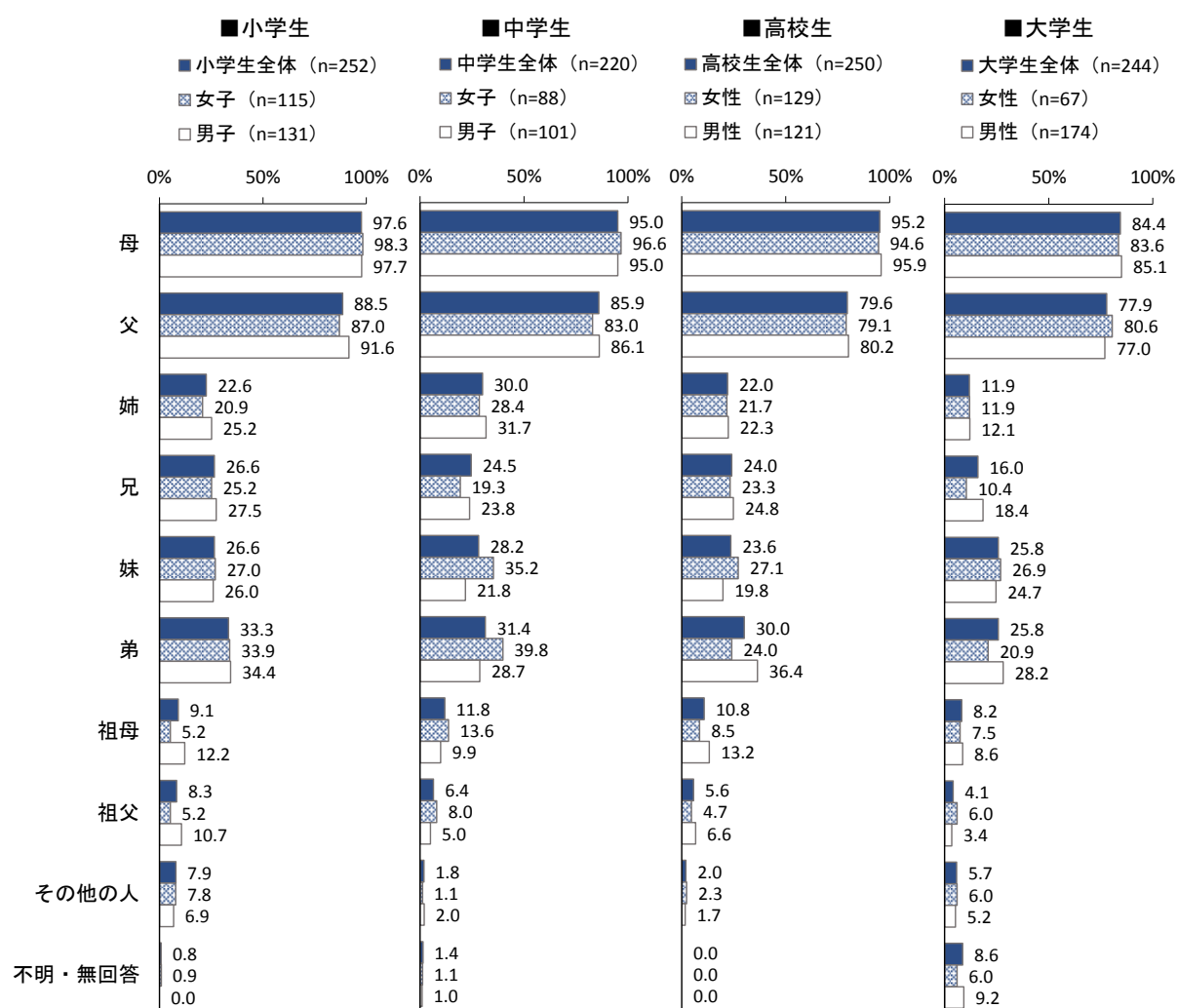
同居家族について小学生では、「母」が 97.6%で最も高く、次いで「父」が 88.5%、「弟」が 33.3%と続いています。

中学生では、「母」が 95.0%で最も高く、次いで「父」が 85.9%、「弟」が 31.4%と続いています。

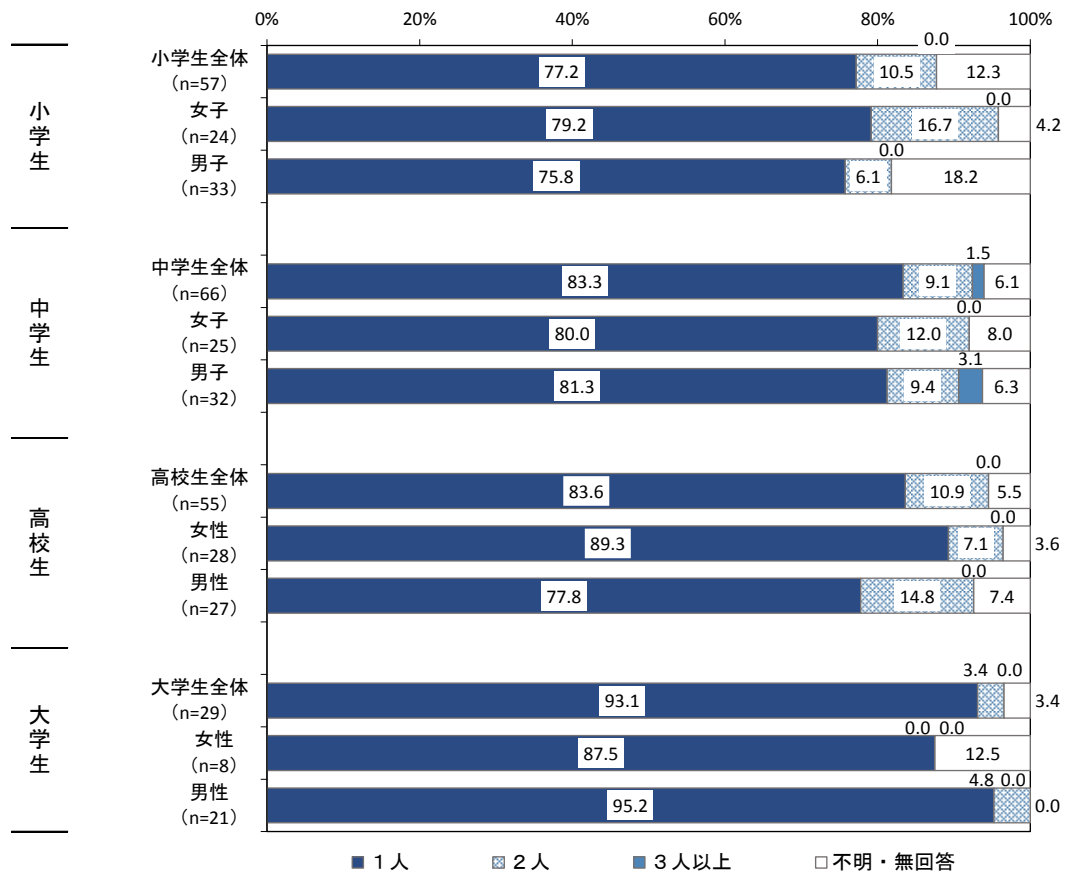
高校生では、「母」が 95.2%で最も高く、次いで「父」が 79.6%、「弟」が 30.0%と続いています。

大学生では、「母」が 84.4%で最も高く、次いで「父」が 77.9%、「妹」「弟」がいずれも 25.8%と続いています。

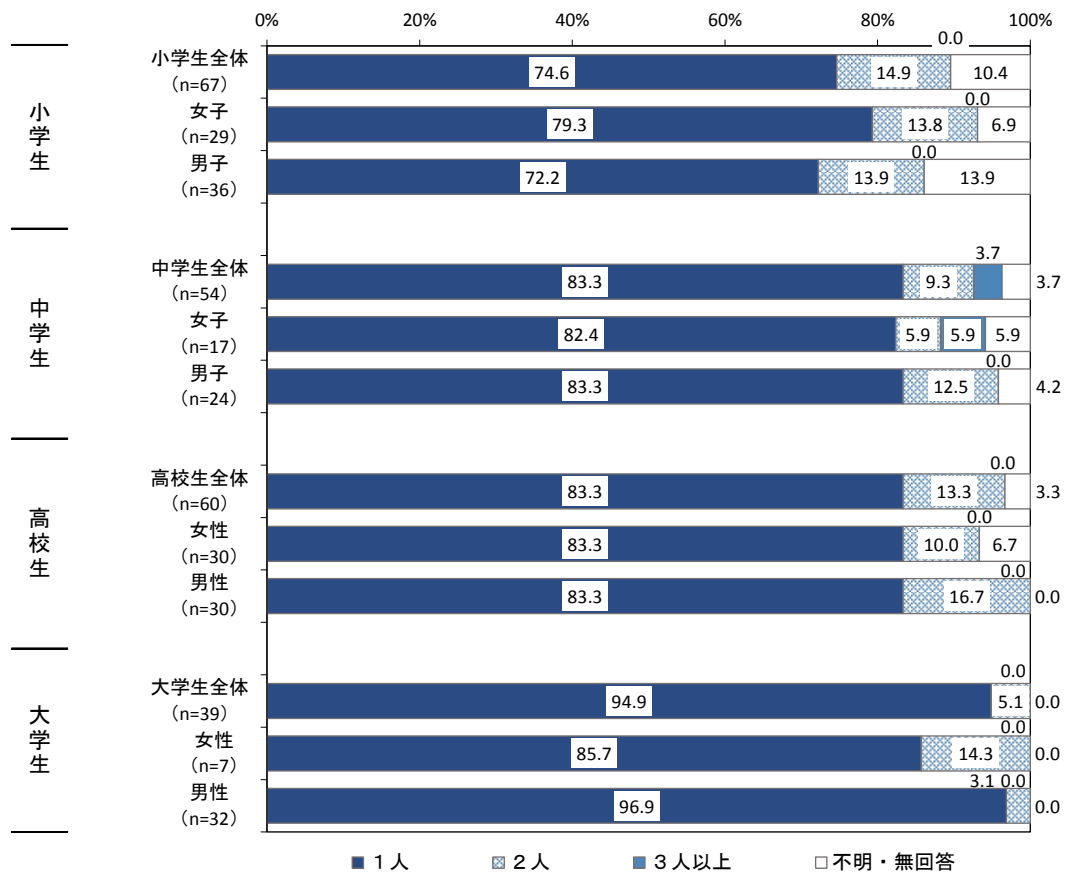
図表 5-1-6 同居家族



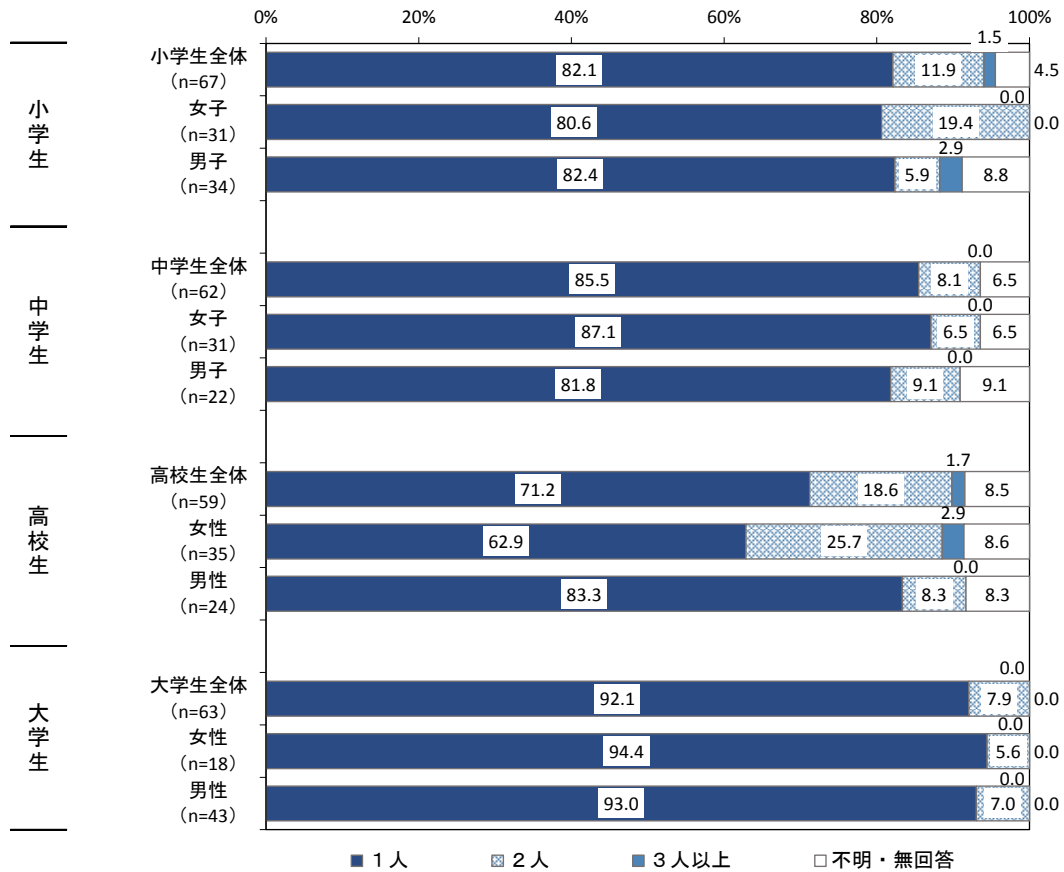
図表 5-1-7 同居家族 姉の人数



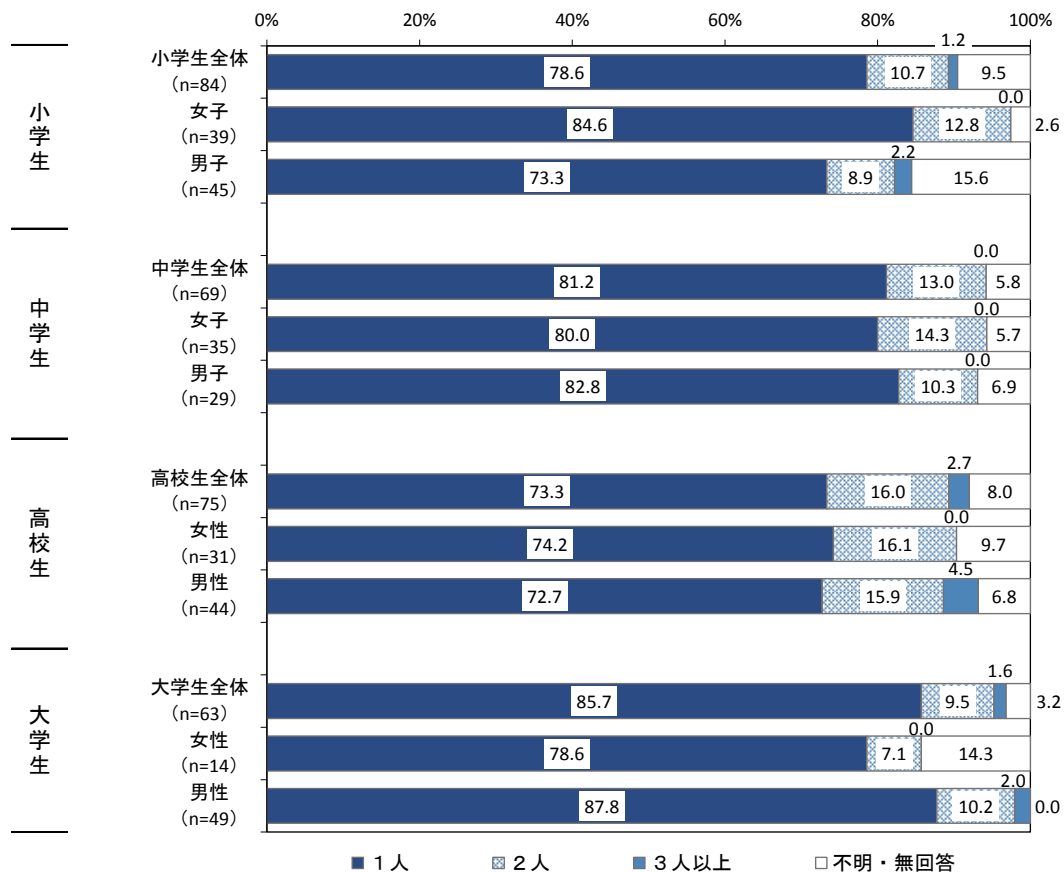
図表 5-1-8 同居家族 兄の人数



図表 5-1-9 同居家族 妹の人数



図表 5-1-10 同居家族 弟の人数

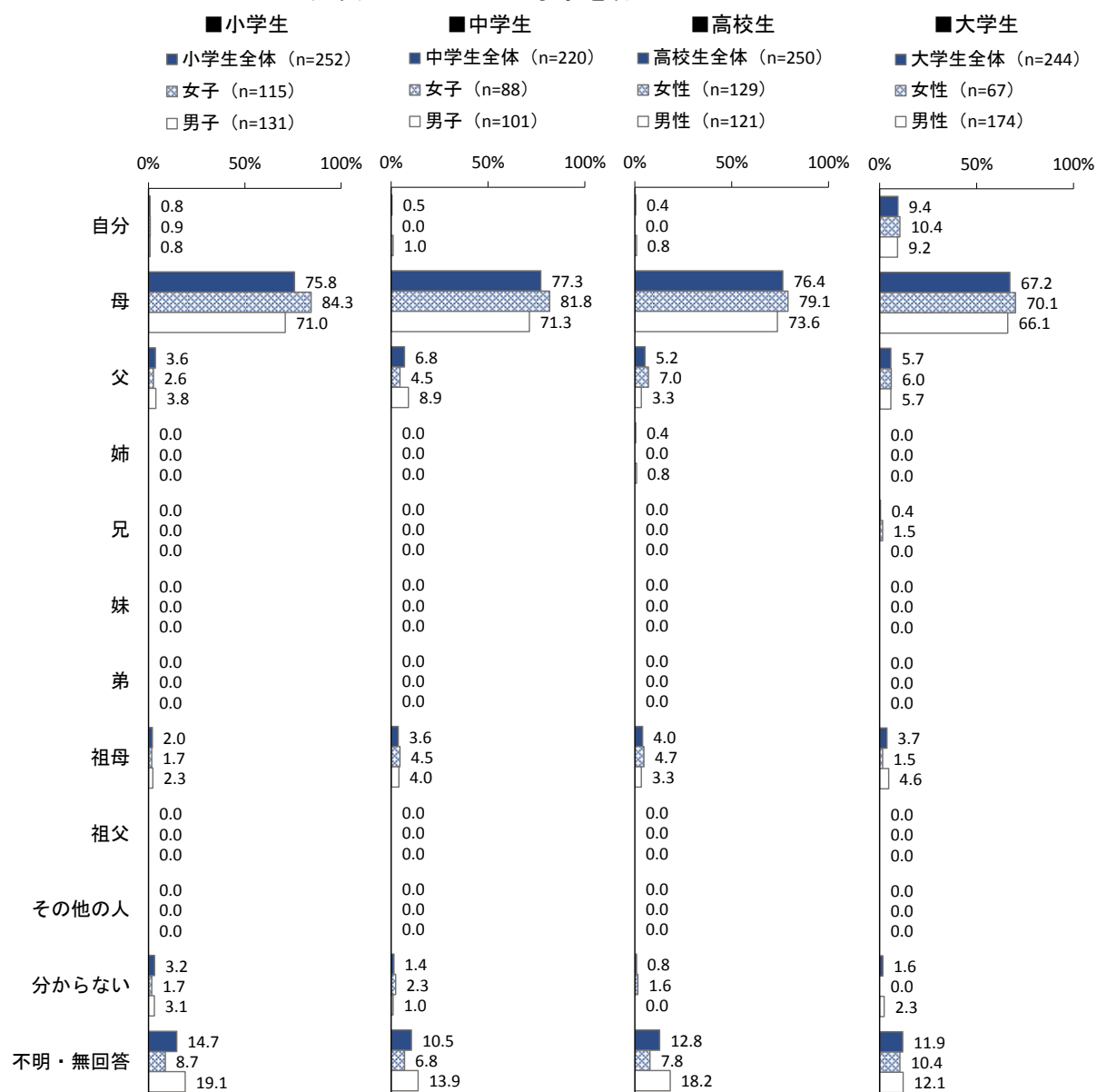


(4) 主に家事を行っている人

問	主に家庭の仕事（家事）をしているのは誰ですか。（○は1つ） ＜小学生 問4、中学生 問4、高校生 問4、大学生 問4＞

主に家事を行っている人については、全ての年代で「母」の割合（小学生 75.8%、中学生 77.3%、高校生 76.4%、大学生 67.2%）が最も高く、小学生、中学生、高校生では次いで「父」（小学生 3.6%、中学生 6.8%、高校生 5.2%）が高く、大学生では次いで「自分」（9.4%）が高くなっています。

図表 5-1-11 主に家事を行っている人



2. 学校生活について

(1) 学校生活における性別による役割分担の意識

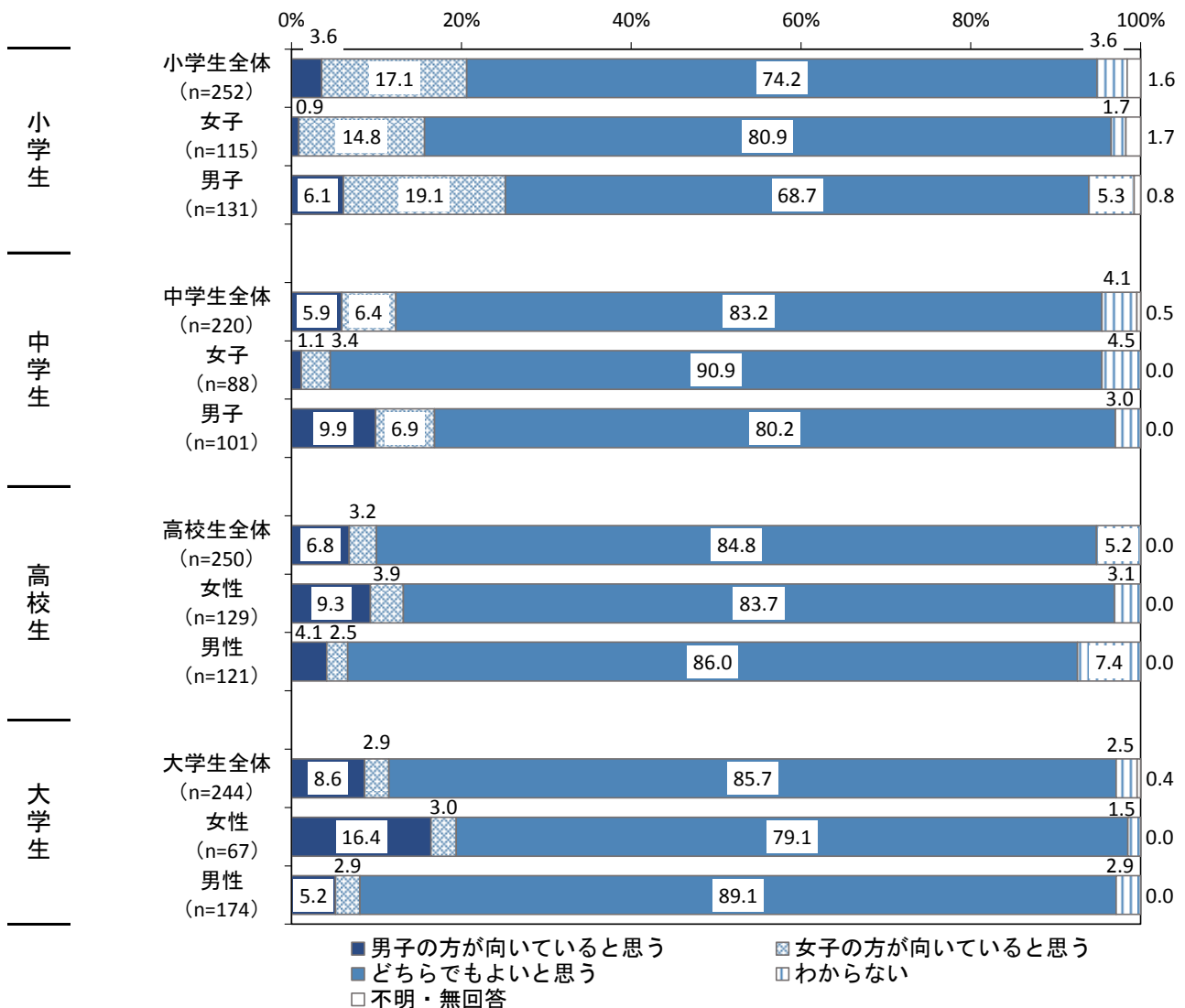
問	学校生活について、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。 <小学生 問5、中学生 問5、高校生 問5、大学生 問5>

①学級委員や生徒会役員になる

学校生活における性別による役割分担の意識について、「学級委員や生徒会役員になる」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、大学生が 85.7%で最も高く、年代別・性別で見ると、中学生・女子が 90.9%で最も高くなっています。

図表 5-2-1 学校生活における性別による役割分担の意識

①学級委員や生徒会役員になる

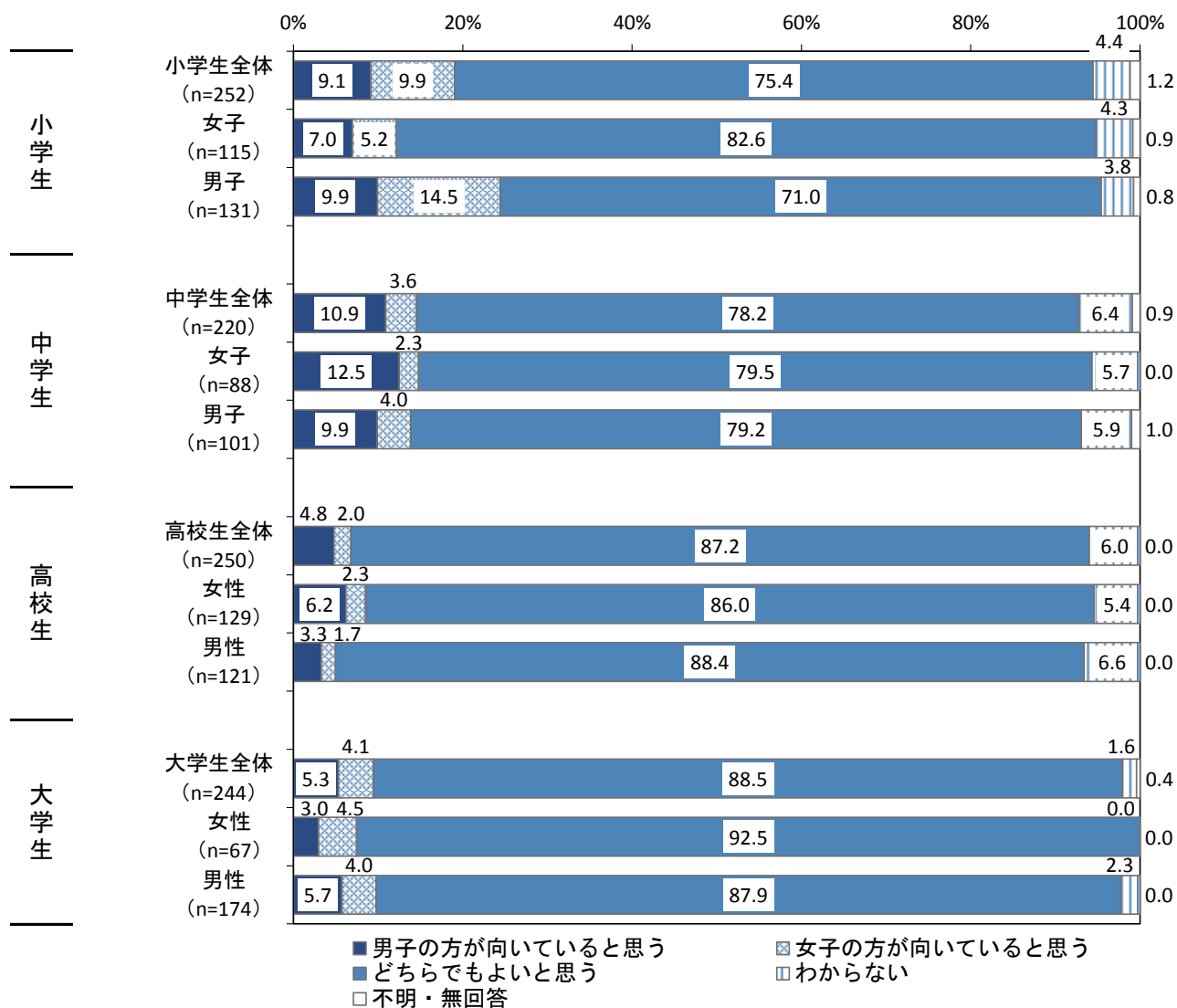


②授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う

学校生活における性別による役割分担の意識について、「授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、大学生が88.5%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・女性が92.5%で最も高くなっています。

図表 5-2-2 学校生活における性別による役割分担の意識

②授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う

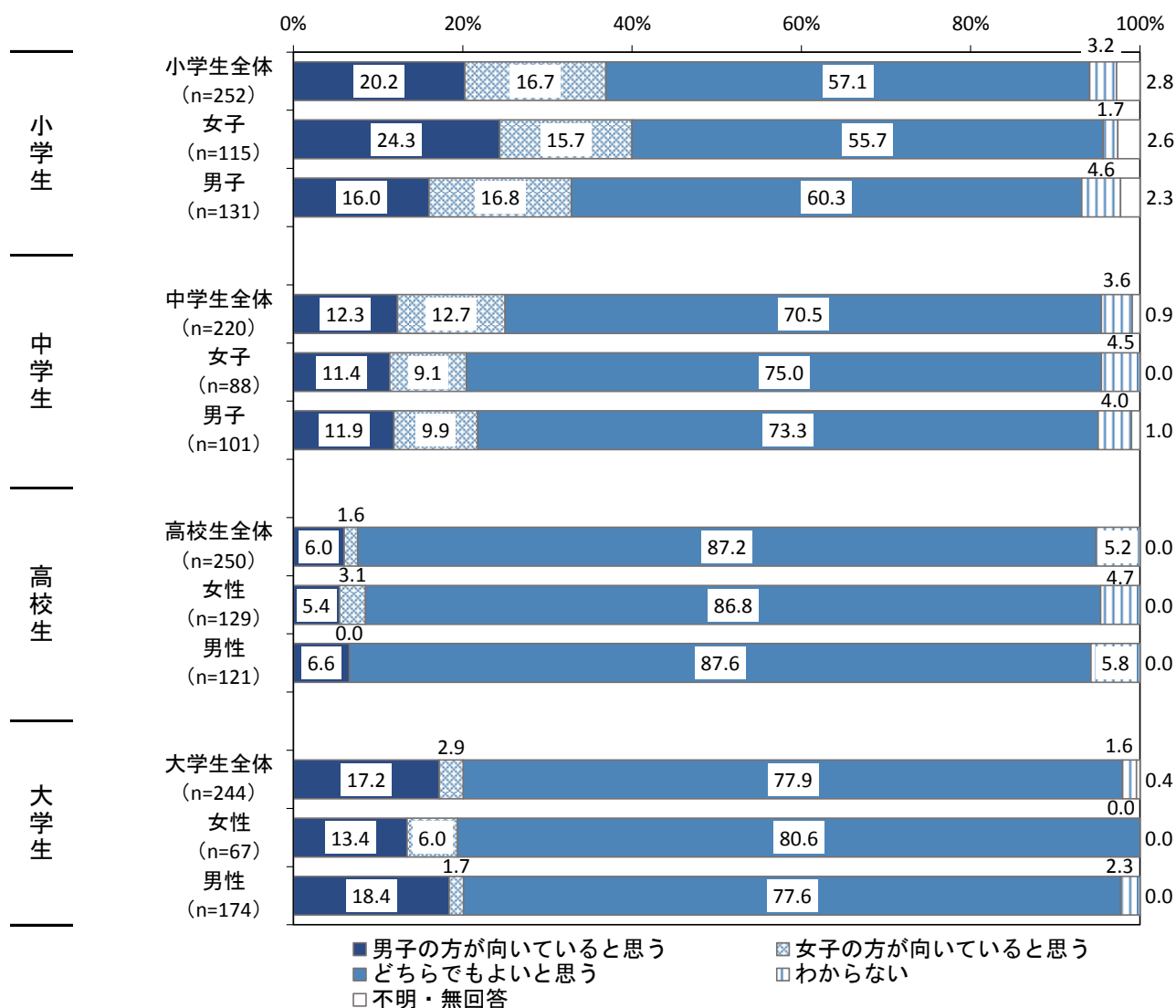


③理科のグループ実験でリーダーシップをとる

学校生活における性別による役割分担の意識について、「理科のグループ実験でリーダーシップをとる」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、高校生が 87.2%で最も高く、年代別・性別で見ると、高校生・男性が 87.6%で最も高くなっています。

図表 5-2-3 学校生活における性別による役割分担の意識

③理科のグループ実験でリーダーシップをとる

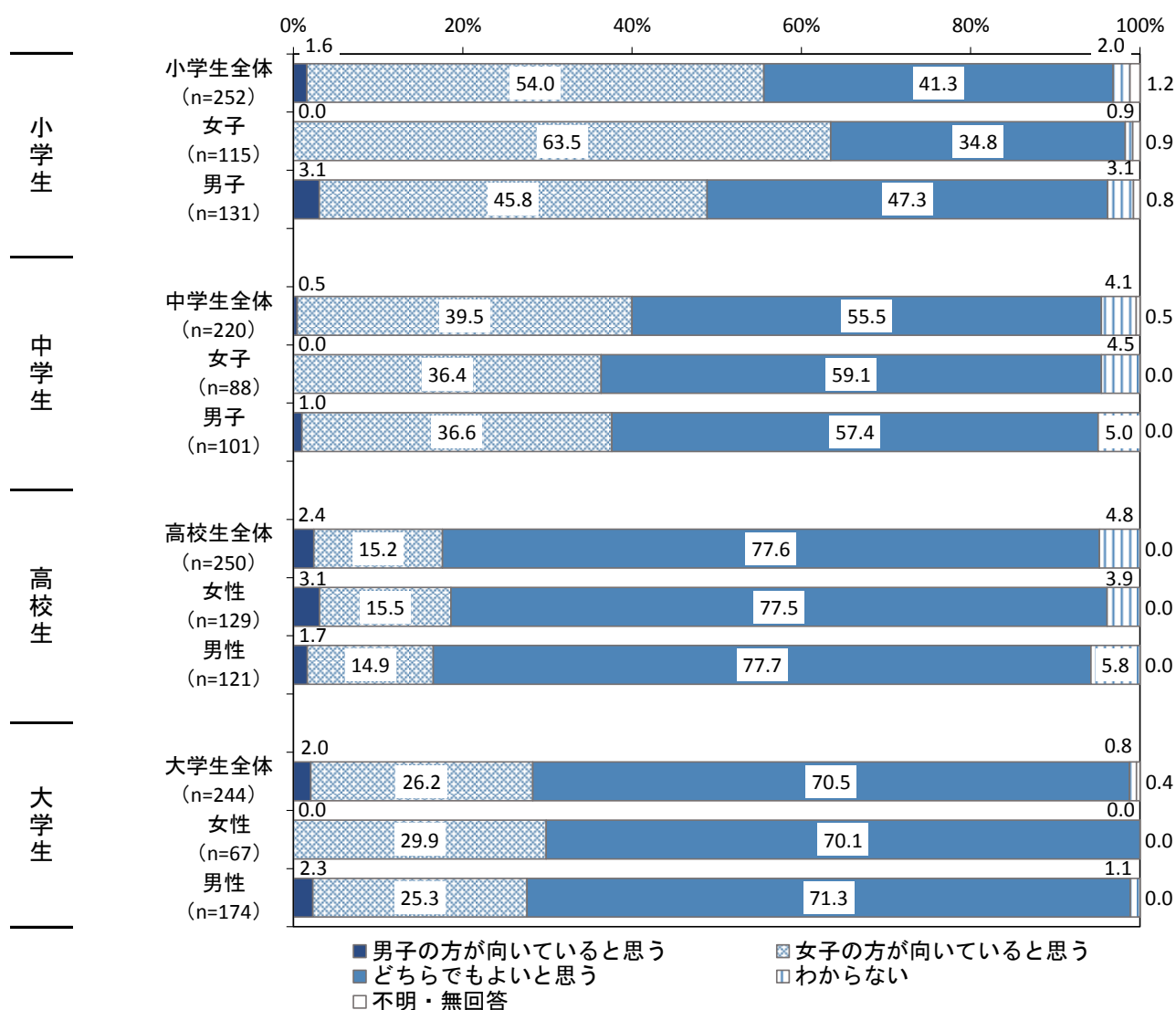


④調理実習でリーダーシップをとる

学校生活における性別による役割分担の意識について、「調理実習でリーダーシップをとる」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、高校生が 77.6% で最も高く、年代別・性別で見ると、高校生・男性が 77.7% で最も高くなっています。

図表 5-2-4 学校生活における性別による役割分担の意識

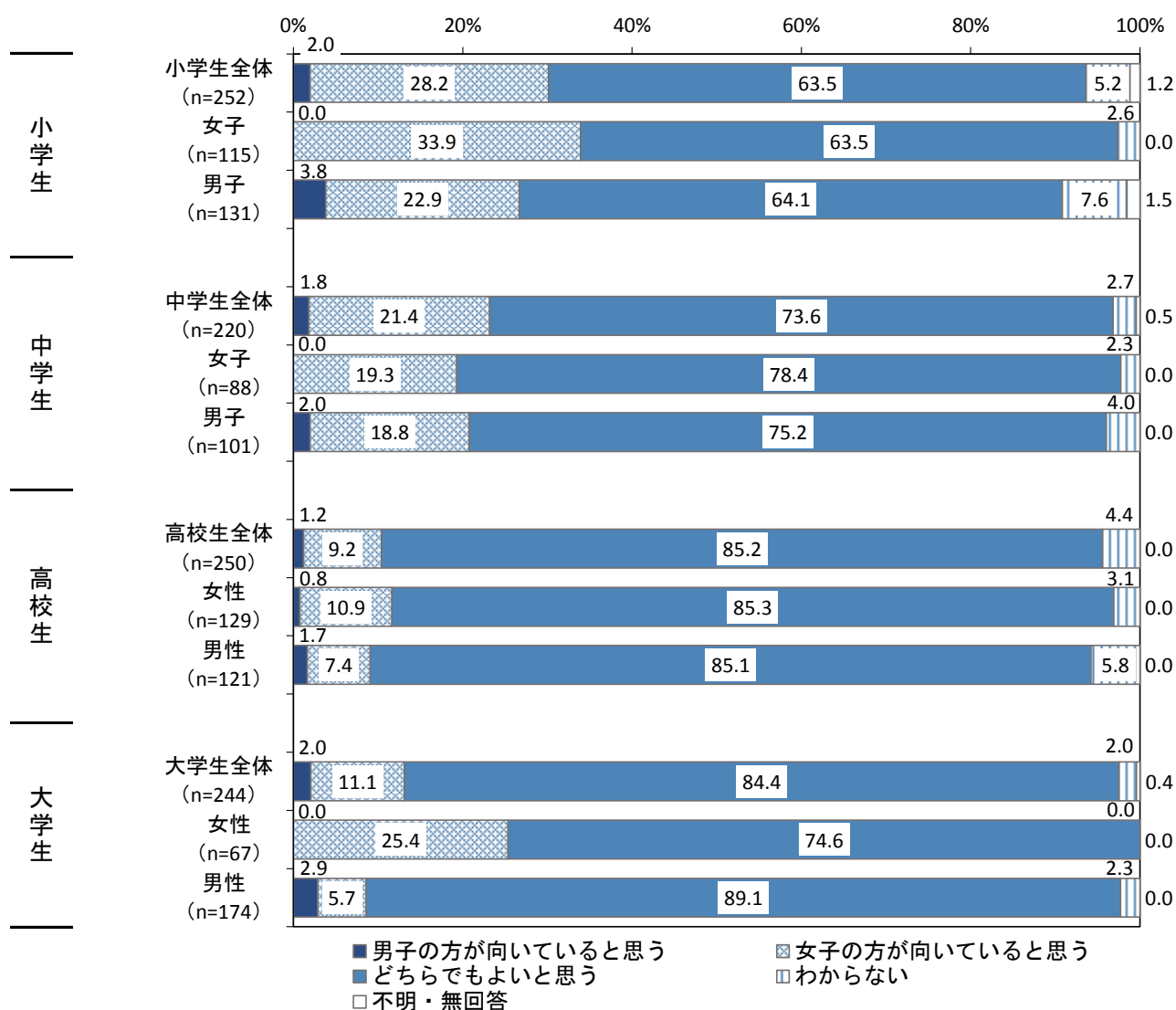
④調理実習でリーダーシップをとる



⑤教室の掃除や整理整とんする

学校生活における性別による役割分担の意識について、「教室の掃除や整理整とんする」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、高校生が85.2%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・男性が89.1%で最も高くなっています。

図表 5-2-5 学校生活における性別による役割分担の意識
⑤教室の掃除や整理整とんする



3. 家庭生活について

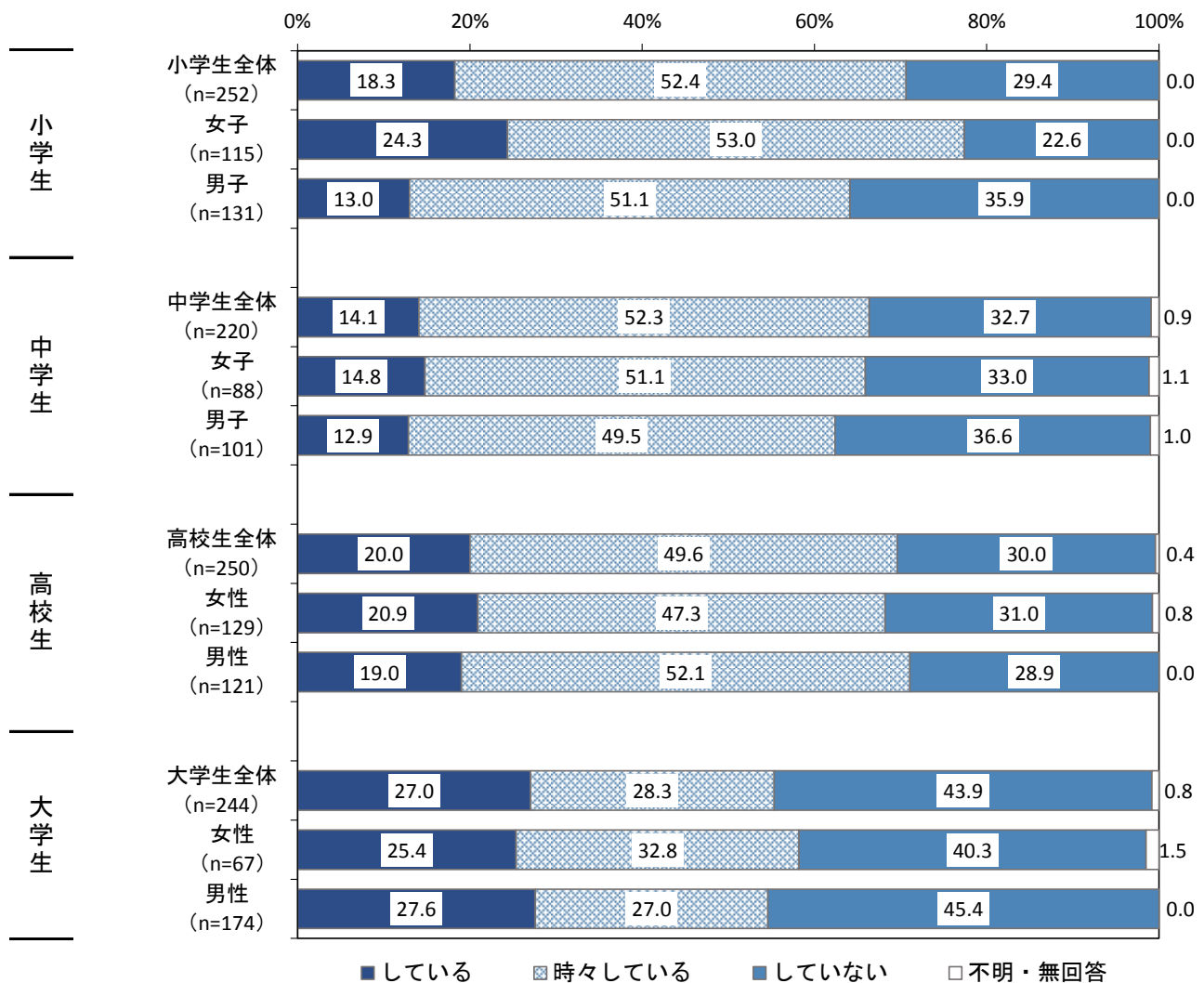
(1) 家庭生活について

問	あなたは次のような手伝いや、自分の身の回りのことをしていますか。 (○はそれぞれ1つ) <小学生 問6、中学生 問6、高校生 問6、大学生 問6>

①買い物

家庭生活について、「買い物」では、『している』(「している」と「時々している」の合計)を年代別で見ると、小学生が70.7%で最も高く、年代別・性別で見ると、小学生・女子が77.3%で最も高くなっています。

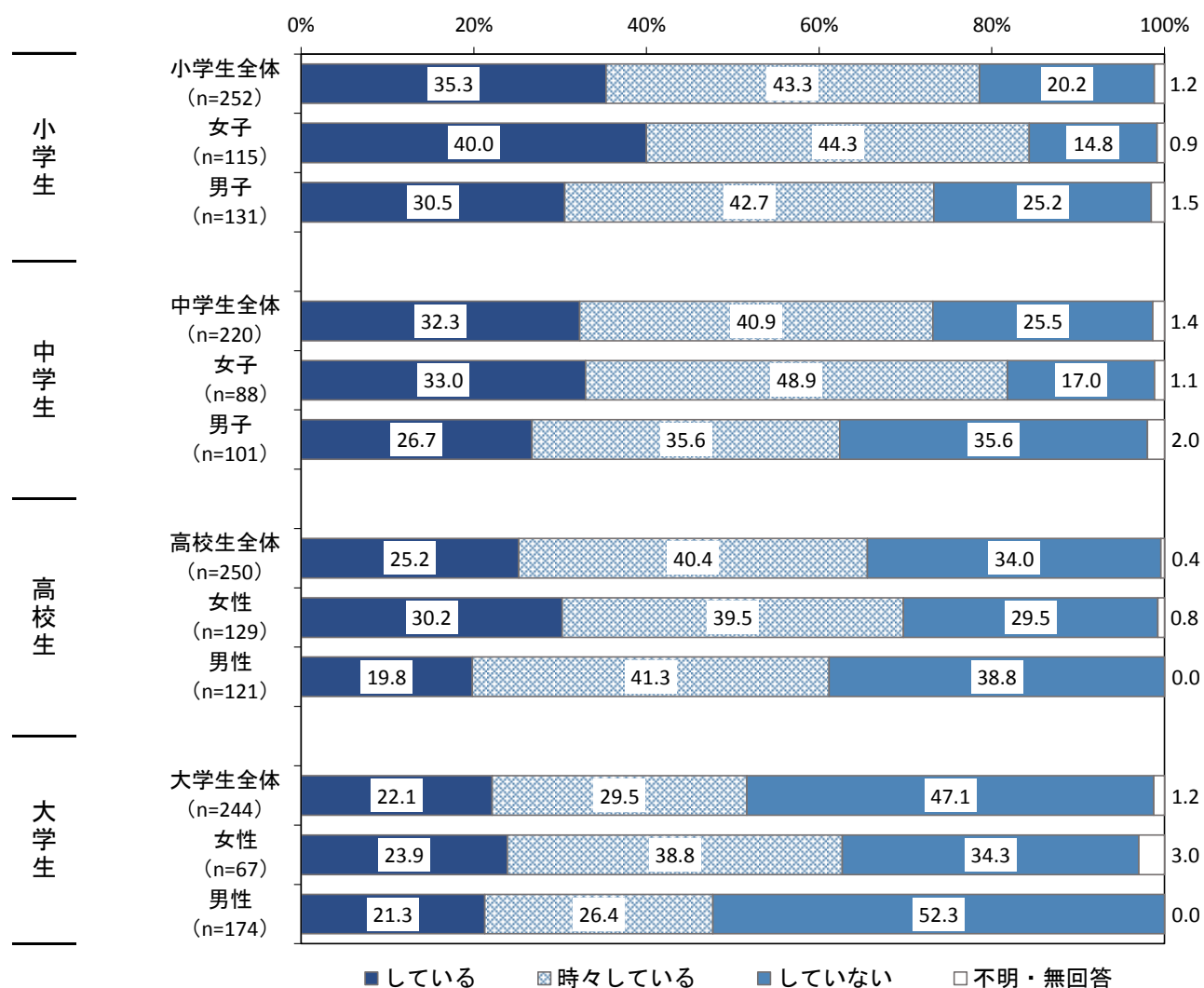
図表 5-3-1 家庭生活について ①買い物



②食事のしたく

家庭生活について、「食事のしたく」では、『している』を年代別で見ると、年代が下がるにつれて割合が高くなっており、小学生が78.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、小学生・女子が84.3%で最も高くなっています。

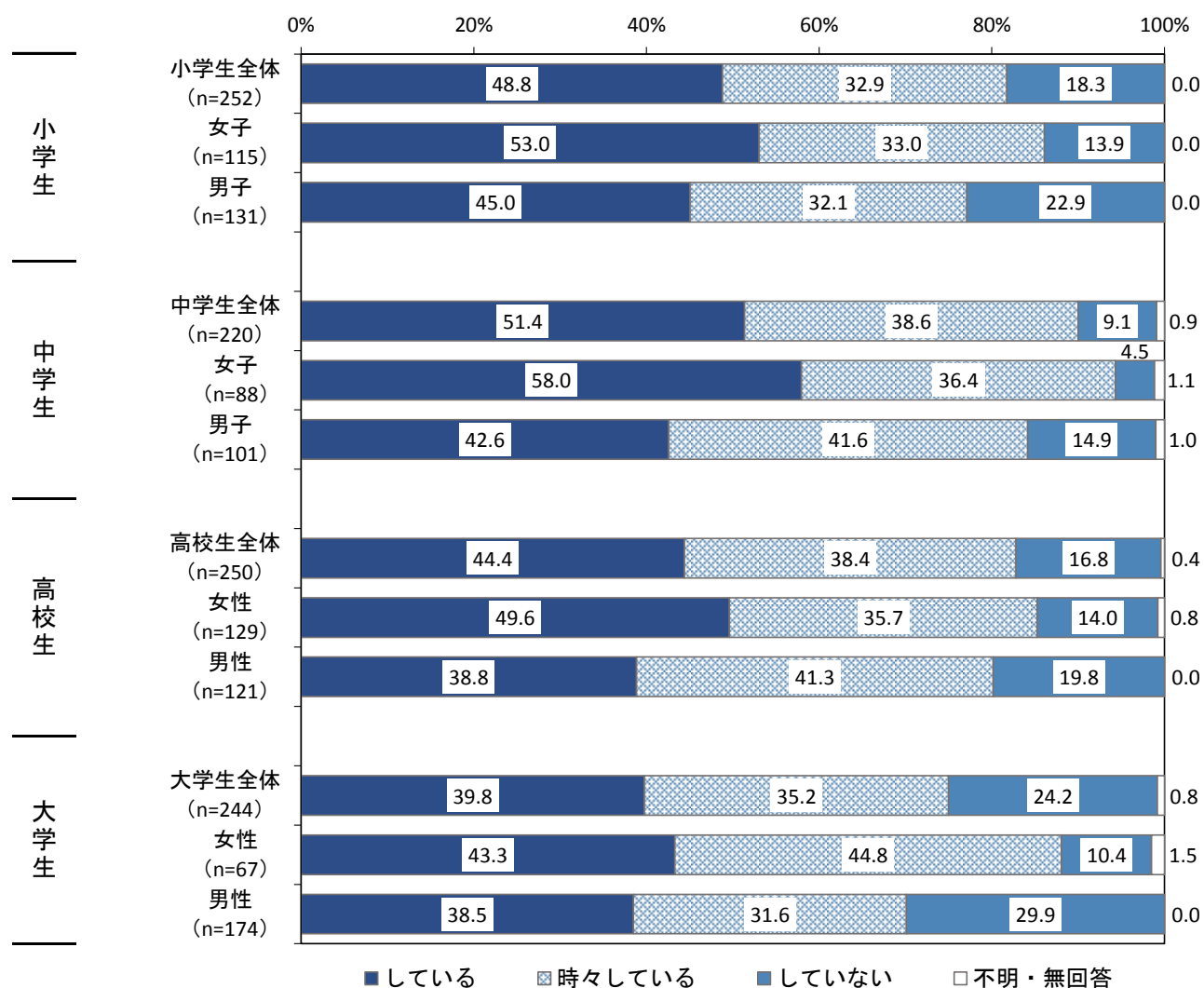
図表 5-3-2 家庭生活について ②食事のしたく



③食事の後片付け

家庭生活について、「食事の後片付け」では、『している』を年代別で見ると、中学生が90.0%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、中学生・女子が94.4%で最も高くなっています。

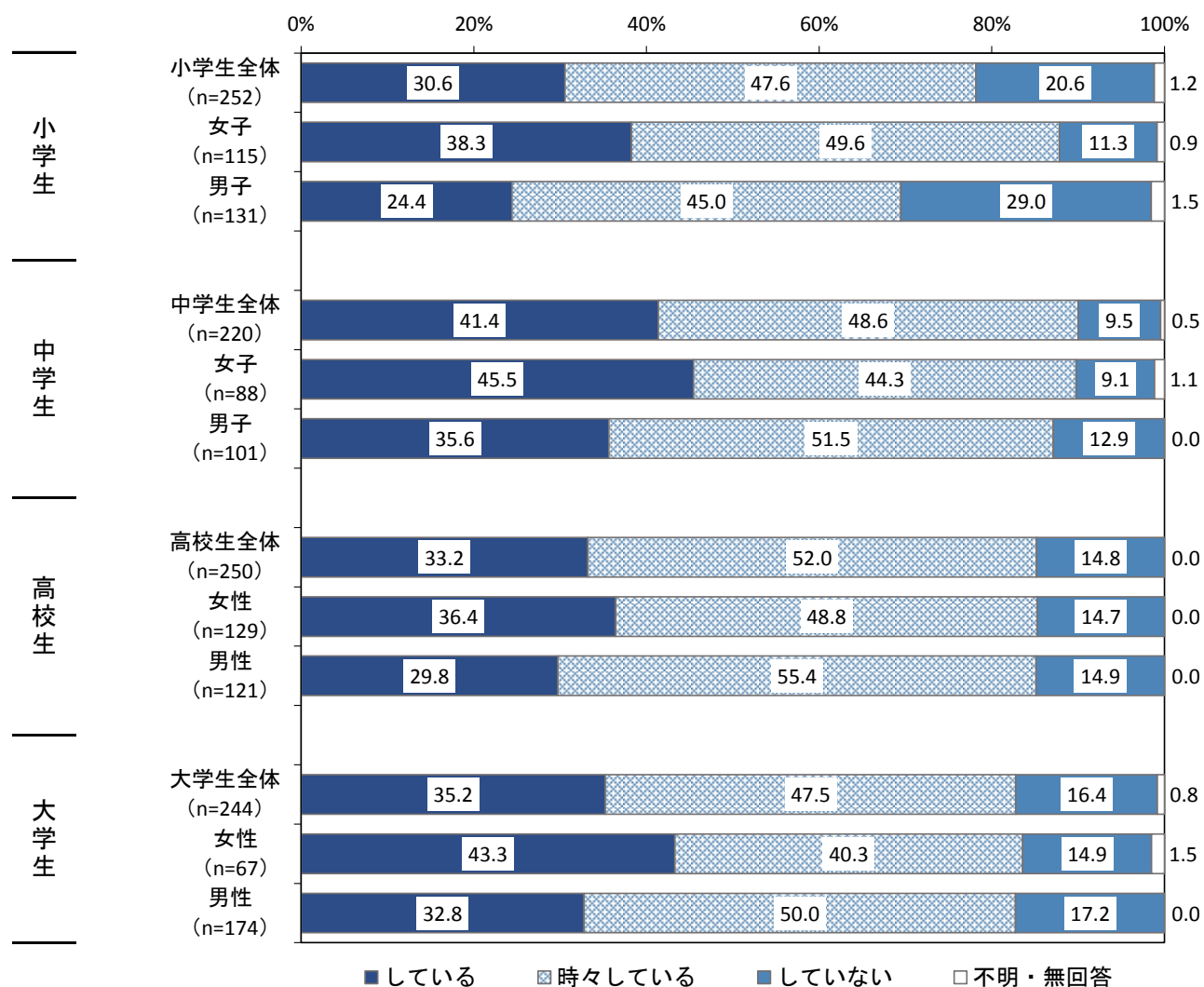
図表 5-3-3 家庭生活について ③食事の後片付け



④部屋の掃除

家庭生活について、「部屋の掃除」では、『している』を年代別で見ると、中学生が90.0%で最も高く、年代別・性別で見ると、中学生・女子が89.8%で最も高くなっています。

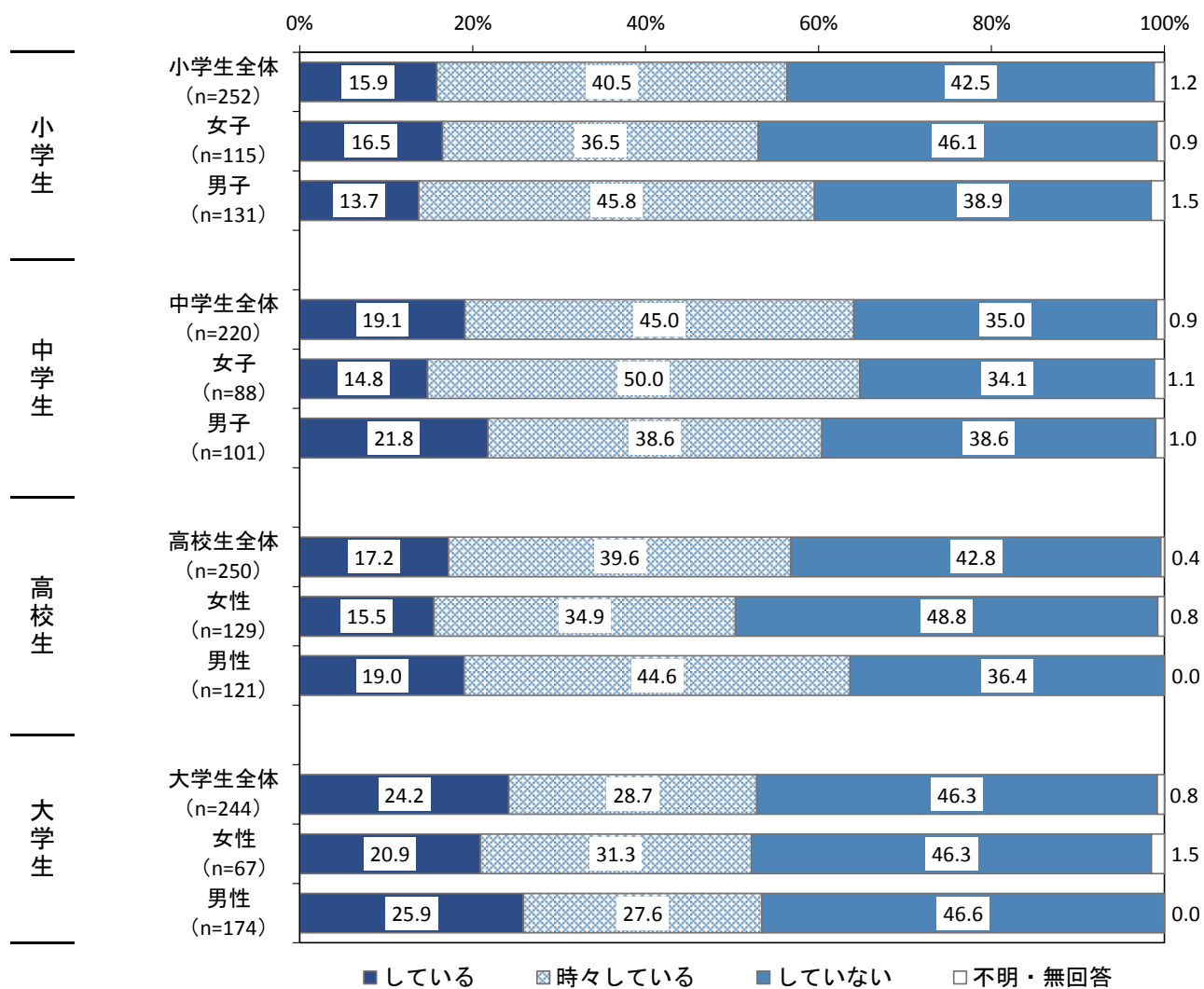
図表 5-3-4 家庭生活について ④部屋の掃除



⑤ゴミ出し

家庭生活について、「ゴミ出し」では、『している』を年代別で見ると、中学生が64.1%で最も高く、年代別・性別で見ると、中学生を除く全ての年代で男性（男子）の割合が高く、中学生・女子が64.8%で最も高くなっています。

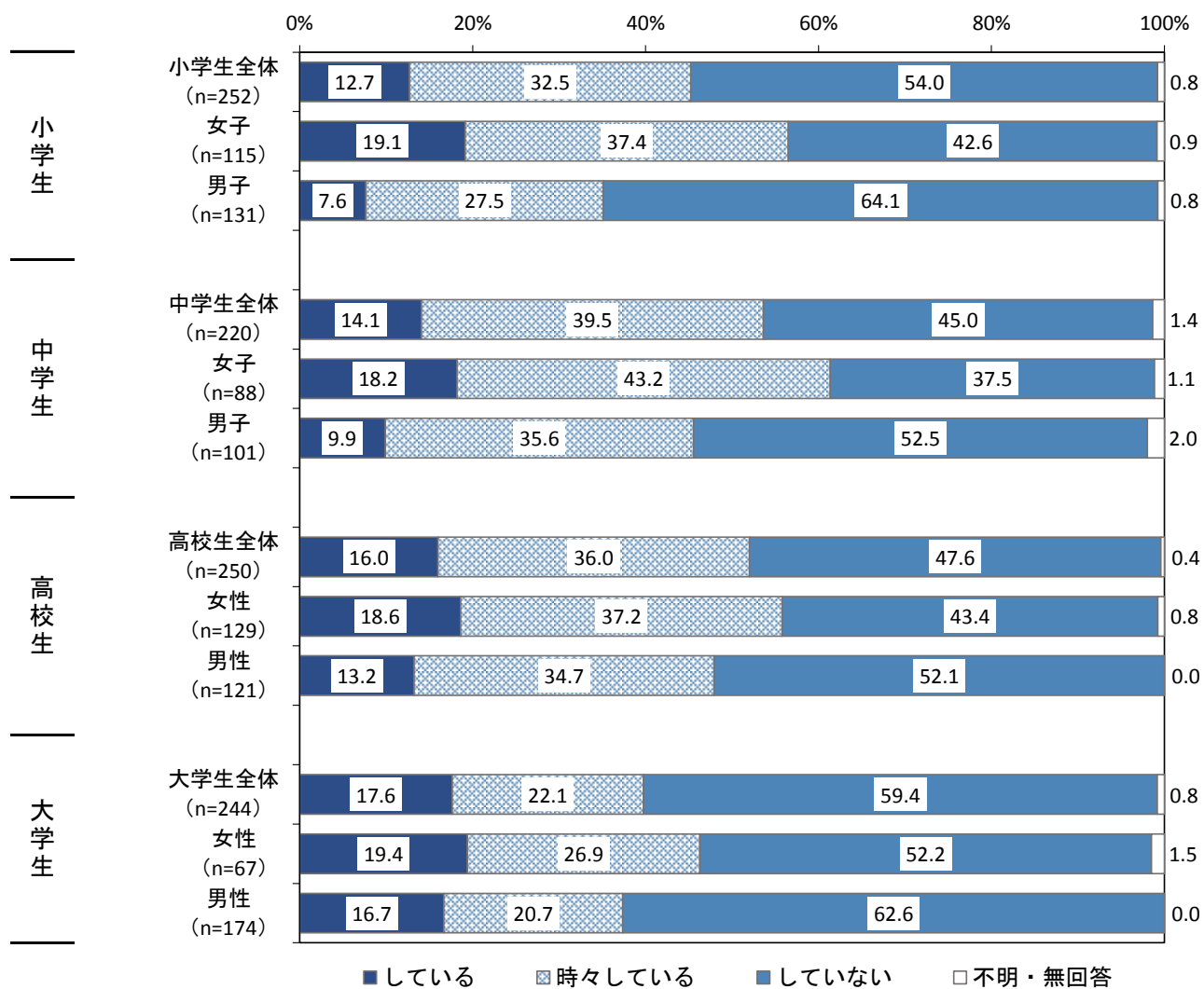
図表 5-3-5 家庭生活について ⑤ゴミ出し



⑥洗濯

家庭生活について、「洗濯」では、『している』を年代別で見ると、中学生が 53.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、中学生・女子が 61.4%で最も高くなっています。

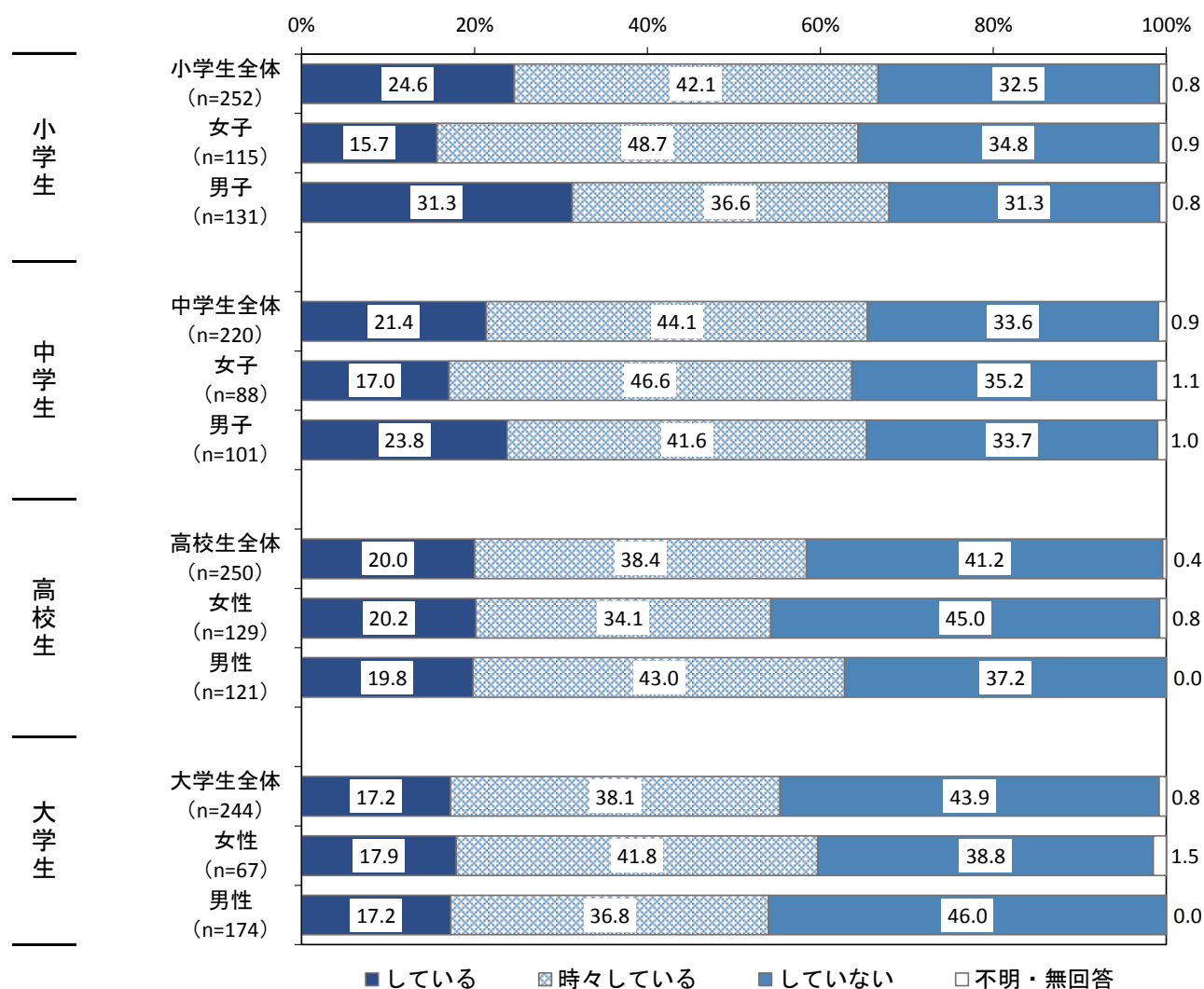
図表 5-3-6 家庭生活について ⑥洗濯



⑦お風呂の掃除

家庭生活について、「お風呂の掃除」では、『している』を年代別で見ると、年代が下がるにつれて割合が高くなっており、小学生が66.7%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生を除く全ての年代で男性（男子）の割合が高く、小学生・男子が67.9%で最も高くなっています。

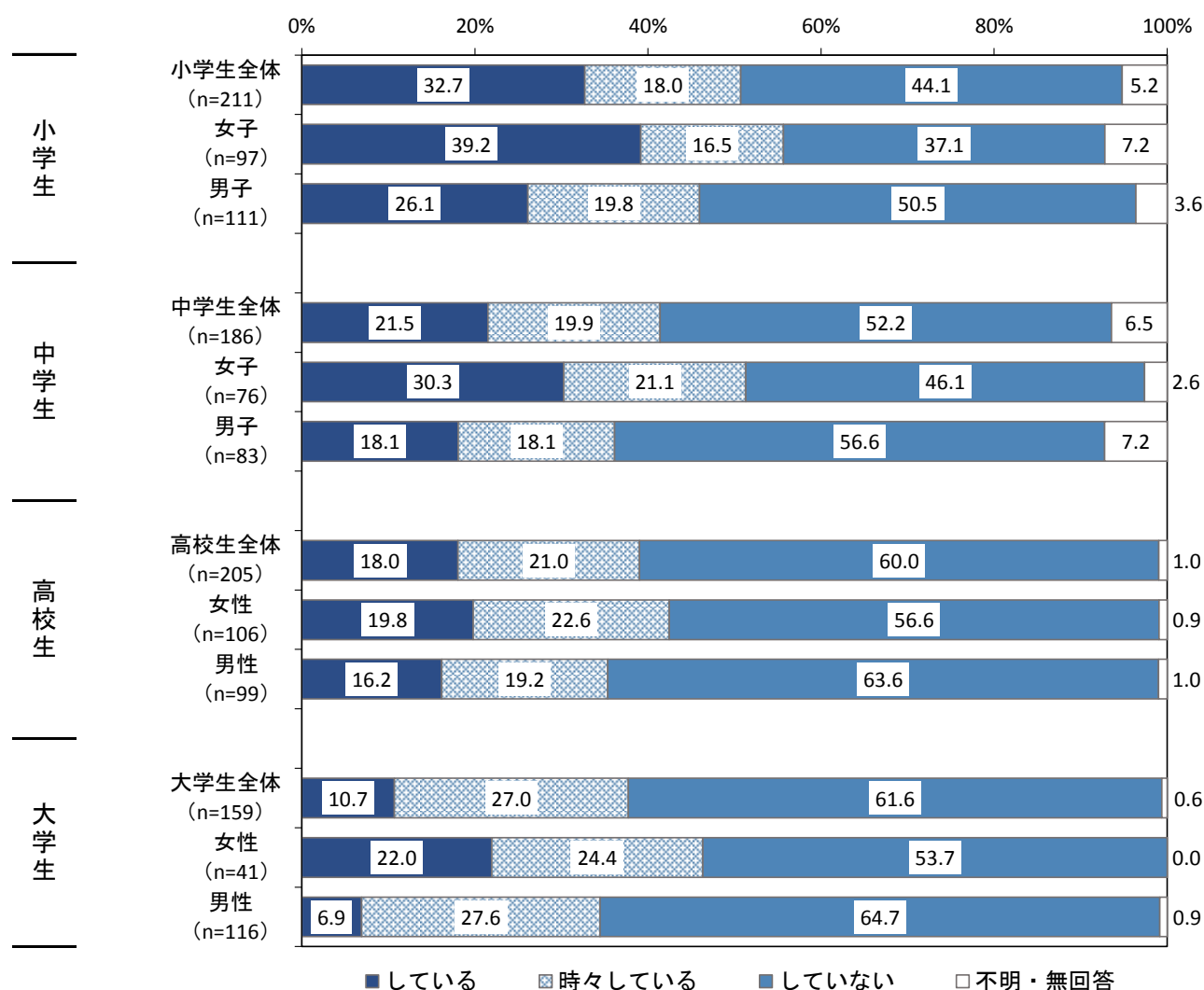
図表 5-3-7 家庭生活について ⑦お風呂の掃除



⑧-1 きょうだいの世話（同居家族にきょうだいのいる人のみ）

家庭生活について、「きょうだいの世話」（同居家族で「姉」「兄」「妹」「弟」を回答した人のみ）では、『している』を年代別で見ると、年代が下がるにつれて割合が高くなっており、小学生が50.7%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、小学生・女子が55.7%で最も高くなっています。

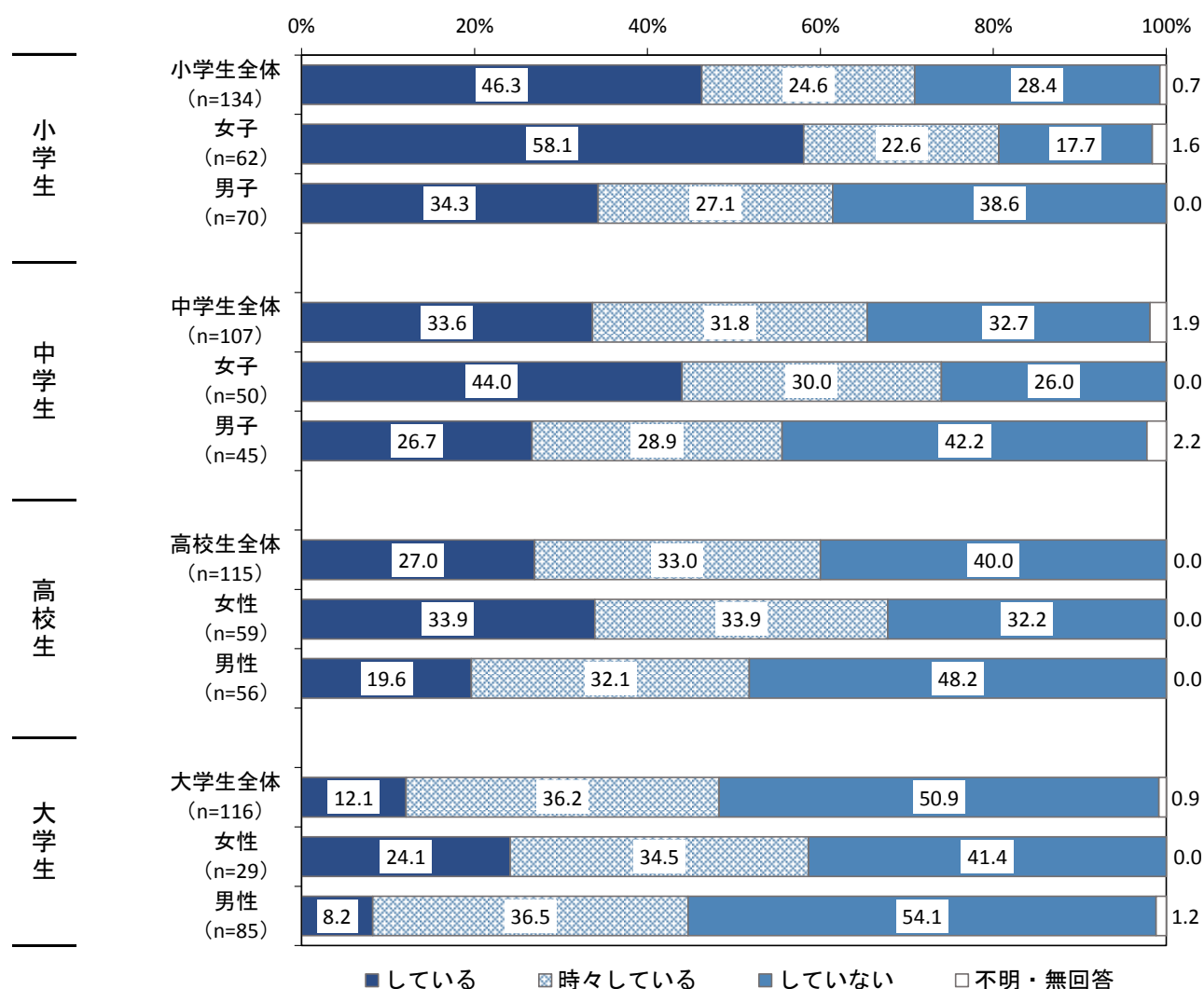
図表 5-3-8 家庭生活について ⑧きょうだいの世話（同居家族にきょうだいのいる人のみ）



⑧-2 きょうだいの世話（同居家族に妹・弟のいる人のみ）

家庭生活について、「きょうだいの世話」（同居家族で「妹」「弟」を回答した人のみ）では、『している』を年代別で見ると、年代が下がるにつれて割合が高くなっており、小学生が70.9%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、小学生・女子が80.7%で最も高くなっています。

図表 5-3-9 家庭生活について ⑧きょうだいの世話（同居家族に妹・弟のいる人のみ）



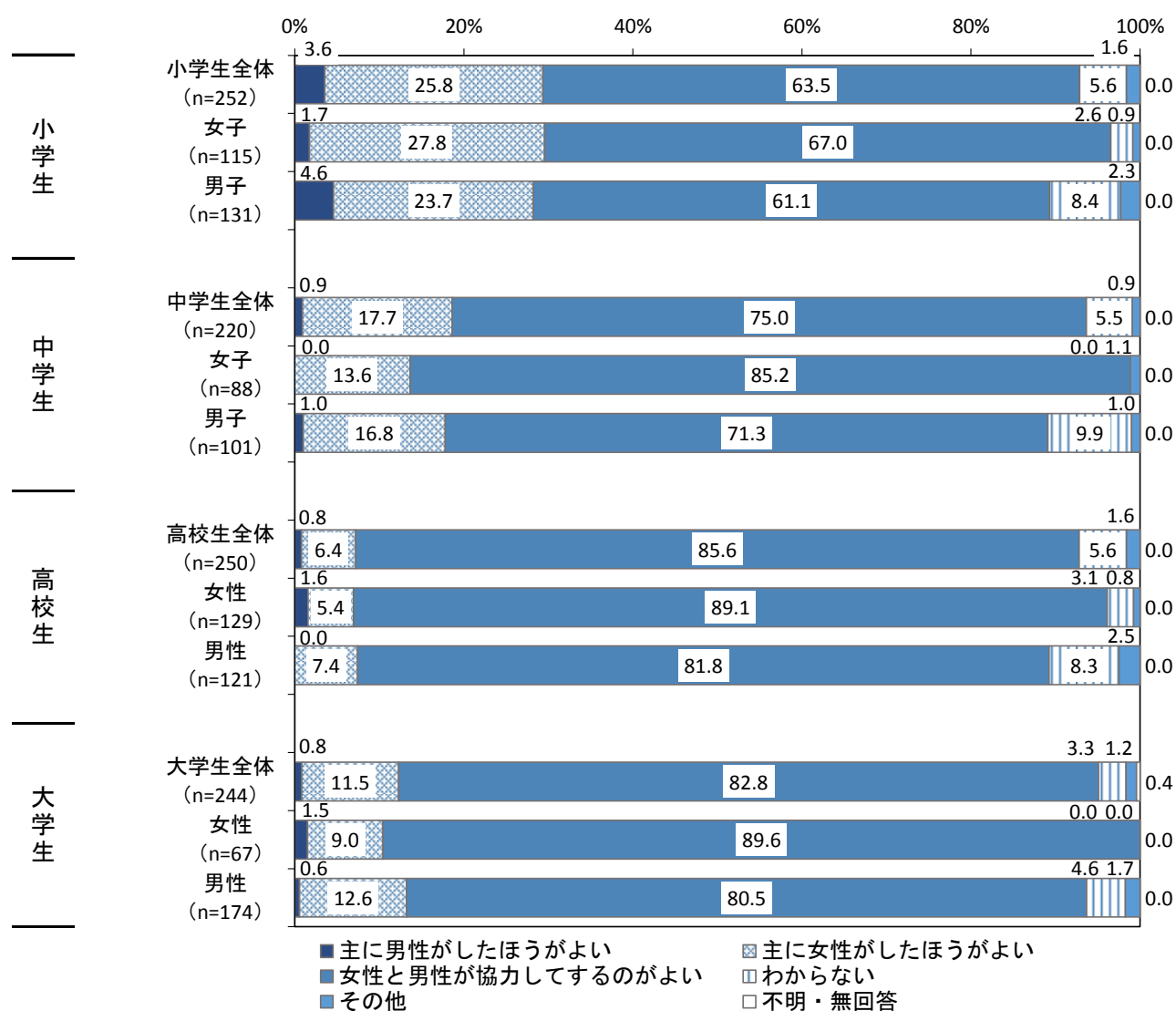
(2) 家庭生活における性別による役割分担の意識

問	あなたは、次のようなことを誰がするのが一番よいと思いますか。 ＜小学生 問7、中学生 問7、高校生 問7、大学生 問7＞

①小さい子どもの世話

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「小さい子どもの世話」では、「女性と男性が協力してするのがよい」を年代別で見ると、高校生が85.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が89.6%で最も高くなっています。

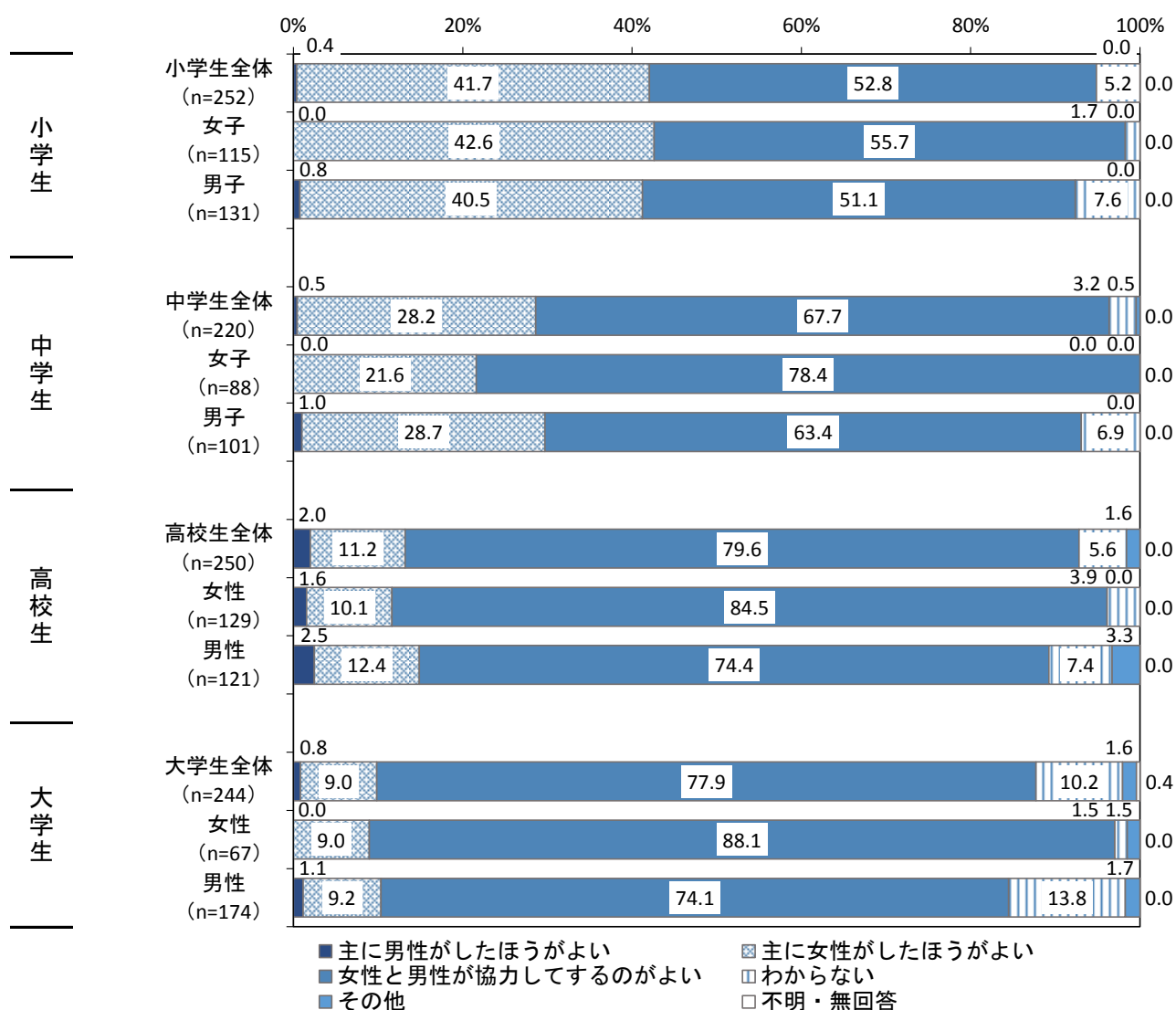
図表 5-3-10 家庭生活における性別による役割分担の意識 ①小さい子どもの世話



②料理・掃除・洗濯などの家事

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「料理・掃除・洗濯などの家事」では、「女性と男性が協力してするのがよい」を年代別で見ると、高校生が 79.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が 88.1%で最も高くなっています。

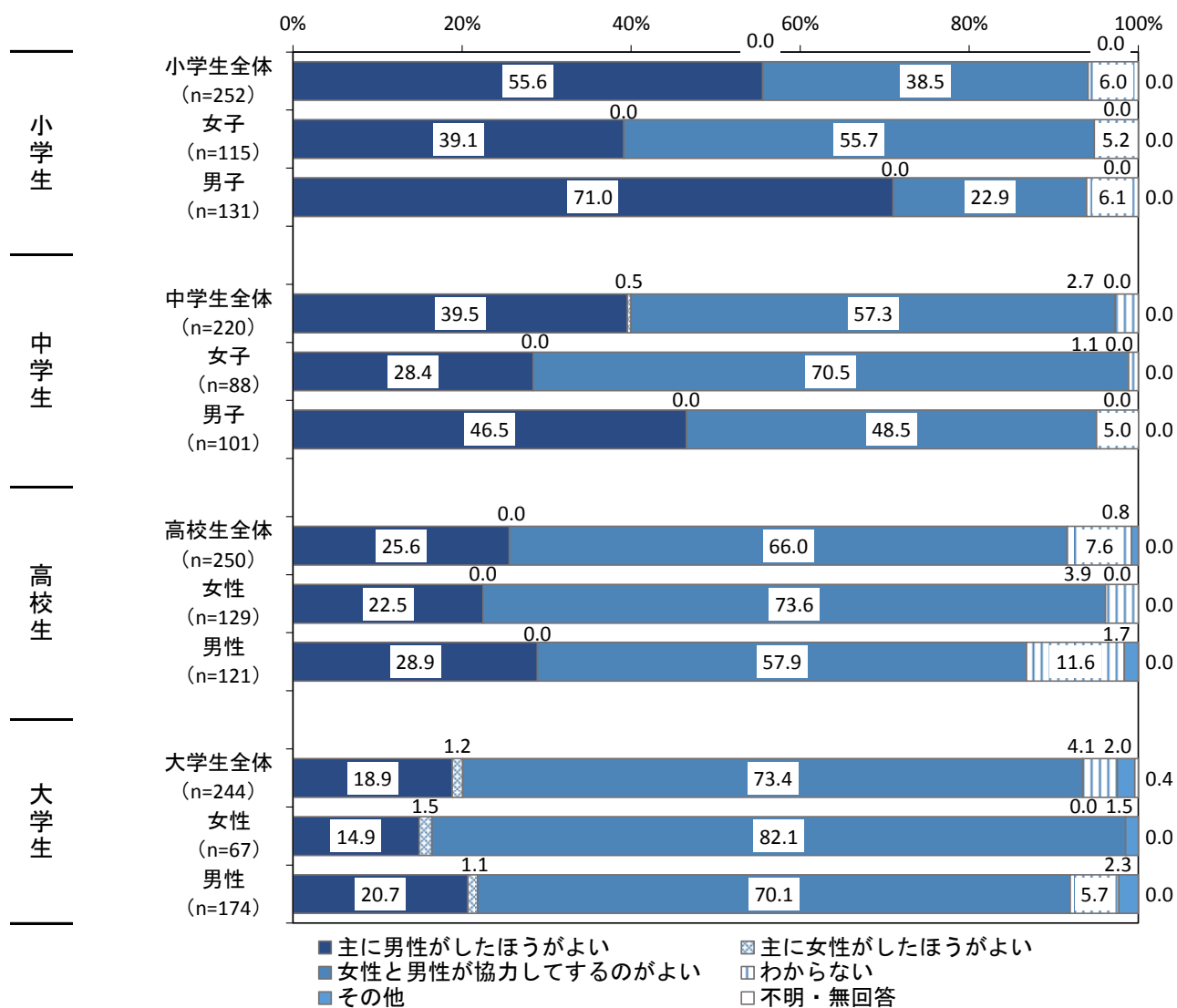
図表 5-3-11 家庭生活における性別による役割分担の意識 ②料理・掃除・洗濯などの家事



③お金を稼ぐ仕事

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「お金を稼ぐ仕事」では、「女性と男性が協力してするのがよい」を年代別で見ると、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、大学生が73.4%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が82.1%で最も高くなっています。

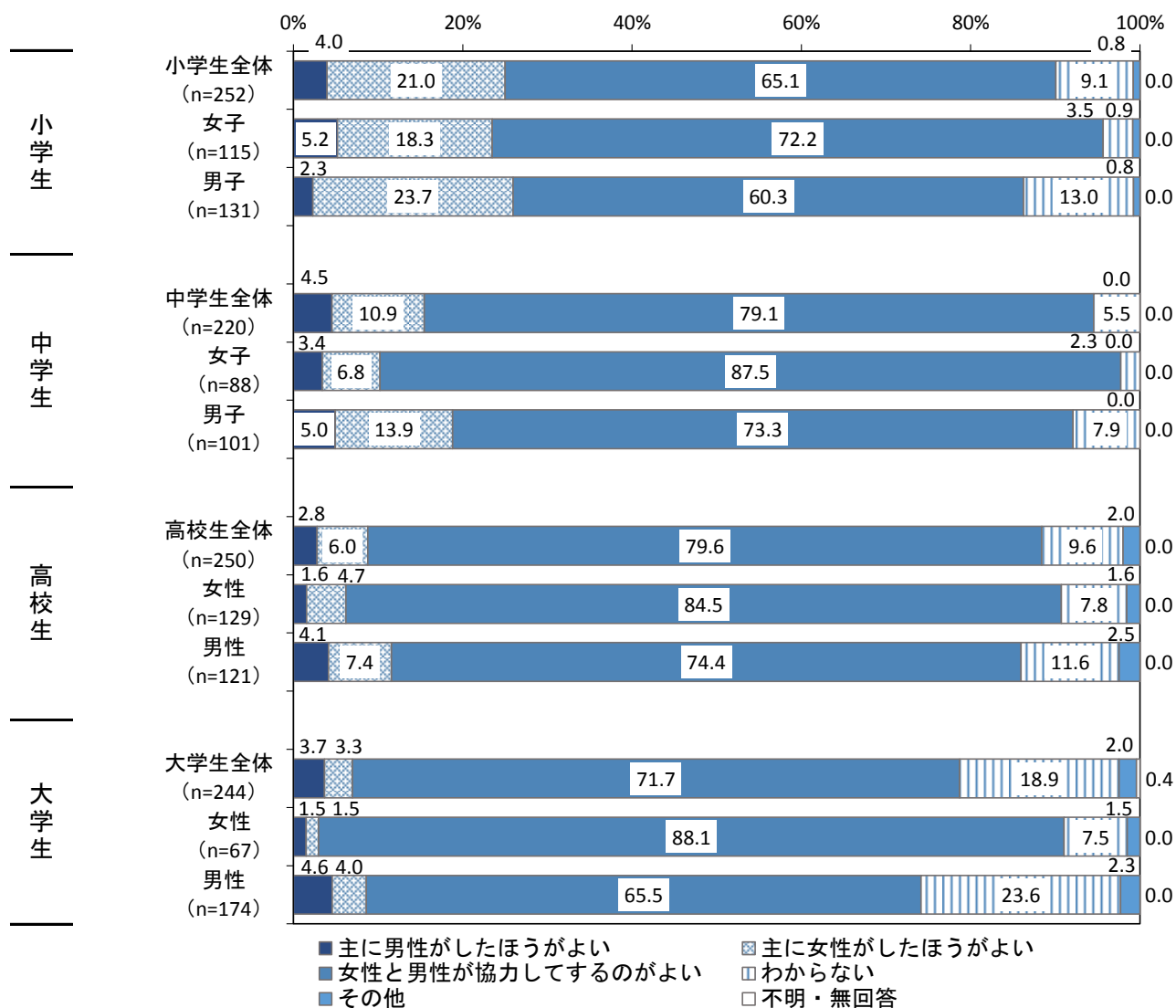
図表 5-3-12 家庭生活における性別による役割分担の意識 ③お金を稼ぐ仕事



④祖父母の介護

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「祖父母の介護」では、「女性と男性が協力してするのがよい」を年代別で見ると、高校生が79.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が88.1%で最も高くなっています。

図表 5-3-13 家庭生活における性別による役割分担の意識 ④祖父母の介護



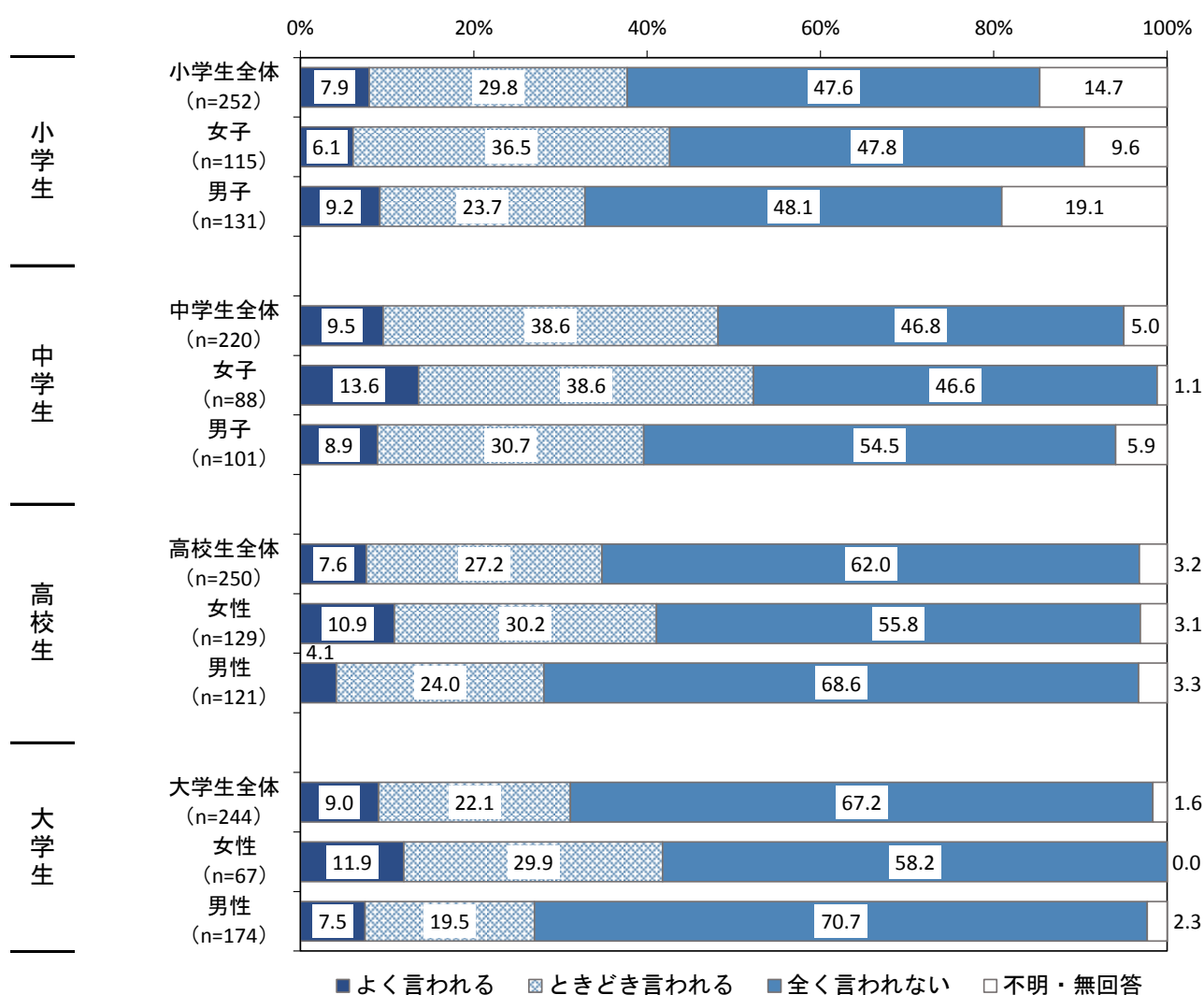
4. ジェンダー意識について

(1) 「男だから、女だから」と言われた経験

問	あなたは、「男だから〇〇」や「女だから〇〇」のように言われたことがありますか。(〇は1つ) <小学生 問8、中学生 問8、高校生 問8、大学生 問8>

「男だから、女だから」と言われた経験について、『言われる』（「よく言われる」と「ときどき言われる」の合計）では、年代別で見ると、中学生が48.1%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、中学生・女子が52.2%で最も高くなっています。

図表 5-4-1 「男だから、女だから」と言われた経験

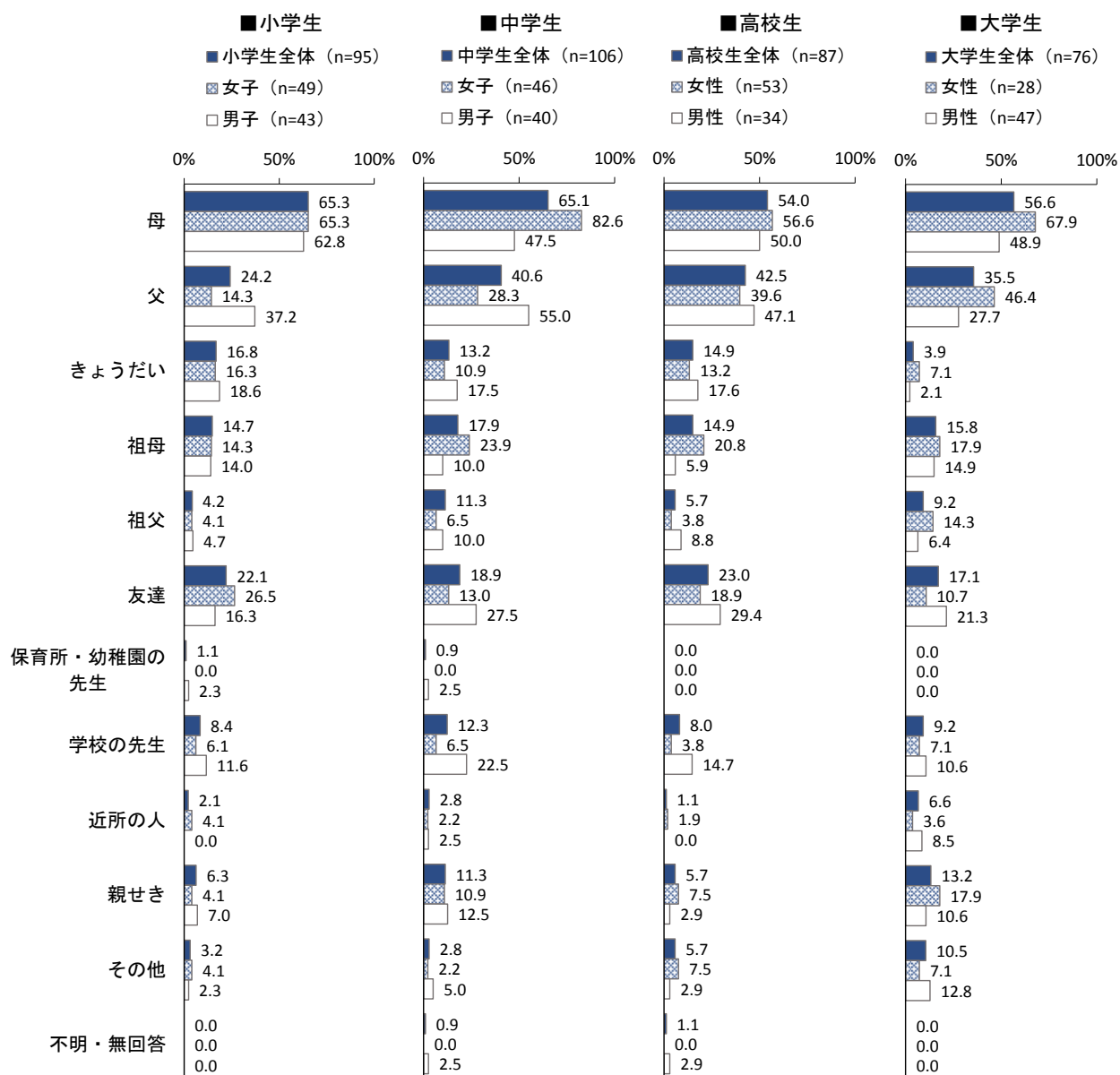


(2)「男だから、女だから」と言われた相手

問	【前問で「よく言われる」「ときどき言われる」を回答した人】 それは、誰に言われましたか。(あてはまるものすべてに○) ＜小学生 問8-1、中学生 問8-1、高校生 問8-1、大学生 問8-1＞

「男だから、女だから」と言われた相手について、年代別・性別でみると、中学生・男子では「父」の割合が最も高く、それ以外の年代では「母」の割合が最も高くなっており、女性（女子）では、「父」は年代が上がるにつれて割合が高くなっています。

図表 5-4-2 「男だから、女だから」と言われた相手

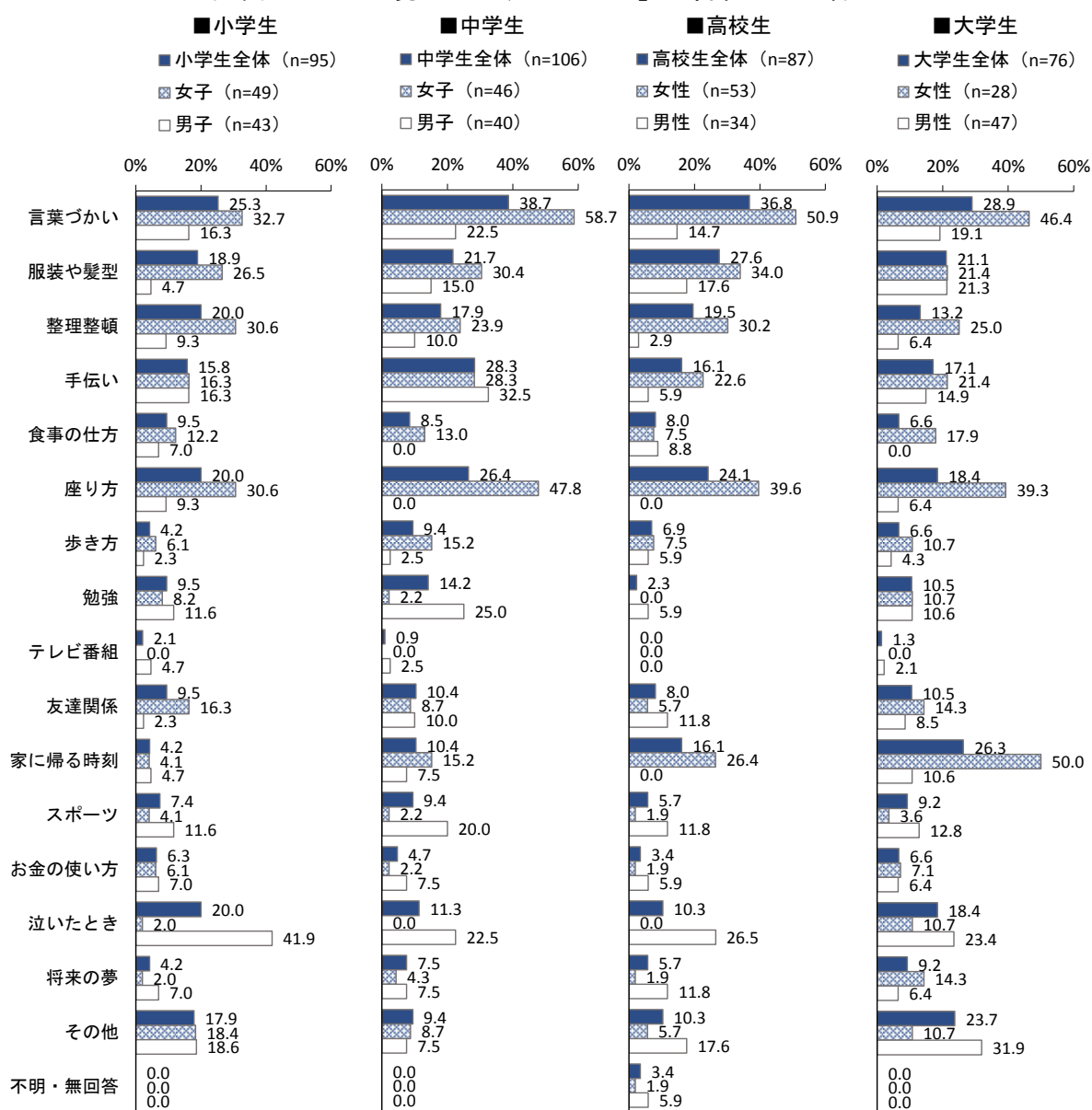


(3)「男だから、女だから」と言われた内容

問	【前問で「よく言われる」「ときどき言われる」を回答した人】 どんなことで言われましたか。(あてはまるものすべてに○) <小学生 問8-2、中学生 問8-2、高校生 問8-2、大学生 問8-2>

「男だから、女だから」と言われた内容について、年代別・性別でみると、小学生・女子、中学生・女子、高校生・女性では「言葉づかい」の割合が最も高く、小学生・男子、高校生・男性では「泣いたとき」の割合が最も高く、中学生・男子では「手伝い」の割合が最も高く、大学生・女性では「家に帰る時刻」の割合が最も高く、大学生・男性では「その他」の割合が最も高くなっています。

図表 5-4-3 「男だから、女だから」と言われた内容

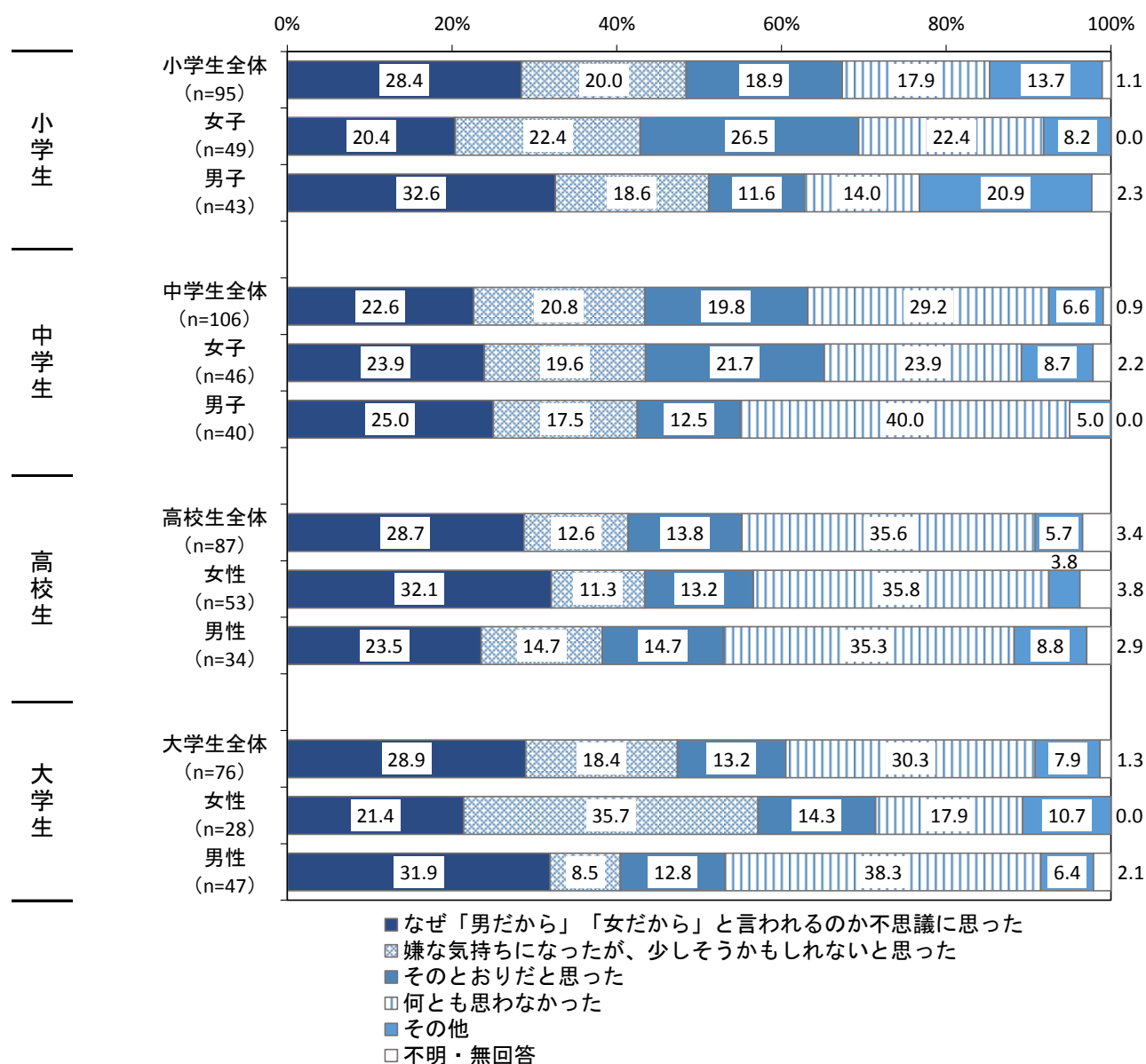


(4)「男だから、女だから」と言われたときの気持ち

問	【前問で「よく言われる」「ときどき言われる」を回答した人】 あなたは、言われた時どんな気持ちがしましたか。(〇は1つ) <小学生 問8-3、中学生 問8-3、高校生 問8-3、大学生 問8-3>

「男だから、女だから」と言われたときの気持ちについて、年代別・性別で見ると、小学生・女子では「そのとおりだと思った」の割合が最も高く、小学生・男子では「なぜ「男だから」「女だから」と言われるのか不思議に思った」の割合が最も高く、大学生・女性では「嫌な気持ちになったが、少しそうかもしれないと思った」の割合が最も高く、中学生・女子では「なぜ「男だから」「女だから」と言われるのか不思議に思った」「何とも思わなかった」の割合が同率で最も高く、それ以外の年代では「何とも思わなかった」の割合が最も高くなっています。

図表 5-4-4 「男だから、女だから」と言われたときの気持ち



5. デートDVについて

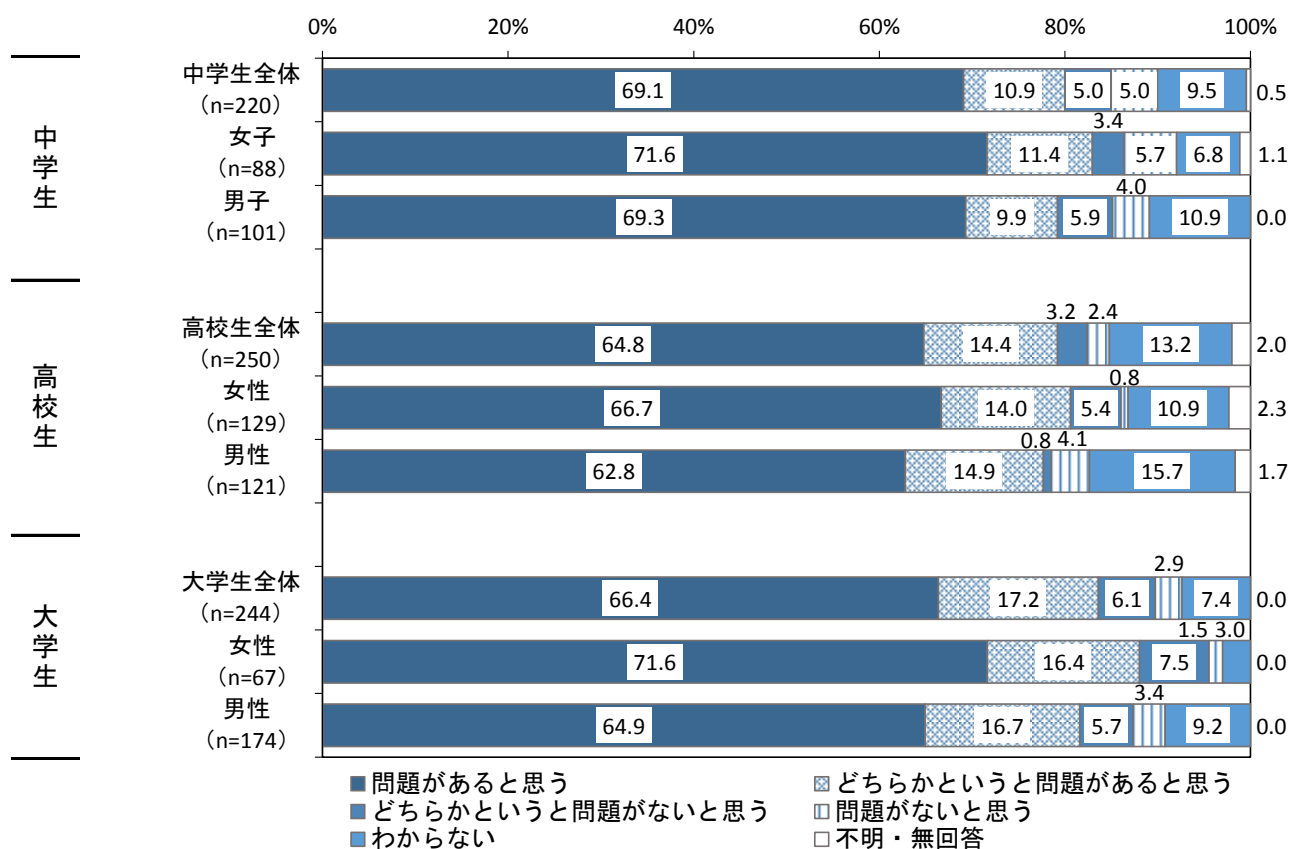
(1) デートDVについての意識

問	あなたは、次のような付き合っている相手との関係についてどう思いますか。 それぞれどちらかに1つ○をつけてください。 <中学生 問9（⑨⑩を除く）、高校生 問9、大学生 問9>

① 2人のことを何でも自分の意見や都合で決める

デートDVについての意識について、「2人のことを何でも自分の意見や都合で決める」では、『問題があると思う』（「問題があると思う」と「どちらかという問題があると思う」の合計）を年代別で見ると、大学生が83.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が88.0%で最も高くなっています。

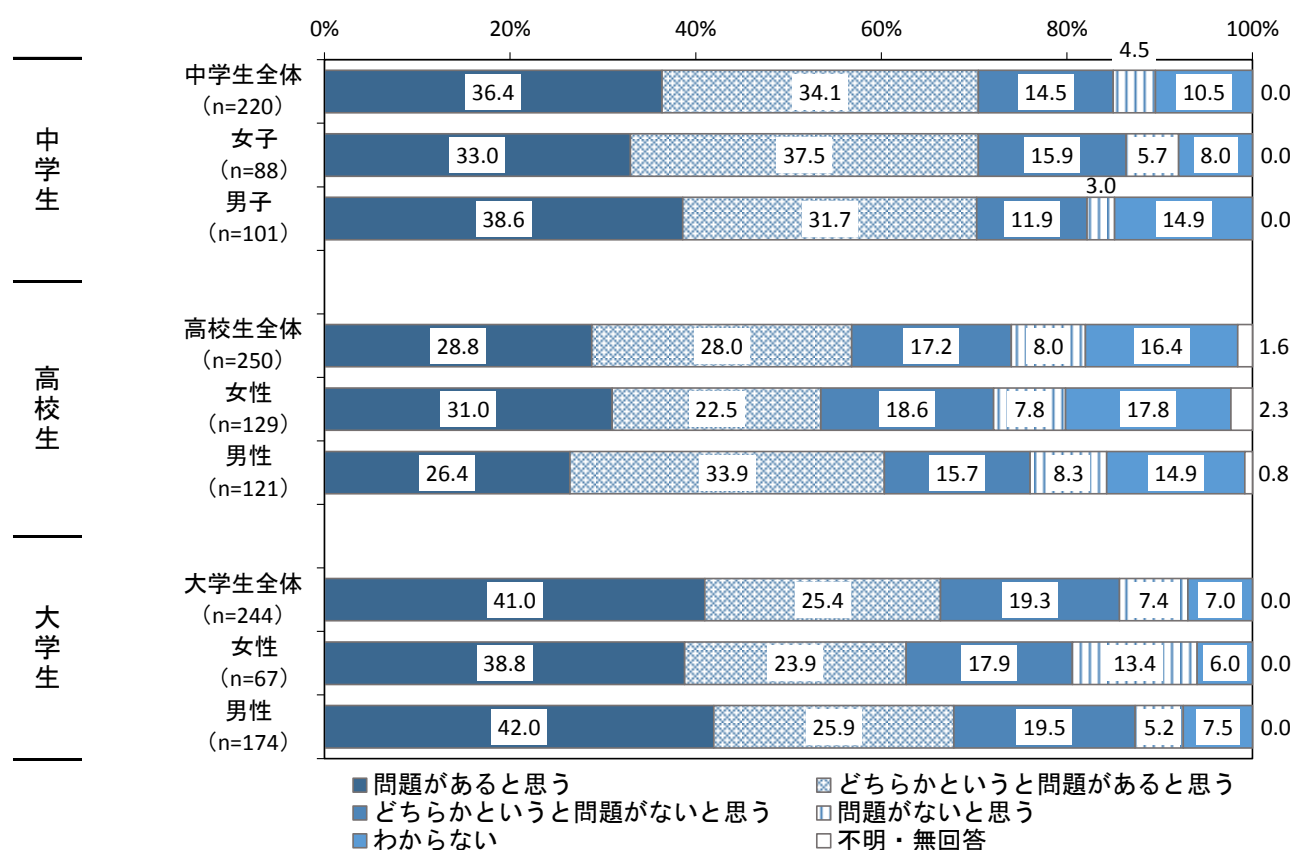
図表 5-5-1 デートDVについての意識 ① 2人のことを何でも自分の意見や都合で決める



②相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる

デートDVについての意識について、「相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、中学生が70.5%で最も高く、年代別・性別で見ると、中学生・女子が70.5%で最も高くなっています。

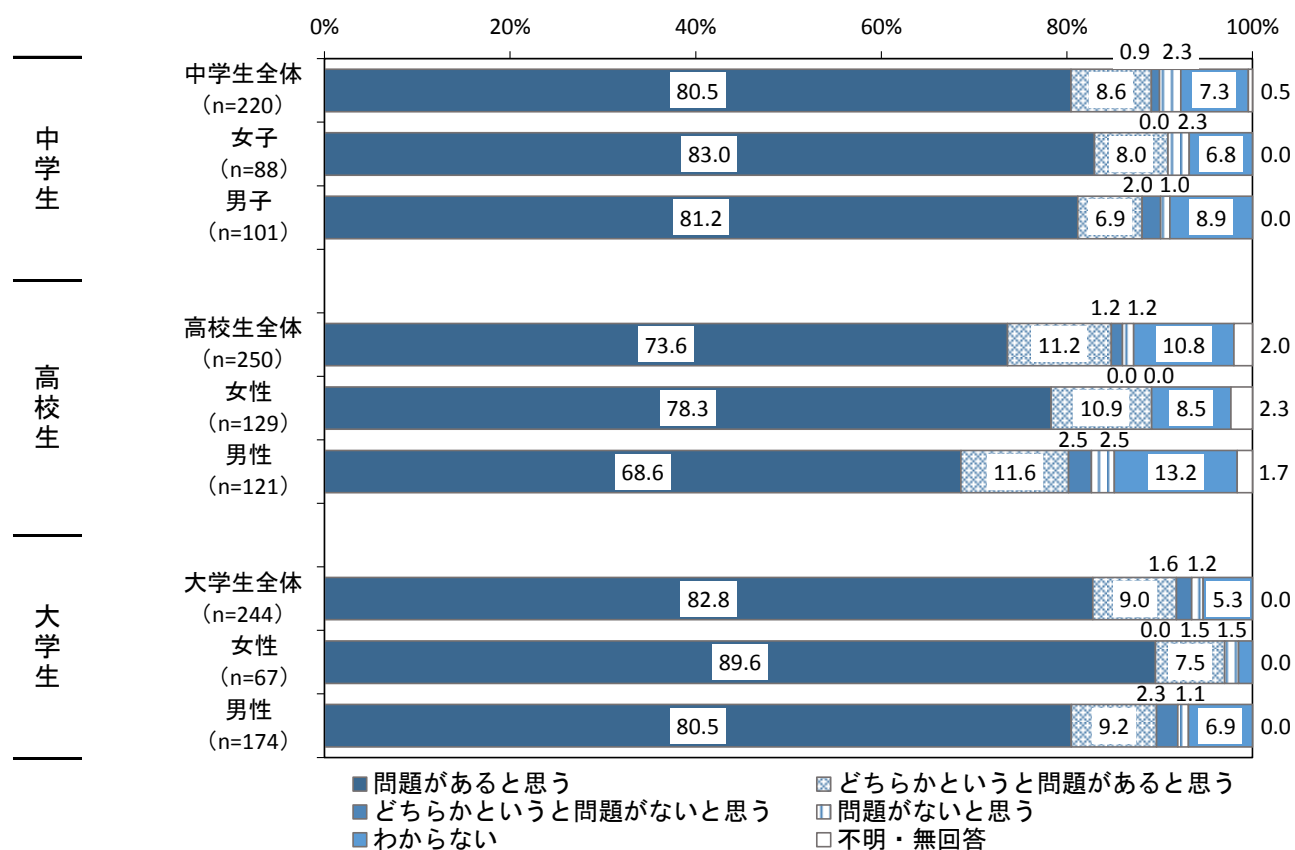
図表 5-5-2 デートDVについての意識 ②相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる



③大声でどなる

デートDVについての意識について、「大声でどなる」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、大学生が91.8%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が97.1%で最も高くなっています。

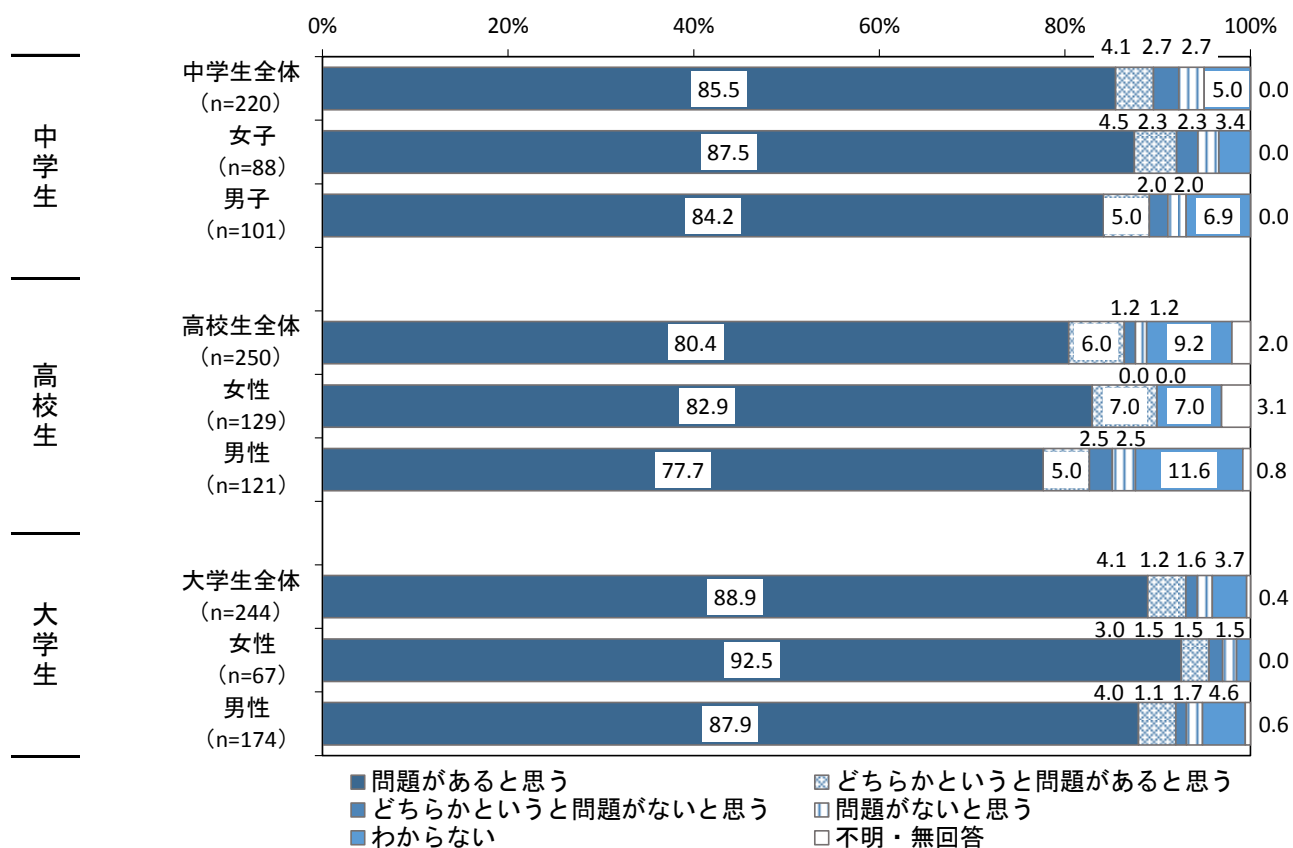
図表 5-5-3 デートDVについての意識 ③大声でどなる



④たたいたり、けったりする（たたくふりや、けるふりも含む）

デートDVについての意識について、「たたいたり、けったりする（たたくふりや、けるふりも含む）」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、大学生が93.0%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が95.5%で最も高くなっています。

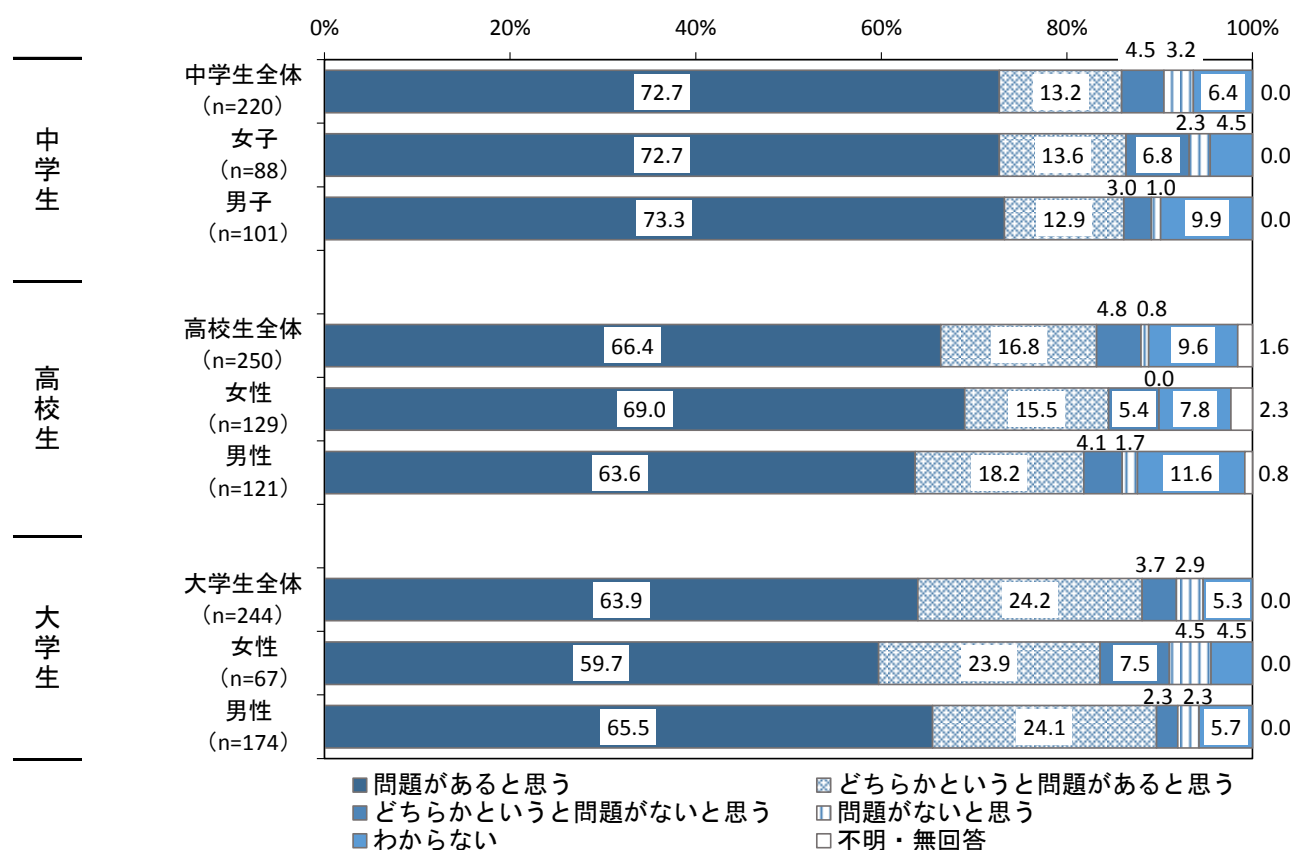
図表 5-5-4 デートDVについての意識 ④たたいたり、けったりする
（たたくふりや、けるふりも含む）



⑤相手の友達付き合いに口出しをする（「〇〇とは一緒に遊びに行くな」と言うなど）

デートDVについての意識について、「相手の友達付き合いに口出しをする（「〇〇とは一緒に遊びに行くな」と言うなど）」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、大学生が88.1%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・男性が89.6%で最も高くなっています。

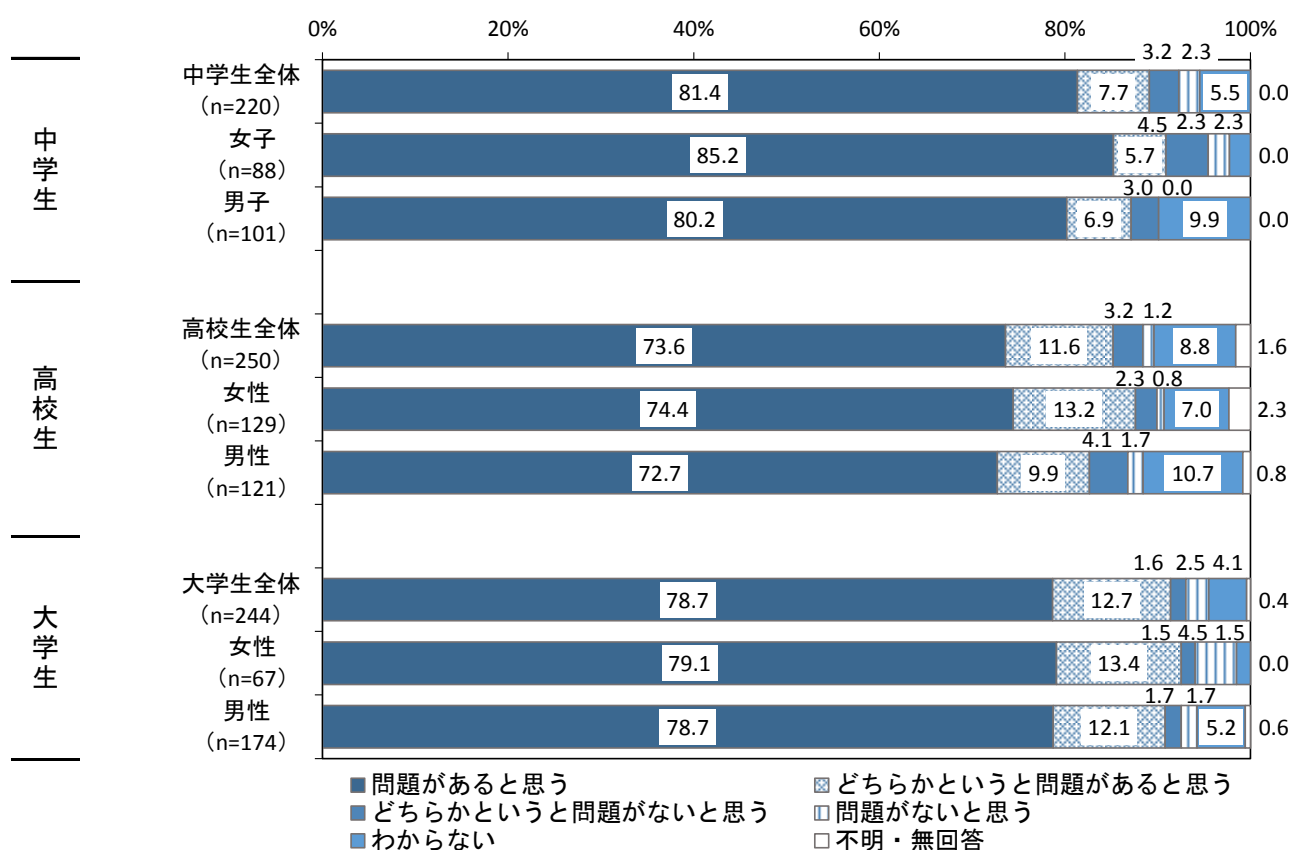
図表 5-5-5 デートDVについての意識 ⑤相手の友達付き合いに口出しをする
（「〇〇とは一緒に遊びに行くな」と言うなど）



⑥相手のスマホやケータイから、LINEなどの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）

デートDVについての意識について、「相手のスマホやケータイから、LINEなどの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、大学生が91.4%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が92.5%で最も高くなっています。

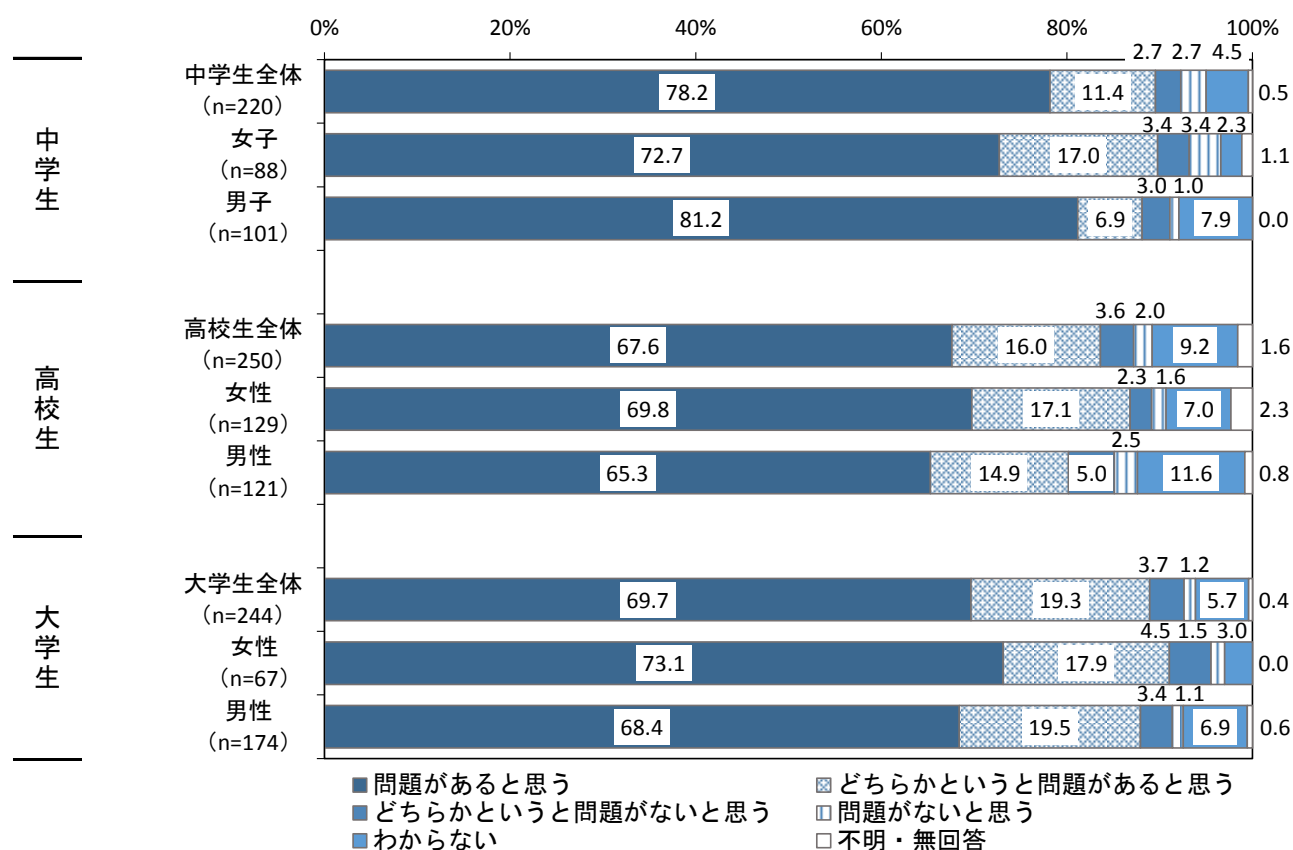
図表 5-5-6 デートDVについての意識 ⑥ 相手のスマホやケータイから、LINEなどの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）



⑦言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったり無視したりする

デートDVについての意識について、「言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったり無視したりする」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、中学生が89.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・女性が91.0%で最も高くなっています。

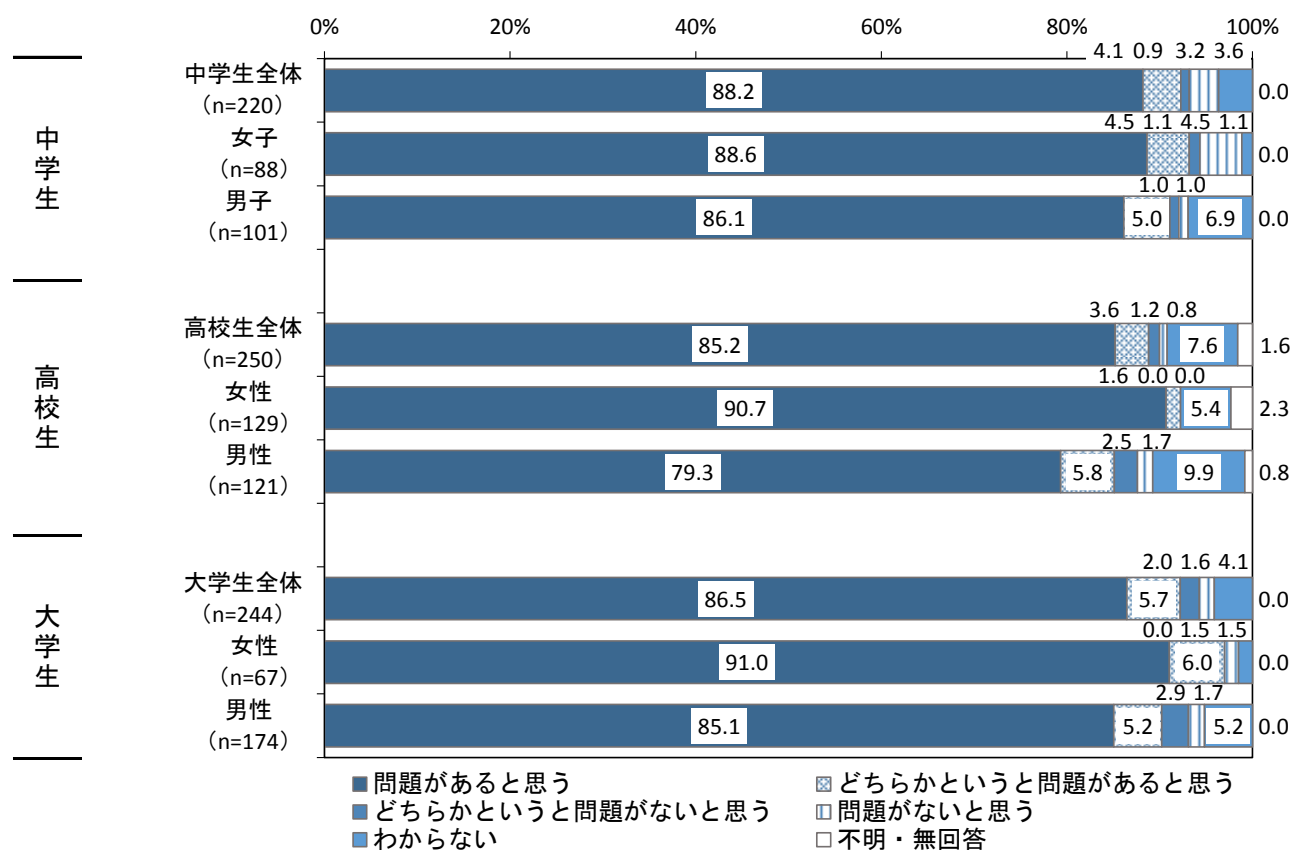
図表 5-5-7 デートDVについての意識 ⑦言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったり無視したりする



⑧物を壊したり、投げたりする

デートDVについての意識について、「物を壊したり、投げたりする」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、中学生が92.3%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が97.0%で最も高くなっています。

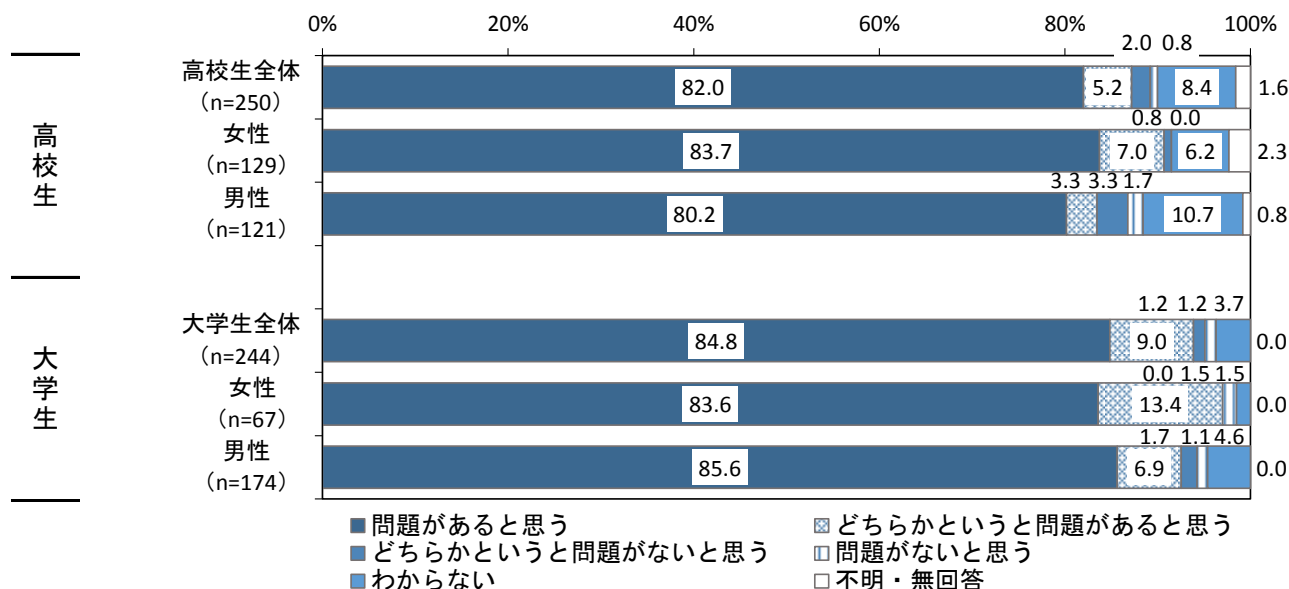
図表 5-5-8 デートDVについての意識 ⑧物を壊したり、投げたりする



⑨相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる

デートDVについての意識について、「相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる」では、『問題があると思う』を年代別・性別で見ると、高校生・大学生いずれも女性の割合が高く、大学生・女性が97.0%で最も高くなっています。

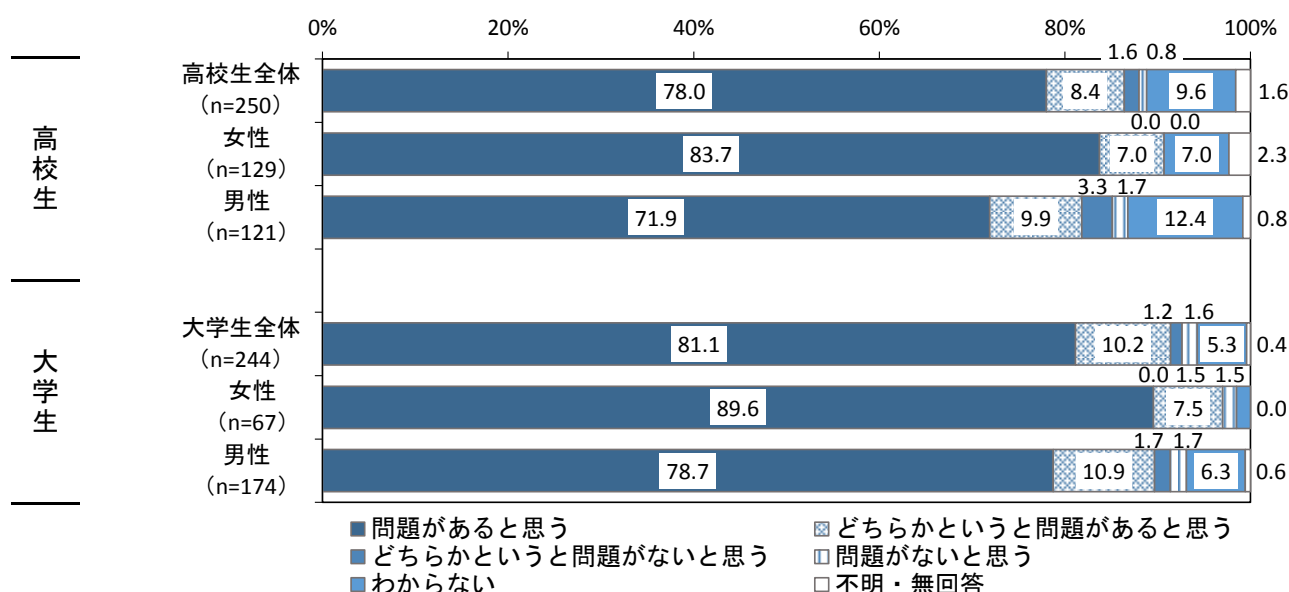
図表 5-5-9 デートDVについての意識 ⑨相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる



⑩デート代をいつもすべて支払わせる

デートDVについての意識について、「デート代をいつもすべて支払わせる」では、『問題があると思う』を年代別・性別で見ると、高校生・大学生いずれも女性の割合が高く、大学生・女性が97.1%で最も高くなっています。

図表 5-5-10 デートDVについての意識 ⑩デート代をいつもすべて支払わせる

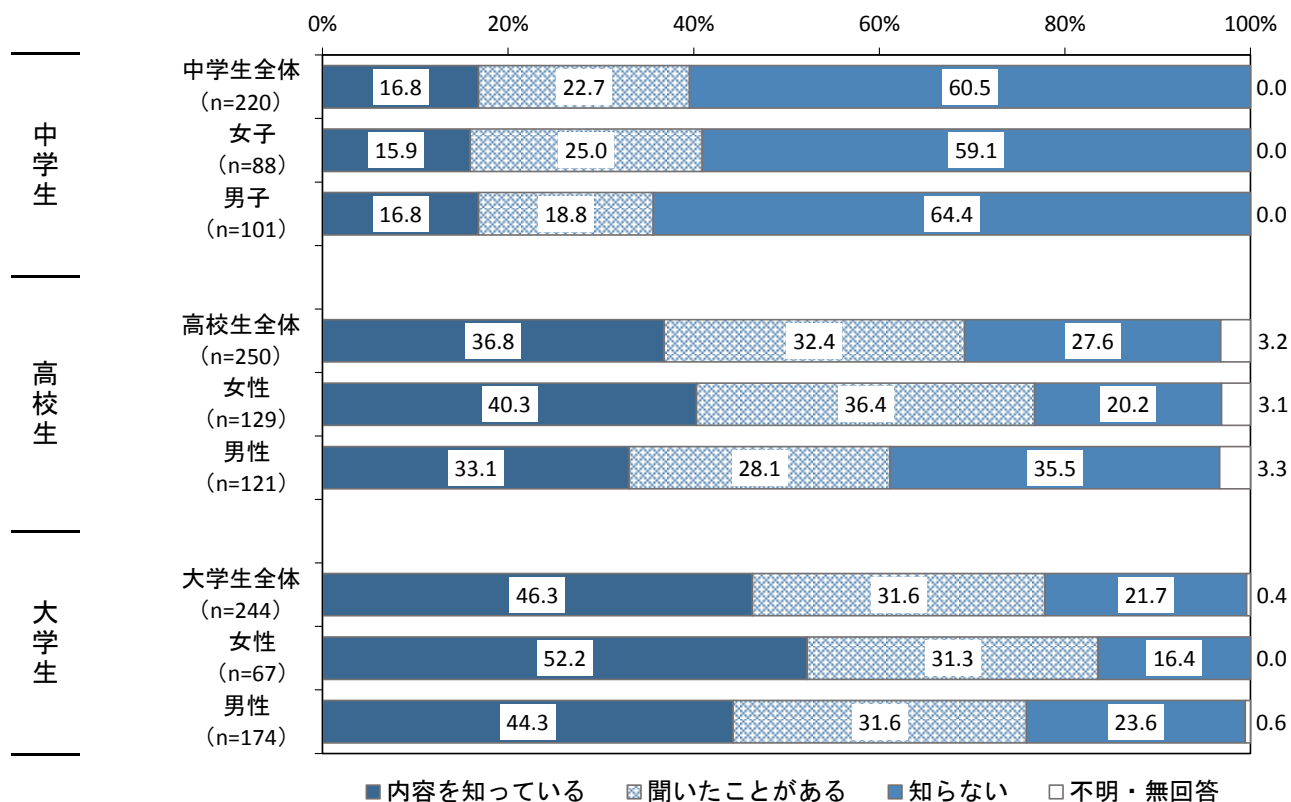


(2) デートＤＶの認知度

問	あなたは、「デートＤＶ」という言葉を知っていますか。 ＜中学生 問 10、高校生 問 10、大学生 問 10＞

デートＤＶの認知度について、「内容を知っている」を年代別でみると、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、大学生が 46.3%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・女性が 52.2%で最も高くなっています。

図表 5-5-11 デートＤＶの認知度



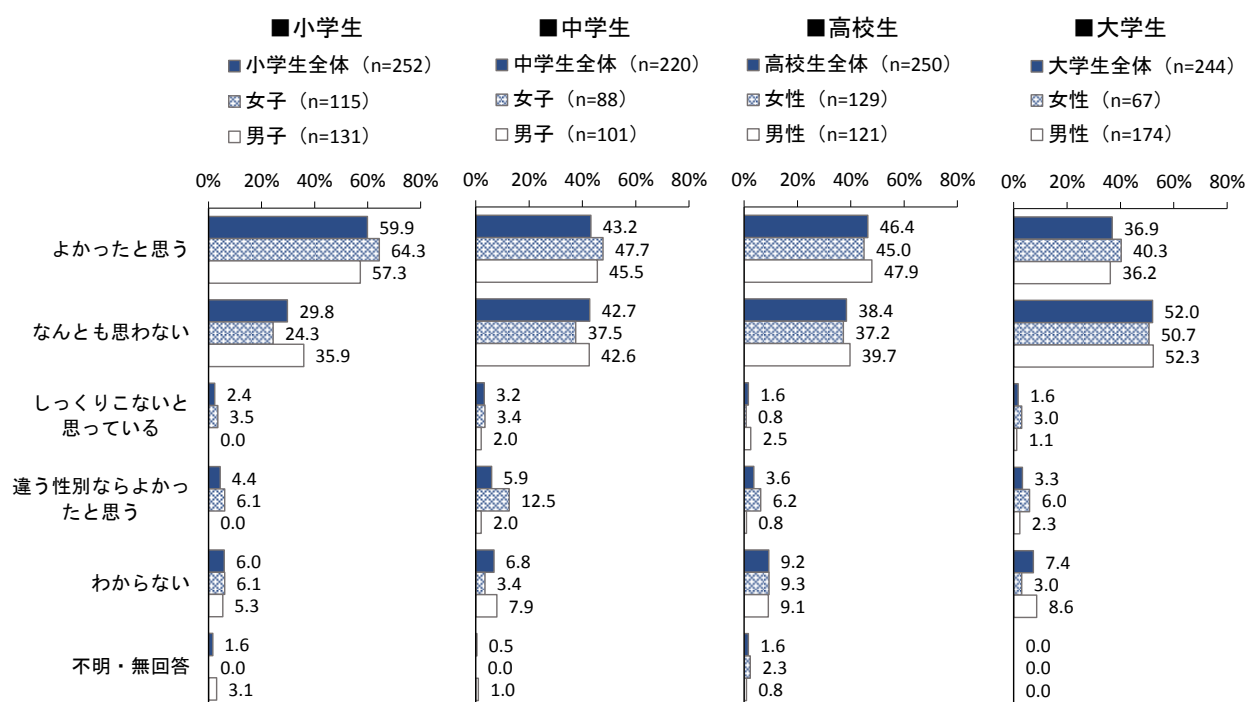
6. 性別について

(1) 自身の性別について

問	あなたは、自分が現在の性別に生まれたことをどう思いますか。 (あてはまるものすべてに○) <小学生 問9、中学生 問11、高校生 問11、大学生 問11>

自身の性別について、年代別・性別でみると、小学生、中学生、高校生では「よかったと思う」の割合が最も高く、大学生では「なんとも思わない」の割合が最も高くなっています。

図表 5-5-12 自身の性別について

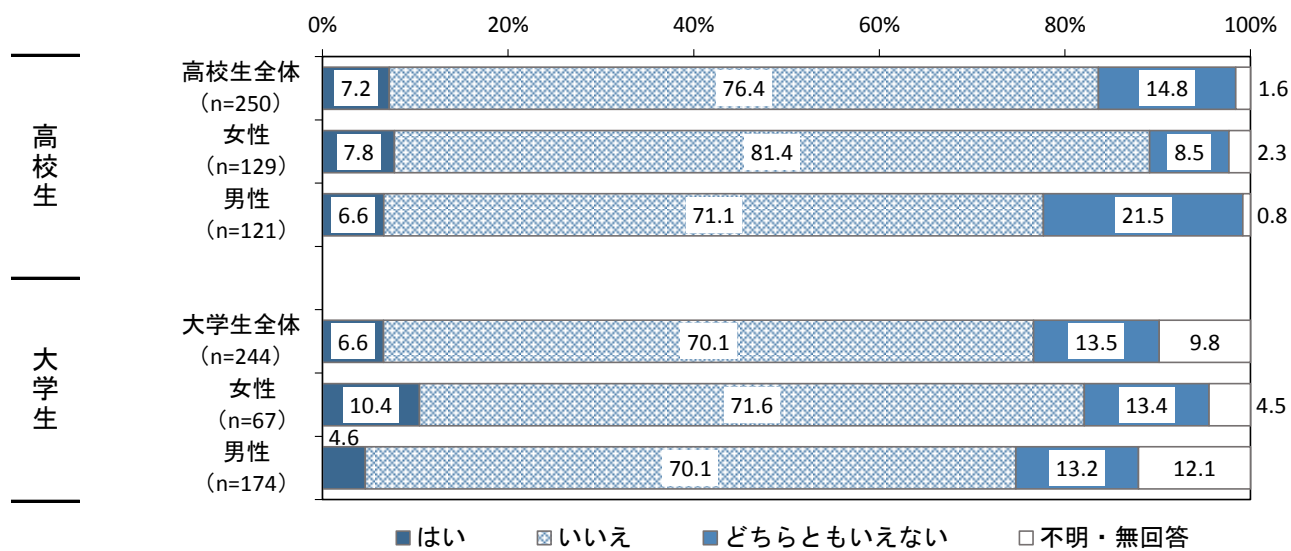


(2) 自分の性別や恋愛対象に悩んだ経験

問	あなたは今までに自分の性別のことや恋愛対象に悩んだことがありますか。 (〇は1つ) <高校生 問 12、大学生 問 12>

自分の性別や恋愛対象に悩んだ経験について、「はい」では、高校生が7.2%、大学生が6.6%で、年代別・性別でみると、大学生・女性が10.4%で最も高くなっています。

図表 5-5-13 自分の性別や恋愛対象に悩んだ経験

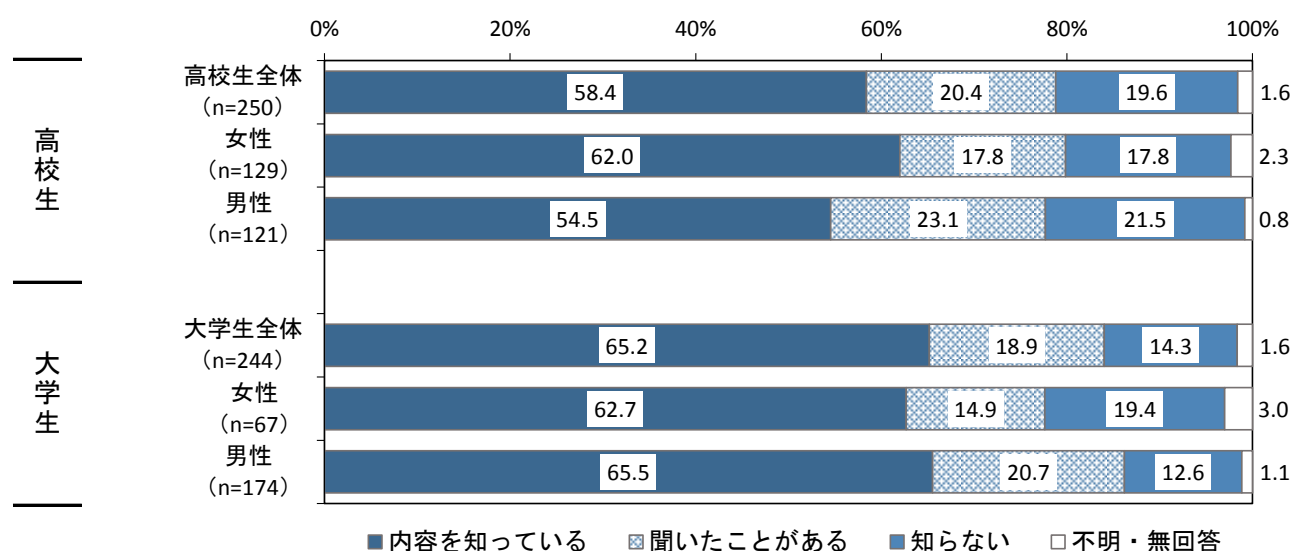


(3) L G B T の認知度

問	あなたはL G B Tという言葉を知っていますか。 ＜高校生 問 13、大学生 問 13＞

L G B T の認知度について、「内容を知っている」では、高校生が 58.4%、大学生が 65.2%で、年代別・性別でみると、大学生・男性が 65.5%で最も高くなっています。

図表 5-5-14 L G B T の認知度



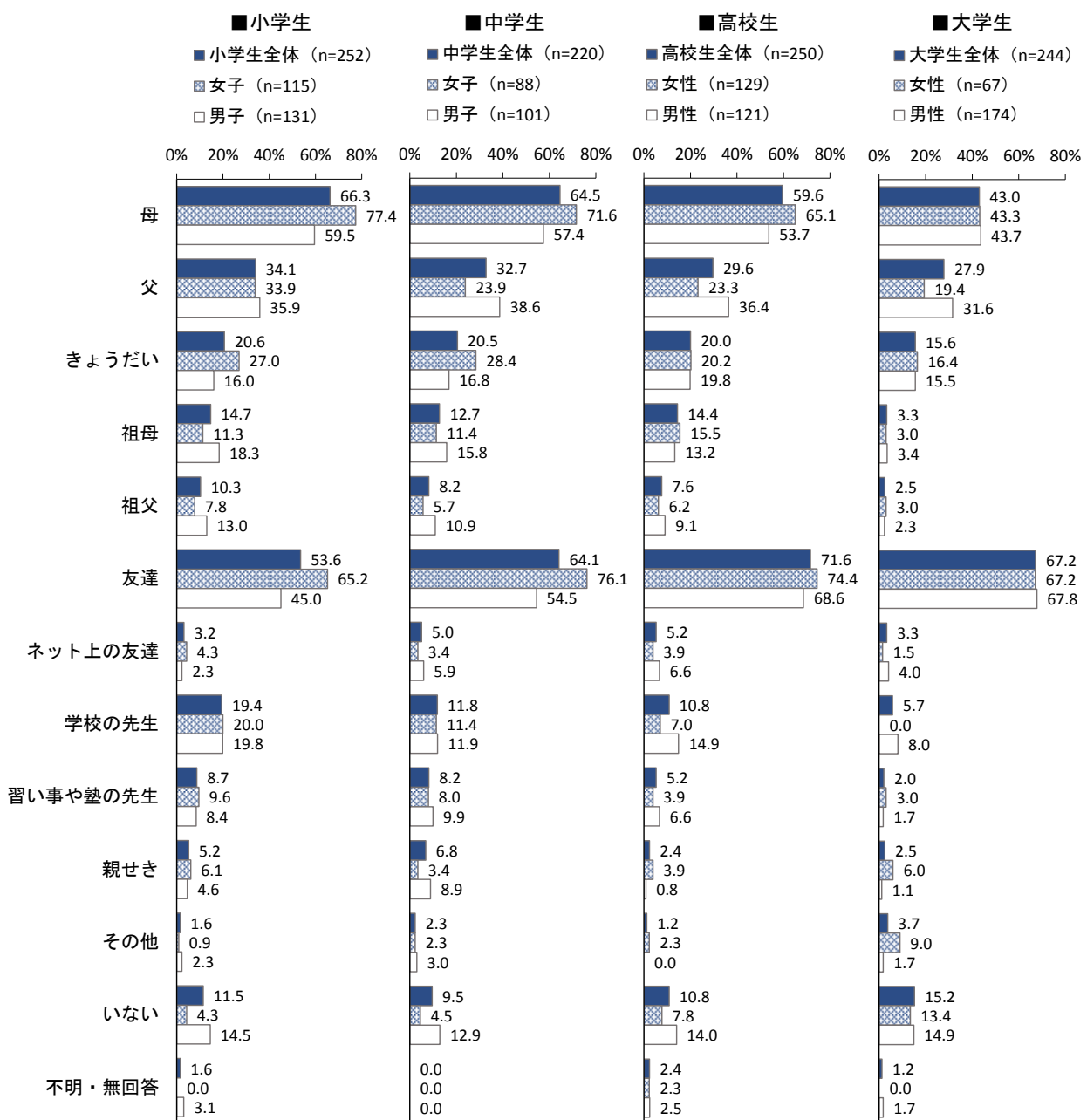
7. 相談先について

(1) 相談先について

問	悩み事や心配事がある時、あなたには相談できる人がいますか。 (あてはまるものすべてに○) <小学生 問 10、中学生 問 12、高校生 問 14、大学生 問 14>

相談先について、年代別・性別でみると、小学生、中学生・男子では「母」の割合が最も高く、それ以外の年代では「友達」の割合が最も高くなっており、「母」では、年代が上がるにつれて割合が低くなっています。

図表 5-5-15 相談先について



8. 将来について

(1) 将来つきたい職業

問	あなたは、将来どのような仕事をしたいと思いますか。(〇は5つまで) ＜小学生 問 11、中学生 問 13、高校生 問 15、大学生 問 15＞

将来つきたい職業について、小学生・中学生を年代別・性別でみると、小学生・女子では「パン屋、服屋、花屋などの店員」の割合が最も高く、小学生・男子、中学生・男子では「スポーツ選手」の割合が最も高く、中学生・女子では「保育園・幼稚園の先生」の割合が最も高くなっています。

図表 5-5-16 将来つきたい職業 小学生・中学生

単位：構成比（％）

	小学生			中学生		
	全体 (n=252)	女子 (n=115)	男子 (n=131)	全体 (n=220)	女子 (n=88)	男子 (n=101)
会社員、銀行員	10.3	4.3	16.0	15.9	13.6	18.8
社長・起業家	6.7	1.7	11.5	11.4	4.5	19.8
保育園・幼稚園の先生	11.9	22.6	2.3	15.0	26.1	3.0
小・中学校、高校の先生	9.1	13.0	6.1	8.6	8.0	8.9
塾・ピアノ・そろばん・習字等の習い事の先生	6.7	7.0	6.9	5.5	9.1	1.0
公務員、外交官	3.2	1.7	4.6	7.7	4.5	12.9
警察官、刑事	6.7	2.6	9.9	5.0	2.3	7.9
政治家、大臣	0.4	0.0	0.8	3.2	2.3	5.0
弁護士、検察官、裁判官	3.6	5.2	2.3	2.3	1.1	4.0
医者、歯科医	6.3	6.1	6.9	4.5	4.5	5.0
看護師、介護士	9.1	17.4	2.3	10.0	21.6	1.0
薬剤師	4.8	8.7	1.5	2.3	2.3	1.0
動物関係の仕事(獣医・動物園の飼育員など)	17.1	22.6	13.0	12.7	14.8	6.9
大工、建築家、設計士	8.3	2.6	13.7	8.6	3.4	10.9
漁業、農業、林業	4.0	0.9	6.9	3.2	0.0	5.0
新聞記者、カメラマン	2.4	2.6	2.3	1.4	0.0	3.0
アナウンサー、レポーター	4.4	7.0	2.3	1.8	0.0	4.0
パン屋、服屋、花屋などの店員	13.1	23.5	4.6	11.4	13.6	8.9
シェフ、パティシエ	11.9	18.3	6.1	12.7	18.2	6.9
美容師、ネイリスト	11.1	22.6	1.5	9.1	18.2	1.0
囲碁、将棋の棋士	1.2	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
画家、書道家、美術家	3.2	5.2	1.5	1.4	0.0	3.0
飛行機のパイロット	0.4	0.0	0.8	1.4	0.0	3.0
客室乗務員（CA）	3.2	6.1	0.8	3.2	6.8	0.0
通訳、翻訳家	0.4	0.9	0.0	1.4	1.1	2.0
音楽家（作詞、作曲、演奏、指揮）	5.2	7.0	3.8	5.0	4.5	5.0
小説家、映画監督	3.6	5.2	2.3	1.4	0.0	3.0
マンガ家、イラストレーター	9.5	13.9	3.8	2.3	3.4	1.0
スポーツ選手	21.4	8.7	32.8	14.5	4.5	22.8
運転士、運転手	2.4	0.0	4.6	3.2	0.0	5.0
宇宙飛行士	2.0	0.9	3.1	1.4	0.0	3.0
学者、博士	5.6	0.9	9.9	1.8	0.0	4.0
芸能人（俳優、歌手、タレント）	10.7	15.7	6.1	5.5	2.3	7.9
ユーチューバー	16.3	12.2	18.3	7.7	2.3	12.9
なりたい仕事がない、わからない	7.9	8.7	7.6	15.0	15.9	11.9
その他	17.9	17.4	16.8	13.6	10.2	15.8
不明・無回答	1.6	0.0	3.1	2.3	0.0	5.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

将来つきたい職業について、高校生・大学生を年代別・性別でみると、高校生・女性では「医療・福祉関係」の割合が最も高く、それ以外の年代では「会社員、銀行員」の割合が最も高くなっています。

図表 5-5-17 将来つきたい職業 高校生・大学生

単位：構成比（％）

	高校生			大学生		
	全体 (n=250)	女性 (n=129)	男性 (n=121)	全体 (n=244)	女性 (n=67)	男性 (n=174)
会社員、銀行員	16.4	9.3	24.0	36.9	23.9	42.0
経営者	8.8	3.9	14.0	6.6	7.5	6.3
保育士・幼稚園教諭	10.0	15.5	4.1	3.3	10.4	0.6
教師	10.8	7.0	14.9	7.8	6.0	8.6
公務員、外交官	14.4	7.8	21.5	17.6	16.4	17.8
政治家	0.4	0.0	0.8	0.8	1.5	0.6
弁護士、検察官、裁判官	3.2	0.8	5.8	0.4	1.5	0.0
医療・福祉関係	17.2	24.0	9.9	8.2	11.9	6.9
動物関係	8.8	10.9	6.6	6.6	19.4	1.7
建築関係	5.6	1.6	9.9	13.5	13.4	13.8
漁業、農業、林業関係	0.8	0.8	0.8	2.0	4.5	1.1
記者、カメラマン	1.2	0.8	1.7	0.8	1.5	0.6
アナウンサー、レポーター	1.2	0.8	1.7	0.4	1.5	0.0
販売店員	6.4	7.8	5.0	5.3	10.4	3.4
飲食関係	5.6	4.7	6.6	5.3	4.5	5.7
美容関係	14.8	22.5	6.6	2.5	9.0	0.0
囲碁、将棋の棋士	0.4	0.0	0.8	1.2	1.5	1.1
芸術関係	5.6	6.2	5.0	4.1	7.5	2.9
航空関係	6.4	9.3	3.3	4.5	6.0	4.0
通訳、翻訳家	4.8	5.4	4.1	0.4	0.0	0.6
音楽関係	8.8	7.8	9.9	9.8	11.9	8.6
小説家、映画監督	3.2	2.3	4.1	3.3	0.0	4.6
マンガ家、イラストレーター	3.6	5.4	1.7	1.6	3.0	1.1
スポーツ選手	2.8	0.8	5.0	1.2	0.0	1.7
運転士、運転手	0.8	0.0	1.7	3.3	0.0	4.6
宇宙関係	2.4	0.8	4.1	4.5	4.5	4.6
学者、博士	0.8	0.0	1.7	7.0	4.5	8.0
芸能人（俳優、歌手、タレント）	6.8	8.5	5.0	2.5	3.0	2.3
ユーチューバー	3.6	2.3	5.0	4.1	1.5	5.2
就きたい仕事がない、わからない	11.2	8.5	14.0	11.5	10.4	11.5
その他	8.8	8.5	9.1	9.4	3.0	12.1
不明・無回答	4.8	3.1	6.6	2.9	3.0	2.9

※網掛け■は最も割合が高いもの

VI. 資料編（調査票）

1. 男女共同参画に関する市民意識調査

あなたと御家族について

問1. あなたの性別は。

1. 女性

2. 男性

3. その他

問2. あなたの年齢は。

1. 20歳代

2. 30歳代

3. 40歳代

4. 50歳代

5. 60歳代

6. 70歳代

7. 80歳以上

問3. あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。

1. 未婚

2. 結婚している（配偶者・パートナーがいる）

3. 結婚後離別（事実婚を含む）

4. 結婚後死別（事実婚を含む）

※パートナー：事実婚、生活の共同体を共にする交際相手のこと

問4. あなたの家族構成は次のどれですか（同居のみ）。（○は1つだけ）

1. 一人暮らし

2. 夫婦のみ

3. 親と子

4. 親と子と孫（具体的に）

5. その他

問5. 一番下のお子さんは何歳ですか（例居を含む）。（○は1つだけ）

1. 子どもはいない

2. 3歳未満

3. 3歳以上の未就学児

4. 小学生

5. 中学生

6. 高校生

7. 各種学校・短大・大学・大学院生

8. 社会人

9. その他（具体的に）

問6. あなたとあなたの配偶者・パートナーの職業をお答えください。配偶者・パートナーがいな
い方は、ご自身の欄だけ記入してください。（それぞれに○は1つだけ）

①ご自身の職業

1. 正規雇用（正社員・正職員など）

2. 非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）

3. 会社・団体等の役員

4. 自営業、自由業（家族従業員含む）

5. 家事専業

6. 無職（家事専業以外の人）

7. 学生

8. その他の職業

②配偶者・パートナーの職業

1. 正規雇用（正社員・正職員など）

2. 非正規雇用（パート、契約社員、派遣社員など）

3. 会社・団体等の役員

4. 自営業、自由業（家族従業員含む）

5. 家事専業

6. 無職（家事専業以外の人）

7. 学生

8. その他の職業

問7. あなたとあなたの配偶者・パートナーの地域活動（役員・委員等）をお答えください。配偶
者・パートナーがいな方は、ご自身の欄だけ記入してください。（それぞれに○は1つでも）

①ご自身の地域活動

1. 自治会役員

2. PTA役員

3. 民生委員・児童委員など行政から委嘱されたもの

4. その他（）

5. していない

②配偶者・パートナーの地域活動

1. 自治会役員

2. PTA役員

3. 民生委員・児童委員など行政から委嘱されたもの

4. その他（）

5. していない

「寝屋川市男女共同参画に関する市民意識調査」

＜調査への御協力をお願いします＞

市民の皆様におかれましては、日ごろから市政に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。
本市では、今回、男女共同参画に関する皆様の実情や御意見等をお伺いし、今後の男女共同参画
施策を推進していくための基礎資料とするため、20歳以上の市民の皆様から3,000人を無作為で選
び、本調査票をお送りしています。
本調査票には、住所や氏名など、個人を特定する質問はありません。また、回答はすべて統計的
に処理し、調査結果は本調査の目的以外に使用いたしません。
お忙しい中、御面倒とは存じますが、是非とも調査に御理解、御協力いただきますようお願い
いたします。

令和元年9月
寝屋川市

＜御記入に当たってのお願い＞

- 1 回答は、この調査票の封筒あて名の御本人が、御記入ください。
- 2 回答は、用意している答えの中から、あなたの考えに当てはまる番号を選んで
○印をつけてください。
- 3 回答で「その他」を選んだ場合は、（具体的に）の中に具
体的な内容を御記入ください。
- 4 御記入いただきました調査票は、お手数ですがそのまま同封の返信用封筒（切
手不要 住所や氏名は書かないでください）に入れて、

令和元年9月30日（月）までに御返函ください。

お問い合わせ 寝屋川市 人・ふれあい部 人権文化課
TEL：072-825-2168（直通）
FAX：072-825-2638
e-mail：jinken@city.neyagawa.osaka.jp

330

男女の平等感について

問 9. 「男は仕事、女は家庭」というように性別によって役割を分担する考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

1. そう思う 4. どちらかと言えばそうは思わない
2. どちらかと言えばそう思う 5. そうは思わない
3. どちらとも思えない

問 9. 以下の①～⑧の考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

	1 そう思う	2 思わない
① 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい	1	2
② 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ	1	2
③ 妻を養うのは男の責任である	1	2
④ 夫が転勤の場合、妻は仕事をやめてでも一緒にいて行くべきだ	1	2
⑤ 家事・育児がおろそかになるなら、妻は働くべきではない	1	2
⑥ 夫の親を妻が看るのは当然だ	1	2
⑦ 夫のことを「主人」と言うのは当たり前だ	1	2
⑧ 地域の行事は男性が企画し、女性は手伝うのがよい	1	2

問 10. あなたは、今の社会を見て、男女の地位はどのようになっているか、と思いますか。

①～⑧の項目についてお答えください。(それぞれに○は1つだけ)

	1 男性優越	2 男性優越	3 平等	4 女性優越	5 女性優越	6 わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6
② 職場	1	2	3	4	5	6
③ 地域活動の場(自治会やPTAなど)	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度上	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑧ 全体	1	2	3	4	5	6

問 11. あなたは次のような言葉をどの程度知っていますか。

①～⑬の項目についてお答えください。(それぞれに○は1つだけ)

	1 知っている	2 聞き覚えがある	3 知らない
① 男女共同参画社会基本法	1	2	3
② 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	1	2	3
③ ジェンダー(社会的性別)	1	2	3
④ 固定的性別役割分担(分業)	1	2	3
⑤ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
⑥ SDGs(持続可能な開発目標)	1	2	3
⑦ DV(ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3
⑧ マタニティ・ハラスメント	1	2	3
⑨ バタニティ・ハラスメント	1	2	3
⑩ LGBT(性的少数者)	1	2	3
⑪ JKビジネス	1	2	3
⑫ ねやがわ男女共同参画プラン	1	2	3
⑬ 男女共同参画推進センター「ふらっと ねやがわ」	1	2	3

家庭生活等について

問 12. 次の家事をする場合、あなたはどの程度担っていますか。

①～⑩の項目についてお答えください。(それぞれに○は1つだけ)

	1 よく する	2 時々 する	3 しない
① 食事の支度	1	2	3
② 食事の後片づけ	1	2	3
③ 家の中の掃除	1	2	3
④ 家の外周りの掃除	1	2	3
⑤ 洗濯	1	2	3
⑥ ごみ収集の日にごみを出す	1	2	3
⑦ 日常の買い物	1	2	3
⑧ 近所づきあいや地域活動への参加	1	2	3
⑨ 風呂の掃除	1	2	3
⑩ トイレの掃除	1	2	3

問 13 あなたが家事・育児・介護のために1日に使う時間はどれくらいですか。平日と休日について、お答えください。(それぞれに○は1つだけ)

	1 ほとんど ない	2 30分 以内	3 30分 ～1時間 以内	4 1～2時間 以内	5 2～4時間 以内	6 4～6時間 以内	7 6～8時間 以内	8 8～10時間 以内	9 10時間 以上	10 対象者が いない
① 平日の家事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
② 休日の家事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
③ 平日の育児	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
④ 休日の育児	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑤ 平日の介護	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑥ 休日の介護	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 14. 「仕事」、「家庭生活・地域活動（自治会やPTAなど）」、「個人の生活」について、あなたの①希望と②現実（実態）にもっとも近い項目に○印をつけてください。

① あなたの希望（○は1つだけ）

1. 「仕事」を優先したい

2. 「家庭生活・地域活動」を優先したい

3. 「個人の生活」を優先したい

4. 「仕事」と「家庭生活・地域活動」をともに優先したい

5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい

6. 「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい

7. 「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させたい

8. わからない

② あなたの現実（実態）（○は1つだけ）

1. 「仕事」を優先している

2. 「家庭生活・地域活動」を優先している

3. 「個人の生活」を優先している

4. 「仕事」と「家庭生活・地域活動」をともに優先している

5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している

6. 「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」をともに優先している

7. 「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させている

8. わからない

問 15. 男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つ以内）

1. 家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす

2. 家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う

3. 男女が家事、育児、介護などについての知識や技術を身につける

4. 採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する

5. 残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する

6. 出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる

7. 在宅勤務やフレックスタイム（時差出勤）など柔軟な勤務体制を取り入れる

8. 仕事と家事、育児、介護、地域活動との両立支援のためのサポートを充実させる

9. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める

10. その他（具体的に_____）

問 16 あなたは結婚に関する次のような考え方についてどう思いますか。
①～⑤までのそれぞれの項目についてお答えください。(それぞれに○は1つだけ)

	1 そう思う	2 まあ思う	3 思わない
① 女性も男性も必ずしも結婚する必要はない	1	2	3
② 夫婦別姓は認められない	1	2	3
③ 結婚する際は必ず婚姻届を出さなければならぬ	1	2	3
④ 同性同士の結婚が認められてもよい	1	2	3
⑤ 結婚しても必ずしも子どもをもうけなくてもよい	1	2	3

子育て・教育について

高校生以下の子どもがいる方 (問5で「2」～「6」を回答された方) にお伺いします。それ以外の方は、問18へお進みください。
問 17 あなたは、「子育て」についてどのように感じていますか。(○は1つだけ)

1. 楽しいと感じることが多い
⇒問18へ

2. つらいと感じることが多い
⇒問17-1へ

3. 楽しさとつらさが同じくらい
⇒問17-1へ

4. わからない
⇒問18へ

問 17 で「2. つらいと感じることが多い」「3. 楽しさとつらさが同じくらい」を回答された方にお伺いします。
問 17-1. つらいと感じるのはどのような時ですか。(○はいくつでも)

1. 子育てに自信がなくなるとき

2. 子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき

3. 子どもが病気やけがをしたとき

4. 子育てのために休日もゆっくり休めないとき

5. 子どもがいるために経済的に苦しいとき

6. 夫婦の間で子育てについて考え方が違ったとき

7. 配偶者が子育てに協力的でないと感じたとき

8. その他 (具体的に)

問 16 あなたは結婚に関する次のような考え方についてどう思いますか。
①～⑤までのそれぞれの項目についてお答えください。(それぞれに○は1つだけ)

	1 そう思う	2 まあ思う	3 思わない
① 女性も男性も必ずしも結婚する必要はない	1	2	3
② 夫婦別姓は認められない	1	2	3
③ 結婚する際は必ず婚姻届を出さなければならぬ	1	2	3
④ 同性同士の結婚が認められてもよい	1	2	3
⑤ 結婚しても必ずしも子どもをもうけなくてもよい	1	2	3

子育て・教育について

高校生以下の子どもがいる方 (問5で「2」～「6」を回答された方) にお伺いします。それ以外の方は、問18へお進みください。
問 17 あなたは、「子育て」についてどのように感じていますか。(○は1つだけ)

1. 楽しいと感じることが多い
⇒問18へ

2. つらいと感じることが多い
⇒問17-1へ

3. 楽しさとつらさが同じくらい
⇒問17-1へ

4. わからない
⇒問18へ

問 17 で「2. つらいと感じることが多い」「3. 楽しさとつらさが同じくらい」を回答された方にお伺いします。
問 17-1. つらいと感じるのはどのような時ですか。(○はいくつでも)

1. 子育てに自信がなくなるとき

2. 子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき

3. 子どもが病気やけがをしたとき

4. 子育てのために休日もゆっくり休めないとき

5. 子どもがいるために経済的に苦しいとき

6. 夫婦の間で子育てについて考え方が違ったとき

7. 配偶者が子育てに協力的でないと感じたとき

8. その他 (具体的に)

問 17 で「2. つらいと感じることが多い」「3. 楽しさとつらさが同じくらい」を回答された方にお伺いします。
問 17-2. あなたは、子育てについてだれに (どこで) 相談していますか。(○はいくつでも)

1. 家族・親族

2. 友人

3. 地域の人

4. 保育所 (園)・幼稚園・学校

5. 行政などの相談窓口 (教育相談・家庭児童相談・育児相談など)

6. 子育てサークルなど

7. その他 (具体的に)

8. 相談していない (理由:)

全員の方にお伺いします。
問 18 男女共同参画を推進していくために、学校で行うと思うものはどれですか。
(○はいくつでも)

1. 学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない

2. 進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力をいかにさせるよう配慮する

3. 男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う

4. 校長・教頭の女性を増やす

5. 保護者に対し、様々な機会を通じて男女平等についての理解を促す

6. 学校教育の中でなくてもよい

7. すでに男女が平等に参画できているので、する必要がない

8. わからない

9. その他 (具体的に)

働くことについて

問 19 あなたは、「男性の育児休業取得」について、どう思いますか。(○はいくつでも)

1. 父親が育児に参画することは当然なので、男性も育児休業を取得するほうがよい

2. 女性が育児をするほうがよいので、男性が育児休業を取得するのはおかし

3. 育児休業を取得した場合、世帯の収入が下がるため、生活ができるか心配だ

4. 育児休業から復帰した後のキャリアやポストが心配だ

5. 育児休業から復帰した後、元のように働けるか能力的に心配だ

6. 職場の雰囲気として、男性は育児休業を取得しづらいと感じる

7. 男性に育児休業を取得されると、仕事が回らず迷惑だ

8. 育児休業を取得すると、上司・同僚に迷惑をかけることになると思う

9. 家族の理解が得られないと思う

10. 男性が育児休業を取得できることを知らなかった

11. その他 (具体的に)

333

お子さんがいる方（高校生以下の子どもがいる方（問5で「2.」～「6.」を回答された方）にお伺いします。

問19-1. あなた、もしくはあなたの配偶者・パートナーは「男性の育児休業取得」をしたことがありますか。（○はい1つだけ）

1. 取得したことがある（取得予定を含む）
2. 取得したことがない

働いている方（問6①で「1.」～「14.」「8.」を回答された方）にお伺いします。それ以外の方は、問21へお進みください。

問20. あなたが働いている主な理由は何か。（○は3つ以内）

1. 働くのは当たり前だから	8. 将来に備えて貯蓄するため
2. 経済的に自立したいから	9. 自分の能力を発揮したいから
3. 生計を維持するため	10. 家業だから
4. 生計を助けるため	11. 将来受給する年金の額を増やすため
5. 金銭的にゆとりのある生活をするため	12. その他
6. 生きがいを得るため	(具体的に_____)
7. 視野を広げたり、友人を得るため	

問20-1. あなたは、現在、仕事について悩んでいることや、不満に思うことがありますか。（○はいいくつでも）

1. 責任ある仕事を与えられず、やりがいを感じられない
2. 仕事の内容が自分にあっていない
3. 仕事の負担が不公平である
4. 昇進や賃金など待遇面で不公平である
5. 労働時間が長い
6. 家庭との両立が困難である
7. 自分の時間がほとんど持てない
8. 体力的にきつい
9. 賃金が低い
10. 将来の昇進・昇格に希望が持てない
11. 配属や雇用に不安がある
12. 会社の倒産やリストラの不安がある
13. 職場の人間関係がうまくいかない
14. パワー・ハラスメントなどを受けている
15. その他（具体的に_____）
16. どれもなし ⇒問21へ

問20-1で「1.」～「15.」を回答された方にお伺いします。
問20-2. あなたは、仕事についての悩みを、だれに（どこで）相談していますか。（○はいいくつでも）

1. 家族・親族
2. 友人
3. 職場の同僚
4. 公的機関
5. 男女共同参画推進センター (女性の心の悩み相談・男性のための悩み相談・女性のための法律相談)
6. その他（具体的に_____）
7. 相談していない（理由：_____）

配偶者・パートナーが働いている男性（問1で「2. 男性」を回答し、かつ問3で「2. 既婚（配偶者・パートナーがいる）」を、問6②で「1.」～「14.」「8.」を回答された方）にお伺いします。それ以外の方は、問22へお進みください。

問21. 配偶者・パートナーが働いているあなたは、配偶者・パートナーが働いていることについてどう思いますか。（○は1つだけ）

1. 賛成し、家事・育児などを分担している
2. 反対はしないが、家事・育児はあまり分担していない
3. できれば働いてほしくないが、仕方がないと思っている
4. 反対なので、できればやめてほしいと思っている
5. その他（具体的に_____）

現在働いていない方（問6①で「5. 家事専業」「6. 無職（家事専業以外の人）」を回答された方）にお伺いします。働いている方、学生の方は、問23へお進みください。

問22. あなたが働いていない理由は何か。（○はいいくつでも）

1. 子どもがいから
2. 経済的に必要がないから
3. 仕事以外にしたいことがあるから（何を_____）
4. 適当な仕事が見つからないから
5. 家族の同意が得られないから
6. 健康に自信がないから
7. 家族に介護を必要とする人がいるから（だれを_____）
8. 高齢だから
9. 定年で退職したから
10. リストラにあったため
11. 会社が倒産したため
12. その他（具体的に_____）

現在働いていない方(問 6 で「5.家事専業」「6.無職(家事専業以外の人)」を回答された方)にお伺いします。

問 22-1. あなたは、適当な仕事があれば働きたいと思いますか。(○は1つだけ)

1. すぐにも働きたい	⇒問 22-2 へ
2. 今すぐは無理だが将来は働きたい	⇒問 22-2 へ
3. 働くつもりはない	⇒問 23 へ
4. わからない	⇒問 23 へ

問 22-1 で、「1. すぐにも働きたい」または「2. 今すぐは無理だが将来は働きたい」を回答された方にお伺いします。

問 22-2. 働くとなれば、どのような形で働きたいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 正社員
2. 非正規(フルタイム)で働く
3. 非正規(フルタイム以外)で働く
4. 自由業(弁護士、開業医等)
5. 自営業主(農林漁業を含む)
6. 自分で塾やいここの教室を開く
7. 起業する(サービスの・相互扶助的な仕事を含む)
8. その他(具体的に_____)

男女間の暴力について

問 23. あなたは、配偶者(元配偶者を含む。)や交際相手(元交際相手を含む。)からの次のような行為についてどう思いますか。①～⑤の行為についてお答えください。
(それぞれに○は1つだけ)

	1 DVだと思っ	2 DVとなる場合 そうでもない場合がある	3 DVとは思わない
① なくる、ける、突き飛ばす	1	2	3
② 壁に物を投げるなど脅かす、大声でどなる、侮辱的なことを言う、何を言っても無視する、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりする	1	2	3
③ 生活費を渡さない、生活費の使途を細かく指図する	1	2	3
④ 同意のない性行為を強要する、避妊に協力しない	1	2	3
⑤ 外出や人との付き合いを制限する、実家との連絡を制限する	1	2	3

※ DV(ドメスティック・バイオレンス)・・・配偶者(事実婚を含む。)、元配偶者・交際相手・元交際相手の間で起こる身体的・心理的・性的な暴力

問 24. あなたは、配偶者(元配偶者を含む。)や交際相手(元交際相手を含む。)からの次のような行為を体験されたことがありますか。①～⑤の行為についてそれぞれお答えください。
(それぞれに○は1つだけ)

	1 何度もあった	2 一、二度あった	3 なかった
① なくられた、けられた、突き飛ばされた	1	2	3
② 壁に物を投げるなど脅かされた、大声でどなられたり侮辱的なことを言われた、何を言っても無視された、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりされた	1	2	3
③ 生活費を渡さなかったり、使途について細かく指図された	1	2	3
④ 同意のない性行為を強要されたり、避妊に協力してくれなかった	1	2	3
⑤ 外出や人との付き合いや実家との連絡を制限された	1	2	3

問 24 の①～⑤の行為で、「1. 何度もあった」または「2. 一、二度あった」を回答された方にお伺いします。

問 24-1. あなたは、そのことをだれかに話したり、相談しましたか。(○はい/□でも)

1. 家族・親族
2. 友人
3. 公的機関(人権文化課、男女共同参画推進センター「ふらっと ねやがわ」、 配偶者暴力相談支援センター、大阪府立女性相談センター、警察等)
4. その他(具体的に_____)
5. だれにも話したり、相談していない ⇒問 24-2 へ

問 24-1 で「5. だれにも話したり、相談していない」と回答された方にお伺いします。

問 24-2. だれにも話したり、相談しなかった理由は何ですか。(○はい/□でも)

1. 恥ずかしくてだれにも言えなかった
2. どこに相談してよいかわからなかった
3. 相談してもむだと思った
4. 自分さえがまんすれば、やっていけると思った
5. 自分にも悪いところがあると思った
6. 後の仕返しが怖かった
7. そのことを思い出したくなかった
8. 相談するほどのことではないと思った
9. その他(具体的に_____)

問 25. 配偶者（元配偶者を含む。）や交際相手（元交際相手を含む。）からの暴力の防止に特に必要なことは何だと思いますか。（○は3つ以内）

1. 法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる
2. 相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする
3. 暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う
4. 学校において、暴力の防止や男女平等についての教育を行う
5. 家庭において、暴力の防止や男女平等についての教育を行う
6. 男性も女性も経済的に自立できる環境を整備する
7. 捜査や裁判での担当者に女性を増やす
8. メディア等（新聞・雑誌、放送局、ゲームソフト会社等）が倫理規定を強化する
9. その他（具体的に_____）
10. わからない

問 26. 次のような行為のうち、今までに職場や学校、地域等で「(1) あなたがされたこと」、「(2) あなたがしたこと」について該当する項目に○印をつけてください。（それぞれに○は1つだけ）

	(1) あなたが されたこと			(2) あなたが したこと		
	1 ある	2 ない		1 ある	2 ない	
① 容姿についてあれこれ聞く （話題にする）	1	2	→	1	2	
② 体をじろろ見る	1	2	→	1	2	
③ 結婚しているかどうかを話題にする	1	2	→	1	2	
④ 異性との交際についてしつこく聞く	1	2	→	1	2	
⑤ 忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要する	1	2	→	1	2	
⑥ 性的な冗談やひわいなことを話題にする	1	2	→	1	2	
⑦ 故意に体に触れる	1	2	→	1	2	
⑧ 性的なうわさを流す	1	2	→	1	2	
⑨ 性的な行為を迫る	1	2	→	1	2	
⑩ しつこく交際を求める	1	2	→	1	2	
⑪ 昇進や商取引の見返りに性的な関係を迫る	1	2	→	1	2	

問 26 で「(1) あなたがされたこと」で「1. ある」を1つでも回答された方にお伺いします。
問 26-1. それを受けたのは、だれからですか。（○はいくつでも）

1. 職場の上司	5. 上級生・同級生
2. 職場の同僚	6. 地域団体の関係者
3. 取引先の社員など	7. その他
4. 学校の教師・教官など	（具体的に_____）

問 26-2. あなたは、それをだれかに打ち明けたり、相談しましたか。（○はいくつでも）

1. 家族・親族	5. 公的機関
2. 同僚・友人	6. その他（具体的に_____）
3. 職場の上司	7. 相談していない
4. 学校・職場の相談窓口	（理由：_____）

高齢期の生活について

問 27. あなたは、高齢になったときの生活に不安がありますか。（○は1つだけ）

1. 不安を感じている	⇒問 27-1 へ
2. 特に不安はない	⇒問 28 へ
3. 今はまだわからない	⇒問 28 へ

問 27 で「1. 不安を感じている」と回答された方にお伺いします。

問 27-1. それはどのような不安ですか。（○は3つ以内）

1. 生きがいが見つけられるか
2. 健康で過ごせるか
3. 一人になったときの寂しさに耐えられるか
4. 経済的にやっていけるか
5. 安心して住める家があるか
6. 体が弱ったとき、面倒を見てくれる人がいるか
7. 寝たきりなど介護が必要になったとき、満足がいくサービスが受けられるか
8. なんとなく不安である
9. その他（具体的に_____）

問 28. あなたの家庭には、高齢のために介護・介助が必要な方がいますか。(○は1つだけ)

1. いる	⇒問 28-1 へ
2. 自分が介護・介助を受けている	⇒問 28-1 へ
3. いない	⇒問 29 へ

問 28 で「1. いる」「2. 自分が介護・介助を受けている」と回答された方にお伺いします。
問 28-1. 主としてだれが介護・介助（居宅又は入所）をしていますか。(○は1つだけ)

1. 介護されている人の妻	6. 介護されている人の息子の妻
2. 介護されている人の夫	7. ホームヘルパーなどの在宅介護サービス
3. 介護されている人の娘	8. 介護施設等
4. 介護されている人の息子	9. その他
5. 介護されている人の娘の夫	(具体的に)

問 28-2. あなたは、介護・介助に関して困っていることがありますか。(○はいくつでも)

1. 身体が疲れていても介護・介助を代わってくれる人がいない
2. 外出したいと思ったとき、世話を頼む人がいない
3. 困ったときに介護・介助について相談できる人がいない
4. 公的機関のサービスを受けたいが、方法がわからない
5. 「介護保険サービス」を受けたいが、方法がわからない
6. 介護・介助のために仕事を続けることが難しい
7. その他 (具体的に)

全員の方にお伺いします。
問 29. もし、あなたが寝たきりで介護が必要になったとしたら、主にだれに介護をしてもらいたいですか。(○は1つだけ)

1. 妻・夫	5. 息子の妻
2. 娘	6. ホームヘルパーなどの在宅介護サービス
3. 息子	7. 介護施設等
4. 娘の夫	8. その他 (具体的に)

男女共同参画施策の推進について

問 30. 男女共同参画推進センターの次のような機能の中で特にどれが重要だと思いますか。(○は1つだけ)

1. 男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる
2. 男女共同参画に関する講座、シンポジウム等を開催する
3. 男女共同参画に関する市民の自主活動を支援する
4. 男女共同参画に関する資料や情報の収集、提供をする
5. 気軽に話し合えるフリースペースがある
6. その他 (具体的に)

問 31. 男女共同参画を進めるに当たって、何か必要だと思いますか。(○は3つ以内)

1. 男女平等の観点で法律や制度を改める
2. 審議会等や管理職など、政策・方針決定過程への女性の参画を促進する
3. 政治や経済、社会的活動に女性が積極的に参画する
4. 学校などの場での男女平等意識づくりを推進する
5. 採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する
6. 保育所や子育て支援センターなど、安心して働くための施設の整備を進める
7. 高齢者の介護などの社会的サービスの向上させる
8. 男女平等な社会の慣習・慣行を改める
9. 男性の意識改革と、家事・育児への参画を促す環境づくりを図る
10. 女性の意識改革と、政治や経済・社会的活動への参画を促す環境づくりを図る

問 32. あなたは、経済・地域・政治などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
4. 長時間労働の改善が十分ではないこと
5. 企業などにおいては、管理職となると広域異動が増えること
6. 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
7. 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
8. その他 ()
9. 特になし
10. わからない

男女共同参画についての御意見がございましたら、お書きください。

御協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒（切手不要）に入れ9月30日（月）までに
郵便ポストへご投函ください。

2. 男女共同参画に関する事業所調査

「寝屋川市男女共同参画に関する事業所調査」

＜調査への御協力をお願い＞

平素より、寝屋川市政に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、「男女共同参画基本法」「女性活躍推進法」に基づき、男女共同参画社会を実現するために取り組むべき施策を、「わやがわ男女共同参画プラン」にまとめ、市民・事業者の皆様とともに、計画的に施策を進めているところです。

本調査は、職場における女性の活躍を推進するとともに男女が働きやすい職場づくりのために実施するものであり、本調査結果は、目的以外に使用いたしません。

事業所母集団データベース（平成29年次フレーム）から無作為抽出した、従業員が10人以上の市内事業所1,000社に御協力をお願いしております。

おしい中、御面倒とは存じますが、是非とも調査に御理解、御協力いただきますよう、お願い申し上げます。

令和元年9月
寝屋川市

＜御記入に当たってのお願い＞

- 1. 回答は、**経営者御自身または人事・労務御担当者**が、御記入ください。
- 2. 回答は、用意している答えの中から、当てはまる番号や項目を選んで○をつけてください。
- 3. **回答は、平成31年4月1日現在でお答えください。**
- 4. 回答で「その他」を選んだ場合は、（具体的に_____）の中に具体的な内容を御記入ください。
- 5. 御記入いただきました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**令和元年9月30日（月）までに御投函ください。**
- 6. この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

お問い合わせ 寝屋川市 人・ふれあい部 人権文化課
TEL：072-825-2168（直通）
FAX：072-825-2638
e-mail：jinken@city.neyagawa.osaka.jp

貴事業所の概要についてお伺いします。

問1. 貴事業所の主な業種は次のどれですか。（○は1つ）

- 1. 農業、林業
- 2. 建設業
- 3. 製造業
- 4. 情報通信業
- 5. 運輸業、郵便業
- 6. 卸売業、小売業
- 7. 金融業、保険業
- 8. 不動産業、物品賃貸業
- 9. 学術研究、専門・技術サービス業
- 10. 宿泊業、飲食サービス業
- 11. 生活関連サービス業、娯楽業
- 12. 教育、学習支援業
- 13. 医療、福祉
- 14. 複合サービス事業（巡回総合、郵便受託等）
- 15. サービス業（他に分類されないもの）
- 16. その他（具体的に_____）

問2. 貴事業所は次のどれに該当しますか。（○は1つ）

- 1. 単独事業所※
- 2. 支社・支店・営業所等
- 3. 本社・本店
- 4. 個人経営（法人でない）

※単独事業所とは、支社・支店等を持たずに活動を行っている事業所のことです

問3. 貴事業所の現在（平成31年4月1日現在）雇用する従業員数、管理職数等をお記入ください。
また、最近3年間（平成28年4月1日～平成31年3月31日）に育児休業・介護休業を取得した従業員の人数、育児休業・介護休業の平均取得日数についてもそれぞれを男女別で御記入ください。

① 現在雇用する従業員数、管理職数

	男性	女性	合計
正社員数	人	人	人
パート・嘱託等非正社員数	人	人	人
役員数	人	人	人
管理職数（概ね課長級※以上）	人	人	人

※課長の職名を使用していない場合は、貴事業所の実態に合わせてご記入ください

② 最近3年間（平成28年4月1日～平成31年3月31日）に育児休業・介護休業を取得した従業員の人数、育児休業・介護休業の平均取得日数

	男性	女性	合計
育児休業取得者数	人	人	人
育児休業対象者数※	人	人	人
上記取得者の平均取得日数	日	日	日
介護休業取得者数	人	人	人
上記取得者の平均取得日数	日	日	日

※男性は調査票者・パートナートナーが出席した男性従業員数、女性が出産した女性従業員数をご記入ください

問4. 貴事業所において、育児・介護休業取得者の復職後の配置状況はどうなっていますか。(○は1つ)

1. 原職または原職相当職へ復帰させることを原則としている
2. 部署及び職務の変更を命じる場合が多い
3. 本人の意向を優先する
4. どちらともいえない
5. その他 ()

問5. 国では、仕事と子育ての両立支援と職場における女性の活躍推進のために、次世代育成支援対策推進法(平成17年施行)と女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)(平成28年施行)を定めています。これらの法律における一般事業主行動計画についてお聞きします。

1. 次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画

企業が従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や、子育てをしていない従業員も含めた多様な労働条件の整備などに取り組むに当たって、(1)計画期間、(2)目標、(3)目標達成のための対策及びその実施時期を定めるもの。従業員101人以上の企業には、行動計画の策定・届出、公表・周知が義務づけられています。

2. 女性活躍推進法における一般事業主行動計画

雇用している、または雇用しようとする女子労働者に対する活躍を推進するためには、①自社の女性の活躍に関する状況把握・課題分析、②状況把握・課題分析を踏まえた行動計画の策定、社内周知、公表、③行動計画を策定した旨の都道府県労働局への届出、④女性の活躍に関する情報の公表が、常時雇用する労働者が301人以上の事業主にに対して義務づけられています。(令和元年5月29日、女性活躍推進法等の一部を改正する法律が成立し、一般事業主行動計画の策定義務の対象や女性の活躍に関する情報公表が変わります。)

問5-1. 上記の法律の一般事業主行動計画について御存知ですか。(各項目に○は1つ)

① 次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画	1. 知っている	2. 知らない	
② 女性活躍推進法における一般事業主行動計画	1. 知っている	2. 知らない	
問5-2. それぞれの一般事業主行動計画の策定状況はいかがですか。(各項目に○は1つ)			
① 次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画	1. 策定済み	2. 今後策定を検討中	3. 策定の予定はない
② 女性活躍推進法における一般事業主行動計画	1. 策定済み	2. 今後策定を検討中	3. 策定の予定はない

問6. 貴事業所では、女性従業員の育児休業取得に対して、どのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい
2. できる限りの育児休業期間を短くして早めに職場復帰し、短時間勤務等、両立支援制度を利用しながら働いてほしい
3. 短期の育児休業を取得した後、休業前と同様に働いてほしい
4. 産前・産後休業のみを取得し、育児休業は取得せず両立支援制度を利用しながら働いてほしい
5. 育児の期間は一旦退職し、再雇用制度等を利用し時機をみて復帰してほしい
6. 本人の意向を優先したい
7. その他 ()

問6-1. 貴事業所では、男性正社員の育児休業や配偶者が出産した際の休暇等の取得促進、もしくは男性の育児参加促進を目的として、以下のような取組を行っていますか。(○はい/つても)

1. 配偶者出産休暇制度 ^{※1} を設けている
2. 失効年次有給休暇の積立等の制度 ^{※2} を設けている
3. 男性の育児休業取得率や取得人数の目標を定めている (一般事業主行動計画における目標も含む)
4. 全社員に対して、男性の休業・休暇取得の理解促進に向けた情報提供を行っている
5. 会社独自に、育児休業中の所得保障を行っている
6. 配偶者・パートナーが出産する男性に対し、制度説明や休暇等取得を働きかけている
7. 夫婦参加型や男性対象の育児セミナーを実施している (育児復帰セミナー、育児取得者セミナー等)
8. 子どもを持つ男性社員のネットワークづくりを行っている
9. その他 ()
10. 特に実施していない

※1: 配偶者出産休暇制度とは、年次有給休暇以外の休暇で、配偶者の出産の際に、配偶者の入院・退院・出産時の付き添いなどのために、男性労働者に与えられる休暇をいいます

※2: 失効年次有給休暇制度とは、失効年次有給休暇を積み立て・保存し、特別有給休暇として付与する制度をいいます

問7. 貴事業所では、介護問題を抱える従業員の把握状況はいかがですか。(○は1つ)

1. 介護問題を抱える各従業員の詳細状況を把握している
2. 介護問題を抱える各従業員の状況はある程度把握している
3. 介護問題や介護休暇等の両立支援制度利用者に関しては把握しているが、制度利用者以外は把握できていない
4. 介護問題を抱える従業員の存在を把握できていない
5. 介護を行っている従業員が存在しない

面立支援について

問8. 貴事業所における人事の方針についてお伺いします。以下の事項についてどの程度重視されていますか。(各項目に○は1つ)

	1 重視している	2 どちらかといえば重視している	3 どちらかといえば重視していない	4 重視していない
① 長期雇用の維持	1	2	3	4
② 多様な人材の確保	1	2	3	4
③ 女性社員の登用及び活用	1	2	3	4
④ 若年者の雇用拡大	1	2	3	4
⑤ 高齢者の継続雇用と活用	1	2	3	4
⑥ 社内公募制度等の社員の希望を重視した配置	1	2	3	4
⑦ 業績評価の拡大	1	2	3	4
⑧ 評価における公平性・納得性の確立	1	2	3	4

問9. 貴事業所では以下の①～⑧について、何らかの支援や取組を行っていますか。(1) 正社員、(2) パート・嘱託等非正社員の別にそれぞれお答えください。
((1)、(2) について、①～⑧それぞれ、○は1つ)

	(1) 正社員 に対して		(2) パート・嘱託等非正社員 に対して			
	1 行っている	2 行っていない	1 行っている (正社員と同等)	2 行っている (正社員と同等)	3 行っていない	4 非社員かいない等
① 法定を上回る育児との面立支援※	1	2	⇒	⇒	⇒	⇒
② 法定を上回る介護との面立支援※	1	2	⇒	⇒	⇒	⇒
③ メンタルヘルス対策	1	2	⇒	⇒	⇒	⇒
④ 私傷病治療との面立支援	1	2	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤ 不妊治療に対する支援	1	2	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥ 自己啓発に対する支援	1	2	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦ 地域活動・ボランティアへの参加促進	1	2	⇒	⇒	⇒	⇒
⑧ 副業や兼業についての就業規則の見直し (禁止規定の削除など)	1	2	⇒	⇒	⇒	⇒

※育児・介護との面立支援については、育児・介護休業法に規定された制度を上回る取組等の有無についてお答えください。

問10. 仕事と育児や介護の面立支援制度の利用を促進しようとする場合、どのような課題があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 日常的に労働時間が長い部門・事業所がある
2. 全体的に休暇取得率が低い
3. 育児休業や介護休業を取りづらい雰囲気がある
4. 育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい
5. 業務の効率や質が落ちる
6. 育児・介護支援などに関する管理職の認識が不足している
7. 面立支援制度の導入に伴い、コストが増大する
8. 情報やノウハウ不足により制度の運用が難しい
9. 面立支援の効果や、企業として数値等で把握しにくい
10. 公的及び民間の保育・介護サービスが不足している
11. 社会通念上、男性が育児・介護に参加しにくい
12. 休業することによって収入などの面で不安があるため、従業員が利用を望まない
13. その他（具体的に_____）
14. 特に課題はない

女性の活躍推進について

問11. 貴事業所で女性の管理職登用を促進しようとする場合、どのような課題がありますか。(○はいくつでも)

1. 必要な経費・判断力を有する女性が少ない
2. 女性自身が管理職になることを希望しない
3. 将来、管理職につく可能性のある女性はいるが、役職につくための在籍年数を満たしていない
4. 勤続年数が短く、管理職になる前に退職してしまう
5. 男性従業員が女性管理職を希望しない
6. 顧客が女性管理職を良く思わない
7. 女性従業員が少ない又はいない
8. その他（具体的に_____）
9. 特に課題はない

問 12. 女性の活躍推進のために、貴事業所では次のような措置を実施していますか。
(各項目に○は1つ)

	1 実施している	2 今後の実施を検討中	3 実施予定はない	4 よくわからない
① パートタイマーから正社員へ転換したり、管理職に登用する制度	1	2	3	4
② 男女差のない客観的基準で人事考査を行うための基準の明確化や評価者の研修の実施	1	2	3	4
③ 女性従業員の人材育成を目的とした取組(研修の実施、社内体制など)	1	2	3	4
④ 女性従業員の積極的な採用	1	2	3	4
⑤ 自己申告制など、従業員の勤務時間や担当業務などの意欲や希望を反映する制度	1	2	3	4
⑥ 資格取得などの自己啓発や、健康増進活動、社会貢献のための休暇付与(時間単位も含む)や経済的支援	1	2	3	4
⑦ 従業員から仕事や職場・就業環境についての意見・要望を取り上げるなどの改善	1	2	3	4
⑧ 従業員のメンタルヘルズに関するサポート	1	2	3	4
⑨ 部下が制度を利用しやすいよう管理職の指導や研修の実施	1	2	3	4
⑩ 制度の利用を促す呼びかけや情報告知	1	2	3	4

職場環境について

問 13. 貴事業所では、この3年間にセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントや、マタニティ・ハラスメント※などの相談事例がありましたか。(○はいくつでも)

※マタニティ・ハラスメント:妊娠・出産を理由に職場において受ける精神的・身体的な嫌がらせのこと

1. セクシュアル・ハラスメントとみられる相談があった

2. パワー・ハラスメントとみられる相談があった

3. マタニティ・ハラスメントとみられる相談があった

4. その他(具体的に_____)

5. わからない

6. いずれもない

問 14. 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。
(○はいくつでも)

1. セクシュアル・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している

2. セクシュアル・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している

3. セクシュアル・ハラスメント防止のための研修を実施している

4. その他(具体的に_____)

5. 特にない

問 15. 貴事業所では、パワー・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。

1. パワー・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している

2. パワー・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している

3. パワー・ハラスメント防止のための研修を実施している

4. その他(具体的に_____)

5. 特にない

問 16. 貴事業所では、マタニティ・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。

1. マタニティ・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している

2. マタニティ・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している

3. マタニティ・ハラスメント防止のための研修を実施している

4. その他(具体的に_____)

5. 特にない

問 17. 男女がともに働きやすい職場づくりのための取組等があれば、具体的にお書きください。

問 18. 寝屋川市では、仕事と生活の両立支援、職場における女性の活躍推進に向けた講座などの事業を検討しています。今後、こういった事業への参加や御協力をお願いできるでしょうか。

(○は1つ)

1. 協力できる

2. 内容によって協力できる

3. 協力できない

問 18-1. 御協力をお願いする場合の御連絡先を御記入ください。

会社名・部署名

電話番号

●男女共同参画の推進に向けた御意見があれば、自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒(切手不要)に入れ9月30日(月)までに郵便ポストへご投函ください。

3. 男女共同参画に関する市民意識調査【小学生用】

小学生用アンケート

「寝屋川市男女共同参画に関する意識調査」 のご協力をお願い＞

寝屋川市では、小学生のみなさんをお願いして、男女共同参画(※)についての考え方をアンケート調査をすることになりました。

これは、テストではありませんので、名前を書く必要はありません。
答えは、先生や他の人にはわかりませんので、ふだん思っていることをそのまま書いてください。

※ 男女共同参画とは、男子・女子といった性別に関係なく、ひとりひとりの「自分らしさ」をみとめあい、みんなで協力しあっていくことです。
参画とは、計画から実行・反省までいっしょにすすめることです。

令和元年10月
寝屋川市

＜書き方＞

1. あなたの考えに近いものの番号に○をつけてください。

2. 質問によっては、1つだけ○をつけてもらう場合と、「○は5つまで」や「あてはまるものすべてに○」など、複数○をつけてもらう場合がありますので、よく質問文を読んで答えてください。

3. 「その他」に○をした場合は、() の中に自分で考えた答えを書いてください。

4. 意味のわからない質問や、答えたくない質問があったときは、その質問をばとばして先に進んでください。

お問い合わせ 寝屋川市 人・ふれあい部 人権文化課
TEL : 072-825-2168
FAX : 072-825-2638
e-mail : jinker@city.neyagawa.osaka.jp

問1. あなたの学年は。

1. 5年生

2. 6年生

問2. あなたの性別は。

1. 女子

2. 男子

3. 1・2にあてはまらない

問3. あなたがいっしょに住んでいる家族は。(あてはまるものすべてに○)

1. お母さん

2. お父さん

3. お姉さん

4. お兄さん

5. 妹

6. 弟

7. おばあさん

8. おじいさん

9. その他の人

問4. おもに家の仕事(家事)をしているのはだれですか。(○は1つ)

1. わたし

2. お母さん

3. お父さん

4. お姉さん

5. お兄さん

6. 妹

7. 弟

8. おばあさん

9. おじいさん

10. その他の人

11. 分からない

問5. 学校生活について、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

	いると聞いて男子の方が向いて	いると聞いて女子の方が向いて	どちらでもよい	わからない
① 学級委員や生徒会役員になる	1	2	3	4
② 授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う	1	2	3	4
③ 理科のグループ実験でリーダーシップをとる	1	2	3	4
④ 家庭科の授業で料理を作る時にリーダーシップをとる	1	2	3	4
⑤ 教室の掃除や整理整頓する	1	2	3	4

問6. あなたは次のような手伝いや、自分の身の回りのことをしていますか。
(○はそれぞれ1つ)

※ ⑧はきょうだいがいる人だけ○をつけてください。

① 買い物	している	しつていない
② 食事のしたく	1	2
③ 食事のあとかたづけ	1	2
④ 部屋の掃除	1	2
⑤ コミだし	1	2
⑥ 洗濯	1	2
⑦ お風呂の掃除	1	2
⑧ きょうだいの世話	1	2

問7. あなたは、次のようなことをだれがするのが一番よいと思いますか。

	主に男が したほうがよい	主に女が したほうがよい	女と男が 協力して するのがよい	わからない	その他 (具体的に)
① 小さい子どもの世話	1	2	3	4	5 ()
② 料理・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4	5 ()
③ お金を稼ぐ仕事	1	2	3	4	5 ()
④ おじいさんやおばあさんの介護	1	2	3	4	5 ()

問8. あなたは、「男だから○○」や「女だから○○」のように言われたことがありますか。(○は1つ)

1. よく言われる

2. ときとき言われる

3. 全く言われない

問8で「1. よく言われる」、「2. ときとき言われる」と答えた方に質問します。

問8-1. それは、だれに言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. お母さん	2. お父さん	3. きょうだい
4. おばあさん	5. おじいさん	6. 友達
7. 保育所・幼稚園の先生	8. 学校の先生	9. 近所の人
10. 親せき	11. その他()	

問8-2. どんなことで言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. ことばづかい	2. 服装や髪型	3. 整理整頓
4. 手伝い	5. 食事のしかた	6. すわり方
7. 歩き方	8. 勉強	9. テレビ番組
10. 友達関係	11. 家に帰る時刻	12. スポーツ
13. お金の使い方	14. 泣いたとき	15. 将来の夢
16. その他()		

問8-3. あなたは、言われた時どんな気持ちでしたか。(○は1つ)

1. なぜ「男だから」「女だから」と言われるのが不思議に思った
2. 嫌な気持ちになったが、少しそうかもしれないと思った
3. そのとおりに思った
4. 何とも思わなかった
5. その他()

問9. あなたは、自分が今の性別に生まれたことをどう思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. よかったと思う	2. なんとも思わない
3. しっくりこないと思っている	4. 違う性別ならよかったと思う
5. わからない	

問10. 悩み事や心配事がある時、あなたには相談できる人がいますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. お母さん	2. お父さん	3. きょうだい
4. おばあさん	5. おじいさん	6. 友達
7. ネット上の友達	8. 学校の先生	9. 習い事や塾の先生
10. 親せき	11. その他()	12. いない

問11. あなたは、将来どのような仕事をしたいと思いますか。(○は5つまで)

1. 会社員、銀行員	18. ハン屋、服屋、花屋などの店員
2. 社長・起業家	19. シェフ、パティシエ
3. 保育園・幼稚園の先生	20. 美容師、ネイリスト
4. 小・中学校、高校の先生	21. 囲碁、将棋の棋士
5. 塾・ピアノ・そろばん・習字等の習い事の先生	22. 画家、書道家、美術家
6. 公務員、外交官	23. 飛行機のパイロット
7. 警察官、刑事	24. 客室乗務員 (CA)
8. 政治家、大臣	25. 通訳、翻訳家
9. 弁護士、検察官、裁判官	26. 音楽家 (作詞、作曲、演奏指揮)
10. 医者、歯科医	27. 小説家、映画監督
11. 看護師、介護士	28. マンガ家、イラストレーター
12. 薬剤師	29. スポーツ選手
13. 動物関係の仕事 (獣医・動物園関係の飼育員など)	30. 運転士、運転手
14. 大工、建築家、設計士	31. 宇宙飛行士
15. 漁業、農業、林業	32. 学者、博士
16. 新聞記者、カメラマン	33. 芸能人 (俳優、歌手、タレント)
17. アナウンサー、レポーター	34. コーチュージャー
	35. なりたい仕事がない、わからない
	36. その他 ()

ご協力ありがとうございました。

4. 男女共同参画に関する市民意識調査【中学生用】

中学生用アンケート

「寝屋川市男女共同参画に関する意識調査」

くご協力のお願い

寝屋川市では、男女共同参画社会(※)を実現させるため、中学生のみなさんにお願いで、男女共同参画に関する考え方を知るアンケート調査をすることになりました。

これは、テストではありませんので、名前を書く必要はありません。

答えは、先生や他の人にはわかりませんので、普段思っていることをそのまま書いてください。

※ 男女共同参画社会とは、男女が性別に関係なく、だれもが自分の意思によって自由な活動や生き方ができ、また、喜びや責任を一緒に分け合うことができる社会のことです。

参画とは、計画から実行・反省まで一緒に進めることです。

令和元年10月
寝屋川市

＜書き方＞

1. あなたの考えに近いものの番号に○をつけてください。

2. 質問によっては、1つだけ○をつけてもらう場合と、「○は5つまで」や「あてはまるものすべてに○」と、複数○をつけてもらう場合がありますので、よく質問文を読んで答えてください。

3. 「その他」に○をした場合は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。

4. 意味のわからない質問や、答えたくない質問があったときは、その質問をとばして先に進んでください。

お問い合わせ 寝屋川市 人・ふれあい部 人権文化課

TEL : 072-825-2168

FAX : 072-825-2638

e-mail : jinken@city.neyagawa.osaka.jp

問 1. あなたの学年は。

1. 1年生

2. 2年生

3. 3年生

問 2. あなたの性別は。

1. 女子

2. 男子

3. 1・2にあてはまらない

問 3. あなたが一緒に住んでいる家族は。(あてはまるものすべてに○)

1. 母

2. 父

3. 姉 (人)

4. 兄 (人)

5. 妹 (人)

6. 弟 (人)

7. 祖母

8. 祖父

9. その他の人 ()

問 4. 主に家庭の仕事 (家事) をしているのは誰ですか。(○は1つ)

1. わたし

2. 母

3. 父

4. 姉

5. 兄

6. 妹

7. 弟

8. 祖母

9. 祖父

10. その他の人 ()

11. 分からない

問 5. 学校生活について、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

	い男子 るの 思 う 方 が 同 い て	い女子 るの 思 う 方 が 同 い て	わ か ら な い
① 学級委員や生徒会役員になる	1	2	3 4
② 授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う	1	2	3 4
③ 理科のグループ実験でリーダーシップをとる	1	2	3 4
④ 家庭科の授業で料理を作る時にリーダーシップをとる	1	2	3 4
⑤ 教室の掃除や整理整とんする	1	2	3 4

1

345

問 6. あなたは次のような手伝いや、自分の身の回りのことをしていますか。
(○はそれぞれ 1 つ)

※ ⑧はきょうだいがいる人だけ○をつけてください。

	している	時々している	していない
① 買い物	1	2	3
② 食事のしたく	1	2	3
③ 食事の後片付け	1	2	3
④ 部屋の掃除	1	2	3
⑤ ゴミ出し	1	2	3
⑥ 洗濯	1	2	3
⑦ お風呂の掃除	1	2	3
⑧ きょうだいの世話	1	2	3

問 7. あなたは、次のようなことを誰がするのが一番よいと思いますか。

	主に男子が したほうがよい	主に女子が したほうがよい	女子と男子が してするのがよい	わからない	その他 (具体的に)
① 小さい子どもの世話	1	2	3	4	5 ()
② 料理・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4	5 ()
③ お金を稼ぐ仕事	1	2	3	4	5 ()
④ 祖父母の介護	1	2	3	4	5 ()

問 8. あなたは、「男だから○○」や「女だから○○」のように言われたことがありますか。(○は 1 つ)

1. よく言われる

2. ときどき言われる

3. 全く言われない

問 8 で「1. よく言われる」、「2. ときどき言われる」と答えた方に質問します。
問 8-1. それは、誰に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 母

2. 父

3. きょうだい

4. 祖母

5. 祖父

6. 友達

7. 保育所・幼稚園の先生

8. 小学校・中学校の先生

9. 近所の人

10. 親せき

11. その他()

問 8-2. どんなことで言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 言葉づかい

2. 服装や髪型

3. 整理整頓

4. 手伝い

5. 食事の仕方

6. 座り方

7. 歩き方

8. 勉強

9. テレビ番組

10. 友達関係

11. 家に帰る時刻

12. スポーツ

13. お金の使い方

14. 泣いたとき

15. 将来の夢

16. その他 ()

問 8-3. あなたは、言われた時どんな気持ちがしましたか。(○は 1 つ)

1. なぜ「男だから」「女だから」と言われるのが不思議に思った。

2. 嫌な気持ちになったが、少しそうかもしれないと思った。

3. そのとおりだと思った。

4. 何とも思わなかった。

5. その他 ()

問 9. あなたに、付き合っている相手がいると仮定して、次のような相手との関係についてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	問題があると思う	問題があると思う	どちらかと思う	問題がないと思う	どちらかと思う	問題がないと思う	わからない
① 2人のことを何でも自分の意見や都合で決める	1	2	3	4	5		
② 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる	1	2	3	4	5		
③ 大声でどなる	1	2	3	4	5		
④ たたいたり、けったりする（たたくふりや、けるふりも含む）	1	2	3	4	5		
⑤ 相手の友達付き合いに口出しをする（「OOとは一緒に遊びに行くな」と言うなど）	1	2	3	4	5		
⑥ 相手のスマホやケータイから、LINE などの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）	1	2	3	4	5		
⑦ 言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったり無視したりする	1	2	3	4	5		
⑧ 物を壊したり、投げたりする	1	2	3	4	5		

問 10. あなたは、「デートDV*」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

1. 内容を知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

※ デートDVとは、問9の①から⑧のような、付き合っている相手からの暴力のことをいいます。

問 11. あなたは、自分が現在の性別に生まれたことをどう思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. よかったと思う 2. なんとでもない
3. しっくりこないと思っている 4. 違う性別ならよかったと思う
5. わからない

問 12. 悩み事や心配事がある時、あなたには相談できる人がいますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 母	2. 父	3. きょうだい
4. 祖母	5. 祖父	6. 友達
7. ネット上の友達	8. 学校の先生	9. 習い事や塾の先生
10. 親せき	11. その他()	12. いらない

問 13. あなたは、将来どのような仕事をしたいと思いますか。(○は5つまで)

1. 会社員、銀行員	18. パン屋、服屋、花屋などの店員
2. 社長・起業家	19. シェフ、パティシエ
3. 保育園・幼稚園の先生	20. 美容師、ネイリスト
4. 小・中学校、高校の先生	21. 囲碁、将棋の棋士
5. 塾・ピアノ・そろばん・習字等の習い事の先生	22. 画家、書道家、美術家
6. 公務員、外交官	23. 飛行機のパイロット
7. 警察官、刑事	24. 客室乗務員（CA）
8. 政治家、大臣	25. 通訳、翻訳家
9. 弁護士、検察官、裁判官	26. 音楽家（作詞、作曲、演奏、指揮）
10. 医者、歯科医	27. 小説家、映画監督
11. 看護師、介護士	28. マンガ家、イラストレーター
12. 薬剤師	29. スポーツ選手
13. 動物関係の仕事	30. 運転士、運転手
(獣医・動物園の飼育員など)	31. 宇宙飛行士
14. 大工、建築家、設計士	32. 学者、博士
15. 漁業、農業、林業	33. 芸能人（俳優、歌手、タレント）
16. 新聞記者、カメラマン	34. コーチューバー
17. アナウンサー、レポーター	35. なりたい仕事がない、わからない
	36. その他()

ご協力ありがとうございました。

5. 男女共同参画に関する市民意識調査【高校生用】

高校生用アンケート

「寝屋川市男女共同参画に関する意識調査」

＜ご協力のお願い＞

寝屋川市では、男女共同参画社会(※)を実現させるため、高校生のみなさんにご願ひして、男女共同参画に関する考え方を知るアンケート調査をすることにしました。

これは、テストではありませんので、名前を書く必要はありません。

答えは、先生や他の人にはわかりませんので、普段思っていることをそのまま書いてください。

※ 男女共同参画社会とは、男女が性別に関係なく、だれもが自分の意思によって自由な活動や生き方ができ、また、喜びや責任を一緒に分け合うことができる社会のことです。

参画とは、計画から実行・反省まで一緒に進めることです。

令和元年10月
寝屋川市

＜書き方＞

1. あなたの考えに近いものの番号に○をつけてください。
2. 質問によっては、1つだけ○をつけてもらう場合と、「○は5つまで」や「あてはまるものすべてに○」と、複数○をつけてもらう場合がありますので、よく質問文を読んでください。
3. 「その他」に○をした場合は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。
4. 意味のわからない質問や、答えたくない質問があったときは、その質問をとばして先に進んでください。

お問い合わせ 寝屋川市 人・ふれあい部 人権文化課
TEL : 072-825-2168
FAX : 072-825-2638
e-mail : jinken@city.neyagawa.osaka.jp

問 1. あなたの学年は。

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

問 2. あなたの性別は。

1. 女性 2. 男性 3. 1・2にあてはまらない

問 3. あなたが同居している家族は。(あてはまるものすべてに○)

1. 母 2. 父 3. 姉 ()
4. 兄 () 5. 妹 () 6. 弟 ()
7. 祖母 8. 祖父 9. その他の人 ()

問 4. 主に家庭の仕事(家事)をしているのは誰ですか。(○は1つ)

1. 自分 2. 母 3. 父 4. 姉
5. 兄 6. 妹 7. 弟 8. 祖母
9. 祖父 10. その他の人 () 11. 分からない

問 5. 学校生活について、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

	1 男子 の 友 だ ち が 向 い て	2 い 女 子 の 友 だ ち が 向 い て	3 ど ち ら も い と も い て	4 わ か ら な い
① 学級委員や生徒会役員になる	1	2	3	4
② 授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う	1	2	3	4
③ 理科のグループ実験でリーダーシップをとる	1	2	3	4
④ 調理実習でリーダーシップをとる	1	2	3	4
⑤ 教室の掃除や整理整頓する	1	2	3	4

問 6. あなたは次のような手伝いや、自分の身の回りのことをしていますか。
(○はそれぞれ1つ)

※ ⑧はきょうだいがいる人だけ○をつけてください。

	している	時々している	していない
① 買い物	1	2	3
② 食事のしたく	1	2	3
③ 食事の後片付け	1	2	3
④ 部屋の掃除	1	2	3
⑤ ゴミ出し	1	2	3
⑥ 洗濯	1	2	3
⑦ お風呂の掃除	1	2	3
⑧ きょうだいの世話	1	2	3

問 7. あなたは、次のようなことを誰がするのが一番よいと思いますか。

	主に男性が したほうがよい	主に女性が したほうがよい	女性と男性が してやるのがよい	わからない	その他 (具体的に)
① 小さい子どもの世話	1	2	3	4	5 ()
② 料理・掃除・洗濯など の家事	1	2	3	4	5 ()
③ お金を稼ぐ仕事	1	2	3	4	5 ()
④ 祖父母の介護	1	2	3	4	5 ()

問 8. あなたは、「男だから○○」や「女だから○○」のように言われたことがありますか。(○は1つ)

1. よく言われる

2. ときどき言われる

3. 全く言われない

問 8 で「1. よく言われる」、「2. ときどき言われる」と答えた方に質問します。

問 8-1. それは、誰に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 母	2. 父	3. きょうだい
4. 祖母	5. 祖父	6. 友達
7. 保育所・幼稚園の先生	8. 学校の先生	9. 近所の人
10. 親せき	11. その他 ()	

問 8-2. どんなことで言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 言葉づかい	2. 服装や髪型	3. 整理整頓
4. 手伝い	5. 食事の仕方	6. 座り方
7. 歩き方	8. 勉強	9. テレビ番組
10. 友達関係	11. 家に帰る時刻	12. スポーツ
13. お金の使い方	14. 泣いたとき	15. 将来の夢
16. その他 ()		

問 8-3. あなたは、言われた時どんな気持ちでしたか。(○は1つ)

1. なぜ「男だから」「女だから」と言われるのが不思議に思った。

2. 嫌な気持ちになったが、少しそうかもしれないと思った。

3. そのとおりだと思った。

4. 何とも思わなかった。

5. その他 ()

問 9. あなたは、次のような付き合い合っている相手との関係についてどう思いますか。
それぞれどちらかに1つ○をつけてください。

	問題があると思う	問題があると思う	どちらかというところはないと思う	問題がないと思う	わからない
① 2人のことを何でも自分の意見や都合で決める	1	2	3	4	5
② 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる	1	2	3	4	5
③ 大声でどなる	1	2	3	4	5
④ たいたり、けったりする（たたくふりや、けるふりも含む）	1	2	3	4	5
⑤ 相手の友達付き合いに口出しをする（「〇〇とは一緒に遊びに行くな」と言うなど）	1	2	3	4	5
⑥ 相手のスマホやケータイから、LINE などの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）	1	2	3	4	5
⑦ 言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったか無視したりする	1	2	3	4	5
⑧ 物を壊したり、投げたりする	1	2	3	4	5
⑨ 相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる	1	2	3	4	5
⑩ デート代をいつもすべて支払わせる	1	2	3	4	5

問 10. あなたは、「デートDV*」という言葉を知っていますか。（○は1つ）

1. 内容を知っている

2. 聞いたことがある

3. 知らない

※ デートDVとは、問 9 の①から⑩のような、付き合っている相手からの暴力のことをいいます。

問 11. あなたは、自分が現在の性別に生まれたことをどう思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

1. よかったと思う

2. なんとも思わない

3. しっくりこないと思っている

4. 違う性別ならよかったと思う

5. わからない

問 12. あなたは今までに自分の性別のことや恋愛対象に悩んだことがありますか。
（○は1つ）

1. はい

2. いいえ

3. どちらともいえない

問 12-1. 差し支えなければ、問 12 で選んだ回答の理由を自由に記入してください。

問 13. あなたはLGBTという言葉を知っていますか。

1. 内容を知っている

2. 聞いたことがある

3. 知らない

※ LGBTとは、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（身体と心の性が一致していないため、身体の性に違和感を持ち、心の性と一致する性別で生きたいと望む人）の頭文字を組み合わせた言葉です。

※ LGBTのほかにも、性的指向や性自認がはっきりしない人、決めたくない人、わからなかったり、悩んでいる人などもあります。

問 14. 悩み事や心配事がある時、あなたには相談できる人がいますか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 母

2. 父

3. きょうだい

4. 祖母

5. 祖父

6. 友達

7. ネット上の友達

8. 学校の先生

9. 習い事や塾の先生

10. 親せき

11. その他()

12. いらない

問 15. あなたは、将来どのような仕事をしたいと思いますか。(○は5つまで)

1. 会社員、銀行員	17. 囲碁、将棋の棋士
2. 経営者	18. 芸術関係
3. 保育士・幼稚園教諭	19. 航空関係
4. 教師	20. 通訳、翻訳家
5. 公務員、外交官	21. 音楽関係
6. 政治家	22. 小説家、映画監督
7. 弁護士、検察官、裁判官	23. マンガ家、イラストレーター
8. 医療・福祉関係	24. スポーツ選手
9. 動物関係	25. 運転士、運転手
10. 建築関係	26. 宇宙関係
11. 漁業、農業、林業関係	27. 学者、博士
12. 記者、カメラマン	28. 芸能人（俳優、歌手、タレント）
13. アナウンサー、レポーター	29. コーチューバー
14. 販売店員	30. 就きたい仕事がない、わからない
15. 飲食関係	31. その他（ ）
16. 美容関係	

ご協力ありがとうございました。

6. 男女共同参画に関する市民意識調査【大学生用】

大学生用アンケート

「寝屋川市男女共同参画に関する意識調査」

＜ご協力のお願い＞

寝屋川市では、男女共同参画社会(※)を実現させるため、市内の大学生のみさんにご協力をお願いして、男女共同参画に関する考え方を知るアンケート調査をすることにしました。

テストではありませんので、無記名でお願いします。

回答は、他の人にはわからないようにして、アンケート以外の目的で使用することはありません。

※ 男女共同参画社会とは、男女が性別に関係なく、だれもが自分の意思によって自由な活動や生き方ができ、また、喜びや責任を共に分け合うことができる社会のことです。

参画とは、計画から実行・反省まで一緒に進めることです。

令和元年10月
寝屋川市

＜書き方＞

- 1. あなたの考えに近いものの番号に○をつけてください。
- 2. 質問によっては、1つだけ○をつけてもらう場合と、「○は5つまで」や「あてはまるものすべてに○」と、複数○をつけてもらう場合がありますので、よく質問文を読んでください。
- 3. 「その他」に○をした場合は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。
- 4. 意味のわからない質問や、答えたくない質問があったときは、その質問をとばして先に進んでください。

お問い合わせ 寝屋川市 人・ふれあい部 人権文化課
TEL : 072-825-2168
FAX : 072-825-2638
e-mail : jinken@city.neyagawa.osaka.jp

問 1. あなたの学年は。

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 大学院生

問 2. あなたの性別は。

1. 女性 2. 男性 3. 1・2にあてはまらない

問 3. あなたが同居している家族は。(あてはまるものすべてに○)

1. 母 2. 父 3. 姉(人)
4. 兄(人) 5. 妹(人) 6. 弟(人)
7. 祖母 8. 祖父 9. その他の人()

問 4. 主に家庭の仕事(家事)をしているのは誰ですか。(○は1つ)

1. 自分 2. 母 3. 父 4. 姉
5. 兄 6. 妹 7. 弟 8. 祖母
9. 祖父 10. その他の人() 11. 分からない

問 5. 過去の学校生活を思い出して、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

	男子の 立場が 同じ	女子の 立場が 同じ	どちら でも よい	わ か ら な い
① 学級委員や生徒会役員になる	1	2	3	4
② 授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う	1	2	3	4
③ 理科のグループ実験でリーダーシップをとる	1	2	3	4
④ 調理実習でリーダーシップをとる	1	2	3	4
⑤ 教室の掃除や整理整頓をする	1	2	3	4

問 6. あなたは次のような手伝いや、自分の身の回りのことをしていますか。
(○はそれぞれ1つ)

※ ⑧はきょうだいがいる人だけ○をつけてください。

	している	時々している	していない
① 買い物	1	2	3
② 食事のしたく	1	2	3
③ 食事の後片付け	1	2	3
④ 部屋の掃除	1	2	3
⑤ ゴミ出し	1	2	3
⑥ 洗濯	1	2	3
⑦ お風呂の掃除	1	2	3
⑧ きょうだいの世話	1	2	3

問 7. あなたは、次のようなことを誰がするのが一番よいと思いますか。

	まだ男性がしたほうがよい	まだ女性がしたほうがよい	女性と男性が協力してやるのがよい	わからない	その他 (具体的に)
① 小さい子どもの世話	1	2	3	4	5 ()
② 料理・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4	5 ()
③ お金を稼ぐ仕事	1	2	3	4	5 ()
④ 祖父母の介護	1	2	3	4	5 ()

問 8. あなたは、「男だから○○」や「女だから○○」のように言われたことがありますか。(○は1つ)

1. よく言われる

2. ときどき言われる

3. 全く言われない

問 8 で「1. よく言われる」、「2. ときどき言われる」と答えた方に質問します。

問 8-1. それは、誰に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 母	2. 父	3. きょうだい
4. 祖母	5. 祖父	6. 友達
7. 保育所・幼稚園の先生	8. 学校の先生	9. 近所の人
10. 親せき	11. その他()	

問 8-2. どんなことと言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 言葉づかい	2. 服装や髪型	3. 整理整頓
4. 手伝い	5. 食事の仕方	6. 座り方
7. 歩き方	8. 勉強	9. テレビ番組
10. 友達関係	11. 家に帰る時刻	12. スポーツ
13. お金の使い方	14. 泣いたとき	15. 将来の夢
16. その他 ()		

問 8-3. あなたは、言われた時どんな気持ちがしましたか。(○は1つ)

1. なぜ「男だから」「女だから」と言われるのか不思議に思った。
2. 嫌な気持ちになったが、少しそうかもしれないと思った。
3. そのとおりだと思った。
4. 何とも思わなかった。
5. その他()

問 9. あなたは、次のような付き合いをしている相手との関係についてどう思いますか。
それそれぞれどちらかに1つ○をつけてください。

	問題があると思う	問題があると思う	どちらかというところ	問題がないと思う	どちらかというところ	問題がないと思う	わからない
① 2人のことを何でも自分の意見や都合で決める	1	2	3	4	5		
② 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる	1	2	3	4	5		
③ 大声でどなる	1	2	3	4	5		
④ たいたたり、けったりする（たたくふりや、けるふりも含む）	1	2	3	4	5		
⑤ 相手の友達付き合いに口出しをする（「○○とは一緒に遊びに行くな」と言うなど）	1	2	3	4	5		
⑥ 相手のスマホやケータイから、LINE などの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）	1	2	3	4	5		
⑦ 言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなった	1	2	3	4	5		
⑧ 物を壊したり、投げたりする	1	2	3	4	5		
⑨ 相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる	1	2	3	4	5		
⑩ デート代をいつもすべて支払わせる	1	2	3	4	5		

問10. あなたは、「デートDV*」という言葉を知っていますか。（○は1つ）

1. 内容を知っている
2. 聞いたことがある
3. 知らない

※ デートDVとは、問9の①から⑩のような、付き合っている相手からの暴力のことをいいます。

問11. あなたは、自分が現在の性別に生まれたことをどう思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. よかったと思う
2. なんととも思わない
3. しっくりこないと思っている
4. 違う性別ならよかったと思う
5. わからない

問12. あなたは今までに自分の性別のことや恋愛対象に悩んだことがありますか。

（○は1つ）

1. はい
2. いいえ
3. どちらともいえない

問12-1. 差し支えなければ、問12で選んだ回答の理由を自由に記入してください。

問13. あなたはLGBTという言葉を知っていますか。

1. 内容を知っている
2. 聞いたことがある
3. 知らない

※ LGBTとは、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（身体と心の性が一致していないため、身体の性に違和感を持ち、心の性と一致する性別で生きたいと望む人）の頭文字を組み合わせた言葉です。

※ LGBTのほかにも、性的指向や性自認がはっきりしない人、決めたくない人、わからなかったり、悩んでいる人などいます。

問14. 悩み事や心配事がある時、あなたには相談できる人がいますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 母
2. 父
3. きょうだい
4. 祖母
5. 祖父
6. 友達
7. ネット上の友達
8. 学校の先生
9. 習い事や塾の先生
10. 親せき
11. その他()
12. いない

問 15. あなたは、将来どのような仕事をしたいと思いますか。(○は5つまで)

1. 会社員、銀行員	17. 囲碁、将棋の棋士
2. 経営者	18. 芸術関係
3. 保育士・幼稚園教諭	19. 航空関係
4. 教師	20. 通訳、翻訳家
5. 公務員、外交官	21. 音楽関係
6. 政治家	22. 小説家、映画監督
7. 弁護士、検察官、裁判官	23. マンガ家、イラストレーター
8. 医療・福祉関係	24. スポーツ選手
9. 動物関係	25. 運転士、運転手
10. 建築関係	26. 宇宙関係
11. 漁業、農業、林業関係	27. 学者、博士
12. 記者、カメラマン	28. 芸能人（俳優、歌手、タレント）
13. アナウンサー、レポーター	29. コーチューバー
14. 販売店員	30. 就きたい仕事がない、わからない
15. 飲食関係	31. その他（ ）
16. 美容関係	

ご協力ありがとうございました。

寝屋川市男女共同参画に関する意識調査報告書

令和2（2020）年3月

発 行

寝屋川市 人・ふれあい部 人権文化課
〒572-8555 大阪府寝屋川市本町1番1号
電 話：072-824-1181（代表）
F A X：072-825-2638